男女共同参画に関する市民アンケート

報　　告　　書

平成 23 年度（2011 年度）

高　崎　市

目　次

Ⅰ　調査の実施概要 1

1　調査目的 2
2　調査方法 2
3　回収結果 2
4　集計方法と結果の見方 2

Ⅱ　調査回答者の基本属性 3

1　性別 4
2　年代 5
3　職業 6
4　居住地域 7
5　その他の属性 9

Ⅲ　調査結果・分析 11

1　生活・社会における男女の平等について 12
2　結婚・家庭について 33
3　生活の中での優先度 50
4　家庭における役割分担について 57
5　育児・介護休業について 101
6　女性の就労について 107
7　地域活動について 120
8　ドメスティック・バイオレンスについて 130
9　セクシャル・ハラスメントについて 187
10　男女共同参画社会推進のための施策について 230

Ⅳ　男女共同参画についての意見（自由記入） 245

Ⅴ　調査結果の概要と課題 271

Ⅵ　資料（調査票） 277

Ⅰ　調査の実施概要

1　調査目的

平成 20 年に策定した「高崎市第 2 次男女共同参画計画」の計画期間が終了する平成 24 年度を前に、男女共同参画社会などに対する市民の意識や実態を把握することにより、新たな計画を策定するための基礎資料を得ることを目的として実施しました。

2　調査方法

■ 調 査 期 間：平成 23 年 7 月 4 日～7 月 19 日
■ 調 査 対 象：住民基本台帳から無作為に抽出した満 20 歳以上の高崎市民 6,000 人
■ 調 査 方 法：調査票を郵送配布、郵送回収

3　回収結果

■ 調査票配布数：6,000 票
■ 有効回収数 ：2,416 票（全回収数 2,426 票　うち無効回収数 10 票）
■ 有効回収率 ：40.3%

4　集計方法と結果の見方

集計と分析は、全体および回答者の性別と、性別×年代別、性別×職業別、居住する地域別（高崎地域、倉渕地域、箕郷地域、群馬地域、新町地域、榛名地域、吉井地域）、性別×結婚経験別、性別×働き方別について行いました。

また、全体および性別について、できるだけ前回調査や群馬県、国が実施した関連する調査結果との比較を行いました。なお図表中でのこれらの表記はそれぞれ以下とします。

「平成 23 年度」：本調査
「平成 18 年度」：前回調査「男女共同参画に関する市民アンケート調査」（高崎市）
「内閣府」　：「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府・平成 21 年度）
：「男女間における暴力に関する調査」（内閣府・平成 20 年度）
「群馬県」　：「男女共同参画社会に関する県民意識調査」（群馬県・平成 21 年度）

集計結果は、小数点第 2 位を四捨五入し、構成比率（%）で小数点第 1 位まで表示しています。そのため、表示された構成比率の合計が 100.0%にならない場合があります。

なお、属性別の図表で示される構成比率（%）は、特にことわりがない場合、各属性の総数を母数としており、「N」で示しています。また、属性が不明なものは、属性別の図表に示していません。そのため、図表に示した各属性の回答者数と総数が一致しない場合があります。また、該当する属性の総数が 10 未満の場合（N が 10 未満の場合）には、参考としての図表表示にとどめ、他との比較等を行わない場合があります。

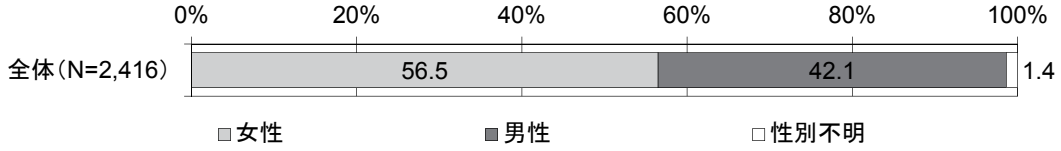
Ⅱ　調査回答者の基本属性

1　性別

【全体】

● 女性が約 6 割、男性が約 4 割

女性が約 6 割（56.5%）、男性が約 4 割（42.1%）となっています。

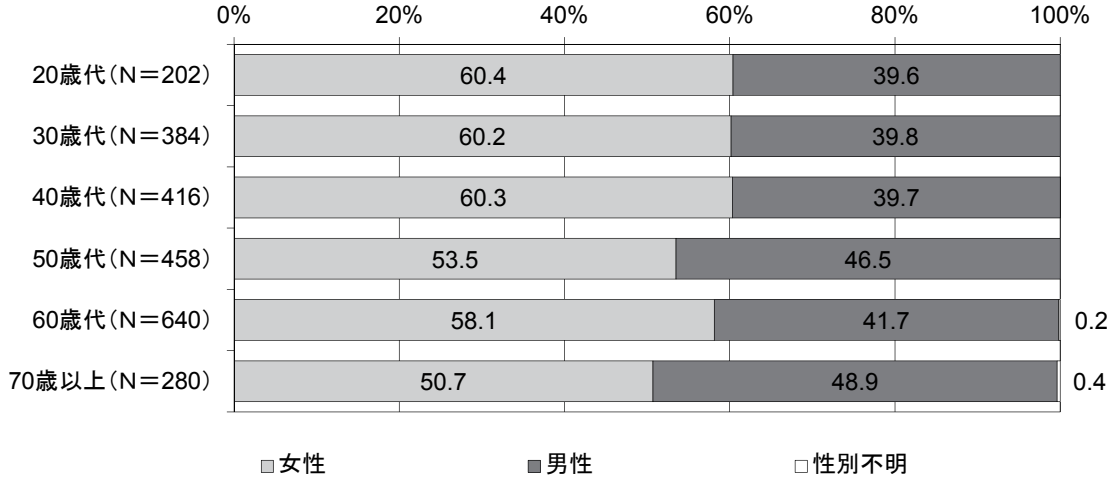


【性別に対する他の属性の割合】

◇ 年代別

● 年代別による大きな違いはなく、すべての年代で女性が男性より多い

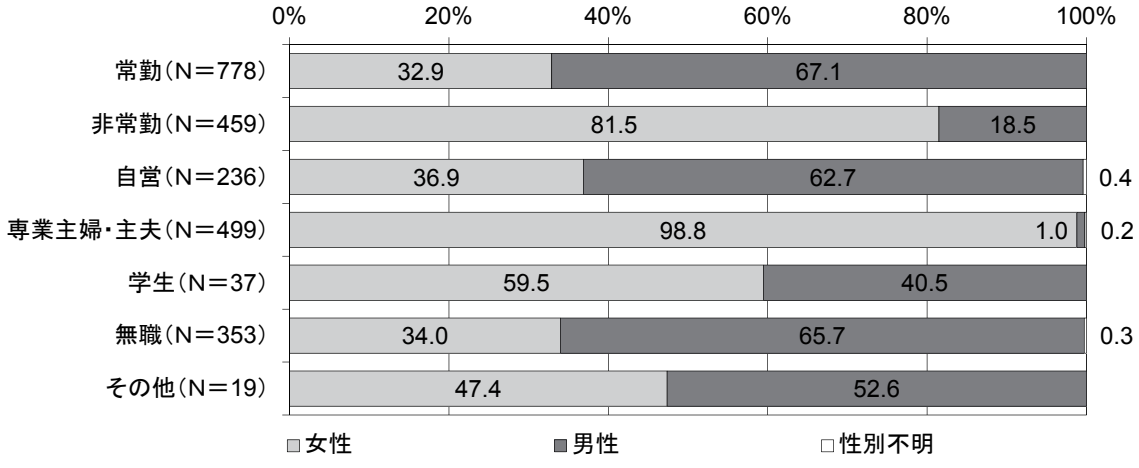
50 歳代や 70 歳以上は男性の割合が比較的高くなっていますが、すべての年代で女性が男性より多く、全体の割合とほぼ同じ傾向となっています。



◇ 職業別

● 常勤、自営、無職は男性、非常勤、専業主婦・主夫は女性が多い

常勤、自営、無職は男性（それぞれ 67.1%、62.7%、65.7%）、非常勤、専業主婦・主夫、学生は女性（それぞれ 81.5%、98.8%、59.5%）が多く、特に非常勤、専業主婦・主夫はほとんどを女性が占めています。

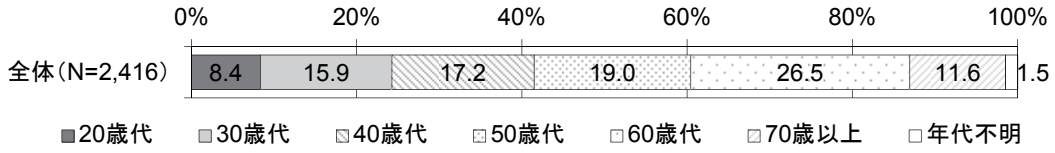


2　年代

【全体】

● 60 歳代が最も多く約 3 割、20 歳代が最も少なく 1 割未満

60 歳代（26.5%）が最も多く、次いで 50 歳代（19.0%）、40 歳代（17.2%）となっています。一方、20 歳代（8.4%）が最も少なく、次いで 70 歳以上（11.6%）が少なくなっています。

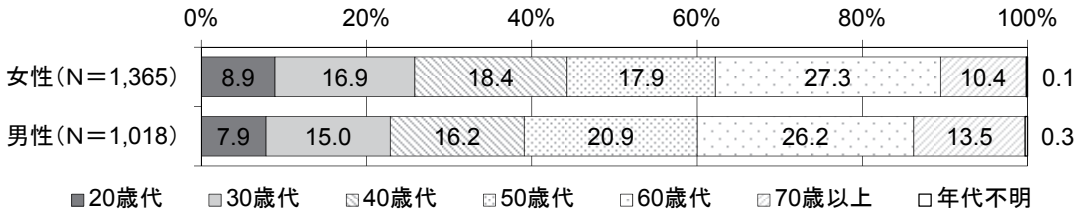


【年代に対する他の属性の割合】

◇ 性別

● 性別による大きな差は見られない

男女とも年代構成に大きな差は見られません。



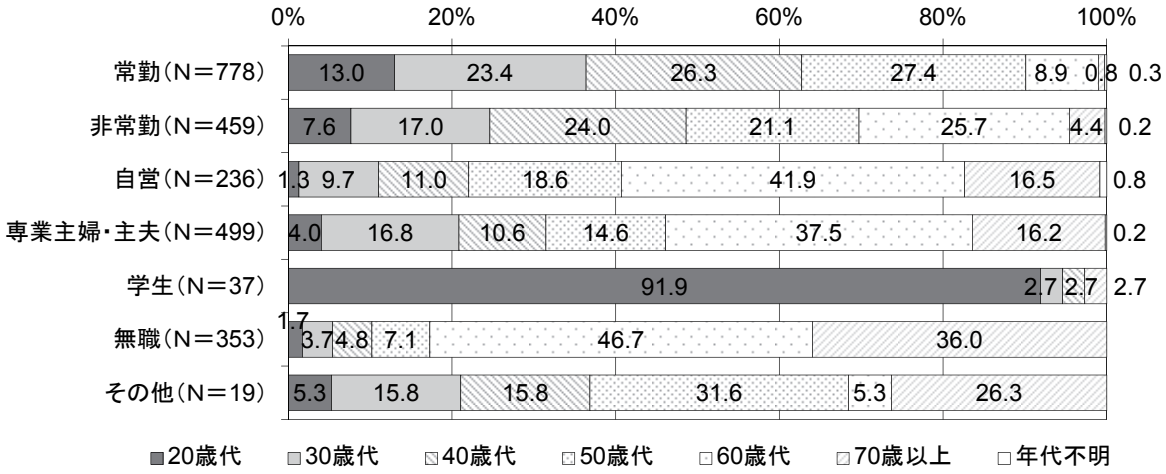
◇ 職業別

● 女性に多い非常勤は 40～60 歳代、専業主婦・主夫は 60 歳代、学生は 20 歳代が多い

● 男性に多い常勤は 30～50 歳代、自営・無職は 60 歳代が多い

女性に多い非常勤は40～60歳代がそれぞれ2割以上、専業主婦・主夫は60歳代（37.5%）、学生は 20 歳代（91.9%）が最も多くなっています。

男性に多い常勤は 30～50 歳代がそれぞれ 2 割以上、自営や無職は 60 歳代（それぞれ 41.9%、46.7%）が 4 割以上で比較的多くなっています。

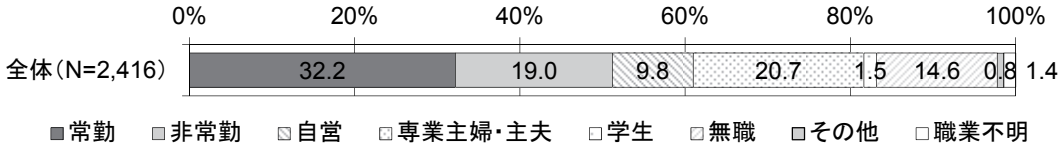


3　職業

【全体】

● 常勤が最も多く 3 割以上、次いで専業主婦・主夫、非常勤がそれぞれ約 2 割

常勤（32.2%）が最も多く、次いで専業主婦・主夫（20.7%）、非常勤（19.0%）、無職（14.6%）となっています。



【職業に対する他の属性の割合】

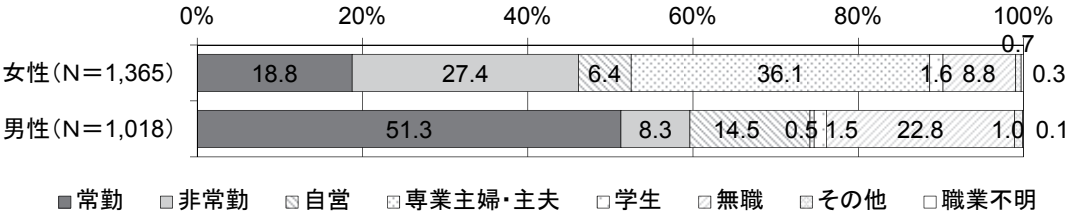
◇　性別

● 女性は専業主婦が 3 割以上、非常勤が約 3 割

● 男性は常勤が 5 割以上、

女性は専業主婦（36.1%）が最も多く、次いで非常勤（27.4%）、常勤（18.8%）が多くなっています。

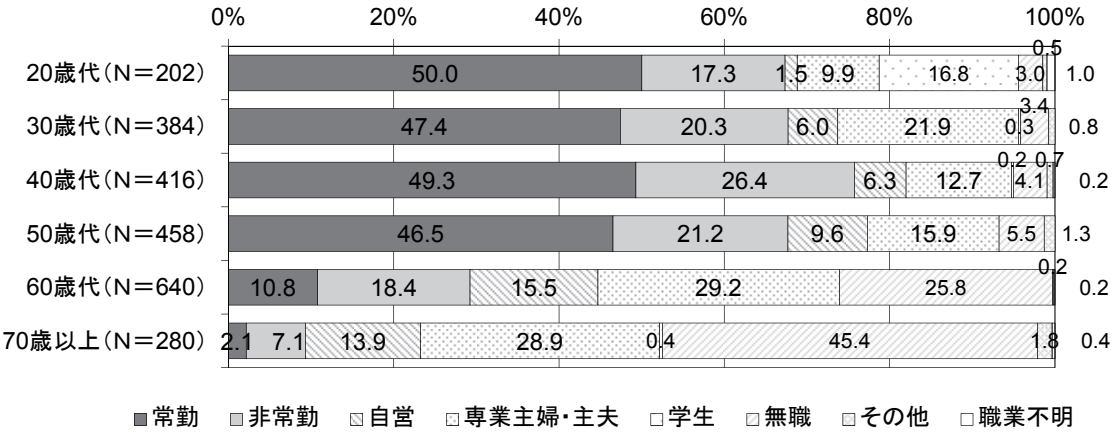
男性は常勤（51.3%）が 5 割以上を占め、次いで無職（22.8%）、自営（14.5%）が多くなっています。



◇　年代別

● 20～50 歳代は常勤が約半数、60 歳代は専業主婦・主夫、70 歳以上は無職が最も多い

20～50 歳代はそれぞれ常勤が約 5 割を占め、20・40・50 歳代はこれに次いで非常勤（それぞれ 17.3%、26.4%、21.2%）、30 歳代は専業主婦・主夫（21.9%）が多くなっています。60 歳代は専業主婦・主夫（29.2%）や無職（25.8%）が多く、70 歳以上は無職（45.4%）が最も多くなっています。

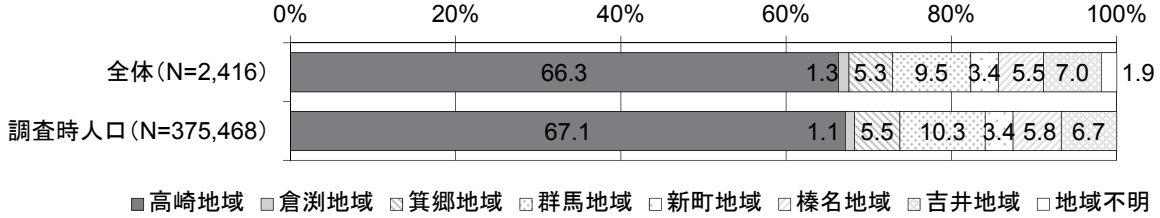


4　居住地域

【全体】

● 調査時の人口とほぼ同じ割合

居住地域別の回答者割合は、調査時人口の地域別割合とほぼ同じであり、高崎地域（66.3%）が約 7 割となっています。



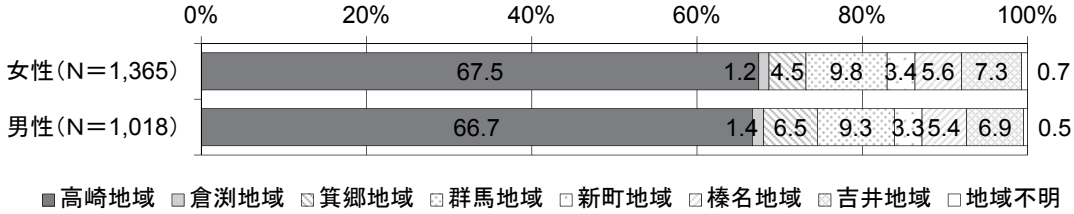
※調査時人口は平成 23 年 6 月 30 日時の人口（外国人含む）

【居住地域に対する他の属性の割合】

◇ 性別

● 性別による大きな差は見られない

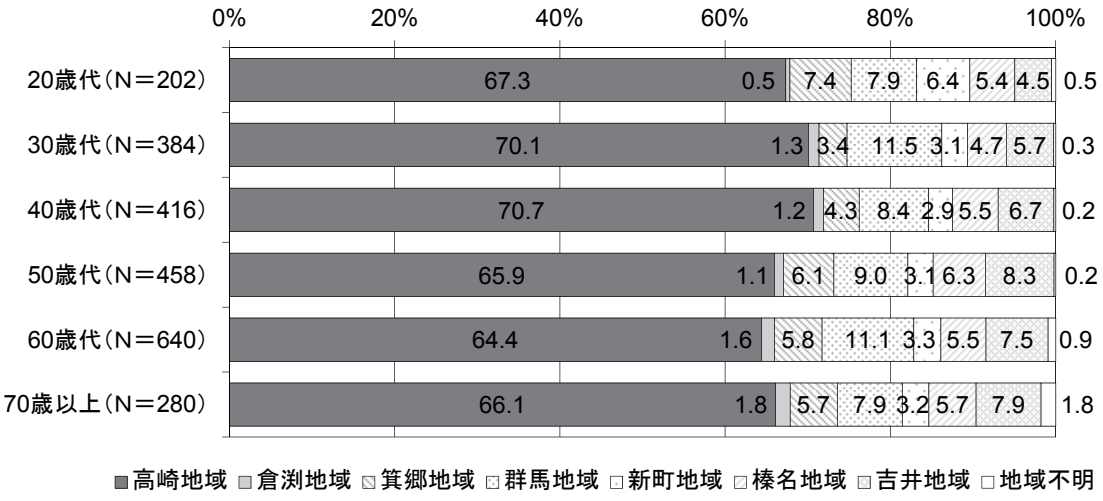
男女とも全体の割合とほぼ同じ傾向となっており、性別による大きな差は見られません。



◇ 年代別

● 年代別による大きな差は見られない

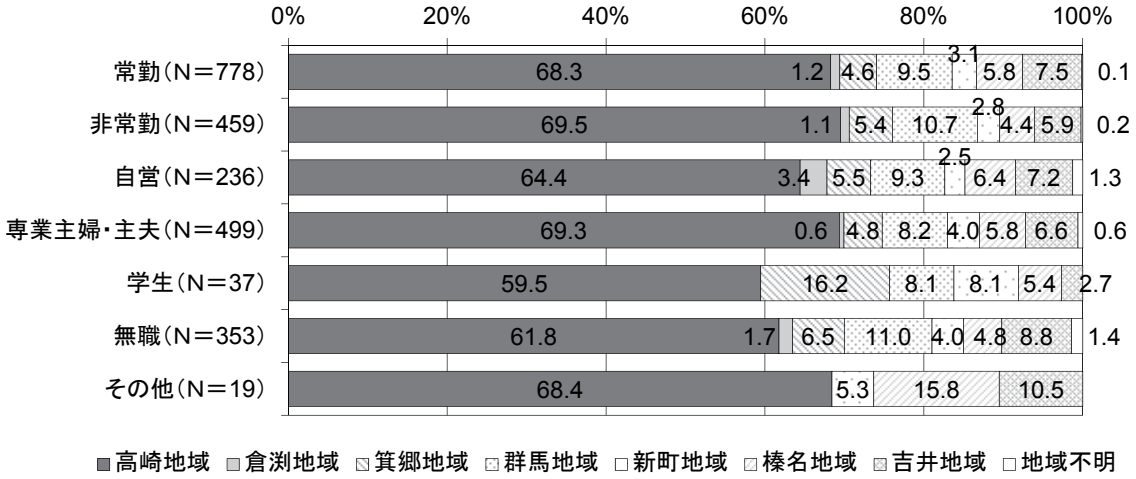
いずれの年代も全体の割合とほぼ同じ傾向となっており、年代別による大きな差は見られません。



◇ 職業別

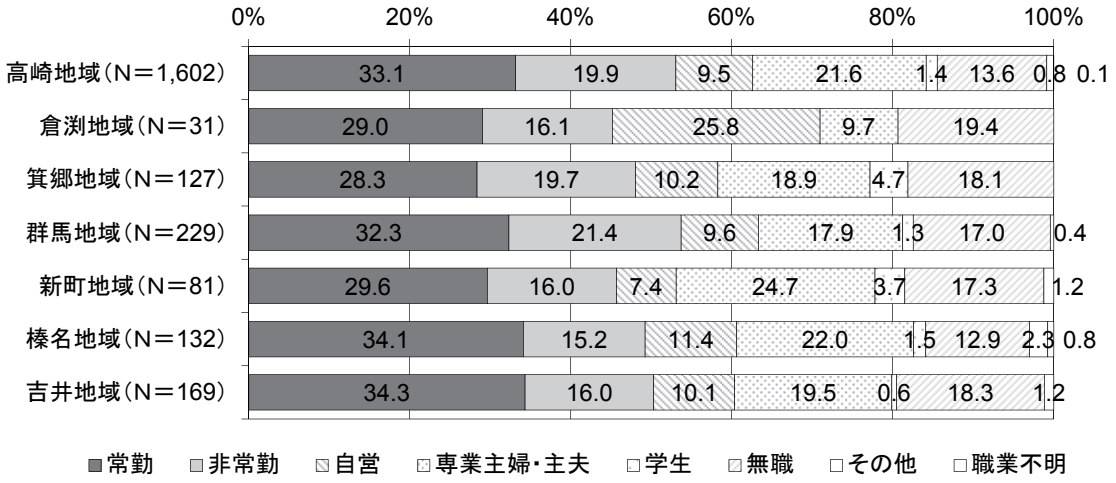
● 学生は箕郷地域が比較的多い

学生は箕郷地域（16.2%）が比較的多くなっていますが、いずれの職業も全体の割合とほぼ同じ傾向となっており、職業による大きな差は見られません。



● 倉渕地域は自営が比較的多く、専業主婦・主夫が少ない

居住地域別に職業構成を見ると、いずれの地域も常勤が最も多くなっていますが、倉渕地域では自営（25.8%）も比較的多く、その一方で専業主婦・主夫（9.7%）が少なくなっています。

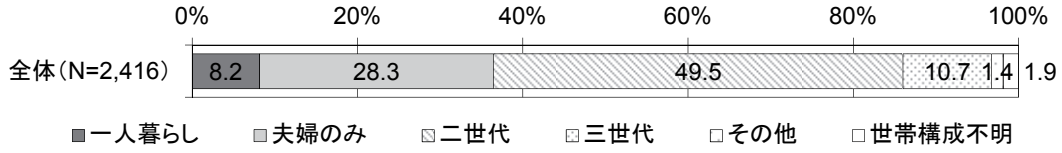


5　その他の属性

◇ 世帯構成

● 二世代が約 5 割、夫婦のみが約 3 割

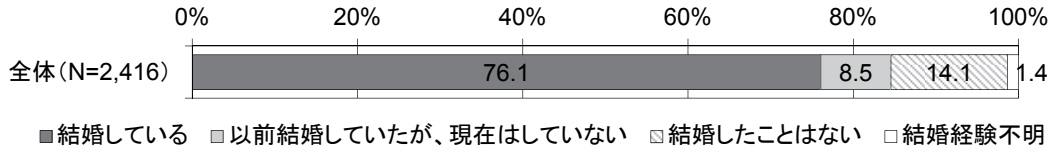
「二世代」（49.5%）が約 5 割を占めています。次いで「夫婦のみ」（28.3%）、「三世代」（10.7%）となっています。



◇ 結婚経験

● 既婚が約 8 割

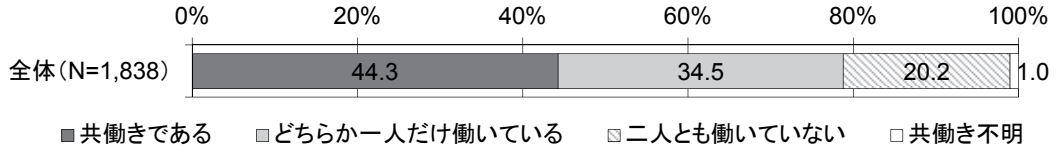
「結婚している」（76.1%）が約 8 割を占めています。次いで「結婚したことはない」（14.1%）、「以前結婚していたが、現在はしていない」（8.5%）となっています。



◇ 働き方

● 「共働き」が約 4 割、「どちらか一人だけ働いている」が約 3 割、「二人とも働いていない」が約 2 割

「共働きである」（44.3%）が最も多く、次いで「どちらか一人だけ働いている」（34.5%）、「二人とも働いていない」（20.2%）となっています。



※N=「結婚している（事実婚含む）」と回答した 1,838 人

Ⅲ　調査結果・分析

1　生活・社会における男女の平等について

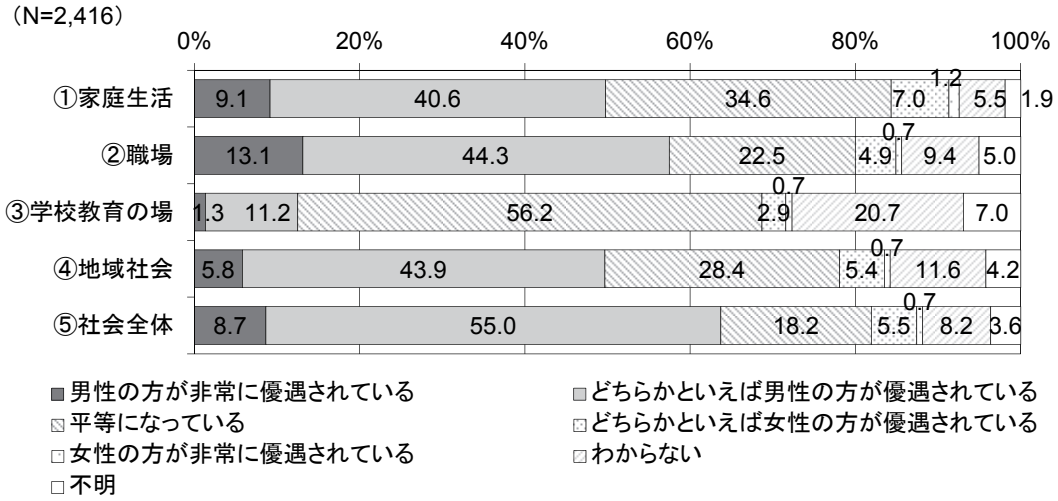
問１　以下のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

【全項目・全体】

- **「学校教育の場」は「平等」が約６割**
- **「学校教育の場」を除き、「どちらかといえば男性が優遇」が最も高く、特に「職場」や「社会全体」が高い**

「③学校教育の場」（56.2%）は「平等になっている」が最も高く、約６割を占めています。

他の項目はいずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。「男性の方が非常に優遇されている」との合算値「男性が優遇」は、「⑤社会全体」（63.7%）が最も高く、次いで「②職場」（57.4%）、「①家庭生活」（49.7%）、「⑤地域社会」（49.7%）、「③学校教育の場（12.5%）」となっています。



①家庭生活

【全体・性別】

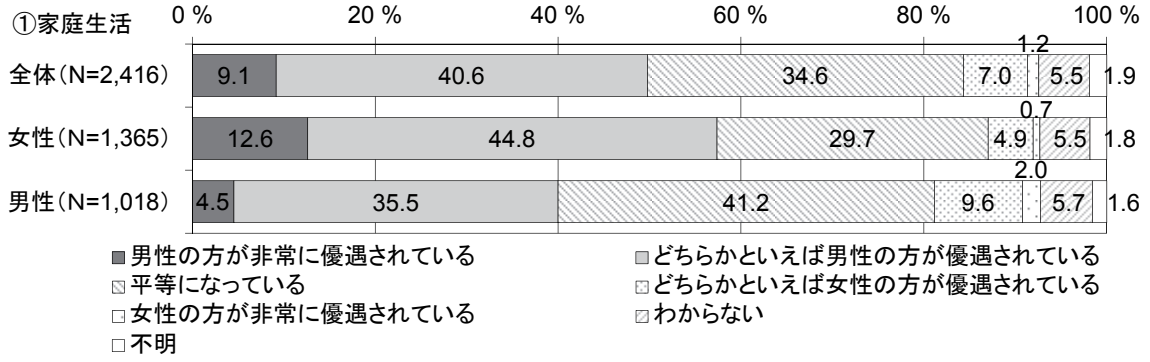
● 女性は「どちらかといえば男性が優遇」、男性は「平等」が 4 割以上で最も高い

● 「男性が優遇」は女性が約 6 割、男性が約 4 割

● 男性は「平等」と「男性が優遇」が同程度

女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（44.8%）、男性は「平等になっている」（41.2%）、が最も高くなっています。

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合算値「男性が優遇」は、女性 57.4%、男性 40.0%となっており、男性は「平等になっている」と同程度になっています。

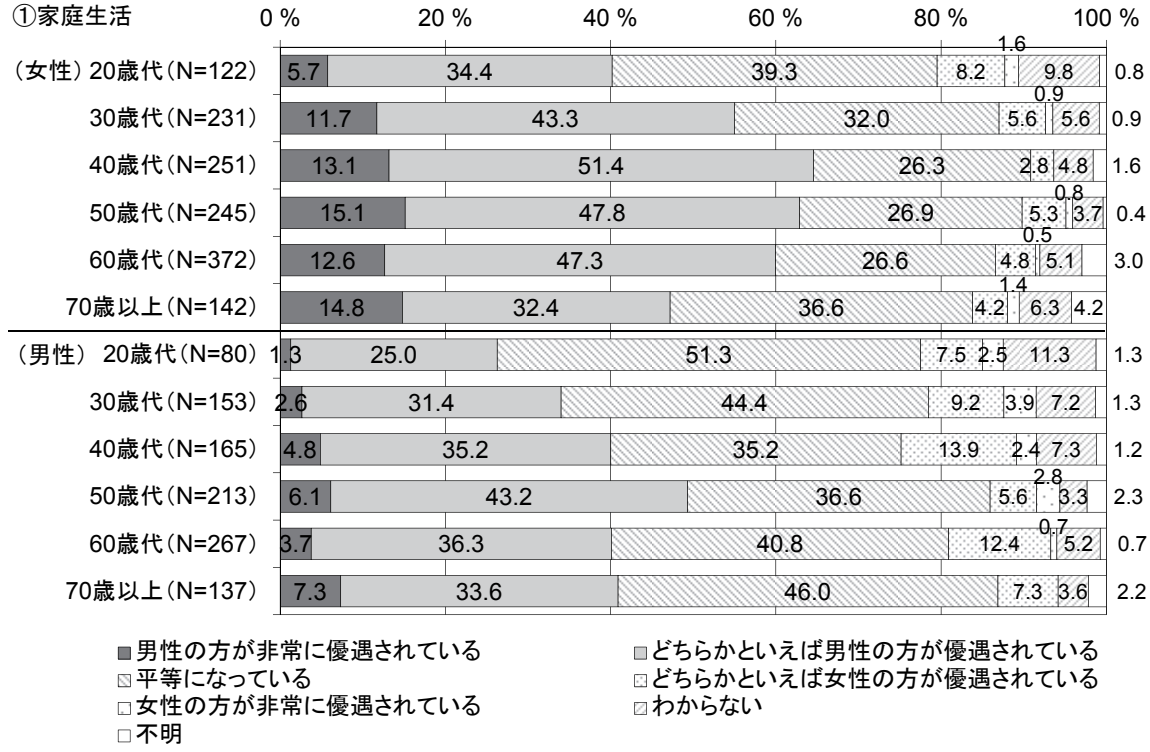


【性別×年代別】

● すべての年代で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、女性 40 歳代（64.5%）や女性 50 歳代（62.9%）が 6 割以上で比較的高くなっています。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、男性 20 歳代（51.3%）が最も高く、すべての年代で男性が高くなっています。

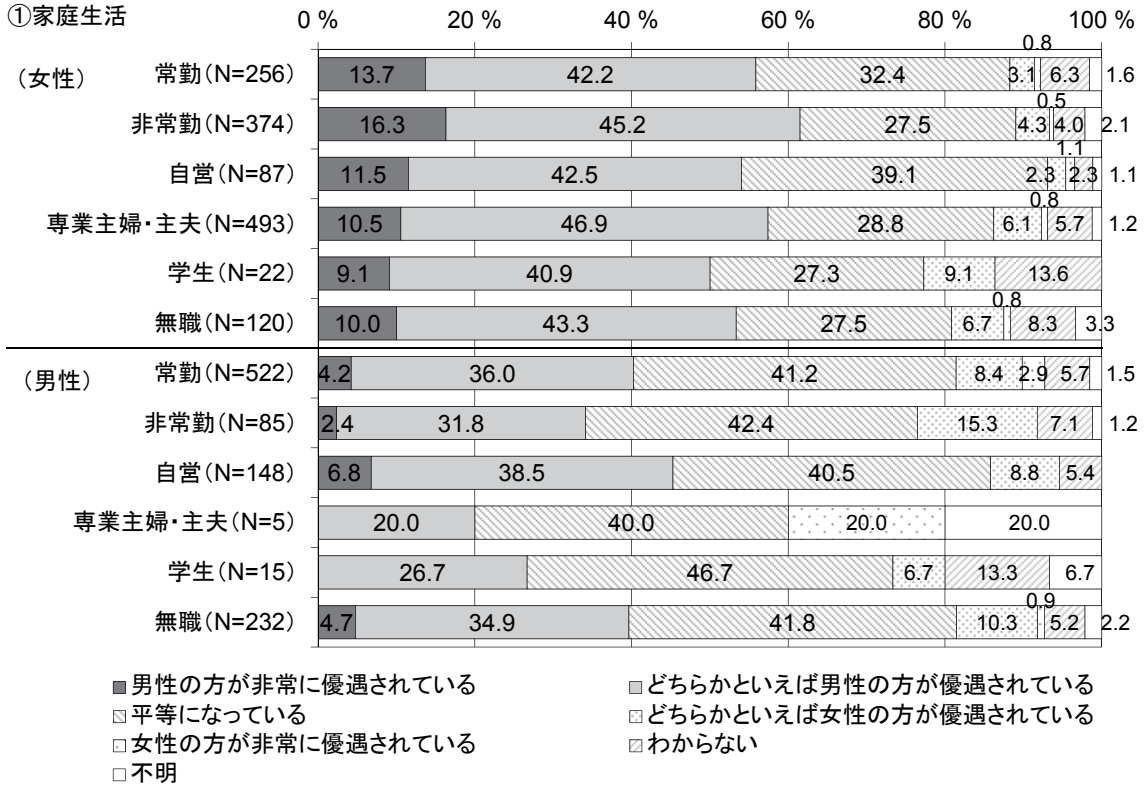


【性別×職業別】

● すべての職業で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、女性非常勤（61.5%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、男性学生（46.7%）が最も高く、すべての職業で男性が比較的高くなっています。

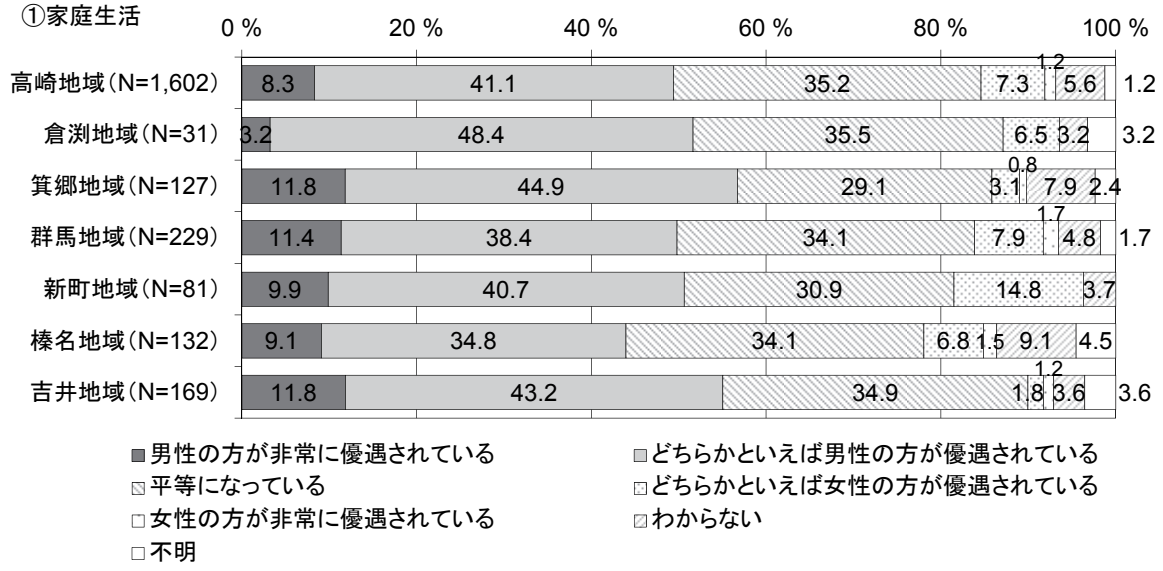


【地域別】

● 「男性が優遇」は箕郷・吉井地域が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、箕郷地域（56.7%）や吉井地域（55.0%）が比較的高くなっています。

一方、「平等になっている」は、地域による大きな差は見られません。



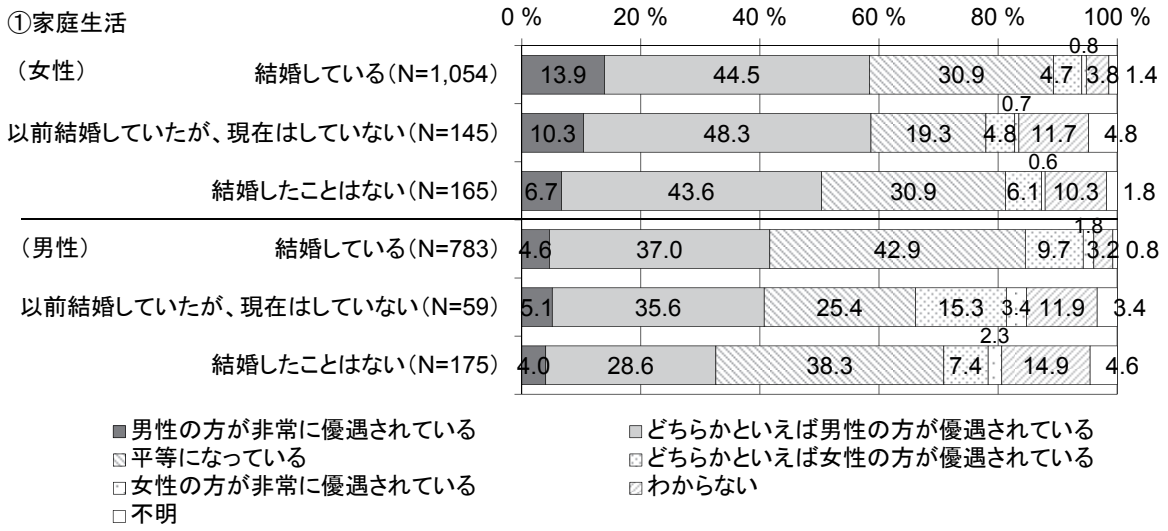
【性別×結婚経験別】

● 「男性が優遇」は結婚経験にかかわらず女性が比較的高い

● 「平等」は男性「結婚している」「結婚したことがない」が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。

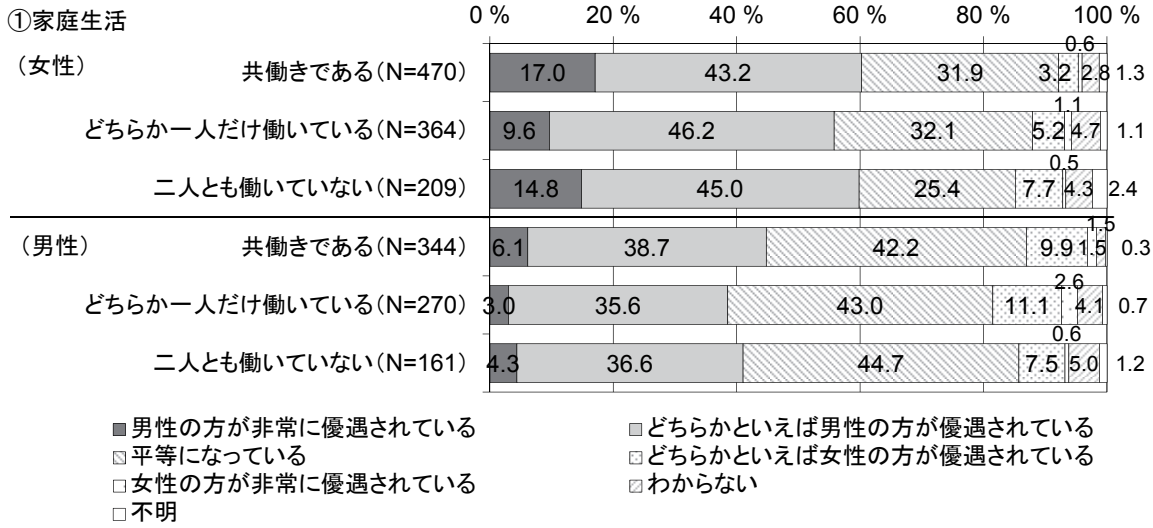
一方、「平等になっている」は男性「結婚している」（42.9%）や男性「結婚したことはない」（38.3%）が約 4 割で比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、働き方にかかわらず女性、「平等になっている」は、働き方にかかわらず男性が高くなっています。

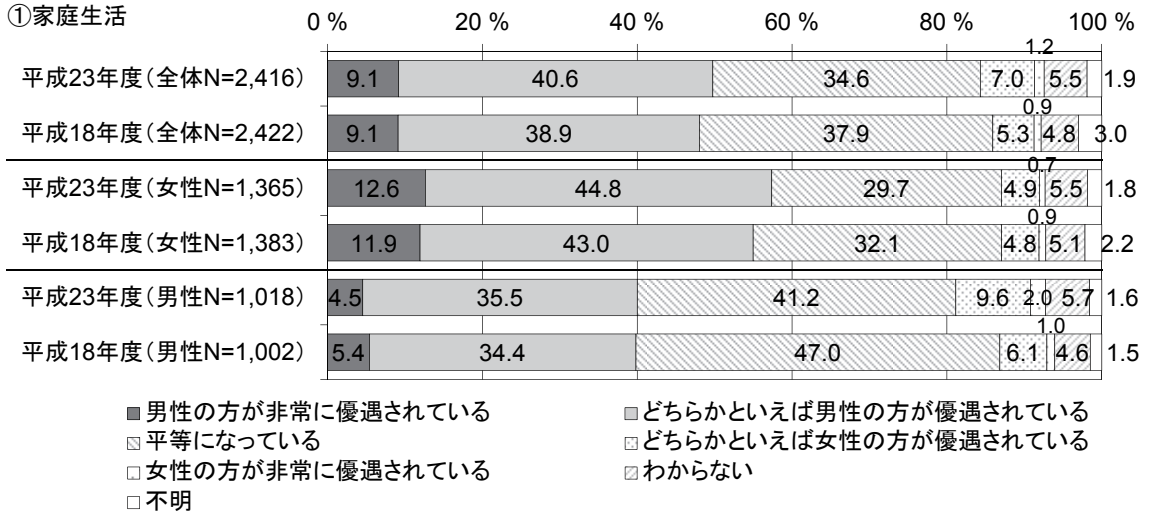


【性別×経年変化】

● 男女とも大きな変化は見られない

● 男性は「平等」が若干減少

前回調査と比較すると、男女とも大きな変化は見られません。その中で、男性は「平等になっている」が若干減少しています。

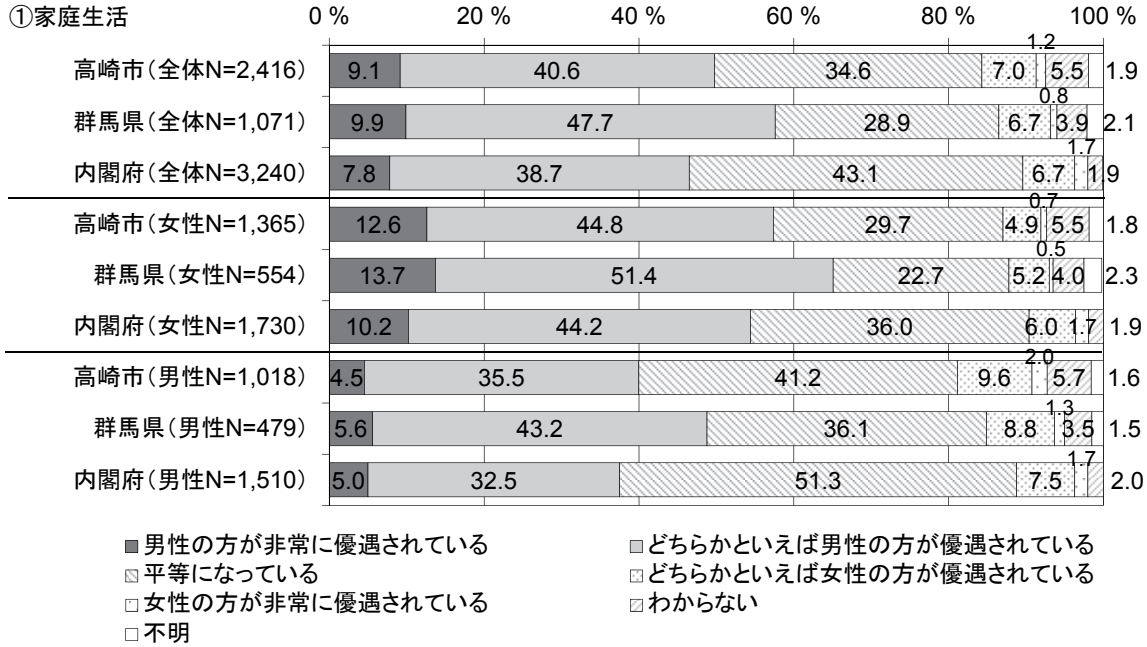


【性別×他調査との比較】

● 「男性が優遇」は男女とも群馬県より低く、国と同程度

● 「平等」は男女とも群馬県より高く、国より低い

合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県より低く、内閣府と同程度になっています。一方、「平等になっている」は、男女とも群馬県より高く、内閣府より低くなっています。



②職場

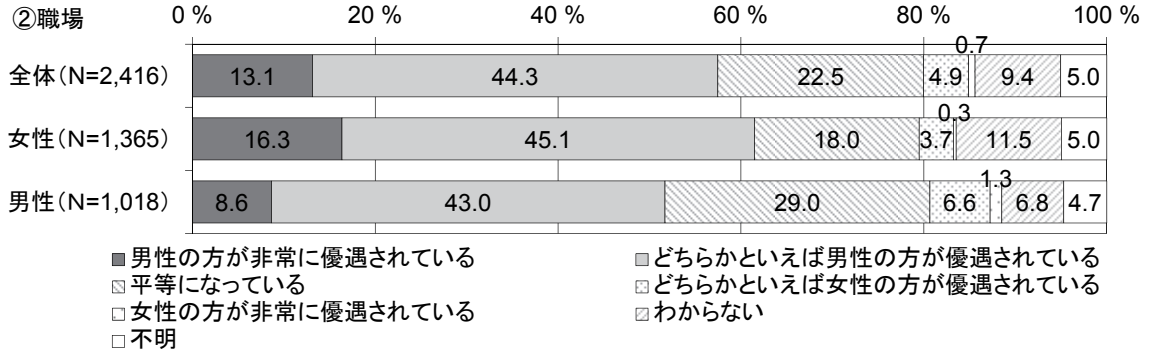
【全体・性別】

● 男女とも「どちらかといえば男性が優遇」が 4 割以上で最も高い

● 「男性が優遇」は女性が約 6 割、男性が約 5 割

男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（女性 45.1%、男性 43.0%）が最も高くなっています。また、男性は「平等になっている」（29.0%）も比較的高くなっています。

合算値「男性が優遇」は、女性 61.4%、男性 51.6%となっています。



【性別×年代別】

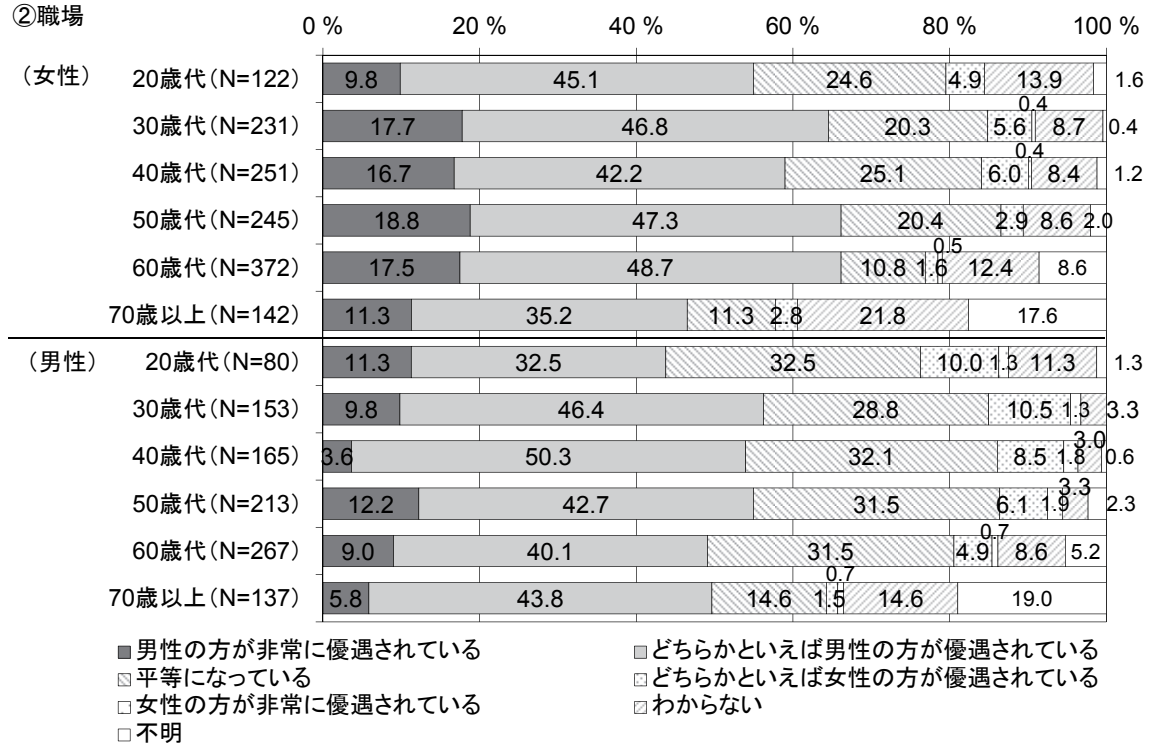
● 70 歳以上を除くすべての年代で「男性が優遇」は女性が高い

● 70 歳以上は「男性が優遇」が男女同程度

● すべての年代で「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、女性 30・50・60 歳代（それぞれ 64.5%、66.1%、66.2%）が比較的高く、いずれも 6 割以上となっています。また、70 歳以上を除くすべての年代で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、すべての年代で男性が高くなっています。

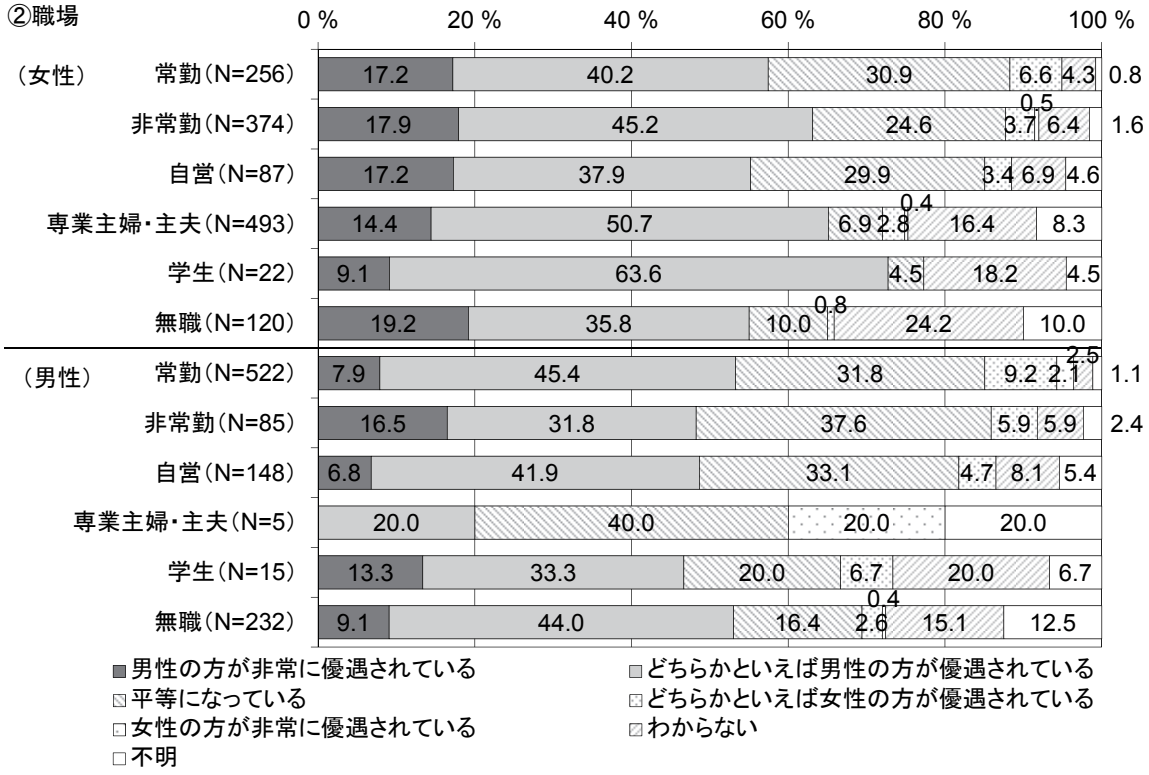


【性別×職業別】

● すべての職業で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は女性学生（72.7%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

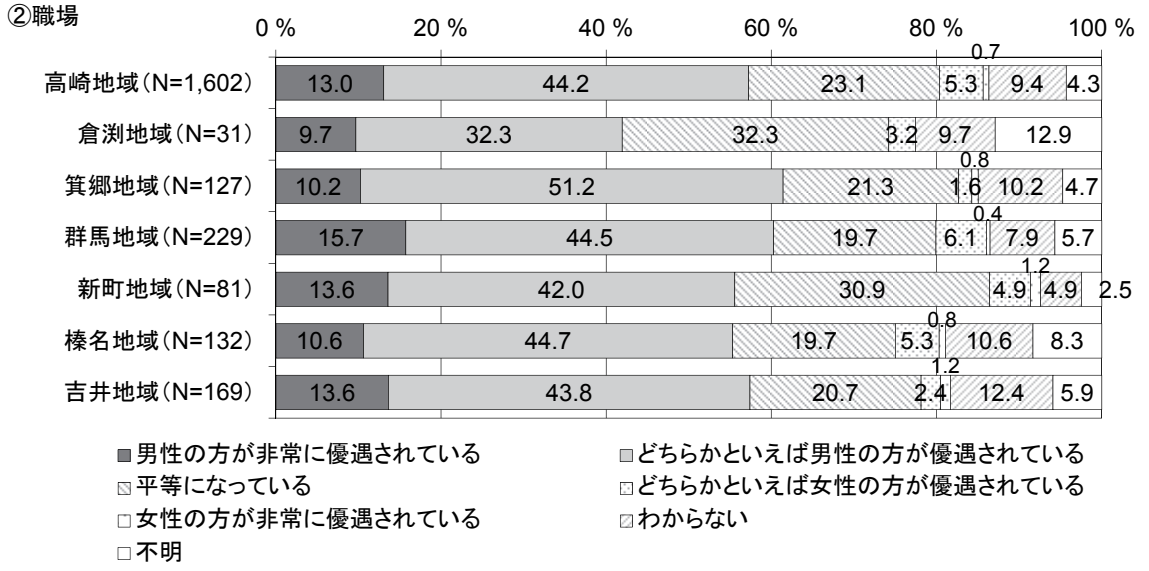
一方、「平等になっている」は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、男性非常勤（37.6%）が最も高く、すべての職業で男性が比較的高くなっています。



【地域別】

● 倉渕地域は「男性が優遇」が比較的低く、「平等」が比較的高い

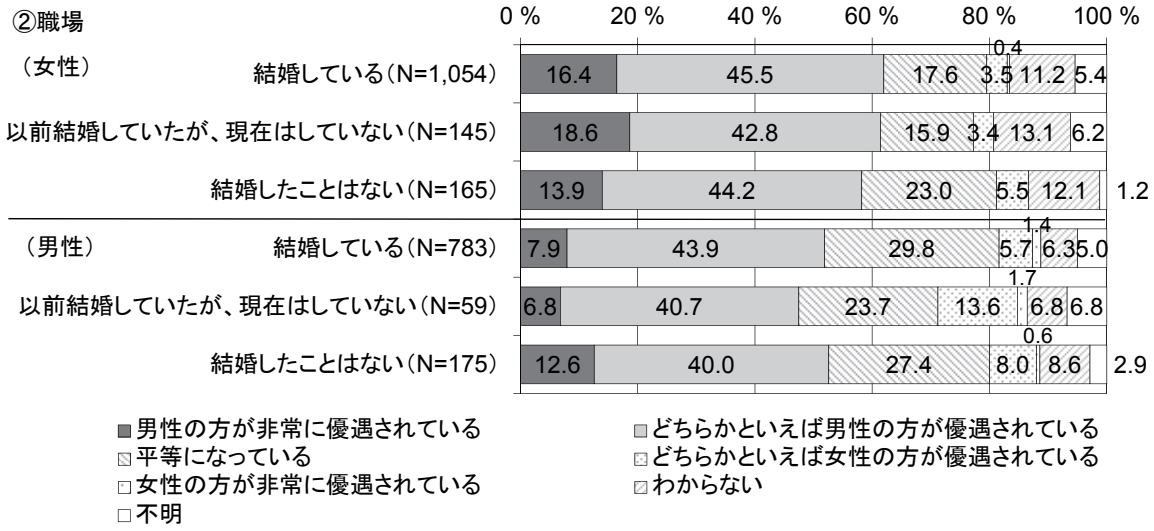
合算値「男性が優遇」は、倉渕地域（42.0%）が比較的低く、その一方で、「平等になっている」は、倉渕地域（32.3%）が比較的高くなっています。



【性別×結婚経験別】

● 結婚経験にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、結婚経験にかかわらず女性、「平等になっている」は、結婚経験にかかわらず男性が比較的高くなっています。



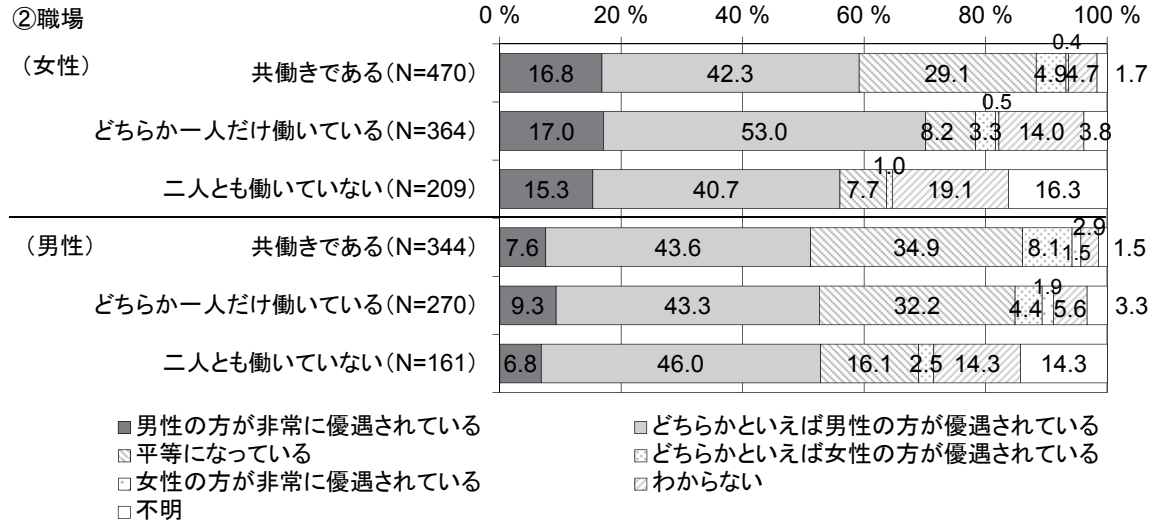
【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性が比較的高い

● 「平等」は男性「共働き」「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、女性「どちらか一人だけ働いている」（70.0%）が特に高く、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

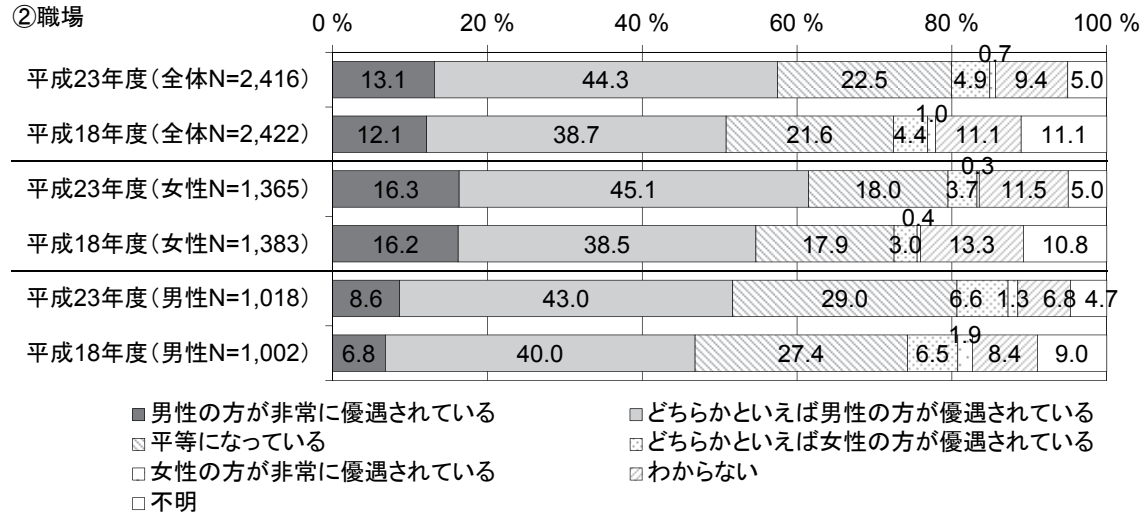
一方、「平等になっている」は、男性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」（それぞれ 34.9%、32.2%）が比較的高くなっています。



【性別×経年変化】

● 男女とも「男性が優遇」が増加

前回調査と比較すると、合算値「男性が優遇」が男女とも若干増加しています。特に女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 6.6 ポイント高くなっています。



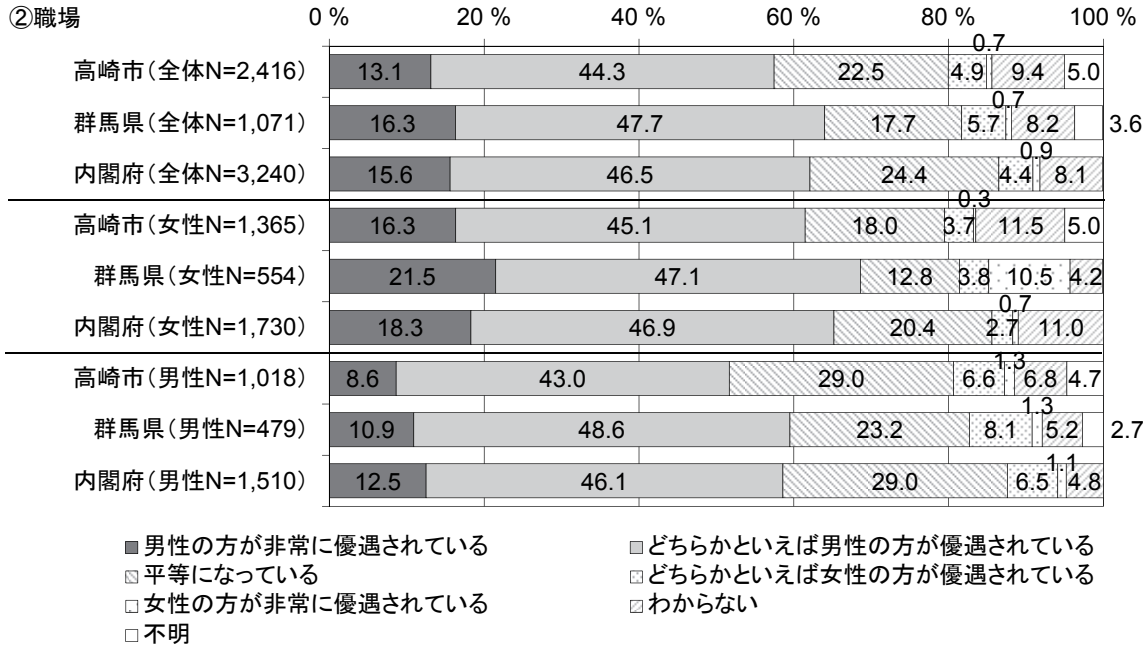
【性別×他調査との比較】

● 「男性が優遇」は男女とも群馬県や国より低い

● 「平等」は男女とも群馬県より高く、国と同程度

合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県や内閣府より低くなっています。

一方、「平等になっている」は、男女とも群馬県より高く、内閣府と同程度になっています。



③学校教育の場

【全体・性別】

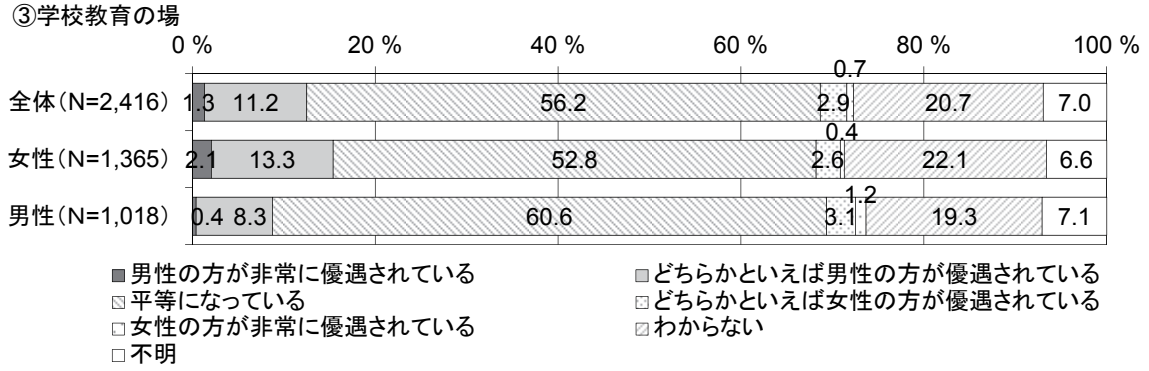
● 男女とも「平等」が最も高く、女性が約 5 割、男性が約 6 割

● 「男性が優遇」は女性が比較的高い

男女とも「平等になっている」（女性 52.8%、男性 60.6%）が最も高くなっています。また、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（13.3%）も比較的高くなっています。

合算値「男性が優遇」は、女性 15.4%、男性 8.7%となっています。

また、男女とも「わからない」が 2 割程度見られます。

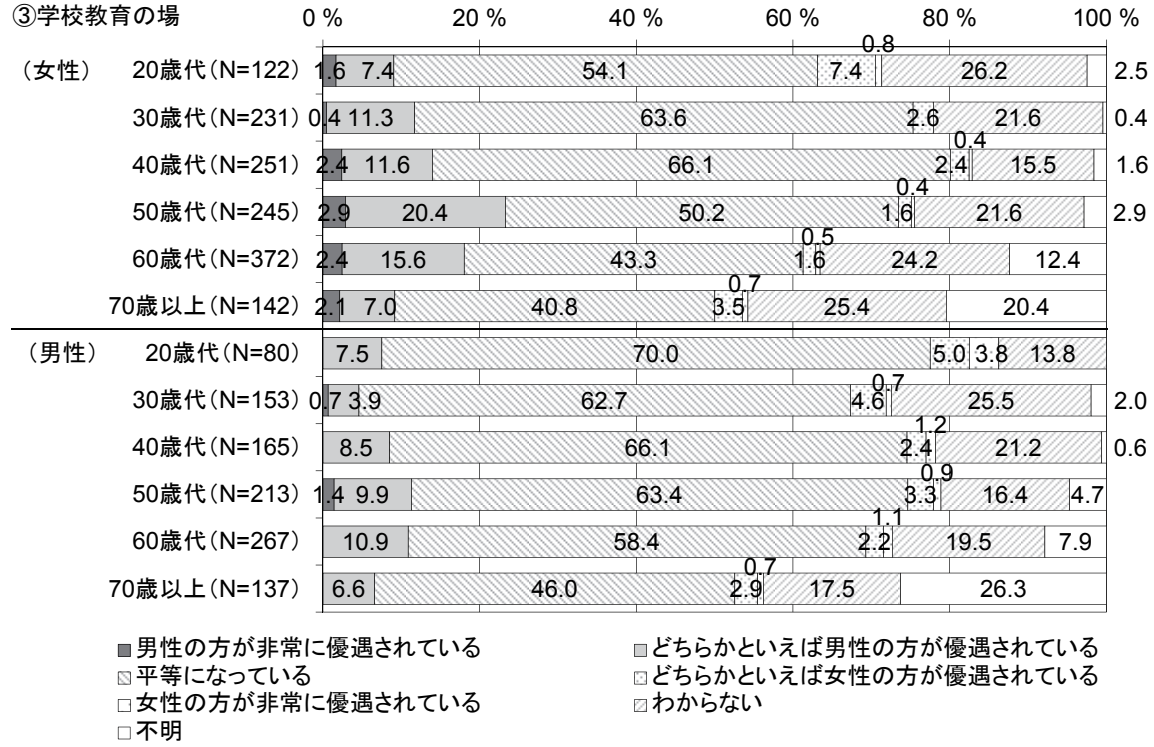


【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「平等」が最も高い

● 女性 60 歳代以上、男性 70 歳以上は「平等」が比較的低い

「平等になっている」は、男女とも多くの年代で 5 割以上となっていますが、女性 60 歳代（43.3%）、女性 70 歳以上（40.8%）、男性 70 歳以上（46.0%）では比較的低くなっています。合算値「男性が優遇」は、女性 50 歳代（23.3%）が比較的高くなっています。



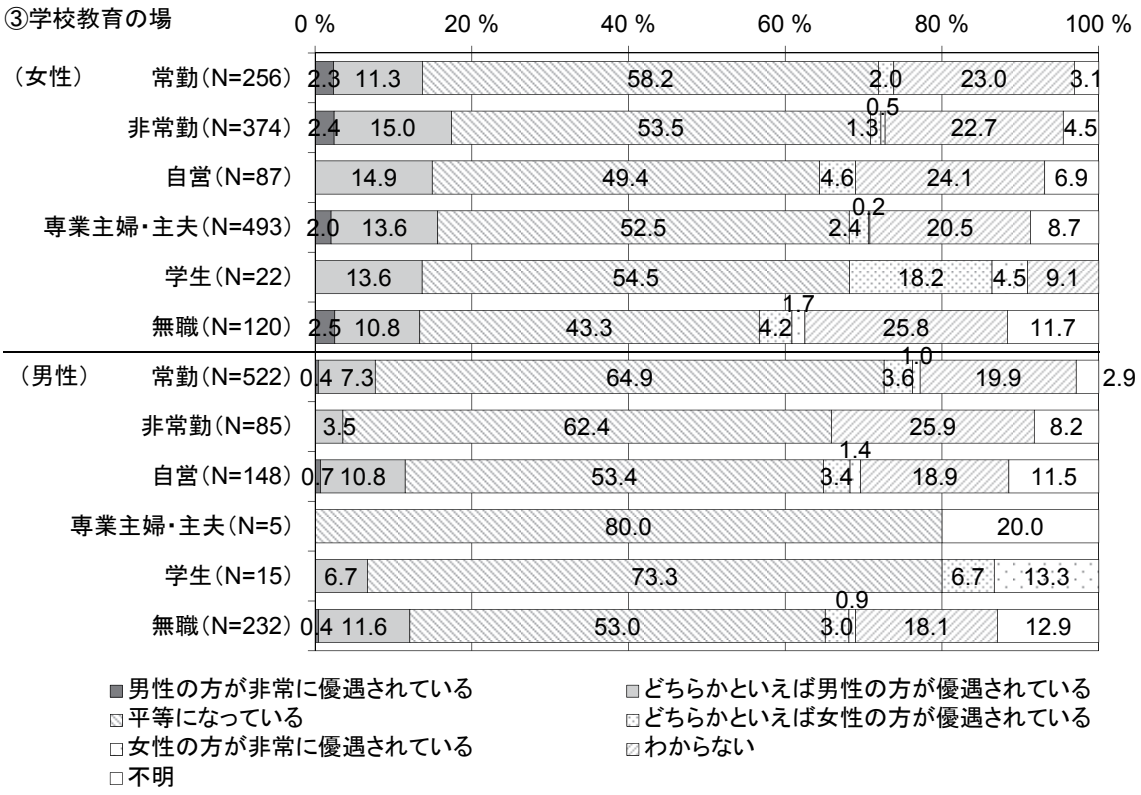
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「平等」が最も高い

● 女性無職は「平等」が比較的低い

「平等になっている」は、男女ともほとんどの職業で 5 割以上となっていますが、女性無職（43.3%）では比較的低くなっています。

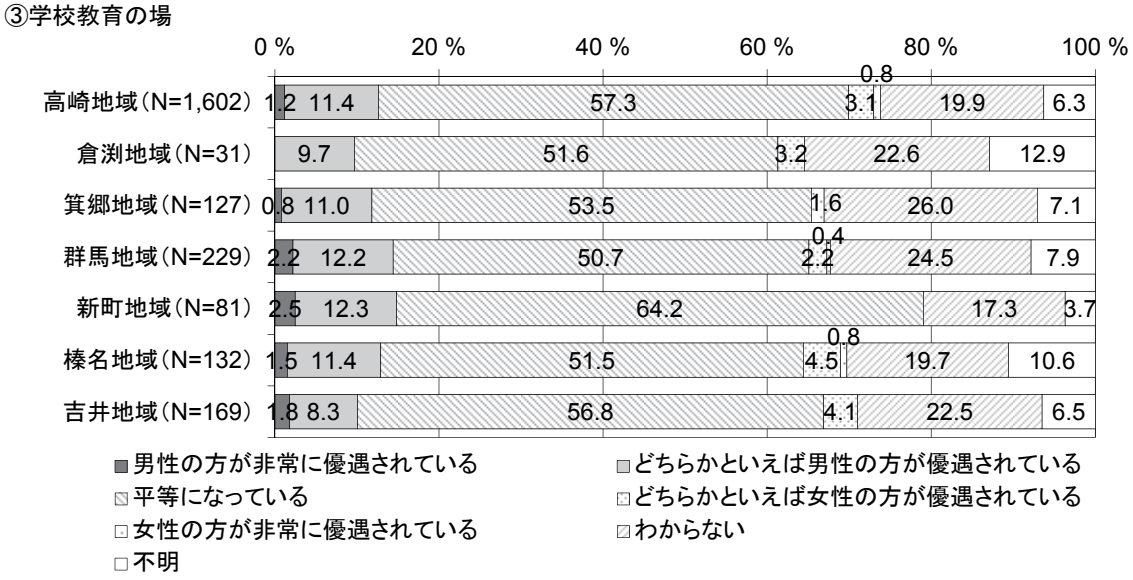
合算値「男性が優遇」は、すべての職業で女性が比較的高くなっています。



【職業別】

● すべての地域で「平等」が最も高く、特に新町地域が高い

すべての地域で「平等になっている」が最も高く、特に新町地域（64.2%）は 6 割以上となっています。

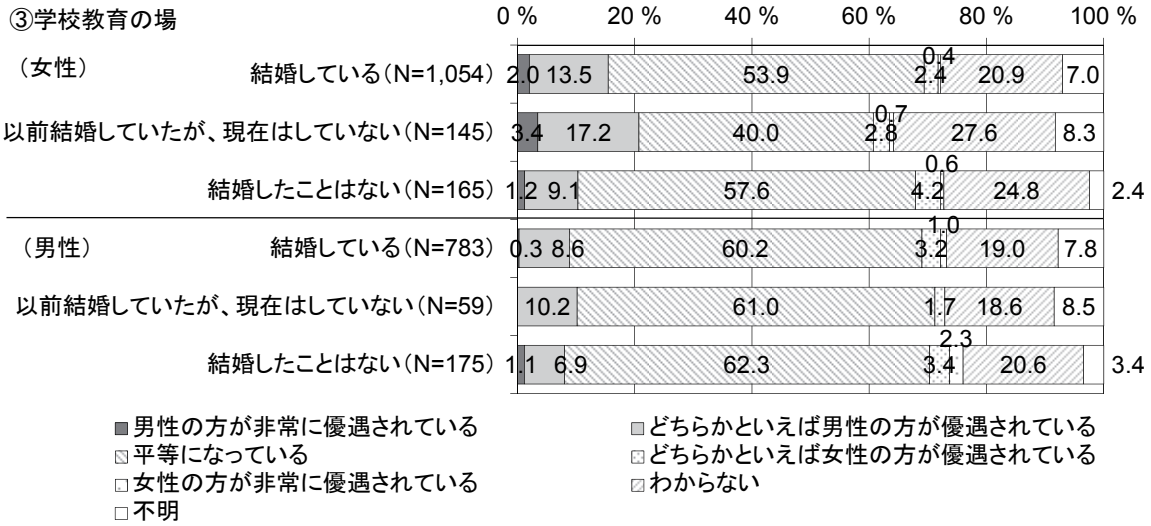


【性別×結婚経験別】

● 女性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「平等」が比較的低く、「男性が優遇」が比較的高い

「平等になっている」は、ほとんどの属性で 5 割以上となっていますが、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」（40.0%）は比較的低くなっています。

合算値「男性が優遇」は、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」（20.6%）が比較的高くなっています。



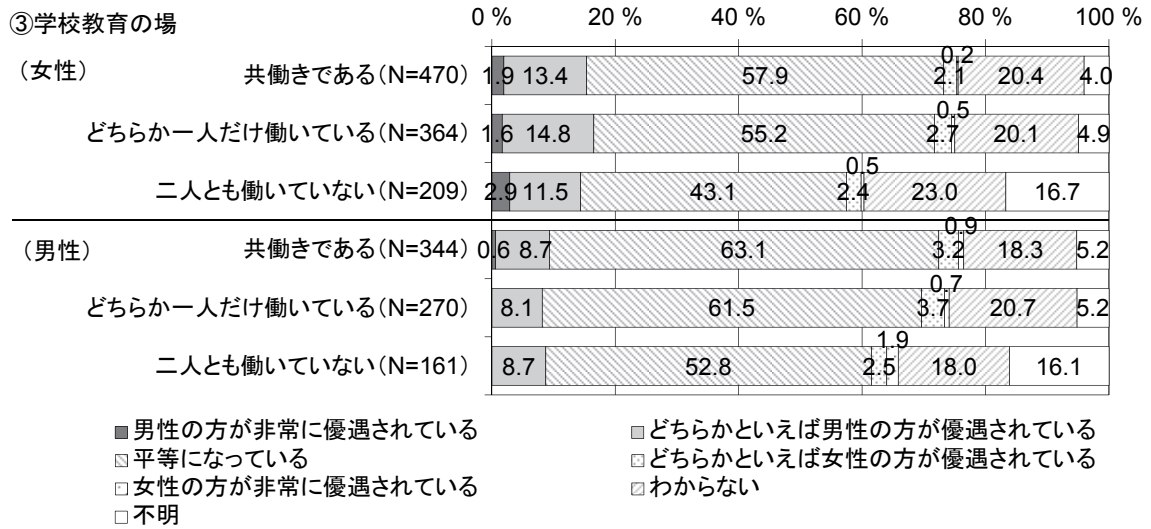
【性別×働き方別】

● 女性「二人とも働いていない」は「平等」が比較的低い

● 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性が比較的高い

「平等になっている」は、ほとんどの属性で 5 割以上となっていますが、女性「二人とも働いていない」（43.1%）は比較的低くなっています。

合算値「男性が優遇」は、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

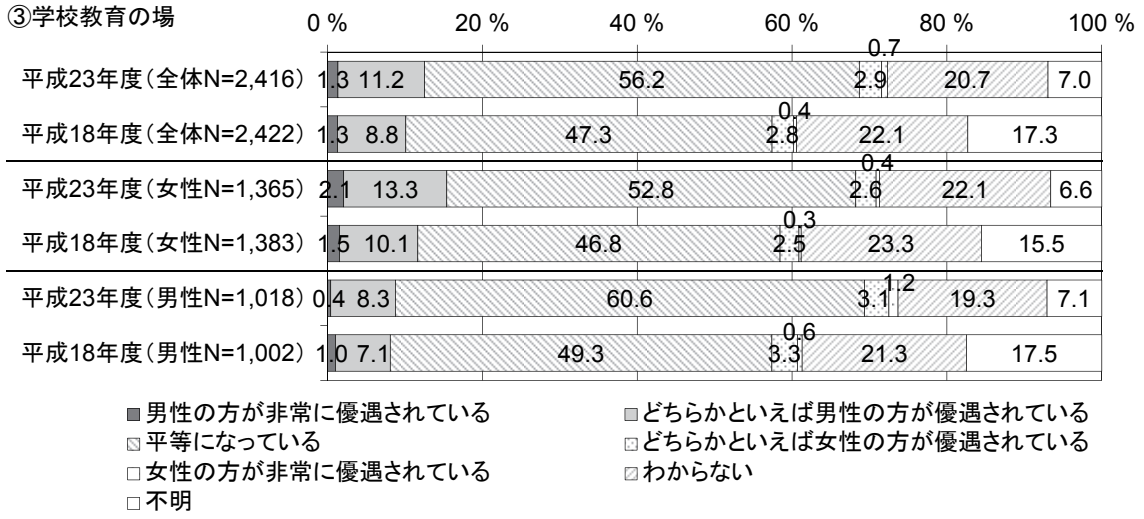


【性別×経年変化】

● 男女とも「平等」が増加

前回調査と比較すると、「平等になっている」が男女とも増加しており、特に男性は 11.3 ポイント増加しています。

合算値「男性が優遇」は、女性が若干増加しています。



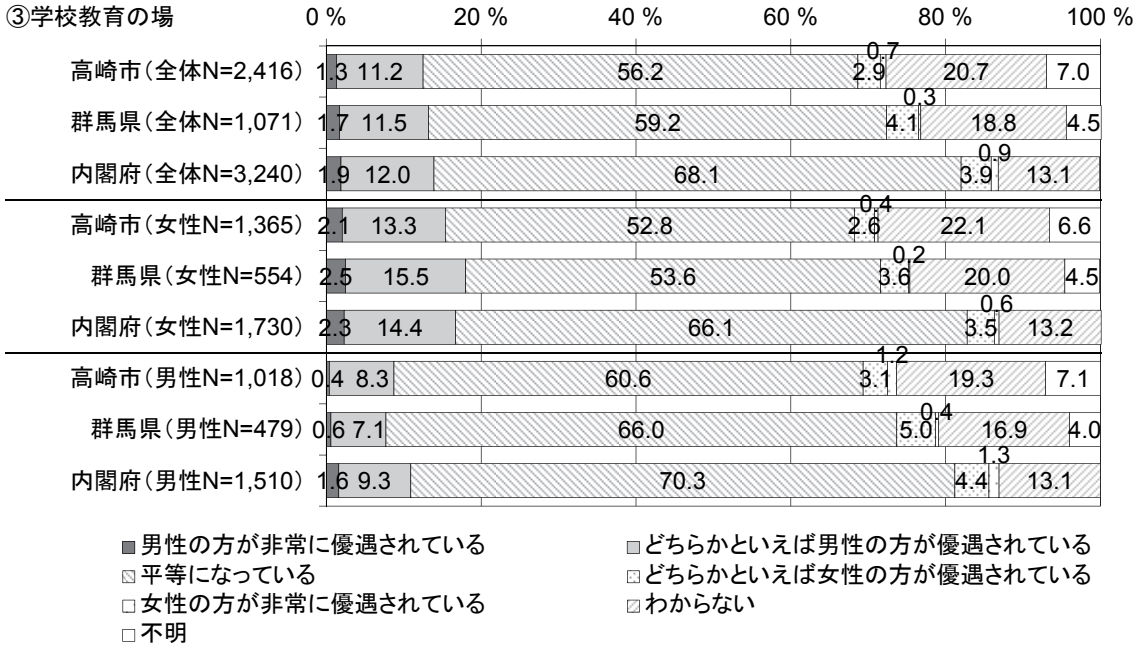
【性別×他調査との比較】

● 「平等」は男女とも国より低く、女性は群馬県と同程度、男性は群馬県より低い

● 「男性が優遇」は男女とも群馬県や国と同程度

「平等になっている」は、女性は内閣府より低く、群馬県と同程度、男性は群馬県や内閣府より低くなっています。

一方、合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県や内閣府と同程度になっています。



④地域社会

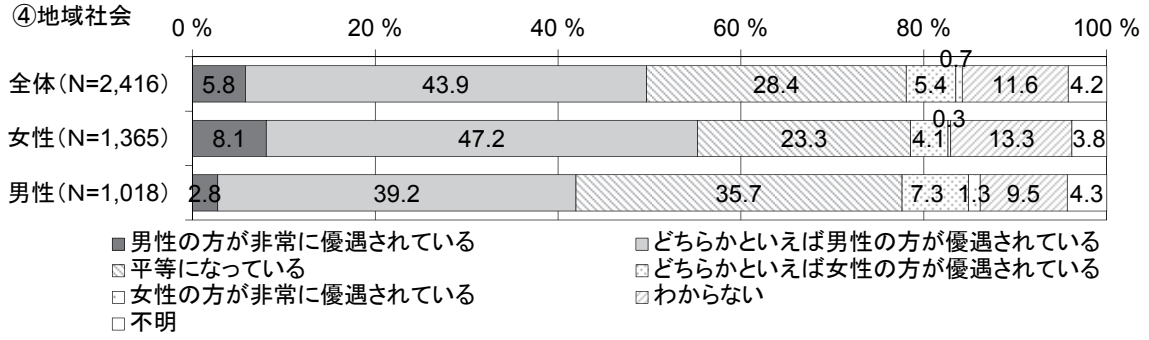
【全体・性別】

- 男女とも「どちらかといえば男性が優遇」が最も高く、女性が約 5 割、男性が約 4 割
- 「男性が優遇」は女性が約 6 割、男性が約 4 割
- 男性は「平等」も約 4 割

男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（女性 47.2%、男性 39.2%）が最も高くなっています。

合算値「男性が優遇」は、女性が 55.3%、男性が 42.0%となっています。

また、男性は「平等になっている」（35.7%）も比較的高くなっています。

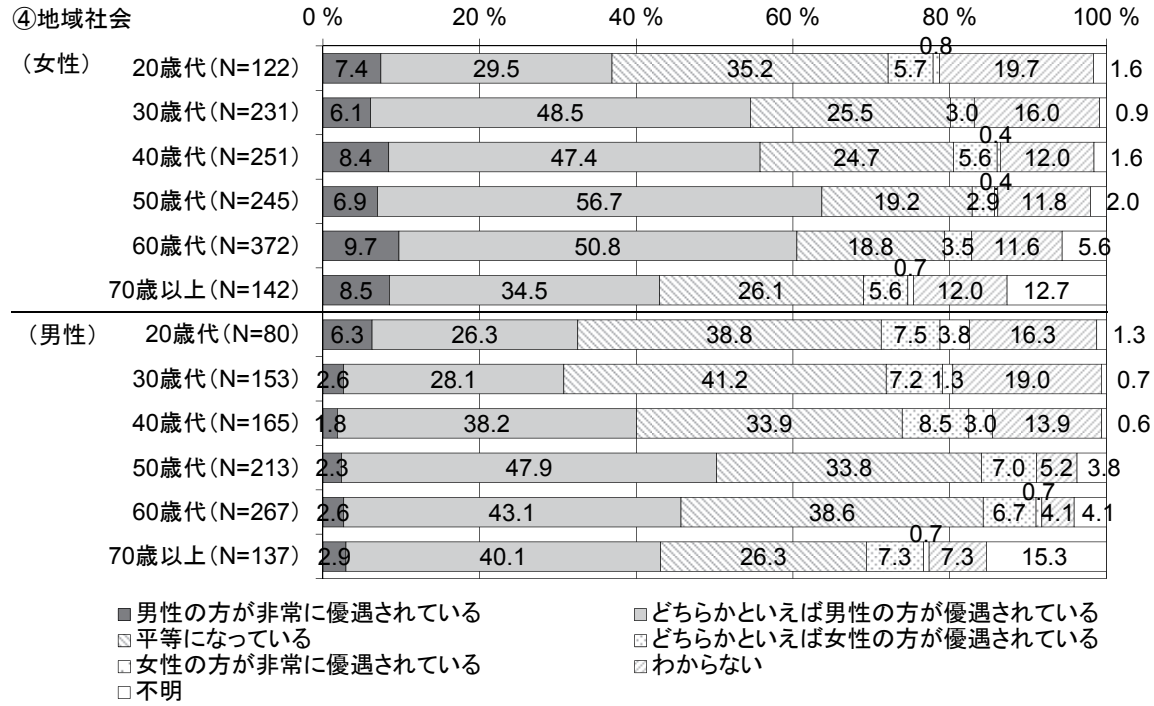


【性別×年代別】

- 70 歳以上を除くすべての年代で「男性が優遇」は女性が高い
- 70 歳以上は「男性が優遇」が男女同値
- すべての年代で「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、女性 50 歳代（63.6%）や女性 60 歳代（60.5%）が 6 割以上で比較的高くなっています。また、70 歳以上を除くすべての年代で女性が高くなっています。70 歳以上は男女が同値（43.0%）となっています。

一方、「平等になっている」は、男性 30 歳代（41.2%）が最も高く、すべての年代で男性が高くなっています。

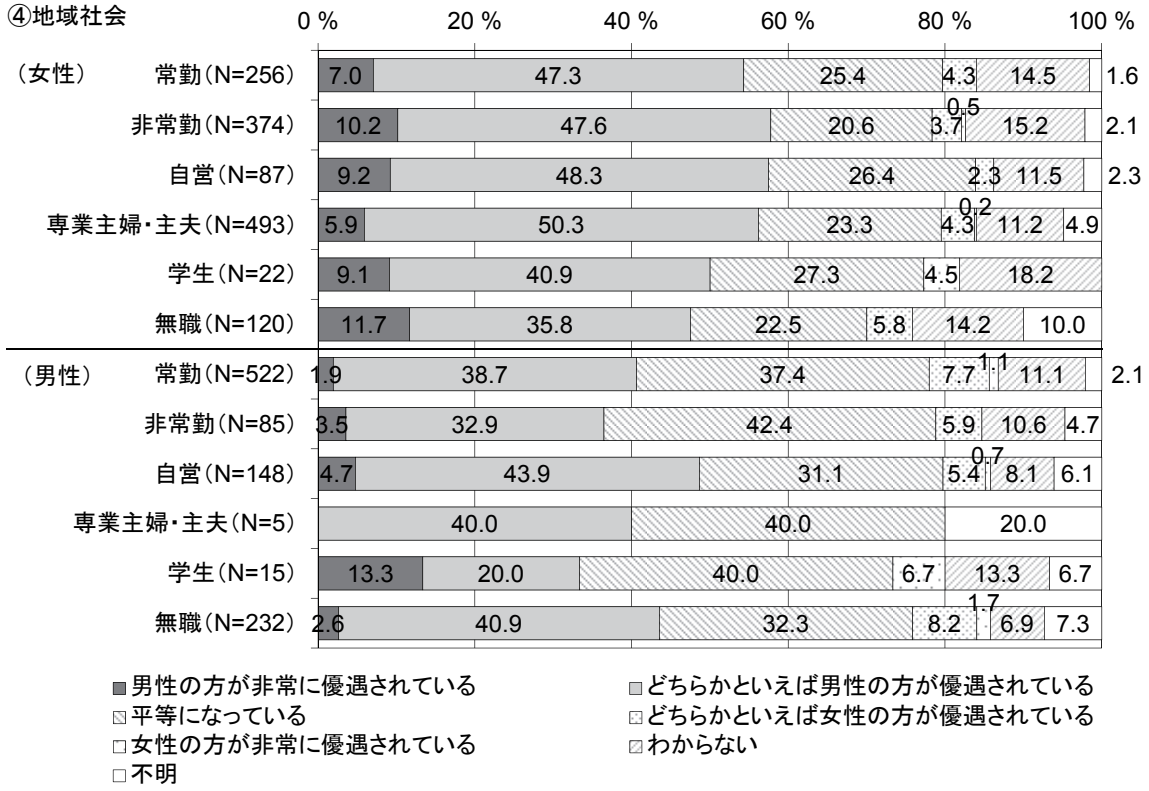


【性別×職業別】

● すべての職業で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、男性非常勤（42.4%）が最も高く、すべての職業で男性が比較的高くなっています。

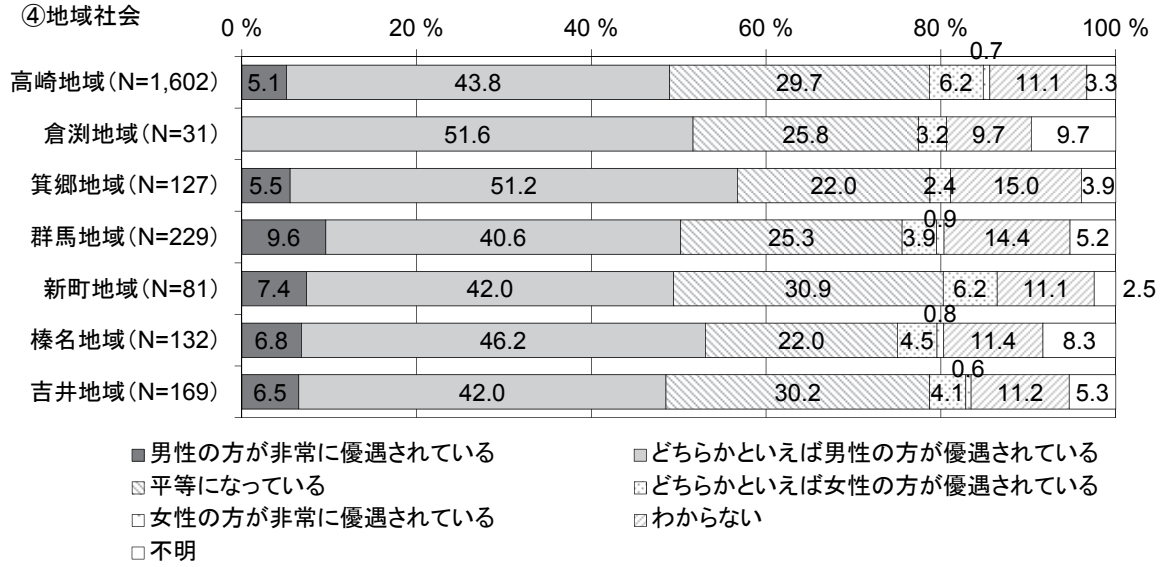


【地域別】

● 「男性が優遇」は箕郷地域が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、箕郷地域（56.7%）が比較的高くなっています。

一方、「平等になっている」は、地域による大きな差は見られません。



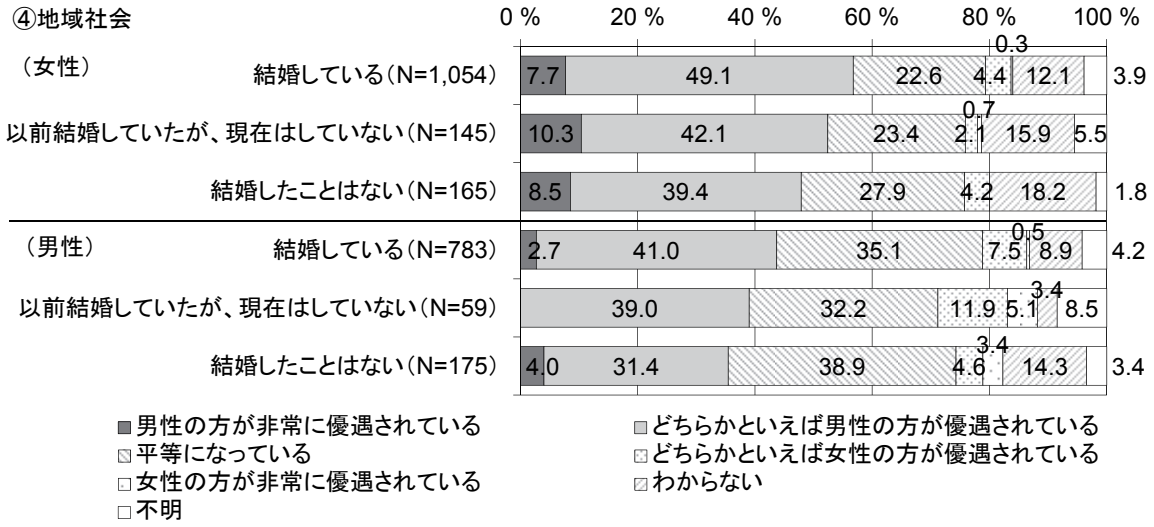
【性別×結婚経験別】

● 「男性が優遇」は男女とも「結婚している」が最も高く、「結婚したことはない」が最も低い

● 結婚経験にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、男女とも「結婚している」が最も高く、「結婚したことはない」が最も低くなっています。また、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。

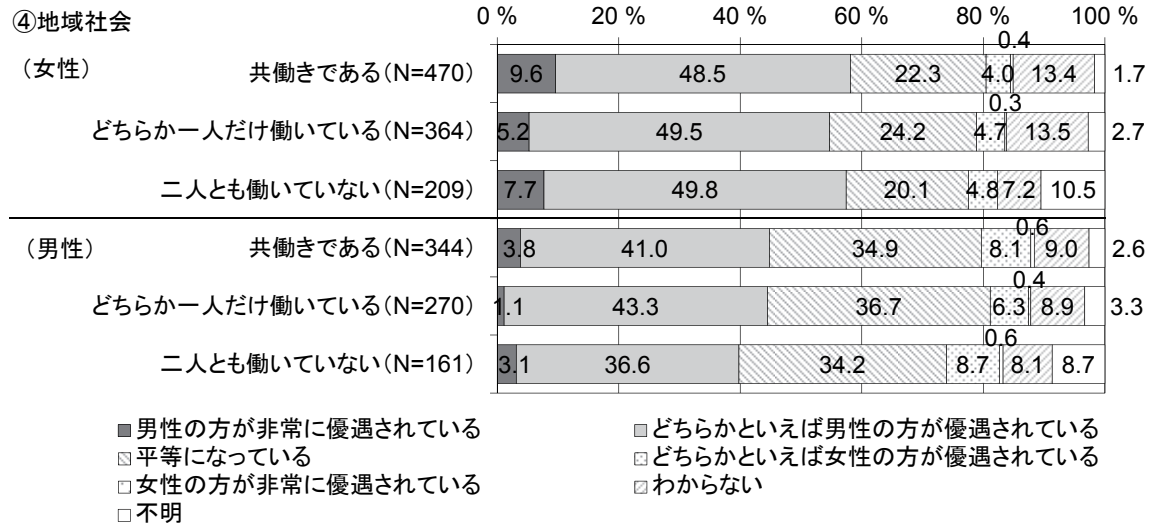
一方、「平等になっている」は、男性「結婚したことはない」（38.9%）が最も高く、結婚経験にかかわらず男性が比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

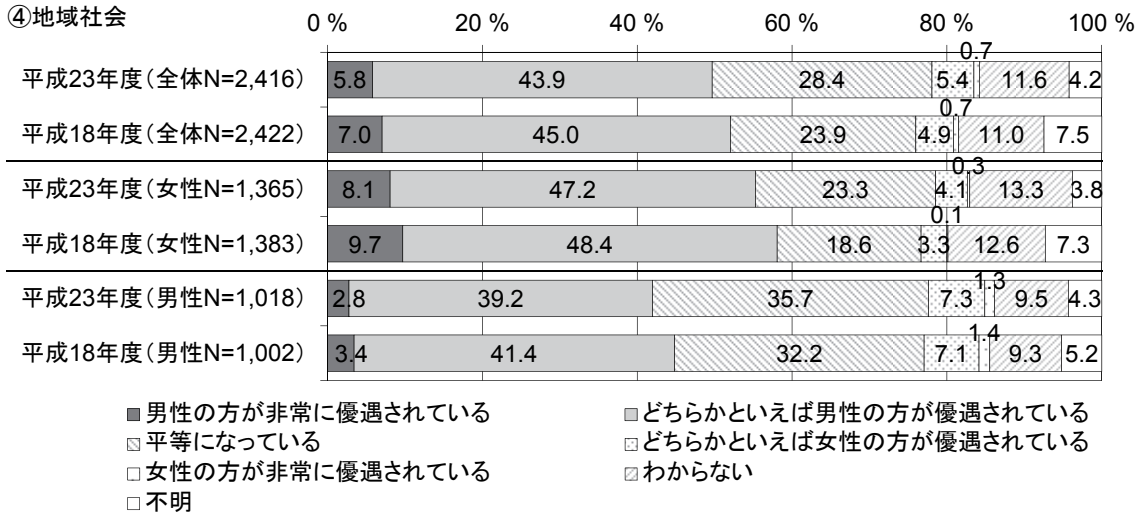
合算値「男性が優遇」は、働き方にかかわらず女性、「平等になっている」は、働き方にかかわらず男性が高くなっています。



【性別×経年変化】

● 男女とも「男性が優遇」が若干減少し、「平等」が若干増加

前回調査と比較すると、大きな変化は見られませんが、男女とも合算値「男性が優遇」は若干減少、「平等になっている」は若干増加しています。



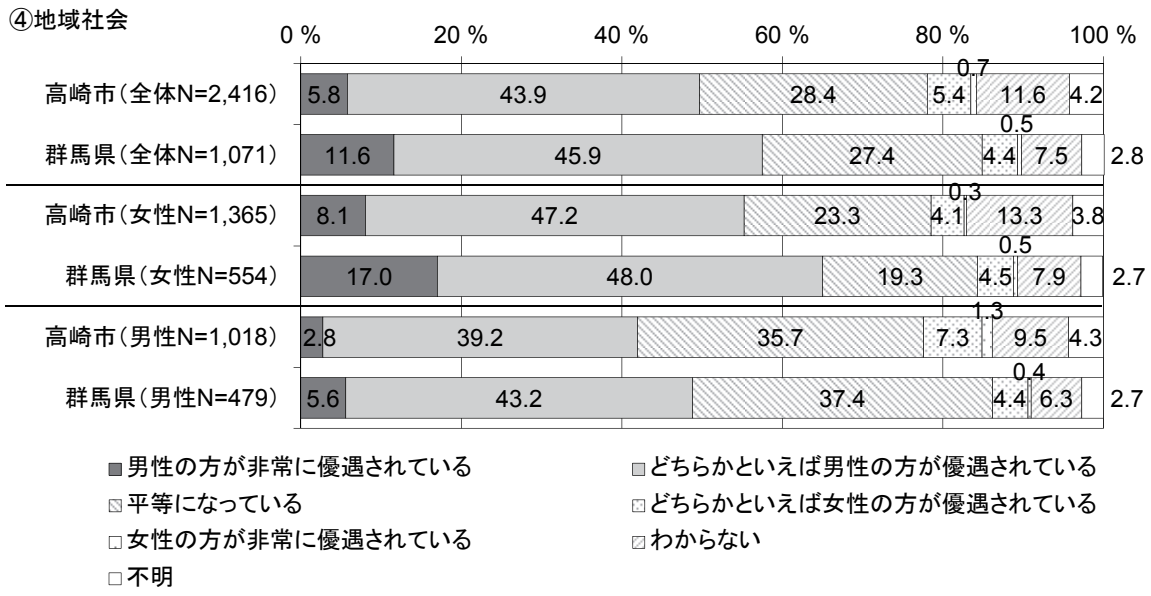
【性別×他調査との比較】

● 「男性が優遇」は男女とも群馬県より低く、特に女性が低い

● 「平等」は群馬県より女性は高く、男性は同程度

合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県より低く、特に女性は 9.7 ポイント低くなっています。

一方、「平等になっている」は、女性は群馬県より高く、男性は群馬県と同程度になっています。



⑤社会全体

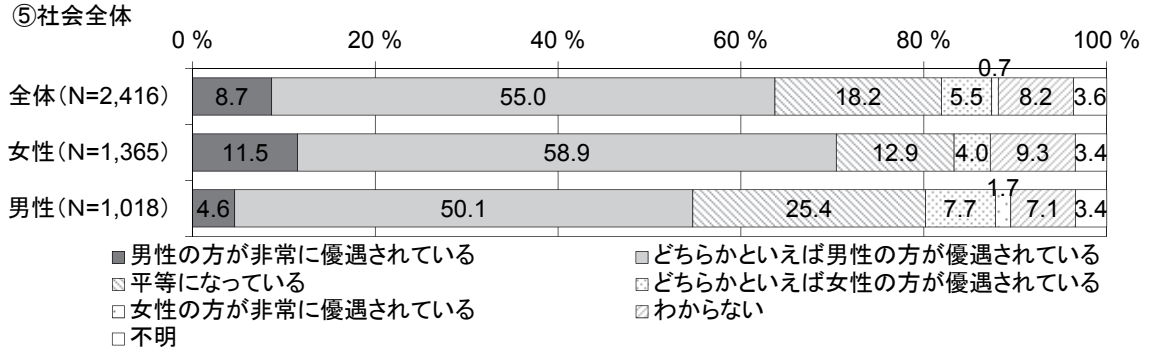
【全体・性別】

- 男女とも「どちらかといえば男性が優遇」が最も高く、女性が約 6 割、男性が約 5 割
- 「男性が優遇」は女性が約 7 割、男性が約 5 割
- 男性は「平等」も約 3 割

男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（女性 58.9%、男性 50.1%）が最も高く、特に女性（58.9%）は約 6 割となっています。

合算値「男性が優遇」は、女性 70.4%、男性 54.7%となっています。

また、男性は「平等になっている」（25.4%）も比較的高くなっています。

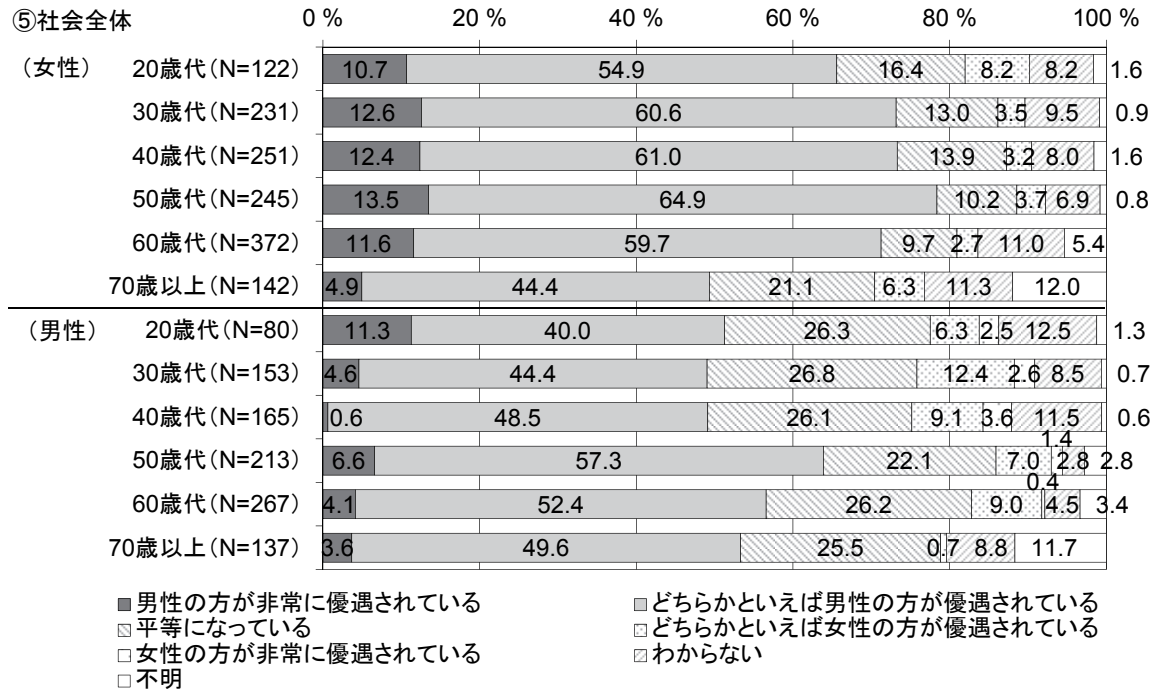


【性別×年代別】

- 70 歳以上を除くすべての年代で「男性が優遇」は女性が高い
- 70 歳以上は「男性が優遇」が男女同程度
- すべての年代で「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、女性 50 歳代（78.4%）が最も高く、約 8 割となっています。また、70 歳以上を除くすべての年代で女性が高く、70 歳以上は女性（49.3%）と男性（53.2%）が同程度になっています。

一方、「平等になっている」は、すべての年代で男性が高くなっています。

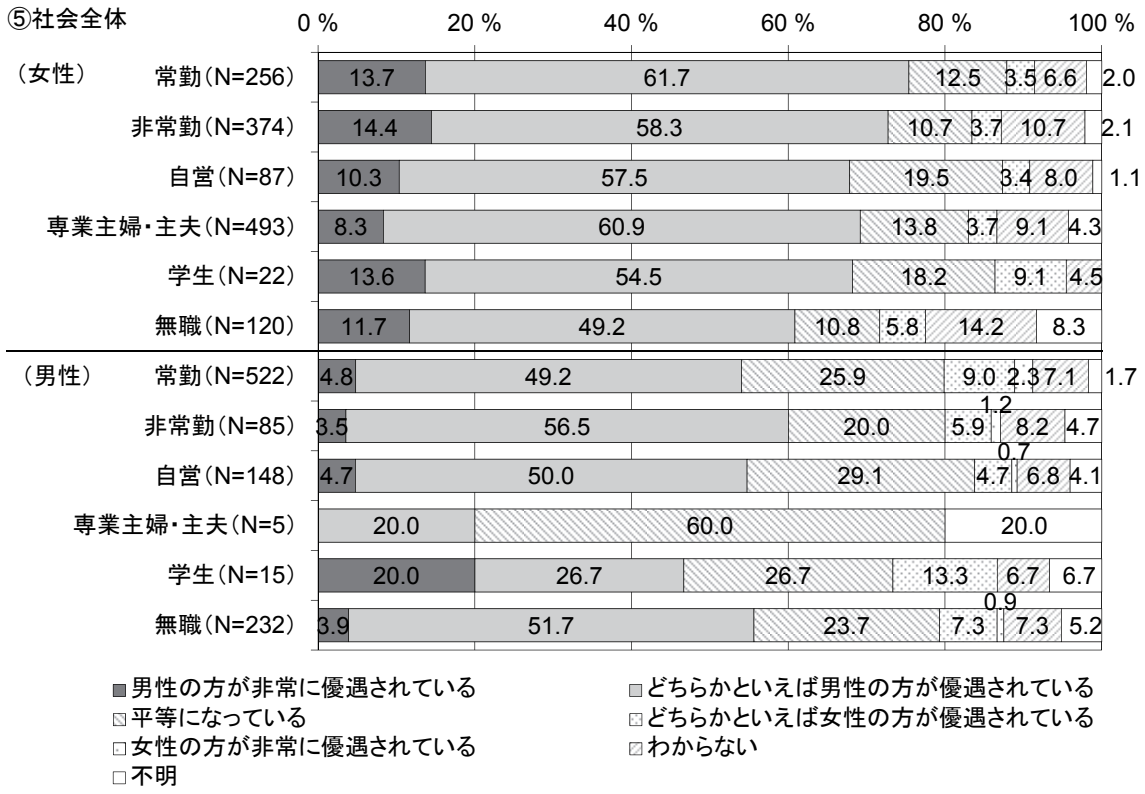


【性別×職業別】

● すべての職業で「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、女性常勤（75.4%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「平等になっている」は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、男性自営（29.1%）が最も高く、すべての職業で男性が比較的高くなっています。

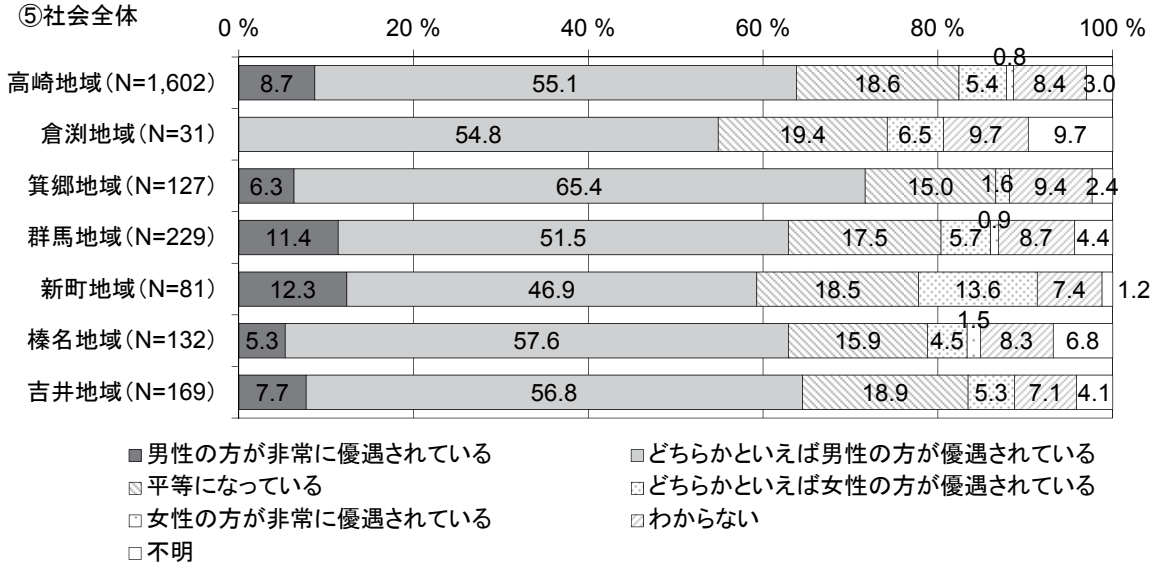


【地域別】

● 「男性が優遇」は箕郷地域が比較的高い

合算値「男性が優遇」は、箕郷地域（71.7%）が比較的高くなっています。

一方、「平等になっている」は、地域よる大きな差は見られません。

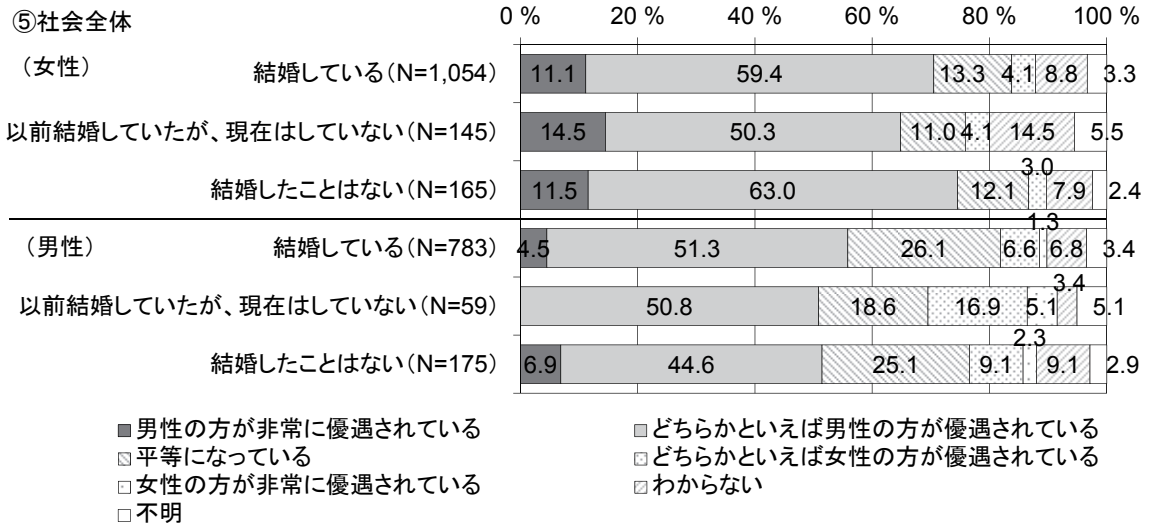


【性別×結婚経験別】

● 結婚経験にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

合算値「男性が優遇」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。

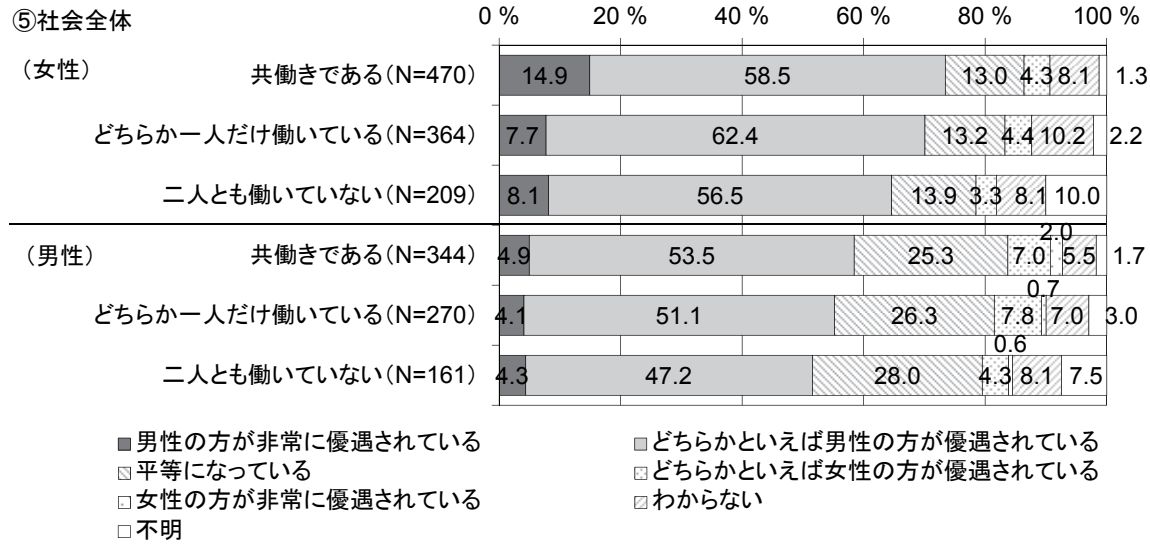
一方、「平等になっている」は男性「結婚している」（26.1%）や男性「結婚したことはない」（25.1%）が比較的高く、結婚経験にかかわらず男性が比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず「男性が優遇」は女性、「平等」は男性が高い

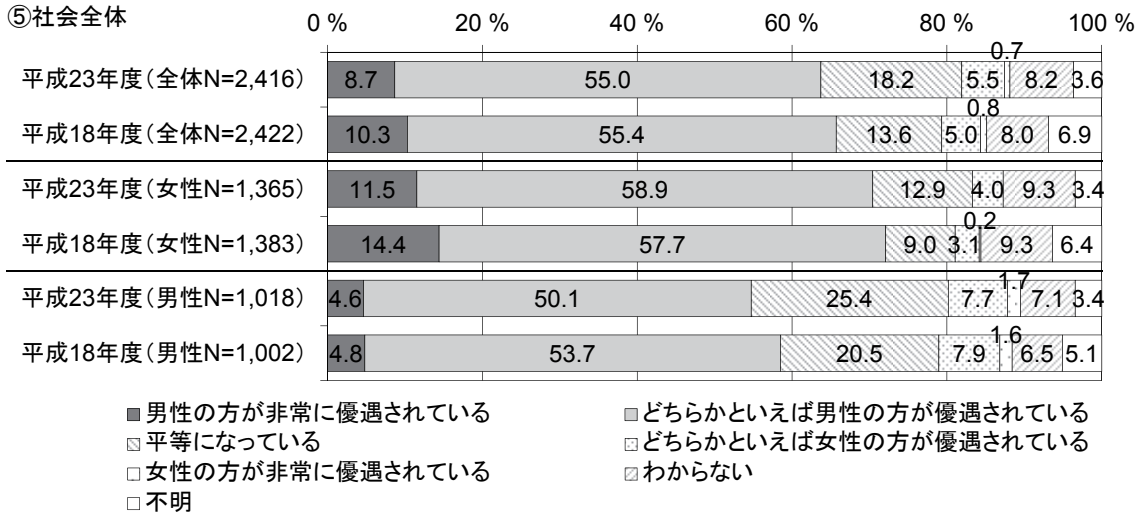
合算値「男性が優遇」は、働き方にかかわらず女性、「平等になっている」は、働き方にかかわらず男性が高くなっています。



【性別×経年変化】

● 男性は「平等」が若干増加

前回調査と比較すると、男女とも大きな変化は見られません。その中で、男性は「平等になっている」が若干増加しています。



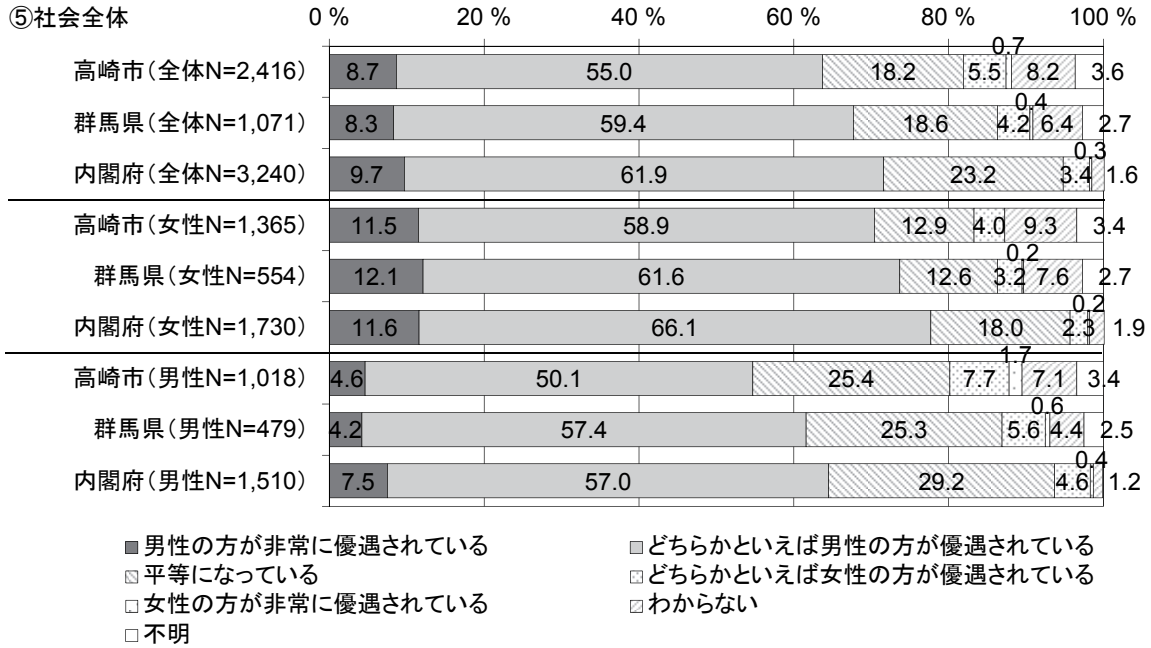
【性別×他調査との比較】

● 「男性が優遇」は男女とも群馬県や国より低い

● 「平等」は男女とも国より低く、群馬県と同程度

合算値「男性が優遇」は、男女とも群馬県や内閣府より低くなっています。

一方、「平等になっている」は、男女とも内閣府より低く、群馬県と同程度になっています。



2　結婚・家庭について

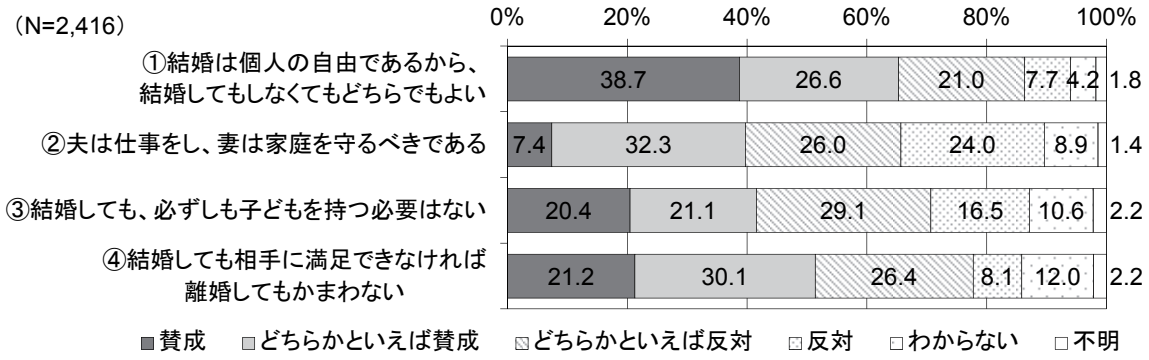
問２　結婚・家庭等について以下をどのように考えますか。

【全項目・全体】

- 「結婚は個人の自由」は「賛成」約７割
- 「夫は仕事・妻は家庭」「相手に満足できなければ離婚してもよい」は「賛成」約５割
- 「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」は「賛成」「反対」が同程度

「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は「賛成」（38.7%）、「②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」は「どちらかというと賛成」（32.3%）、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は「どちらかといえば反対」（29.1%）、「④結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない」は「どちらかといえば賛成」（30.1%）がそれぞれ最も高くなっています。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合算値「賛成」と、「反対」と「どちらかといえば反対」の合算値「反対」について、どちらが上回っているかを見ると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は合算値「賛成」（65.3%）が約７割、「②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」は合算値「反対」（50.0%）が約５割、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は合算値「賛成」（41.5%）と合算値「反対」（45.6%）が同程度、「④結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない」は合算値「賛成」（51.3%）が約５割で、それぞれ上回っています。



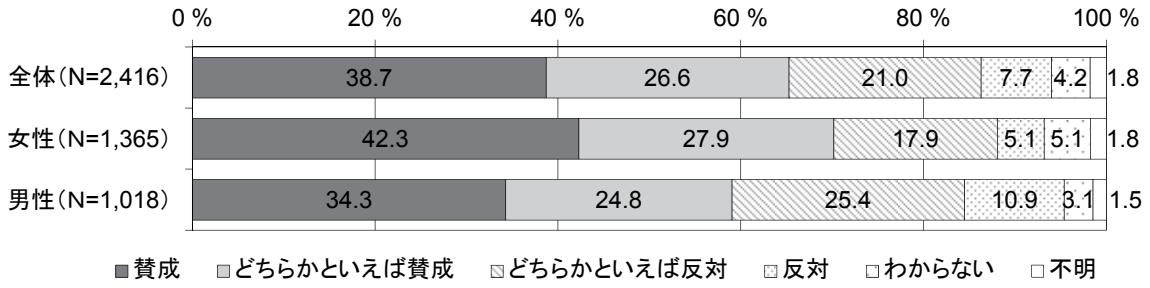
①結婚について（「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」）

【全体・性別】

● 「賛成」は女性が約 7 割、男性が約 6 割

男女とも「賛成」（女性 42.3%、男性 34.3%）が最も高くなっています。
合算値「賛成」は、女性 70.2%、男性 59.1%となっています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



【性別×年代別】

● すべての年代で「賛成」は女性が高い

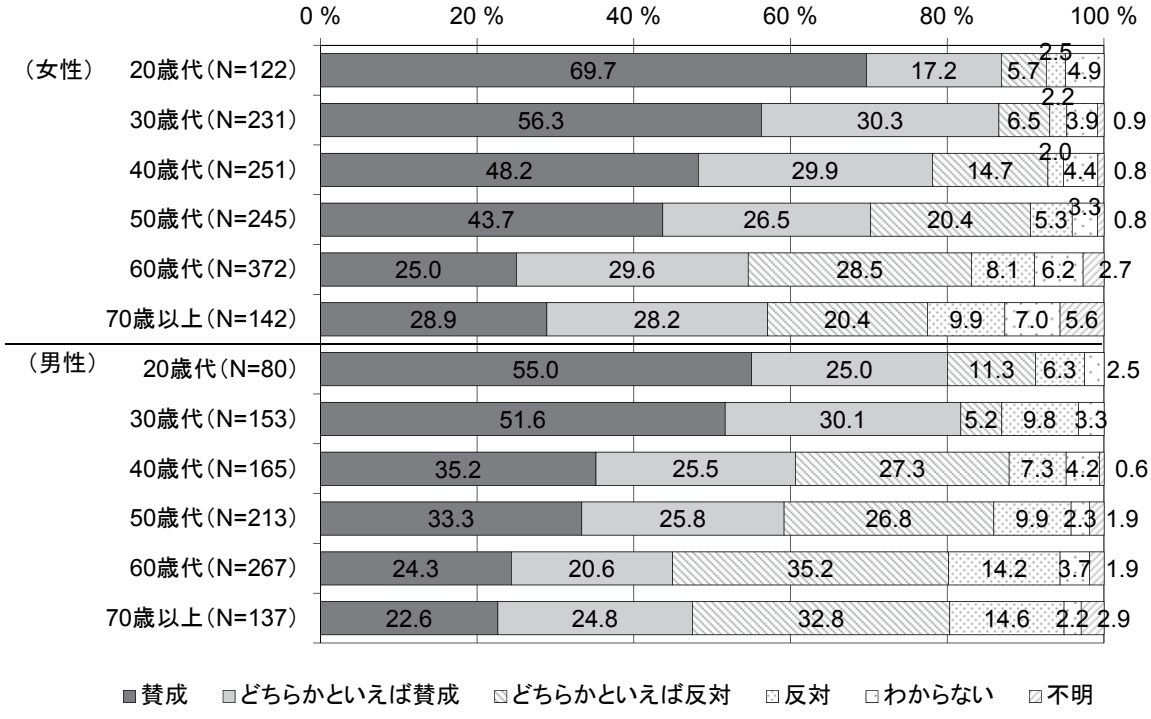
● 男女とも若い年代ほど「賛成」が高く、20・30 歳代は男女とも 8 割以上

● 男性 60 歳代は「反対」が「賛成」を上回り、男性 70 歳以上は「賛成」「反対」が同値

合算値「賛成」は、男女とも 20～30 歳代で 8 割以上と高く、男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性 60 歳代（49.4%）や男性 70 歳以上（47.4%）が高く、男性 60 歳代は合算値「賛成」（44.9%）を上回り、男性 70 歳以上は「賛成」（47.4%）と同値となっています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



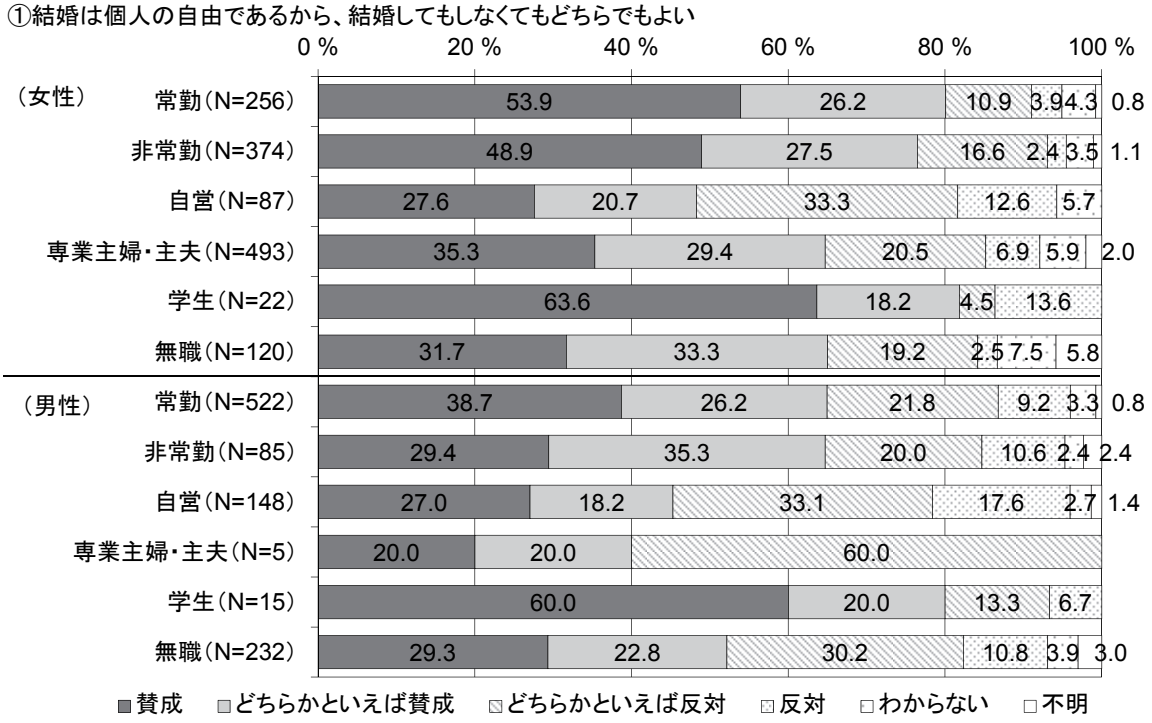
【性別×職業別】

● すべての職業で「賛成」は女性が高い

● 女性自営は「賛成」「反対」が同程度、男性自営は「反対」が「賛成」を上回る

合算値「賛成」は、女性常勤・非常勤・学生（それぞれ 80.1%、76.4%、81.8%）、男性学生（80.0%）が特に高くなっています。また、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、合算値「反対」は、女性自営（45.9%）や男性自営（50.7%）が特に高く、女性自営は合算値「賛成」（48.3%）と同程度、男性自営は合算値「賛成」（45.2%）を上回っています。

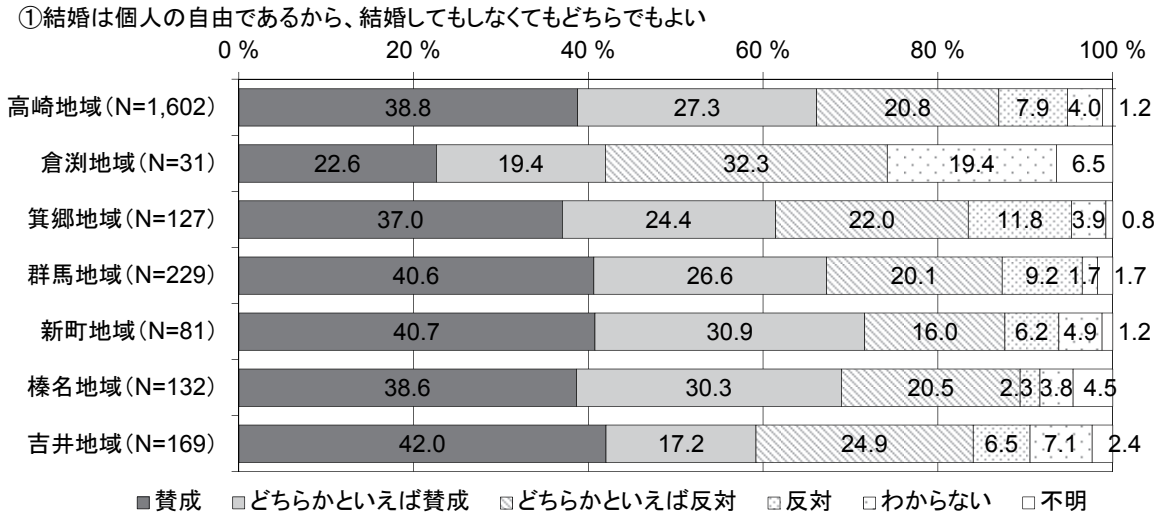


【地域別】

● すべての地域で「賛成」が「反対」を上回る

● 倉渕地域は「賛成」が低い

合算値「賛成」は、すべての地域で合算値「反対」より高くなっていますが、倉渕地域は、合算値「賛成」（42.0%）が比較的低くなっています。



【性別×結婚経験別】

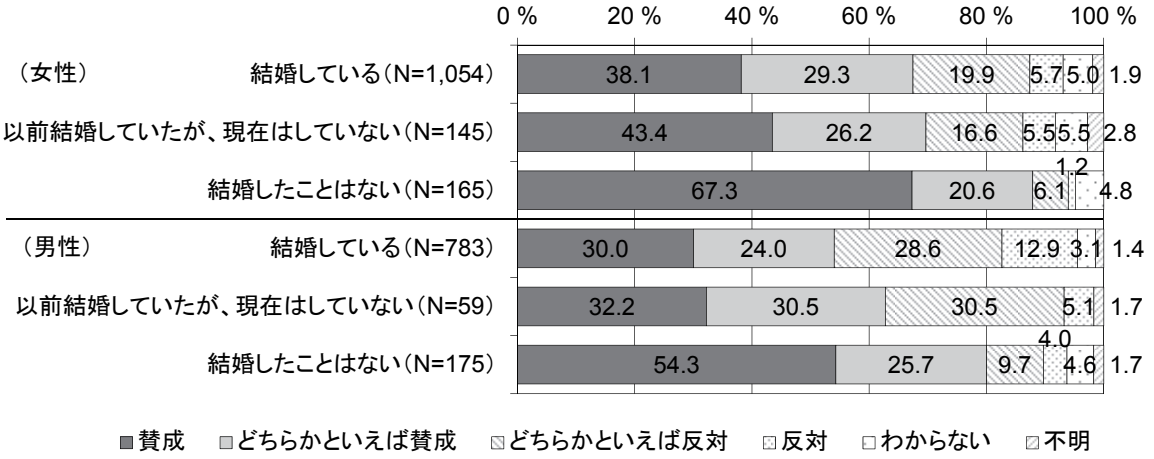
● 男女とも結婚経験にかかわらず「賛成」が「反対」を上回り、「賛成」は女性が比較的高い

● 「賛成」は男女とも「結婚したことはない」が特に高い

合算値「賛成」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」（女性 87.9%、男性 80.0%）が特に高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「結婚している」（41.5%）が最も高くなっていますが、男女とも結婚経験にかかわらず「賛成」が「反対」を上回っています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



【性別×働き方別】

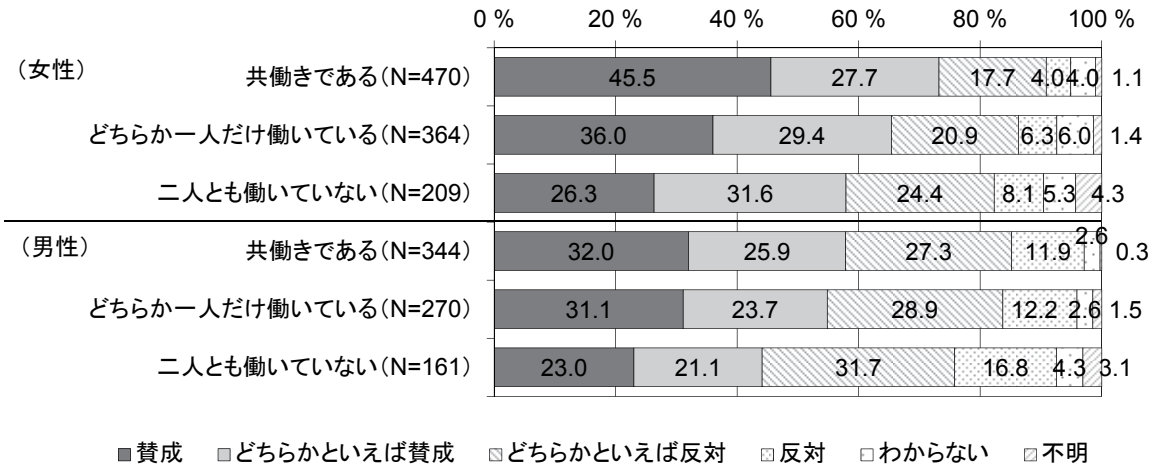
● 働き方にかかわらず「賛成」は女性が比較的高い

● 男性「二人とも働いていない」は「反対」が「賛成」を上回る

合算値「賛成」は、女性「共働きである」（73.2%）が最も高く、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「二人とも働いていない」（48.5%）が最も高く、合算値「賛成」（44.1%）を上回っています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



【性別×他調査との比較】

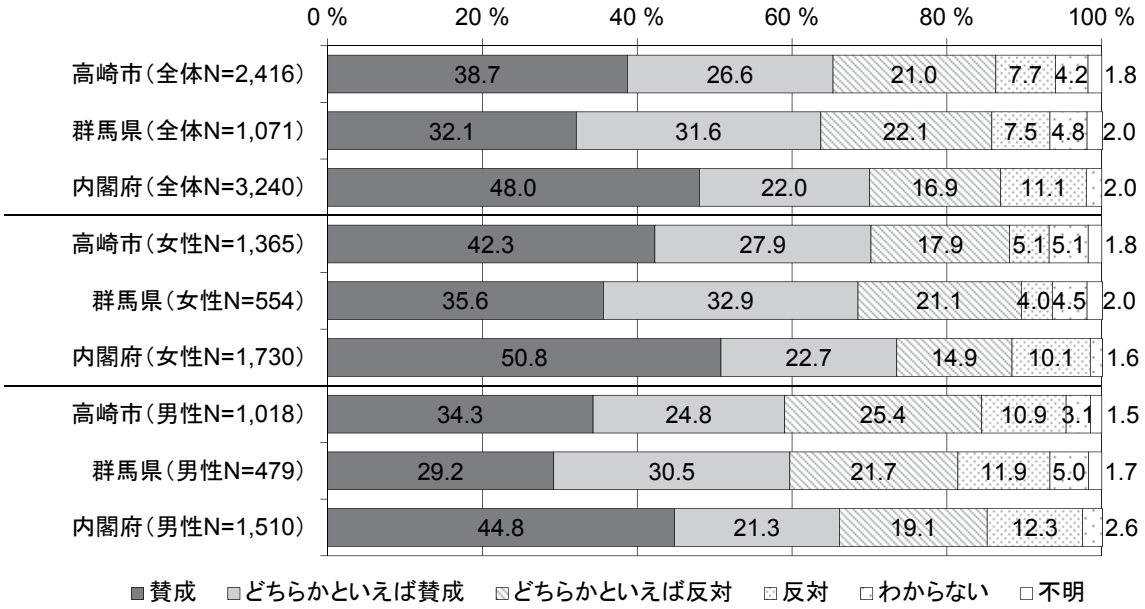
● 「賛成」は男女とも国より低く、群馬県と同程度

● 「反対」は国より男性は高く、女性は同程度

合算値「賛成」は、男女とも内閣府より低く、群馬県と同程度になっています。

一方、合算値「反対」は、女性（23.0%）は群馬県や内閣府と同程度、男性（36.3%）は内閣府より高く、群馬県と同程度になっています。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



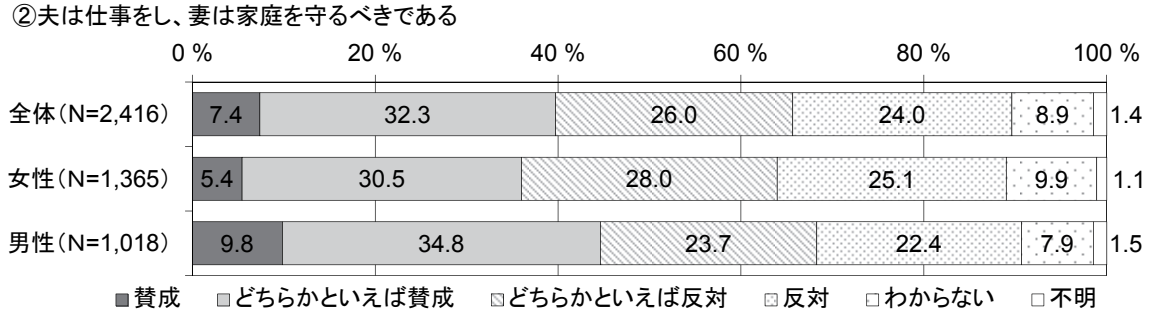
②夫婦の固定的な役割分担について（「夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」）

【全体・性別】

● 男女とも「どちらかといえば賛成」が最も高いが、合算値は「反対」が「賛成」を上回る

男女とも「どちらかといえば賛成」（女性 30.5%、男性 34.8%）が最も高くなっています。しかし、「どちらかといえば反対」や「反対」も比較的高くなっています。

合算値「反対」は、女性 53.1%、男性 46.1%となっており、男女とも合算値「賛成」（女性 35.9%、男性 44.6%）を上回っています。



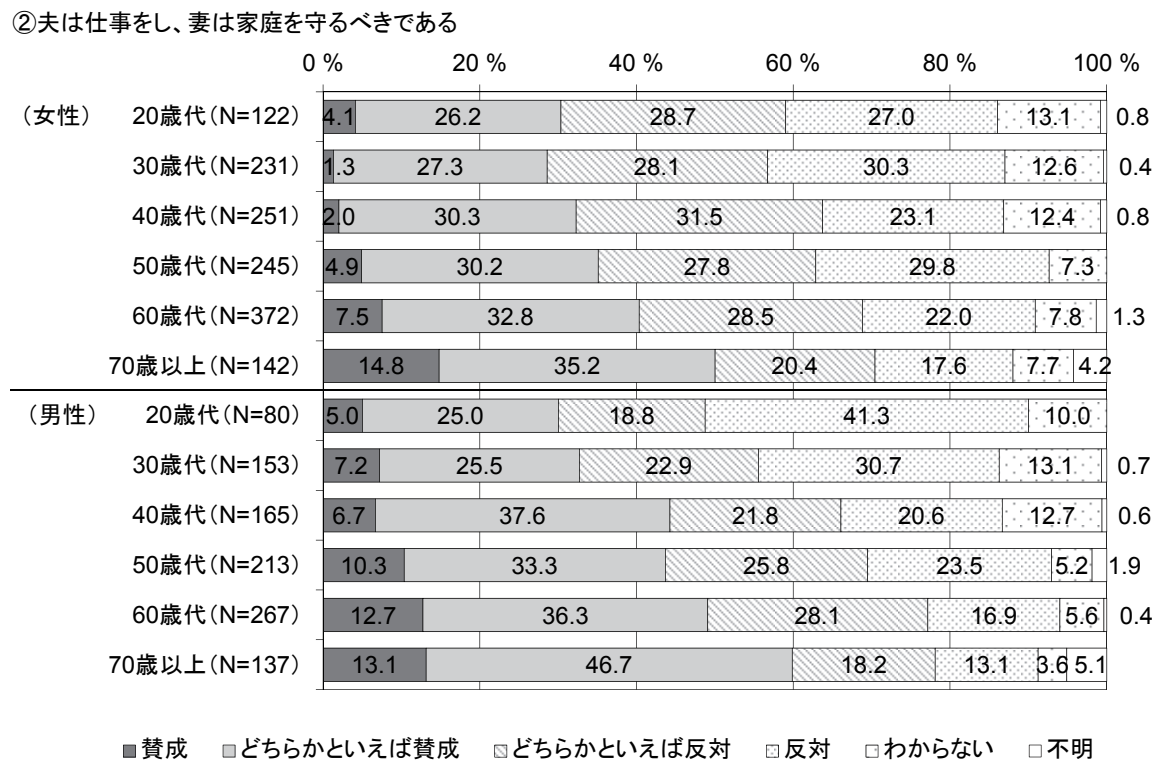
【性別×年代別】

● 女性は 70 歳以上を除き「反対」が「賛成」を上回る

● 男性は若い年代ほど「賛成」が低く、40・60・70 歳以上は「賛成」が「反対」を上回る

合算値「賛成」は、男性 70 歳以上（59.8%）が特に高く、男女とも高い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

一方、合算値「反対」は、男性 20 歳代（60.1%）、女性 30・50 歳代（それぞれ 58.4%、57.6%）などが比較的高く、女性 70 歳以上、男性 40 歳代、男性 60 歳代以上を除くすべての年代で合算値「賛成」を上回っています。



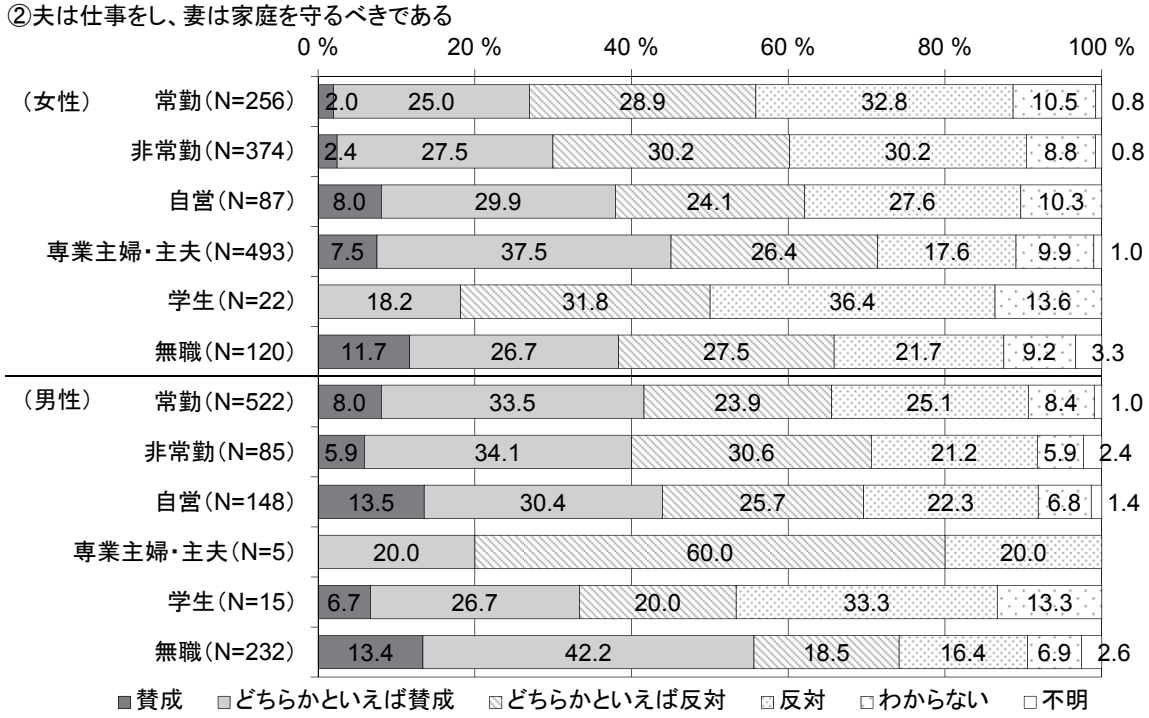
【性別×職業別】

● 女性専業主婦・男性無職を除き「反対」が「賛成」を上回る

● すべての職業で「反対」は女性が高い

合算値「賛成」は、男性無職（55.6%）が特に高くなっています。

一方、合算値「反対」は、女性常勤・非常勤・学生（それぞれ61.7%、60.7%、68.2%）などが比較的高く、女性専業主婦、男性無職を除き、男女ともすべての職業で合算値「賛成」を上回っています。また、すべての職業で女性が高くなっています。女性専業主婦は、合算値「賛成」（45.0%）と合算値「反対」（44.0%）が同程度になっています。

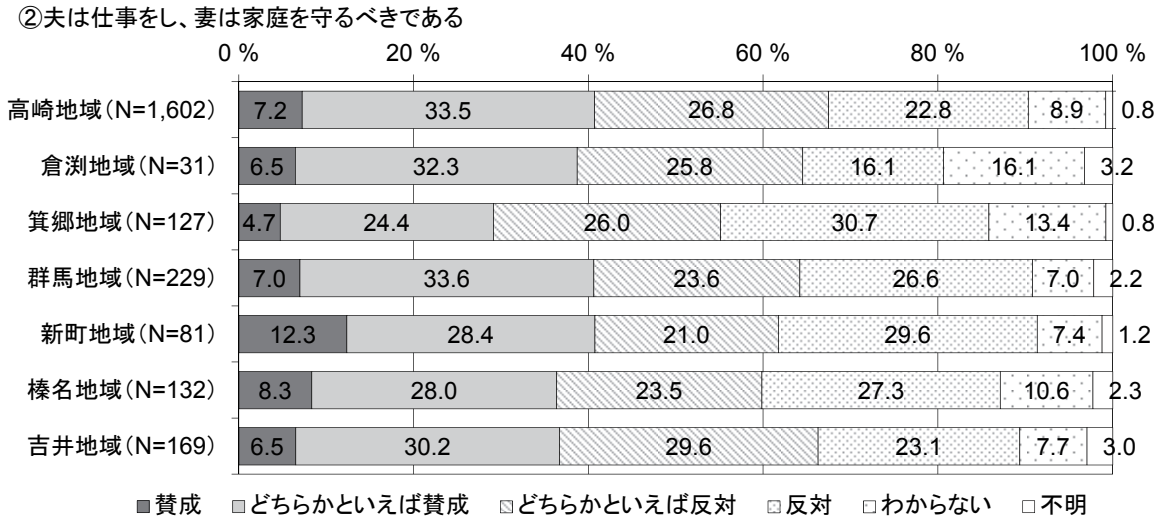


【地域別】

● すべての地域で「反対」が「賛成」を上回る

合算値「賛成」は箕郷地域（29.1%）を除くすべての地域で約4割となっています。

一方、合算値「反対」は、箕郷地域（56.7%）が最も高く、すべての地域で合算値「賛成」を上回っています。



【性別×結婚経験別】

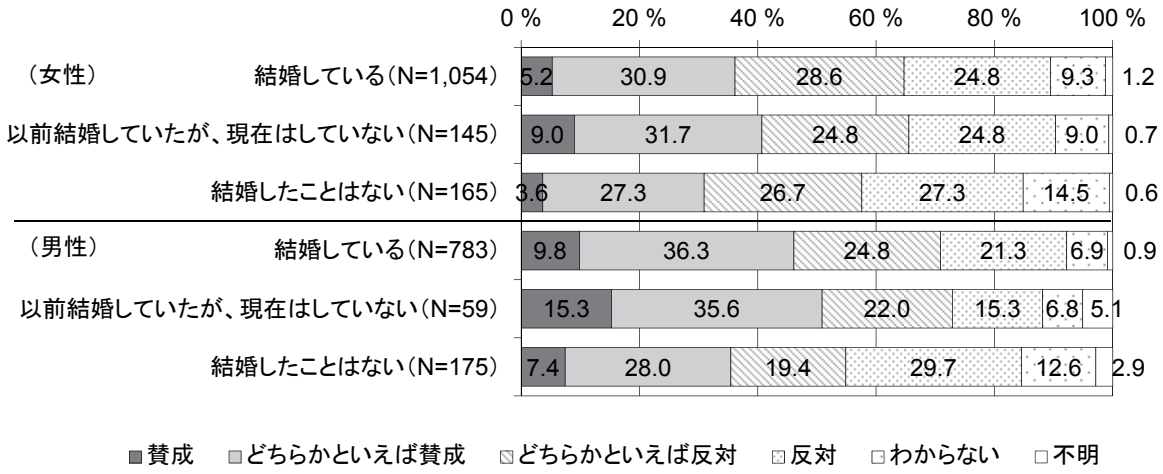
● 男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「賛成」、それ以外は「反対」が上回る

● 結婚経験にかかわらず「反対」は女性が高い

合算値「賛成」は、男性「以前結婚していたが、現在はしていない」（50.9%）が比較的高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」を除いていずれも合算値「賛成」を上回っています。また、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。男性「結婚している」は、合算値「賛成」（46.1%）と合算値「反対」（46.1%）が同値になっています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



【性別×働き方別】

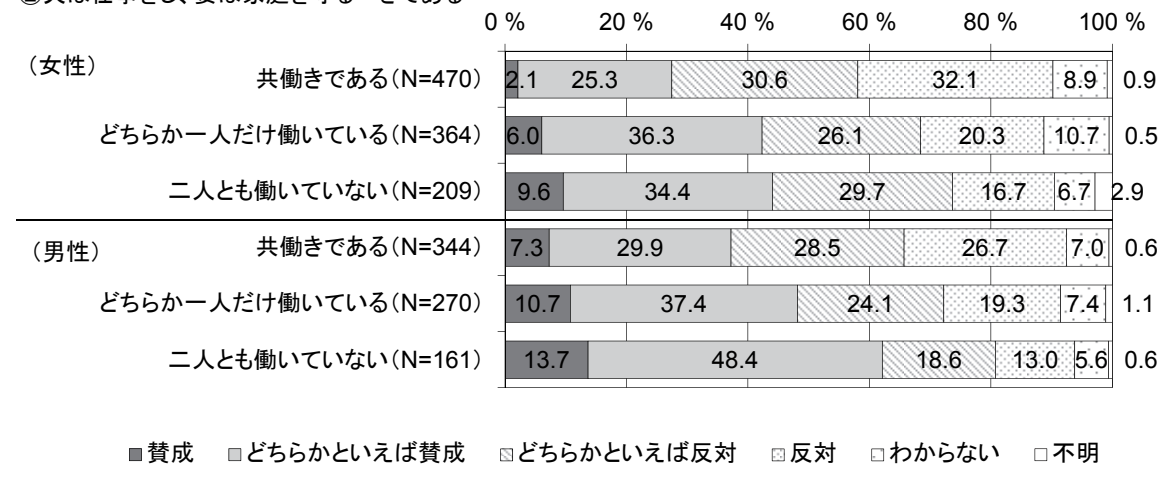
● 男性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」は「賛成」、それ以外は「反対」が上回る

● 働き方にかかわらず「反対」は女性が比較的高く、女性「共働き」は「反対」が特に高い

合算値「賛成」は、男性「二人とも働いていない」（62.1%）が特に高くなっています。

一方、合算値「反対」は、女性「共働きである」（62.7%）が特に高く、男性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」を除いて合算値「賛成」を上回っています。また、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである

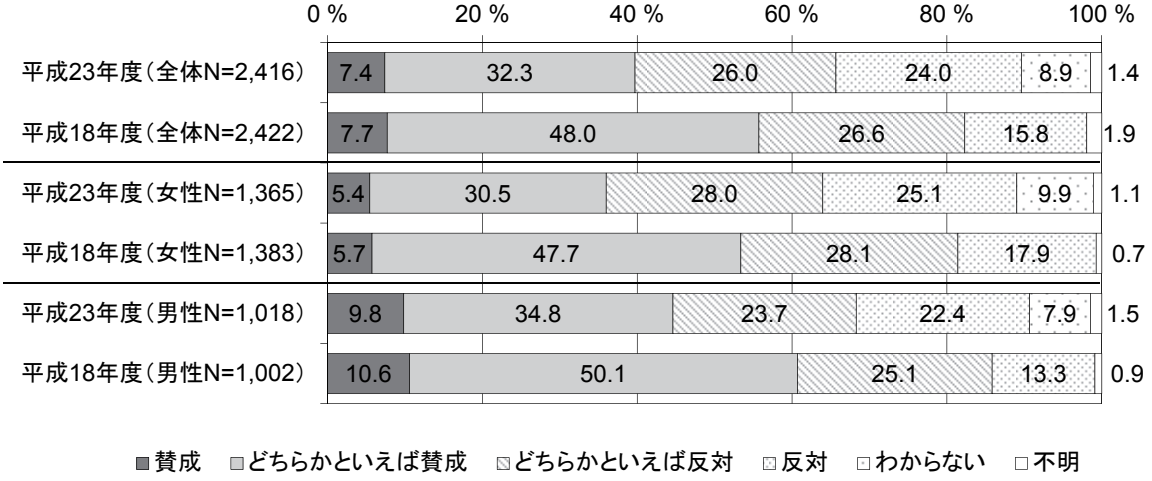


【性別×経年変化】

● 男女とも「反対」が増加

前回調査とは、表現等が若干異なることを考慮する必要がありますが、男女とも前回は合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。しかし、本調査では男女とも合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



※「平成 18 年度」は「同感する」「ある程度同感する」「あまり同感しない」「同感しない」の 4 選択肢で設定

【性別×他調査との比較】

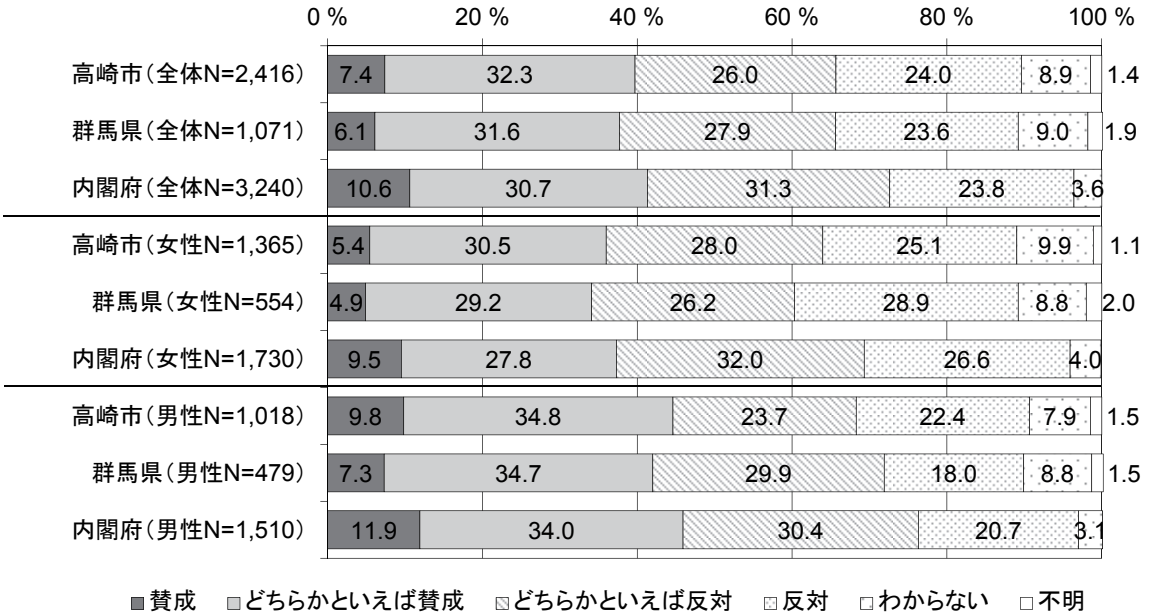
● 「賛成」は男女とも群馬県や国と同程度

● 「反対」は男女とも国より若干低く、群馬県と同程度

合算値「賛成」は、男女とも群馬県や内閣府と同程度になっています。

一方、合算値「反対」は、男女とも内閣府より若干低く、群馬県と同程度になっています。

②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである



③結婚と子どもを持つことについて（「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」）

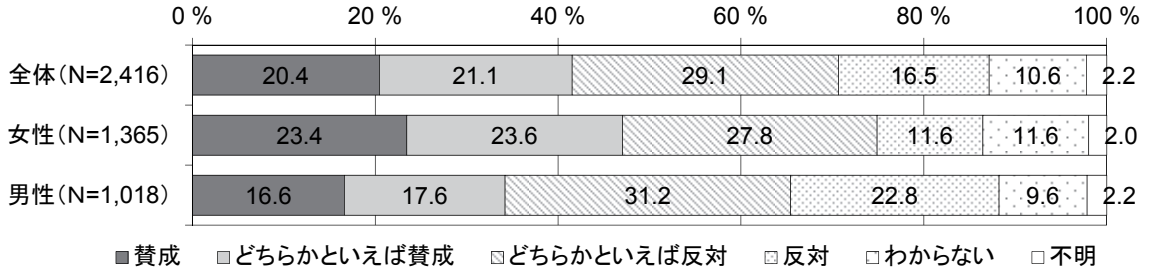
【全体・性別】

● 女性は「賛成」、男性は「反対」が高い

男女とも「どちらかといえば反対」（女性 27.8%、男性 31.2%）が最も高くなっていますが、女性は「賛成」(23.4%) や「どちらかといえば賛成」(23.6%)、男性は「反対」(22.8%) も比較的高くなっています。

女性は合算値「賛成」（47.0%）が合算値「反対」（39.4%）を上回っています。男性は合算値「反対」（54.0%）が合算値「賛成」（34.2%）を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【性別×年代別】

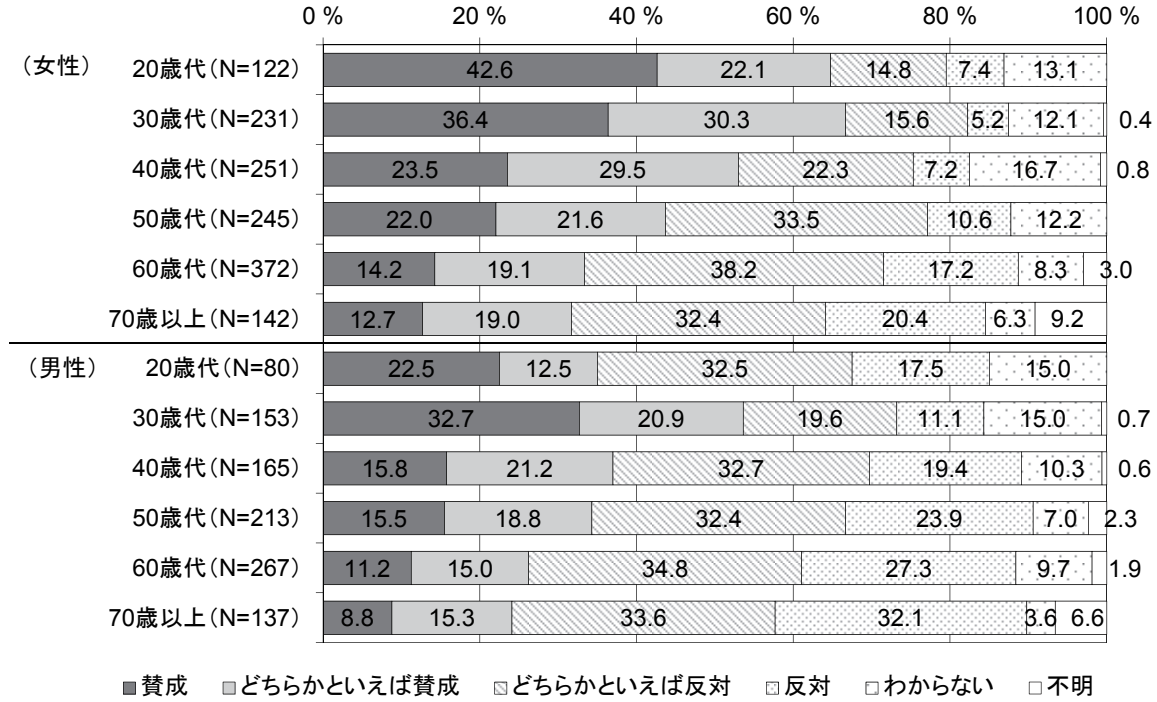
● すべての年代で「賛成」は女性が高く、男女とも 30 歳代が特に高い

● 女性 40 歳代以下・男性 30 歳代は「賛成」、女性 50 歳代以上、男性 20 歳代、40 歳代以上は「反対」が高い

合算値「賛成」は、男女とも 30 歳代（女性 66.7%、男性 53.6%）が最も高く、男性は 30 歳代の値が突出しています。男性 20 歳代を除いて男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性 60 歳代（62.1%）や男性 70 歳以上（65.7%）が特に高く、女性は 50 歳以上、男性は 30 歳代を除くすべての年代で合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【性別×職業別】

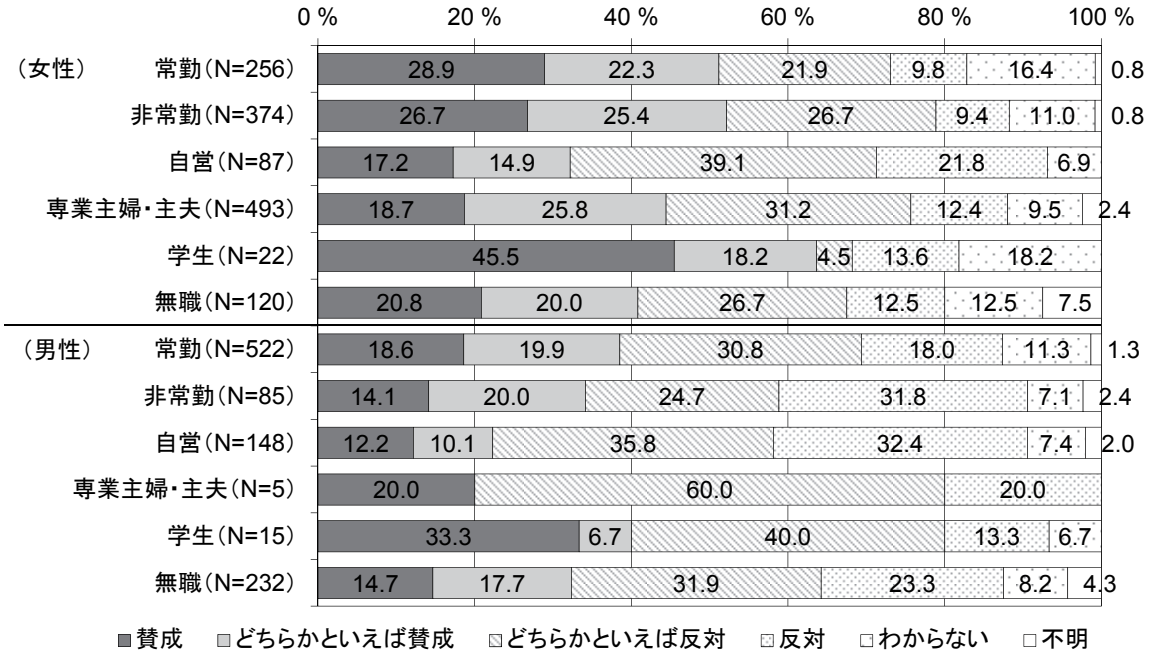
● 女性は自営を除き「賛成」が「反対」を上回る

● 男性はすべての職業で「反対」が「賛成」を上回る

女性は、自営を除くすべての職業で合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。女性自営は「反対」（60.9%）が高くなっています。また、女性専業主婦は「賛成」（44.5%）と「反対」（43.6%）が同程度となっています。

一方、男性は、すべての職業で合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【地域別】

● 高崎・新町地域は「賛成」「反対」が同程度

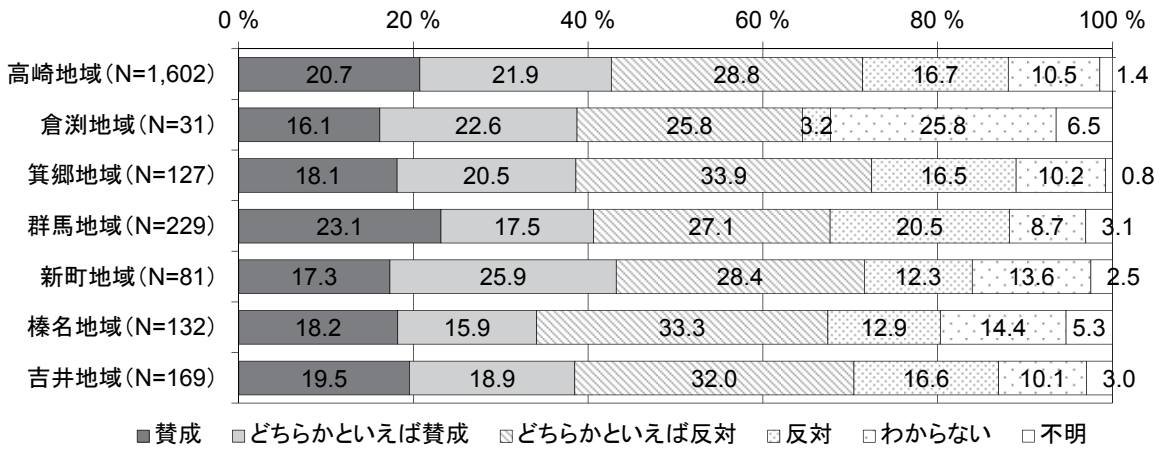
● 倉渕地域は「賛成」、箕郷・群馬・榛名・吉井地域は「反対」が比較的高い

高崎・新町地域は、合算値「賛成」（それぞれ 42.6%、43.2%）と合算値「反対」（それぞれ 45.5%、40.7%）が同程度になっています。

倉渕地域は、合算値「賛成」（38.7%）が合算値「反対」（29.0%）を上回っており、「わからない」（25.8%）も高くなっています。

箕郷・群馬・榛名・吉井地域は「反対」が「賛成」を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【性別×結婚経験別】

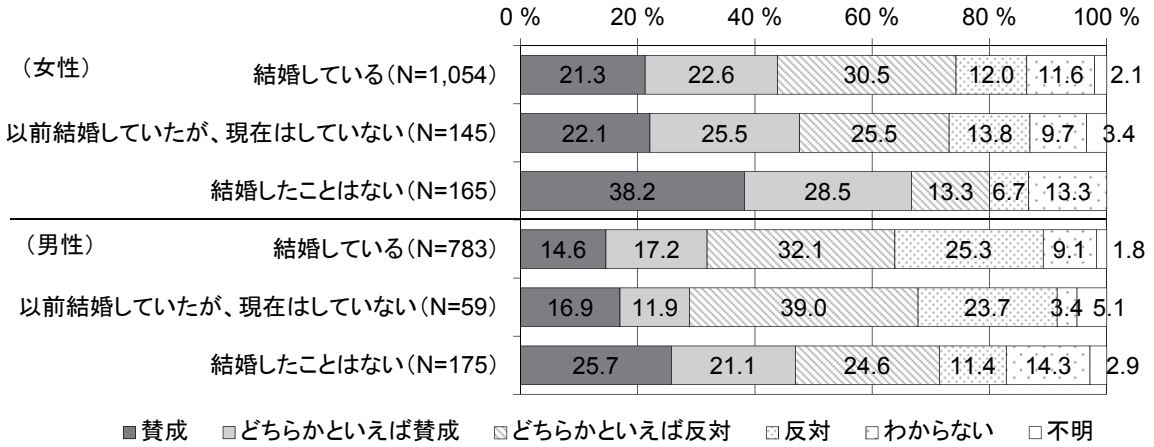
● 男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「反対」、それ以外は「賛成」が上回る

● 結婚経験にかかわらず「賛成」は女性が高い

合算値「賛成」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」（女性 66.7%、男性 46.8%）が特に高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「結婚している」（57.4%）や男性「以前結婚していたが、」現在はしていない」（62.7%）が特に高く、これらを除いていずれも合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。女性「結婚している」は合算値「賛成」「反対」（それぞれ 43.9%、42.5%）が同程度となっています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【性別×働き方別】

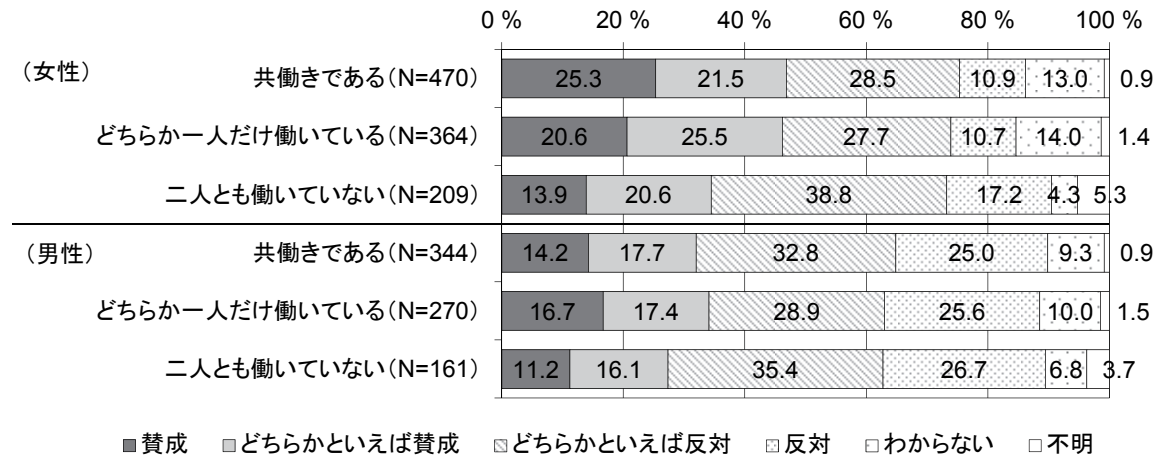
● 女性「共働き」「どちらか一人だけ働いている」は「賛成」、それ以外は「反対」が上回る

● 働き方にかかわらず「賛成」は女性が比較的高い

合算値「賛成」は、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性「二人とも働いていない」（62.1%）が最も高く、女性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」を除いて合算値「賛成」を上回っています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【性別×他調査との比較】

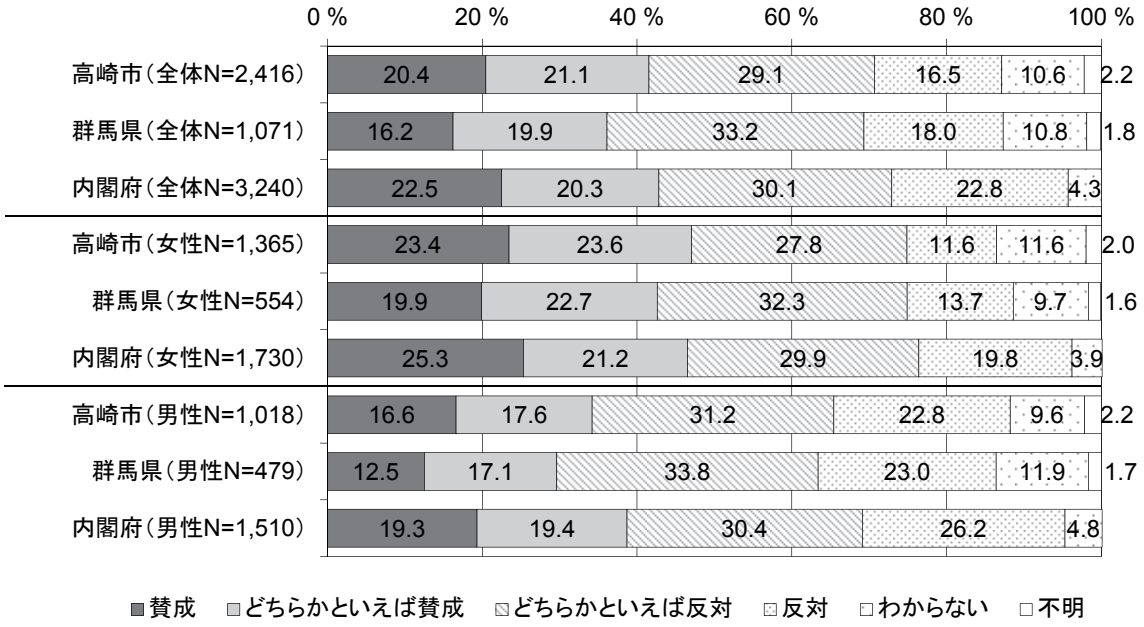
● 「賛成」は男女とも群馬県や国と同程度

● 「反対」は群馬県や国より女性は若干低く、男性は同程度

合算値「賛成」は、男女とも群馬県より若干高く、内閣府と同程度になっています。

一方、合算値「反対」は、女性は群馬県や内閣府より若干低く、男性は群馬県や内閣府と同程度になっています。

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



④離婚について（「結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない」）

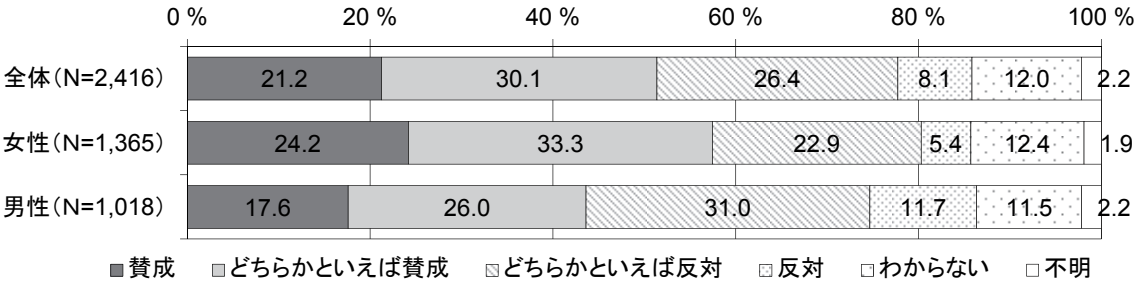
【全体・性別】

● 女性は「賛成」が約 6 割、男性は「賛成」「反対」が同程度

女性は「どちらかといえば賛成」（33.3%）、男性は「どちらかといえば反対」（31.0%）が最も高くなっています。

女性は、合算値「賛成」（57.5%）が高く、約 6 割となっています。男性は、合算値「賛成」（43.6%）と合算値「反対」（42.7%）が同程度になっています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



【性別×年代別】

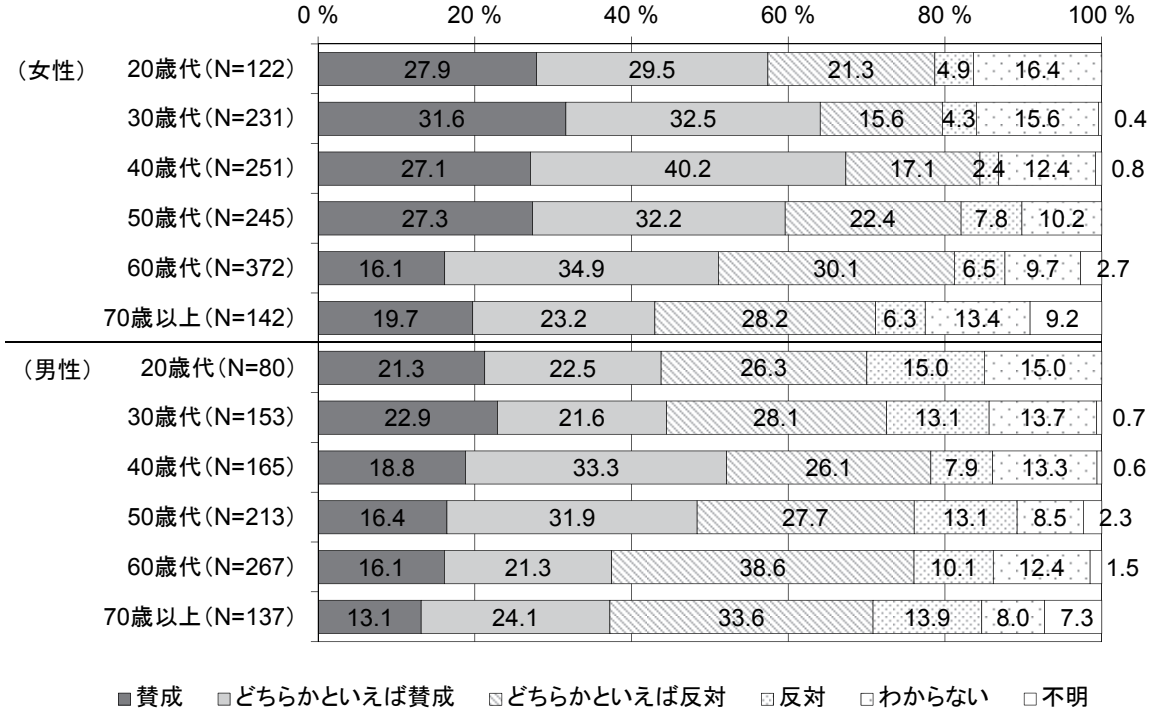
● すべての年代で「賛成」は女性が高く、男女とも 40 歳代が比較的高い

● 男性 60 歳代以上は「反対」が「賛成」を上回る

合算値「賛成」は、男女とも 40 歳代（女性 67.3%、男性 52.1%）が比較的高く、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、合算値「反対」は、男性 60 歳代（48.7%）や男性 70 歳以上（47.5%）が比較的高く、いずれも合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



【性別×職業別】

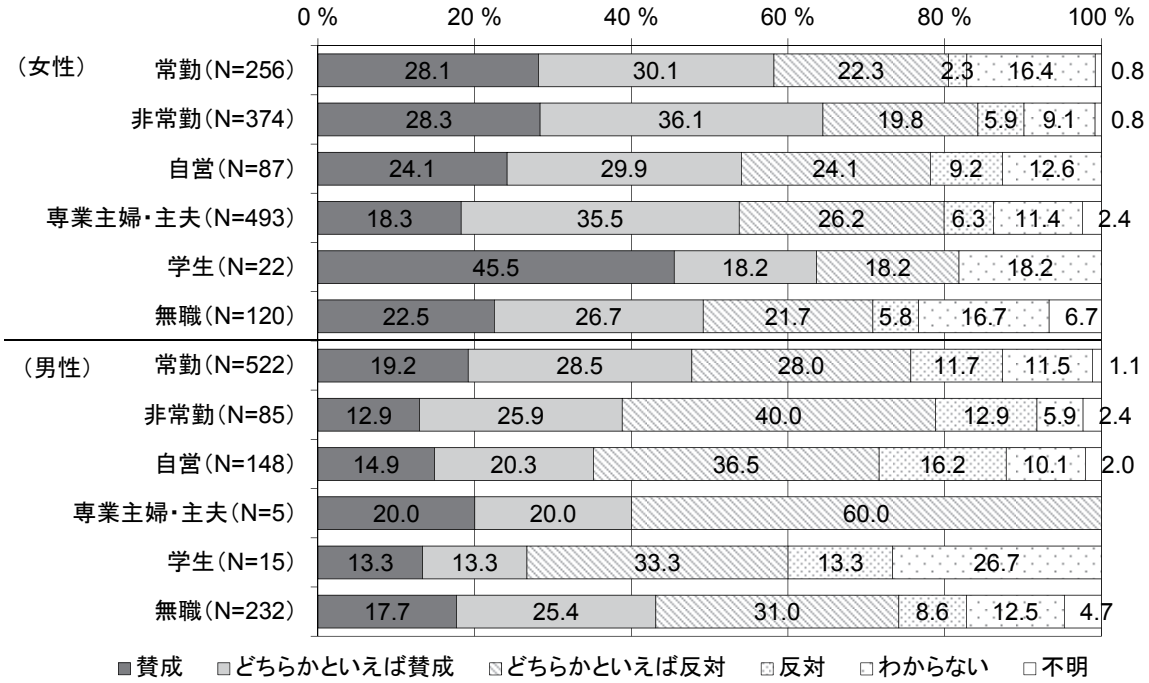
● 女性はすべての職業で「賛成」が「反対」を上回る

● 男性は常勤・無職を除き「反対」が「賛成」を上回る

女性は、すべての職業で合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。

一方、男性は、常勤・無職を除くすべての職業で合算値「反対」が合算値「賛成」を上回っています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



【地域別】

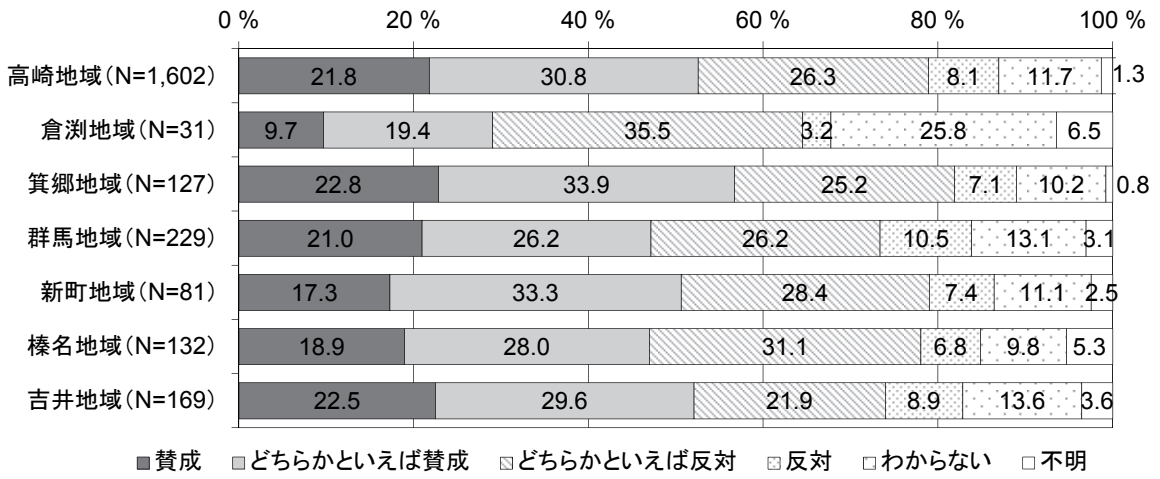
● 倉渕地域を除くすべての地域で「賛成」が「反対」を上回る

● 倉渕地域は「反対」や「わからない」が比較的高い

合算値「賛成」は、倉渕地域を除くすべての地域で合算値「反対」を上回っています。

倉渕地域は、合算値「反対」（38.7%）が合算値「賛成」（29.0%）を上回っており、「わからない」（25.8%）も高くなっています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



【性別×結婚経験別】

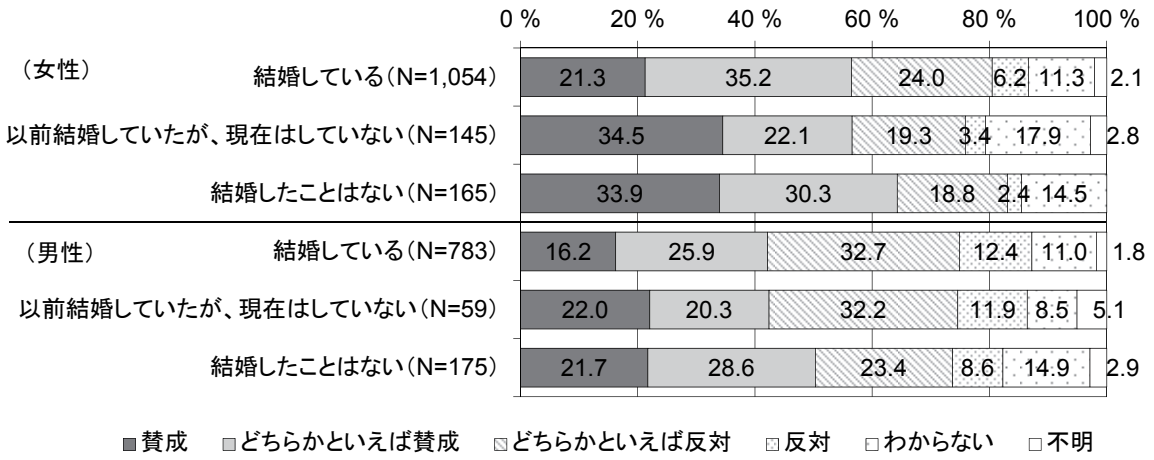
● 男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「賛成」と「反対」が同程度、それ以外は「賛成」が上回る

● 「賛成」は男女とも「結婚したことはない」が比較的高い

合算値「賛成」は、結婚経験にかかわらず女性が比較的高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」（女性 64.2%、男性 50.3%）が比較的高くなっています。女性は、結婚経験にかかわらず合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。

一方、男性は、「結婚したことはない」は合算値「賛成」（50.3%）が合算値「反対」（32.0%）を上回っていますが、「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は合算値「賛成」と合算値「反対」が同程度になっています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



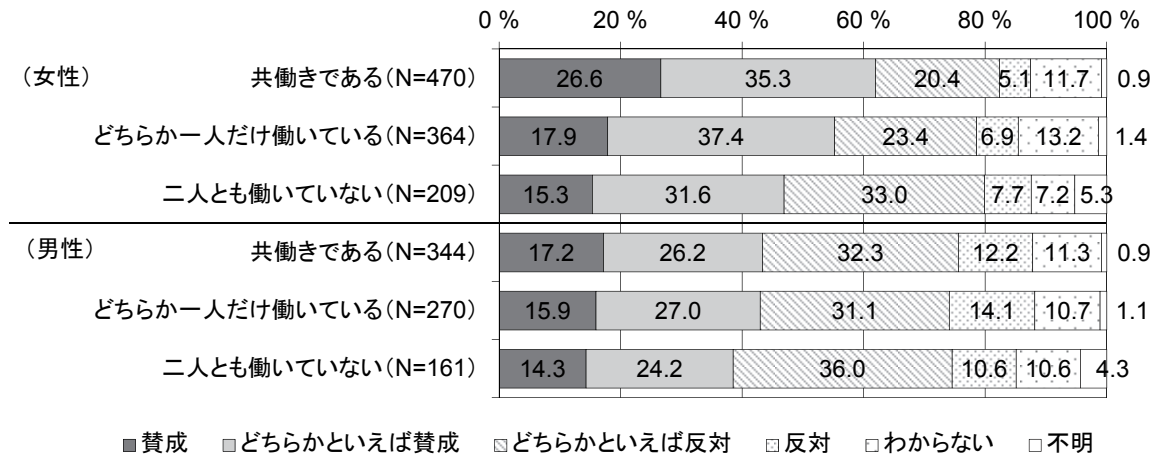
【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず「賛成」は女性、「反対」は男性が比較的高い

女性は、働き方にかかわらず合算値「賛成」が合算値「反対」を上回っています。また、合算値「賛成」は、働き方にかかわらず女性が比較的高くなっています。

一方、男性は、「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」は合算値「賛成」と合算値「反対」が同程度、「二人とも働いていない」は合算値「反対」（46.6%）が合算値「賛成」（38.5%）を上回っています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



【性別×他調査との比較】

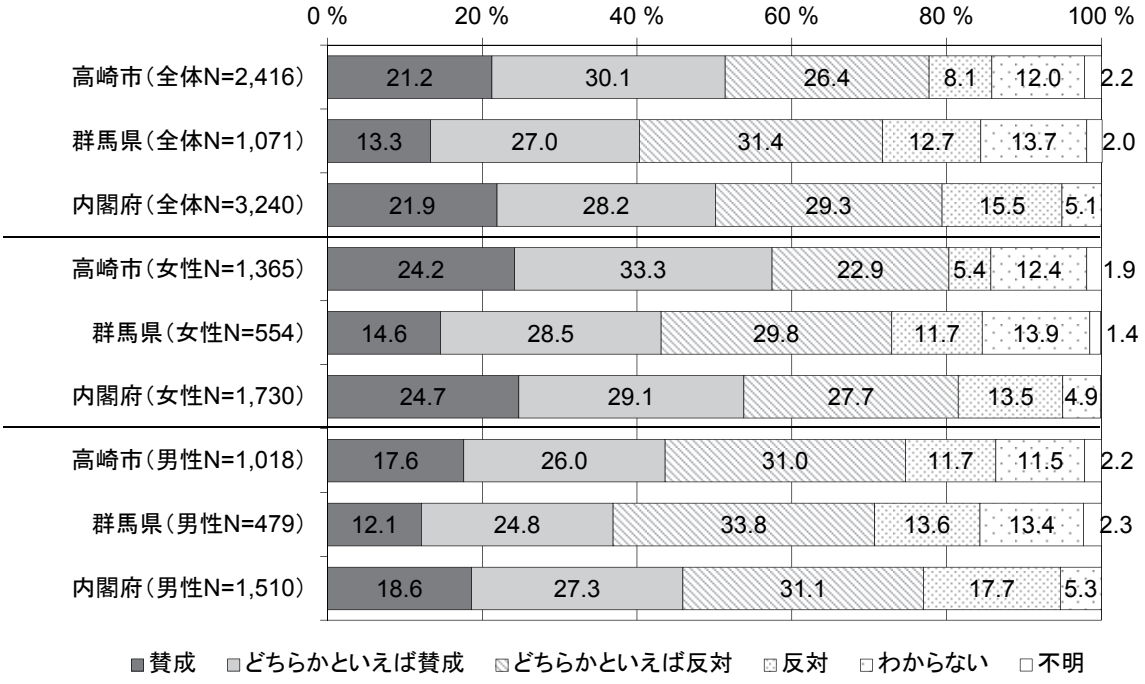
● 「賛成」は男女とも群馬県より高く、国と同程度

● 「反対」は男女とも群馬県や国より低く、特に女性が低い

合算値「賛成」は、男女とも群馬県より高く、内閣府と同程度になっています。

一方、合算値「反対」は、男女とも群馬県や内閣府より低く、特に女性（28.3%）が低くなっています。

④結婚しても相手に満足ができなければ離婚してもかまわない



3　生活の中での優先度

問３	生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度についてうかがいます。①希望（理想）、②現実（現状）それぞれについて優先したいものはどれですか。（複数回答可）

【全体・性別】

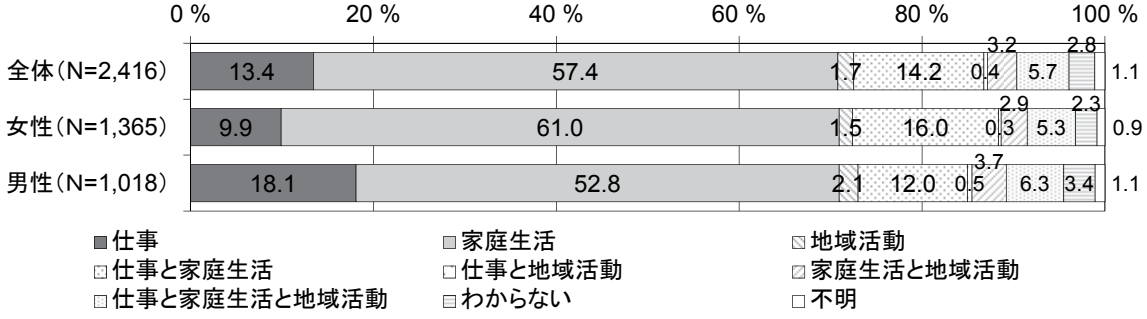
● 希望では、男女とも「家庭生活」が最も高い

● 現実では、女性は「家庭生活」、男性は「仕事」が最も高い

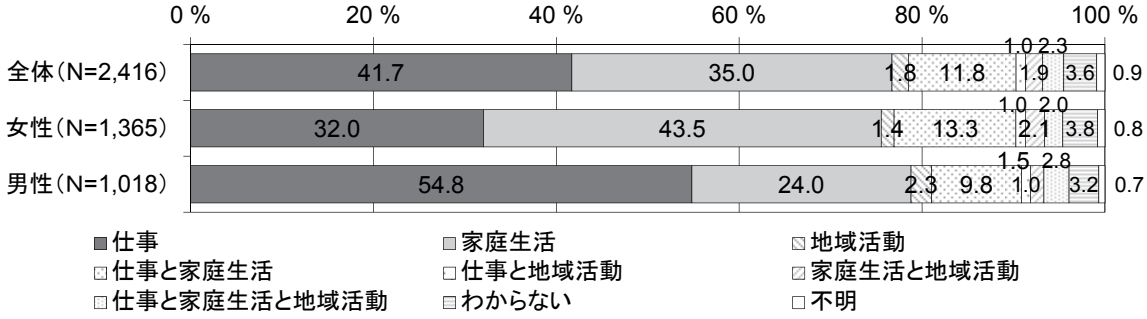
①希望（優先したい）は、男女とも「家庭生活」（女性 61.0%、男性 52.8%）が最も高く、次いで女性は「仕事と家庭生活」（16.0%）、男性は「仕事」（18.1%）となっています。

②現実（優先している）は、女性は「家庭生活」（43.5%）、男性は「仕事」（54.8%）が最も高く、次いで女性は「仕事」（32.0%）、男性は「家庭生活」（24.0%）となっています。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



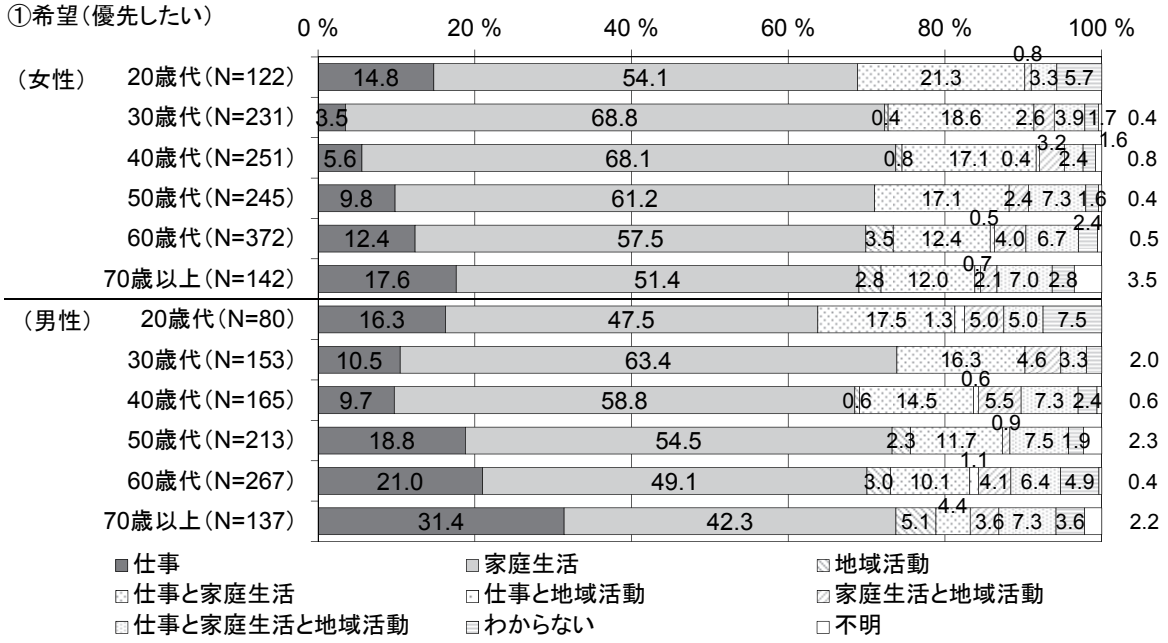
【性別×年代別】

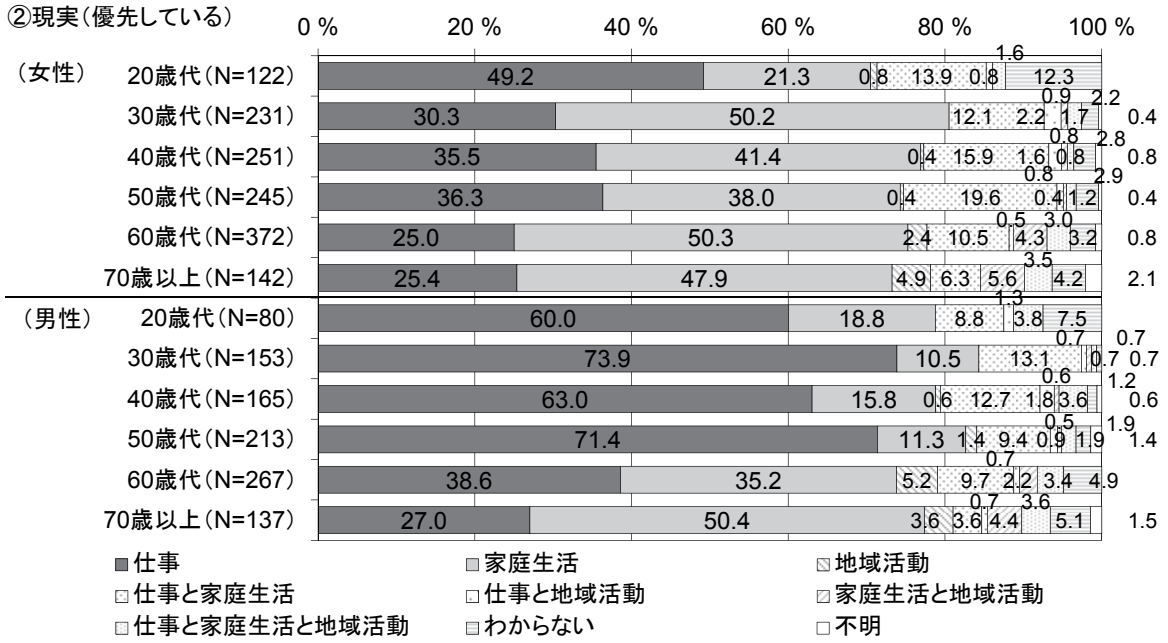
● 希望では、男女ともすべての年代で「家庭生活」が最も高い

● 現実では、女性 20 歳代は「仕事」、男性 70 歳以上は「家庭生活」、他の年代ではいずれも女性は「家庭生活」、男性は「仕事」が最も高い

①希望（優先したい）は、男女ともすべての年代で「家庭生活」が最も高くなっています。次いで女性 60 歳代以下や男性 40 歳代以下は「仕事と家庭生活」、女性 70 歳以上や男性 50 歳代以上は「仕事」となっています（女性 60 歳代は「仕事」「仕事と家庭生活」が同値）。「仕事」は、女性では 30 歳代以上、男性では 40 歳代以上で高い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

②現実（優先している）は、女性は 20 歳代を除いて「家庭生活」、男性は 70 歳以上を除いて「仕事」が最も高くなっています。女性 20 歳代は「仕事」（49.2%）、男性 70 歳以上は「家庭生活」（50.4%）が最も高くなっています。





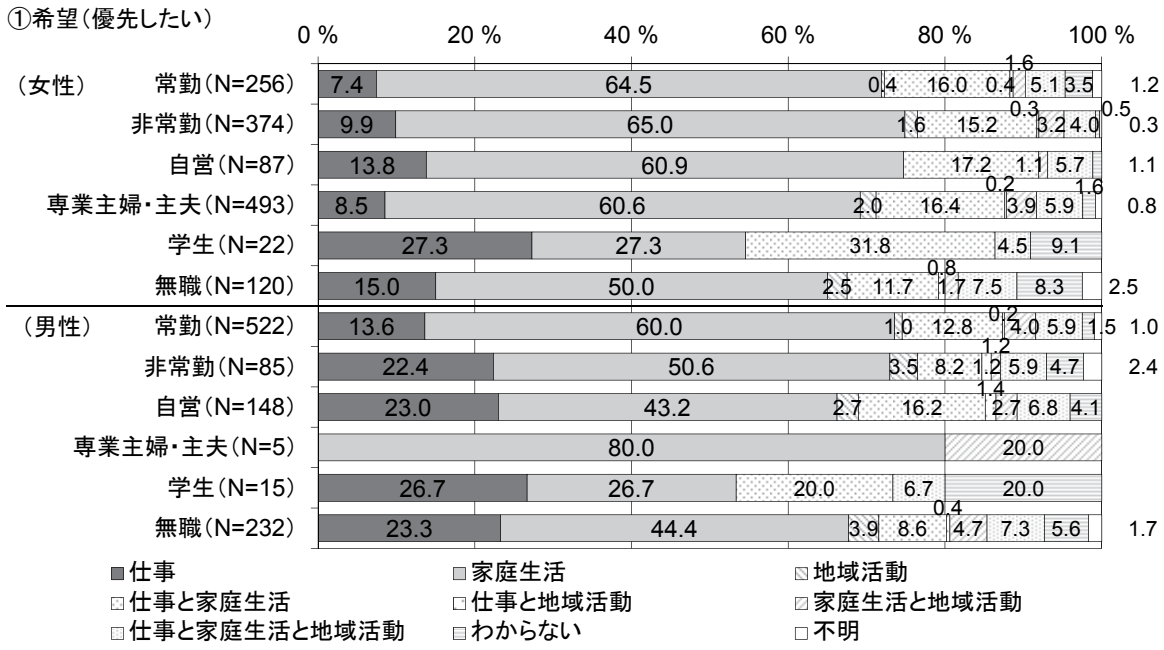
【性別×職業別】

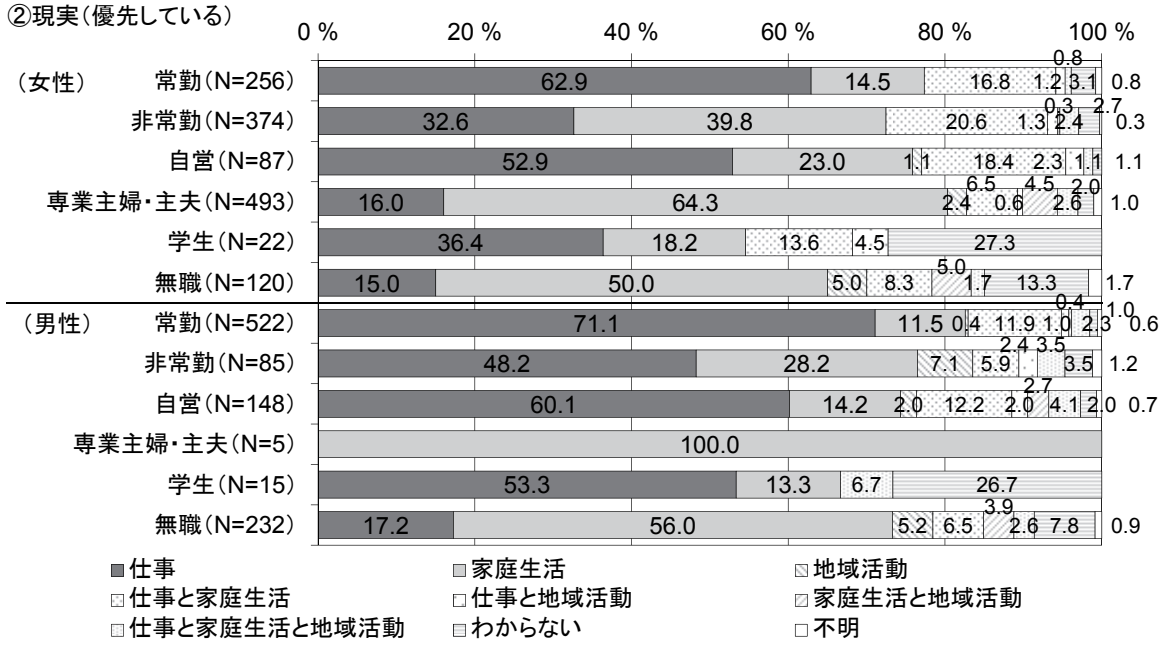
● 希望では、女性学生を除き男女ともすべての職業で「家庭生活」が最も高い

● 現実では、非常勤を除き男女で同様の傾向

①希望（優先したい）は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、女性学生を除き、男女ともにすべての職業で「家庭生活」が最も高くなっています（男性学生は「仕事」「家庭生活」が同値）。女性学生は「仕事と家庭生活」（31.8%）が最も高くなっています。

②現実（優先している）は、男女とも常勤・自営・学生は「仕事」、専業主婦・無職は「家庭生活」が最も高くなっています。また、非常勤は、女性は「家庭生活」（39.8%）、男性は「仕事」（48.2%）が最も高くなっています。





【地域別】

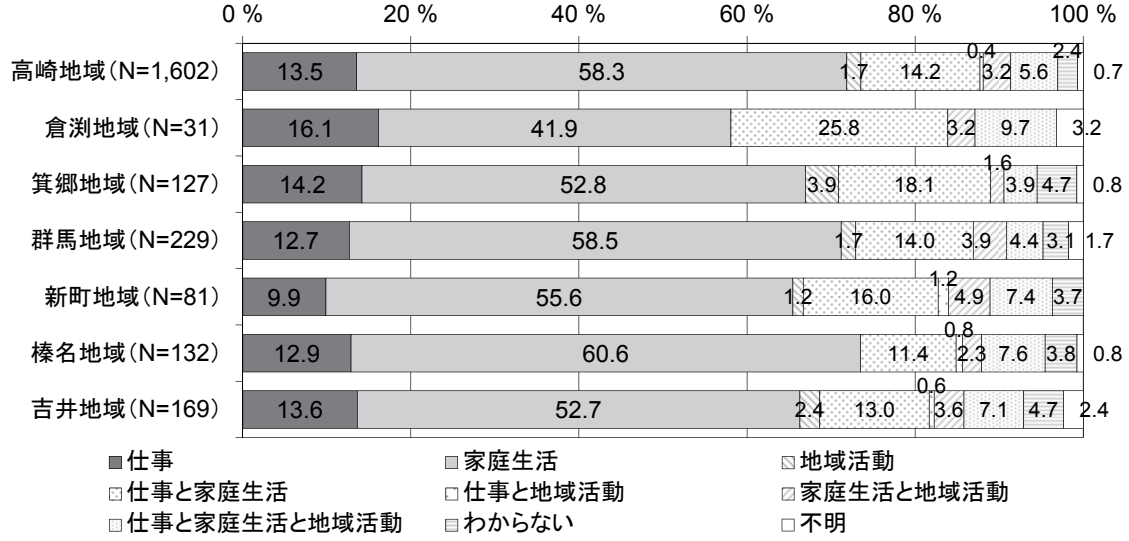
● 希望では、すべての地域で「家庭生活」が最も高い

● 現実では、すべての地域で「仕事」と「家庭生活」が同程度に高い

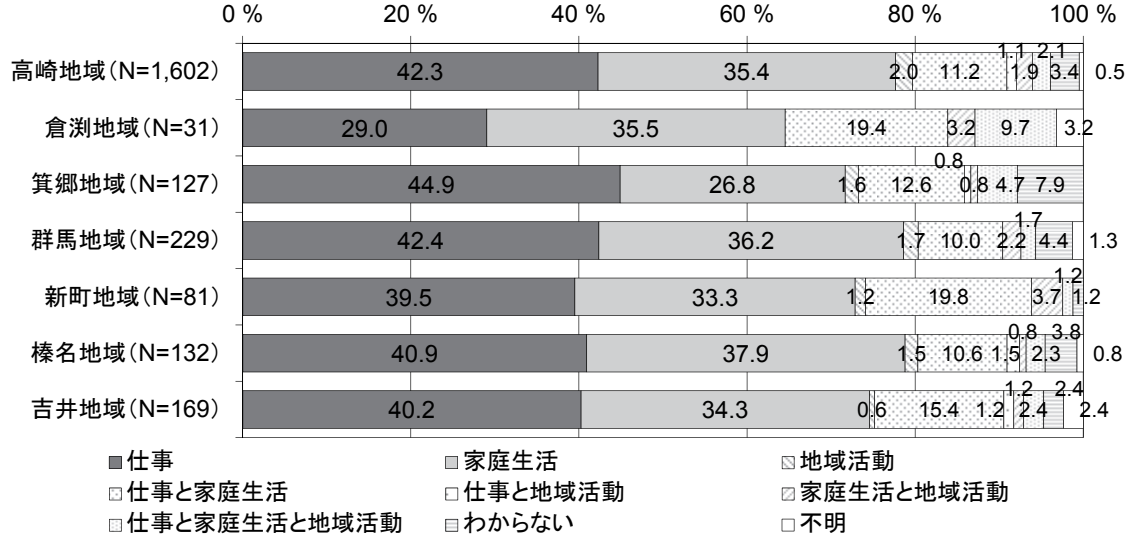
①希望（優先したい）は、すべての地域で「家庭生活」が最も高くなっています。次いで倉渕・箕郷・新町地域は「仕事と家庭生活」が高く、高崎・群馬・榛名・吉井地域は「仕事」と「仕事と家庭生活」が同程度になっています。倉渕地域は「仕事と家庭生活」（25.8%）が比較的高くなっています。

②現実（優先している）は、倉渕地域を除くすべての地域で「仕事」、倉渕地域は「家庭生活」（35.5%）が最も高くなっていますが、いずれの地域も「仕事」と「家庭生活」に大きな差は見られません。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



【性別×結婚経験別】

● 希望では、男女とも結婚経験にかかわらず「家庭生活」が最も高い

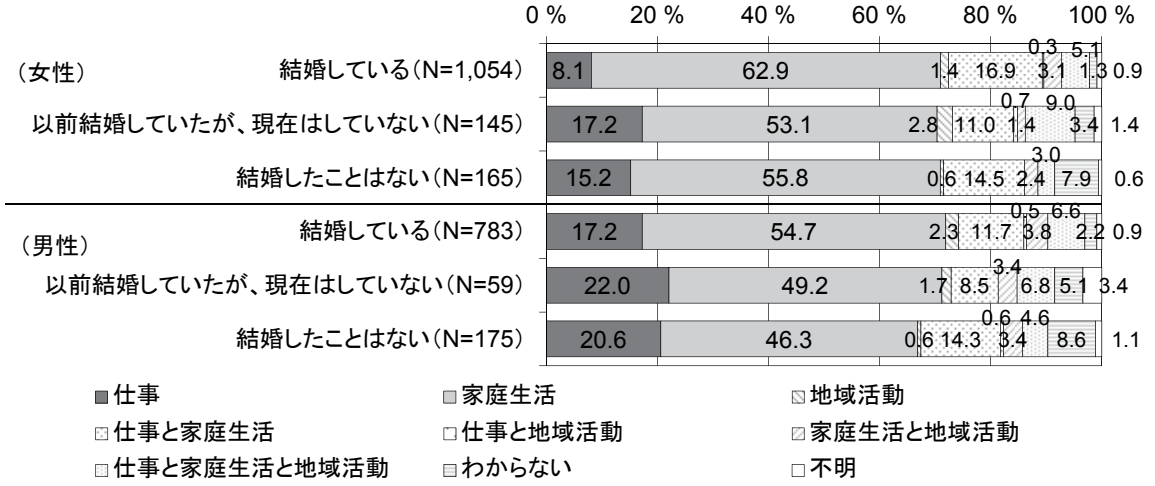
● 現実では、女性「結婚している」を除き「仕事」が最も高い

● 女性「結婚している」は、希望・現実ともに「家庭生活」を優先する傾向

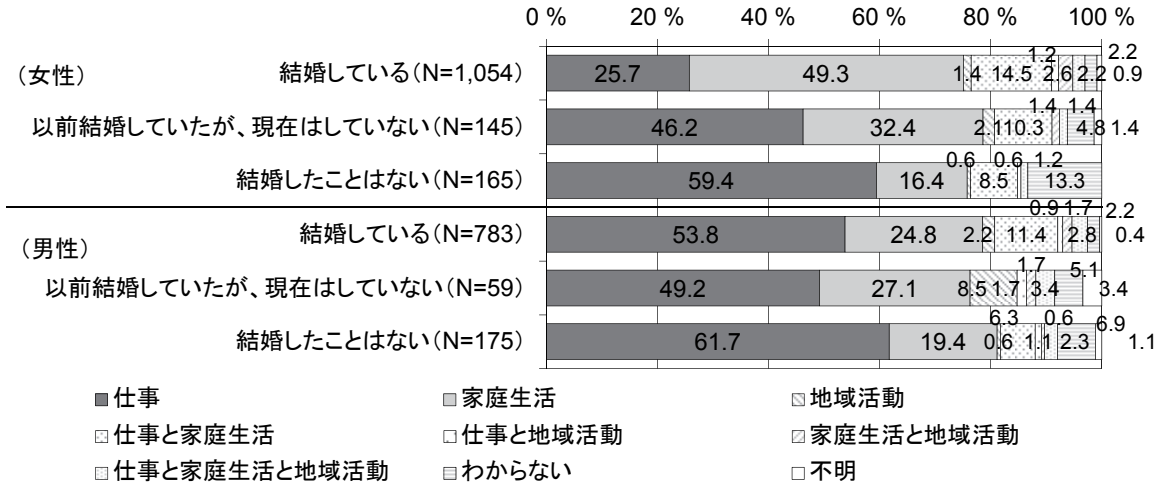
①希望（優先したい）は、男女とも結婚経験にかかわらず「家庭生活」が最も高くなっています。次いで女性「結婚している」を除いて男女とも「仕事」、女性「結婚している」は「仕事と家庭生活」（16.9%）が高くなっています。

②現実（優先している）は、女性「結婚している」を除いて男女とも「仕事」、女性「結婚している」は「家庭生活」（49.3%）が最も高くなっています。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



【性別×働き方別】

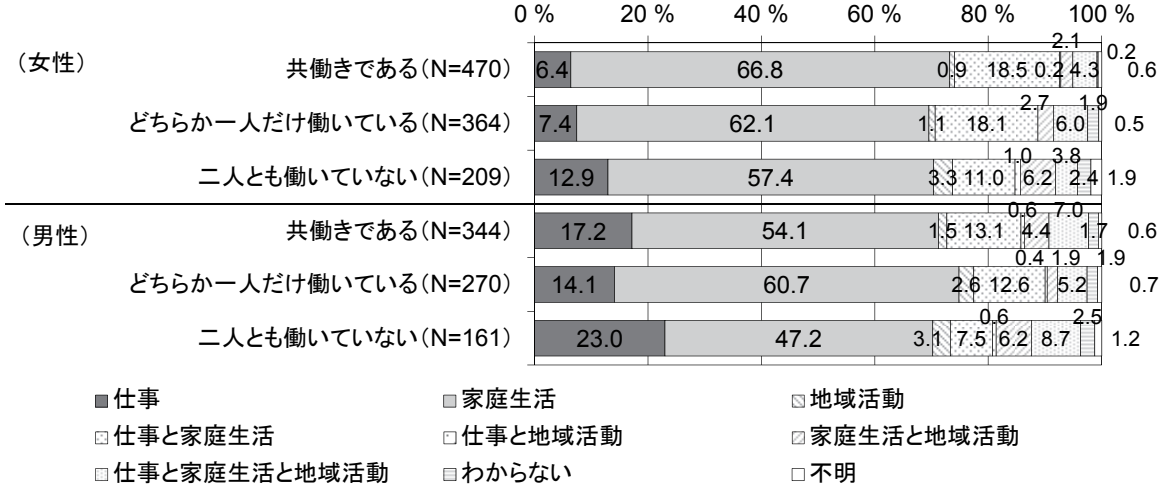
● 希望では、男女とも働き方にかかわらず「家庭生活」が最も高い

● 現実では、「共働き」でも男性は「仕事」が高く、女性は「仕事」と「家庭生活」が同程度に高い

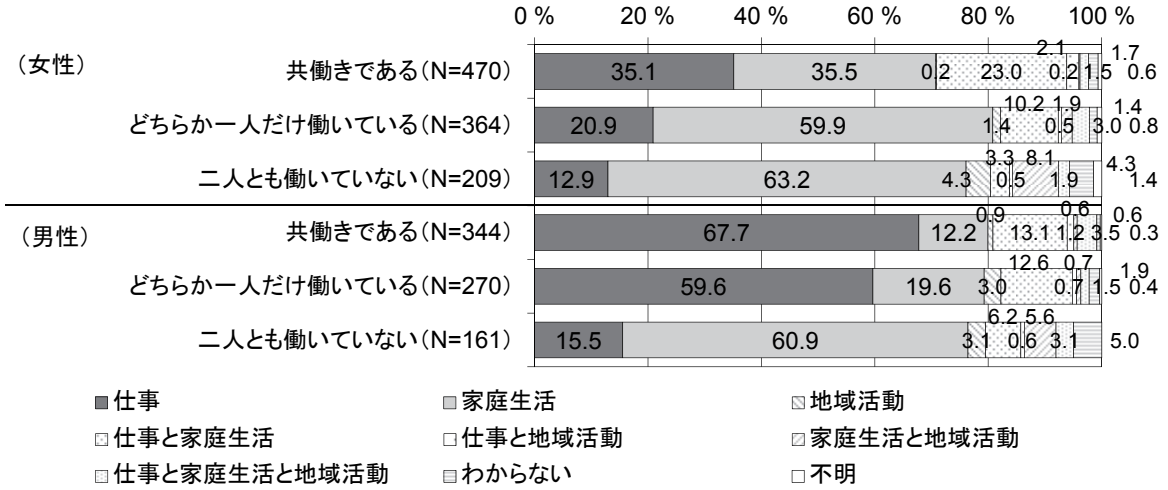
①希望（優先したい）は、男女とも働き方にかかわらず「家庭生活」が最も高くなっています。次いで女性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」は「仕事と家庭生活」、女性「二人とも働いていない」と男性はいずれも「仕事」が比較的高くなっています。

②現実（優先している）は、女性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」、男性「二人とも働いていない」は「家庭生活」、男性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」は「仕事」が最も高く、女性「共働きである」は「仕事」（35.1%）と「家庭生活」（35.5%）が同程度になっています。また、女性「共働きである」は「仕事と家庭生活」（23.0%）も高くなっています。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



【性別×他地域との比較】

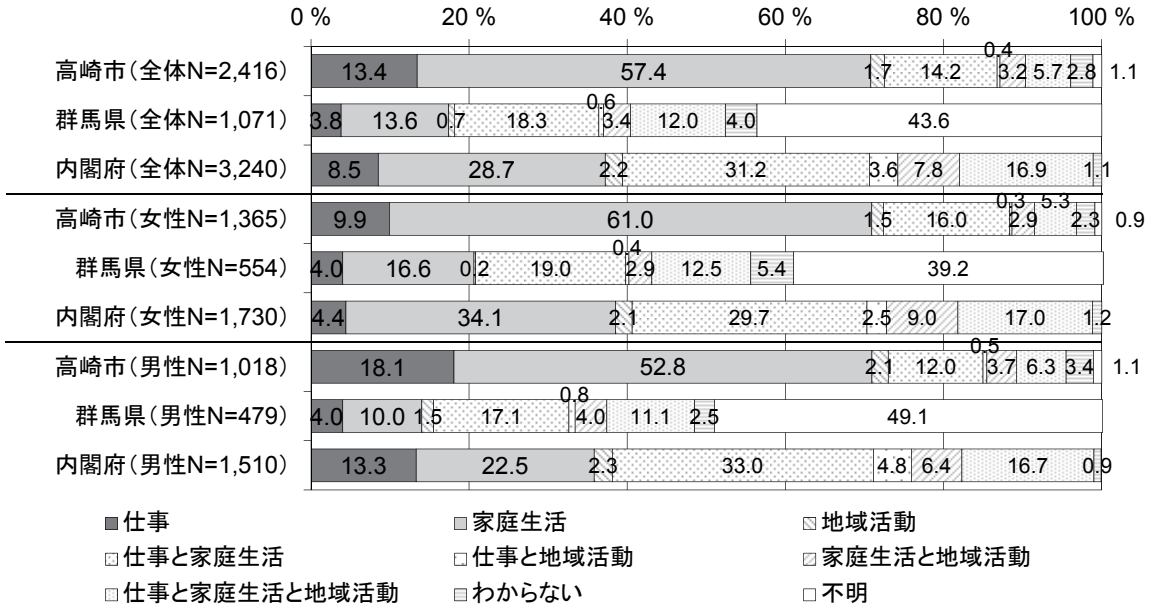
● 希望では、男女とも国より「家庭生活」が高く、「仕事と家庭生活」が低い

● 現実では、男女とも国より「仕事」が高く、「仕事と家庭生活」が低い

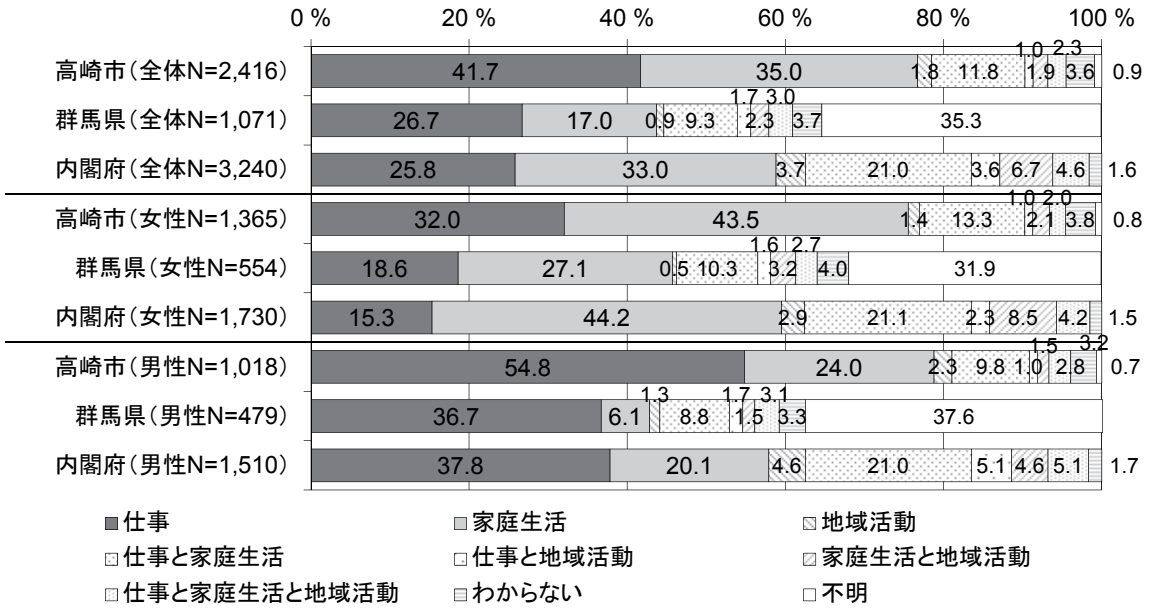
内閣府と比較すると、①希望（優先したい）は、男女とも内閣府より「家庭生活」が高く、「仕事と家庭生活」が低くなっています。

②現実（優先している）は、男女とも内閣府より「仕事」が高く、「仕事と家庭生活」が低くなっています。

①希望（優先したい）



②現実（優先している）



※「群馬県」は「不明」が多いため、参考表示とする

4　家庭における役割分担について

問４	あなたの家庭では以下のような役割は主にだれが担っていますか。（結婚や事実婚をしている場合限定）

【全項目・全体】

- ほとんどの項目で「妻」が突出して高く、「夫」は１割未満
- 「主たる収入」のみ「夫」が約８割で突出して高い
- 「地域活動」は夫婦同程度

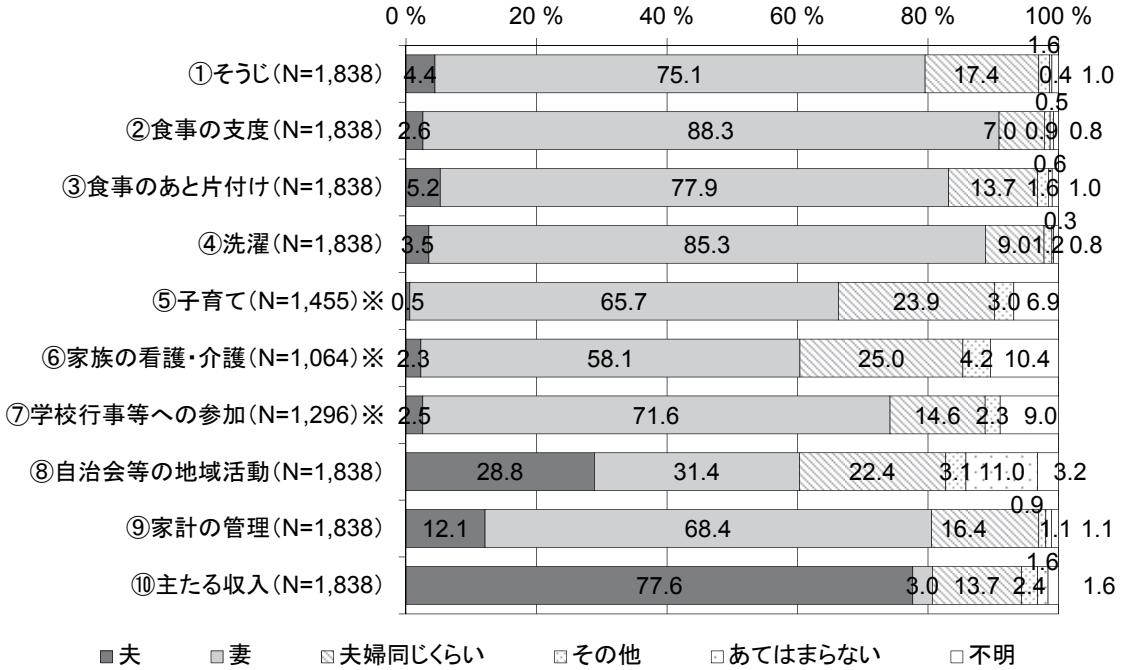
「⑩主たる収入」を除くすべての項目で「妻」が最も高く、特に「②食事の支度」（88.3%）や「④洗濯」（85.3%）は８割以上となっています。「⑩主たる収入」は「夫」（77.6%）が最も高くなっています。

また、「⑧自治会等の地域活動」は「夫」（28.8%）と「妻」（31.4%）が同程度であり、「夫婦同じくらい」（22.4%）も比較的高くなっています。

「夫」が最も低いのは「⑤子育て」（0.5%）で、「⑧自治会等の地域活動」「⑨家計の管理」「⑩主たる収入」を除くすべての項目で１割未満となっています。

「夫婦同じくらい」は「⑤子育て」「⑥家族の看護・介護」「⑧自治会等の地域活動」（それぞれ 23.9%、25.0%、22.4%）が２割以上で比較的高くなっています。

一方、「②食事の支度」「④洗濯」（それぞれ 7.0%、9.0%）が１割未満で比較的低くなっています。



※⑤子育て（N=1,455）、⑥家族の看護・介護（N=1,064）、⑦学校行事等への参加（N=1,296）は、家族に該当者がいない場合が考えられるため「あてはまらない」を除外して集計。
（　）内の N は「あてはまらない」を除外した値

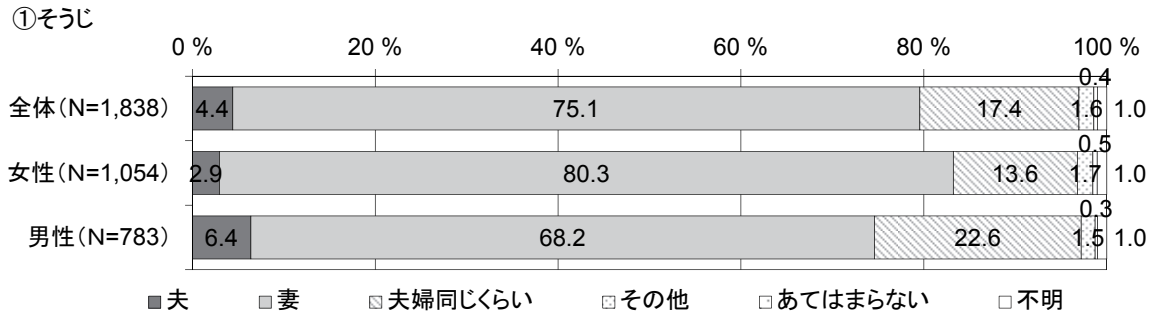
①そうじ

【全体・性別】

● 男女とも「妻」が最も高く、女性が約８割、男性が約７割

● 男性は「夫婦同じくらい」が約２割で比較的高い

男女とも「妻」（女性 80.3%、男性 68.2%）が最も高くなっています。また、男性は「夫婦同じくらい」（22.6%）も比較的高くなっています。



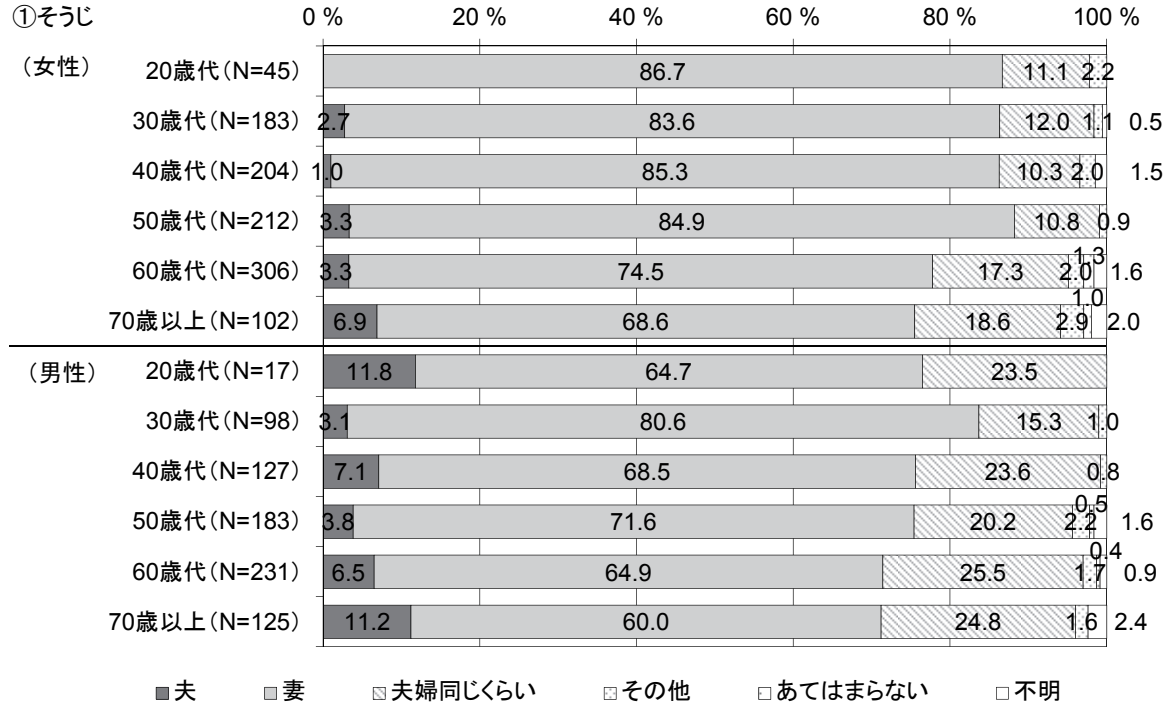
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い

● 高い年代ほど「夫」や「夫婦同じくらい」が高い傾向

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」はすべての年代で女性が高くなっています。

一方、男性 20 歳代を除き、「夫」や「夫婦同じくらい」は高い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。



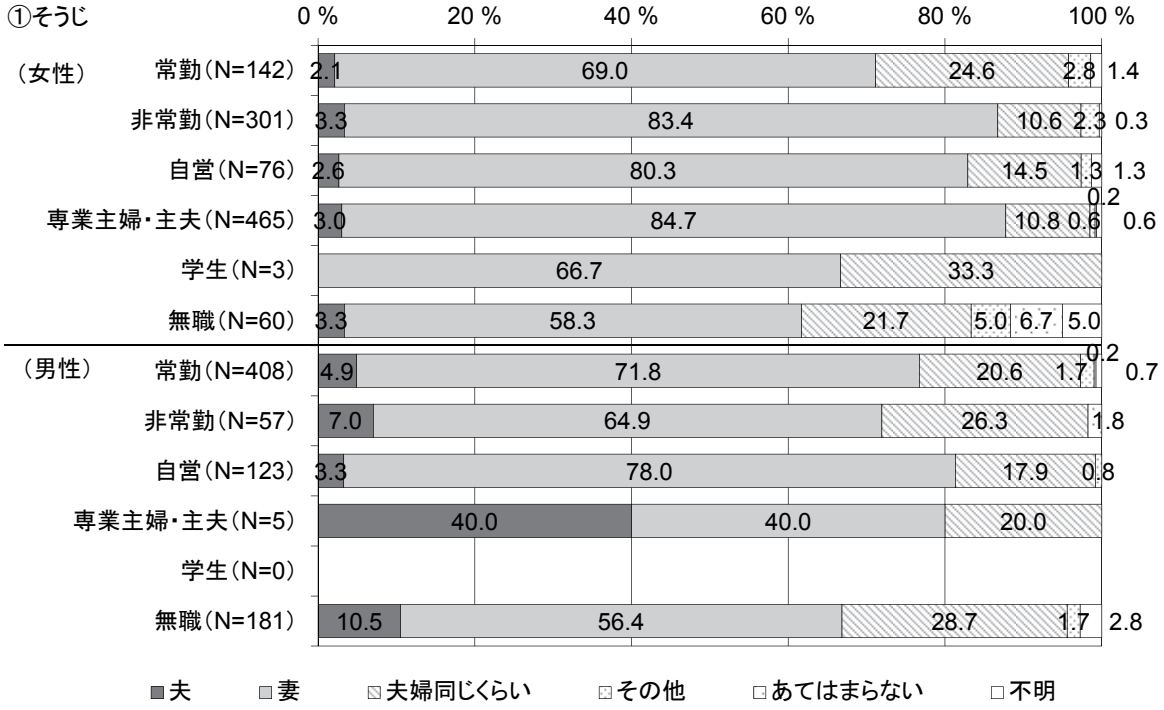
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い

● 女性常勤、男性非常勤、男性無職は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、女性常勤、男性非常勤、男性無職は「夫婦同じくらい」（それぞれ 24.6%、26.3%、28.7%）も比較的高くなっています。



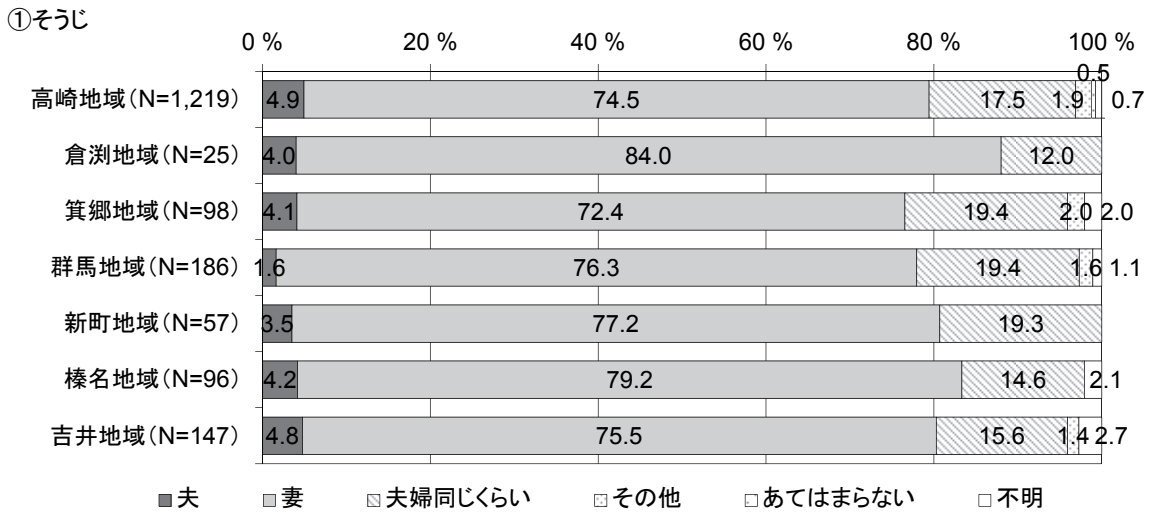
【地域別】

● すべての地域で「妻」が最も高い

● 倉渕地域は「妻」が比較的高く、「夫婦同じくらい」が比較的低い

すべての地域で「妻」が最も高く、特に倉渕地域（84.0%）が比較的高くなっています。

一方、倉渕地域は、「夫婦同じくらい」（12.0%）が比較的低くなっています。

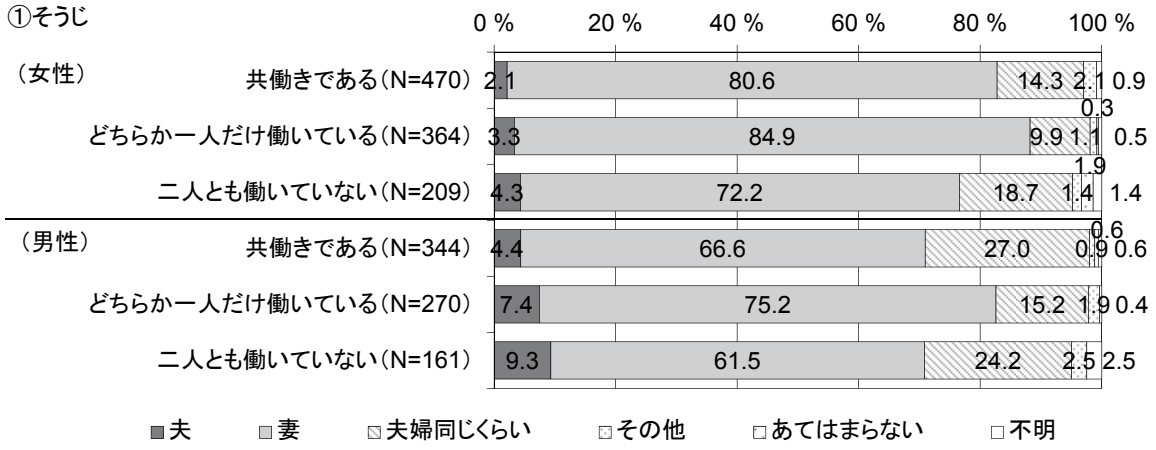


【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い

● 「妻」は男女とも「どちらか一人だけ働いている」が特に高い

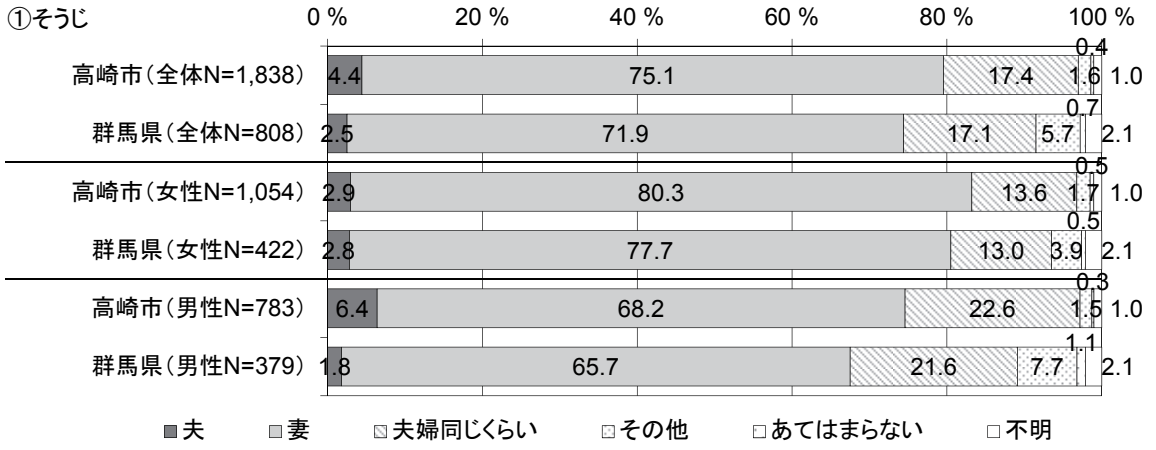
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、特に「どちらか一人だけ働いている」（女性 84.9%、男性 75.2%）で高くなっています。また、働き方にかかわらず「妻」は女性で高くなっています。



【性別×他調査との比較】

● 「妻」は男女とも群馬県より高い

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、男女とも群馬県より高くなっています。



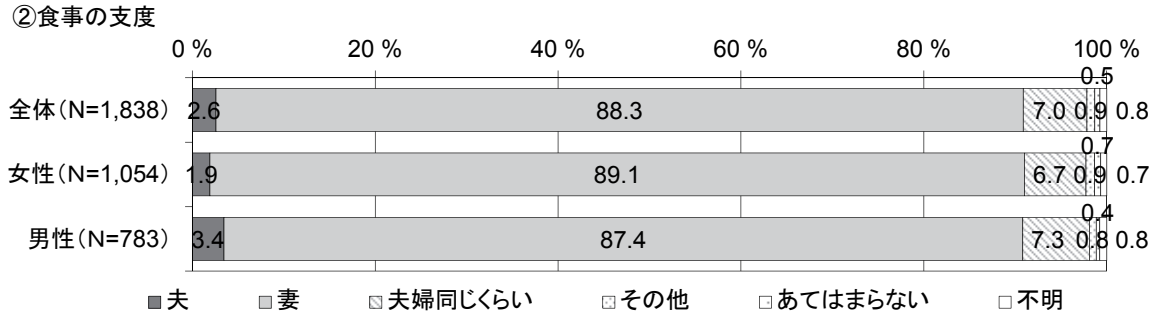
※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

②食事の支度

【全体・性別】

● 男女とも「妻」が約９割

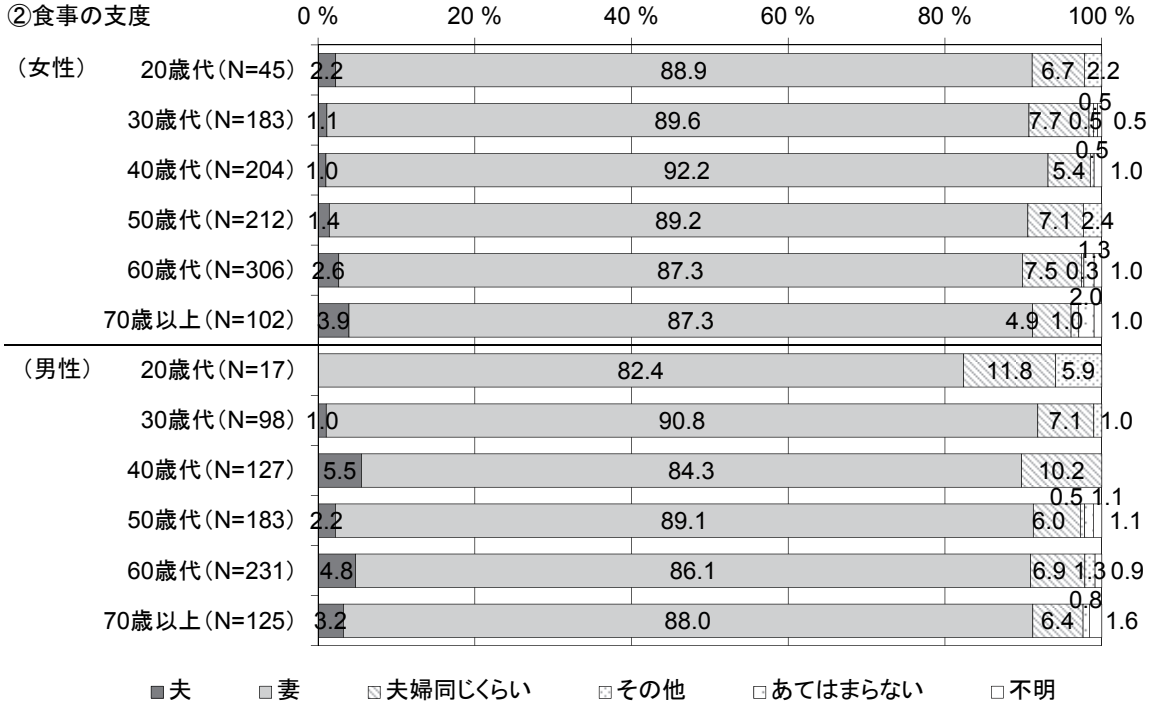
男女とも「妻」（女性 89.1%、男性 87.4%）が最も高く、性別による大きな差は見られません。



【性別×年代別】

● 男女とも年代による大きな差は見られない

男女ともすべての年代で「妻」が最も高く、年代による大きな差は見られません。



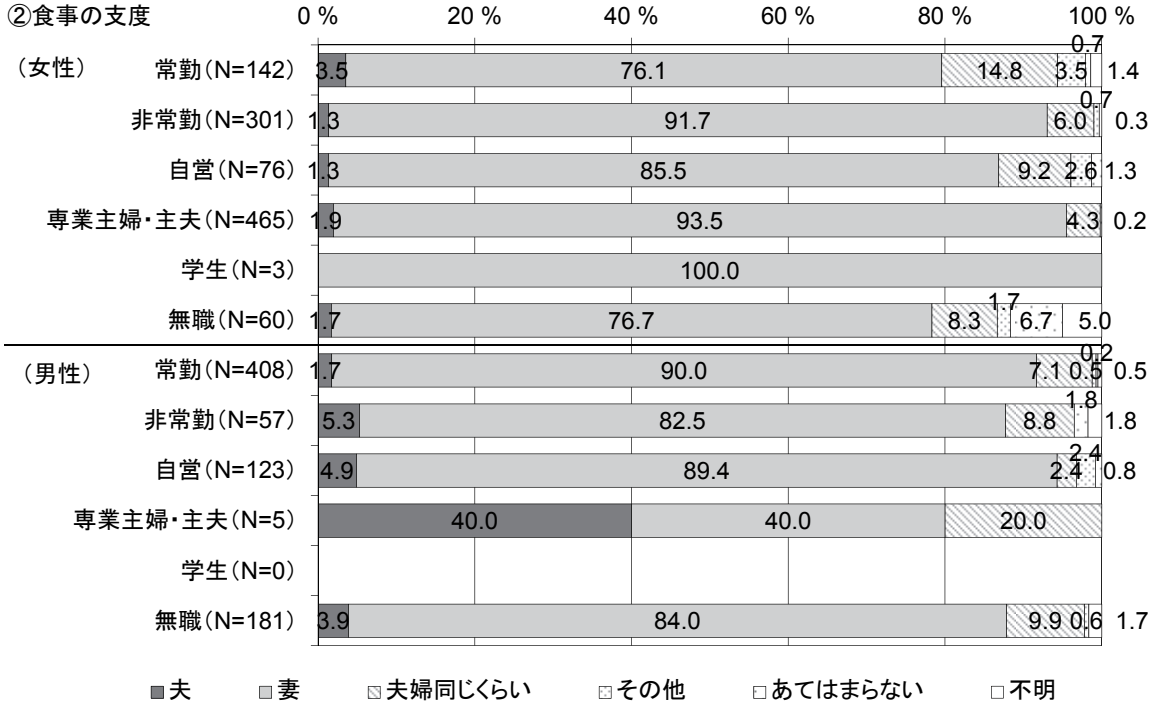
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い

● 女性常勤は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

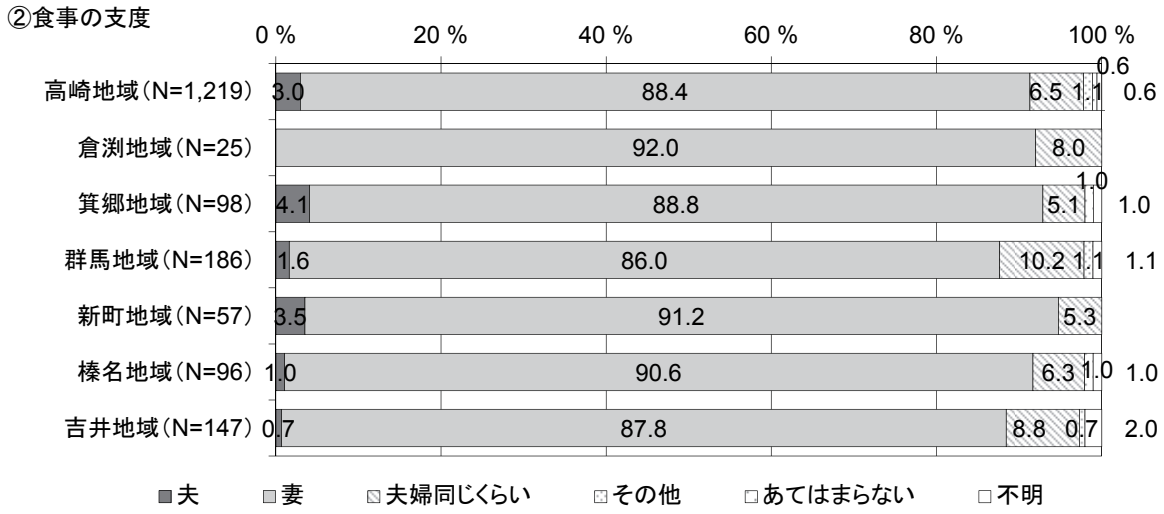
また、女性常勤は「夫婦同じくらい」（14.8%）も比較的高くなっています。



【地域別】

● すべての地域で「妻」が最も高く、地域による大きな差は見られない

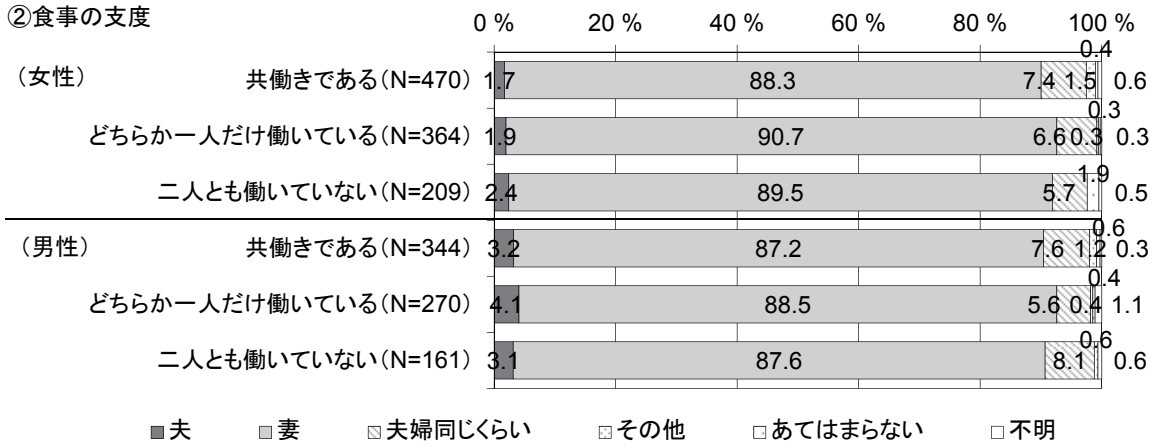
すべての地域で「妻」が最も高く、地域による大きな差は見られません。



【性別×働き方別】

● 男女とも働き方による大きな差は見られない

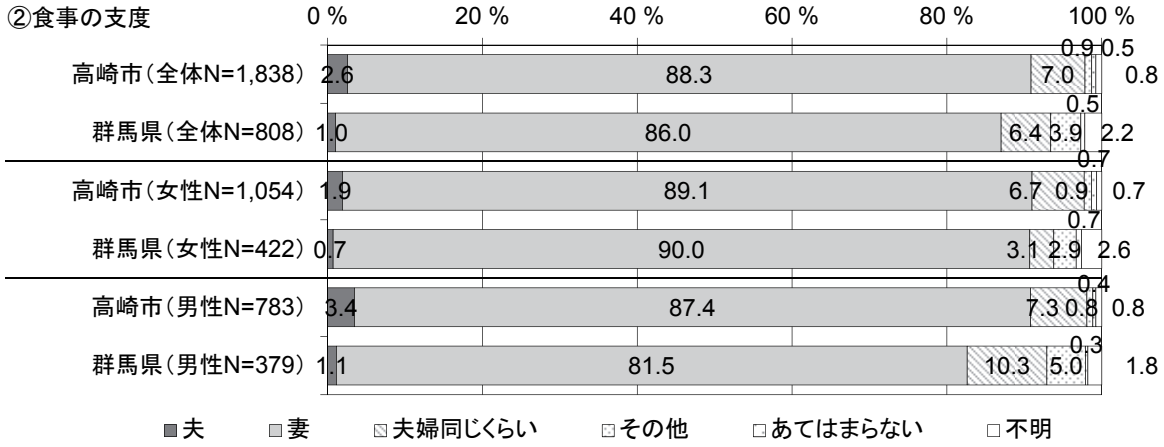
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、働き方による大きな差は見られません。



【性別×他調査との比較】

● 「妻」は群馬県より男性は高く、女性は同程度

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、女性は群馬県と同程度、男性は群馬県より高くなっています。



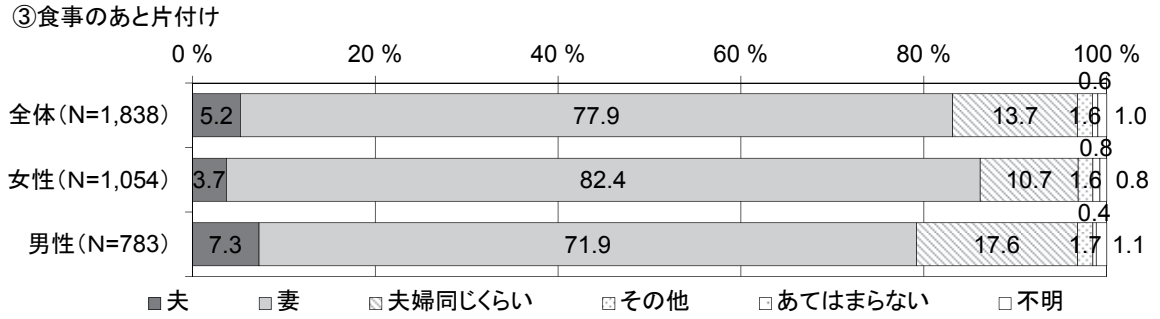
※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

③食事のあと片付け

【全体・性別】

● 男女とも「妻」が最も高く、女性が約８割、男性が約７割

男女とも「妻」（女性 82.4%、男性 71.9%）が最も高くなっています。また、男性は「夫婦同じくらい」（17.6%）も比較的高くなっています。



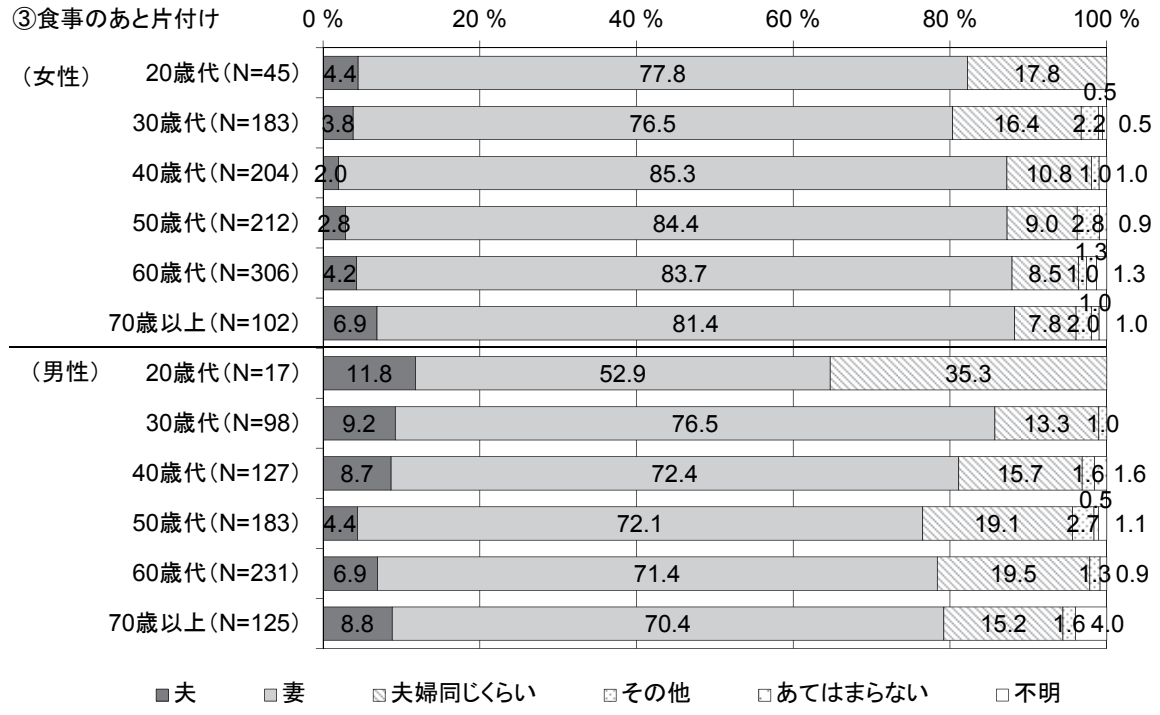
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い

● 男性 20 歳代は「夫」や「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」は 30 歳代を除き、すべての年代で女性が高くなっています。30 歳代は男女が同値（76.5%）となっています。

一方、「夫」や「夫婦同じくらい」は男性 20 歳代（それぞれ 11.8%、35.3%）が比較的高くなっています。



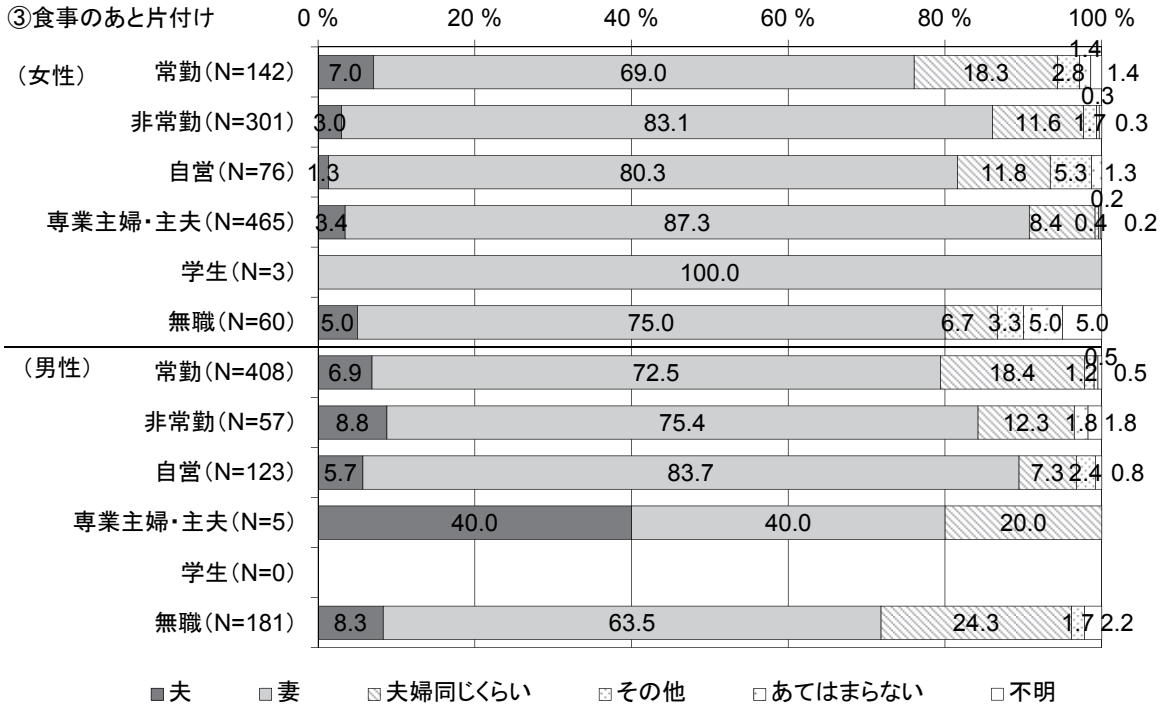
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い

● 男性無職は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、男性無職は「夫婦同じくらい」（24.3%）も比較的高くなっています。



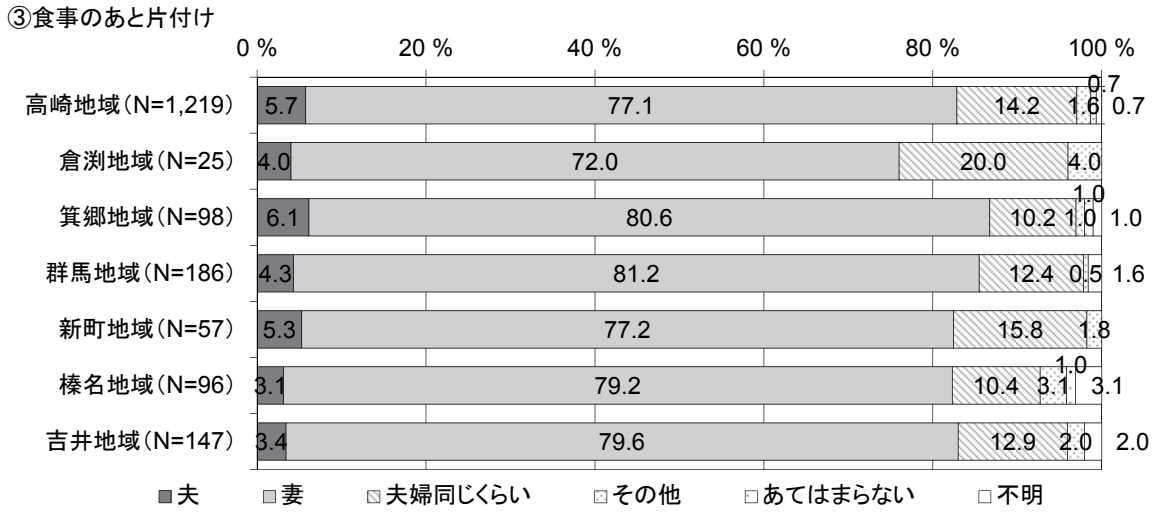
【地域別】

● すべての地域で「妻」が最も高い

● 倉渕地域は「夫婦同じくらい」が比較的高い

すべての地域で「妻」が最も高くなっています。

また、倉渕地域は「夫婦同じくらい」（20.0%）も比較的高くなっています。

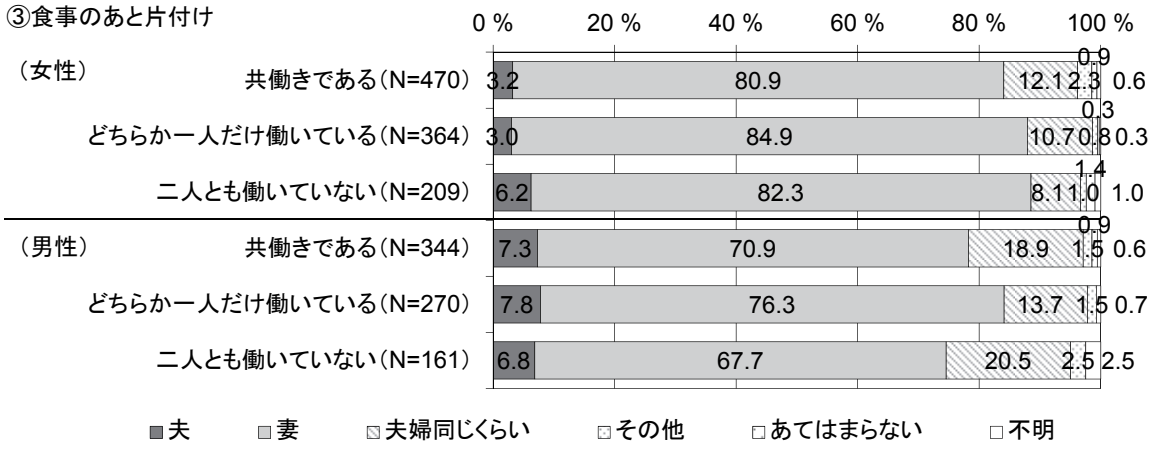


【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い

● 「妻」は男女とも「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

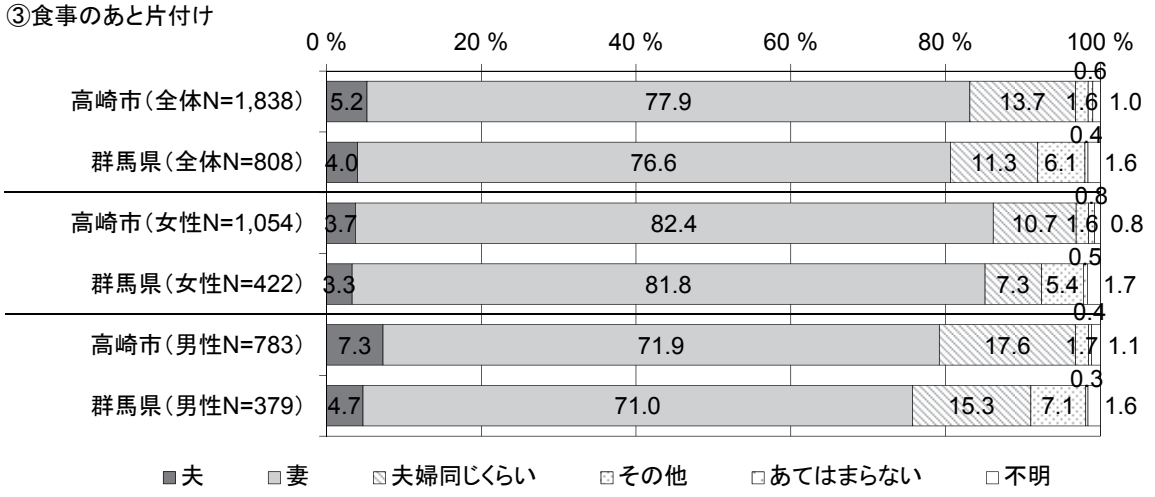
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、「どちらか一人だけ働いている」（女性 84.9%、男性 76.3%）が比較的高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。



【性別×他調査との比較】

● 男女とも群馬県と大きな差は見られない

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、男女とも群馬県と大きな差は見られません。



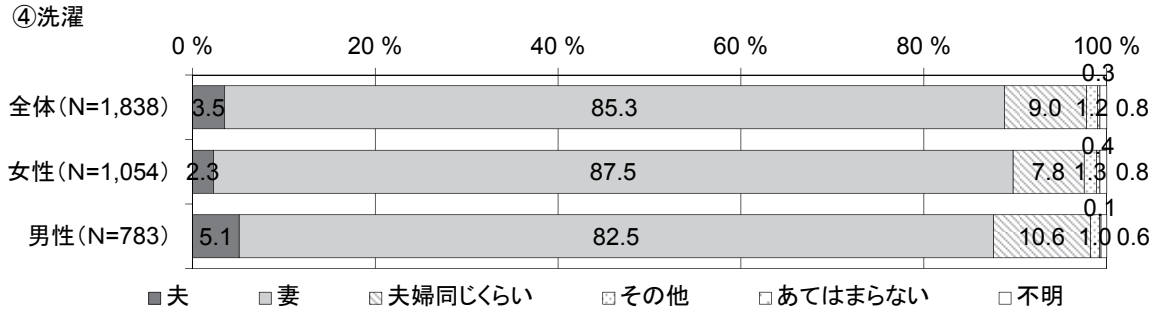
※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

④洗濯

【全体・性別】

● 男女とも「妻」が最も高く、女性が約 9 割、男性が約 8 割

男女とも「妻」（女性 87.5%、男性 82.5%）が最も高く、特に女性は約 9 割を占めています。



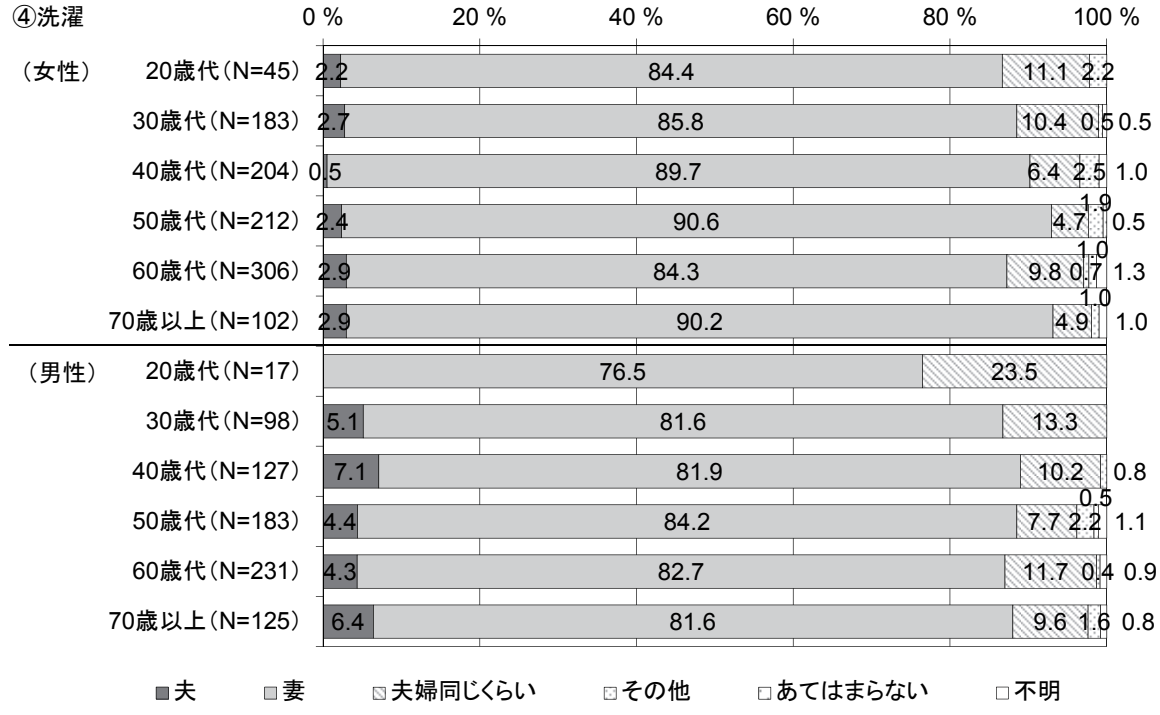
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い

● 男性 20 歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」はすべての年代で女性が高くなっています。

男性 20 歳代は「夫婦同じくらい」（23.5%）も比較的高くなっています。



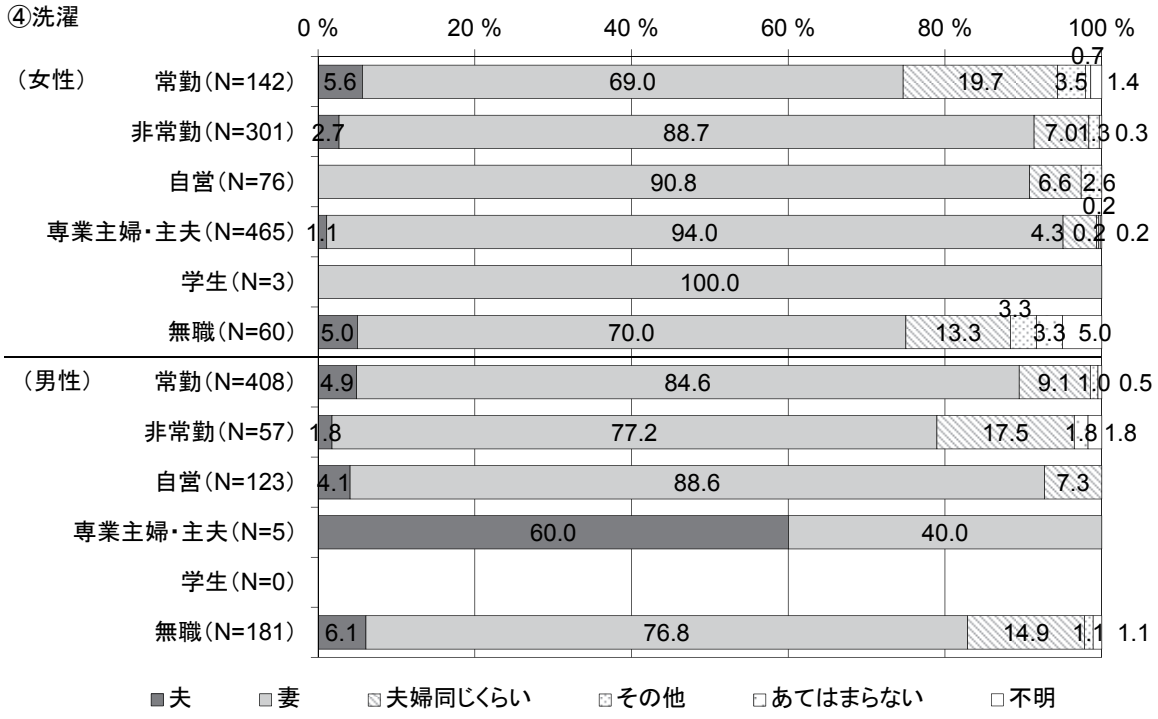
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い

● 女性常勤・無職、男性非常勤・無職は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、女性常勤・無職、男性非常勤・無職は「夫婦同じくらい」（それぞれ 19.7%、13.3%、17.5%、14.9%）も比較的高くなっています。



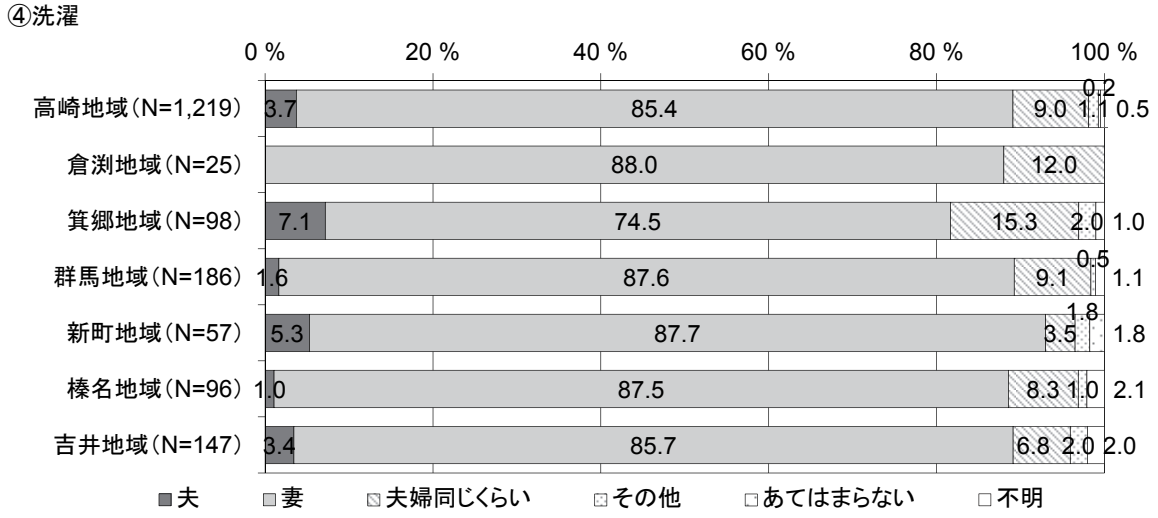
【地域別】

● すべての地域で「妻」が最も高い

● 箕郷地域は「夫婦同じくらい」が比較的高い

すべての地域で「妻」が最も高くなっています。

また、箕郷地域は「夫婦同じくらい」（15.3%）も比較的高くなっています。

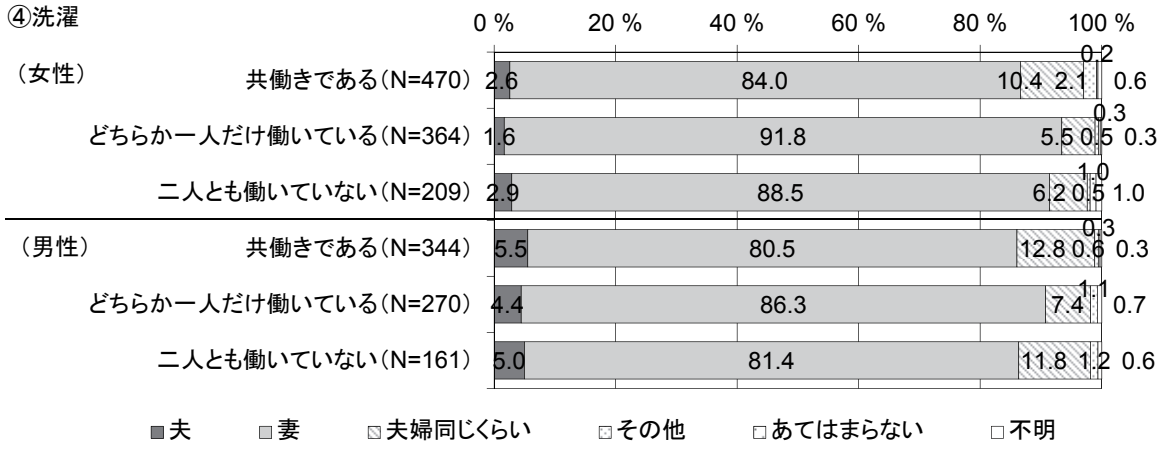


【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い

● 「妻」は男女とも「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

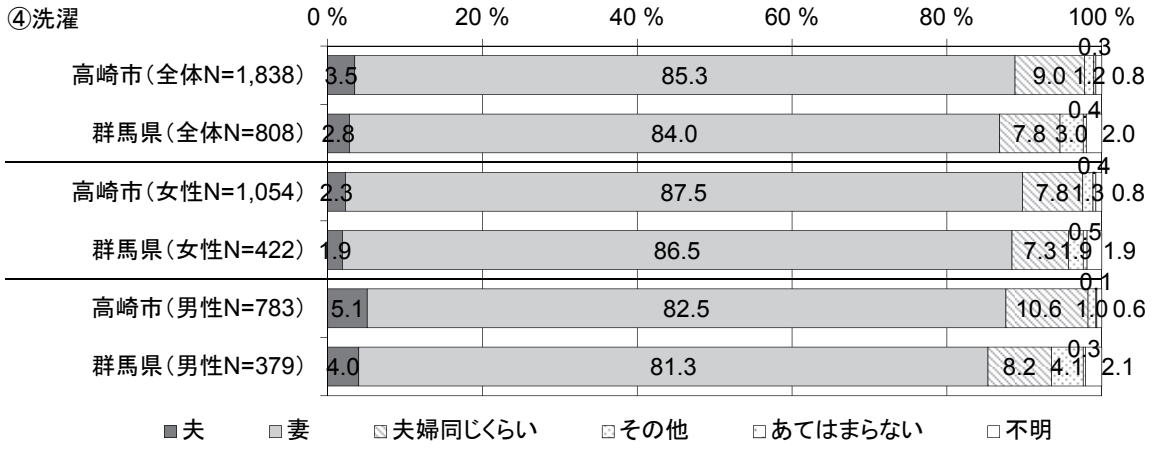
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、特に「どちらか一人だけ働いている」（女性 91.8%、男性 86.3%）が比較的高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。



【性別×他調査との比較】

● 男女とも群馬県と大きな差は見られない

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、男女とも群馬県と大きな差は見られません。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

⑤子育て（子どもがいない場合の「あてはまらない」を除外）

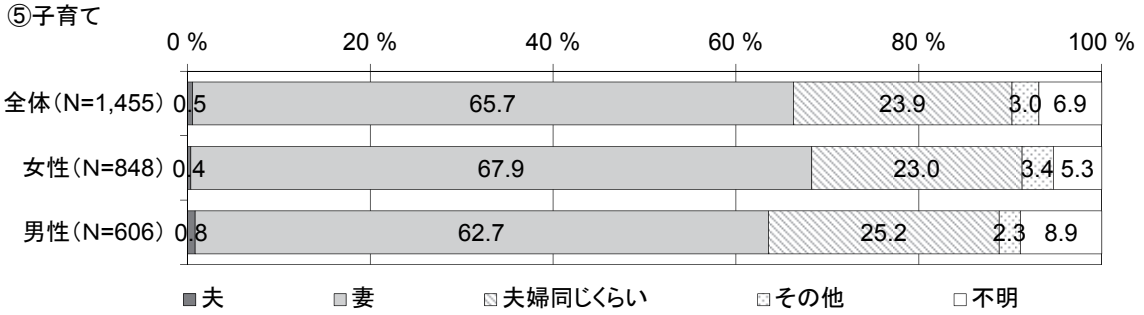
【全体・性別】

● 男女とも「妻」が最も高く、女性が約７割、男性が約６割

● 男女とも「夫婦同じくらい」も２割以上

男女とも「妻」（女性 67.9%、男性 62.7%）が最も高くなっています。

また、男女とも「夫婦同じくらい」（女性 23.0%、男性 25.2%）も比較的高くなっています。



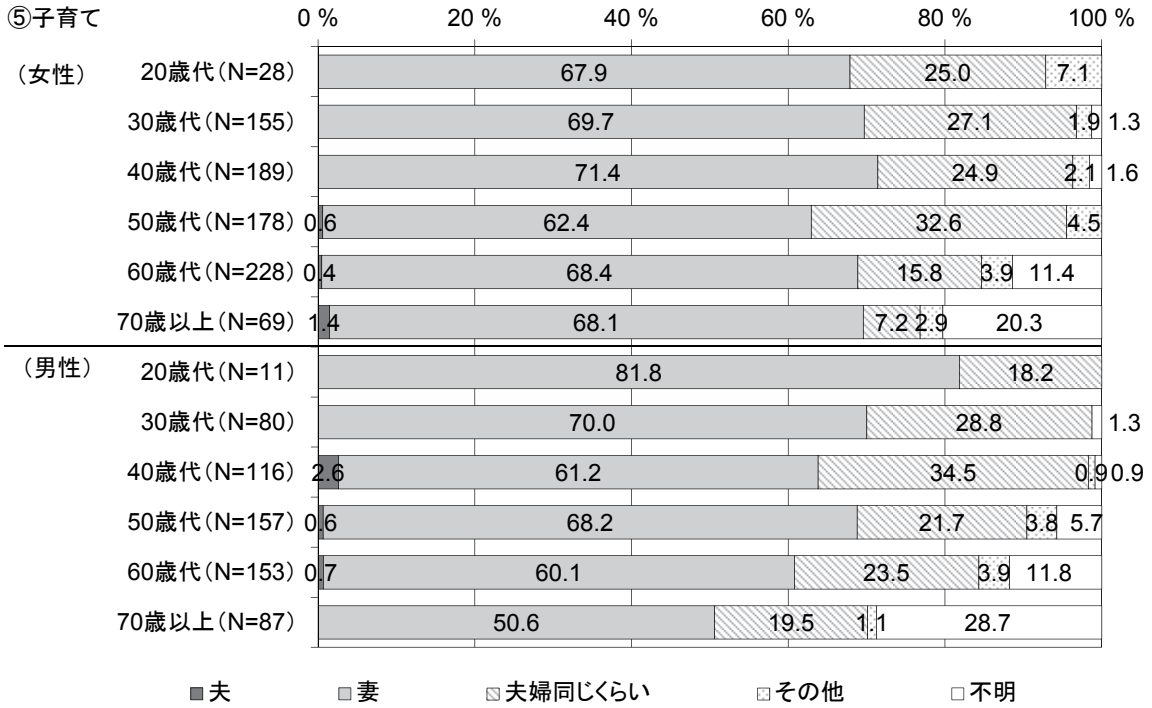
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い

● 女性 50 歳代、男性 40 歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。

また、女性 50 歳代や男性 40 歳代は「夫婦同じくらい」（それぞれ 32.6%、34.5%）も３割以上と比較的高くなっています。



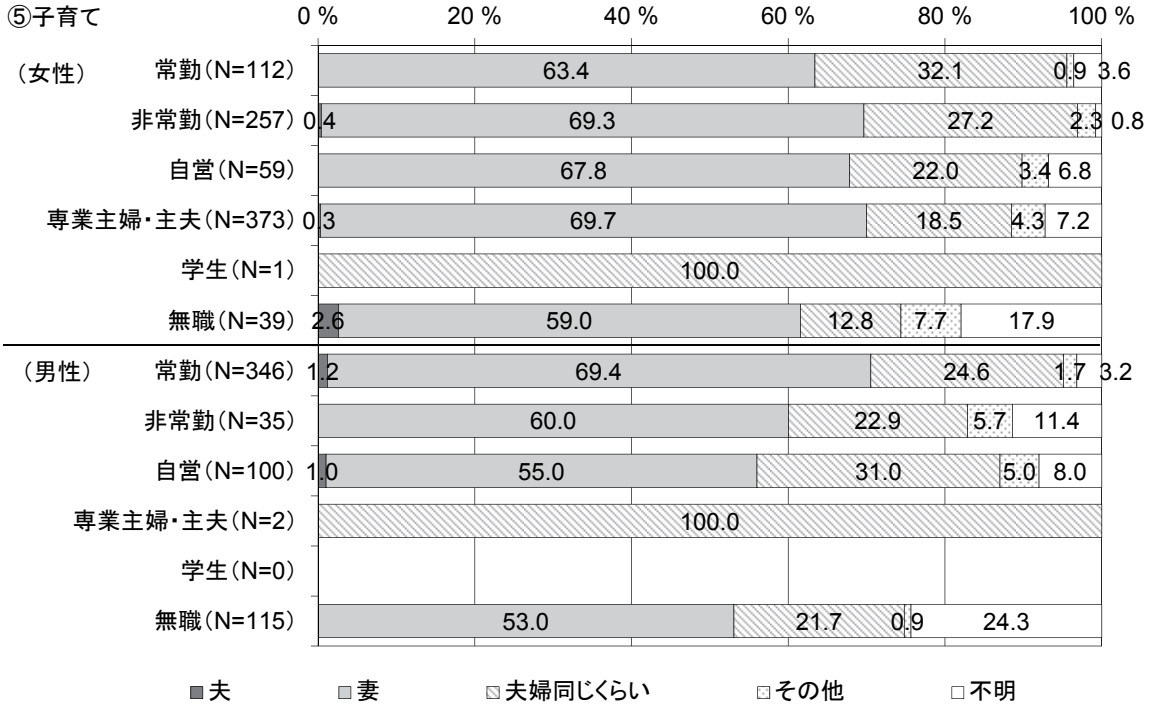
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い

● 女性常勤、男性自営は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、女性常勤や男性自営は「夫婦同じくらい」（それぞれ 32.1%、31.0%）も比較的高くなっています。



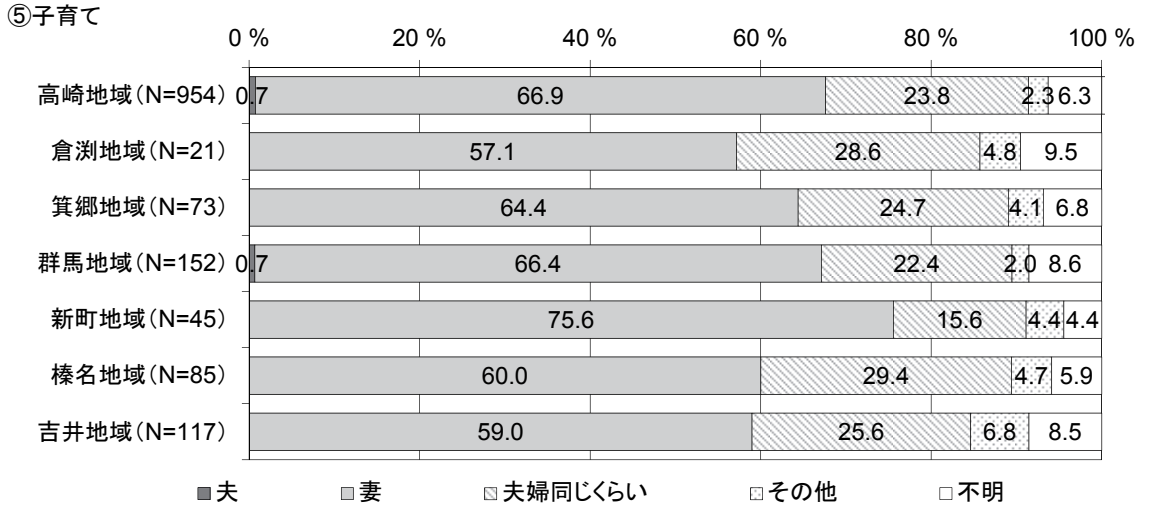
【地域別】

● すべての地域で「妻」が最も高い

● 新町地域は「妻」が比較的高く、「夫婦同じくらい」が比較的低い

すべての地域で「妻」が最も高く、特に新町地域（75.6%）が比較的高くなっています。

一方、新町地域は、「夫婦同じくらい」（15.6%）が比較的低くなっています。

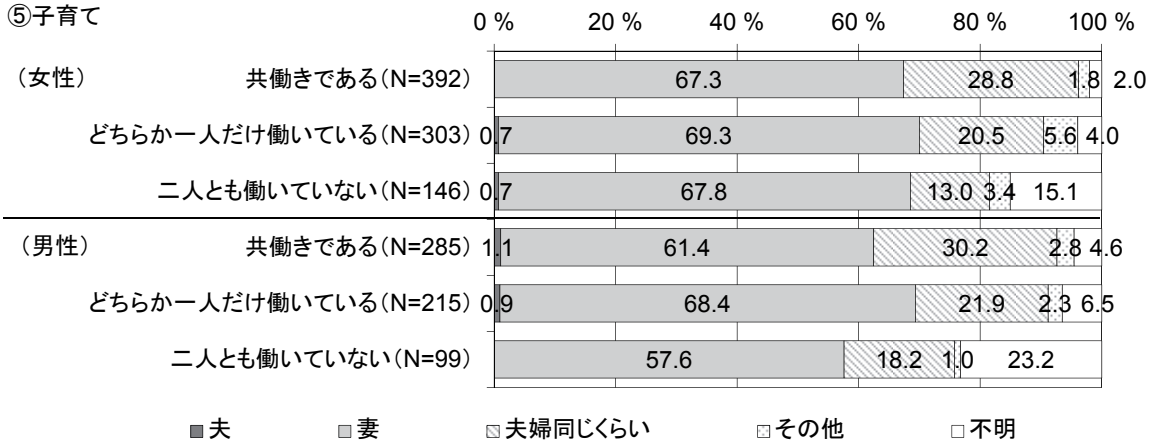


【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い

● 男女とも「共働き」は「夫婦同じくらい」が比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高く、「共働きである」は「夫婦同じくらい」（女性 28.8%、男性 30.2%）も比較的高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています（「どちらか一人だけ働いている」は同程度）。



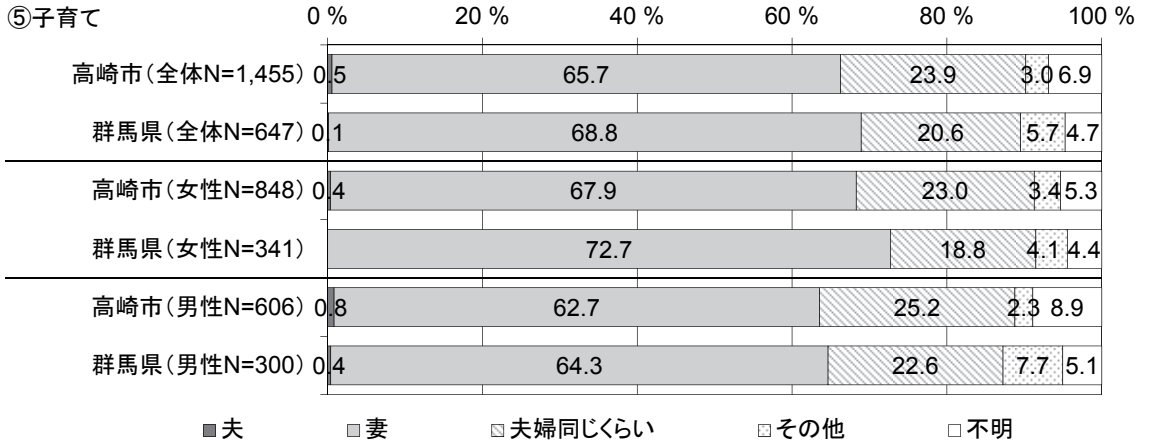
【性別×他調査との比較】

● 「妻」は群馬県より女性は若干低く、男性は同程度

● 「夫婦同じくらい」は男女とも群馬県と同程度

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、女性は群馬県より若干低く、男性は群馬県と同程度になっています。

また、「夫婦同じくらい」は、男女とも群馬県より若干高くなっています。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上し、「高崎市」と同様に「あてはまらない」を除外

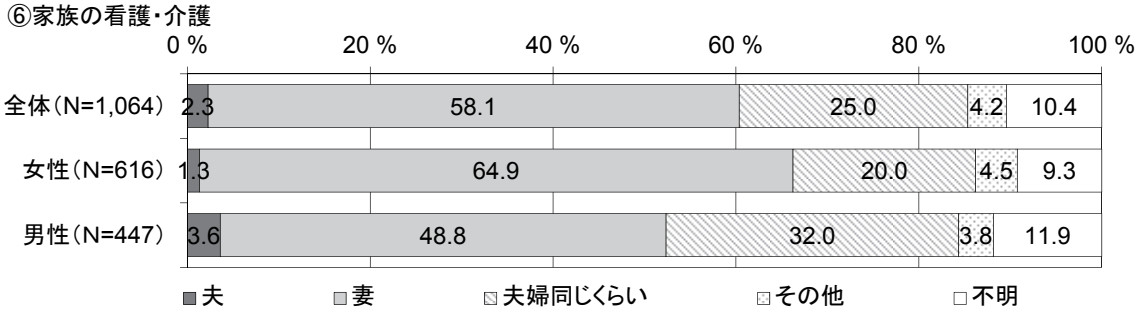
⑥家族の看護・介護（看護・介護が必要な家族がいない場合の「あてはまらない」を除外）

【全体・性別】

● 男女とも「妻」が最も高く、女性が約 6 割、男性が約 5 割

● 「夫婦同じくらい」も女性が約 2 割、男性が約 3 割

男女とも「妻」（女性 64.9%、男性 48.8%）が最も高くなっています。
また、男性は「夫婦同じくらい」（32.0%）も比較的高くなっています。



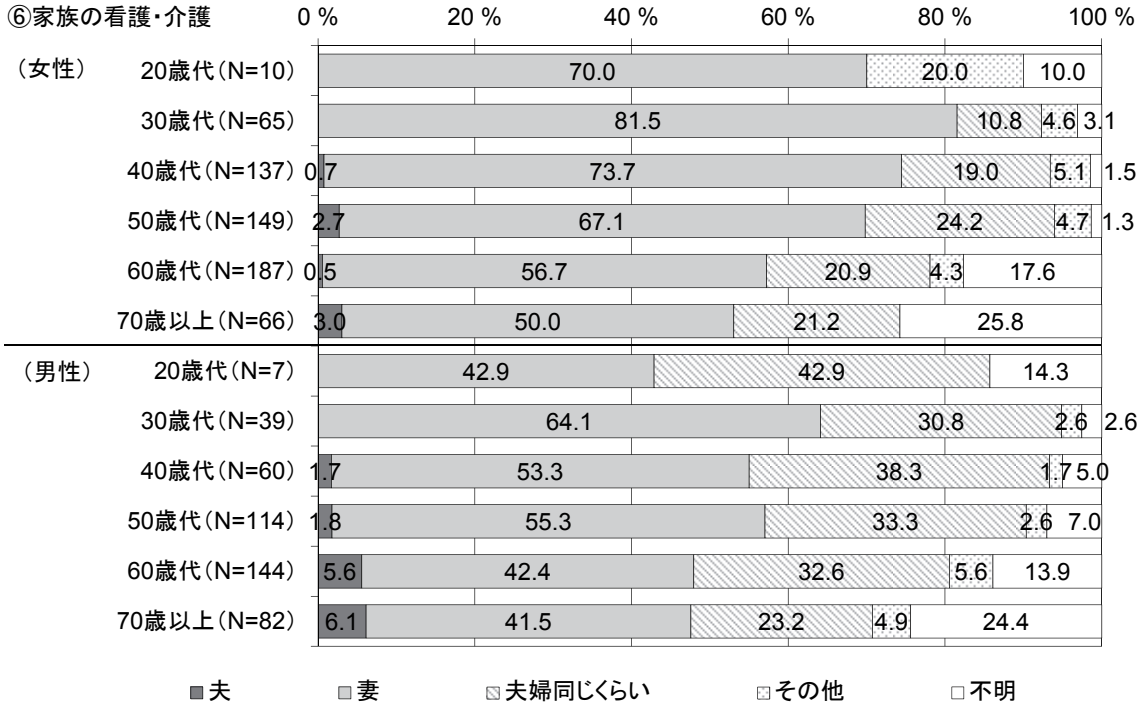
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い

● 男性 40 歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない 20 歳代を除くと、男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。

また、男性 40 歳代は「夫婦同じくらい」（38.3%）も約 4 割と比較的高くなっています。男性は 30・50・60 歳代も「夫婦同じくらい」（それぞれ 30.8%、33.3%、32.6%）が 3 割以上となっています。



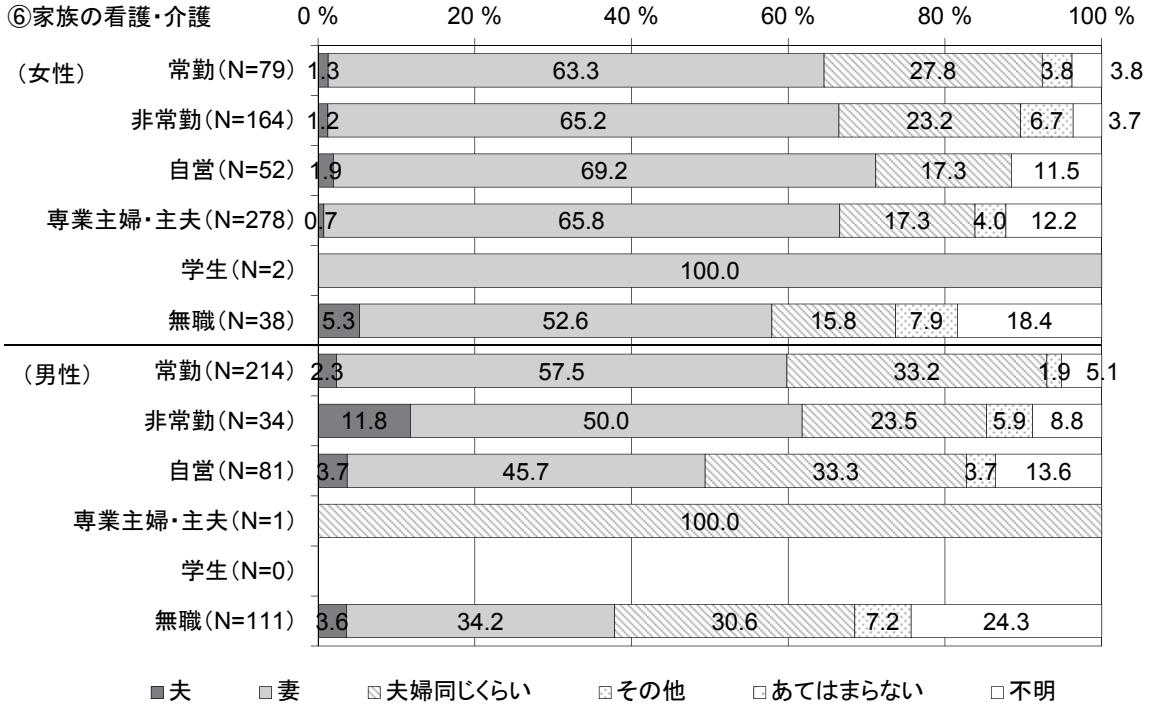
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い

● 男性非常勤は「夫」、男性常勤・自営・無職は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。また、すべての職業で「妻」は女性が高くなっています。

男性非常勤は「夫」（11.8%）、男性常勤・自営・無職は「夫婦同じくらい」（それぞれ 33.2%、33.3%、30.6%）も比較的高くなっています。



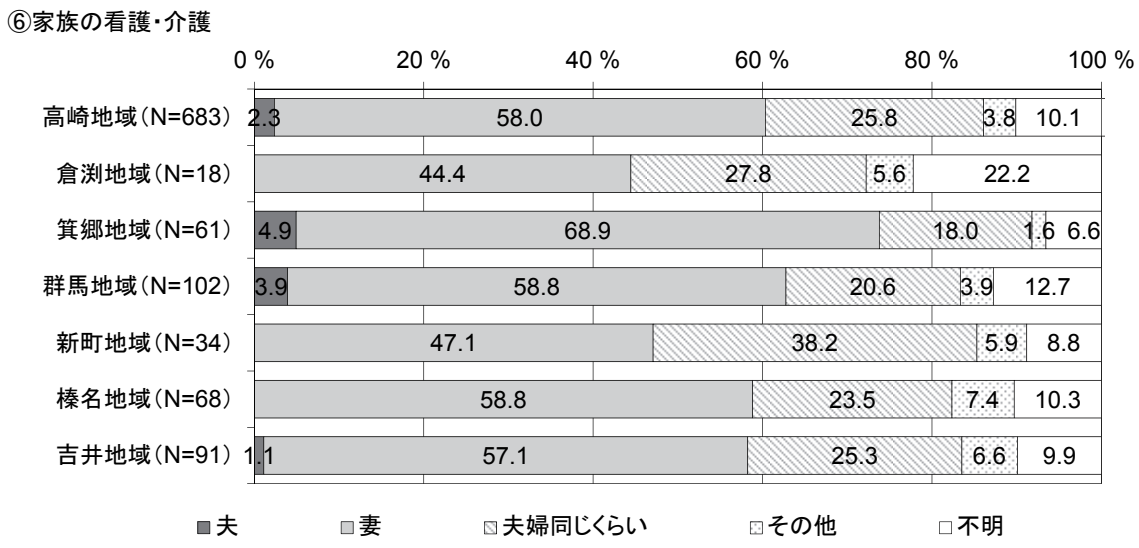
【地域別】

● すべての地域で「妻」が最も高い

● 新町地域は「夫婦同じくらい」が特に高い

すべての地域で「妻」が最も高く、特に箕郷地域（68.9%）が高くなっています。

また、新町地域は「夫婦同じくらい」（38.2%）が特に高くなっています。



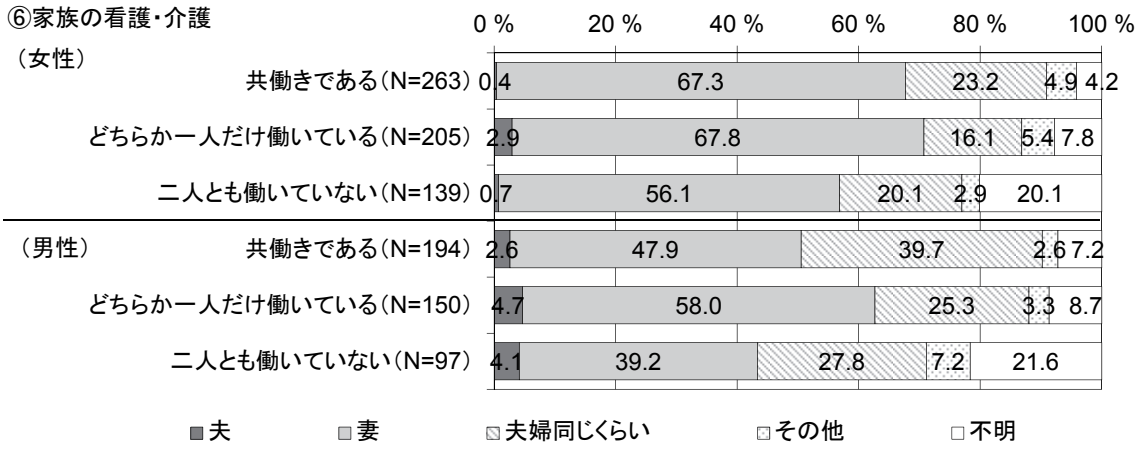
【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い

● 男性「共働き」は「夫婦同じくらい」が比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。

男性「共働きである」は「夫婦同じくらい」（39.7%）も比較的高くなっています。



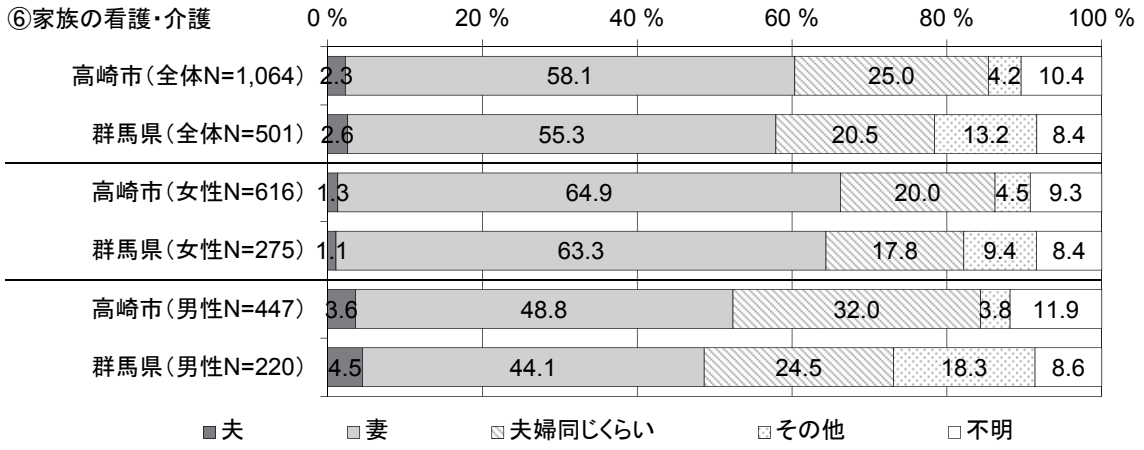
【性別×他調査との比較】

● 「妻」は群馬県より男性は高く、女性は同程度

● 「夫婦同じくらい」は男女とも群馬県より若干高い

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、女性は群馬県と同程度、男性は群馬県より若干高くなっています。

また、「夫婦同じくらい」は、男女とも群馬県より若干高くなっています。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上し、「高崎市」と同様に「あてはまらない」を除外

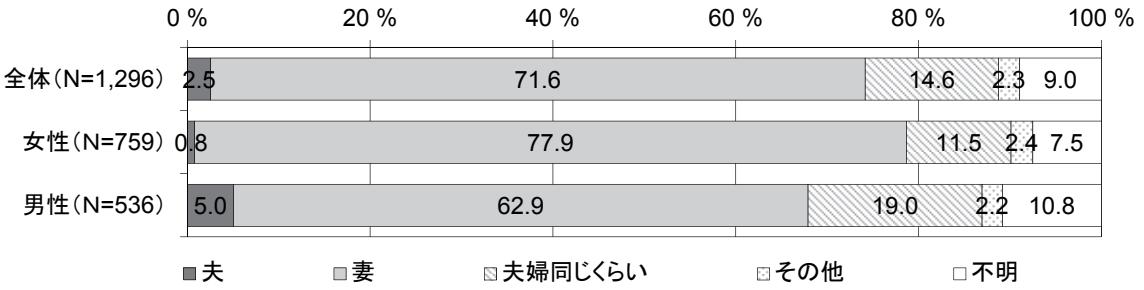
⑦学校行事等への参加（子どもがいない場合の「あてはまらない」を除外）

【全体・性別】

- **男女とも「妻」が最も高く、女性が約 8 割、男性が約 6 割**
- **男性は「夫婦同じくらい」も約 2 割**

男女とも「妻」（女性 77.9%、男性 62.9%）が最も高くなっています。また、男性は「夫婦同じくらい」（19.0%）も比較的高くなっています。

⑦学校行事への参加



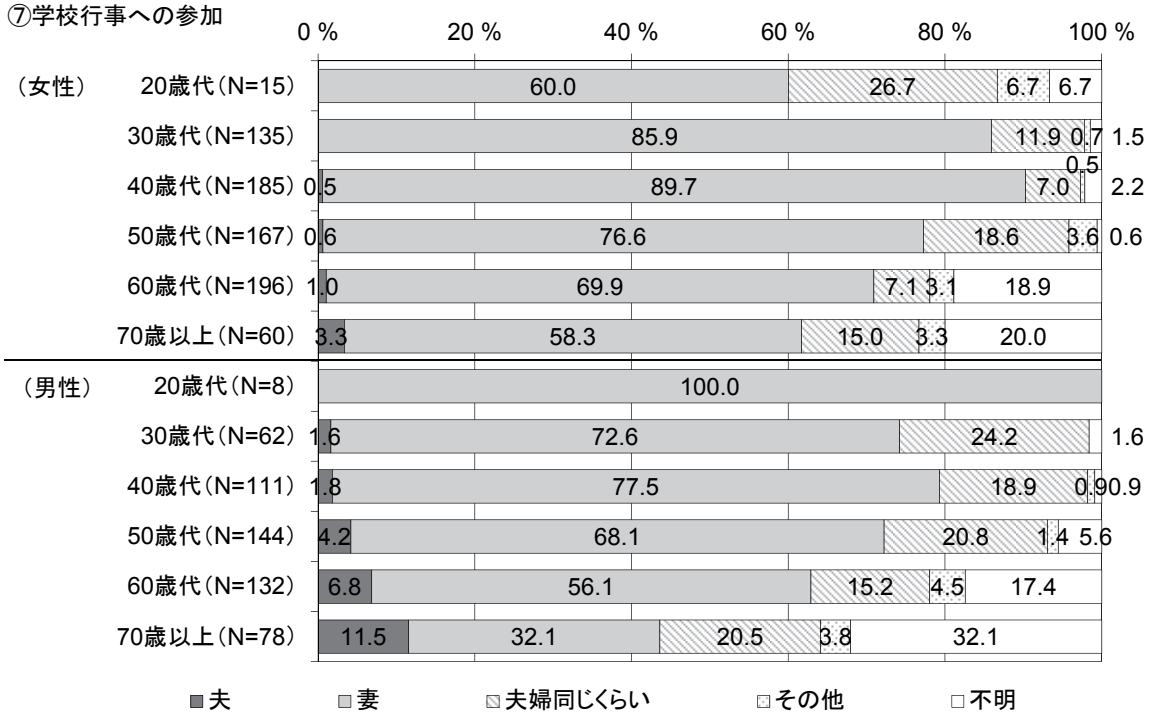
【性別×年代別】

- **男女ともすべての年代で「妻」が最も高い**
- **男性 60 歳代以上は「夫」、女性 20 歳代、男性 30 歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い**

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」は、回答者数が少ない男性 20 歳代を除くすべての年代で女性が高くなっています。

また、男性 60 歳代以上は「夫」（男性 60 歳代 6.8%、男性 70 歳以上 11.5%）、女性 20 歳代や男性 30 歳代は「夫婦同じくらい」（それぞれ 26.7%、24.2%）も比較的高くなっています。

⑦学校行事への参加



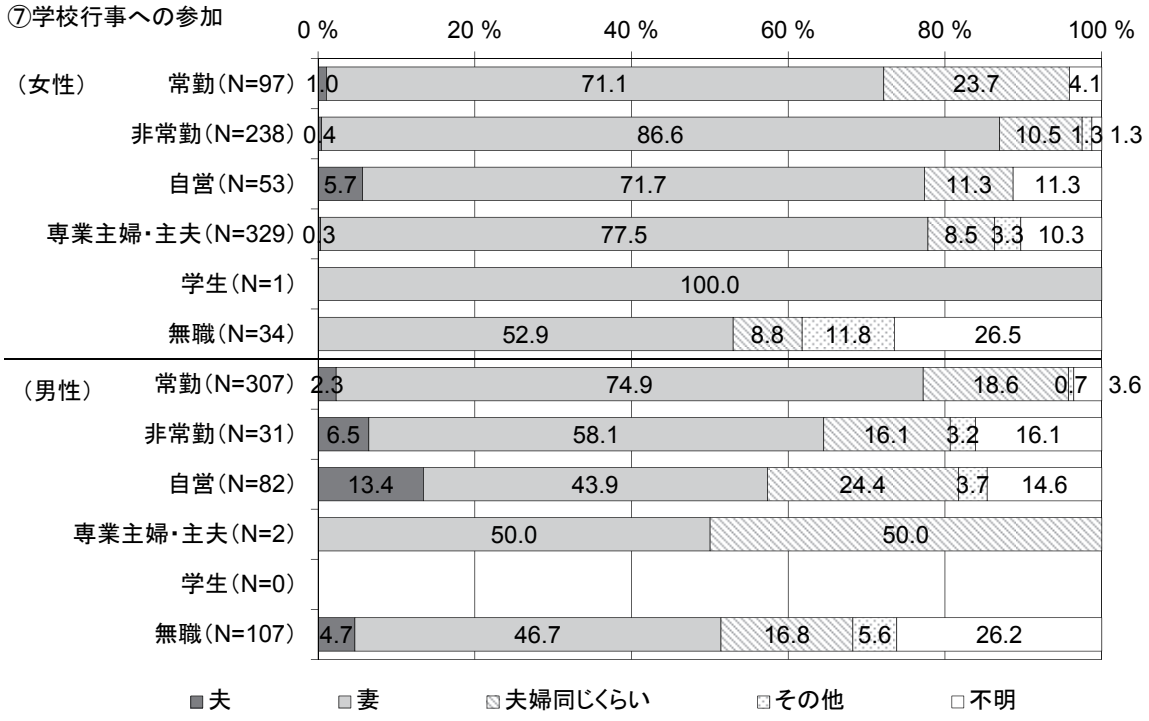
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い

● 男性自営は「夫」、女性常勤、男性自営は「夫婦同じくらい」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、男性自営は「夫」（13.4%）、女性常勤、男性自営は「夫婦同じくらい」（それぞれ23.7%、24.4%）も比較的高くなっています。



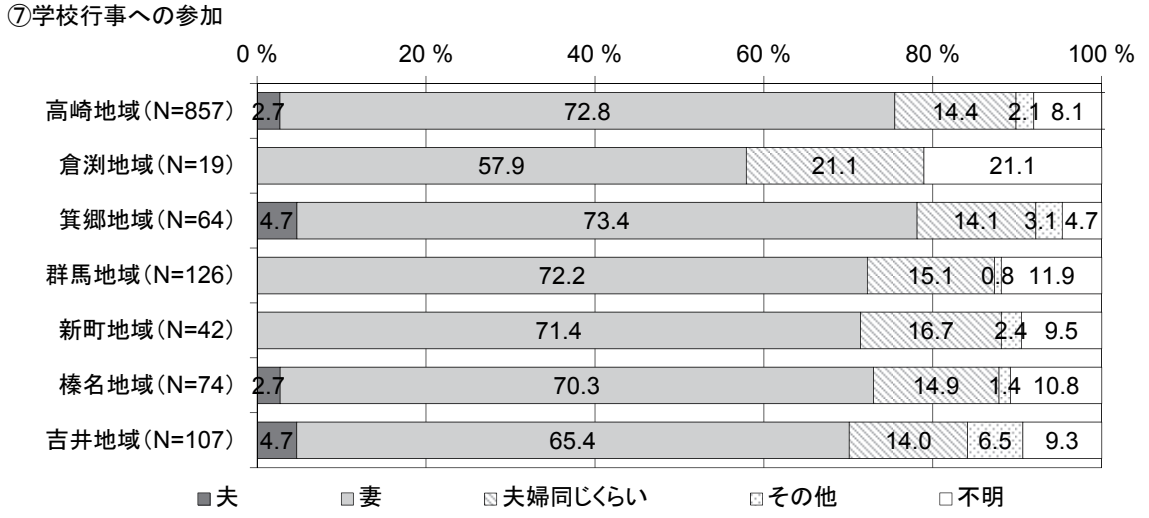
【地域別】

● すべての地域で「妻」が最も高い

● 倉渕地域は「夫婦同じくらい」が比較的高い

すべての地域で「妻」が最も高くなっています。

また、倉渕地域は「夫婦同じくらい」（21.1%）も比較的高くなっています。



【性別×働き方別】

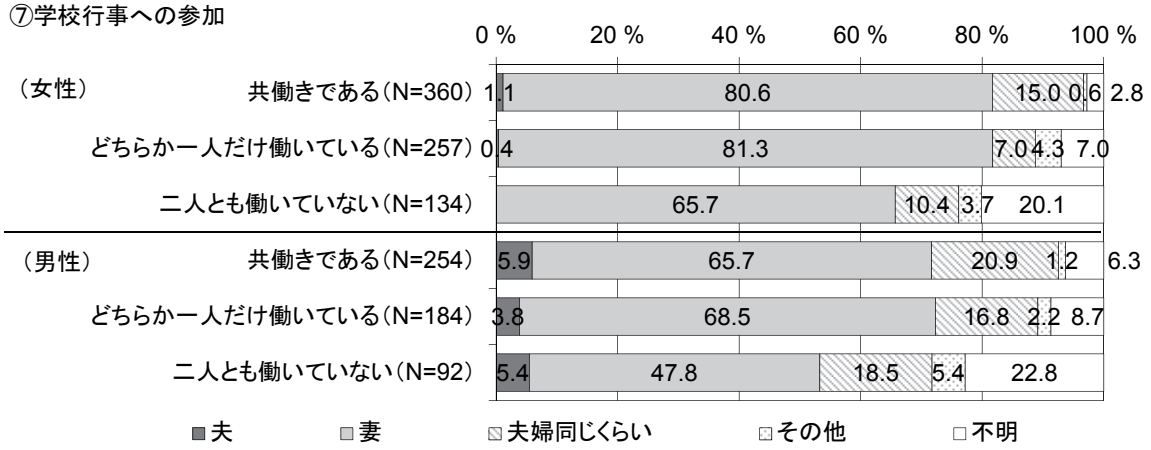
● 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い

● 男性「共働き」は「夫婦同じくらい」が比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。

男性「共働きである」は「夫婦同じくらい」（20.9%）も比較的高くなっています。

⑦学校行事への参加



【性別×他調査との比較】

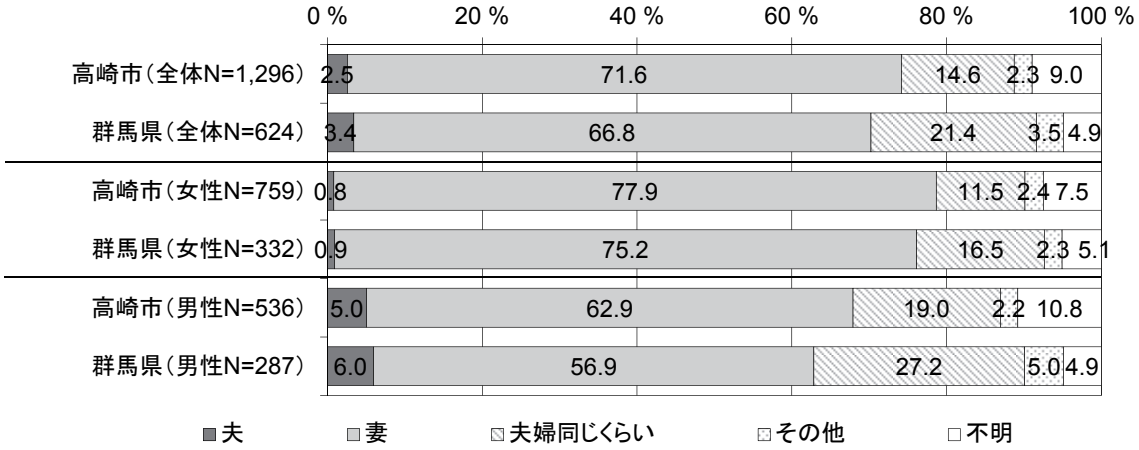
● 「妻」は男女とも群馬県より高い

● 「夫婦同じくらい」は男女とも群馬県より低い

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「妻」は、男女とも群馬県より若干高くなっています。

また、「夫婦同じくらい」は、男女とも群馬県より低くなっています。

⑦学校行事への参加



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上し、「高崎市」と同様に「あてはまらない」を除外

⑧自治会等の地域活動

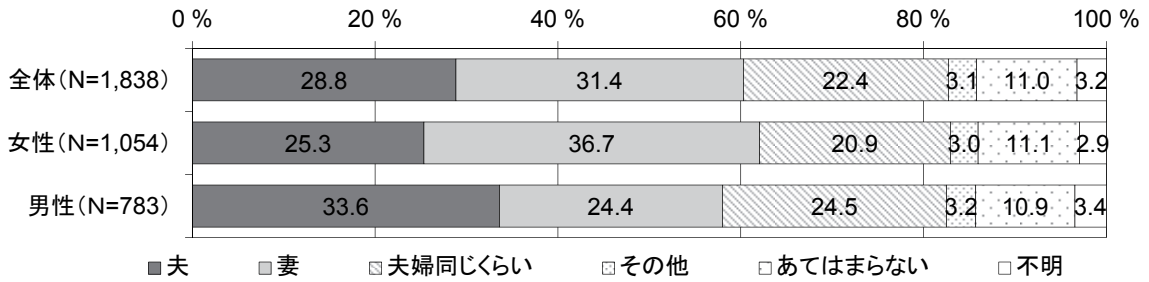
【全体・性別】

● 女性は「妻」、男性は「夫」が３割以上で最も高い

● 次いで女性は「夫」、男性は「妻」と「夫婦同じくらい」が同程度

女性は「妻」（36.7%）、男性は「夫」（33.6%）が最も高く、次いで女性は「夫」（25.3%）、男性は「妻」（24.4%）と「夫婦同じくらい」（24.5%）が同程度になっています。

⑧自治会等の地域活動



【性別×年代別】

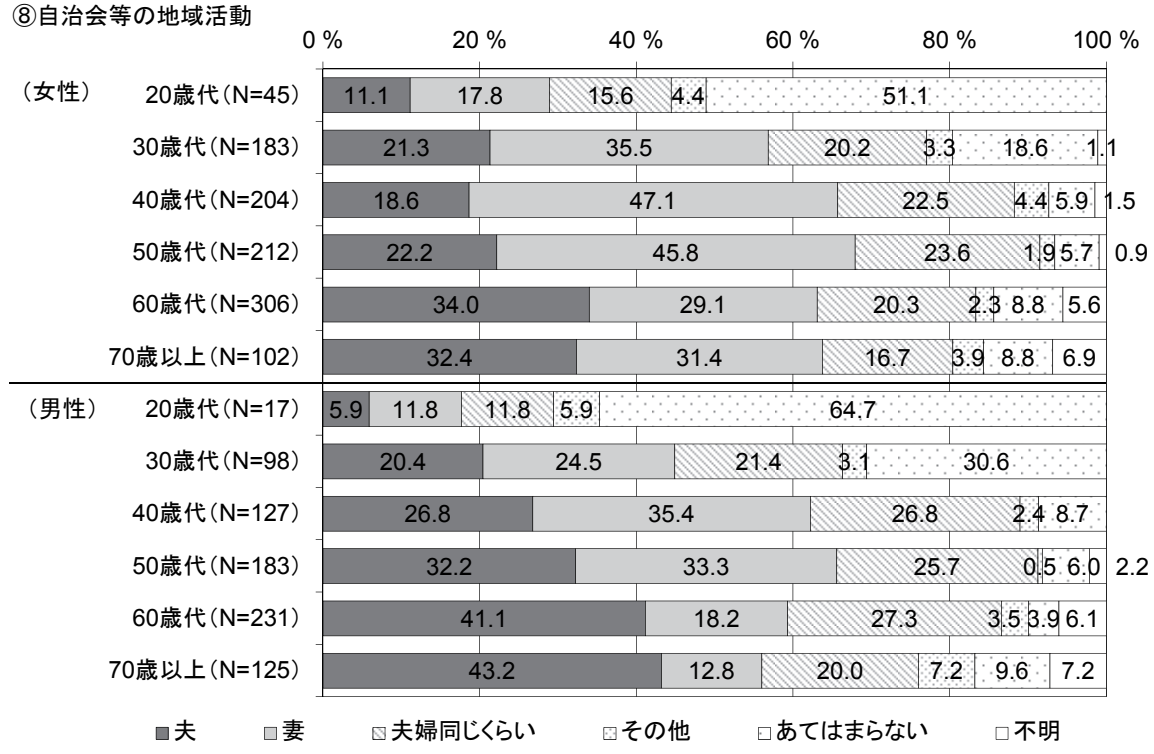
● 男女とも 30～50 歳代は「妻」、60 歳代以上は「夫」が最も高い

● 男女とも高い年代ほど「夫」が高い傾向

「あてはまらない」が高い 20 歳代を除くと、男女とも 30～50 歳代は「妻」、60 歳代以上は「夫」が最も高く、高い年代ほど「夫」が高くなる傾向が見られます（男性 30 歳代は「あてはまらない」（30.6%）が最も高い）。

一方、「夫婦同じくらい」は男女とも年代による大きな差は見られません。

⑧自治会等の地域活動



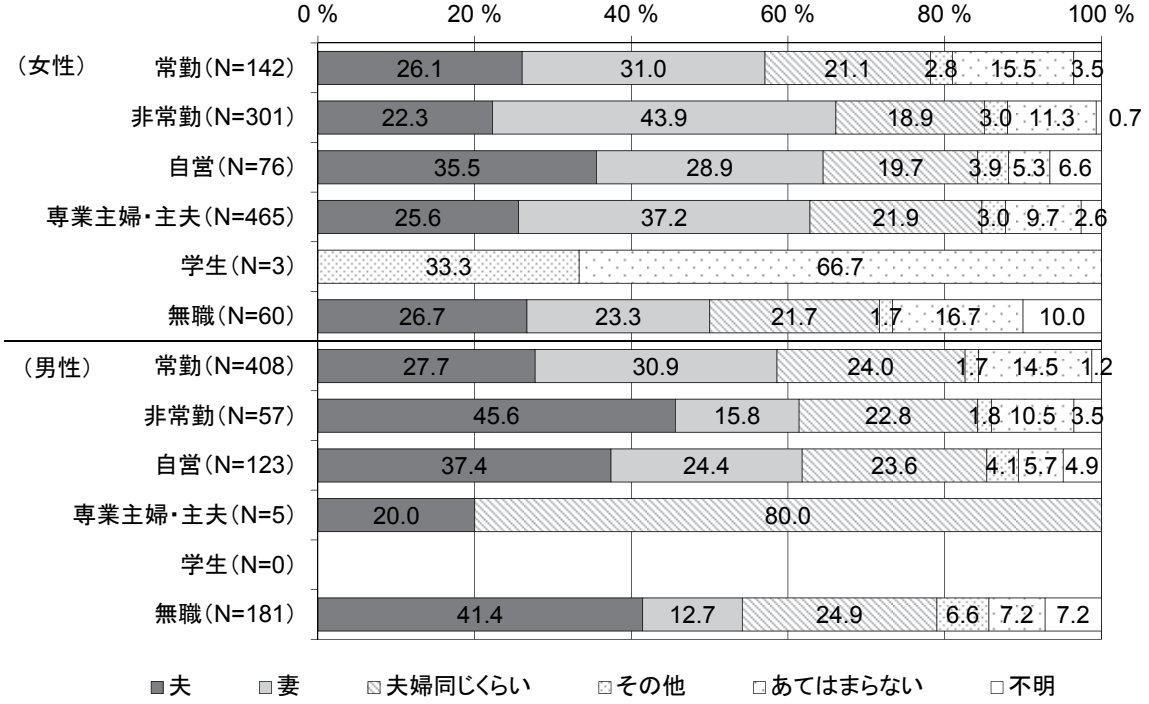
【性別×職業別】

● 「妻」は女性非常勤・専業主婦、「夫」は男性非常勤・無職、男女自営が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、「妻」は女性非常勤（43.9%）や女性専業主婦（37.2%）、「夫」は男性非常勤（45.6%）や男女自営（女性 35.5%、男性 37.4%）、男性無職（41.4%）が比較的高くなっています。

一方、「夫婦同じくらい」は男女とも職業による大きな差は見られません。

⑧自治会等の地域活動



【地域別】

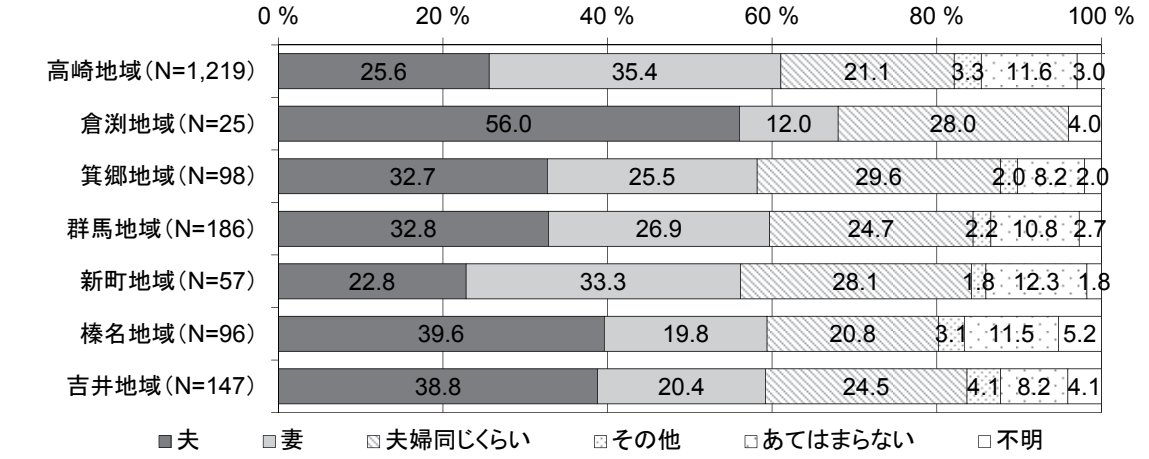
● 高崎・新町地域は「妻」、それ以外は「夫」が最も高い

● 倉渕・箕郷・新町地域は「夫婦同じくらい」が比較的高い

高崎・新町地域を除くすべての地域で「夫」が最も高く、特に倉渕地域（56.0%）が高くなっています。高崎・新町地域は「妻」（それぞれ 35.4%、33.3%）が最も高くなっています。

また、倉渕・箕郷・新町地域は「夫婦同じくらい」（それぞれ 28.0%、29.6%、28.1%）も比較的高くなっています。

⑧自治会等の地域活動



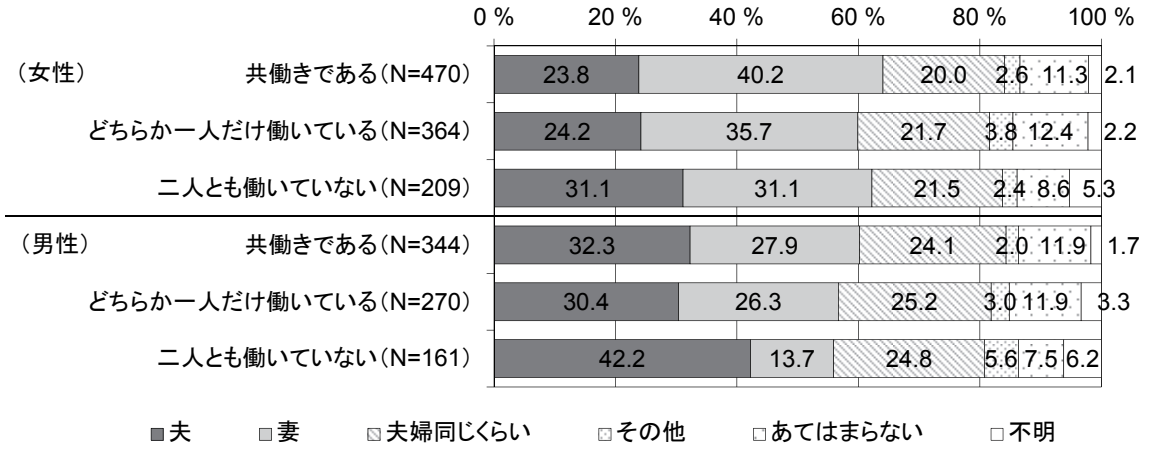
【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず女性は「妻」、男性は「夫」が最も高い

● 男性「二人とも働いていない」は「夫」が特に高い

働き方にかかわらず、女性は「妻」(「二人とも働いていない」は「夫」と同値)、男性は「夫」が最も高くなっています。特に男性「二人とも働いていない」は「夫」(42.2%)が高くなっています。

⑧自治会等の地域活動



【性別×他調査との比較】

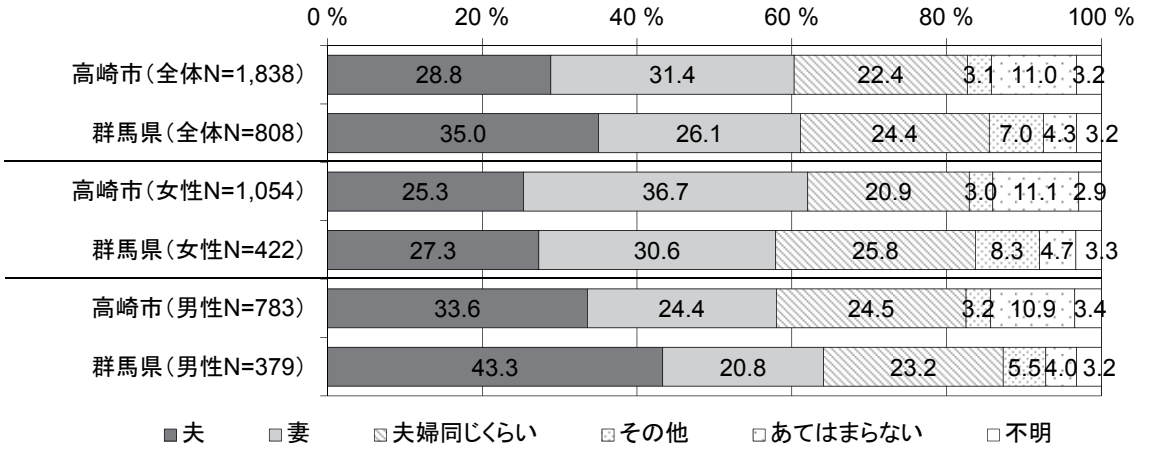
● 男女とも「妻」は群馬県より高く、「夫」は群馬県より男性は低く、女性は同程度

● 「夫婦同じくらい」は群馬県より女性は低く、男性は同程度

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「夫」は、女性では群馬県と同程度になっていますが、男性では群馬県より低くなっています。「妻」は、男女とも群馬県より高くなっています。

また、「夫婦同じくらい」は、女性は群馬県より低く、男性は群馬県と同程度になっています。

⑧自治会等の地域活動



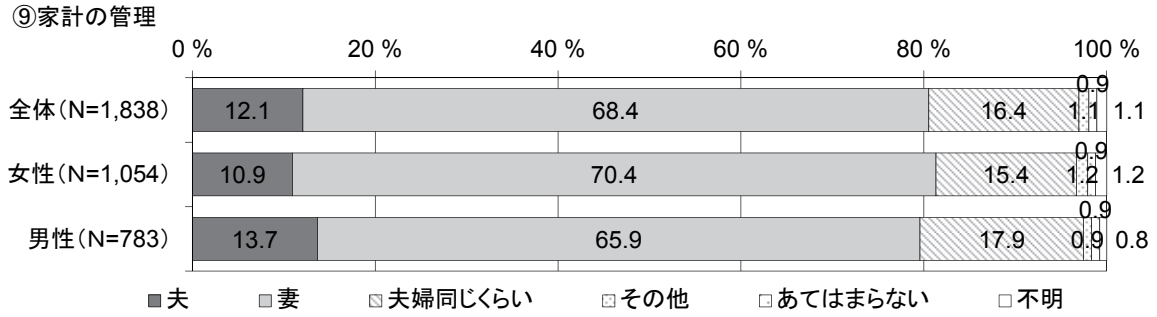
※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

⑨家計の管理

【全体・性別】

● 男女とも「妻」が約７割で最も高い

男女とも「妻」（女性 70.4%、男性 65.9%）が最も高く、性別による大きな差は見られません。



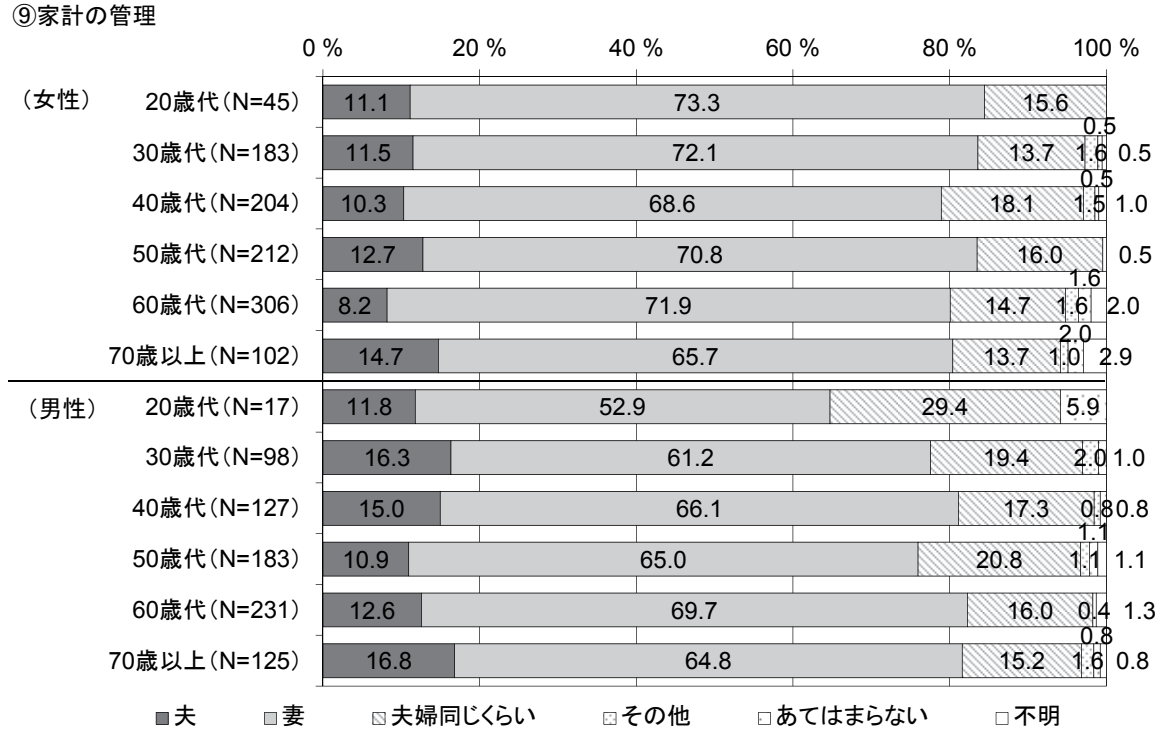
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「妻」が最も高い

● 男性 20 歳代は「夫婦同じくらい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「妻」が最も高くなっています。また、「妻」は、すべての年代で女性が高くなっています。

男性 20 歳代は「夫婦同じくらい」（29.4%）も比較的高くなっています。



【性別×職業別】

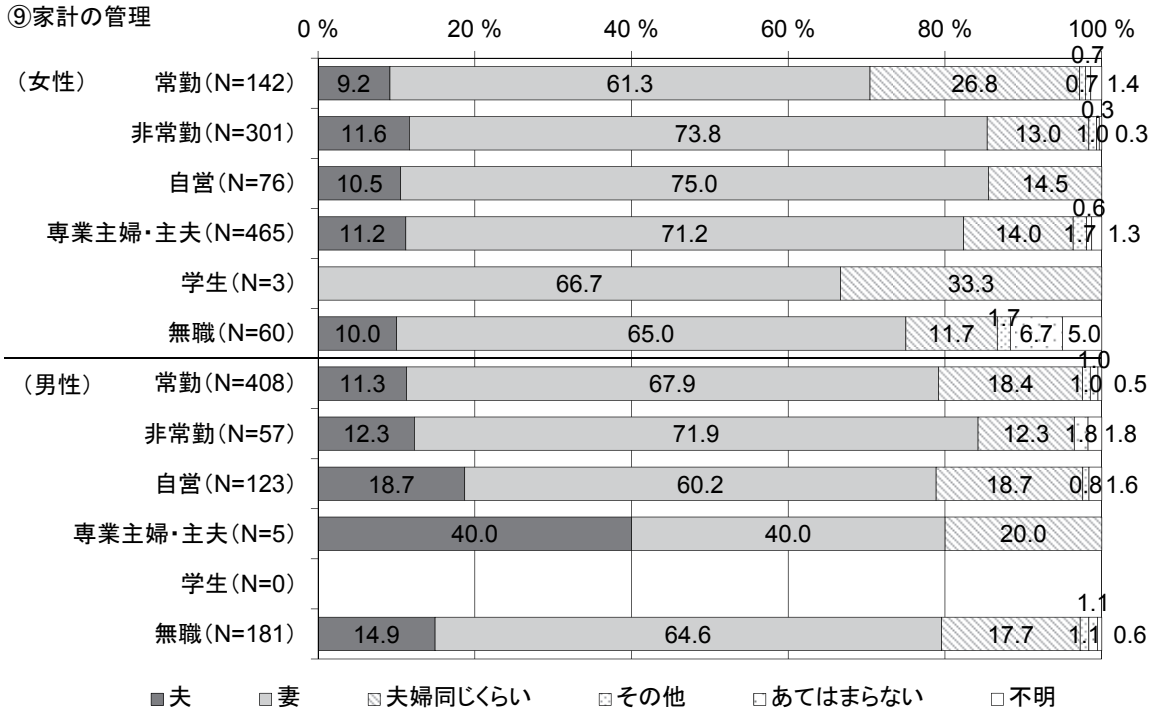
● 男女ともすべての職業で「妻」が最も高い

● 女性常勤は「夫婦同じくらい」、男性自営は「夫」が比較的高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、男女ともすべての職業で「妻」が最も高くなっています。

また、女性常勤は「夫婦同じくらい」（26.8%）、男性自営は「夫」（18.7%）も比較的高くなっています。

⑨家計の管理



【地域別】

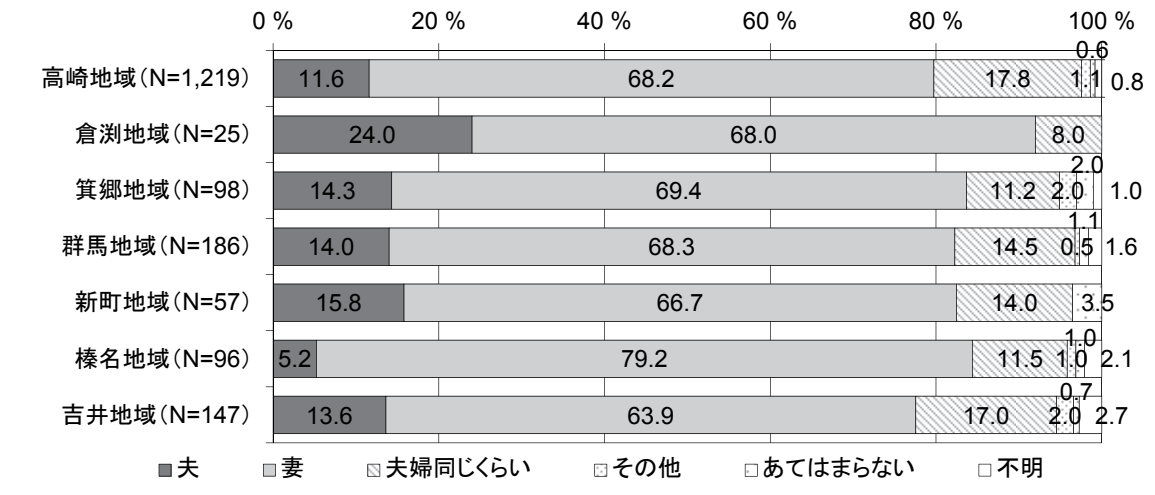
● すべての地域で「妻」が最も高く、特に榛名地域が高い

● 倉渕地域は「夫」が比較的高い

すべての地域で「妻」が最も高く、特に榛名地域（79.2%）で高くなっています。

また、倉渕地域は「夫」（24.0%）も比較的高くなっています。

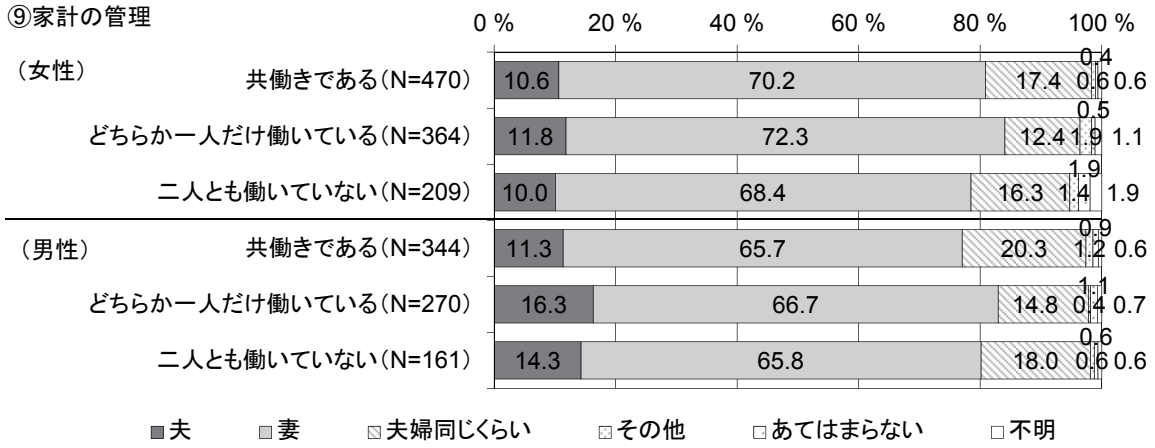
⑨家計の管理



【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「妻」が最も高い

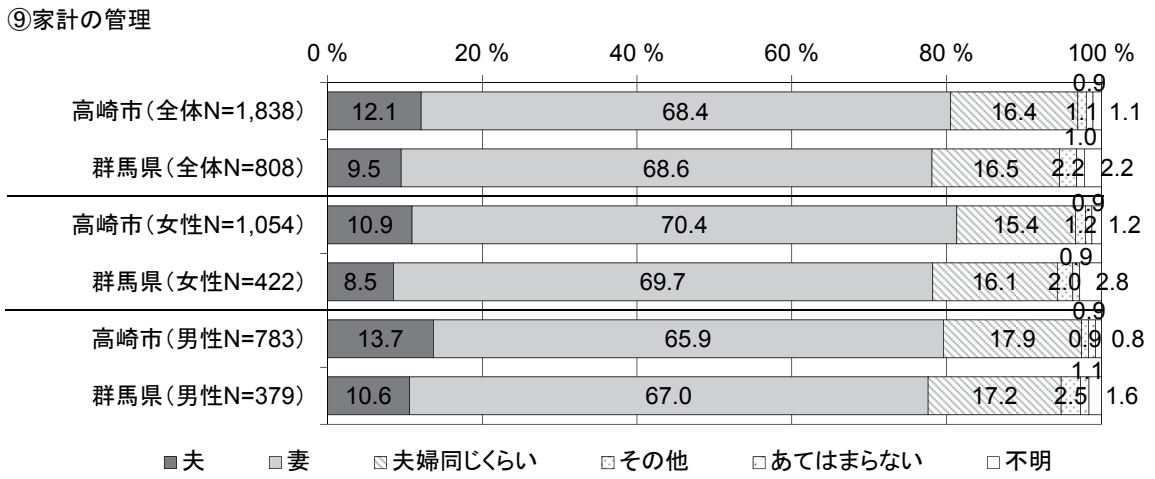
働き方にかかわらず、男女とも「妻」が最も高くなっています。また、働き方にかかわらず、「妻」は女性が高くなっています。



【性別×他調査との比較】

● 男女とも群馬県と大きな差は見られない

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、男女とも群馬県と大きな差は見られません。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

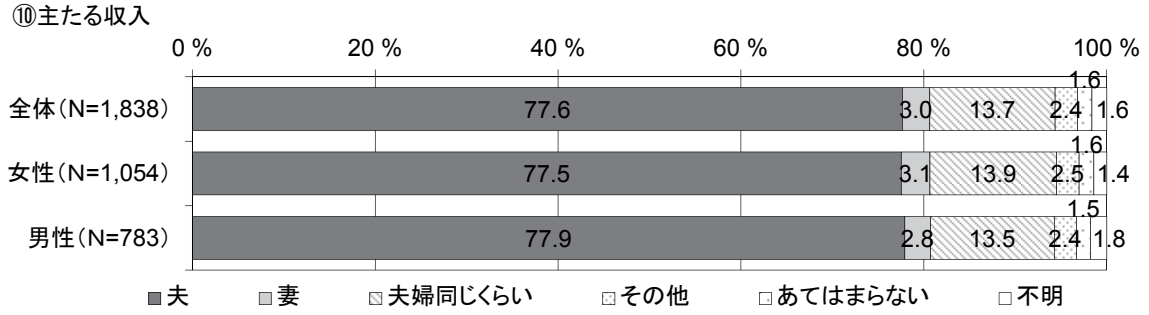
⑩主たる収入

【全体・性別】

【性別】

● 男女とも「夫」が約 8 割で最も高い

男女とも「夫」（女性 77.5%、男性 77.9%）が最も高く、性別による大きな差は見られません。



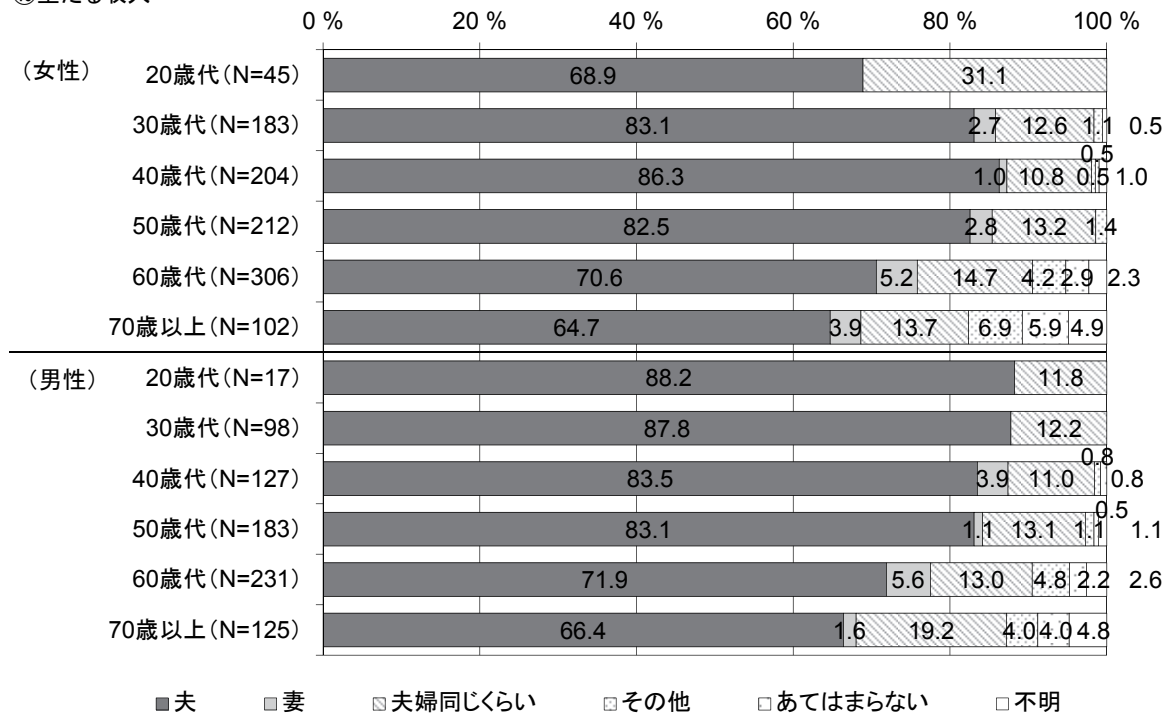
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「夫」が最も高く、若い年代ほど値が高い傾向

● 女性 20 歳代は「夫婦同じくらい」が特に高い

男女ともすべての年代で「夫」が最も高く、女性 20 歳代を除いて若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。

女性 20 歳代は「夫婦同じくらい」（31.1%）が特に高くなっています。



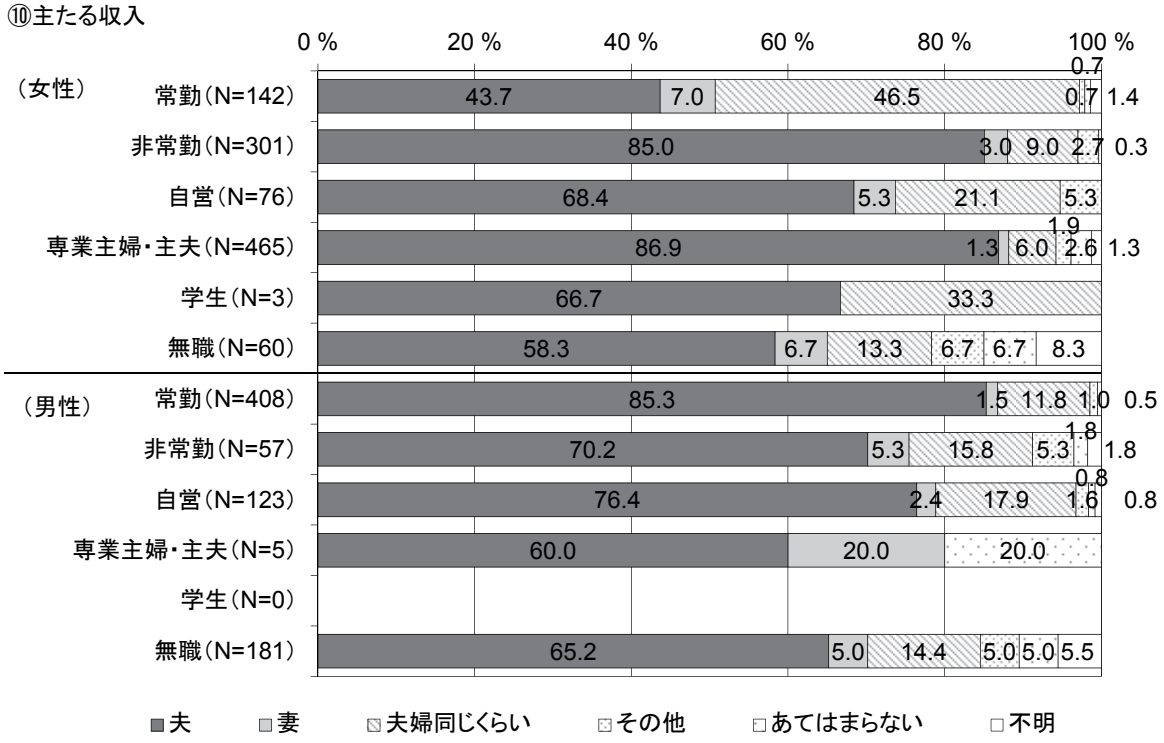
【性別×職業別】

● 女性常勤は「夫婦同じくらい」、それ以外は「夫」が最も高い

回答者数が少ない男性専業主夫や学生を除くと、女性常勤を除くすべての職業で「夫」が最も高くなっています。特に女性非常勤（85.0%）、女性専業主婦（86.9%）、男性常勤（85.3%）は８割以上となっています。

女性常勤は「夫婦同じくらい」（46.5%）が最も高くなっています。

⑩主たる収入



【地域別】

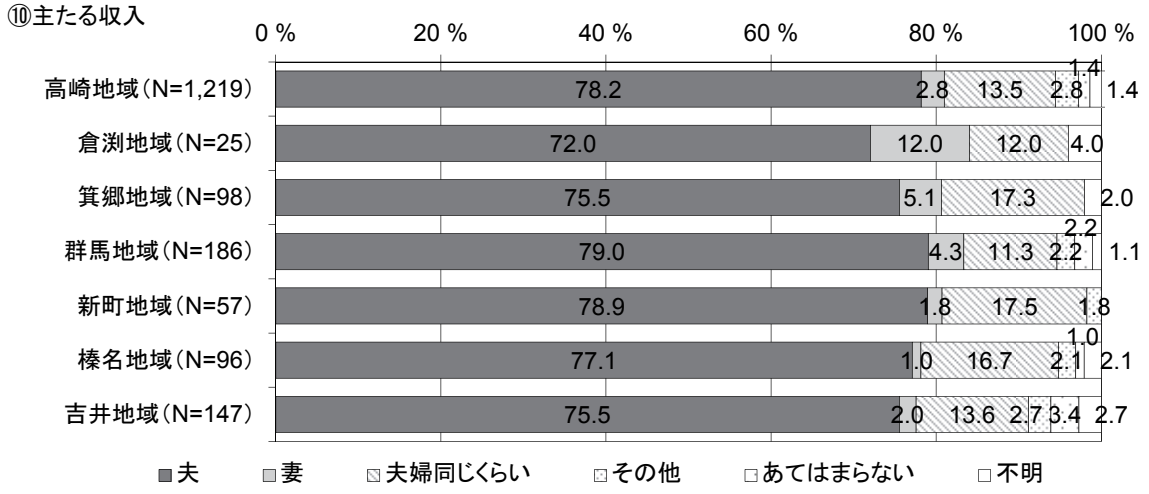
● すべての地域で「夫」が最も高い

● 倉渕地域は「妻」が比較的高い

すべての地域で「夫」が最も高くなっています。

また、倉渕地域は「妻」（12.0%）が比較的高くなっています。

⑩主たる収入



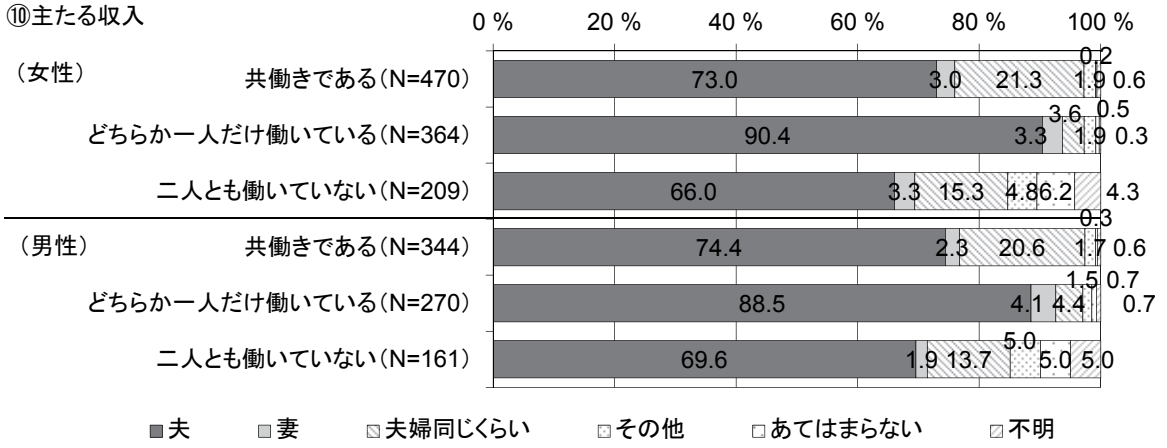
【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「夫」が最も高く、男女とも「どちらか一人だけ働いている」が特に高い

● 男女とも「共働き」でも「夫」が約７割

働き方にかかわらず、男女とも「夫」が最も高くなっています。また、「夫」は男女とも「どちらか一人だけ働いている」（女性 90.4%、男性 88.5%）が特に高くなっています。

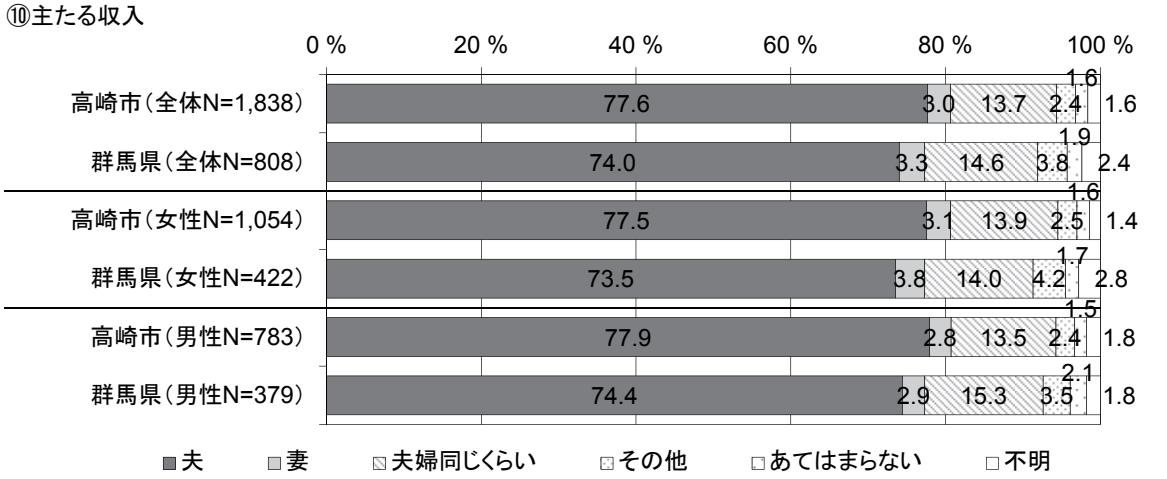
男女とも「共働きである」は「夫婦同じくらい」（女性 21.3%、男性 20.6%）も比較的高くなっていますが、「夫」が約７割（女性 73.0%、男性 74.4%）を占めています。



【性別×他調査との比較】

● 「夫」は男女とも群馬県より若干高い

群馬県とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「夫」は男女とも群馬県より若干高くなっています。



※「群馬県」は選択肢が、「夫」「妻」「夫婦同じくらい」「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」「あてはまらない」「無回答」であるため、「子ども」「家族全員」「その他の人」「わからない」を合わせて「その他」として計上

問５　以下について、あなたは平日にどのくらいの時間を費やしていますか。

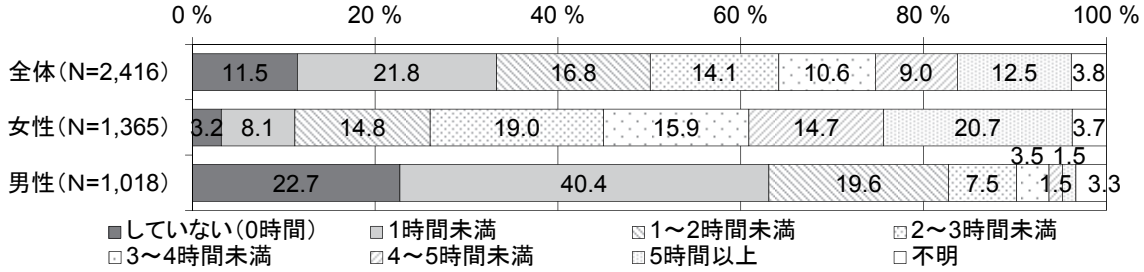
①家事（買い物を含む）や子育て、介護等

【全体・性別】

● **女性は「2 時間以上」が約 7 割、男性は「2 時間未満」が約 8 割**

女性は「5 時間以上」（20.7%）や「2～3 時間未満」（19.0%）、「3～4 時間未満」（15.9%）が比較的高く、これら「2 時間以上」（70.3%）が約 7 割を占めています。

男性は「1 時間未満」（40.4%）が最も高く、次いで「していない（0 時間）」（22.7%）、「1～2 時間未満」（19.6%）も比較的高く、これら「2 時間未満（「していない」を含む）」（82.7%）が約 8 割を占めています。



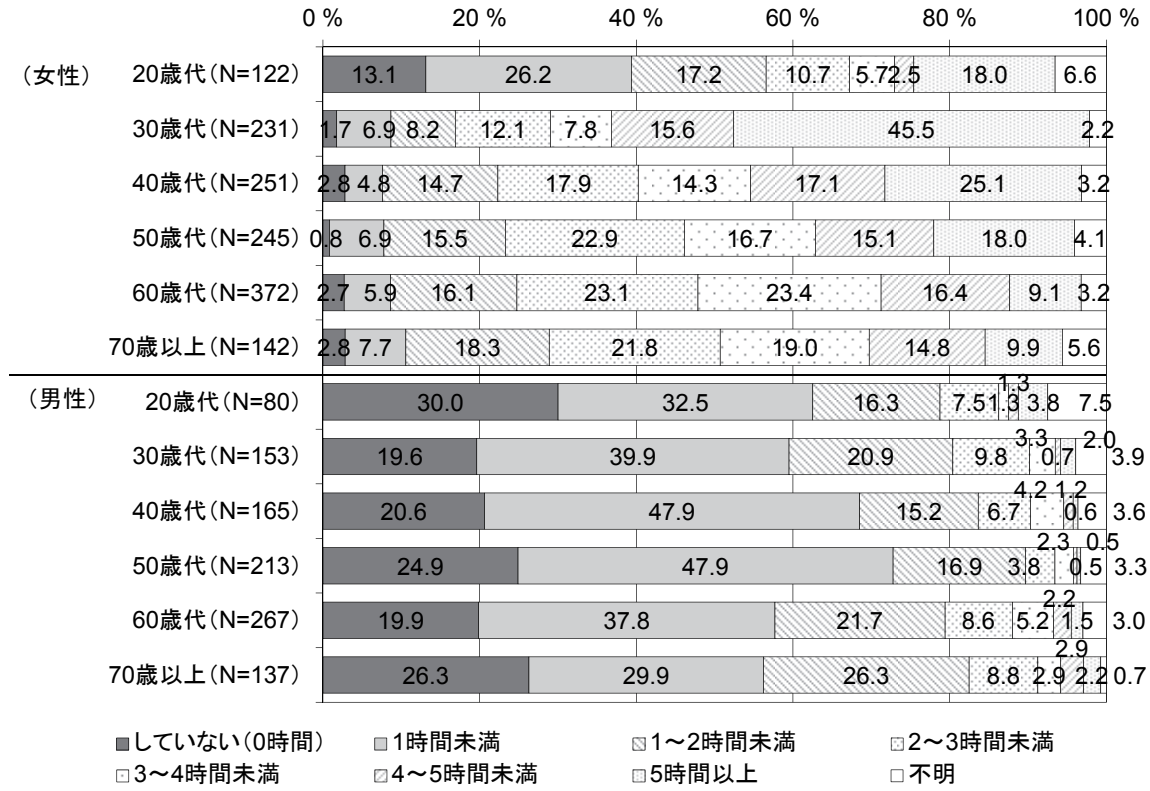
【性別×年代別】

● **女性は 20 歳代を除くすべての年代で「2 時間以上」が約 7～8 割**

● **男性はすべての年代で「1 時間未満」が最も高く、「2 時間未満」は約 8～9 割**

女性は 20 歳代を除くすべての年代で「2 時間以上」が約 7～8 割を占めており、女性 30 歳代以上では若い年代ほど長時間になる傾向が見られます。女性 30 歳代は「5 時間以上」（45.5%）が特に高くなっています。

男性はすべての年代で「1 時間未満」が最も高くなっており、「2 時間未満（「していない」を含む）」が約 8～9 割を占めています。



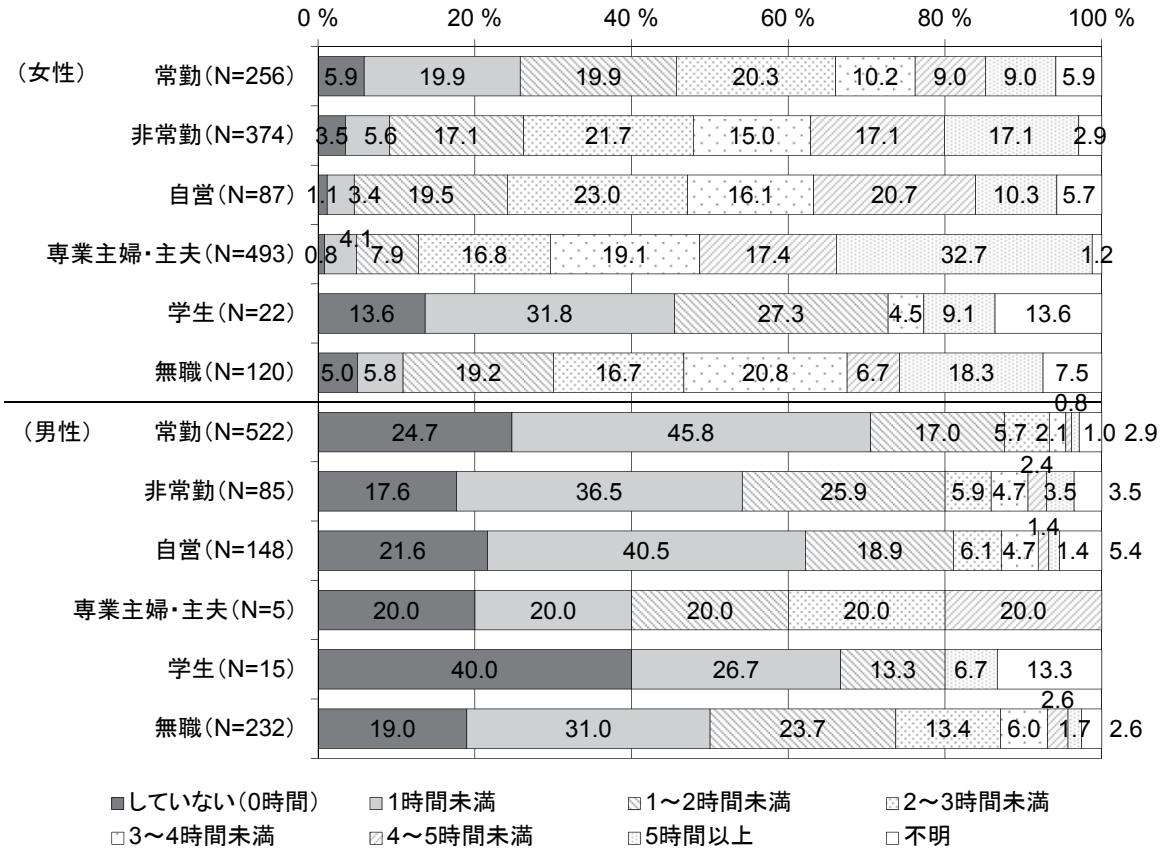
【性別×職業別】

● 女性専業主婦は「5 時間以上」が最も高い

● 男性はすべての職業で「していない」または「1 時間未満」が最も高い

女性は「2 時間以上」を見ると、専業主婦（86.0%）が最も高く、専業主婦は特に「5 時間以上」（32.7%）が高くなっています。「2 時間以上」は非常勤（70.9%）や自営（70.1%）も約 7 割、無職（62.5%）も約 6 割を占める一方、常勤（48.5%）や学生（13.6%）は低くなっています。

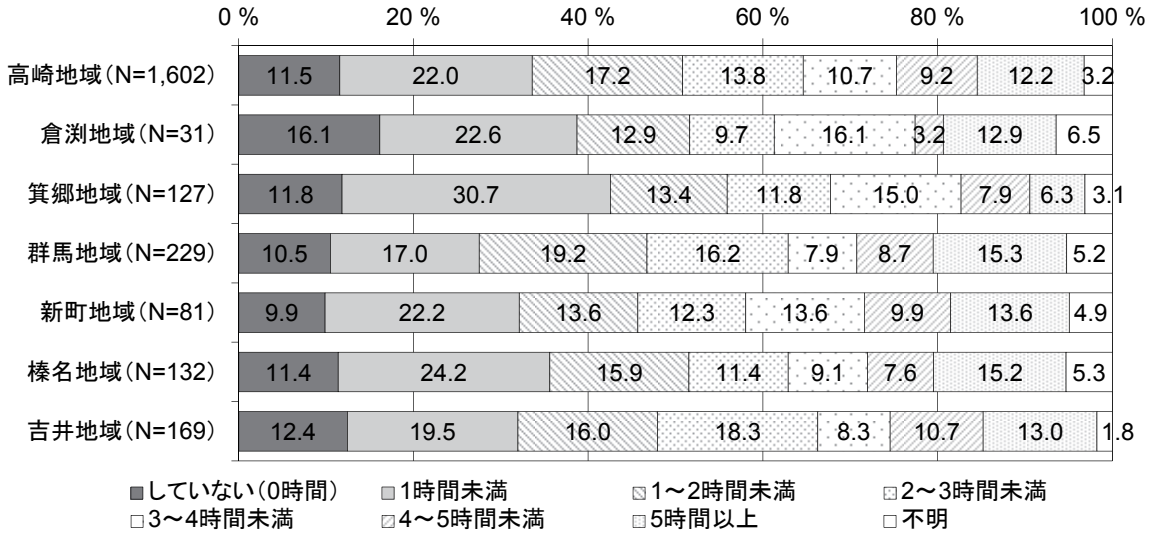
男性は回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、学生を除くすべての職業で「1 時間未満」が最も高く、学生は「していない（0 時間）」（40.0%）が最も高くなっています。



【地域別】

● 群馬地域は「1～2 時間未満」、それ以外は「1 時間未満」が最も高い

群馬地域を除くすべての地域で「1 時間未満」が最も高く、特に箕郷地域（30.7%）が高くなっています。群馬地域は「1～2 時間未満」（19.2%）が最も高くなっています。「2 時間未満」は箕郷地域（55.9%）が最も高くなっています。



【性別×結婚経験別】

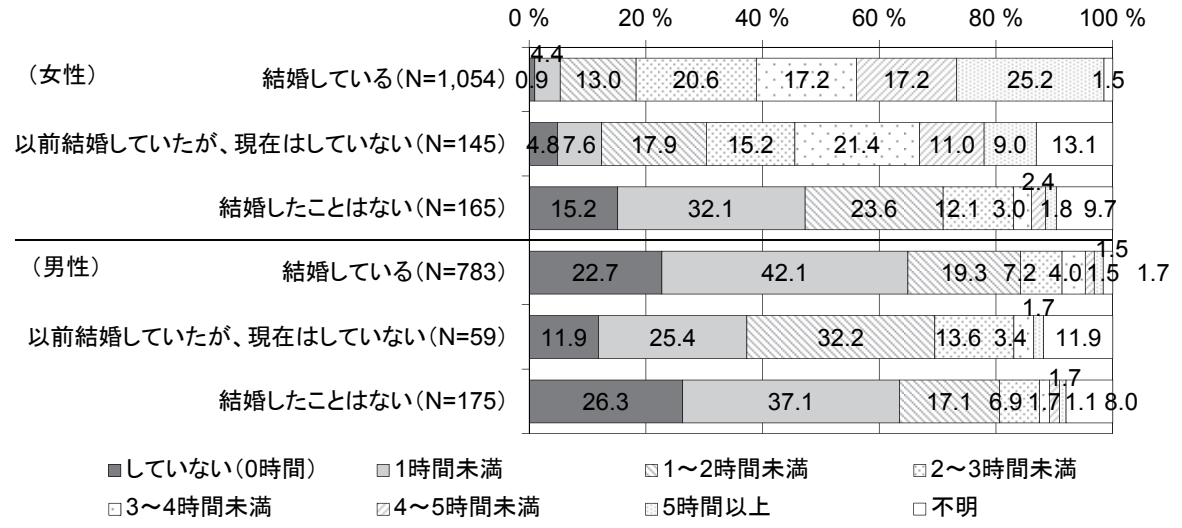
● 男女とも結婚経験によって傾向が異なる

● 女性「結婚している」は「5 時間以上」が最も高い

● 男女とも「結婚したことはない」は「1 時間未満」が最も高い

女性は、「結婚している」は「5 時間以上」（25.2%）、「以前結婚していたが、現在はしていない」は「3～4 時間未満」（21.4%）、「結婚したことはない」は「1 時間未満」（32.1%）がそれぞれ最も高くなっています。また、女性「結婚している」は「2 時間以上」（80.2%）が特に高くなっています。

男性は、「結婚している」「結婚したことはない」は「1 時間未満」（それぞれ 42.1%、37.1%）、「以前結婚していたが、現在はしていない」は「1～2 時間未満」（32.2%）がそれぞれ最も高くなっています。また、男性「結婚している」「結婚したことはない」は「2 時間未満」（それぞれ 84.1%、80.5%）が高くなっています。



【性別×働き方別】

● 女性は「共働き」「二人とも働いていない」と「どちらか一人だけ働いている」とで傾向が異なる

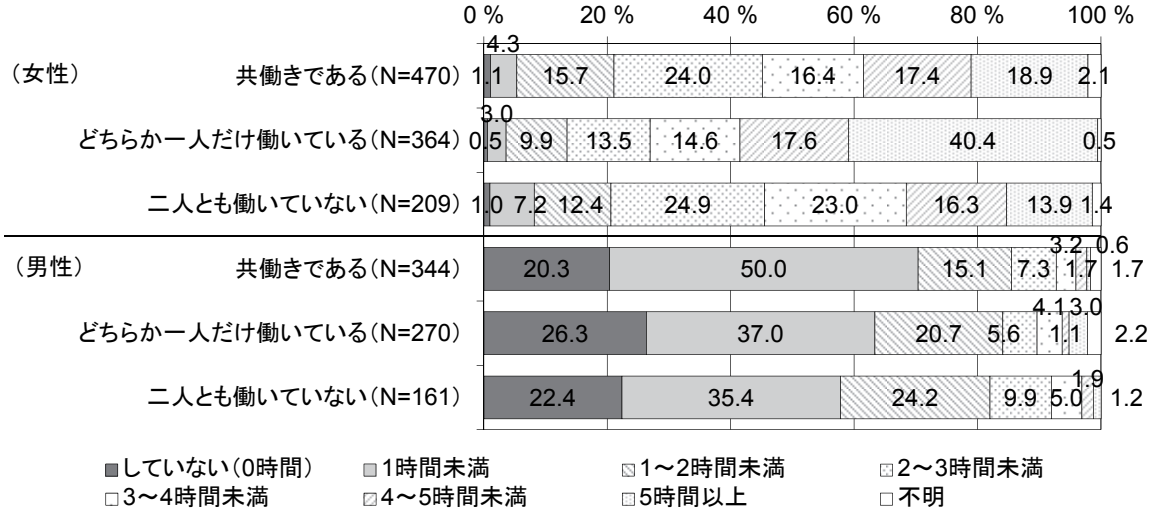
● 男性は働き方にかかわらず「1 時間未満」が最も高い

● 「共働き」でも女性約 8 割が「2 時間以上」、男性 8 割以上が「2 時間未満」

女性は、「共働きである」や「二人とも働いていない」は「2～3 時間未満」（それぞれ 24.0%、24.9%）、「どちらか一人だけ働いている」は「5 時間以上」（40.4%）がそれぞれ最も高くなっています。

男性は、働き方にかかわらず「1 時間未満」が最も高くなっています。

「共働きである」を見ると、女性は約 8 割（76.7%）が「2 時間以上」ですが、男性は 8 割以上（85.4%）が「2 時間未満」であり、「していない（0 時間）」も 2 割（20.3%）となっています。



②仕事（通勤を含む）（専業主婦・主夫、学生、無職を除外）

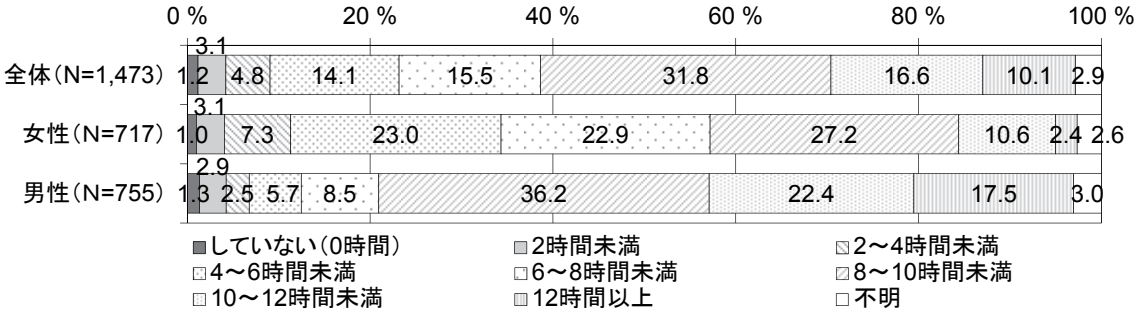
【全体・性別】

● 男女とも「8～10 時間未満」が最も高い

● 女性は「8 時間未満」が約 6 割、男性は「8 時間以上」が約 8 割

男女とも「8～10 時間未満」（女性 27.2%、男性 36.2%）が最も高くなっています。また、女性は「4～6 時間未満」（23.0%）や「6～8 時間未満」（22.9%）も比較的高く、これら「8 時間未満」（57.3%）が約 6 割を占めています。

男性は「10～12 時間未満」（22.4%）なども比較的高く、これら「8 時間以上」（76.1%）が約 8 割を占めています。



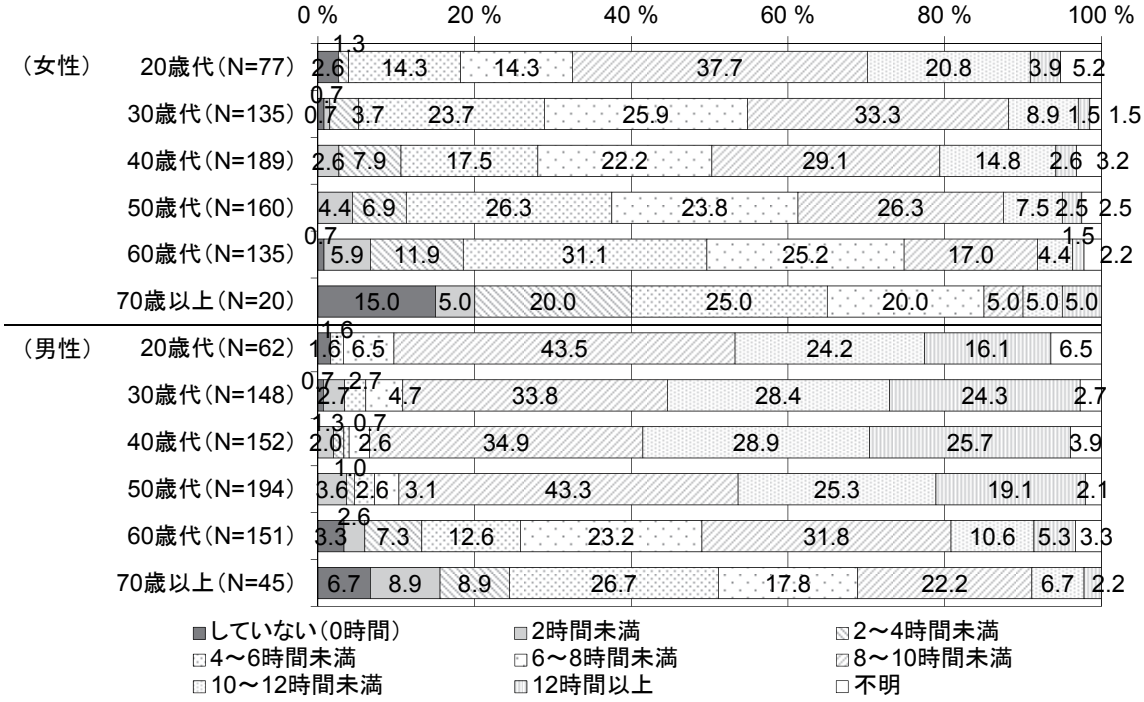
【性別×年代別】

● 女性 60 歳以上や男性 70 歳以上は「4～6 時間未満」、それ以外は「8～10 時間未満」が最も高い

● 男性 30・40 歳代は「12 時間以上」が 2 割以上

女性 60 歳以上、男性 70 歳以上を除くすべての年代で「8～10 時間未満」が最も高くなっています（女性 50 歳代は「4～6 時間未満」（26.3%）と同値）。女性 60 歳以上や男性 70 歳以上は「4～6 時間未満」が最も高くなっています。

また、男性は「12 時間以上」が 30・40 歳代（それぞれ 24.3%、25.7%）で高くなっています。



【性別×職業別】

● 男女常勤、男性非常勤・自営は「8～10 時間未満」が最も高い

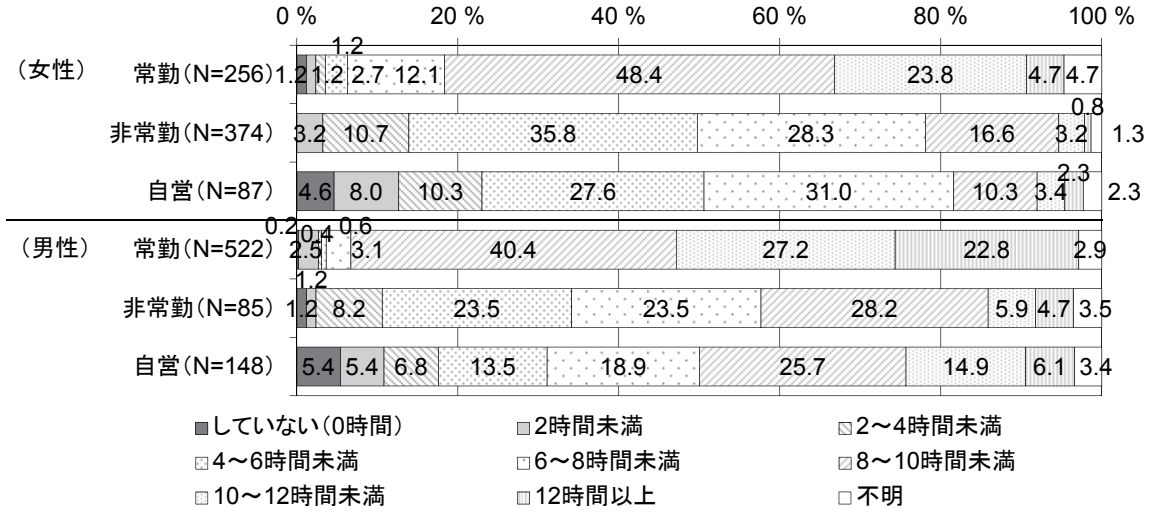
● 女性非常勤は「4～6 時間」、女性自営は「6～8 時間」が最も高い

● 男性常勤は「12 時間以上」が 2 割以上

男女常勤や男性非常勤・自営は「8～10 時間未満」が最も高くなっています。

一方、女性非常勤は「4～6 時間未満」（35.8%）、女性自営は「6～8 時間未満」（31.0%）が最も高くなっています。

また、男性は「12 時間以上」が常勤（22.8%）で特に高くなっています。



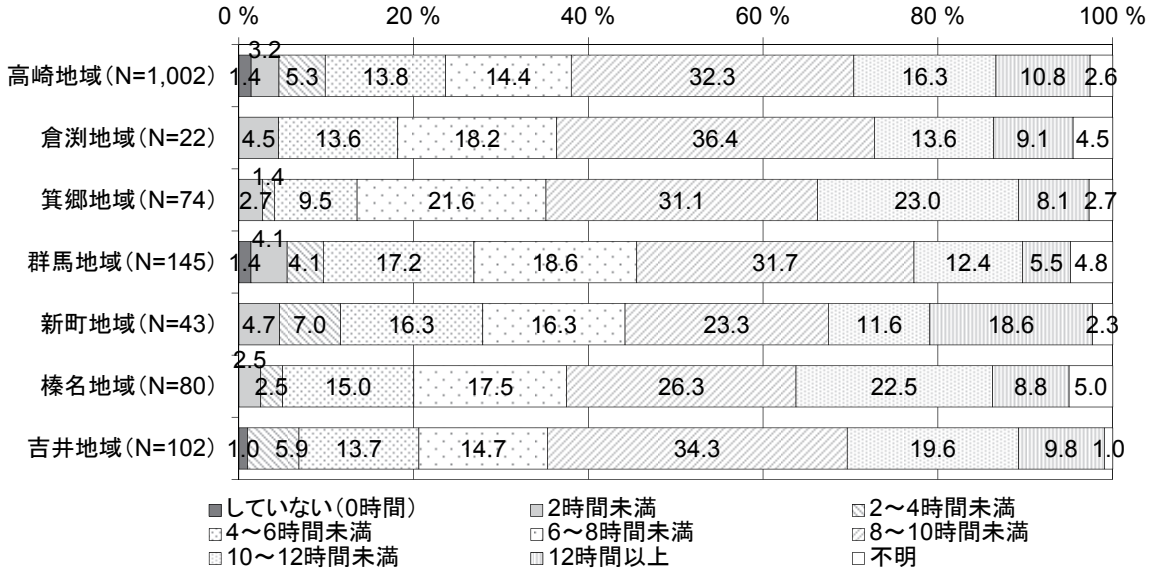
【地域別】

● すべての地域で「8～10 時間未満」が最も高い

● 群馬・新町地域は「8 時間未満」が比較的高いが、新町地域は「12 時間以上」も高い

すべての地域で「8～10 時間未満」が最も高くなっています。

また、群馬地域や新町地域は「8 時間未満」（それぞれ 45.4%、44.3%）が比較的高くなっていますが、新町地域は「12 時間以上」（18.6%）も高くなっています。



【性別×結婚経験別】

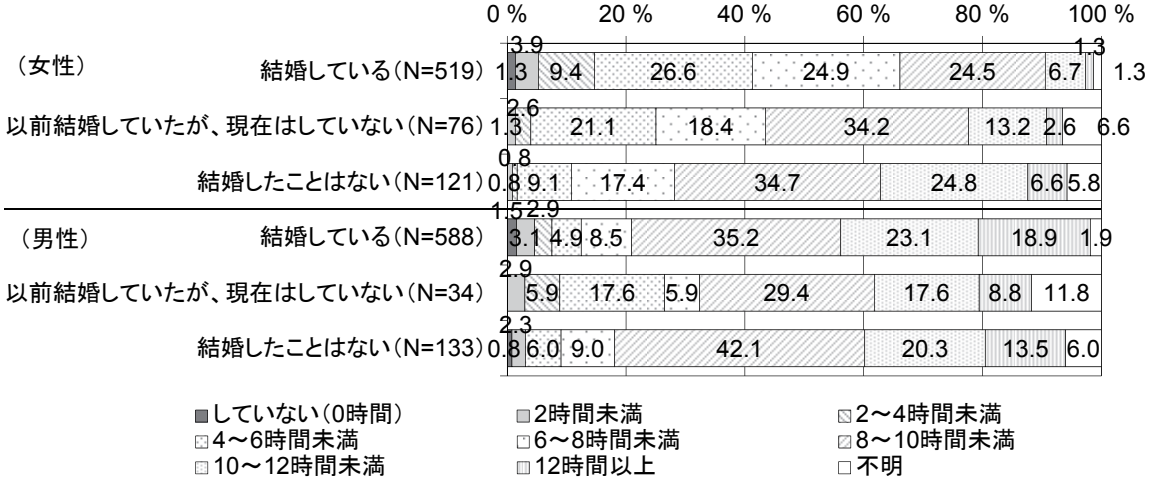
● 女性「結婚している」を除き男女とも「8～10 時間未満」が最も高い

● 女性「結婚している」は「4～6 時間未満」「6～8 時間未満」「8～10 時間未満」が同程度

● 男性「結婚している」は「12 時間以上」が約 2 割

女性「結婚している」を除き男女とも「8～10 時間未満」が最も高くなっています。女性「結婚している」は「4～6 時間未満」（26.6%）、「6～8 時間未満」（24.9%）、「8～10 時間未満」（24.5%）が同程度になっています。

男性「結婚している」は「12 時間以上」（18.9%）も高くなっています。



【性別×働き方別】

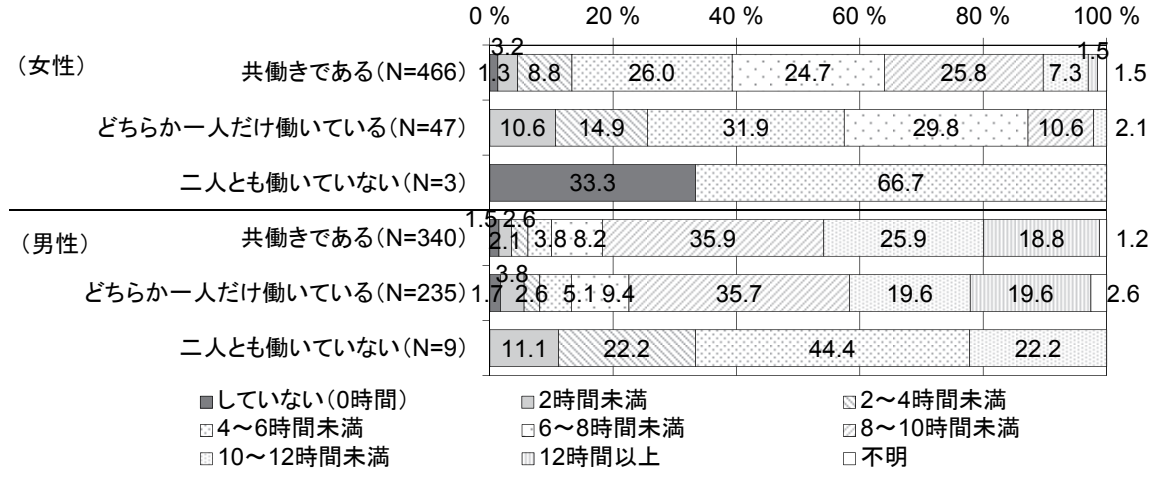
● 女性は働き方によって傾向が異なる

● 男性は働き方にかかわらず「8～10 時間未満」が最も高く、「12 時間以上」も約 2 割

回答者数が少ない「二人とも働いていない」を除くと、女性は、「共働きである」は「4～6 時間未満」（26.0%）、「6～8 時間未満」（24.7%）、「8～10 時間未満」（25.8%）が同程度、「どちらか一人だけ働いている」は「4～6 時間未満」（31.9%）と「6～8 時間未満」（29.8%）が同程度になっています。

男性は働き方にかかわらず「8～10 時間未満」（「共働きである」35.9%、「どちらか一人だけ働いている」35.7%）が最も高くなっています。

男性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」は「12 時間以上」（それぞれ 18.8%、19.6%）も高くなっています。



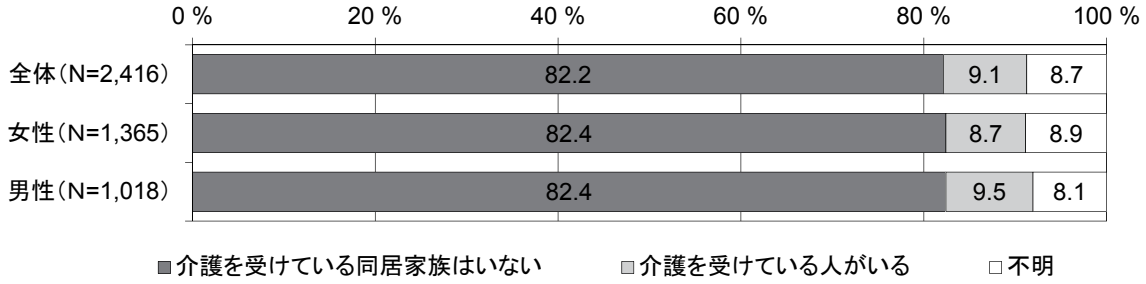
問 6	同居する家族の中に、介護を受けている人がいますか。いる場合、主に介護を担っているのは、介護を受けている人から見てどなたですか。

①介護を受けている人の有無

【全体・性別】

● 男女とも「いない」が 8 割以上

男女とも「介護を受けている同居家族はいない」が最も高く（それぞれ 82.4%で同値）、8 割以上を占めています。



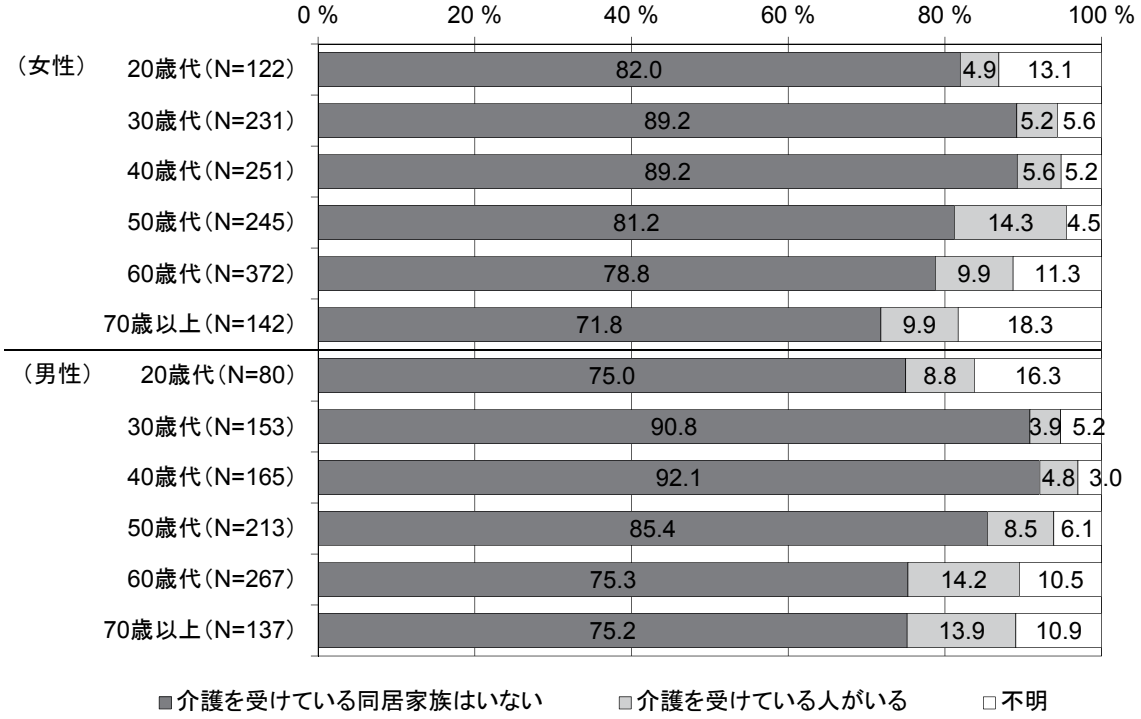
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「いない」が最も高く、特に 30・40 歳代は約 9 割

● 女性 50 歳代、男性 60 歳代以上は「いる」が 1 割以上

男女ともすべての年代で「介護を受けている同居家族はいない」が最も高く、特に 30 歳代（女性 89.2%、男性 90.8%）や 40 歳代（女性 89.2%、男性 92.1%）は約 9 割を占めています。

一方、「いる」は、女性 50 歳代（14.3%）、男性 60 歳代（14.2%）、男性 70 歳以上（13.9%）が 1 割以上で比較的高くなっています。



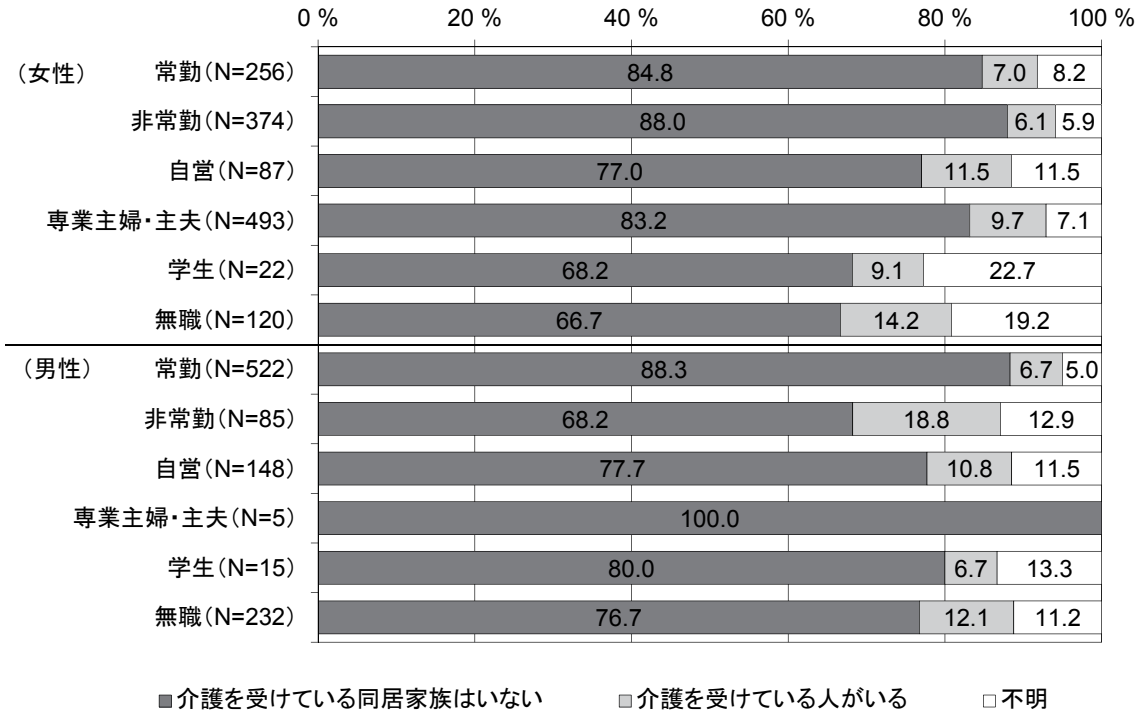
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「いない」が最も高い

● 男性非常勤は「いる」が約２割

男女ともすべての職業で「介護を受けている同居家族はいない」が最も高くなっています。

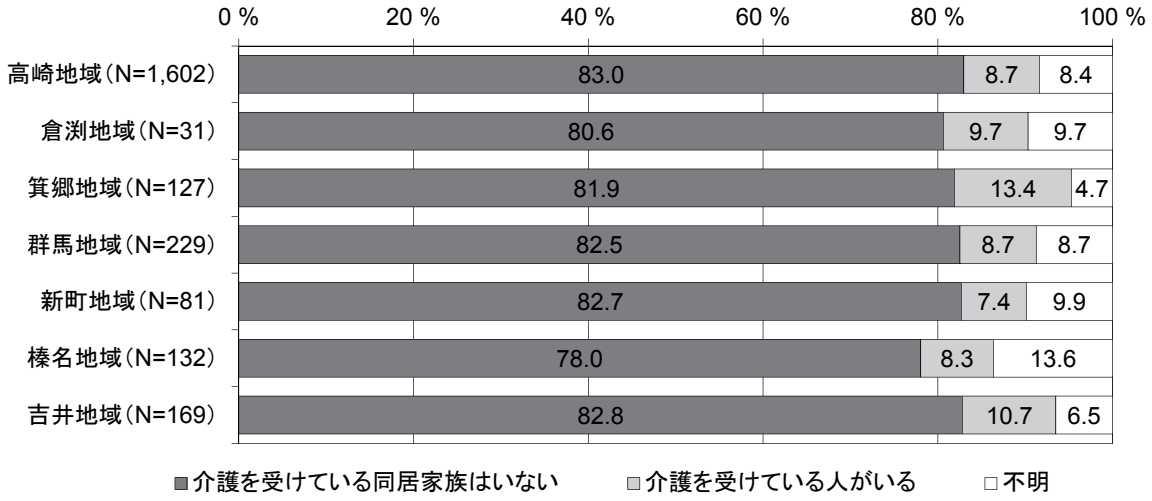
一方、「いる」は男性非常勤（18.8%）が約２割で比較的高くなっています。



【地域別】

● すべての地域で「いない」が約８割

すべての地域で「介護を受けている同居家族はいない」が約８割で最も高く、地域による大きな差は見られません。



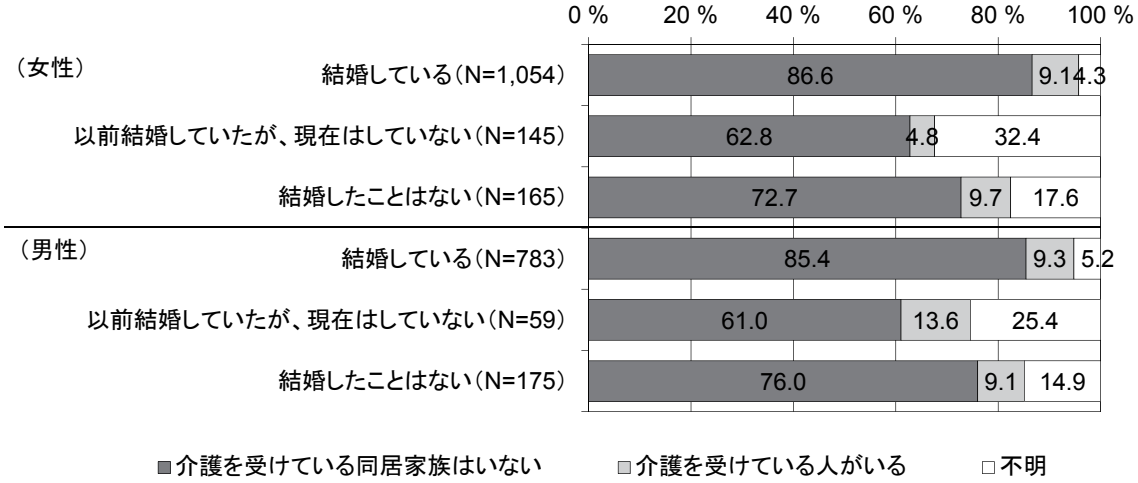
【性別×結婚経験別】

● 男女とも結婚経験にかかわらず「いない」が最も高い

● 男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「いる」が 1 割以上

男女とも結婚経験にかかわらず「介護を受けている同居家族はいない」が最も高くなっています。

一方、「いる」は男性「以前結婚していたが、現在はしていない」（13.6%）が 1 割以上で比較的高くなっています。



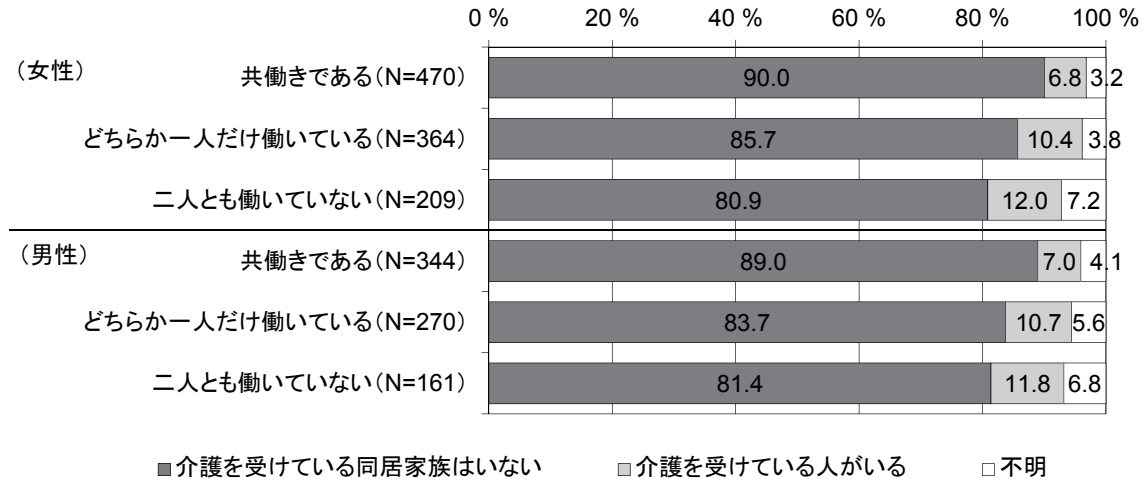
【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「いない」が最も高い

● 男女とも「共働き」を除き、「いる」が 1 割以上

男女とも働き方にかかわらず「介護を受けている同居家族はいない」が最も高くなっています。また、男女とも「介護を受けている同居家族はいない」は「共働きである」（女性 90.0%、男性 89.0%）が約 9 割で最も高くなっています。

一方、「いる」は男女とも「共働きである」を除き、いずれも 1 割以上となっています。



②主に介護を担っている人（「介護を受けている人がいる」場合）

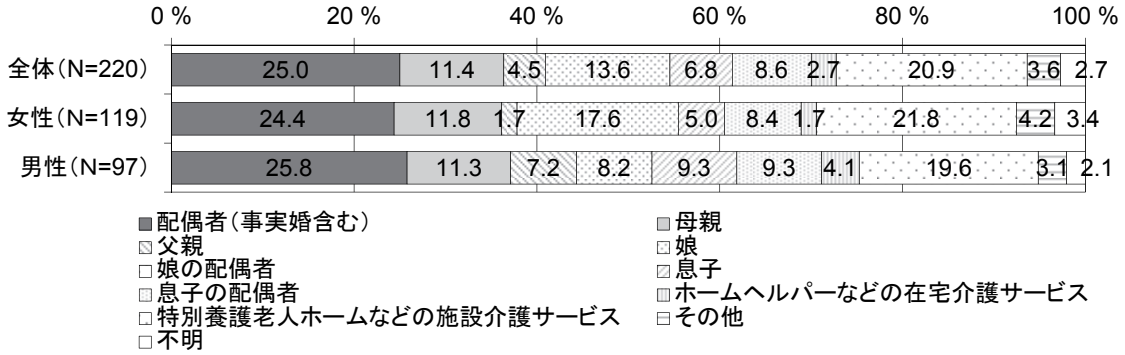
【全体・性別】

● 男女とも「配偶者」「施設介護サービス」が比較的高い

● 女性は「娘」が比較的高い

男女とも「配偶者（事実婚を含む）」（女性 24.4%、男性 25.8%）が最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」（女性 21.8%、男性 19.6%）が比較的高くなっています。また、女性は「娘」（17.6%）も比較的高くなっています。

一方、「娘の配偶者」は見られません。



【性別×年代別】

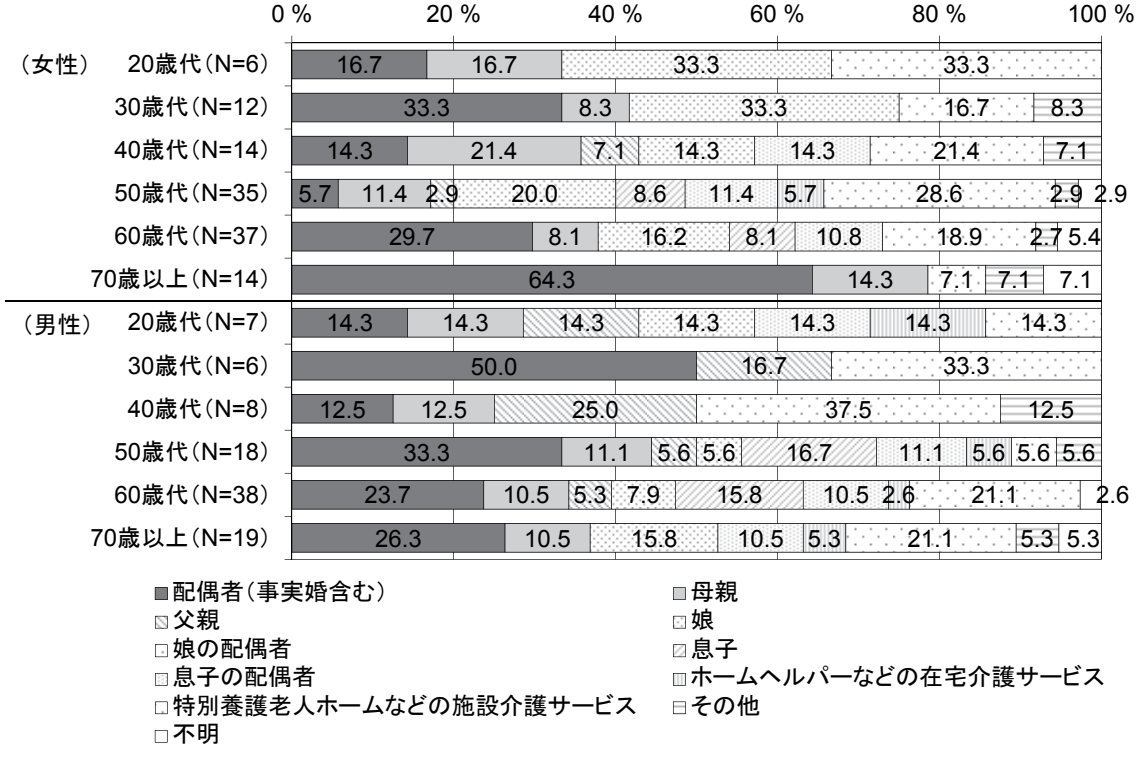
● 女性は 60 歳代以上、男性は 50 歳以上で「配偶者」が最も高い

● 女性 30 歳代は「配偶者」「娘」が同値で最も高い

● 女性 50 歳代は「施設介護サービス」が最も高い

年代によって回答者数が少ないことを考慮する必要がありますが、女性は 60 歳代以上、男性は 50 歳以上で「配偶者（事実婚を含む）」が最も高くなっています。女性 30 歳代は「配偶者（事実婚含む）」と「娘」が同値（33.3%）で最も高くなっています。

また、女性 50 歳代は「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」（28.6%）が最も高くなっています。



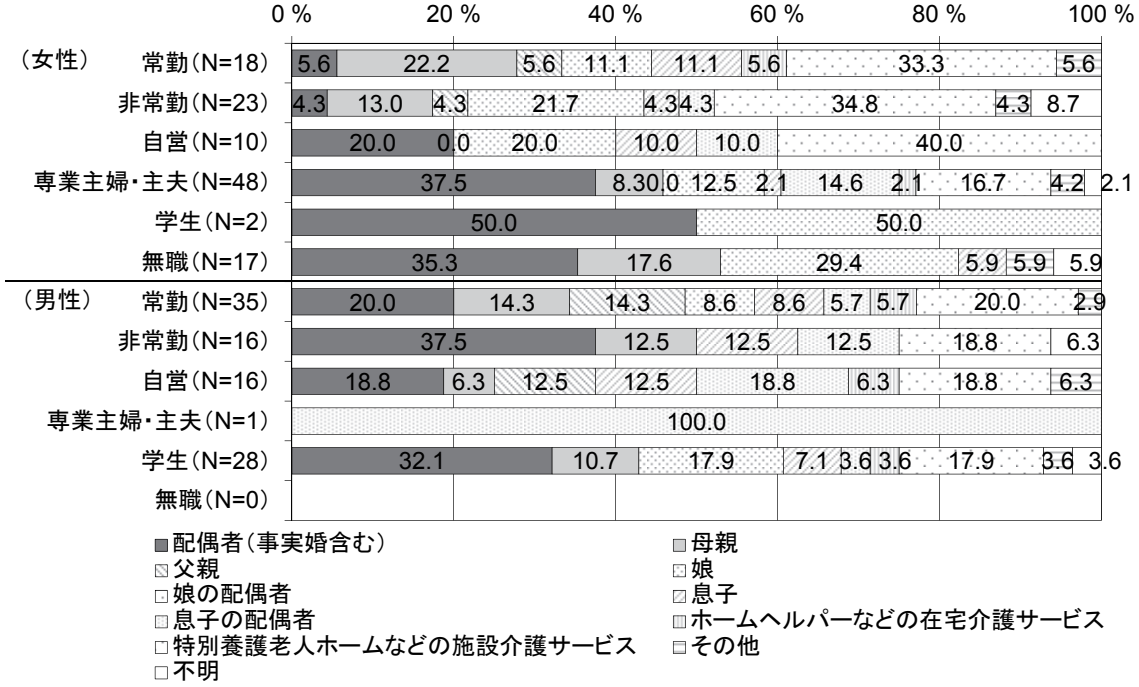
【性別×職業別】

● 女性常勤・非常勤・自営は「施設介護サービス」が最も高い

● 女性専業主婦・無職は「配偶者」が最も高い

● 男性はいずれの職業も「配偶者」が高い傾向

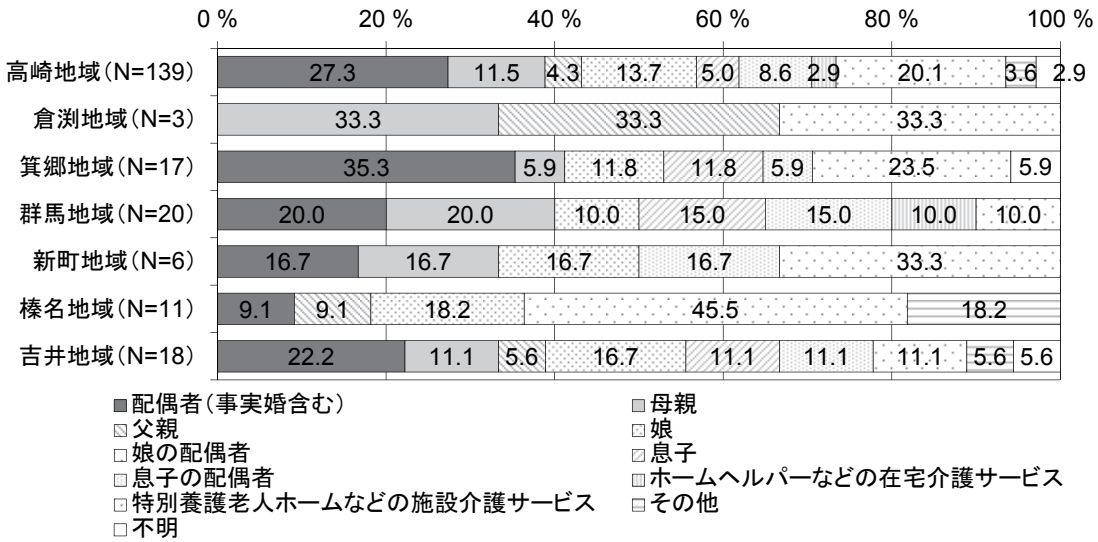
職業によって回答者数が少ないことを考慮する必要がありますが、女性常勤・非常勤・自営は「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」（それぞれ 33.3%、34.8%、40.0%）が最も高くなっています。男性自営は「配偶者（事実婚含む）」「息子の配偶者」「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」が同値（18.8%）で最も高くなっています。女性専業主婦・無職、男性非常勤・学生は「配偶者（事実婚含む）」（それぞれ 37.5%、35.3%、37.5%、32.1%）が最も高くなっています。男性常勤は「配偶者（事実婚含む）」「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」が同値（20.0%）で最も高くなっています。



【地域別】

● 高崎・箕郷・群馬・吉井地域は「配偶者」が最も高い

回答者が比較的多い高崎・箕郷・群馬・吉井地域はいずれも「配偶者（事実婚を含む）が最も高くなっています（群馬地域は「母親」と同値）。

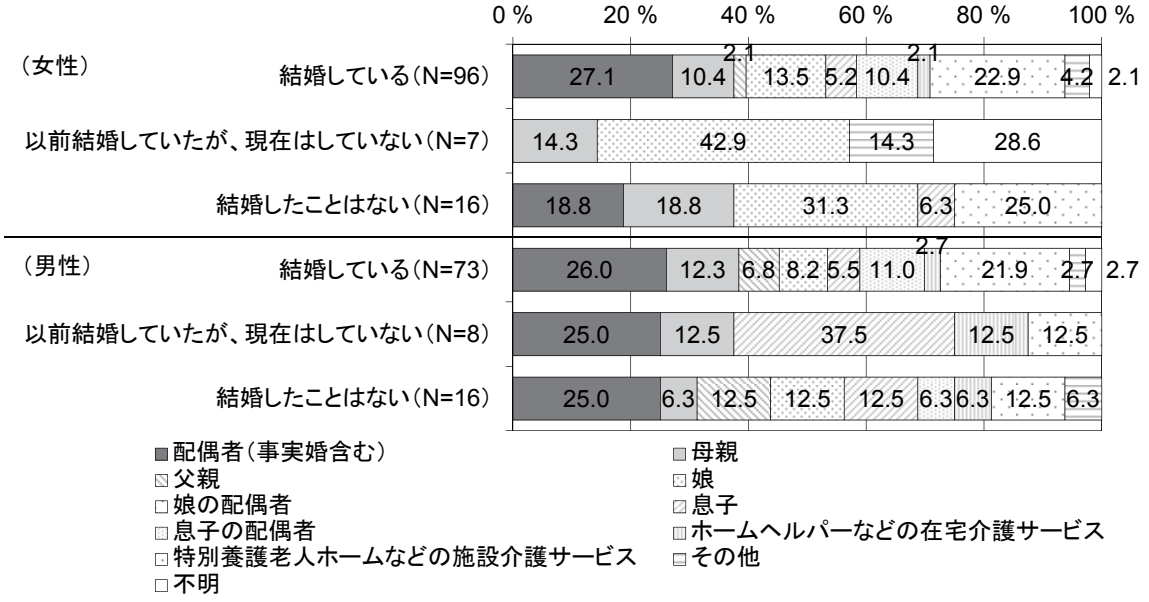


【性別×結婚経験別】

● 女性「結婚している」や男性「結婚したことはない」は「配偶者」が最も高い

● 女性「結婚したことはない」は「娘」が最も高い

回答者数が少ない「以前結婚していたが、現在はしていない」を除くと、女性「結婚したことはない」は、「娘」（31.3%）が最も高くなっていますが、それ以外では「配偶者（事実婚を含む）」が最も高くなっています。

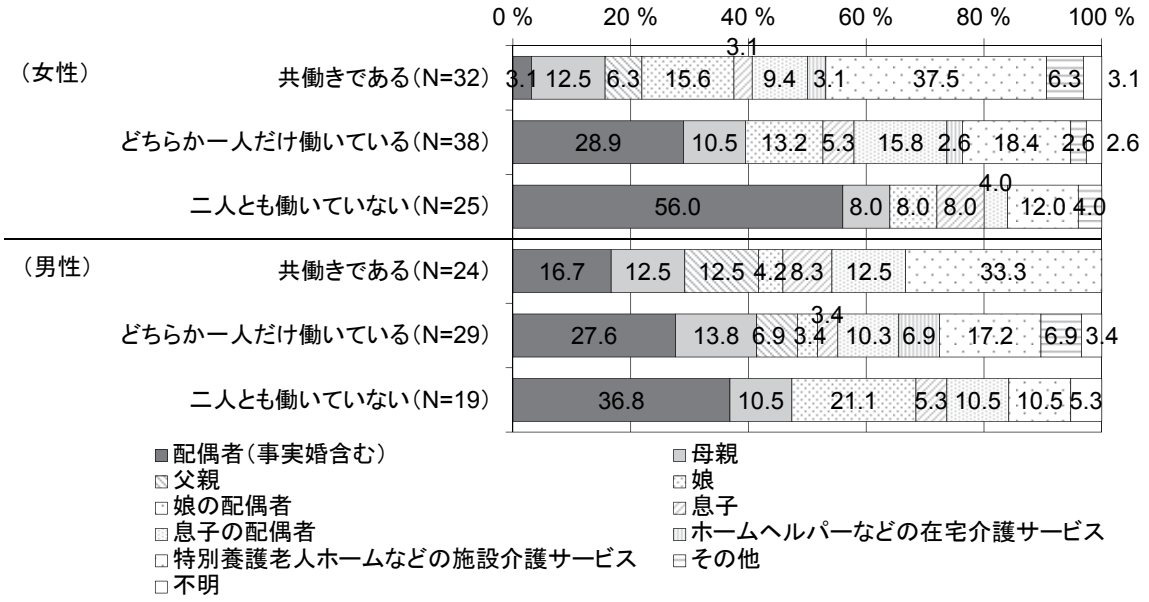


【性別×働き方別】

● 男女とも「共働き」は「施設介護サービス」、「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」は「配偶者」が最も高い

男女とも「共働きである」を除きいずれも「配偶者（事実婚を含む）」が最も高く、特に女性「二人とも働いていない」（56.0%）は約6割を占めています。

男女とも「共働きである」は「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」（女性37.5%、男性33.3%）が最も高くなっています。



5　育児・介護休業について

問 7	育児や介護が必要な家族がいる場合、育児・介護休業の取得について、どのようにしたいと考えますか。（現在勤めている場合限定・複数回答可）

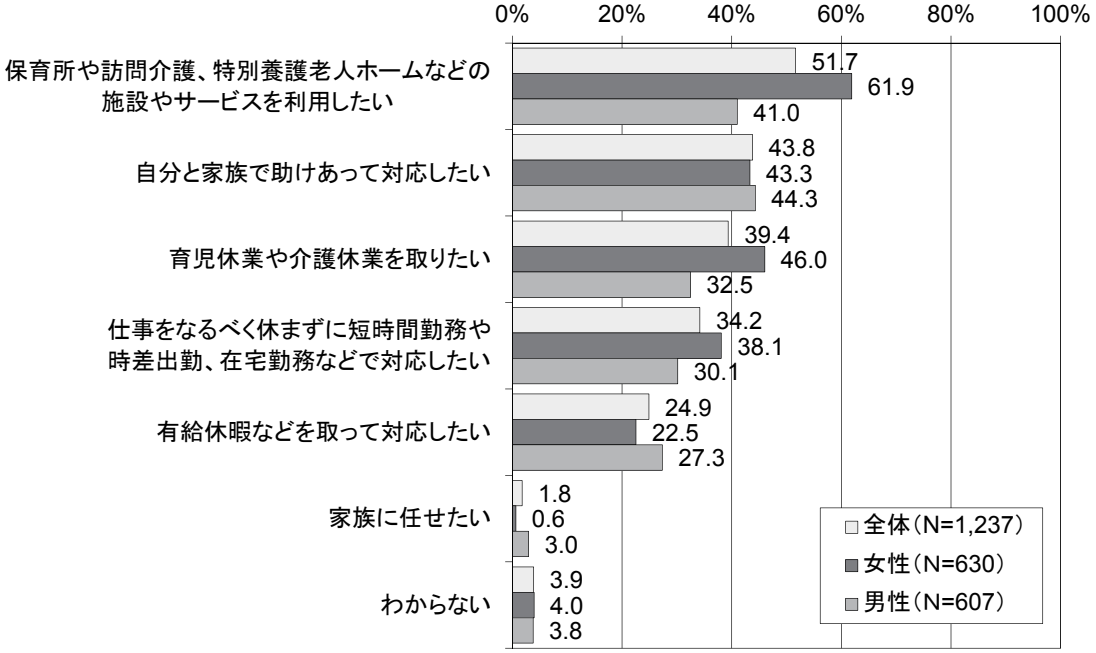
【全体・性別】

- 女性は「施設やサービスを利用したい」が 6 割以上で最も高い
- 男性は「施設やサービスを利用したい」と「自分と家族で助けあって対応したい」が同程度で最も高い
- 「育児・介護休業を取りたい」は、女性が約 5 割、男性が約 3 割

女性は「保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい」（以下「施設やサービスを利用したい」61.9%）が最も高く、6 割以上となっています。次いで「育児休業や介護休業を取りたい」（46.0%）、「自分と家族で助けあって対応したい」（43.3%）が比較的高くなっています。

男性は「自分と家族で助けあって対応したい」（44.3%）と「施設やサービスを利用したい」（41.0%）が同程度に高くなっています。次いで「育児休業や介護休業を取りたい」（32.5%）が比較的高くなっていますが、女性と比較すると 13.5 ポイント低くなっています。

「仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい」は、女性（38.1%）が男性（30.1%）より高くなっています。また、「有給休暇などを取って対応したい」は男性（27.3%）が女性（22.5%）より高くなっています。



【性別×年代別】

● 女性は 20 歳代「育児・介護休業を取りたい」、30 歳以上「施設やサービスを利用したい」が最も高い

● 男性は 40 歳代以下「自分と家族で助けあって対応したい」、50 歳代以上「施設やサービスを利用したい」が最も高い

回答者数が少ない 70 歳以上を除くと、女性は、20 歳代を除くすべての年代で「施設やサービスを利用したい」、女性 20 歳代は「育児休業や介護休業を取りたい」（57.1%）が最も高くなっています。

男性は、40 歳代以下は「自分と家族で助けあって対応したい」、50 歳代以上は「施設やサービスを利用したい」が最も高くなっています。

また、女性はすべての年代で 5 割以上を示す項目がありますが、男性はすべての年代で 5 割以上を示す項目がなく、年代による顕著な傾向は見られません。

（%）		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70歳以上
N=	女性	77	123	177	145	98	9
	男性	59	137	138	165	89	17
育児休業や介護休業を取りたい	女性	57.1	61.0	41.8	46.9	24.5	55.6
	男性	35.6	40.1	32.6	32.1	20.2	29.4
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	女性	41.6	41.5	45.2	31.7	28.6	33.3
	男性	33.9	33.6	33.3	26.7	27.0	11.8
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	女性	50.6	62.6	63.3	65.5	63.3	44.4
	男性	33.9	35.8	42.8	46.7	44.9	23.5
有給休暇などを取って対応したい	女性	26.0	27.6	19.8	22.8	17.3	33.3
	男性	28.8	30.7	34.1	26.1	16.9	5.9
自分と家族で助けあって対応したい	女性	53.2	50.4	39.5	44.1	31.6	44.4
	男性	40.7	44.5	44.2	45.5	43.8	47.1
家族に任せたい	女性	3.9	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0
	男性	0.0	5.8	2.9	2.4	1.1	5.9
わからない	女性	9.1	2.4	5.6	2.1	2.0	0.0
	男性	6.8	1.5	3.6	3.6	5.6	5.9

【性別×職業別】

● 女性は常勤・非常勤ともに「施設やサービスを利用したい」が最も高い

● 男性は常勤・非常勤ともに「自分と家族で助けあって対応したい」が最も高い

● 女性常勤は「育児・介護休業を取りたい」、女性非常勤は「仕事をなるべく休まずに」も比較的高い

女性は常勤・非常勤ともに「施設やサービスを利用したい」（それぞれ 60.5%、62.8%）、男性は常勤・非常勤ともに「自分と家族で助けあって対応したい」（それぞれ 44.4%、43.5%）が最も高くなっています。また、女性常勤は「育児休業や介護休業を取りたい」（56.6%）、女性非常勤は「仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい」（41.7%）も比較的高くなっています。

女性は常勤・非常勤ともに 6 割以上を示す項目がありますが、男性はいずれの職業でも 5 割以上を示す項目はなく、顕著な傾向は見られません。

（%）		常勤	非常勤
N=	女性	256	374
	男性	522	85
育児休業や介護休業を取りたい	女性	56.6	38.8
	男性	33.1	28.2
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	女性	32.8	41.7
	男性	29.9	31.8
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	女性	60.5	62.8
	男性	42.3	32.9
有給休暇などを取って対応したい	女性	25.0	20.9
	男性	28.9	17.6
自分と家族で助けあって対応したい	女性	45.7	41.7
	男性	44.4	43.5
家族に任せたい	女性	0.4	0.8
	男性	2.9	3.5
わからない	女性	4.3	3.7
	男性	3.4	5.9

【地域別】

● すべての地域で「施設やサービスを利用したい」が最も高い

● 群馬地域は「育児・介護休業を取りたい」、新町地域は「有給休暇などを取って対応したい」が比較的高い

すべての地域で「施設やサービスを利用したい」が最も高く、群馬地域では「育児休業や介護休業を取りたい」（46.3%）が同値になっています。

また、新町地域は「有給休暇などを取って対応したい」（37.8%）も比較的高くなっています。

（%）	高崎地域	倉渕地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	吉井地域
N=	850	14	61	123	37	65	85
育児休業や介護休業を取りたい	39.6	28.6	32.8	46.3	37.8	26.2	43.5
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	35.6	28.6	36.1	32.5	35.1	26.2	27.1
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	51.9	42.9	50.8	46.3	56.8	50.8	56.5
有給休暇などを取って対応したい	25.4	0.0	23.0	26.0	37.8	23.1	20.0
自分と家族で助けあって対応したい	43.4	35.7	44.3	43.1	45.9	44.6	48.2
家族に任せたい	2.2	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0
わからない	3.6	0.0	6.6	4.1	5.4	3.1	4.7

【性別×結婚経験別】

● 男女とも「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」と「結婚したことはない」とで傾向が異なる

● 男女とも「結婚したことはない」は「育児・介護休業を取りたい」が最も高い

女性は、「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「施設やサービスを利用したい」（それぞれ 64.1%、59.7%）、「結婚したことはない」は「育児休業や介護休業を取りたい」（60.5%）が最も高くなっています。

男性は、「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」は「自分と家族で助けあって対応したい」（それぞれ 48.0%、31.8%）、「結婚したことはない」は「育児休業や介護休業を取りたい」（41.7%）が最も高くなっています（「以前結婚していたが、現在はしていない」は「仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい」、「結婚したことはない」は「施設やサービスを利用したい」と同値）。

（%）		結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性	443	67	119
	男性	465	22	120
育児休業や介護休業を取りたい	女性	43.6	37.3	60.5
	男性	30.8	18.2	41.7
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	女性	36.8	40.3	42.0
	男性	28.8	31.8	35.0
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	女性	64.1	59.7	55.5
	男性	41.5	27.3	41.7
有給休暇などを取って対応したい	女性	22.1	16.4	27.7
	男性	27.5	31.8	25.8
自分と家族で助けあって対応したい	女性	43.6	34.3	47.9
	男性	48.0	31.8	32.5
家族に任せたい	女性	0.2	0.0	2.5
	男性	3.7	0.0	0.8
わからない	女性	3.6	1.5	5.9
	男性	3.0	9.1	5.8

【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず女性は「施設やサービスを利用したい」、男性は「自分と家族で助けあって対応したい」が最も高い

● 男女とも「共働き」は「育児休業や介護休業を取りたい」が比較的高い

働き方にかかわらず、女性は「施設やサービスを利用したい」（「共働きである」64.4%、「どちらか一人だけ働いている」62.2%）、男性は「自分と家族で助けあって対応したい」（「共働きである」47.9%、「どちらか一人だけ働いている」48.2%）が最も高くなっています。また、男女とも「共働きである」は「育児休業や介護休業を取りたい」（女性 44.6%、男性 34.2%）も比較的高くなっています。

（%）		共働きである	どちらか一人だけ働いている
N=	女性	404	37
	男性	263	199
育児休業や介護休業を取りたい	女性	44.6	29.7
	男性	34.2	26.6
仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい	女性	36.9	32.4
	男性	29.7	28.1
保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい	女性	64.4	62.2
	男性	43.3	39.2
有給休暇などを取って対応したい	女性	22.3	16.2
	男性	29.7	25.1
自分と家族で助けあって対応したい	女性	43.6	40.5
	男性	47.9	48.2
家族に任せたい	女性	0.2	0.0
	男性	4.2	2.5
わからない	女性	4.0	0.0
	男性	2.7	3.0

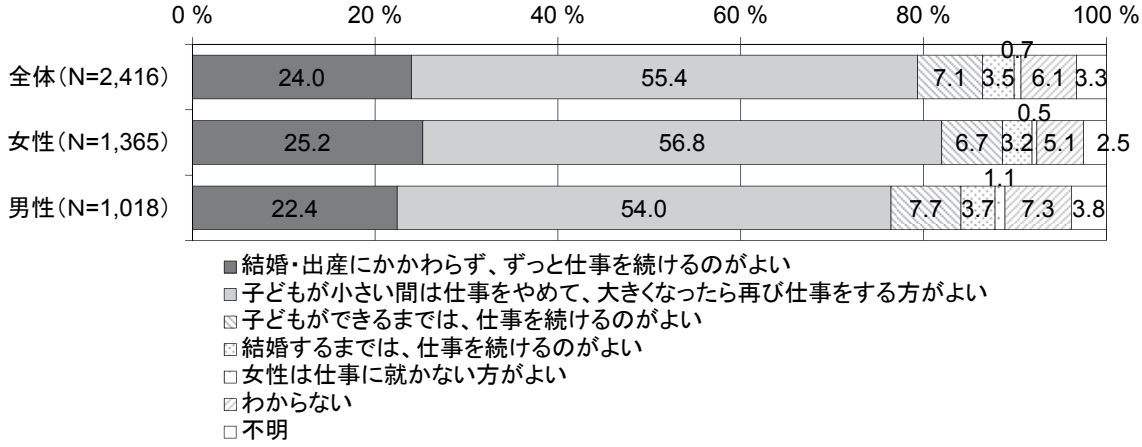
6　女性の就労について

問 8　一般的に女性が仕事を続けることについて、どのように考えますか。

【全体・性別】

● 男女とも「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が 5 割以上、「ずっと仕事を続けるのがよい」が 2 割以上

男女とも「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」（女性 56.8%、男性 54.0%）が最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」（女性 25.2%、男性 22.4%）となっており、性別による大きな差は見られません。



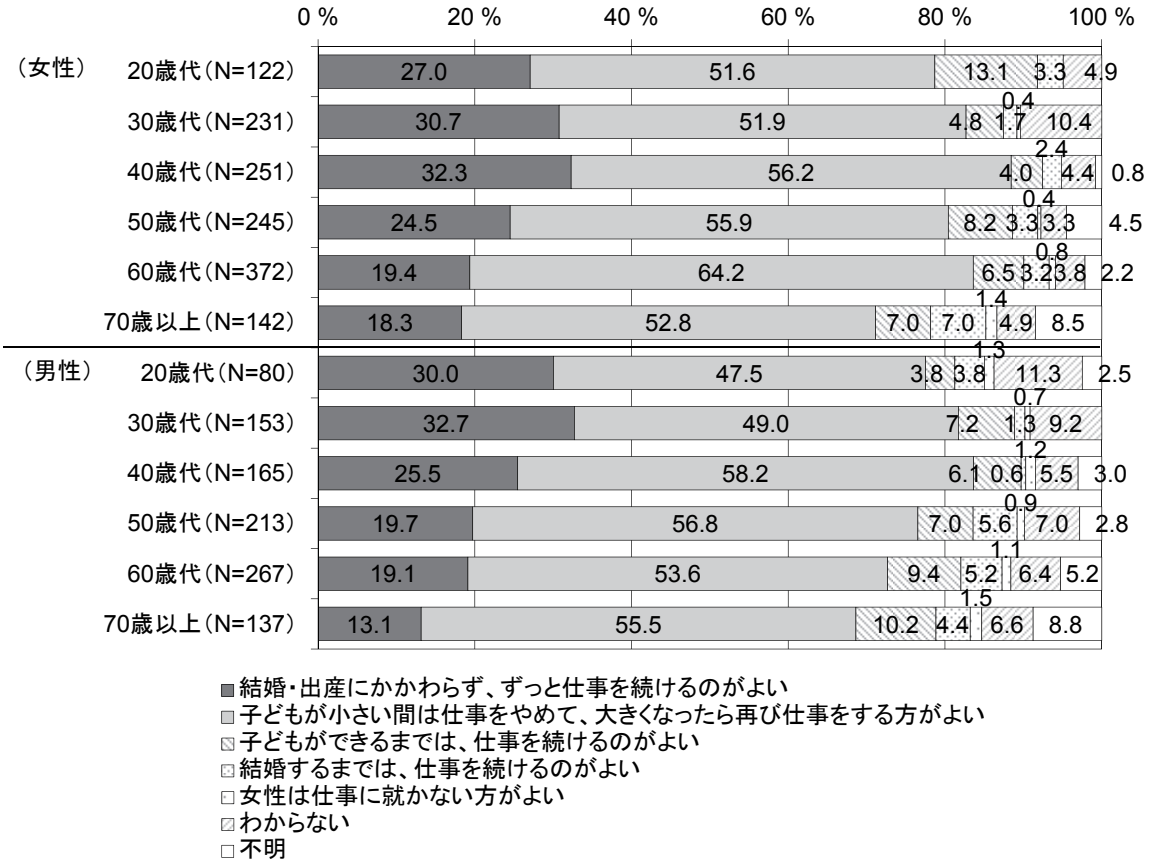
【性別×年代別】

● 男女ともすべての年代で「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い

● 男女とも 20～40 歳代は「ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高い

男女ともすべての年代で「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高くなっています。

また、男女とも 20～40 歳代は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」が約 3 割で比較的高くなっていますが、50 歳代以上では高い年代ほど値が低くなっています。

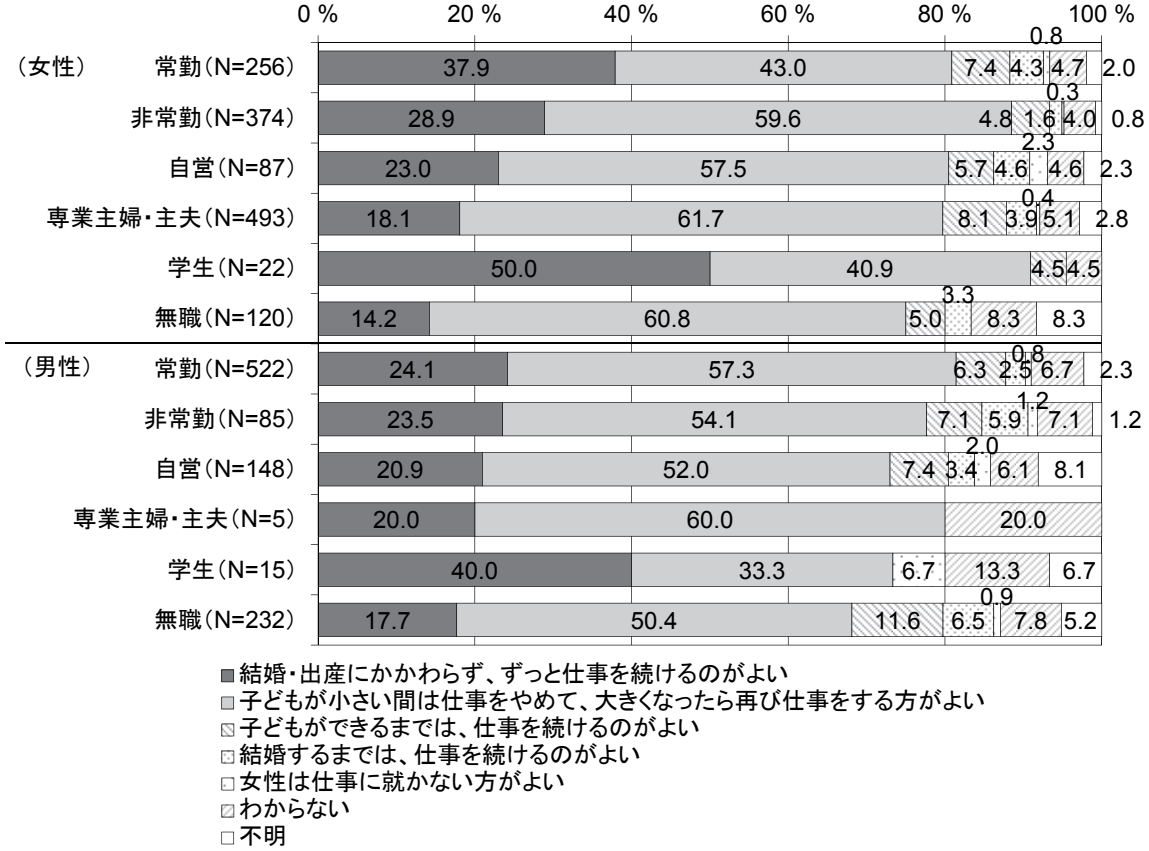


【性別×職業別】

- 男女とも学生は「ずっと仕事を続けるのがよい」、それ以外は「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い
- 女性常勤は「ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高い
- 「ずっと仕事を続けるのがよい」は無職以外で女性が高い

男女とも学生を除くすべての職業で「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高くなっています。女性常勤は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」（37.9%）も比較的高くなっています。

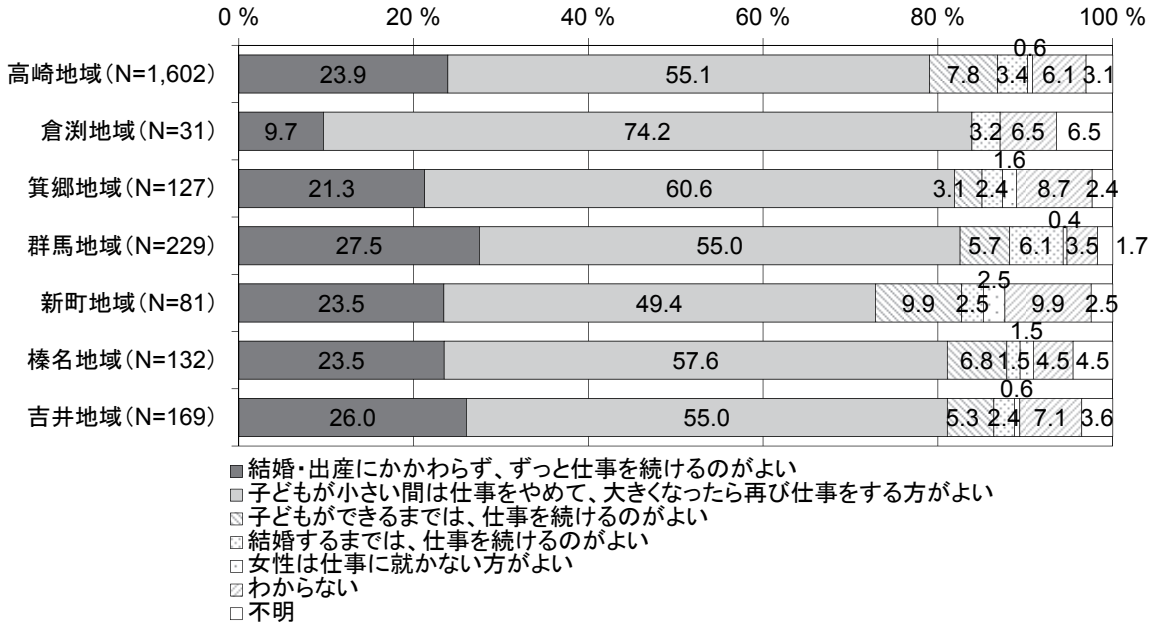
また、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」は無職を除くすべての職業で女性が高くなっています。学生は男女とも「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」（女性 50.0%、男性 40.0%）が最も高くなっています。



【地域別】

● すべての地域で「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高く、特に倉渕地域は７割以上

すべての地域で「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高く、特に倉渕地域（74.2%）は７割以上を占めています。

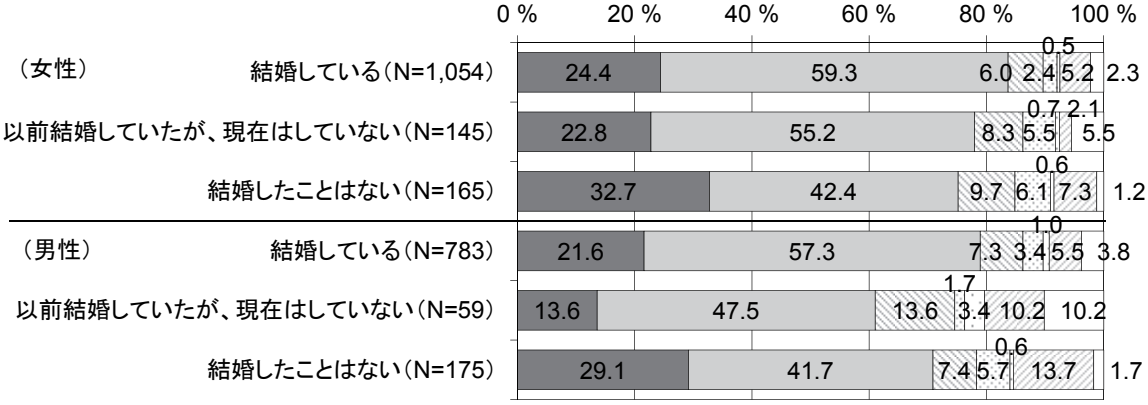


【性別×結婚経験別】

● 男女とも結婚経験にかかわらず「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い

● 男女とも「結婚したことがない」は「ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高い

男女とも結婚経験にかかわらず「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」（女性 32.7%、男性 29.1%）も約３割と比較的高くなっています。

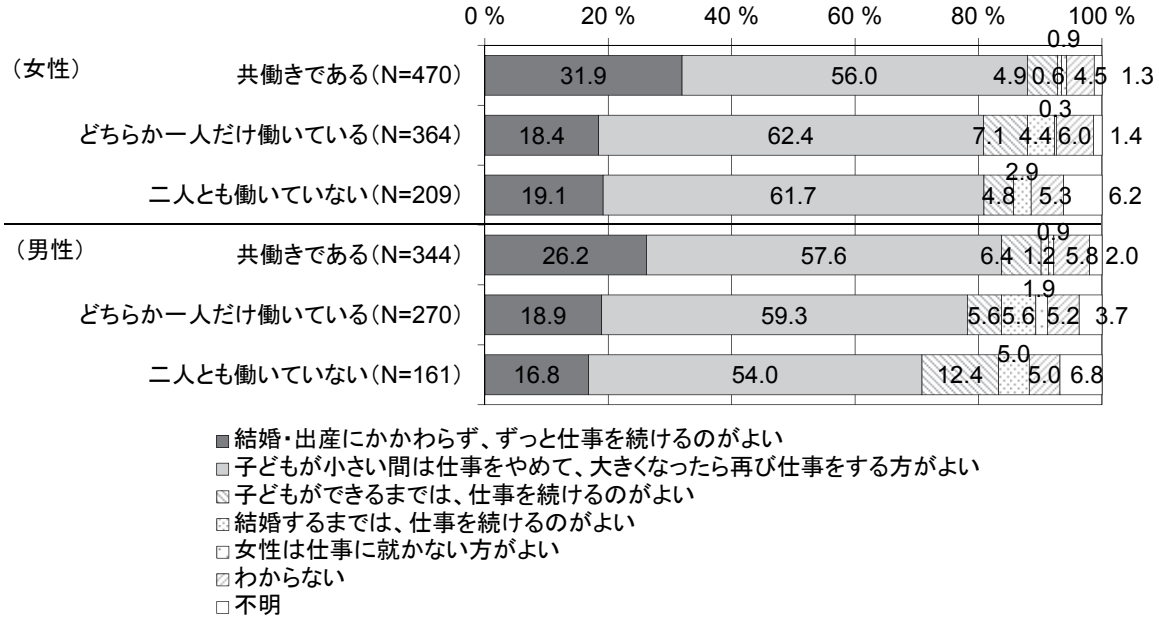


【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い

● 男女とも「共働き」は「ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高い

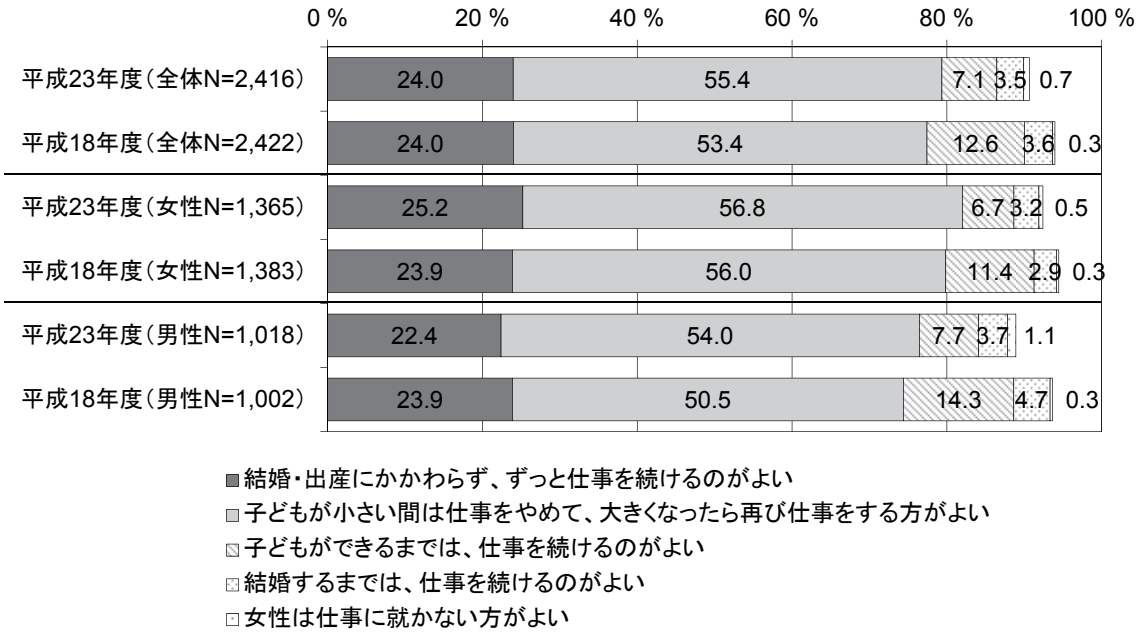
男女とも働き方にかかわらず「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高くなっています。また、男女とも「共働きである」は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」（女性 31.9%、男性 26.2%）も約 3 割と比較的高くなっています。



【性別×経年変化】

● 男女とも大きな変化は見られない

前回調査とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、男女とも大きな変化は見られません。



※「平成 23 年度」の選択肢「わからない」、「平成 18 年度」の選択肢「その他」は表示しない

※各比較調査の選択肢と図での対応を以下に示す

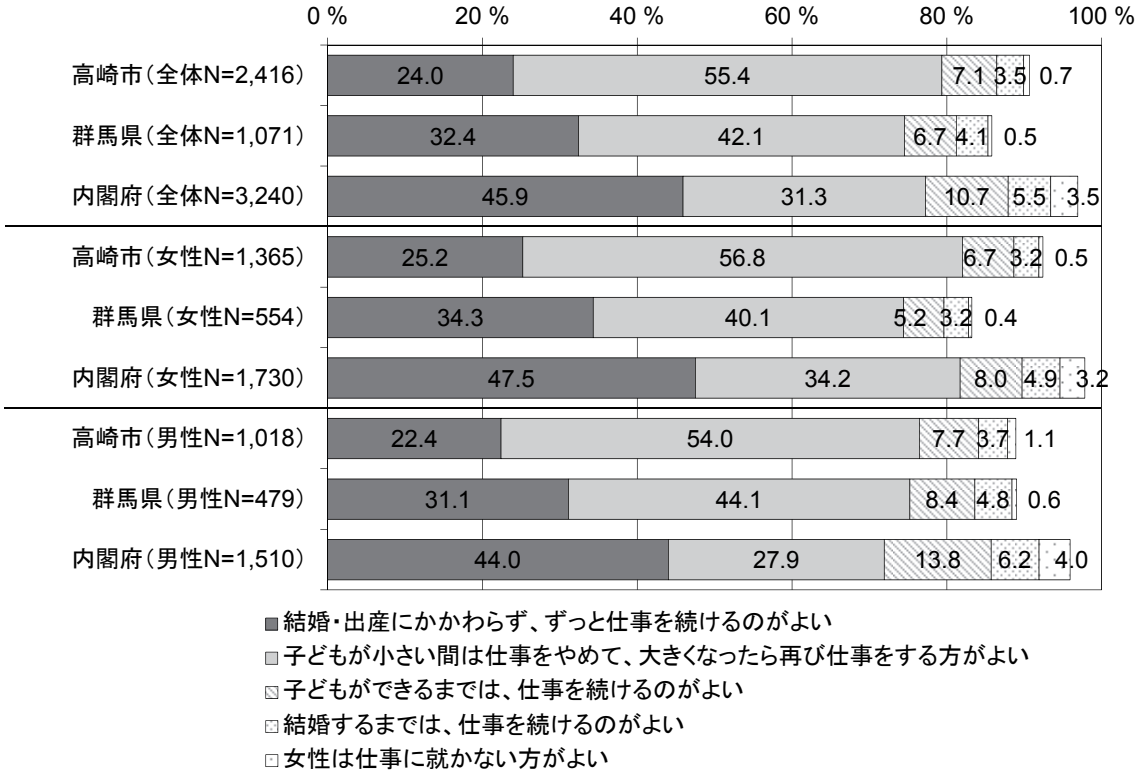
高崎市（平成 23 年度）	高崎市（平成 18 年度）
結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい	結婚して子どもができても、職業を持ち続けるのがよい
子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい	子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就くのがよい
子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい	子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念するのがよい
結婚するまでは、仕事を続けるのがよい	結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念するのがよい
女性は仕事に就かない方がよい	女性は仕事に就かず、習い事などに専念するのがよい

【性別×他調査との比較】

● 「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」は男女とも群馬県や国より高い

● 「ずっと仕事を続けるのがよい」は男女とも群馬県や国より低い

他調査とは選択肢の設定が異なるため単純に比較はできませんが、「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」は、男女とも群馬県や内閣府より高く、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」は低くなっています。



※「平成 23 年度」の選択肢「わからない」、「群馬県」「内閣府」の選択肢「その他」「わからない」は表示しない

※各比較調査の選択肢と図での対応を以下に示す

高崎市（平成 23 年度）	群馬県（平成 21 年度）	内閣府（平成 21 年度）
結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい	子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい	
子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	
子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	
結婚するまでは、仕事を続けるのがよい	結婚するまでは職業をもつ方がよい	
女性は仕事に就かない方がよい	女性は職業をもたない方がよい	

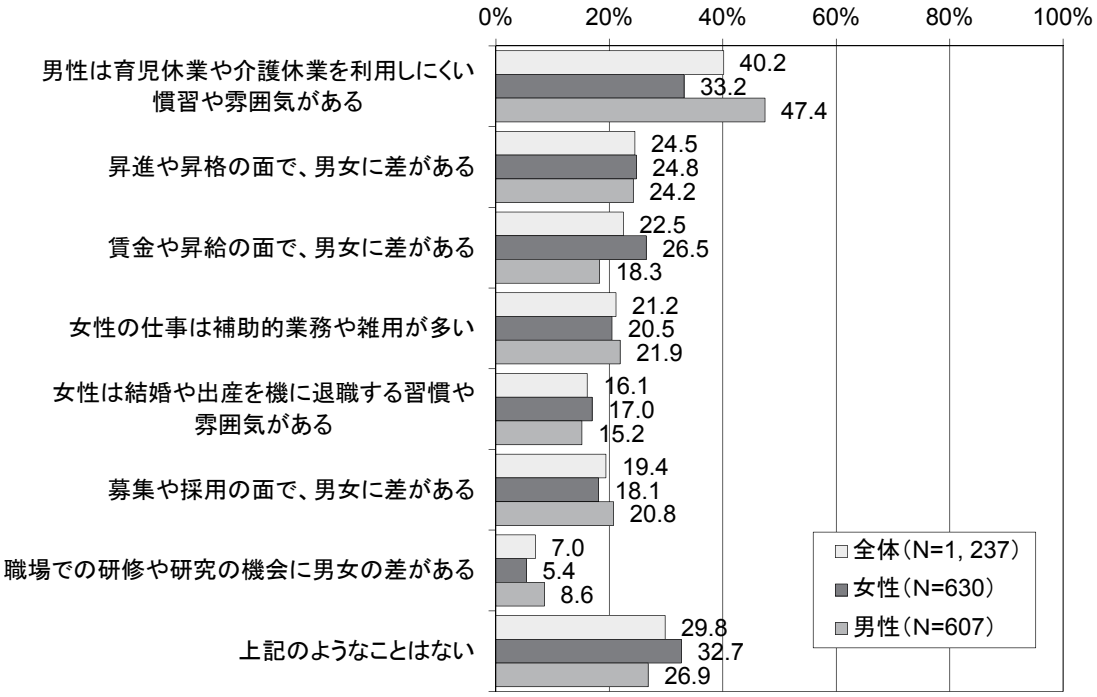
問９	あなたの職場では以下のようなことがありますか。（現在勤めている場合限定・複数回答可）

【全体・性別】

● 男女とも「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高く、特に男性は約５割

● 女性は「ない」や「賃金や昇給」も比較的高い

男女とも「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（女性 33.2%、男性 47.4%）が最も高く、特に男性が高くなっています。また、女性は「上記のようなことはない」（32.7%）や「賃金や昇給の面で、男女に差がある」（26.5%）も比較的高くなっています。



【性別×年代別】

● 男女とも 30・40 歳代は「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高く、特に男性は約 6 割

● 男女とも 20 歳代は「ない」が最も高い

回答者数が少ない 70 歳以上を除くと、女性は、30・40 歳代は「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（それぞれ 38.2%、36.7%）、20・50 歳代は「上記のようなことはない」（それぞれ 37.7%、35.9%）、60 歳代は「賃金や昇給の面で、男女に差がある」（33.7%）が最も高くなっています。

男性は、30・40 歳代は「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（それぞれ 59.9%、59.4%）が特に高く、50 歳代（48.5%）も高くなっています。20・60 歳代は「上記のようなことはない」（それぞれ 37.3%、38.2%）が最も高くなっています。

（%）		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
N=	女性	77	123	177	145	98	9
	男性	59	137	138	165	89	17
募集や採用の面で、男女に差がある	女性	18.2	16.3	15.8	18.6	24.5	0.0
	男性	27.1	22.6	16.7	23.6	15.7	17.6
賃金や昇給の面で、男女に差がある	女性	18.2	22.8	27.7	28.3	33.7	11.1
	男性	13.6	14.6	17.4	27.3	15.7	0.0
昇進や昇格の面で、男女に差がある	女性	26.0	19.5	24.9	26.9	27.6	11.1
	男性	16.9	20.4	30.4	29.7	19.1	5.9
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	女性	23.4	19.5	22.0	15.9	24.5	11.1
	男性	25.4	27.0	23.9	21.8	11.2	11.8
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性	10.4	4.9	3.4	4.8	7.1	0.0
	男性	5.1	8.8	8.0	9.1	9.0	11.8
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	女性	26.0	21.1	18.1	15.2	7.1	0.0
	男性	20.3	21.2	18.8	13.9	2.2	0.0
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	女性	35.1	38.2	36.7	29.7	26.5	11.1
	男性	32.2	59.9	59.4	48.5	27.0	0.0
上記のようなことはない	女性	37.7	35.0	29.4	35.9	26.5	44.4
	男性	37.3	19.7	20.3	26.7	38.2	47.1

【性別×職業別】

● 男女とも常勤は「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」、非常勤は「ない」が最も高い

● 女性常勤は「賃金や昇給」「昇進や昇格」も比較的高い

男女とも常勤は「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（女性37.9%、男性50.0%）、非常勤は「上記のようなことはない」（女性35.0%、男性44.7%）が最も高くなっています。また、女性常勤は「賃金や昇給の面で、男女に差がある」（30.1%）や「昇進や昇格の面で、男女に差がある」（30.9%）も比較的高くなっています。

	（%）	常勤	非常勤
N=	女性	256	374
	男性	522	85
募集や採用の面で、男女に差がある	女性	16.8	19.0
	男性	22.0	12.9
賃金や昇給の面で、男女に差がある	女性	30.1	24.1
	男性	19.2	12.9
昇進や昇格の面で、男女に差がある	女性	30.9	20.6
	男性	25.3	17.6
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	女性	19.5	21.1
	男性	23.4	12.9
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性	7.0	4.3
	男性	8.8	7.1
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	女性	17.6	16.6
	男性	15.9	10.6
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	女性	37.9	29.9
	男性	50.0	31.8
上記のようなことはない	女性	29.3	35.0
	男性	23.9	44.7

【地域別】

● 倉渕地域を除くすべての地域で「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高く、特に新町地域が高い

● 倉渕地域は「ない」が最も高い

倉渕地域を除くすべての地域で「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」が最も高く、特に新町地域（51.4%）は 5 割以上となっています。倉渕地域は「上記のようなことはない」（42.9%）が最も高くなっています。

（%）	高崎地域	倉渕地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	吉井地域
N=	850	14	61	123	37	65	85
募集や採用の面で、男女に差がある	20.1	14.3	19.7	16.3	18.9	16.9	20.0
賃金や昇給の面で、男女に差がある	22.6	7.1	18.0	22.8	16.2	23.1	29.4
昇進や昇格の面で、男女に差がある	24.4	14.3	27.9	23.6	21.6	15.4	34.1
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	22.0	0.0	19.7	17.9	16.2	13.8	30.6
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	7.1	7.1	4.9	8.9	2.7	3.1	9.4
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	16.1	7.1	19.7	17.1	10.8	21.5	11.8
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	39.9	21.4	39.3	43.1	51.4	36.9	40.0
上記のようなことはない	30.8	42.9	27.9	26.8	27.0	29.2	24.7

【性別×結婚経験別】

● 女性は結婚経験にかかわらず「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」「ない」が同程度に高い

● 男性は結婚経験にかかわらず「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高い

女性「結婚している」「結婚したことはない」は、「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（それぞれ 33.6%、35.3%）、「以前結婚していたが、現在はしていない」は「上記のようなことはない」（32.8%）が最も高くなっていますが、大きな差は見られません。また、「結婚したことはない」は「女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある」（24.4%）も比較的高くなっています。

男性は、結婚経験にかかわらず「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」が約 5 割で最も高くなっています。

（%）		結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性	443	67	119
	男性	465	22	120
募集や採用の面で、男女に差がある	女性	19.2	13.4	16.0
	男性	20.4	9.1	24.2
賃金や昇給の面で、男女に差がある	女性	26.6	23.9	27.7
	男性	19.1	4.5	17.5
昇進や昇格の面で、男女に差がある	女性	22.4	22.4	27.7
	男性	24.7	22.7	22.5
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	女性	21.7	13.4	20.2
	男性	22.2	22.7	20.8
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性	5.4	0.0	8.4
	男性	8.6	4.5	9.2
女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	女性	16.0	10.4	24.4
	男性	15.3	9.1	15.8
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	女性	33.6	26.9	35.3
	男性	48.2	45.5	45.0
上記のようなことはない	女性	32.7	32.8	32.8
	男性	26.0	31.8	29.2

【性別×働き方別】

● 女性「共働き」は「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」、女性「どちらか一人だけ働いている」は「賃金や昇給」や「昇進や昇格」が比較的高い

● 男性は働き方にかかわらず「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気」が最も高い

女性は、「共働きである」は「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（34.4%）、「どちらか一人だけ働いている」は「賃金や昇給の面で、男女に差がある」（37.8%）が最も高くなっています。また、「どちらか一人だけ働いている」は「昇進や昇格の面で、男女に差がある」（32.4%）も比較的高くなっています。

男性は、働き方にかかわらず「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」が約5割で最も高くなっています。

（%）		共働きである	どちらか一人だけ働いている
N=	女性	404	37
	男性	263	199
募集や採用の面で、男女に差がある	女性	18.8	21.6
	男性	21.7	19.1
賃金や昇給の面で、男女に差がある	女性	25.5	37.8
	男性	20.2	18.1
昇進や昇格の面で、男女に差がある	女性	23.5	32.4
	男性	24.3	25.6
女性の仕事は補助的業務や雑用が多い	女性	21.5	21.6
	男性	20.2	25.1
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性	5.2	8.1
	男性	9.9	7.0
女性は結婚や出産を機に退職する習慣や雰囲気がある	女性	17.1	5.4
	男性	17.1	13.1
男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	女性	34.4	24.3
	男性	50.2	45.7
上記のようなことはない	女性	32.7	32.4
	男性	26.2	25.6

7　地域活動について

問 10	あなたがお住まいの地域では、以下のようなことについて、男女どちらが多いと思いますか。

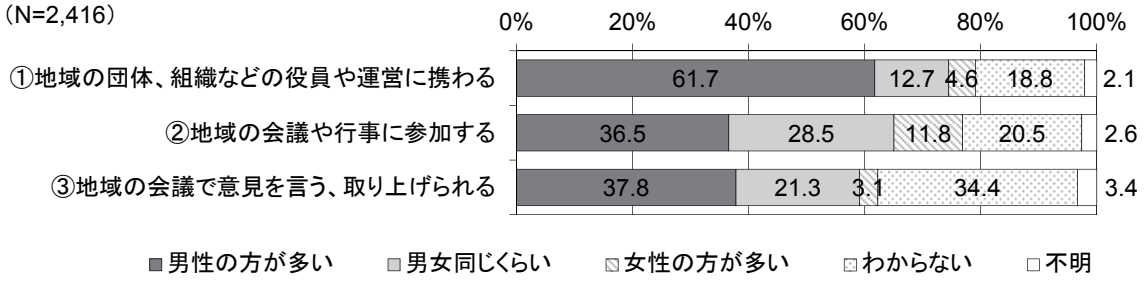
【全項目・全体】

- すべての項目で「男性の方が多い」が最も高く、特に「地域の団体、組織などの役員や運営に携わる」は 6 割以上
- 「男女同じくらい」が最も高いのは「地域の会議や行事に参加」で約 3 割
- すべての項目で「女性の方が多い」は低い

いずれの項目も「男性の方が多い」が最も高く、特に「①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる」(61.7%)は 6 割以上を占めています。

また、「②地域の会議や行事に参加する」は「男女同じくらい」（28.5%）、「③地域の会議で意見を言う、取り上げられる」は「わからない」（34.4%）も比較的高くなっています。

一方、「女性の方が多い」は「②地域の会議や行事に参加する」（11.8%）で 1 割程度見られますが、他の 2 項目ではほとんど見られません。



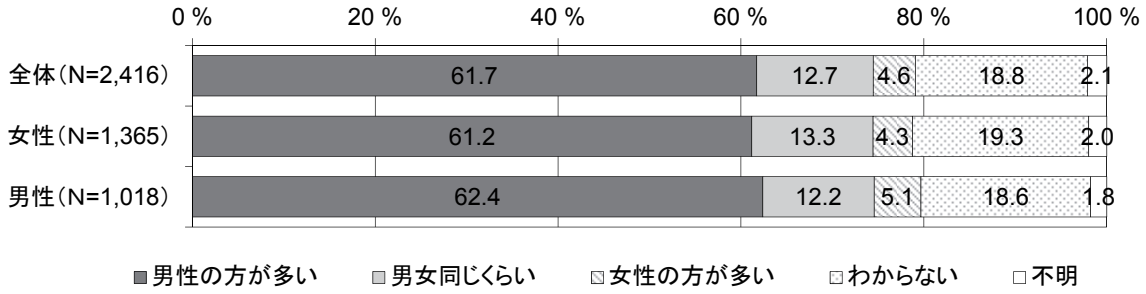
①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる

【全体・性別】

● 男女とも「男性の方が多い」が 6 割以上

男女とも「男性の方が多い」（女性 61.2%、男性 62.4%）が最も高く、性別による大きな差は見られません。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる



【性別×年代別】

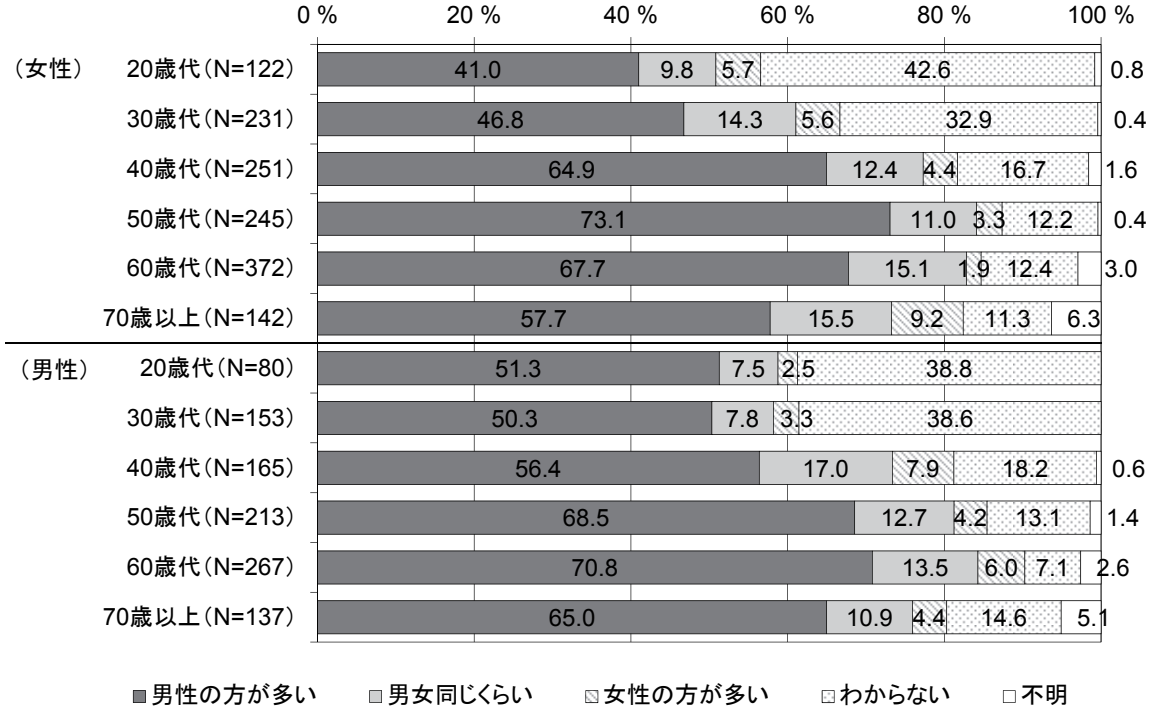
● 女性 20 歳代は「わからない」、それ以外は「男性の方が多い」が最も高い

● 男女とも 20・30 歳代は「わからない」が高い

女性 20 歳代を除くすべての年代で「男性の方が多い」が最も高く、特に女性 50 歳代（73.1%）や男性 60 歳代（70.8%）は 7 割以上を占めています。

女性 20 歳代は「わからない」（42.6%）が最も高く、男女とも 20・30 歳代は「わからない」が高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる



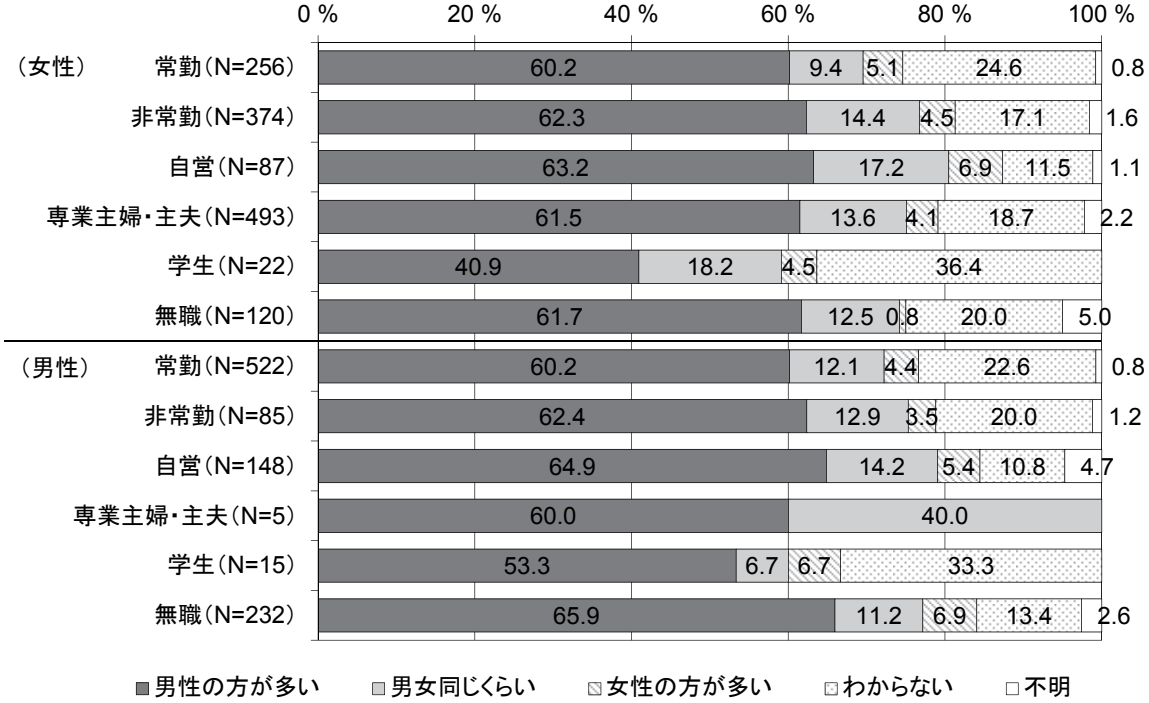
【性別×職業別】

● 男女ともすべての職業で「男性の方が多い」が最も高い

● 学生は男女とも「わからない」が比較的高い

すべての職業で「男性の方が多い」が最も高くなっています。また、男女とも学生は「わからない」（女性 36.4%、男性 33.3%）も比較的高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる



【地域別】

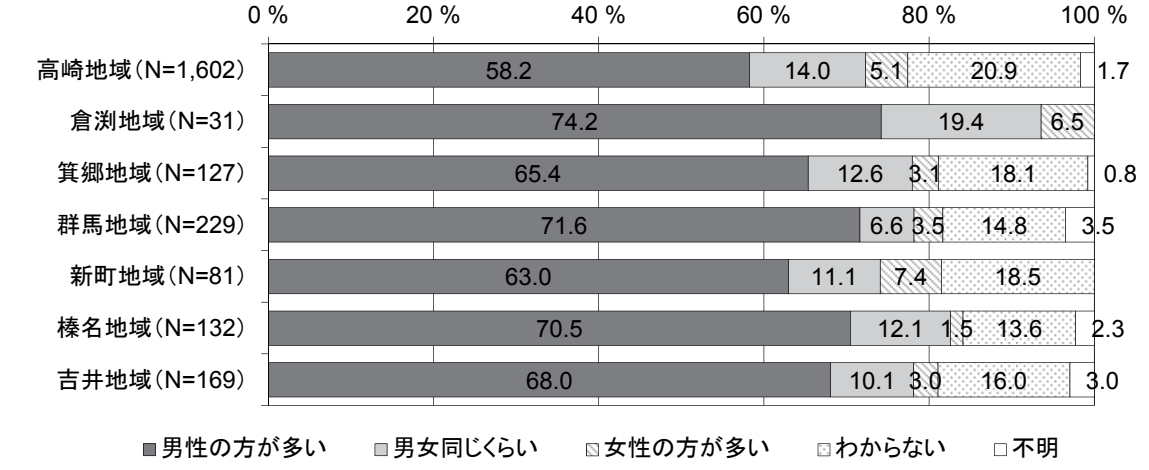
● すべての地域で「男性の方が多い」が最も高い

● 倉渕地域は「男女同じくらい」が約 2 割で比較的高い

すべての地域で「男性の方が多い」が最も高く、特に倉渕・群馬・榛名地域（それぞれ 74.2%、71.6%、70.5%）は 7 割以上を占めています。

また、倉渕地域は「男女同じくらい」（19.4%）も約 2 割と比較的高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる



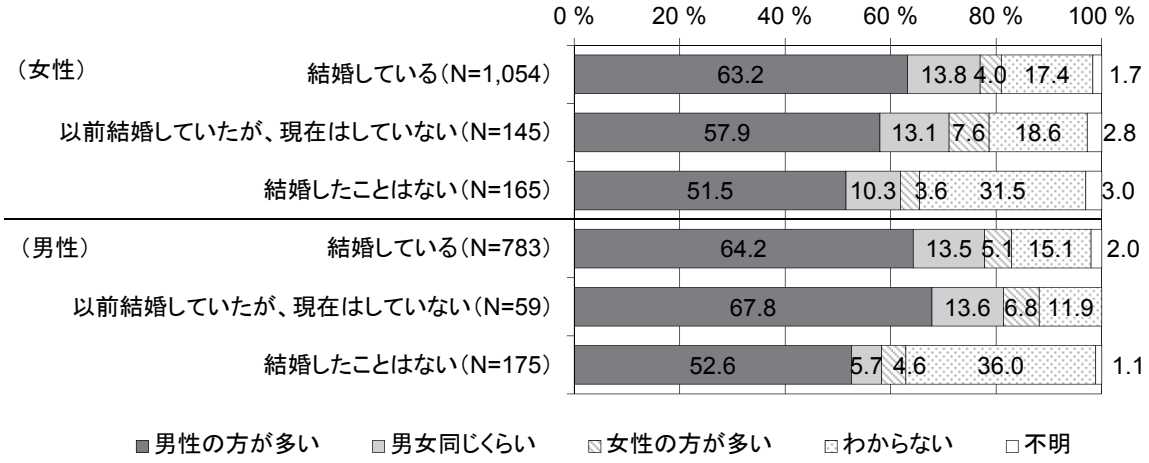
【性別×結婚経験別】

● 男女とも結婚経験にかかわらず「男性の方が多い」が最も高い

● 「結婚したことはない」は男女とも「わからない」が比較的高い

結婚経験にかかわらず、男女とも「男性の方が多い」が最も高くなっています。また、男女とも「結婚したことはない」は「わからない」（女性 31.5%、男性 36.0%）も比較的高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる

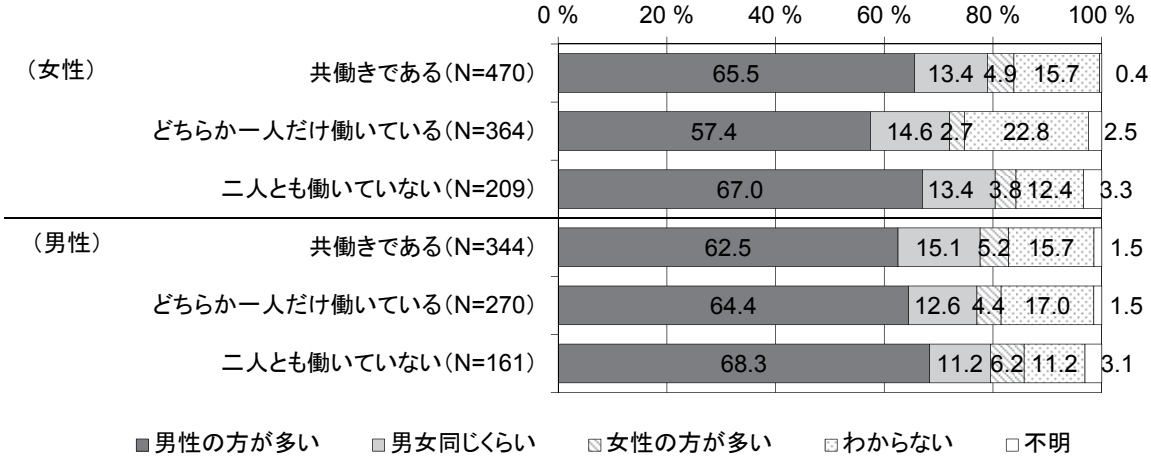


【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「男性の方が多い」が最も高い

働き方にかかわらず、男女とも「男性の方が多い」が最も高くなっています。また、女性「どちらか一人だけ働いている」は「わからない」（22.8%）も比較的高くなっています。

①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる



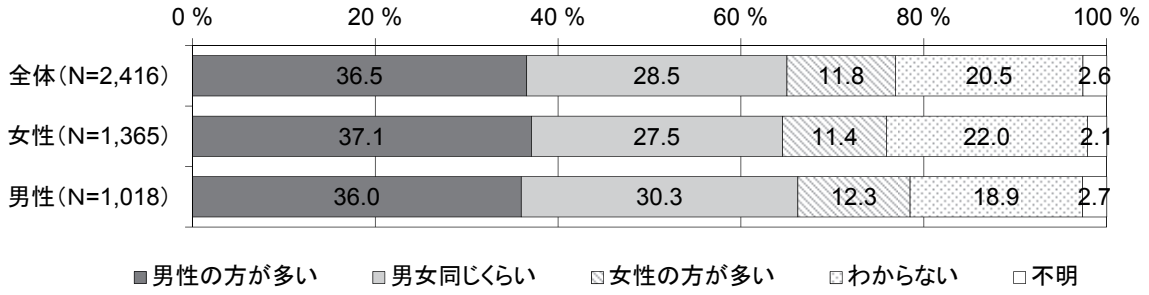
②地域の会議や行事に参加する

【全体・性別】

● **男女とも「男性の方が多い」が約 4 割、「男女同じくらい」が約 3 割**

男女とも「男性の方が多い」（女性 37.1%、男性 36.0%）が最も高く、次いで「男女同じくらい」（女性 27.5%、男性 30.3%）となっています。性別による大きな差は見られません。

②地域の会議や行事に参加する



【性別×年代別】

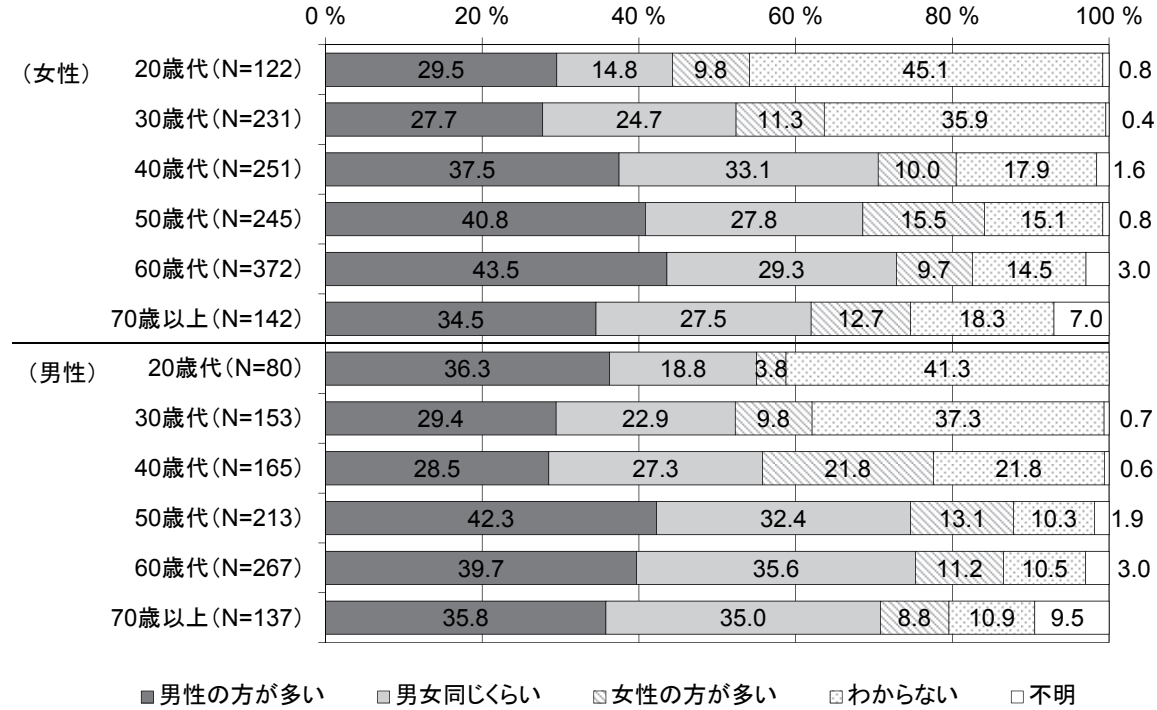
● **男女とも 30 歳代以下は「わからない」、40 歳代以上は「男性の方が多い」が最も高い**

● **男性 40 歳代・70 歳以上は「男性の方が多い」と「男女同じくらい」が同程度**

● **男性 40 歳代は「女性の方が多い」が比較的高い**

男女とも 30 歳代以下は「わからない」、40 歳代以上は「男性の方が多い」が最も高くなっています。40 歳代以上は、これに次いで「男女同じくらい」が比較的高く、特に男性 40 歳代や男性 70 歳以上は「男性の方が多い」と「男女同じくらい」が同程度になっています。また、男性 40 歳代は「女性の方が多い」（21.8%）も比較的高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する



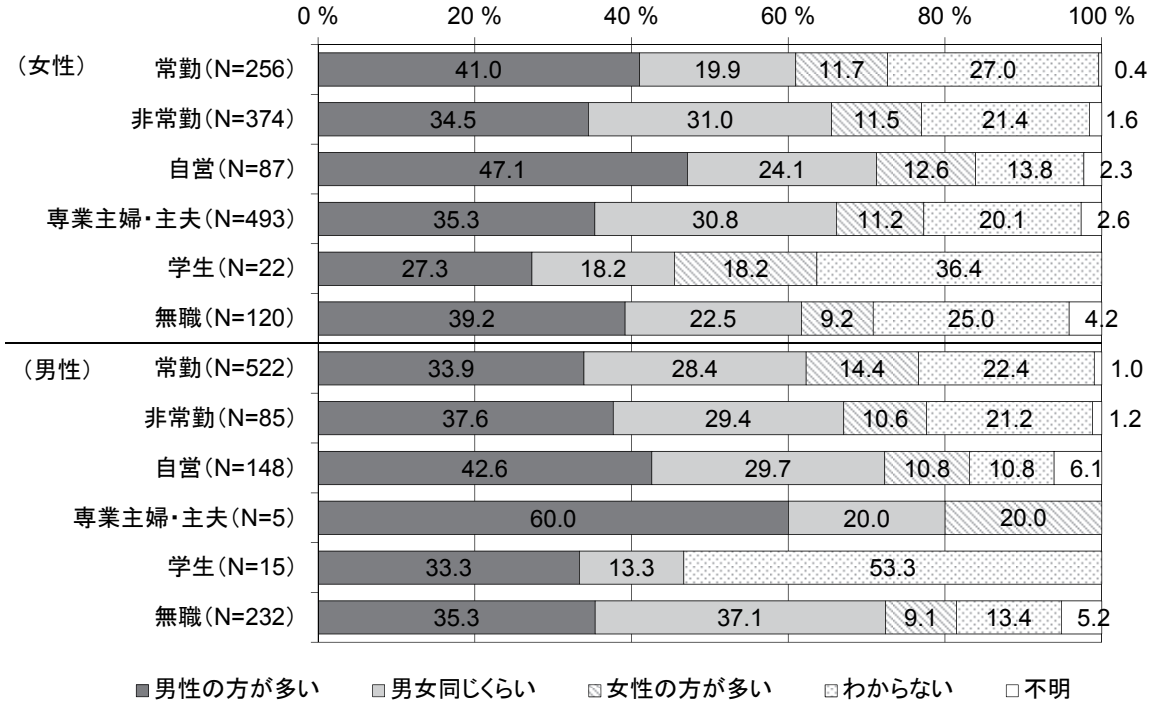
【性別×職業別】

● 男女学生、男性無職を除くすべての職業で「男性の方が多い」が最も高い

● 男女とも学生は「わからない」、男性無職は「男女同じくらい」が最も高い

男女学生、男性無職を除くすべての職業で「男性の方が多い」が最も高くなっています。男女とも学生は「わからない」（女性 36.4%、男性 53.3%）、男性無職は「男女同じくらい」（37.1%）が最も高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する



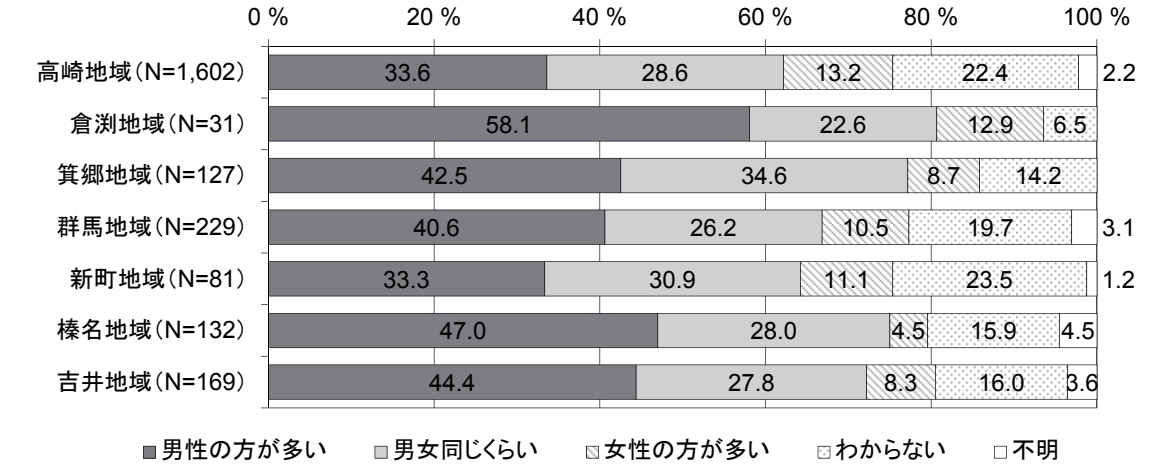
【地域別】

● すべての地域で「男性の方が多い」が最も高く、特に倉渕地域は約 6 割

● 箕郷地域は「男女同じくらい」が比較的高い

すべての地域で「男性の方が多い」が最も高く、特に倉渕地域（58.1%）は約 6 割を占めています。また、箕郷地域は「男女同じくらい」（34.6%）、高崎地域や新町地域は「わからない」（それぞれ 22.4%、23.5%）も比較的高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する



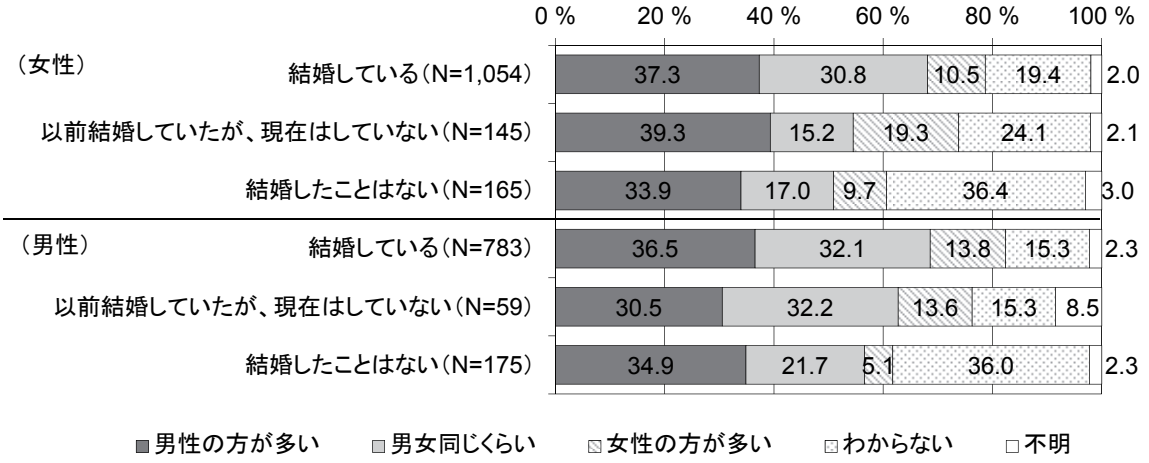
【性別×結婚経験別】

● 男女とも結婚経験によって傾向が異なる

● 男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「男女同じくらい」が最も高い

男女とも「結婚している」は「男性の方が多い」（女性 37.3%、男性 36.5%）、「結婚したことはない」は「わからない」（女性 36.4%、男性 36.0%）が最も高くなっています。「以前結婚していたが、現在はしていない」は、女性では「男性の方が多い」（39.3%）、男性では「男女同じくらい」（32.2%）が最も高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する

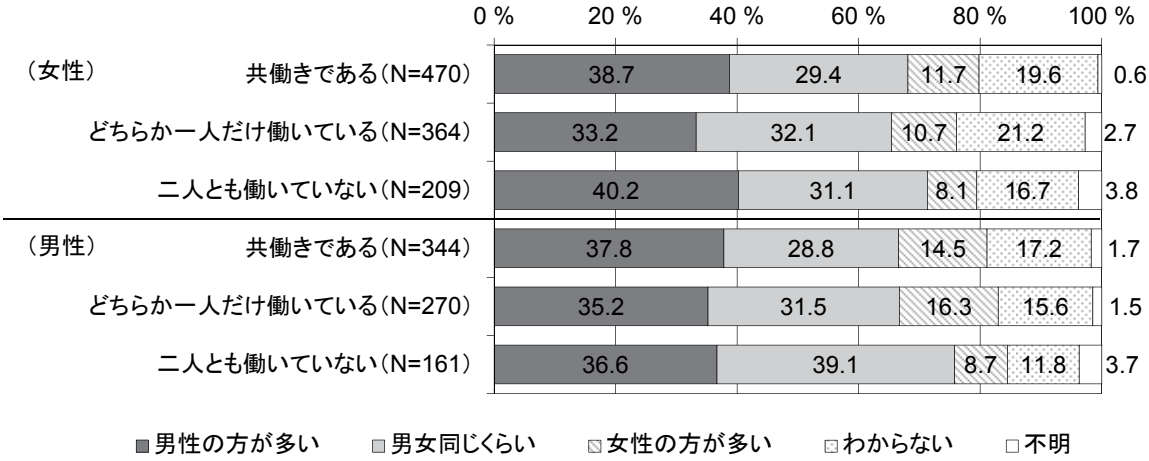


【性別×働き方別】

● 男性「二人とも働いていない」は「男女同じくらい」、それ以外は「男性の方が多い」が最も高い

男性「二人とも働いていない」を除いて「男性の方が多い」が最も高くなっています。男性「二人とも働いていない」は「男女同じくらい」（39.1%）が最も高くなっています。

②地域の会議や行事に参加する



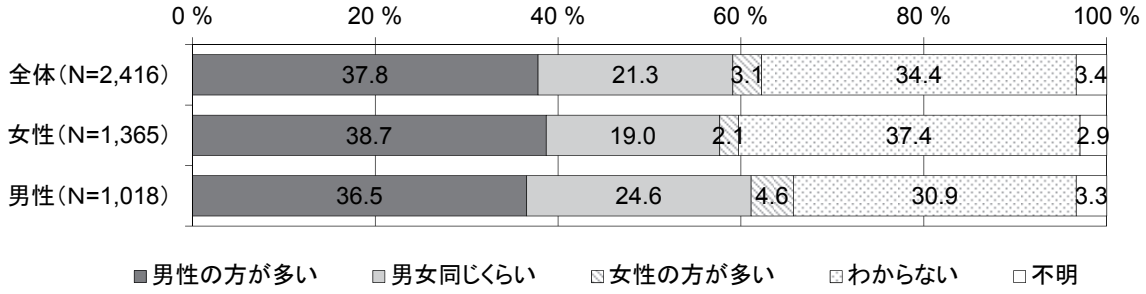
③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

【全体・性別】

- 男女とも「男性の方が多い」が約４割
- 男性は「男女同じくらい」が２割以上で比較的高い
- 「わからない」が女性約４割、男性約３割

男女とも「男性の方が多い」（女性 38.7%、男性 36.5%）が最も高くなっていますが、「わからない」（女性 37.4%、男性 30.9%）も同程度に高くなっています。性別による大きな差は見られませんが、男性は「男女同じくらい」（24.6%）が比較的高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

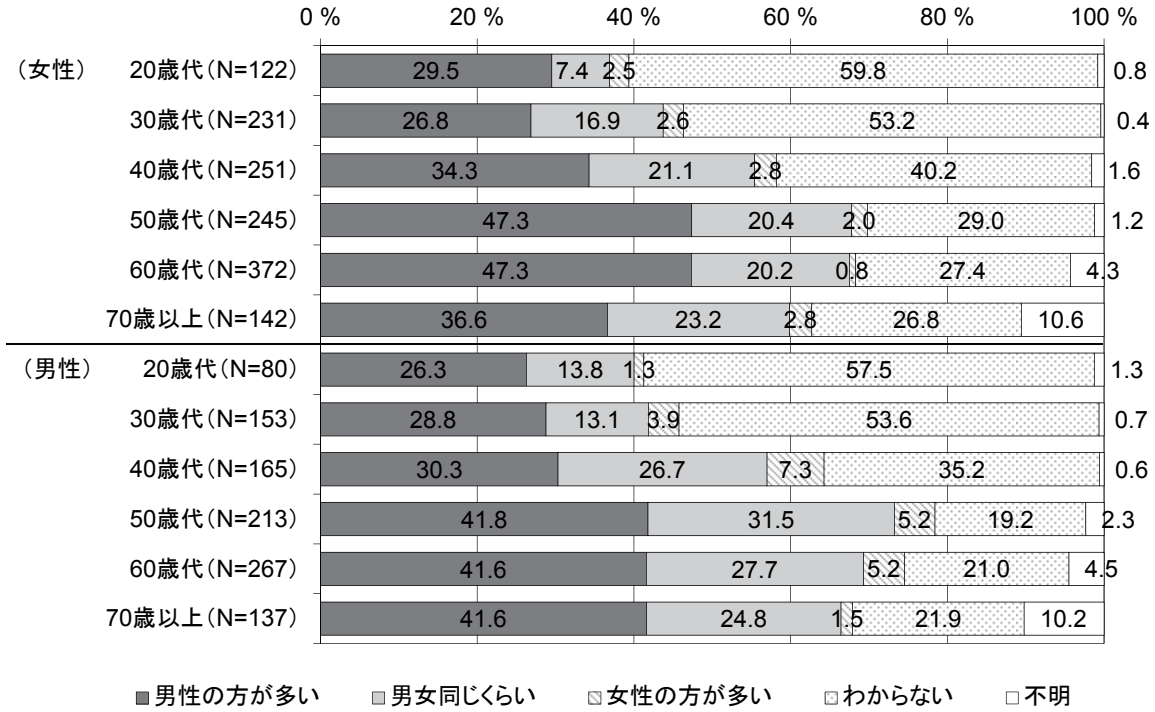


【性別×年代別】

- 男女とも 40 歳代以下は「わからない」、50 歳代以上は「男性の方が多い」が最も高い

男女とも 40 歳代以下は「わからない」、50 歳代以上は「男性の方が多い」が最も高くなっています。特に 30 歳代以下は男女とも「わからない」が 5 割以上を占めています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる

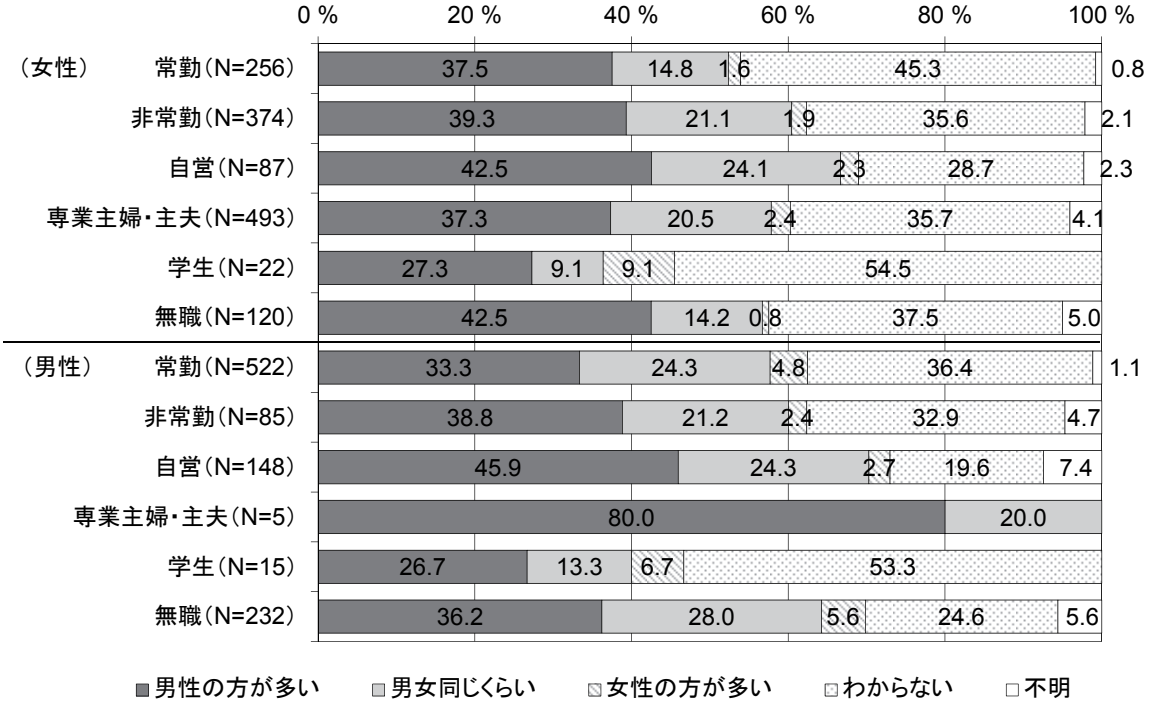


【性別×職業別】

● 男女とも常勤・学生は「わからない」、それ以外は「男性の方が多い」が最も高い

回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、男女とも常勤・学生を除くすべての職業で「男性の方が多い」が最も高くなっています。男女とも常勤や学生は「わからない」が最も高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる



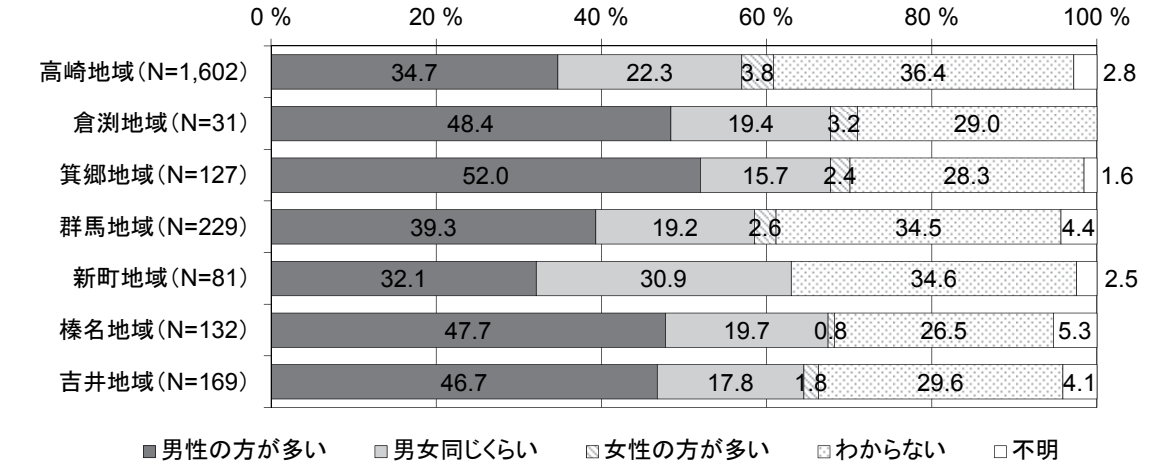
【地域別】

● 高崎・新町地域を除くすべての地域で「男性の方が多い」が最も高い

● 高崎・新町地域は「わからない」が最も高く、新町地域は「男女同じくらい」も比較的高い

高崎・新町地域を除くすべての地域で「男性の方が多い」が最も高くなっています。高崎・新町地域は「わからない」（それぞれ 36.4%、34.6%）が最も高くなっています。また、新町地域は「男女同じくらい」（30.9%）も比較的高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる



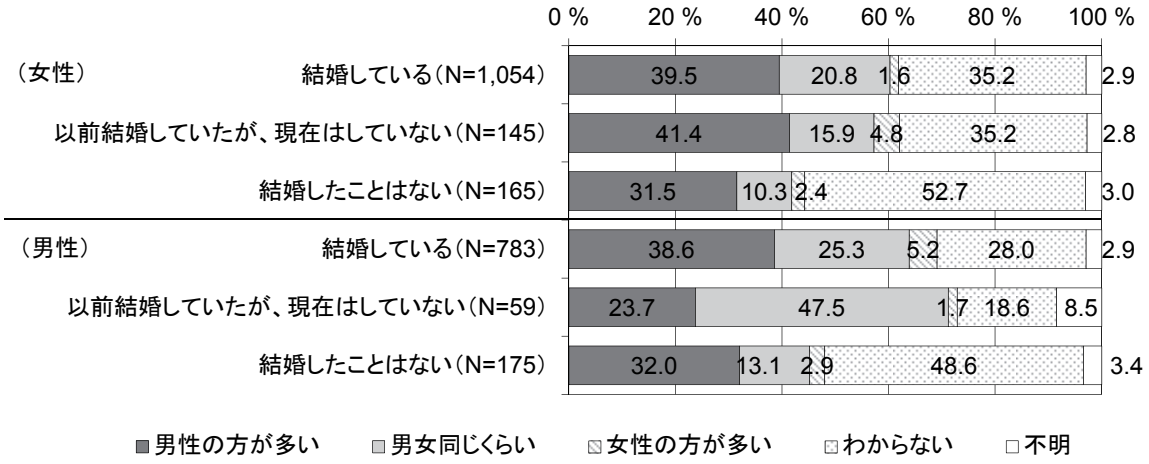
【性別×結婚経験別】

● 男女とも結婚経験によって傾向が異なる

● 男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「男女同じくらい」が最も高い

男女とも「結婚している」は「男性の方が多い」（女性 39.5%、男性 38.6%）、「結婚したことはない」は「わからない」（女性 52.7%、男性 48.6%）が最も高くなっています。「以前結婚していたが、現在はしていない」は、女性では「男性の方が多い」（41.4%）、男性では「男女同じくらい」（47.5%）が最も高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる



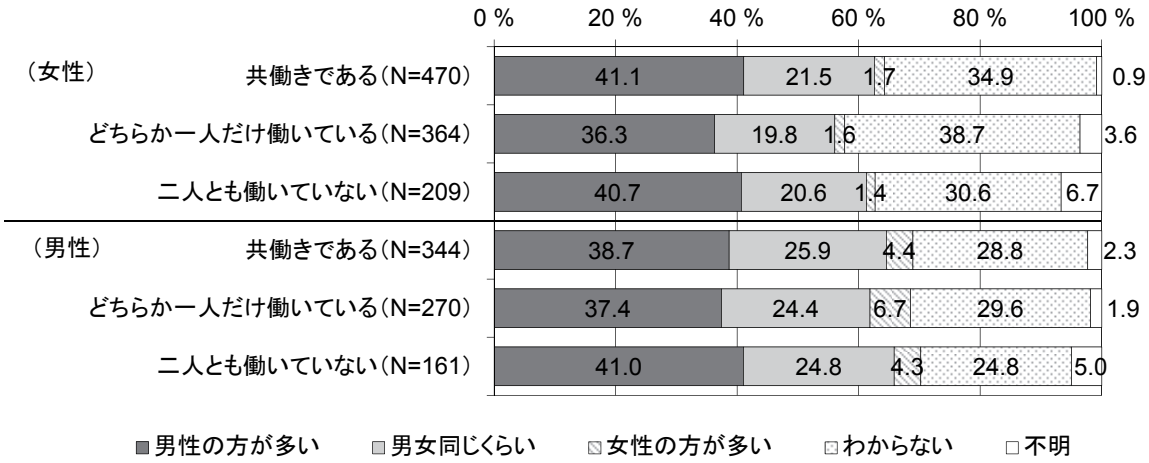
【性別×働き方別】

● 女性「どちらか一人だけ働いている」を除き「男性の方が多い」が最も高い

● 女性「どちらか一人だけ働いている」は「男性の方が多い」と「わからない」が同程度

女性「どちらか一人だけ働いている」を除いて「男性の方が多い」が最も高くなっています。女性「どちらか一人だけ働いている」は「わからない」（38.7%）が最も高く、「男性の方が多い」（36.3%）も同程度に高くなっています。

③地域の会議で意見を言う、取り上げられる



8　ドメスティック・バイオレンスについて

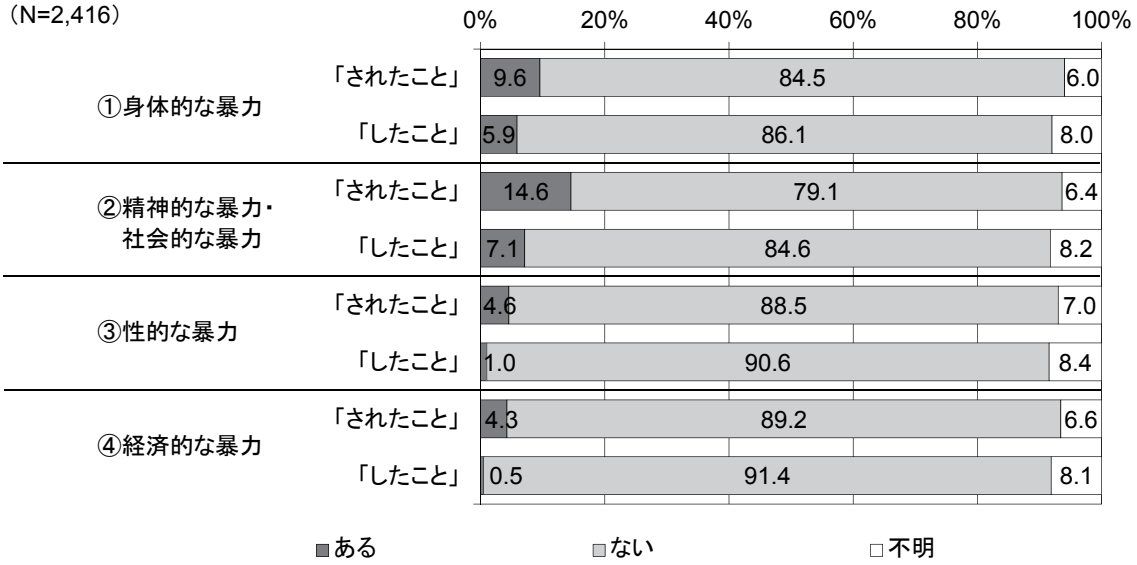
問 11	あなたはこれまでに恋人やパートナーから、次のようなことを「されたこと」や、もしくは「したこと」がありますか。

【全項目・全体】

● ほとんどの項目で「されたこと」「したこと」ともにあまり見られない

● 「②精神的・社会的な暴力」を「されたことがある」は 1 割以上見られる

いずれの項目も「されたこと」「したこと」ともに「ない」がほとんどを占めています。その中で「②精神的な暴力・社会的な暴力」を「されたこと」が「ある」（14.6%）は比較的高くなっています。



※①身体的な暴力…なぐる、ける、物を投げつける、つきとばす、刃物でおどす等
②精神的な暴力・社会的な暴力…人格を否定するような暴言、長時間の無視、どなる、「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」等の見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等
③性的な暴力……相手がいやがっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要等
④経済的な暴力…生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等

①身体的な暴力

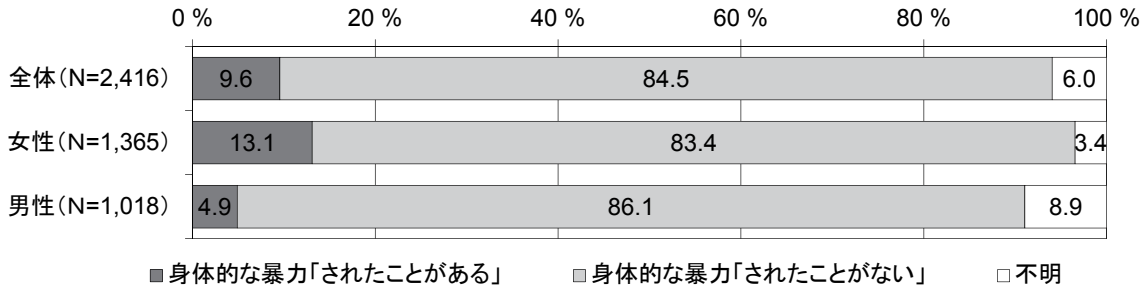
（なぐる、ける、物を投げつける、つきとばす、刃物でおどす等）

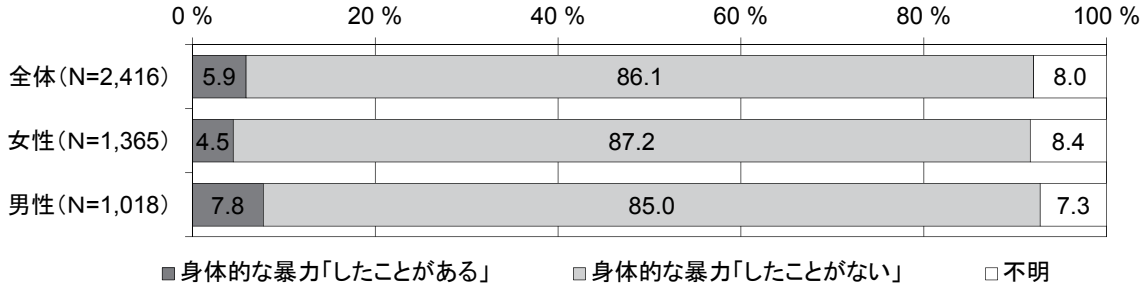
【全体・性別】

- **「されたことがある」は女性が 1 割以上で比較的高い**
- **「したことがある」は男女とも 1 割未満**

「されたことがある」は女性（13.1%）が 1 割以上で比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は男性（7.8%）が若干高くなっていますが、男女とも 1 割未満で性別による大きな差は見られません。





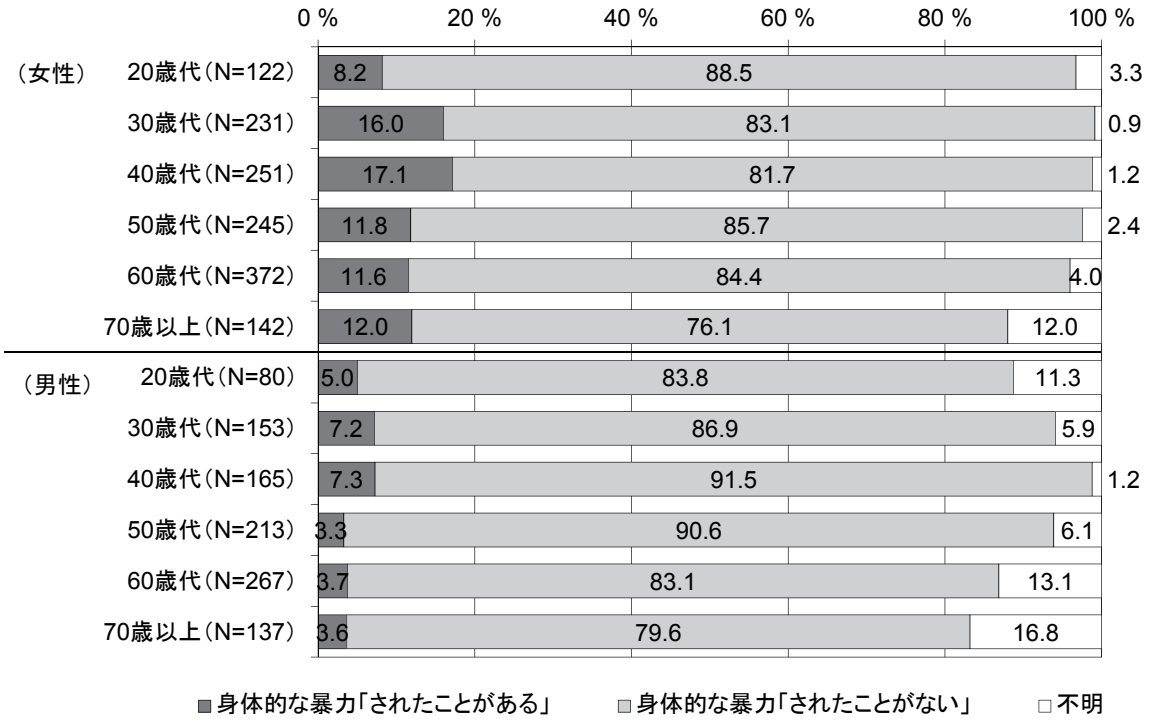
【性別×年代別】

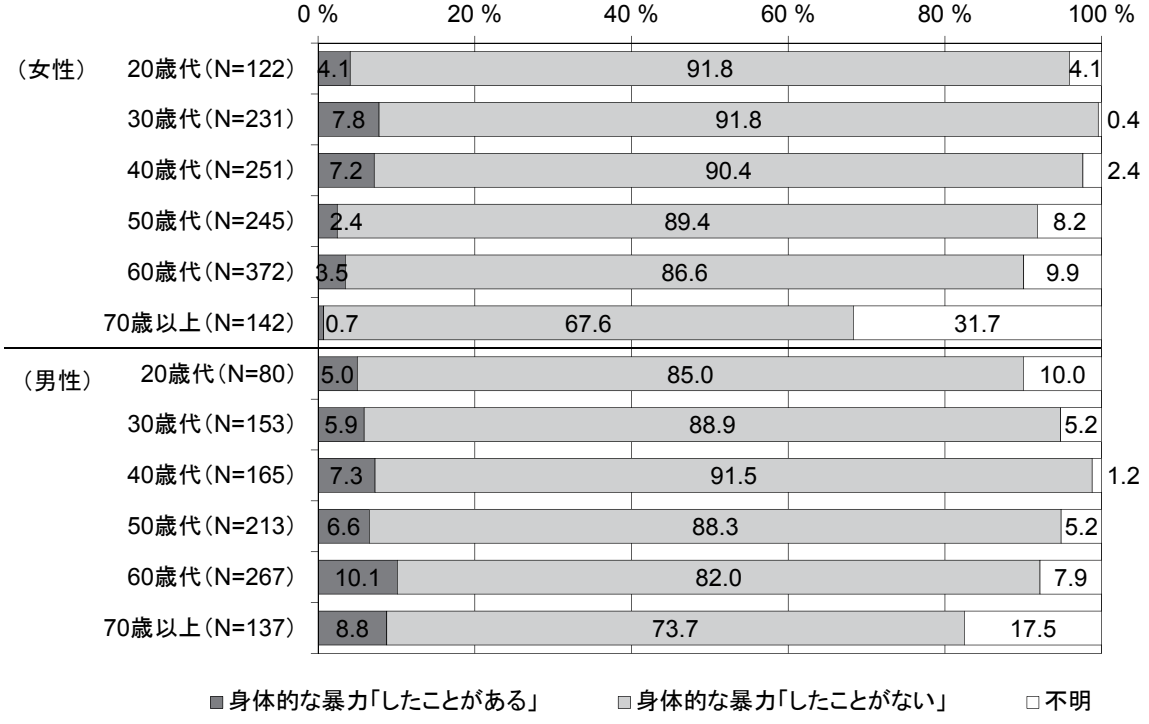
● 「されたことがある」はすべての年代で女性が高く、女性 30・40 歳代が比較的高い

● 「したことがある」は男女とも年代による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性 30 歳代（16.0%）や女性 40 歳代（17.1%）が比較的高く、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性 60 歳代（10.1%）が若干高くなっていますが、男女とも年代による大きな差は見られません。





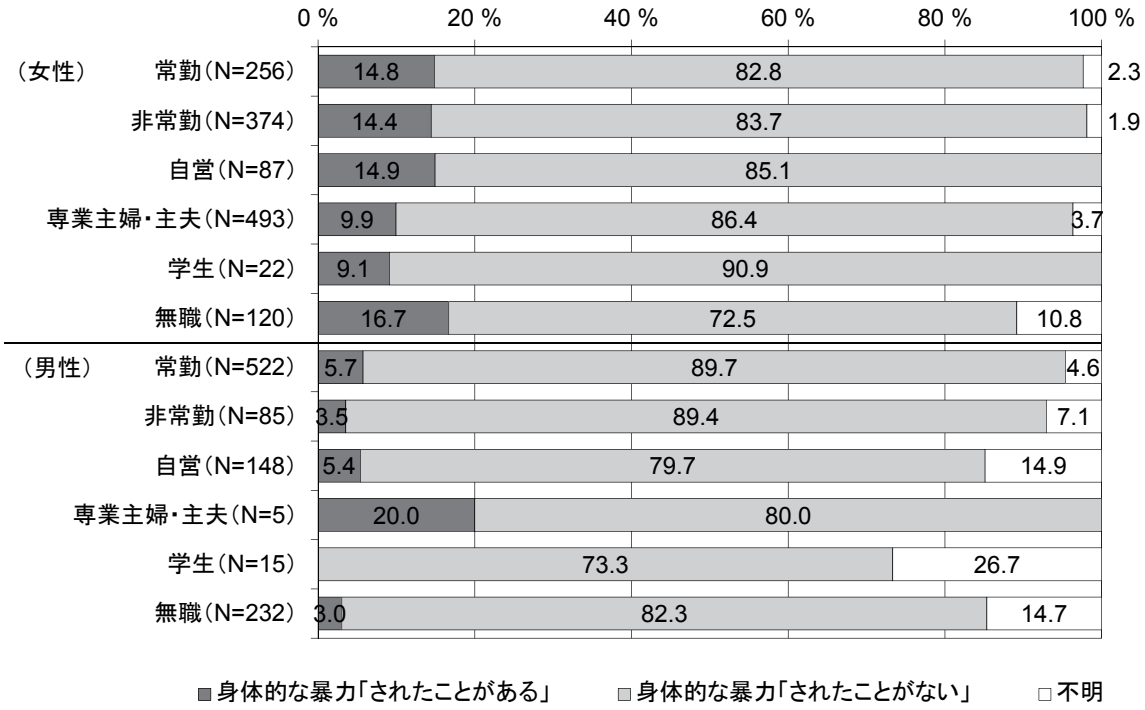
【性別×職業別】

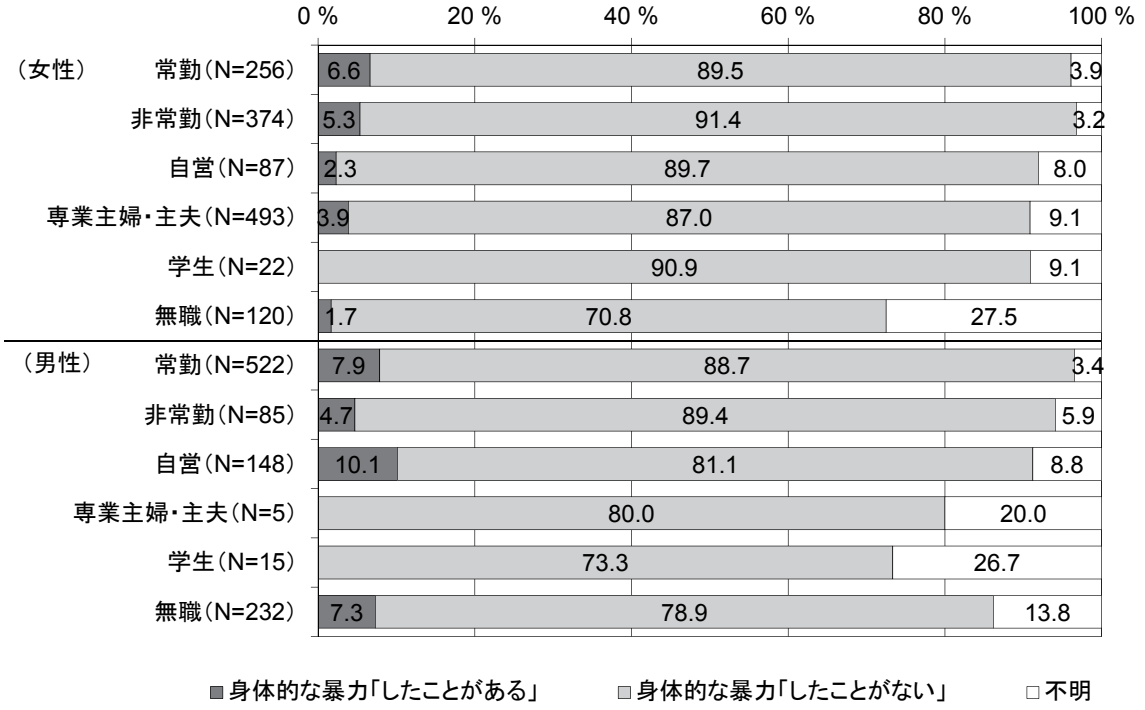
● 「されたことがある」はすべての職業で女性が高い

● 「したことがある」は男女とも職業による大きな差は見られない

回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、「されたことがある」は女性無職（16.7%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性自営（10.1%）が若干高くなっていますが、男女とも職業による大きな差は見られません。



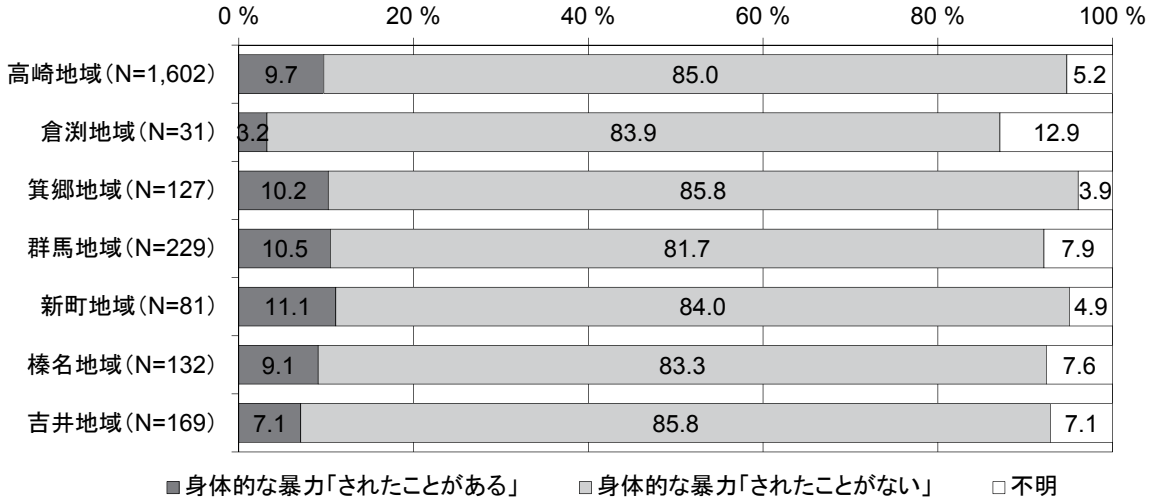


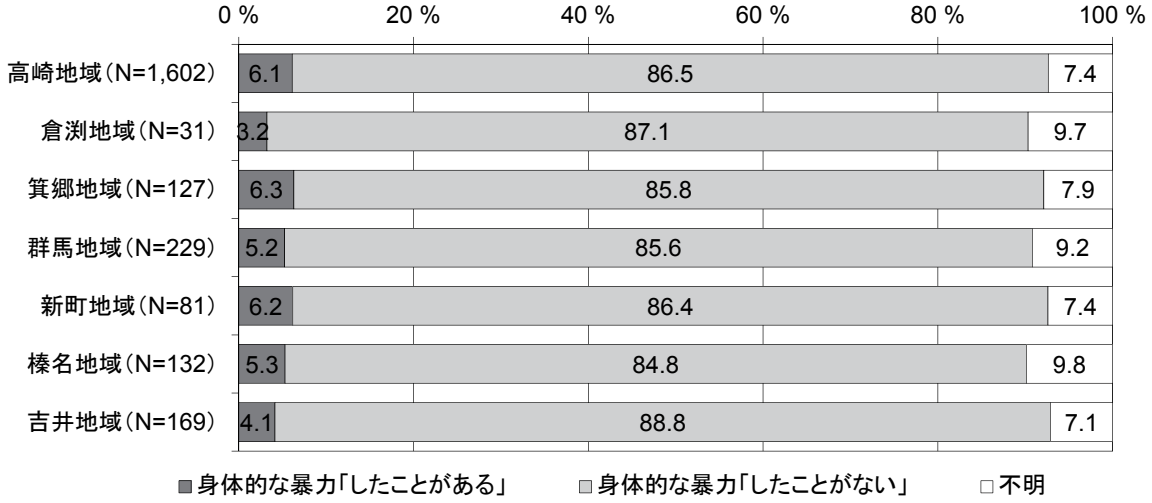
【地域別】

● 「されたことがある」は倉渕地域が特に低い

● 「したことがある」は地域による大きな差は見られない

「されたことがある」は倉渕地域（3.2%）が特に低くなっています。
一方、「したことがある」は地域による大きな差は見られません。





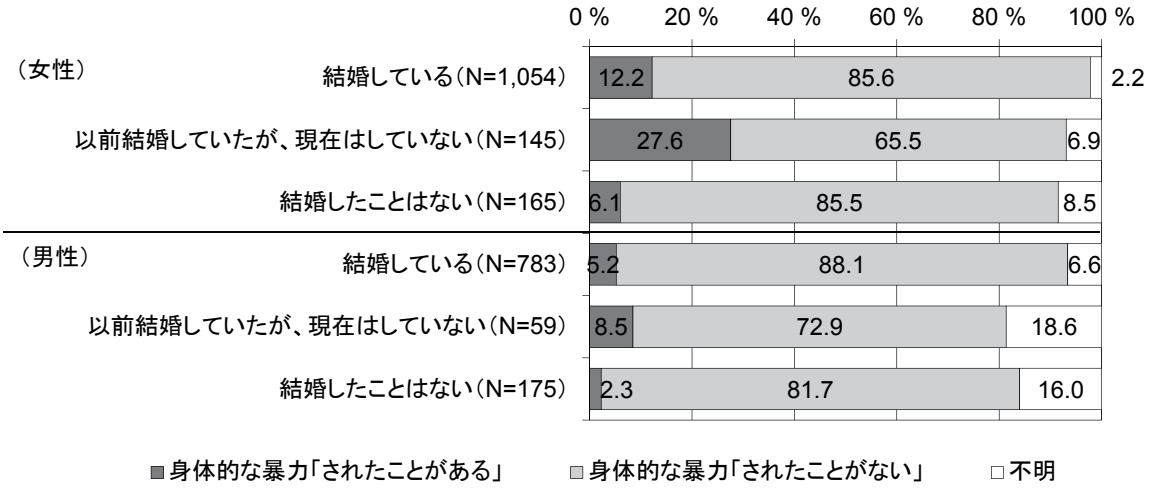
【性別×結婚経験別】

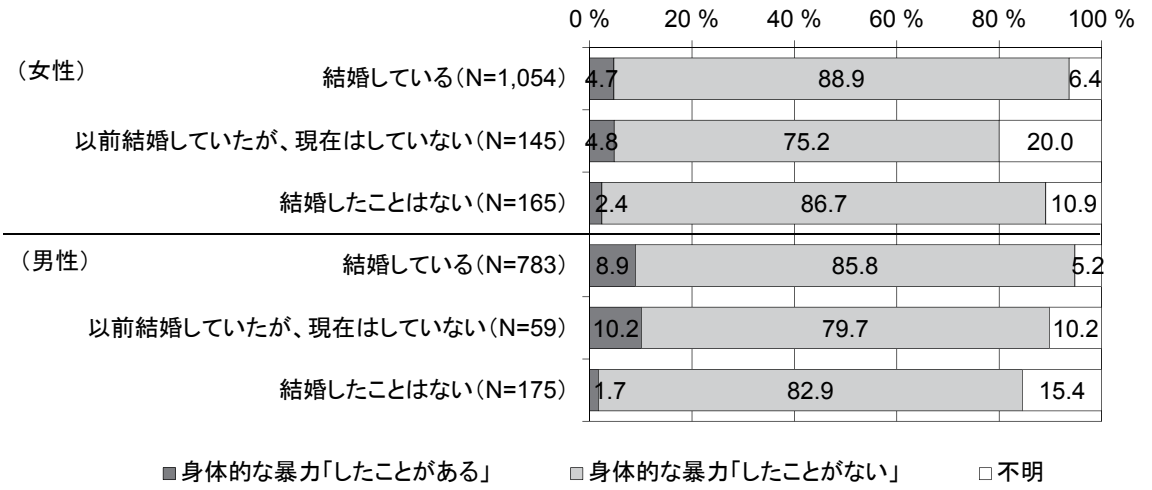
● 「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が約3割で特に高い

● 「したことがある」は男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」が約1割で比較的高い

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」（27.6%）が約3割で特に高く、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」（それぞれ8.9%、10.2%）が比較的高くなっています。





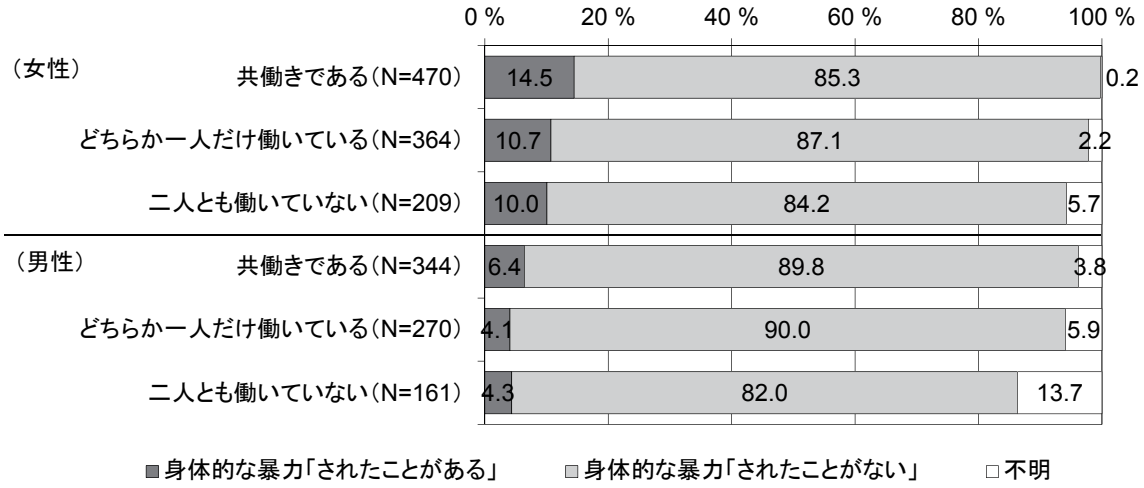
【性別×働き方別】

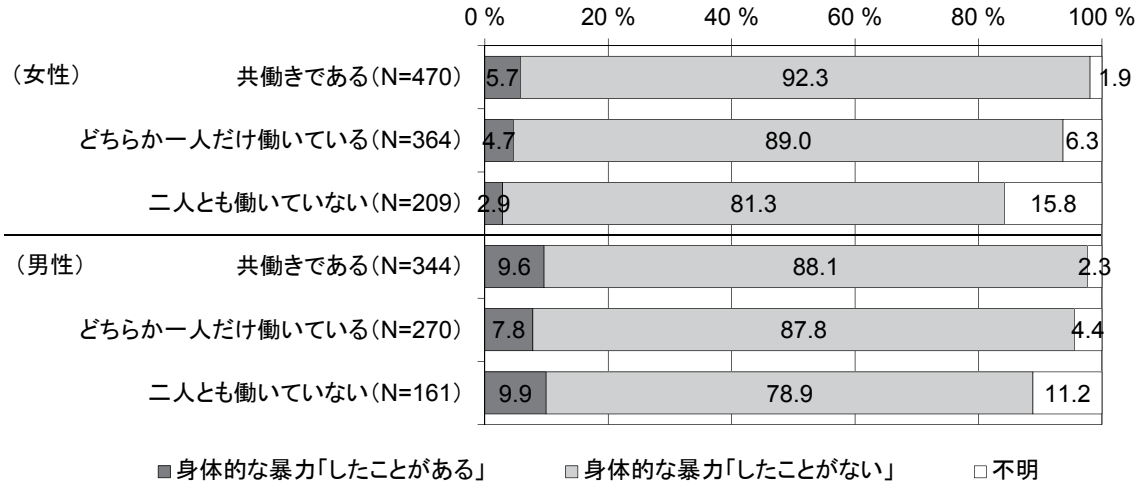
● 「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高い

● 「したことがある」は働き方にかかわらず男性が高い

「されたことがある」は女性「共働きである」（14.5%）が比較的高く、働き方にかかわらず女性が高くなっています。

一方､「したことがある」は働き方にかかわらず男性は約 1 割と比較的高くなっています。



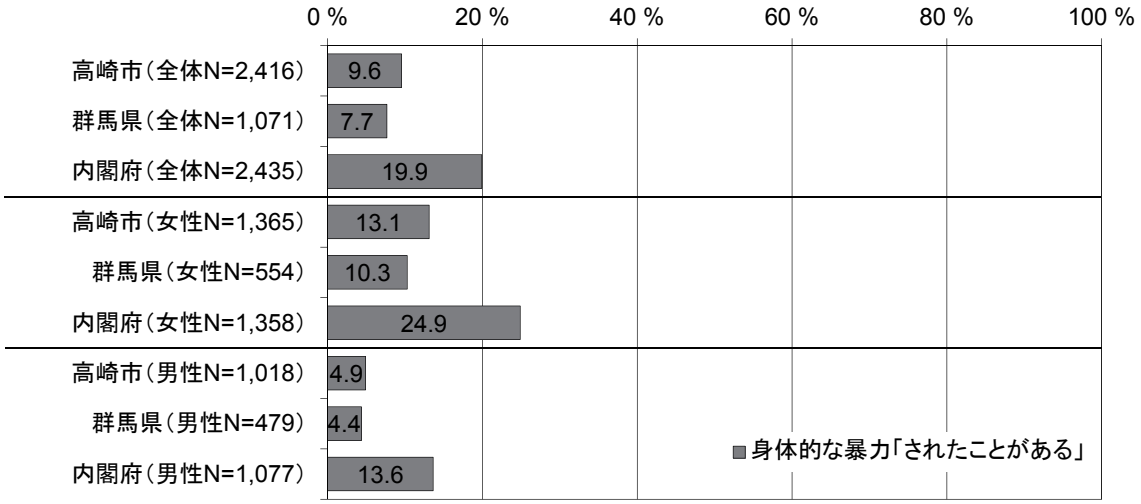


【性別×他調査との比較】

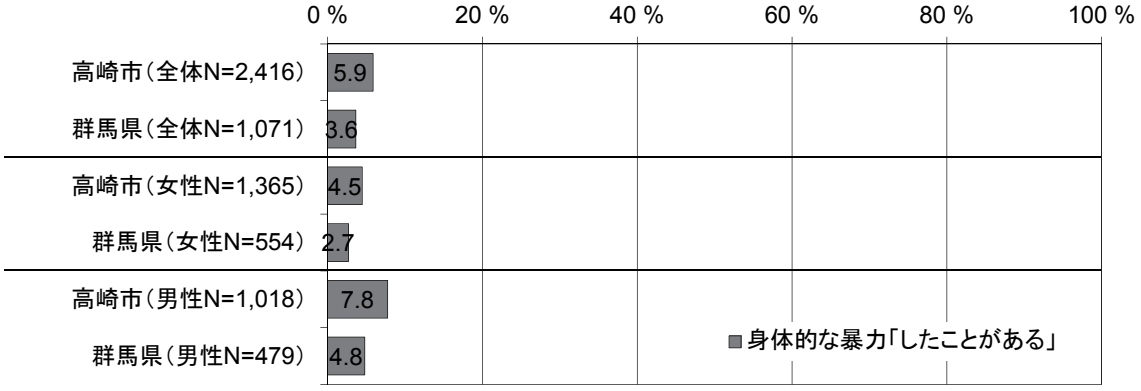
● 「されたことがある」は男女とも国より低く、群馬県と同程度

● 「したことがある」は男女とも群馬県より若干高い

「されたことがある」は男女とも内閣府より低く、群馬県と同程度になっています。
一方、「したことがある」は男女とも群馬県より若干高くなっています。



※「ある」のみを表示
※「群馬県」「内閣府」は「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」
※「群馬県」「内閣府」は「1、2 度あった」「何度もあった」「まったくない」の 3 選択肢であるため、「1、2 度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示



※「ある」のみを表示
※「群馬県」は「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行をした」
※「群馬県」は「1、2 度あった」「何度もあった」「まったくない」の 3 選択肢であるため、「1、2 度あった」「何度もあった」を合算して「ある」として表示

②精神的な暴力・社会的な暴力

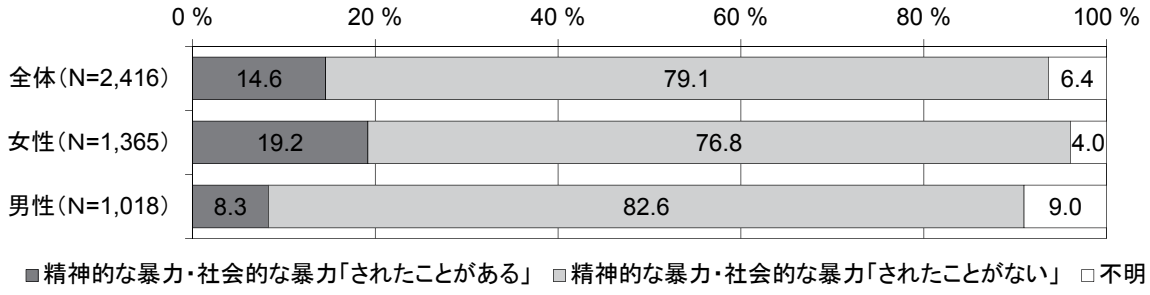
（人格を否定するような暴言、長時間の無視、どなる、「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」等の見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等）

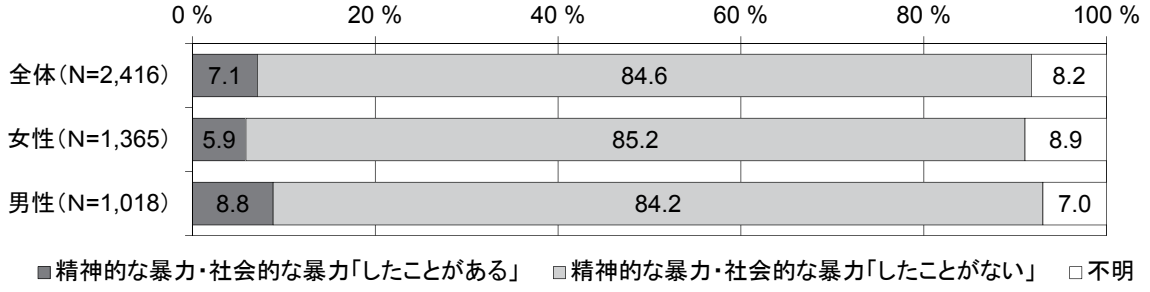
【全体・性別】

- **「されたことがある」は女性が約２割で比較的高い**
- **「したことがある」は男女とも１割未満**

「されたことがある」は女性（19.2%）が約２割で比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は男性（8.8%）が若干高くなっていますが、男女とも１割未満で、性別による大きな差は見られません。





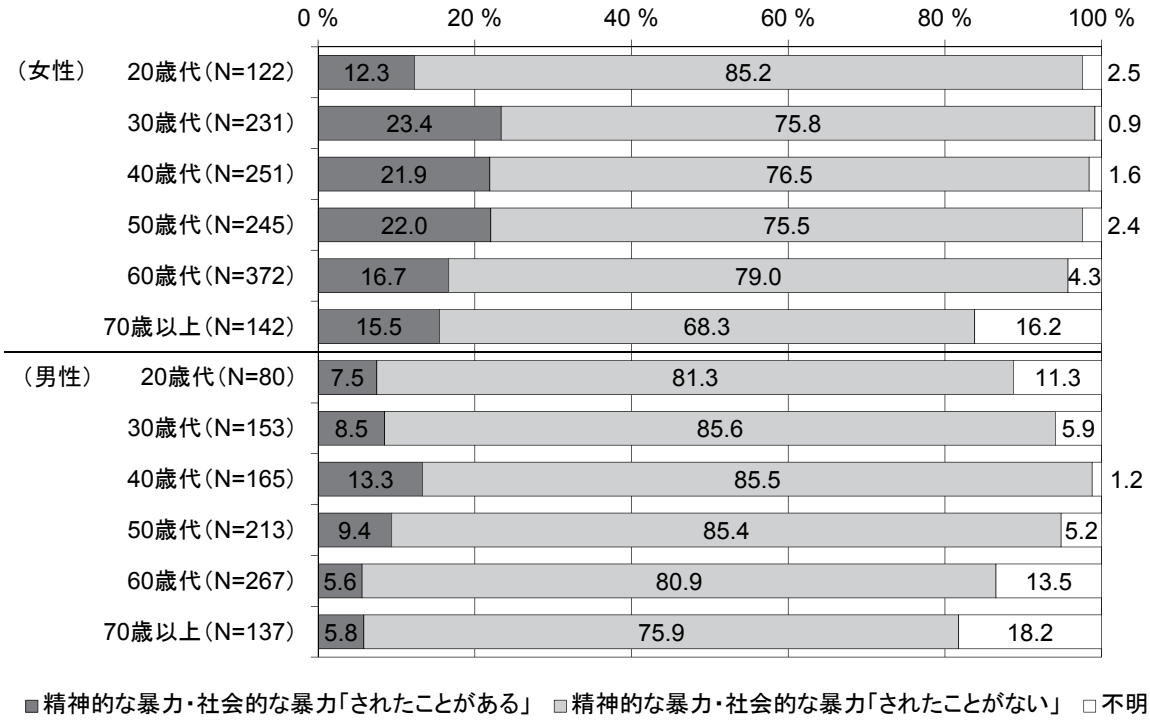
【性別×年代別】

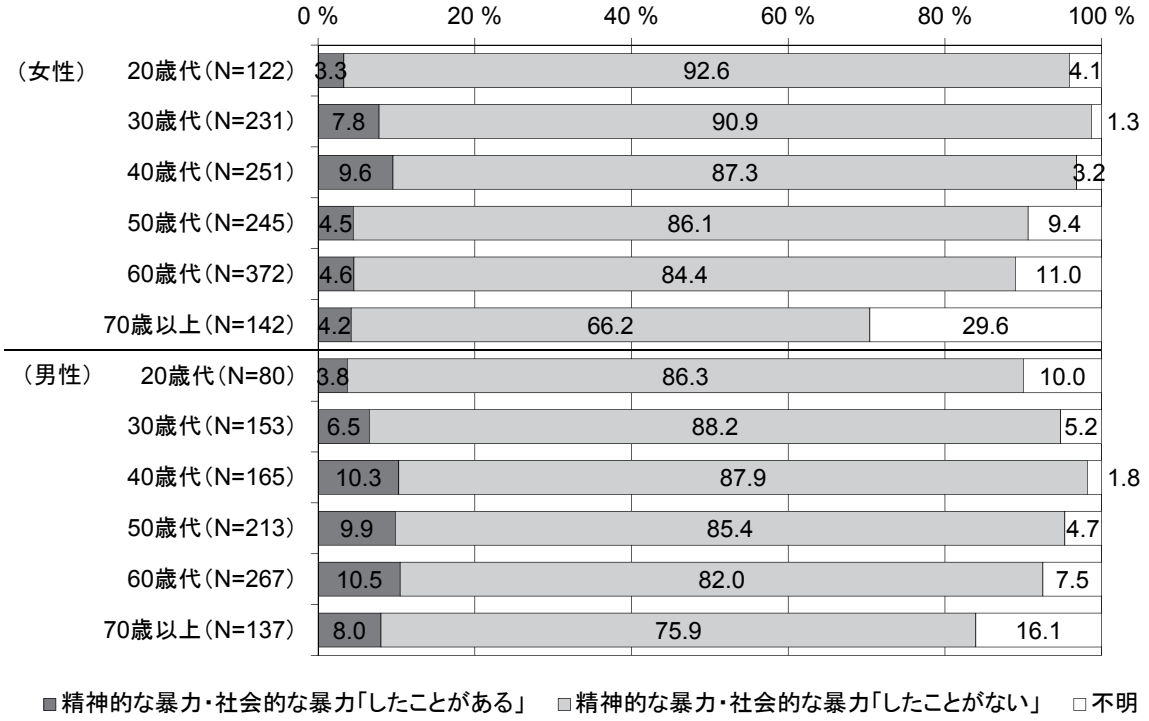
● 「されたことがある」はすべての年代で女性が高く、女性 30～50 歳代が比較的高い

● 「したことがある」は男女とも年代による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性 30 歳代（23.4%）が最も高くなっています。女性 30～50 歳代はいずれも 2 割以上で比較的高く、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は女性 40 歳代と男性 40～60 歳代が約 1 割で若干高くなっていますが、男女とも年代による大きな差は見られません。





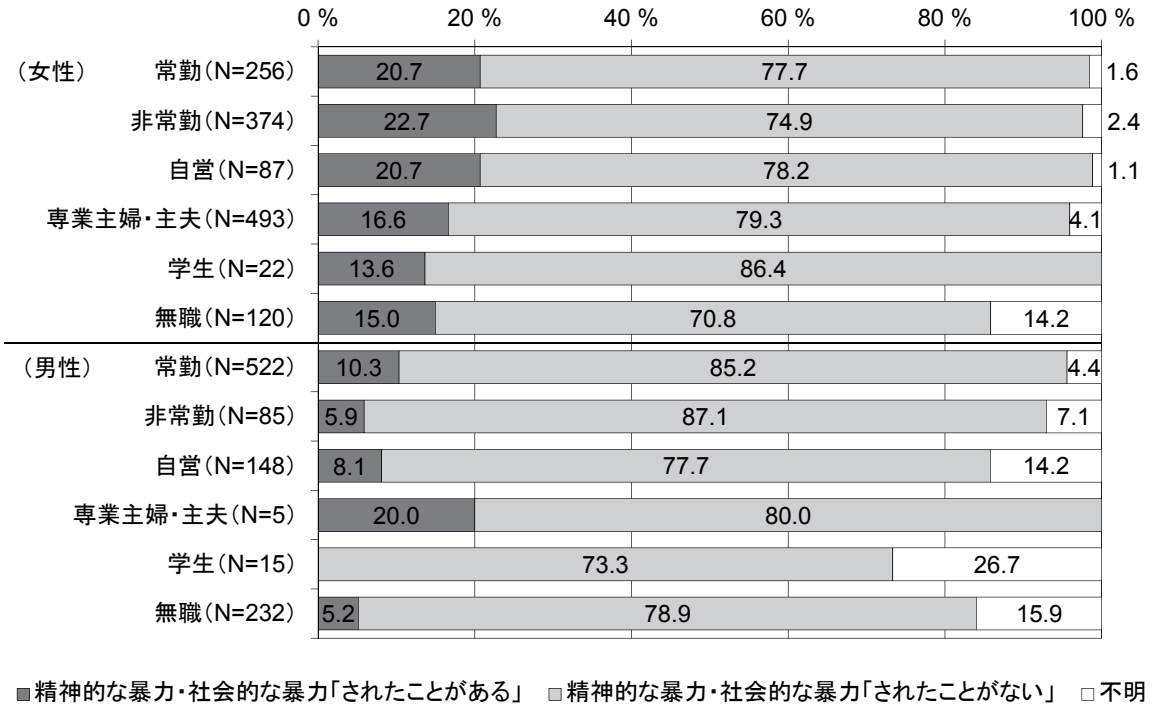
【性別×職業別】

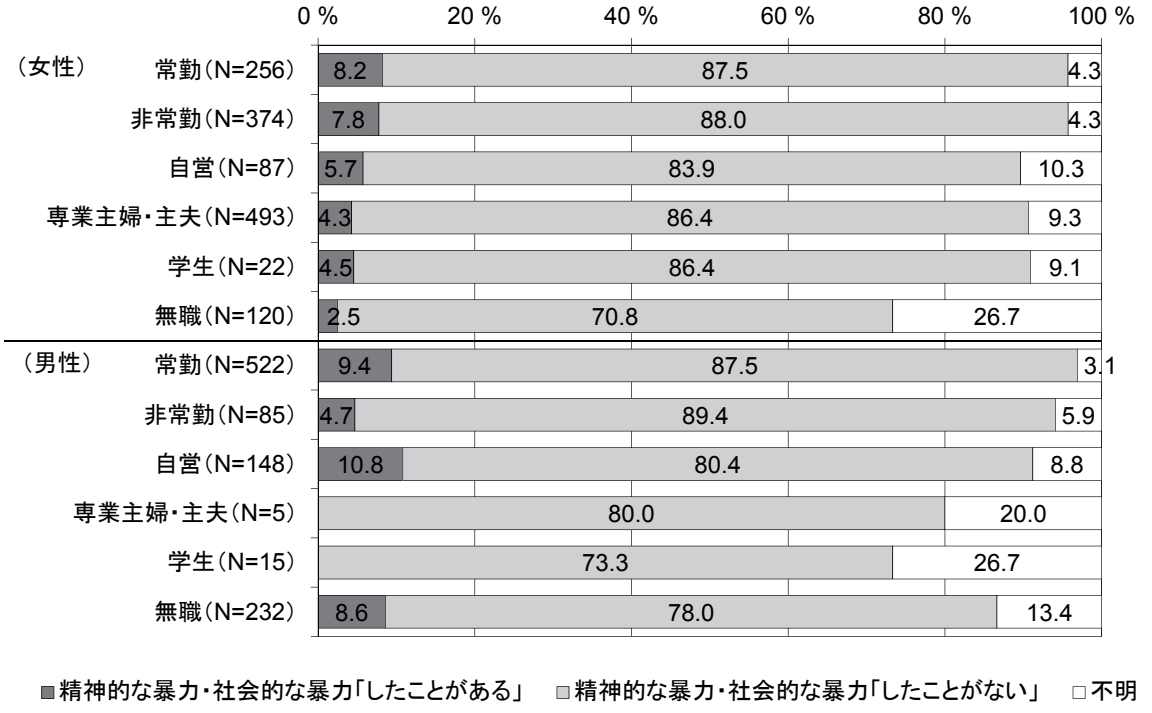
● 「されたことがある」はすべての職業で女性が高い

● 「したことがある」は男女とも職業による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性非常勤（22.7%）が最も高く、女性常勤・自営（ともに 20.7%）も 2 割以上となっています。また、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性自営（10.8%）が若干高くなっていますが、男女とも職業による大きな差は見られません。





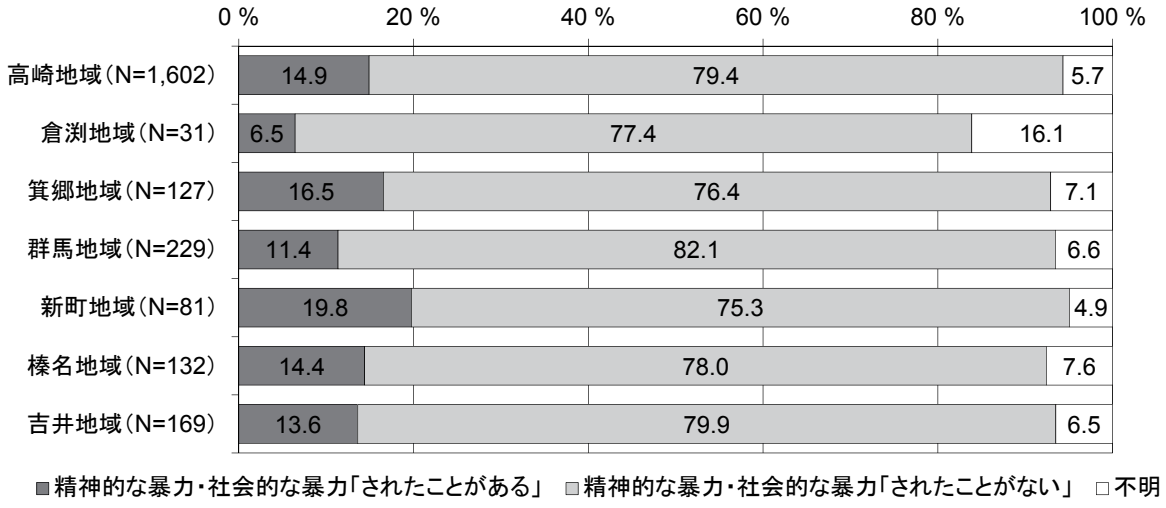
【地域別】

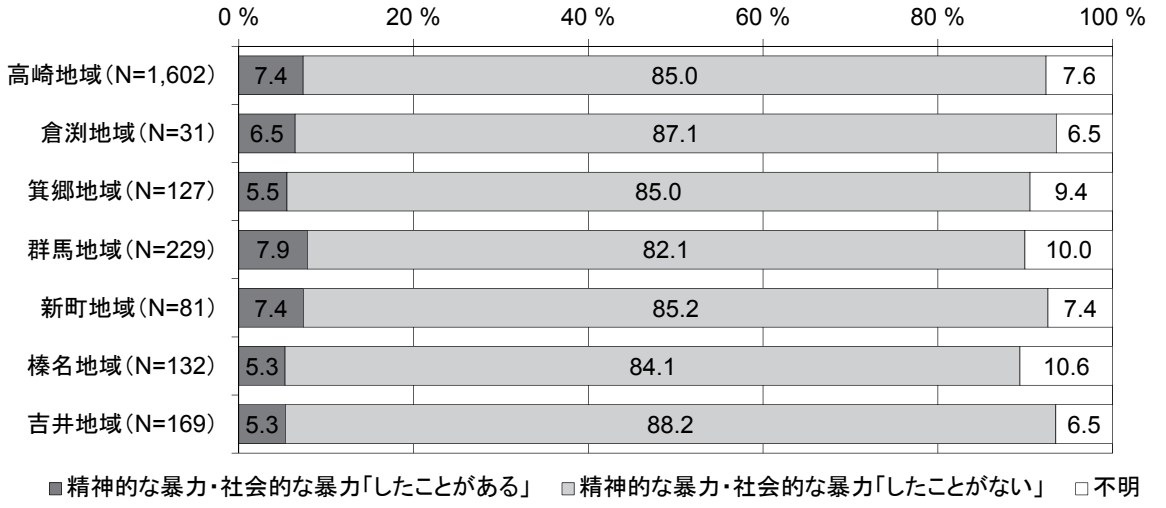
● 「されたことがある」は新町地域が約２割で最も高い

● 「したことがある」は地域による大きな差は見られない

「されたことがある」は新町地域（19.8%）が約２割で最も高くなっています。また、倉渕地域（6.5%）が特に低くなっています。

一方、「したことがある」は地域による大きな差は見られません。





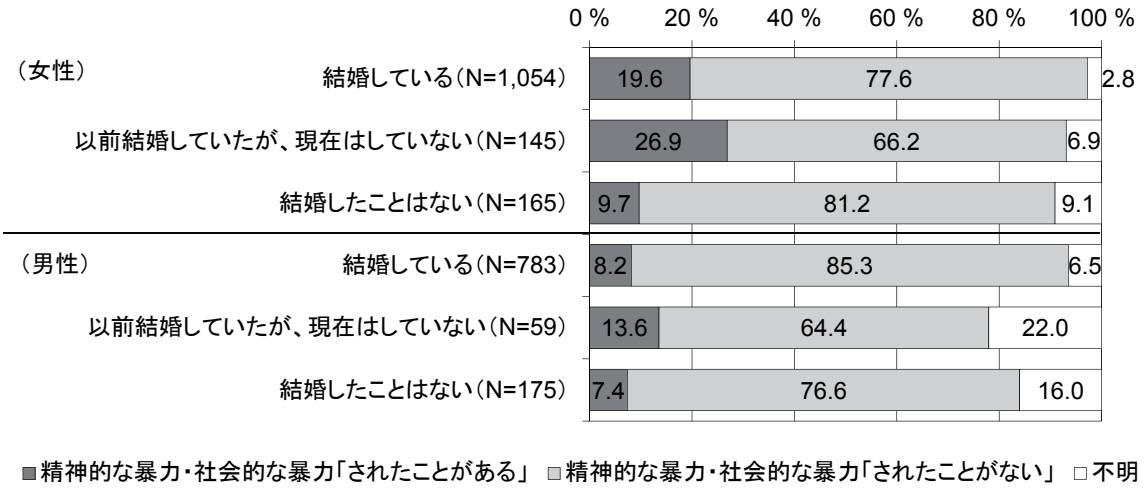
【性別×結婚経験別】

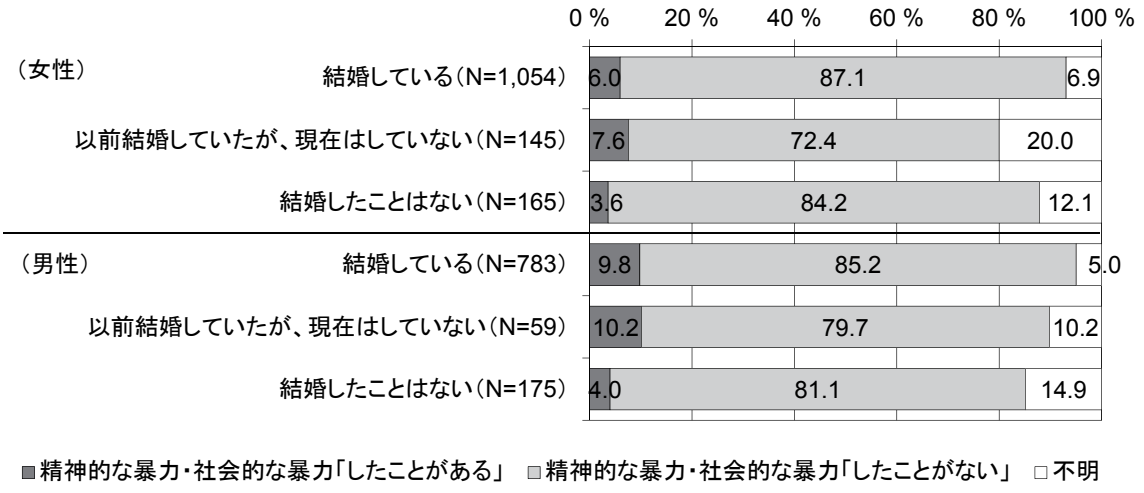
● 「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が約3割で高い

● 「したことがある」は男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」が約1割で比較的高い

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」（26.9%）が約3割で高くなっています。また、女性「結婚している」（19.6%）も比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」（それぞれ9.8%、10.2%）が約1割で比較的高くなっています。





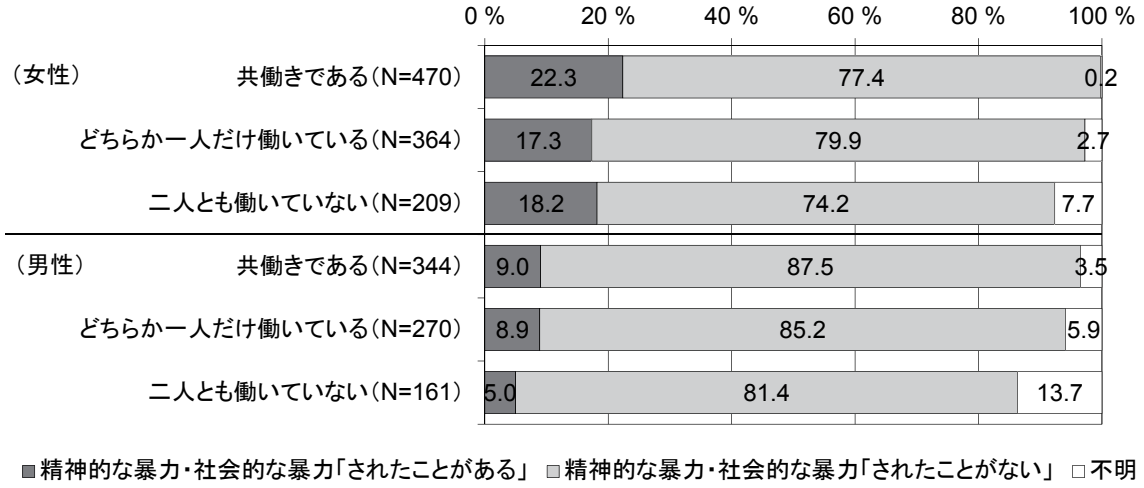
【性別×働き方別】

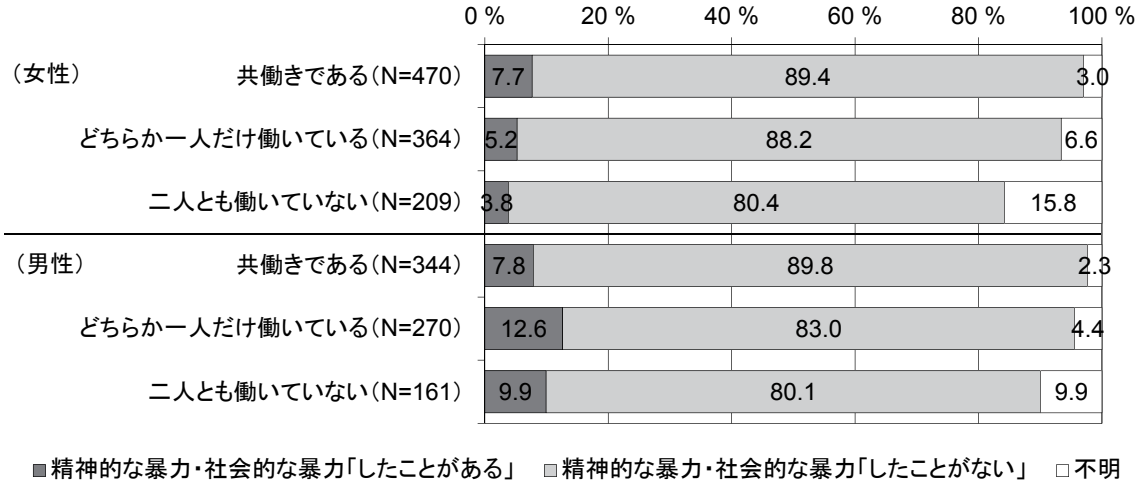
● 「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、女性「共働き」は２割以上で比較的高い

● 「したことがある」は働き方にかかわらず男性が高い

「されたことがある」は女性「共働きである」（22.3%）が比較的高く、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性「どちらか一人だけ働いている」（12.6%）が比較的高く、働き方にかかわらず男性が比較的高くなっています。



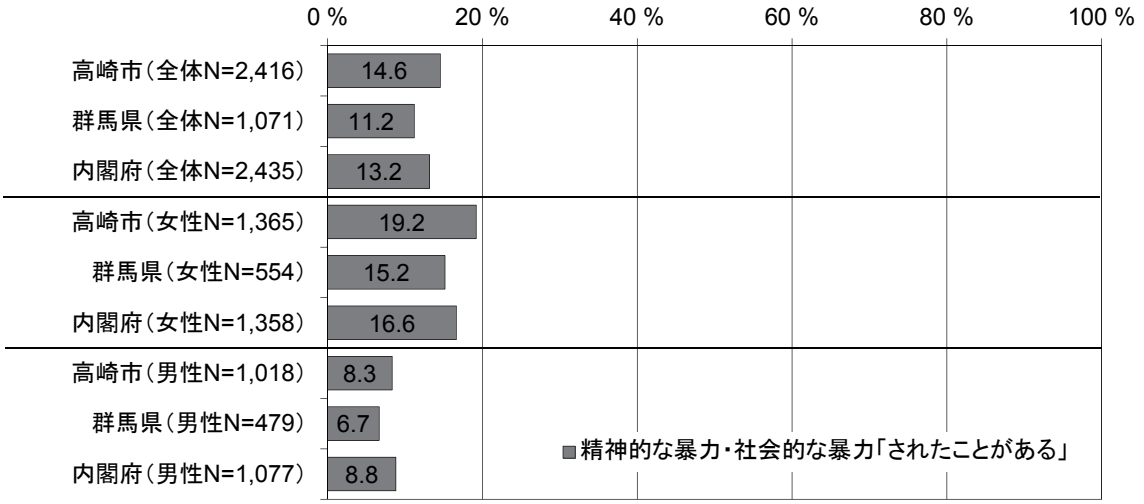


【性別×他調査との比較】

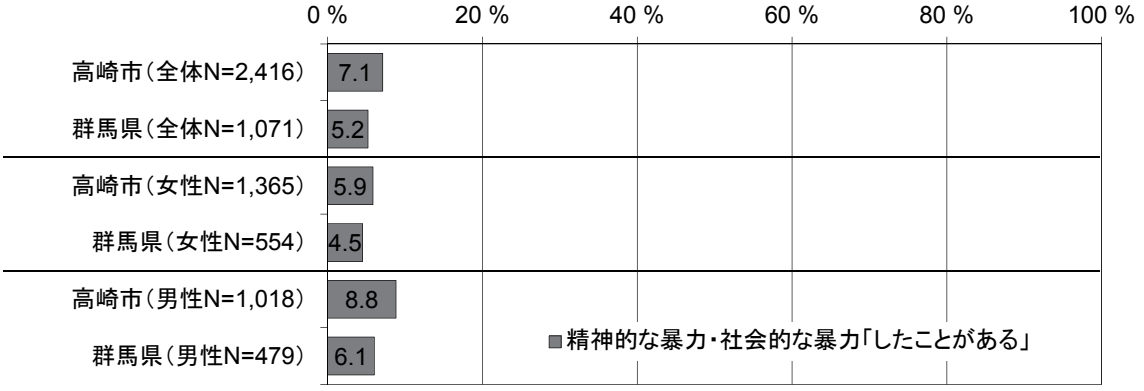
● 「されたことがある」は男女とも群馬県より若干高く、国と同程度

● 「したことがある」は男女とも群馬県と同程度

「されたことがある」は男女とも群馬県より若干高く、内閣府と同程度になっています。一方、「したことがある」は男女とも群馬県と同程度になっています。



※「ある」のみを表示
※「群馬県」は「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた」
※「内閣府」は「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」
※「群馬県」「内閣府」は「1、2 度あった」「何度もあった」「まったくない」の 3 選択肢であるため、「1、2 度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示



※「ある」のみを表示
※「群馬県」は「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせをした」
※「群馬県」は「1、2 度あった」「何度もあった」「まったくない」の 3 選択肢であるため、「1、2 度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示

③性的な暴力

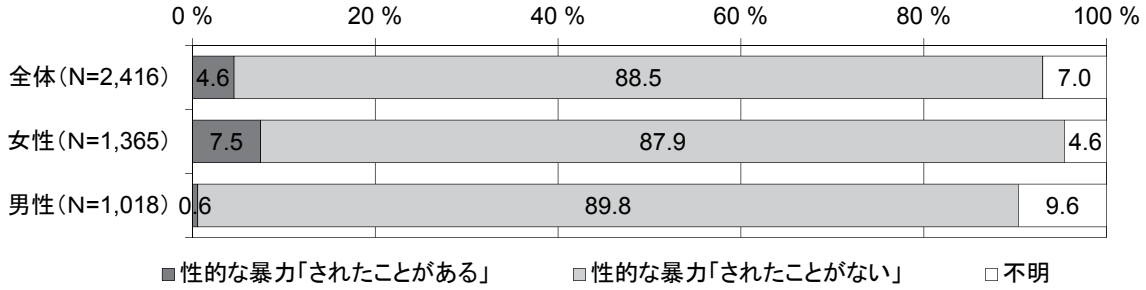
（相手がいやがっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要等）

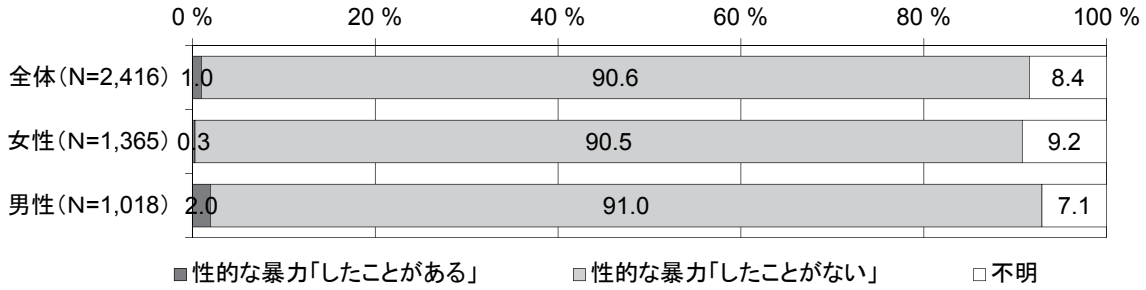
【全体・性別】

- **「されたことがある」は女性が約１割、男性はほとんど見られない**
- **「したことがある」は男女ともほとんど見られない**

「されたことがある」は男性（0.6%）ではほとんど見られませんが、女性（7.5%）は約１割となっています。

一方、「したことがある」は男女ともほとんど見られません。





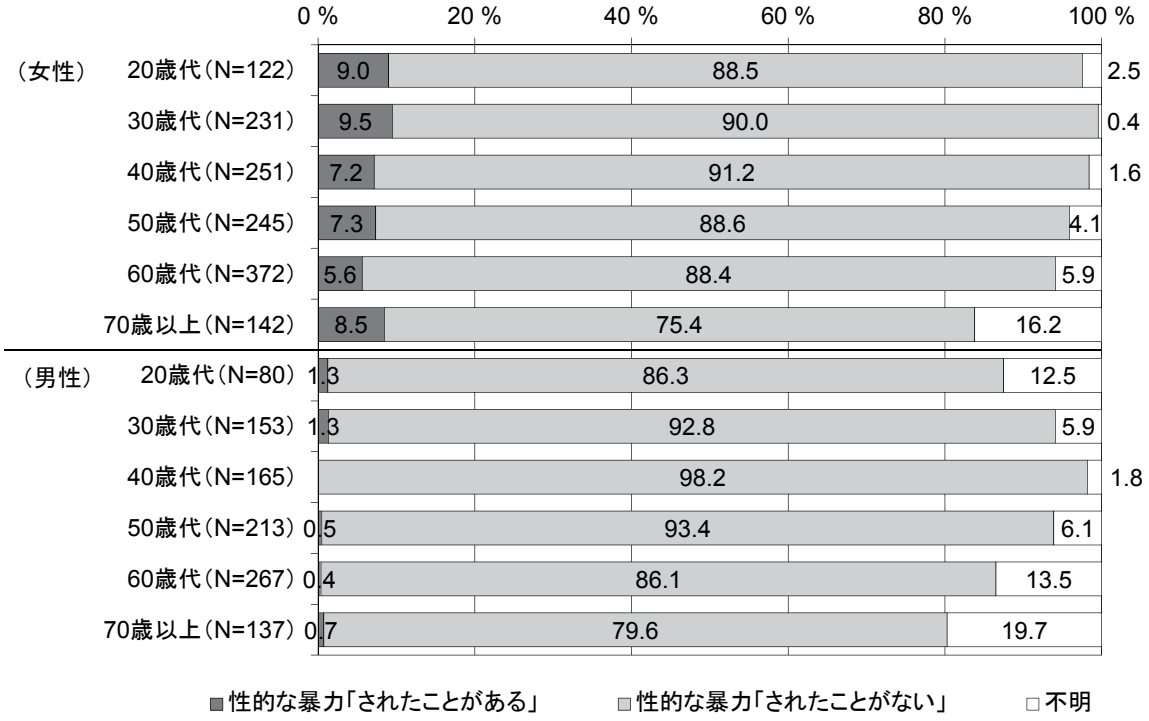
【性別×年代別】

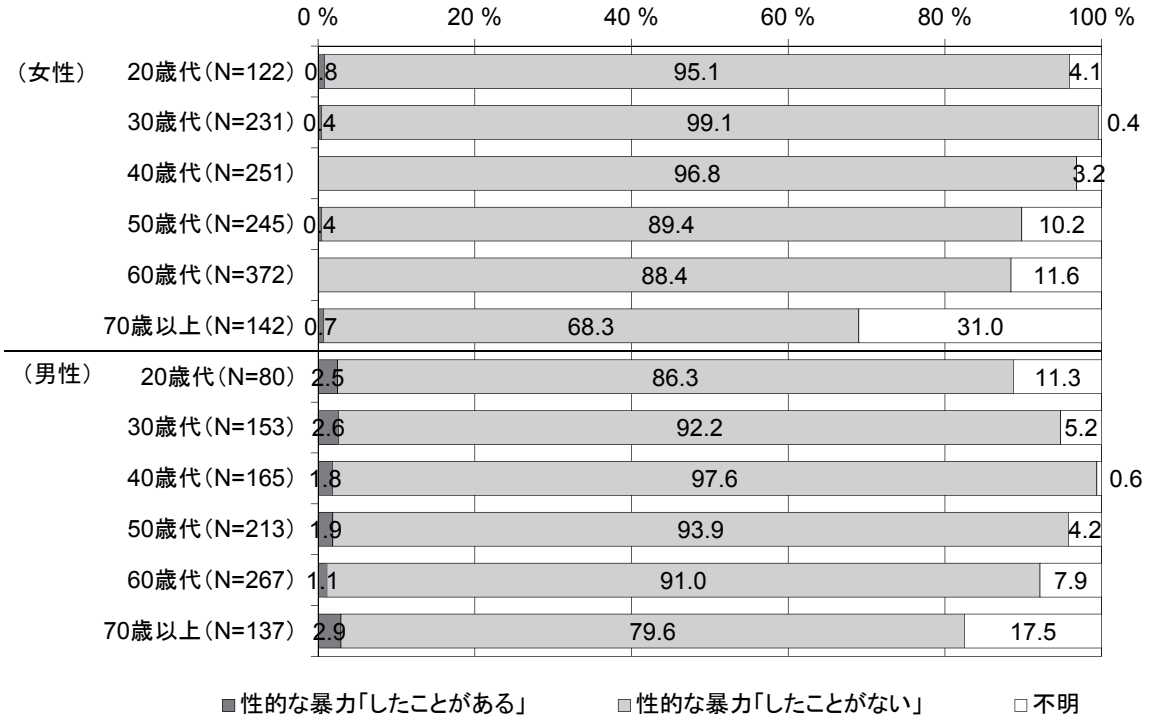
● 「されたことがある」はすべての年代で女性約１割、男性はほとんど見られない

● 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」はすべての年代で女性は約１割見られますが、男性ではほとんど見られません。

一方、「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られません。



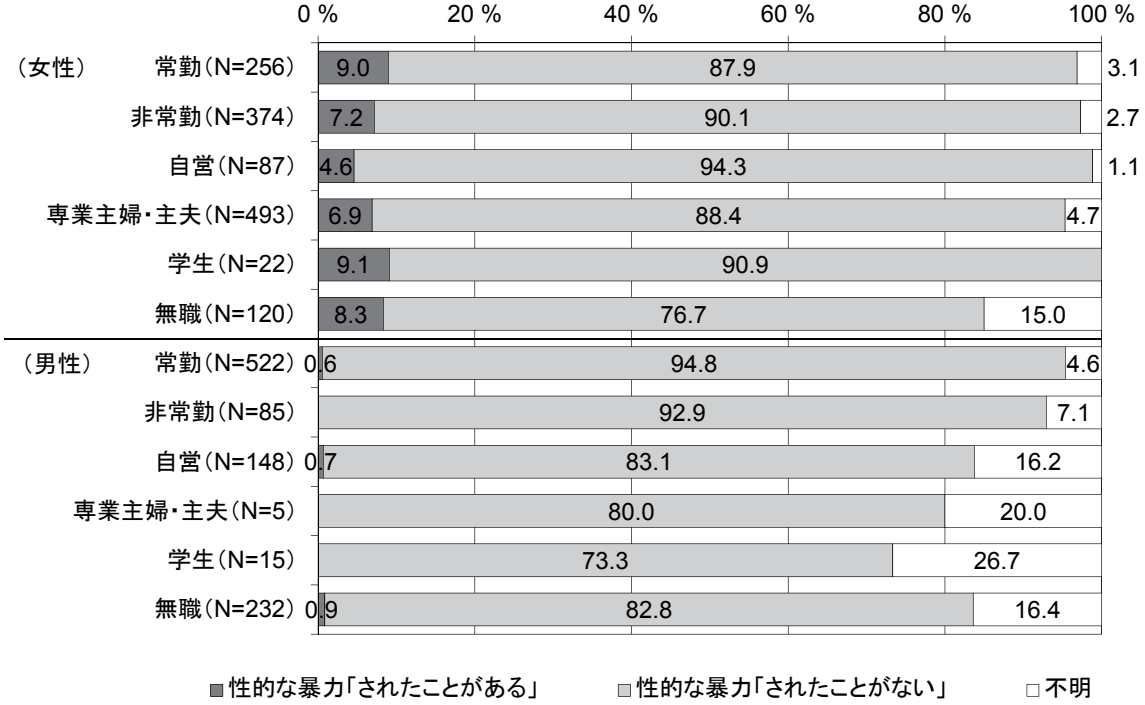


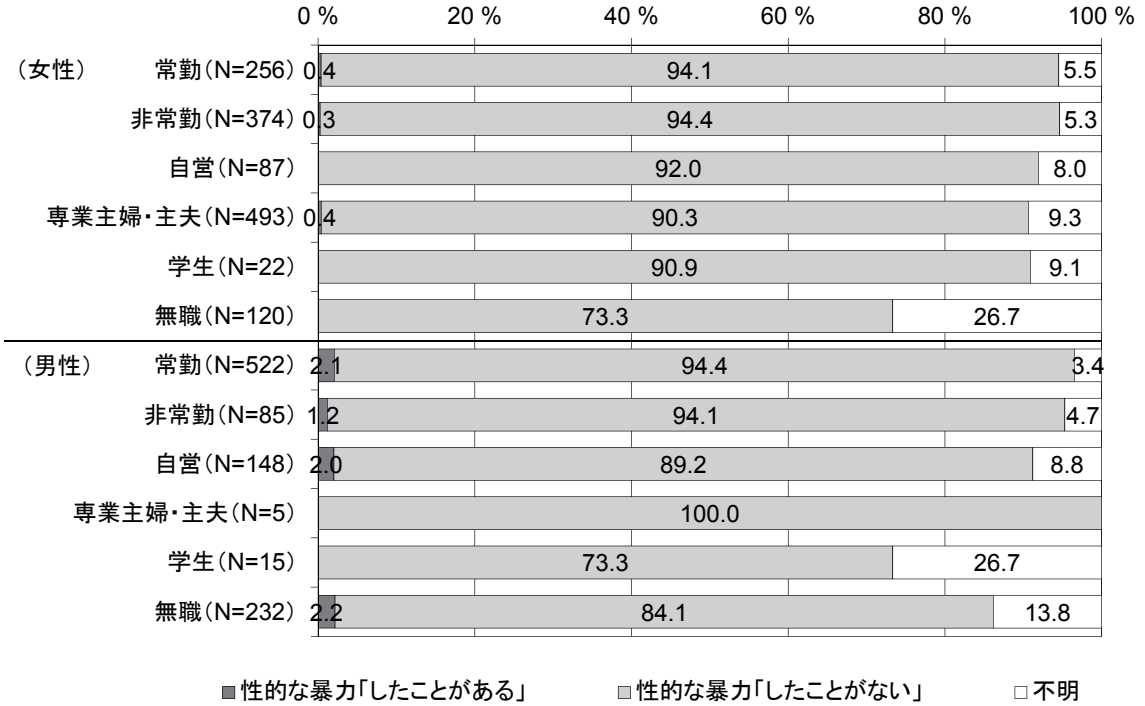
【性別×職業別】

● 「されたことがある」はすべての職業で女性が高く、男性はほとんど見られない

● 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」はすべての職業で女性が高く、男性はほとんど見られません。
一方、「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られません。



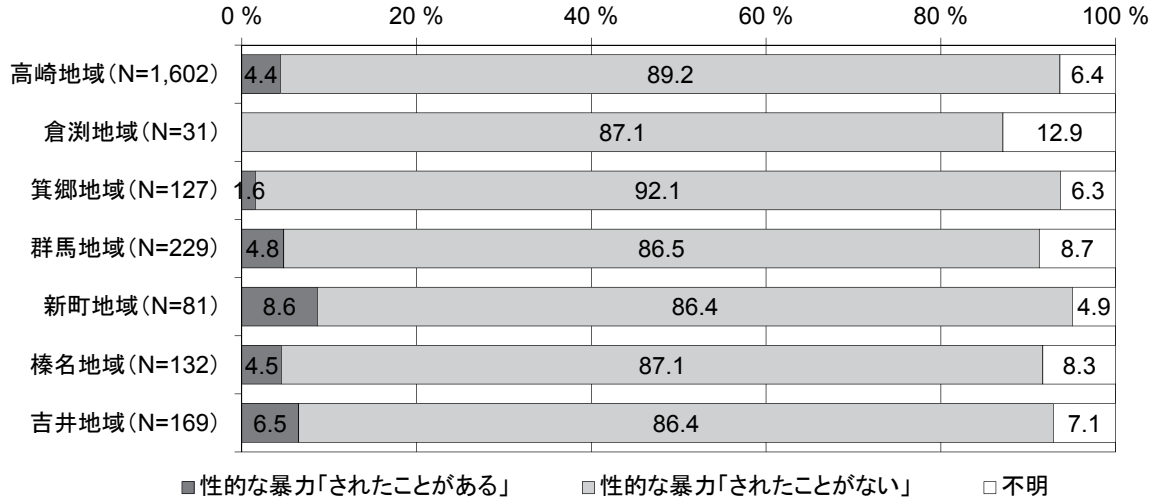


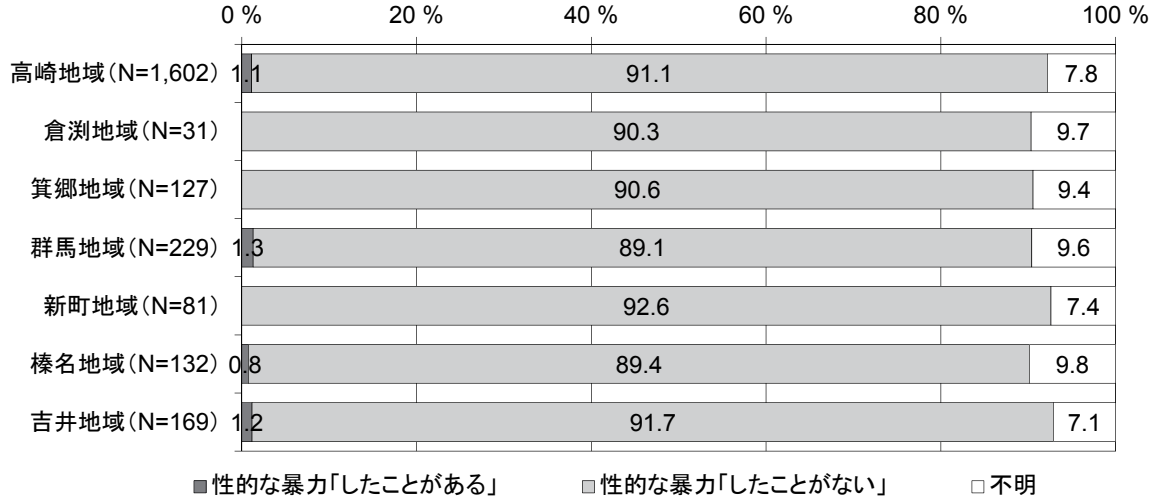
【地域別】

● 「されたことがある」は新町地域が約１割で最も高い

● 「したことがある」はすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」は新町地域（8.6%）が約１割で最も高くなっています。
一方、「したことがある」はすべての地域でほとんど見られません。





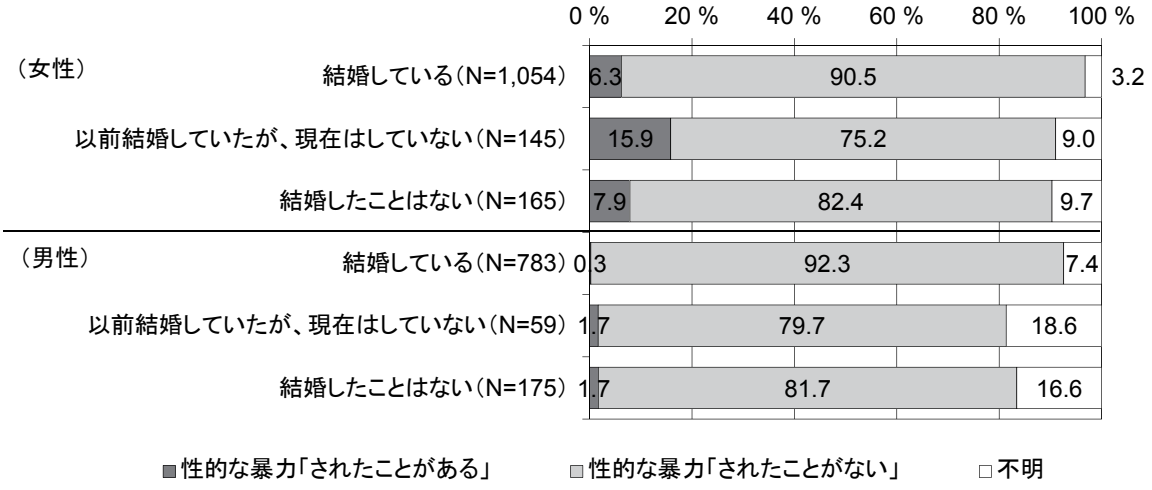
【性別×結婚経験別】

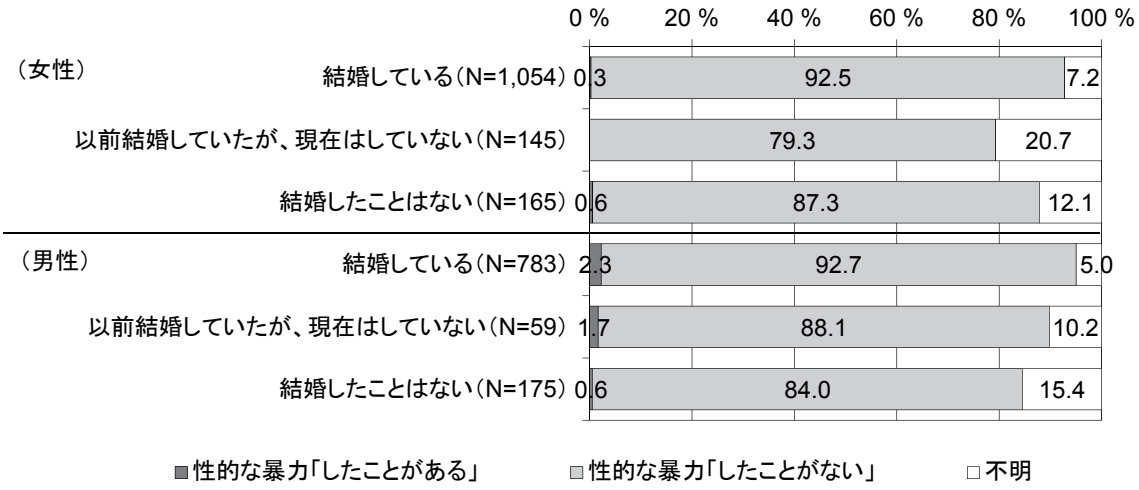
● 「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が１割以上で特に高い

● 「したことがある」は男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」（15.9%）が１割以上で特に高く、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。



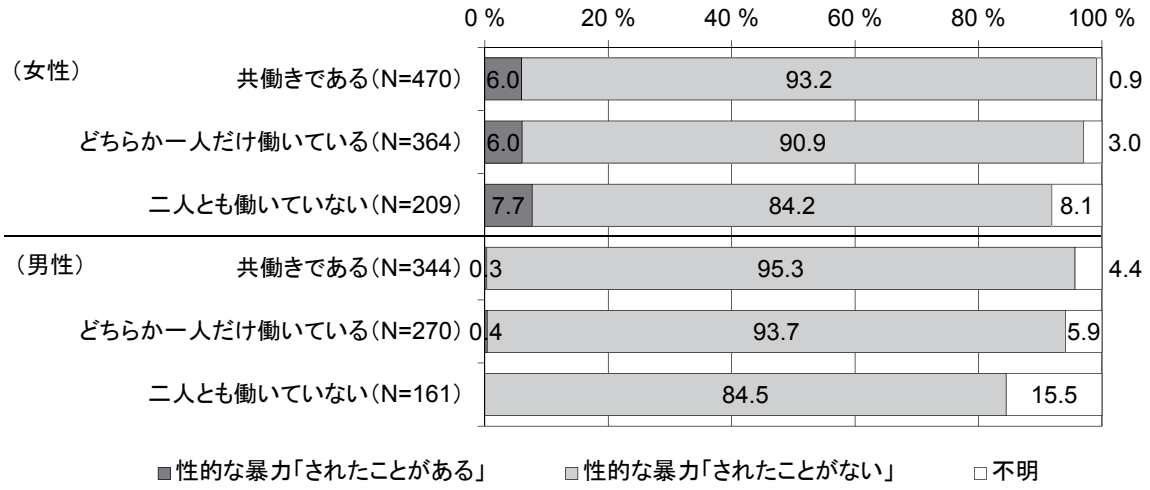


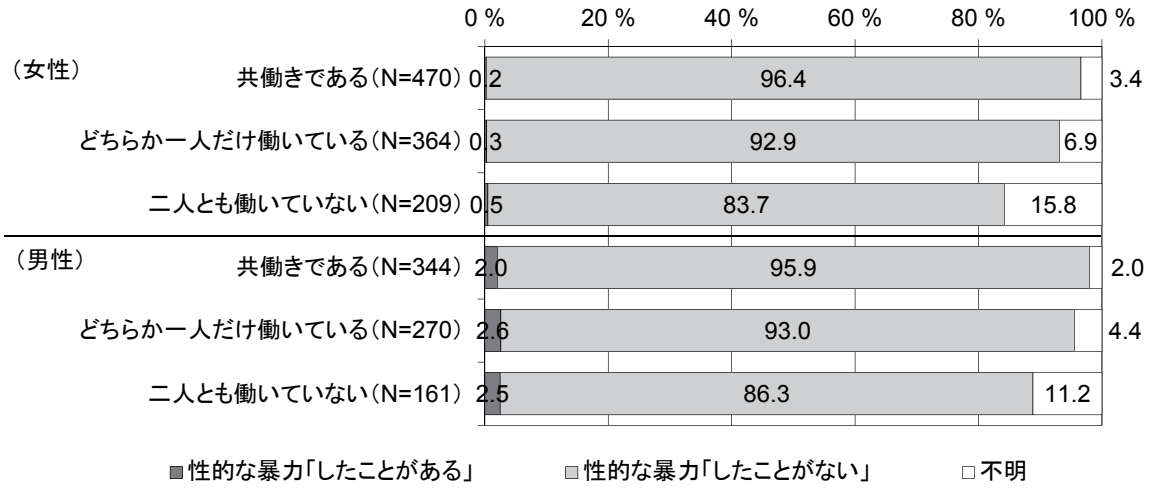
【性別×働き方別】

● 「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、男性はほとんど見られない

● 「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、男性はほとんど見られません。
一方、「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。





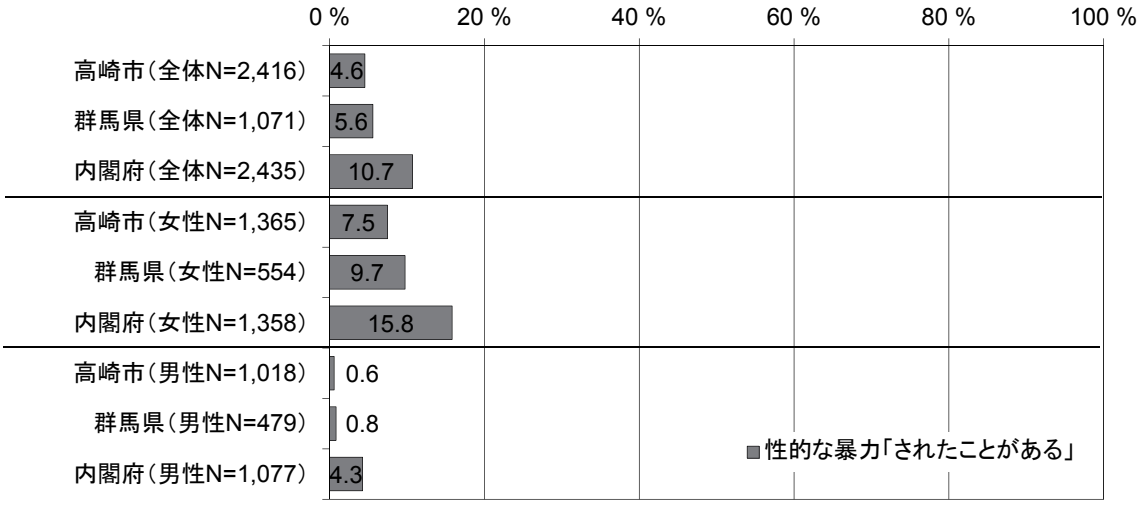
【性別×他調査との比較】

● 「されたことがある」は男女とも国より低く、群馬県より女性は低く、男性は同程度

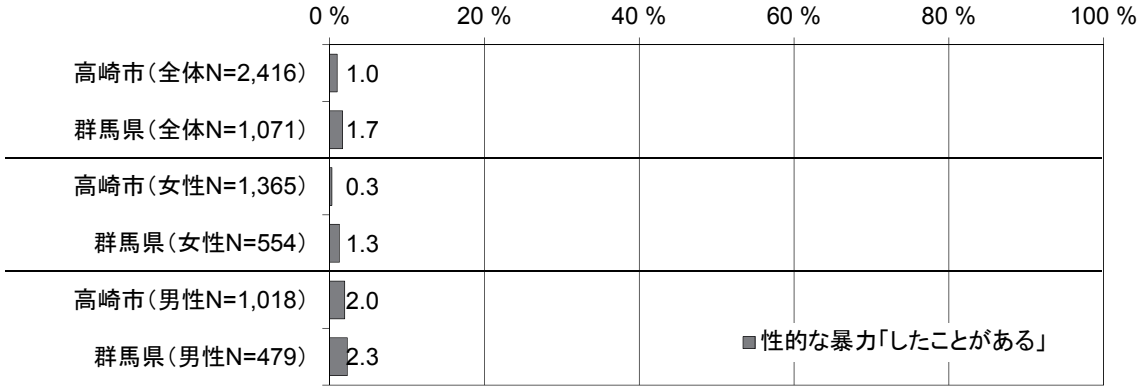
● 「したことがある」は男女とも群馬県と同程度

「されたことがある」は、女性は群馬県や内閣府より低くなっています。男性は内閣府より低く、群馬県と同程度になっています。

一方、「したことがある」は男女とも群馬県と同程度になっています。



※「ある」のみを表示
※「群馬県」「内閣府」は「いやがっているのに性的な行為を強要された」
※「群馬県」「内閣府」は「1、2 度あった」「何度もあった」「まったくない」の 3 選択肢であるため、「1、2 度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示



※「ある」のみを表示
※「群馬県」「内閣府」は「いやがっているのに性的な行為を強要した」
※「群馬県」は「1、2 度あった」「何度もあった」「まったくない」の 3 選択肢であるため、「1、2 度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示

④経済的な暴力

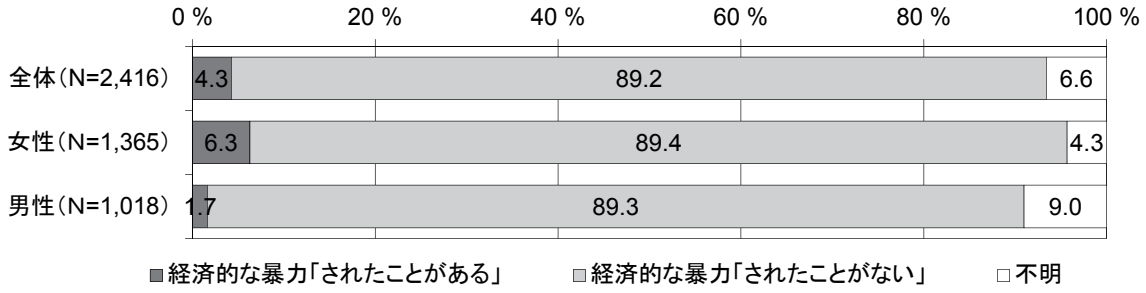
（生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等）

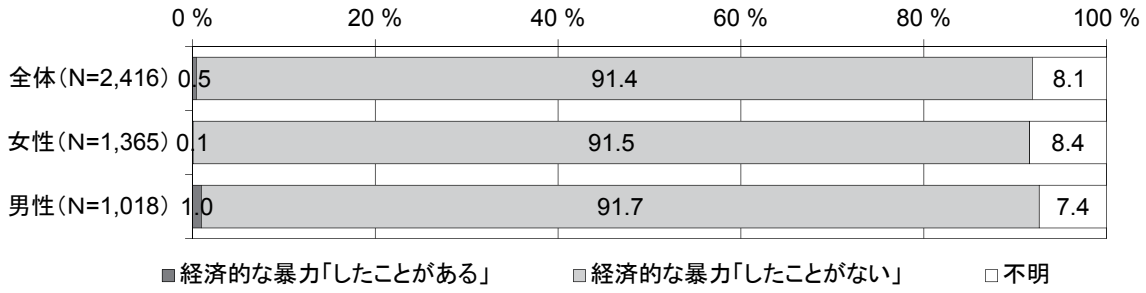
【全体・性別】

- **「されたことがある」は男女とも１割未満**
- **「したことがある」は男女ともほとんど見られない**

「されたことがある」は女性（6.3%）が若干高くなっていますが、男女とも１割未満であり、性別による大きな差は見られません。

一方、「したことがある」は男女ともほとんど見られません。



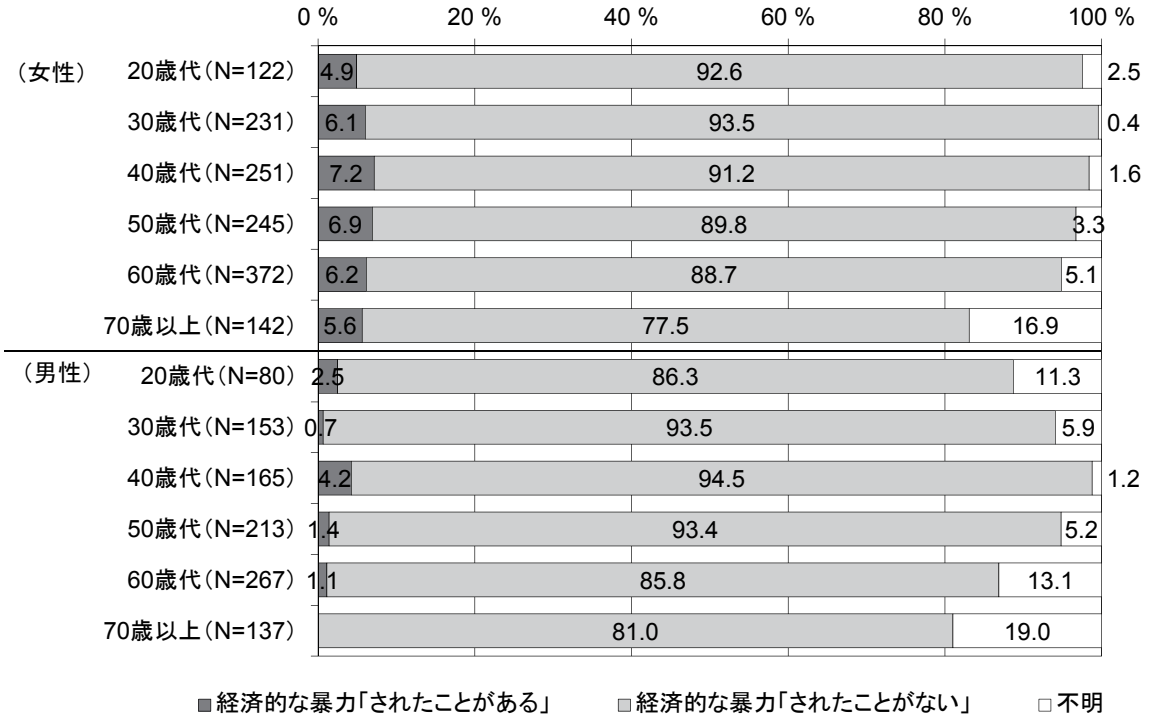


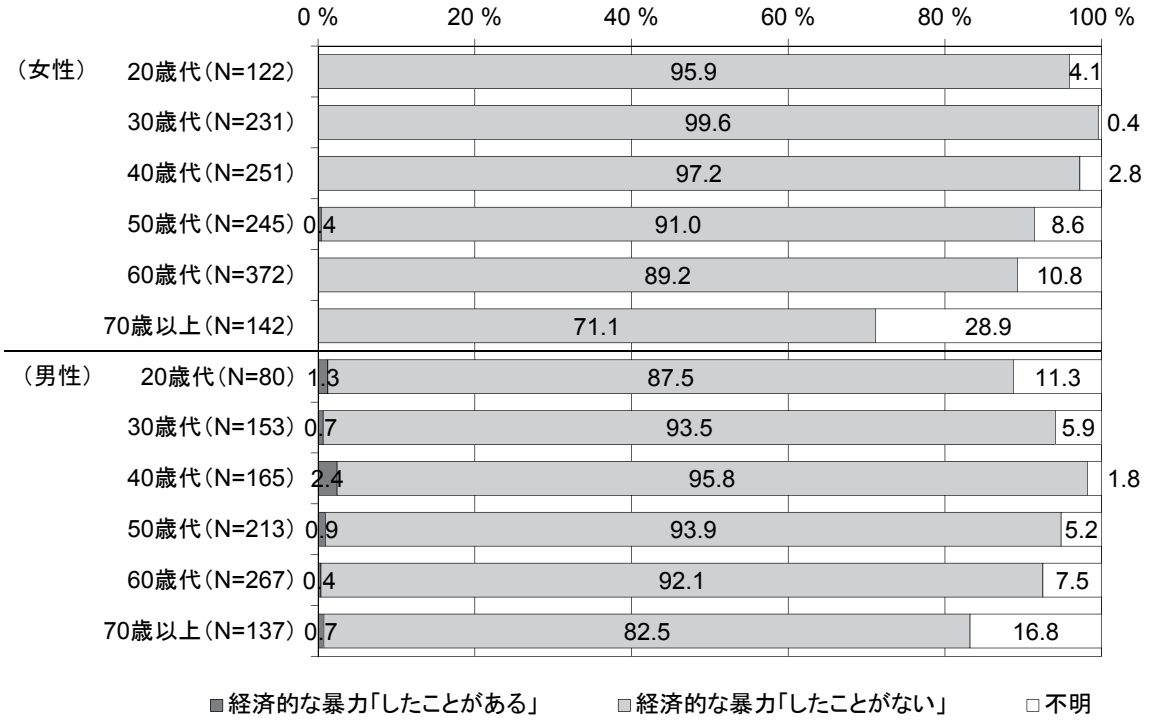
【性別×年代別】

● 「されたことがある」はすべての年代で女性が高い

● 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」はすべての年代で女性が高くなっています。
一方、「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られません。





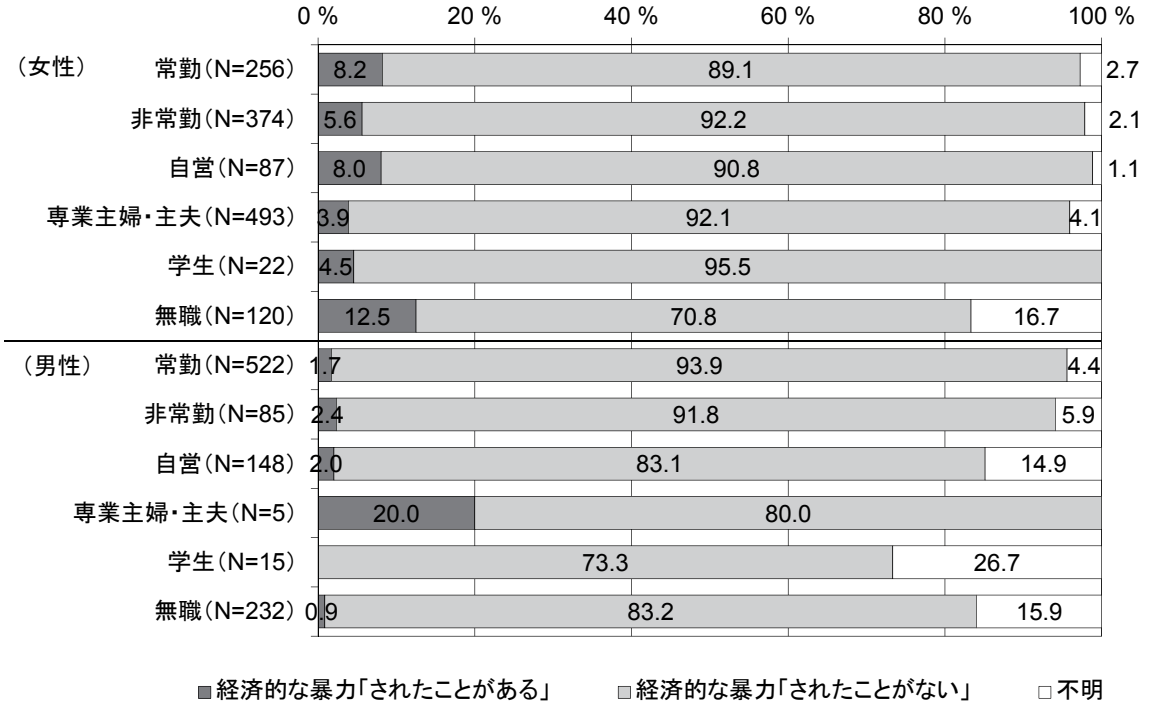
【性別×職業別】

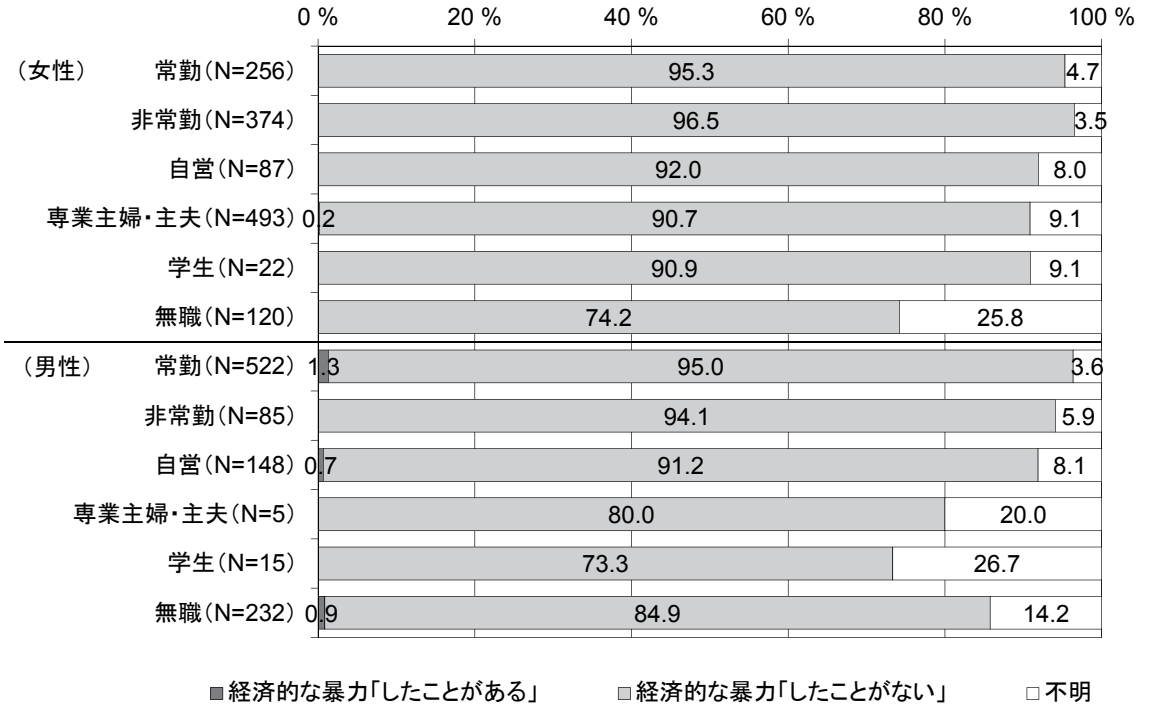
● 「されたことがある」はすべての職業で女性が高く、女性無職が比較的高い

● 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、女性無職（12.5%）が最も高く、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られません。

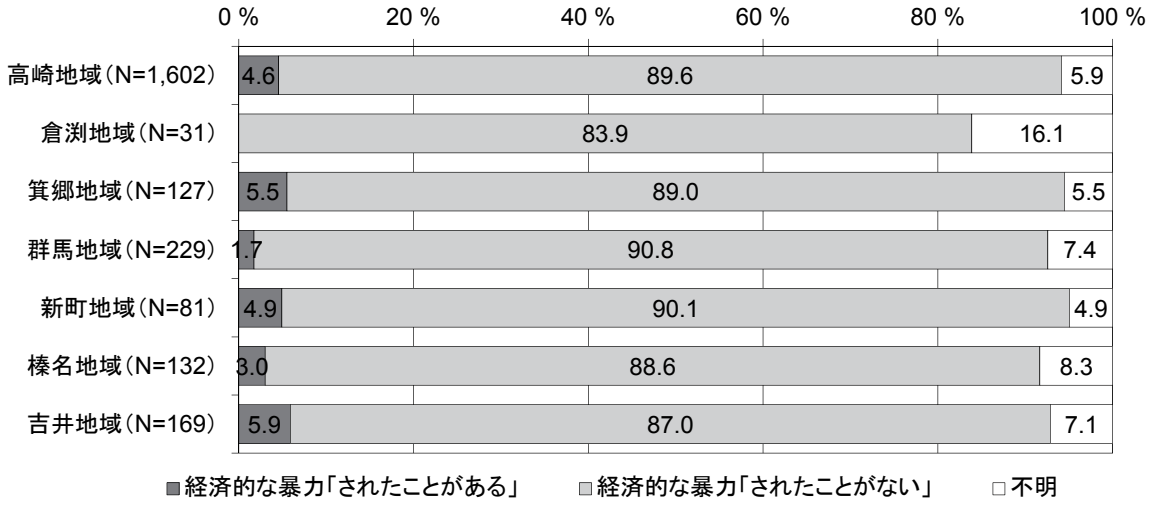


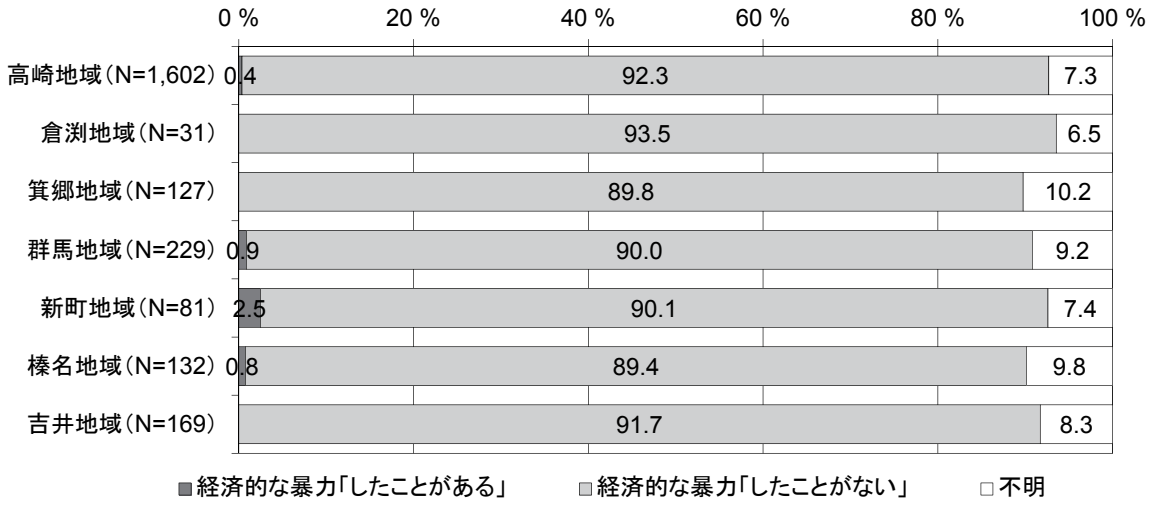


【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに地域による大きな差は見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、地域による大きな差は見られません。





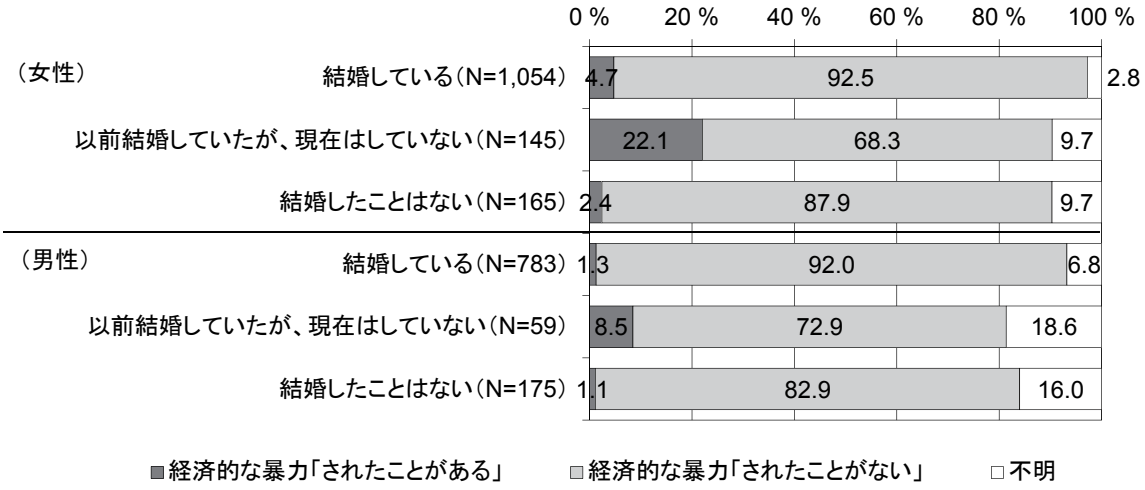
【性別×結婚経験別】

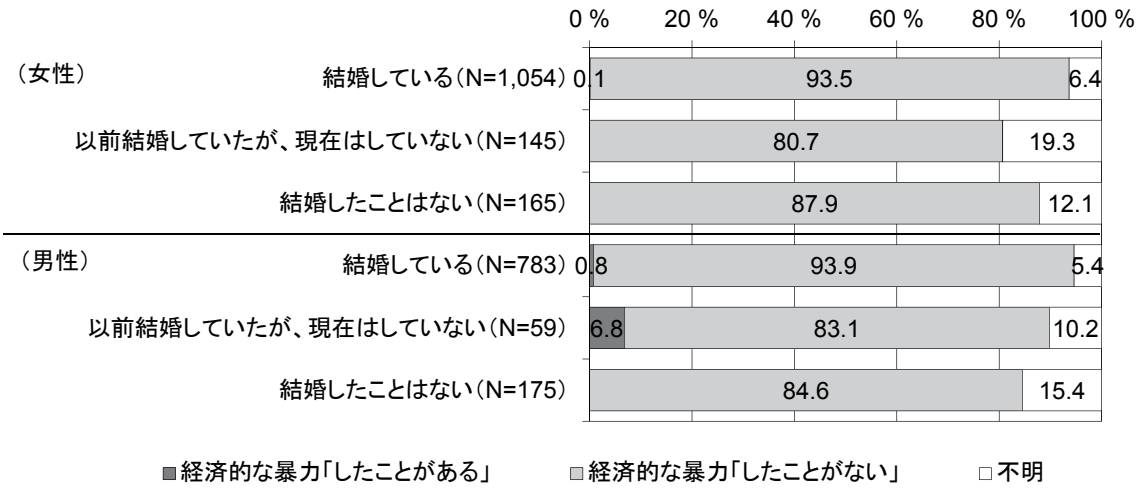
● 「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が２割以上で特に高い

● 「したことがある」は男性「以前結婚していたが、現在はしていない」が約１割で比較的高い

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」（22.1%）が２割以上で特に高く、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性「以前結婚していたが、現在はしていない」（6.8%）が約１割で比較的高く、これを除き男女ともほとんど見られません。



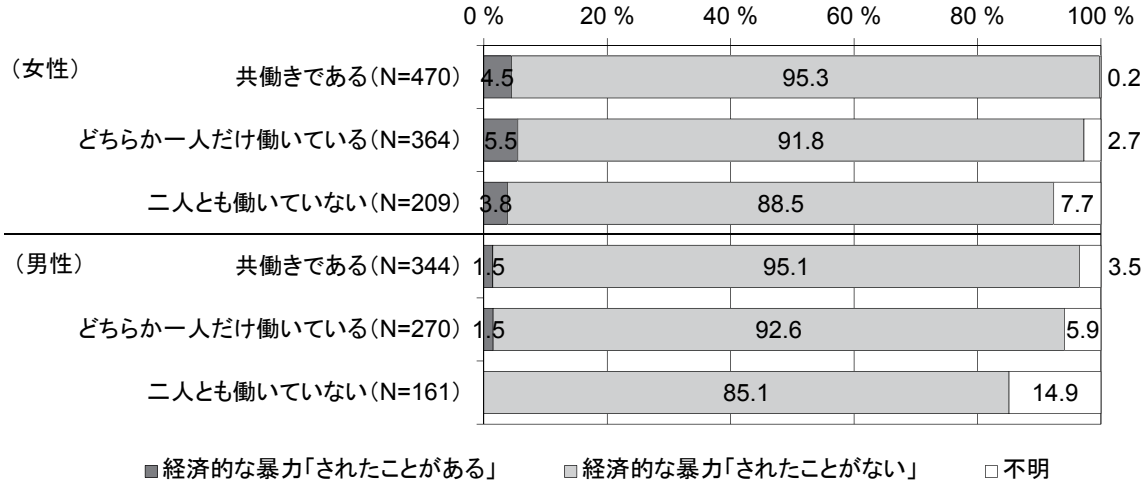


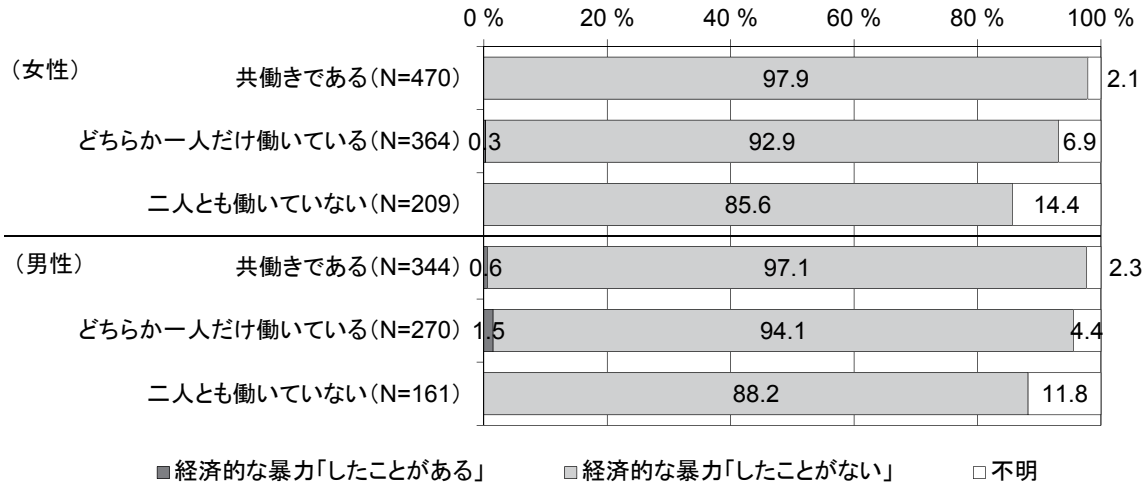
【性別×働き方別】

● 「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、男性はほとんど見られない

● 「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は働き方にかかわらず女性が高く、男性はほとんど見られません。
一方、「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。

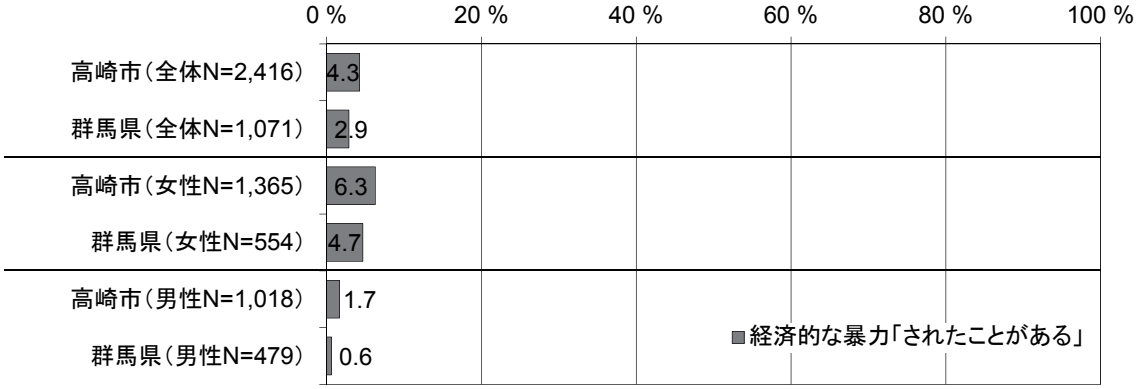




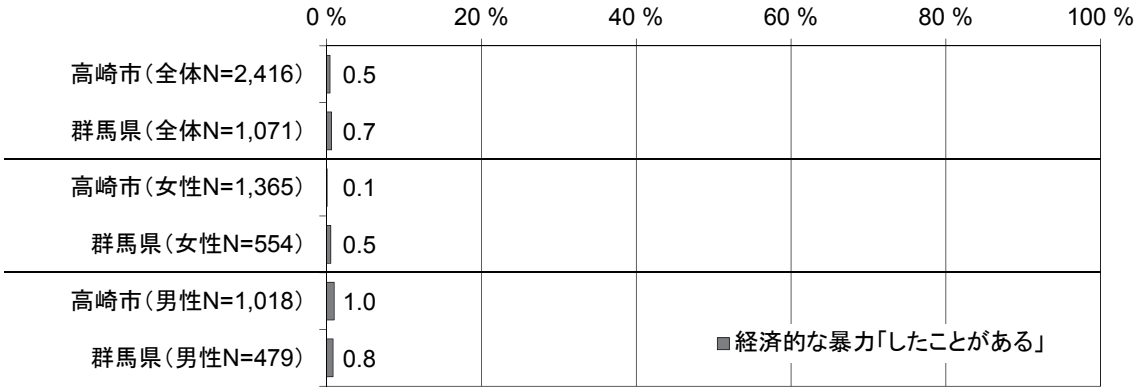
【性別×他調査との比較】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも群馬県と同程度

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも群馬県、内閣府と同程度になっています。



※「ある」のみを表示
※「群馬県」は「生活費を入れないなど、経済的な暴力を受けた」
※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示



※「ある」のみを表示
※「群馬県」は「生活費を入れないなど、経済的な暴力をした」
※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」と表示

複数種類の被害・加害の状況（ひとつでも被害・加害経験がある場合）

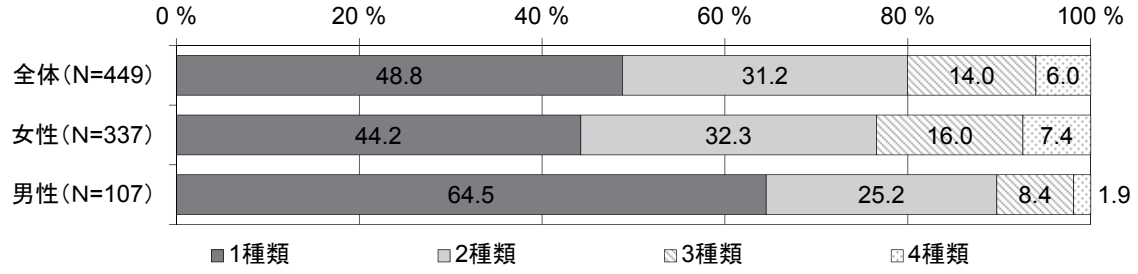
【全体・性別】

- 「されたことがある」は 1 種類が女性約 4 割、男性約 6 割
- 「したことがある」は 1 種類が女性約 7 割、男性約 6 割
- 3 種類「されたことがある」は女性が約 2 割で比較的高い
- 女性は 5 割以上、男性は 3 割以上が複数種類の被害経験あり
- 女性は約 3 割、男性は約 4 割が複数種類の加害経験あり

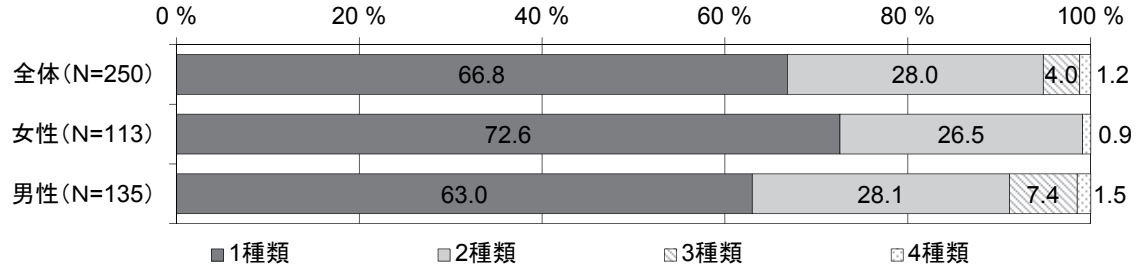
1 種類でも「されたことがある」または「したことがある」場合の種類数を見ると、「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも 1 種類（「されたことがある」女性 44.2%、男性 64.5%、「したことがある」女性 72.6%、男性 63.0%）が最も高くなっています。次いで「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも 2 種類が比較的高くなっています。また、「されたことがある」では、女性は 3 種類（16.0%）も約 2 割と比較的高くなっています。

これらをあわせると、女性の 55.7%、男性の 35.5%が複数種類の被害経験、女性の 27.4%、男性の 37.0%が複数種類の加害経験があるといえます。

「されたことがある」種類数



「したことがある」種類数



【性別×年代別】

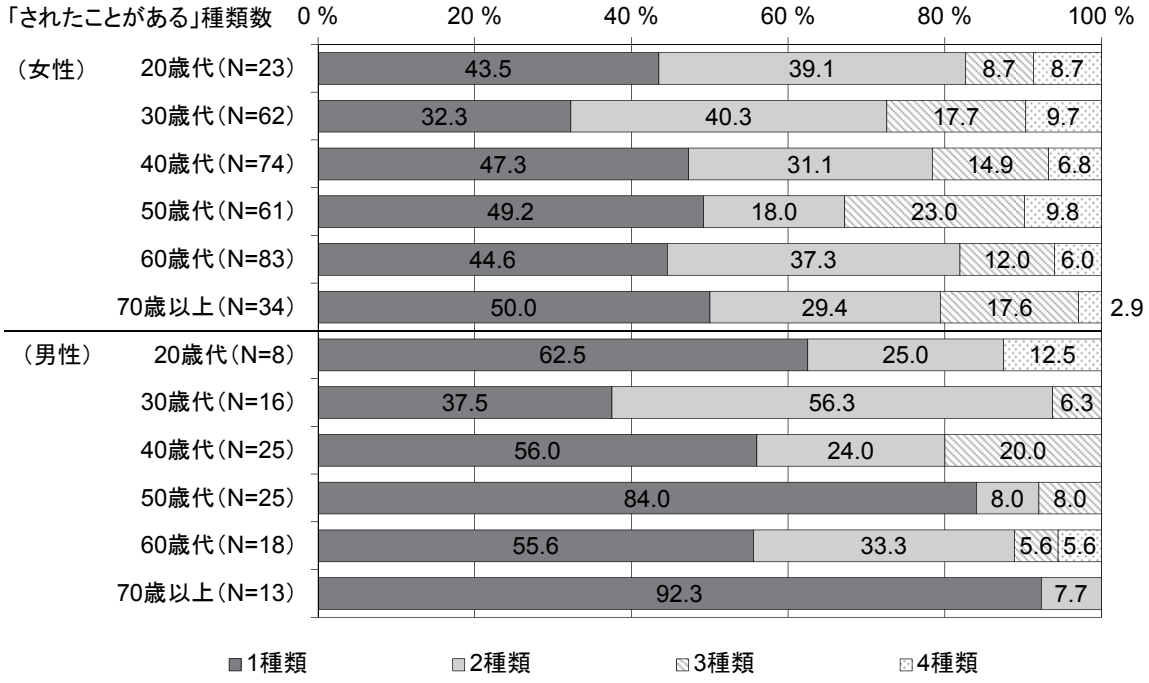
● 「されたことがある」は男女とも 30 歳代は 2 種類、それ以外は 1 種類が最も高い

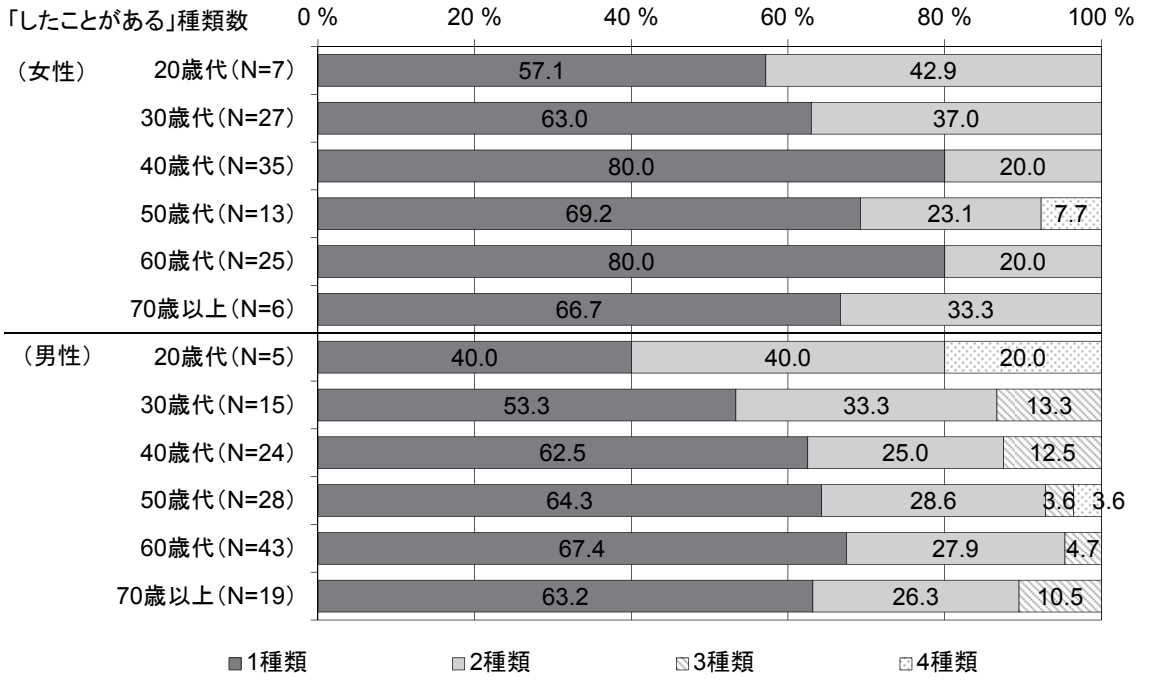
● 30 歳代は複数種類の被害経験が女性約 7 割、男性 6 割以上

● 「したことがある」は男女ともすべての年代で 1 種類が最も高い

回答者数が少ない男性 20 歳代を除くと、「されたことがある」は、男女とも 30 歳代を除くすべての年代で 1 種類が最も高く、30 歳代は 2 種類（女性 40.3%、男性 56.3%）が最も高くなっています。複数種類の被害経験は、30 歳代では女性 67.7%、男性 62.6%と高くなっています。また、女性 50 歳代や男性 40 歳代は 3 種類（それぞれ 23.0%、20.0%）も比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は、回答者数が少ない男女 20 歳代、女性 70 歳以上を除くと、男女ともすべての年代で 1 種類が最も高くなっています。





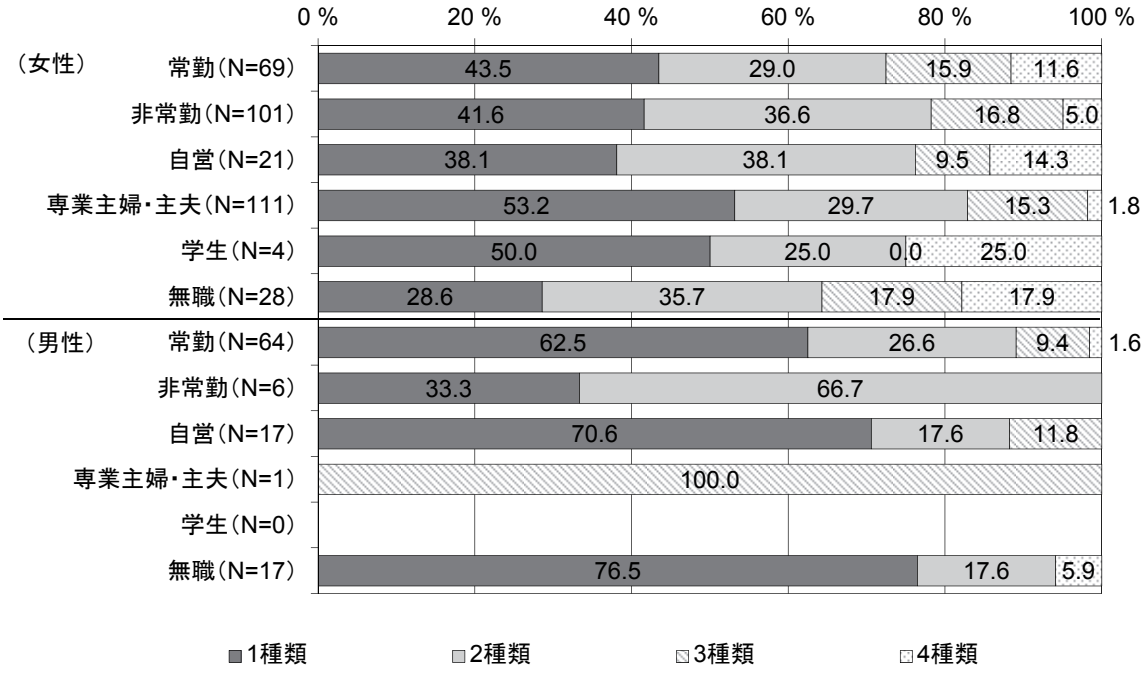
【性別×職業別】

- 「されたことがある」は女性無職を除くすべての職業で１種類が最も高い
- 「されたことがある」女性無職は２種類が最も高く、複数種類の被害経験は７割以上
- 「したことがある」は男女ともすべての職業で１種類が最も高い

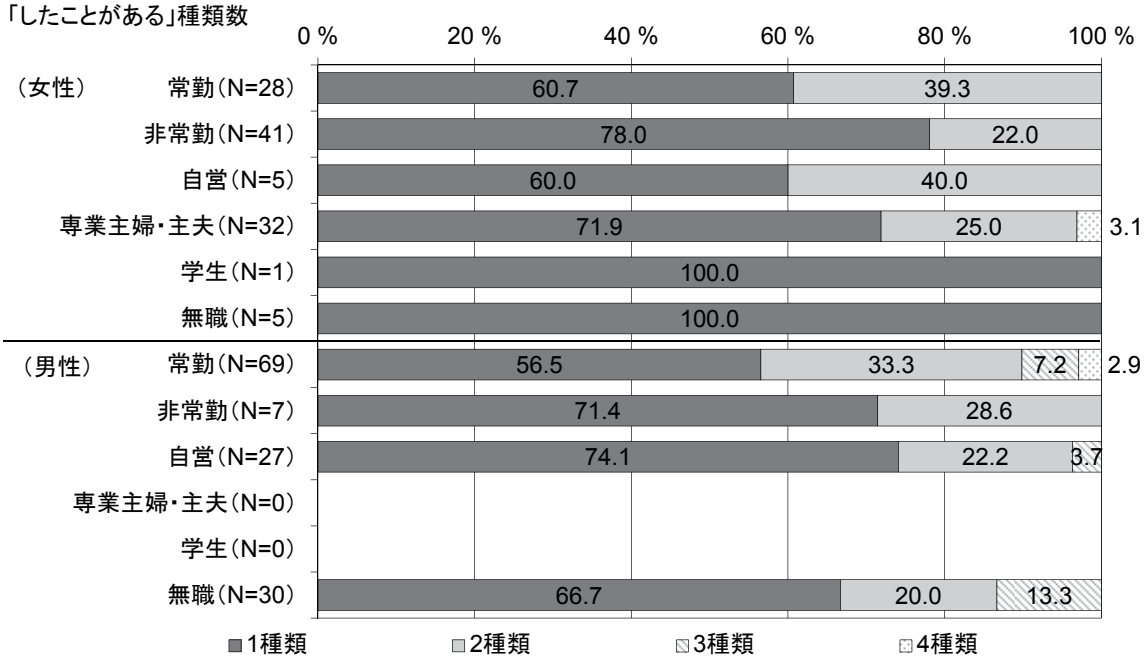
回答者数が少ない学生や男性非常勤を除くと、「されたことがある」は、女性無職を除くすべての職業で１種類が最も高くなっています。女性無職は２種類（35.7%）が最も高く、複数種類の被害経験は71.4%と高くなっています。それ以外も女性は複数種類の被害経験が約６割となっています。

一方、「したことがある」は、回答者数が少ない属性があることに留意する必要がありますが、男女ともすべての職業で１種類が最も高くなっています。

「されたことがある」種類数



「したことがある」種類数

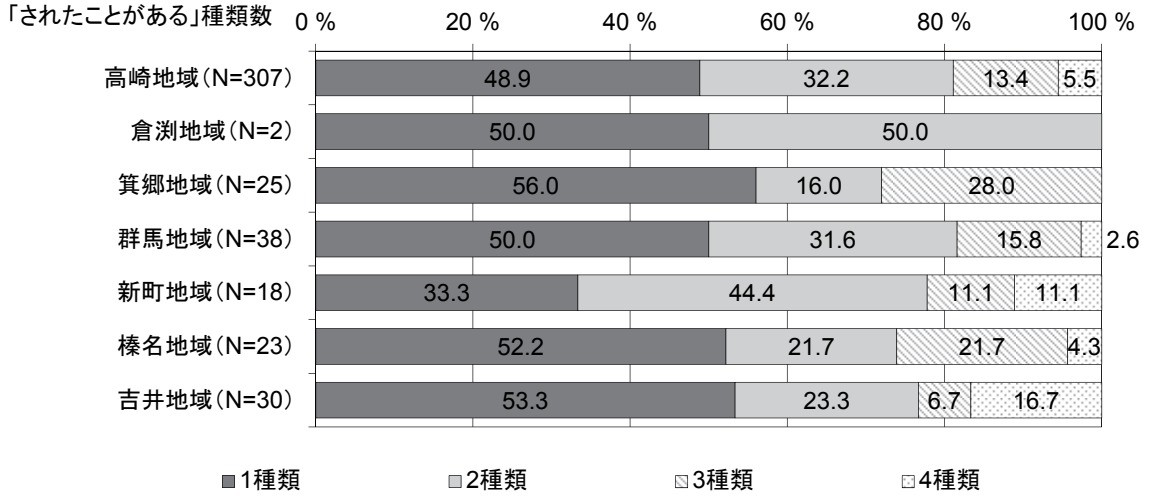


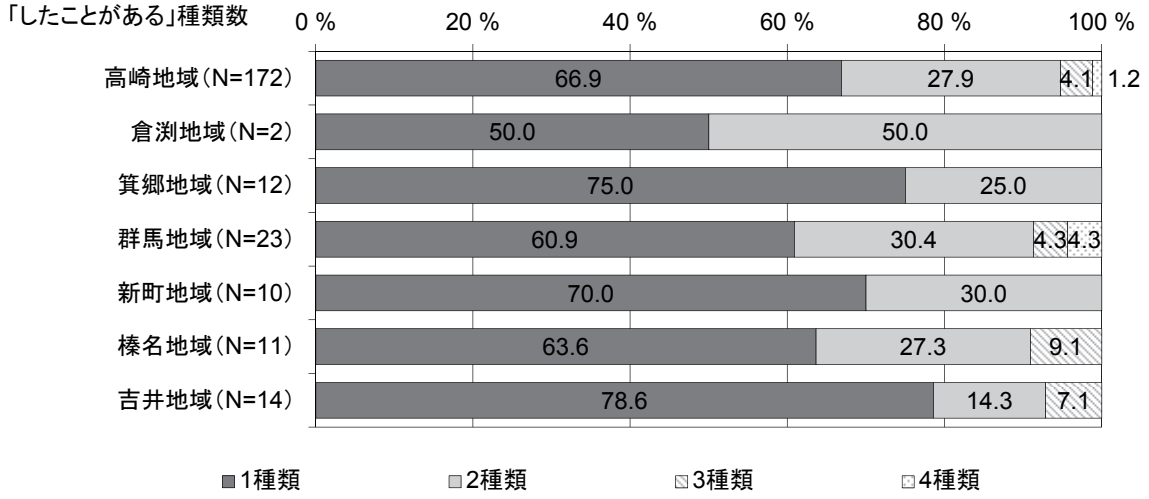
【地域別】

- 「されたことがある」は新町地域を除くすべての地域で１種類が最も高い
- 「されたことがある」は新町地域では２種類が最も高く、複数種類の被害経験は約７割
- 「したことがある」はすべての地域で１種類が最も高い

「されたことがある」は、新町地域を除くすべての地域で１種類が最も高くなっています。新町地域は２種類（44.4%）が最も高く、複数種類の被害経験が 66.7%と高くなっています。また、箕郷地域は３種類（28.0%）も比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は、すべての地域で１種類が最も高くなっています。



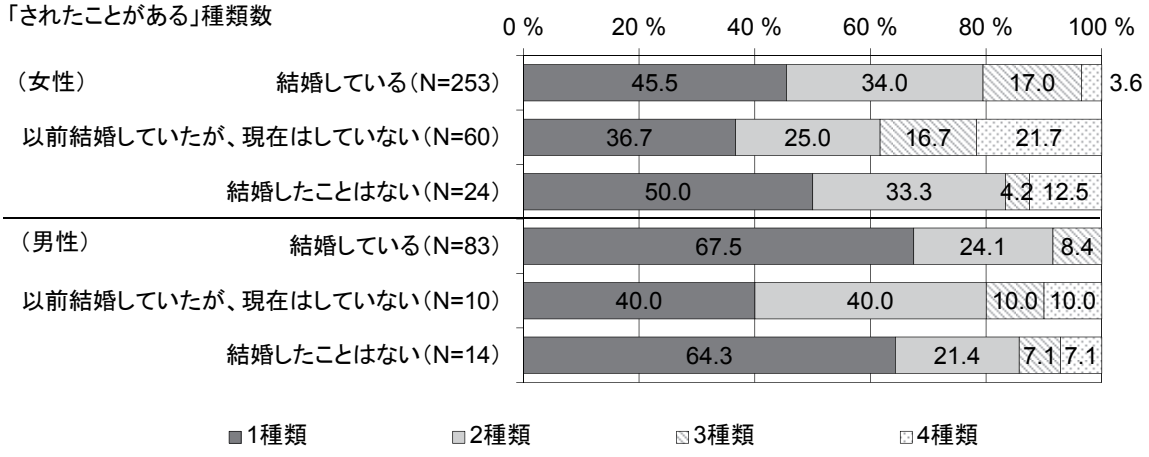


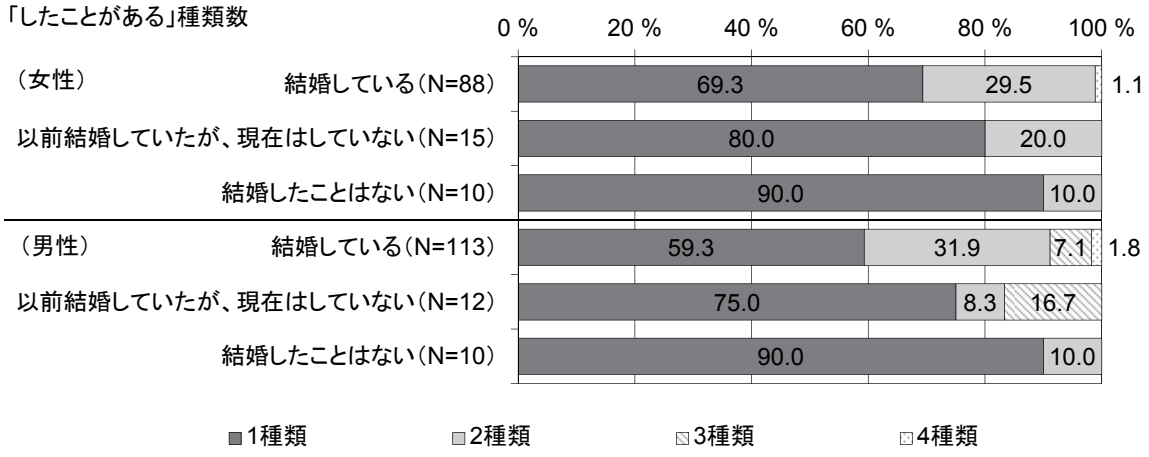
【性別×結婚経験別】

- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらず 1 種類が最も高い
- 複数種類の被害経験は「以前結婚していたが、現在はしていない」が男女とも高く約 6 割
- 複数種類の加害経験は「結婚している」が男女とも高く女性約 3 割、男性約 4 割

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらず 1 種類が最も高くなっています（男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は 2 種類と同値）。「以前結婚していたが、現在はしていない」では複数種類の被害経験が女性 63.4%、男性 60.0%と、男女ともに高くなっています。また、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」は 4 種類（21.7%）が 2 割以上で特に高くなっています。

一方、「したことがある」は、「結婚している」では複数種類の加害経験が女性 30.6%、男性 40.8%と、男女ともに高くなっています。



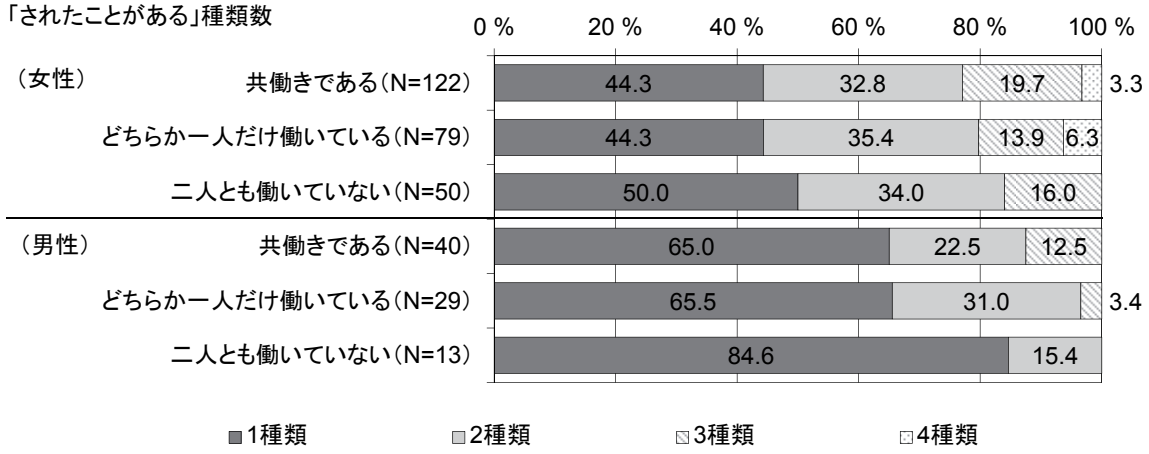


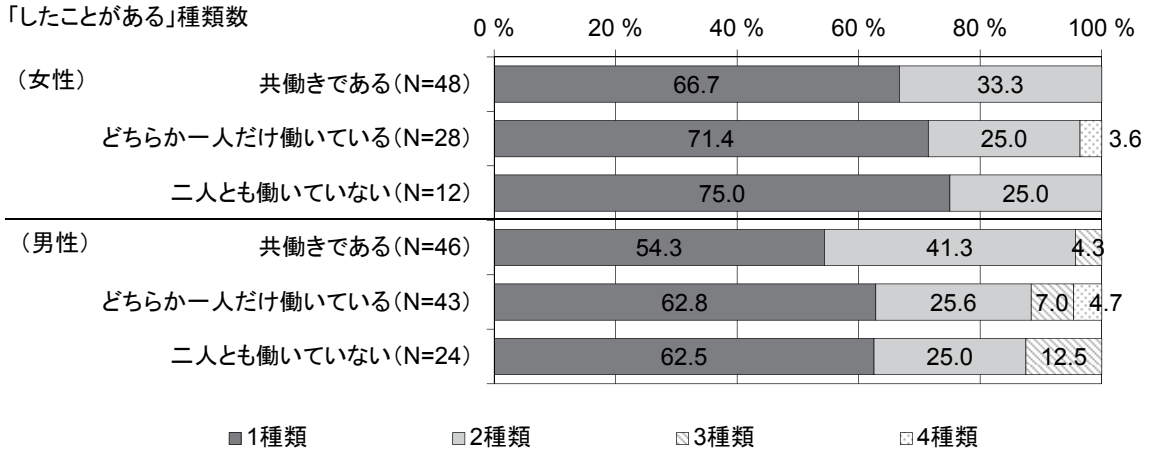
【性別×働き方別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらず１種類が最も高い

● 働き方にかかわらず複数種類の被害経験は女性、加害経験は男性が比較的高い

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらず１種類が最も高くなっています。また、働き方にかかわらず複数種類の値は、「されたことがある」は女性、「したことがある」は男性が比較的高くなっています。





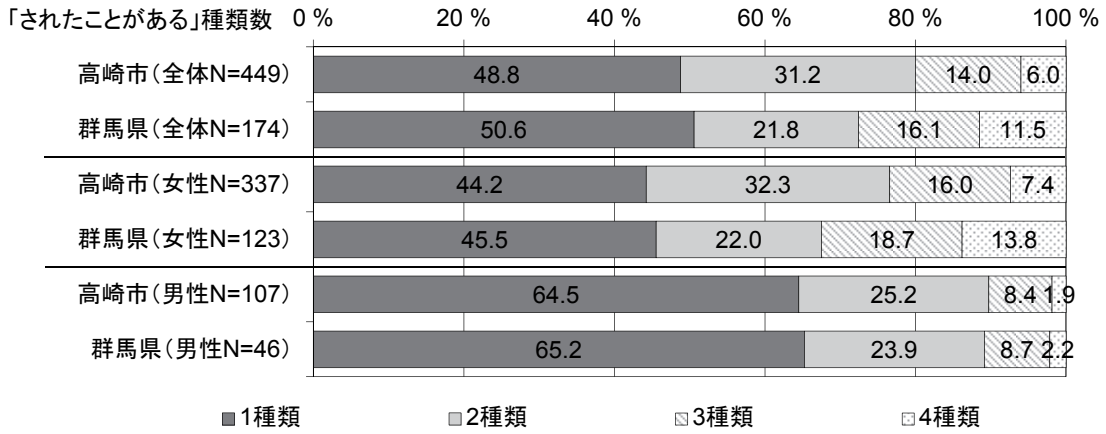
【性別×他調査との比較】

● 「されたことがある」は群馬県より女性は２種類が高く、男性は大きな差が見られない

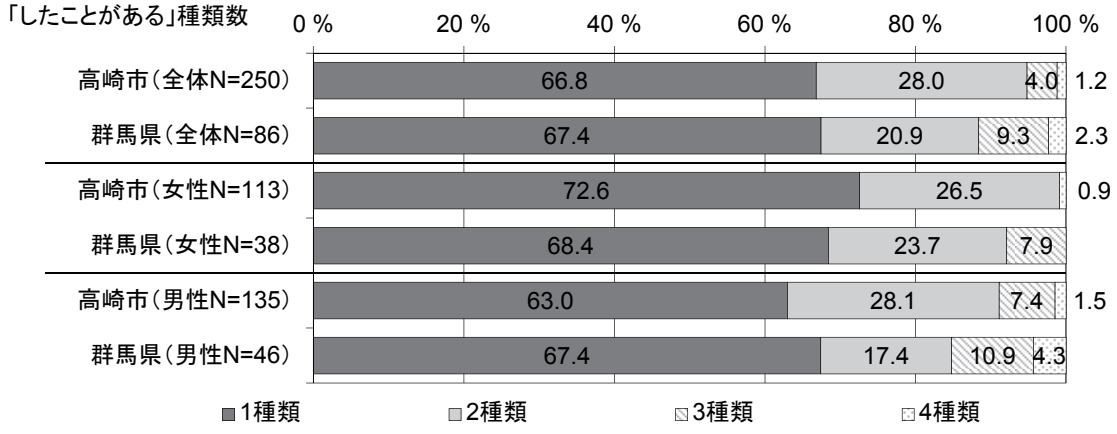
● 「したことがある」は群馬県より女性は１・２種類、男性は２種類が高く、男女とも３種類以上は低い

群馬県とは選択肢が若干異なることを考慮する必要がありますが、「されたことがある」は、女性は１種類や３種類は群馬県と同程度、２種類は群馬県より高くなっています。男性は群馬県と大きな差は見られません。

一方、「したことがある」は、女性は１種類や２種類が群馬県より高く、３種類以上は群馬県より低くなっています。男性は２種類を除いて群馬県より低くなっています。



※「群馬県」は５種類の選択肢であるため、「４種類されたことがある」場合と、「５種類されたことがある」場合を合わせて「４種類以上されたことがある」として計上



※「群馬県」は５種類の選択肢であるため、「４種類したことがある」場合と、「５種類したことがある」場合を合わせて「４種類以上したことがある」として計上

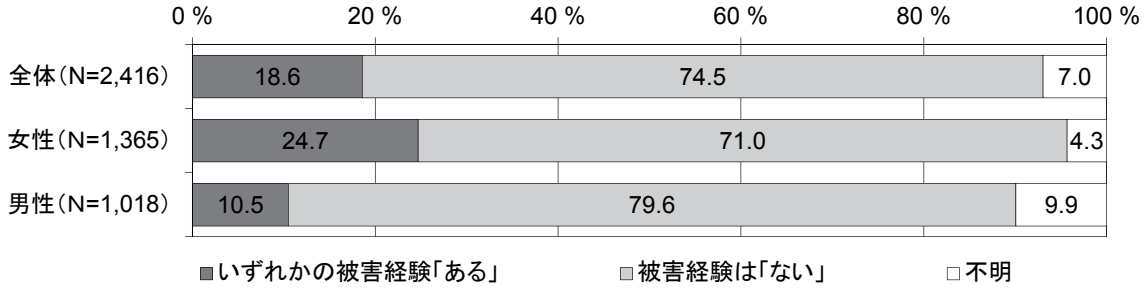
4 種類いずれかの被害・加害経験の状況

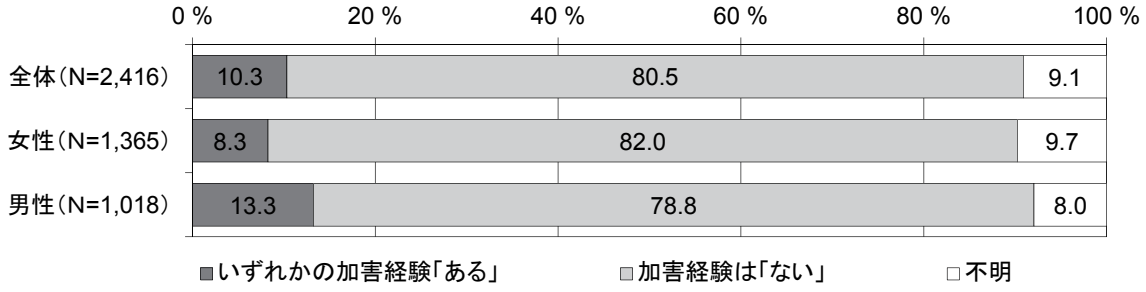
【全体・性別】

● 被害経験「ある」は女性が高く、女性の約 4 分の 1

● 加害経験「ある」は男性が 1 割以上で比較的高い

4 種類中 1 種類でも「されたことがある（いずれかの被害経験「ある」）」または「したことがある（いずれかの加害経験「ある」）」割合を見ると、被害経験「ある」は女性（24.7%）、加害経験「ある」は男性（13.3%）が比較的高く、女性の約 4 分の 1 は被害経験「ある」となっています。





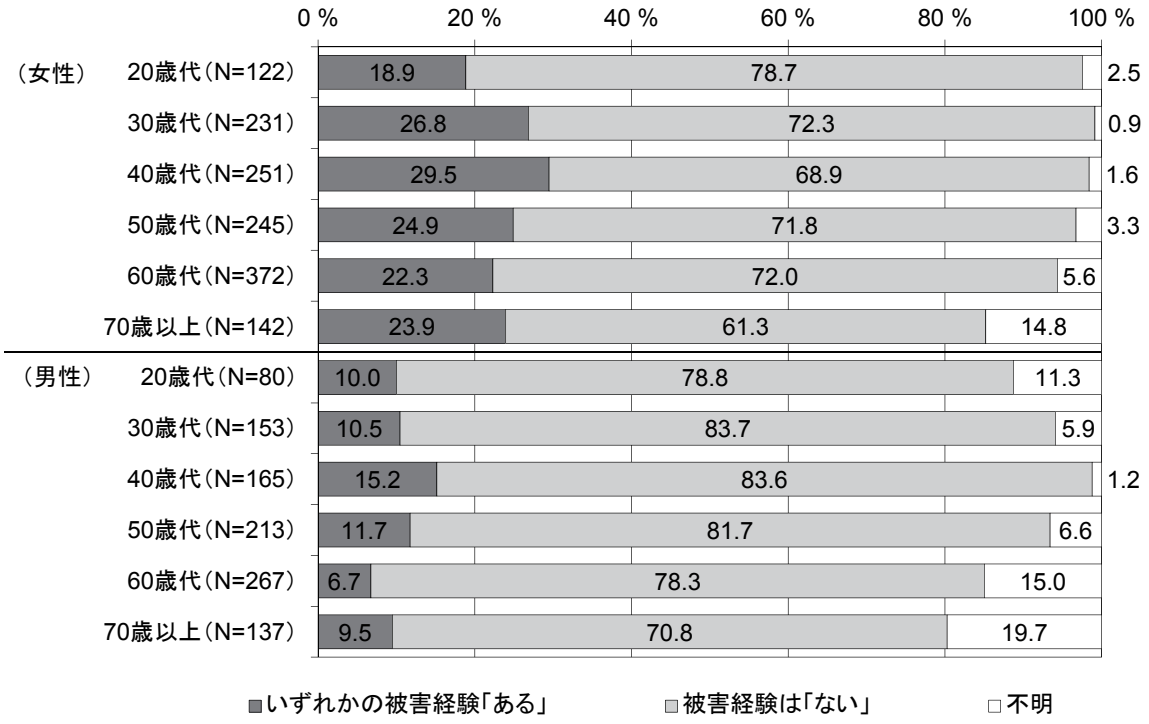
【性別×年代別】

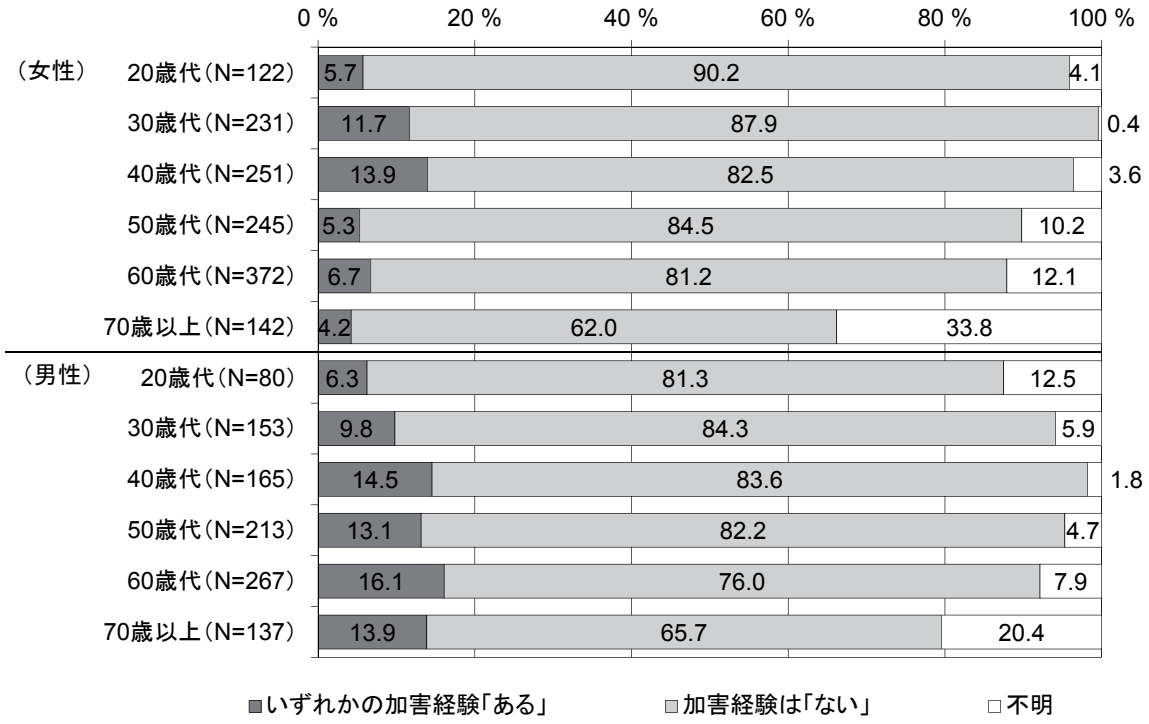
● 被害経験「ある」はすべての年代で女性が高く、特に女性 40 歳代が比較的高い

● 加害経験「ある」は 30 歳代を除くすべての年代で男性が高い

いずれかの被害経験「ある」は、女性 40 歳代（29.5%）が比較的高く、約 3 割を占めています。また、すべての年代で女性が高く、約 2～3 割となっています。

一方、いずれかの加害経験「ある」は、男性 60 歳代（16.1%）が比較的高く、30 歳代を除くすべての年代で男性が高くなっています。





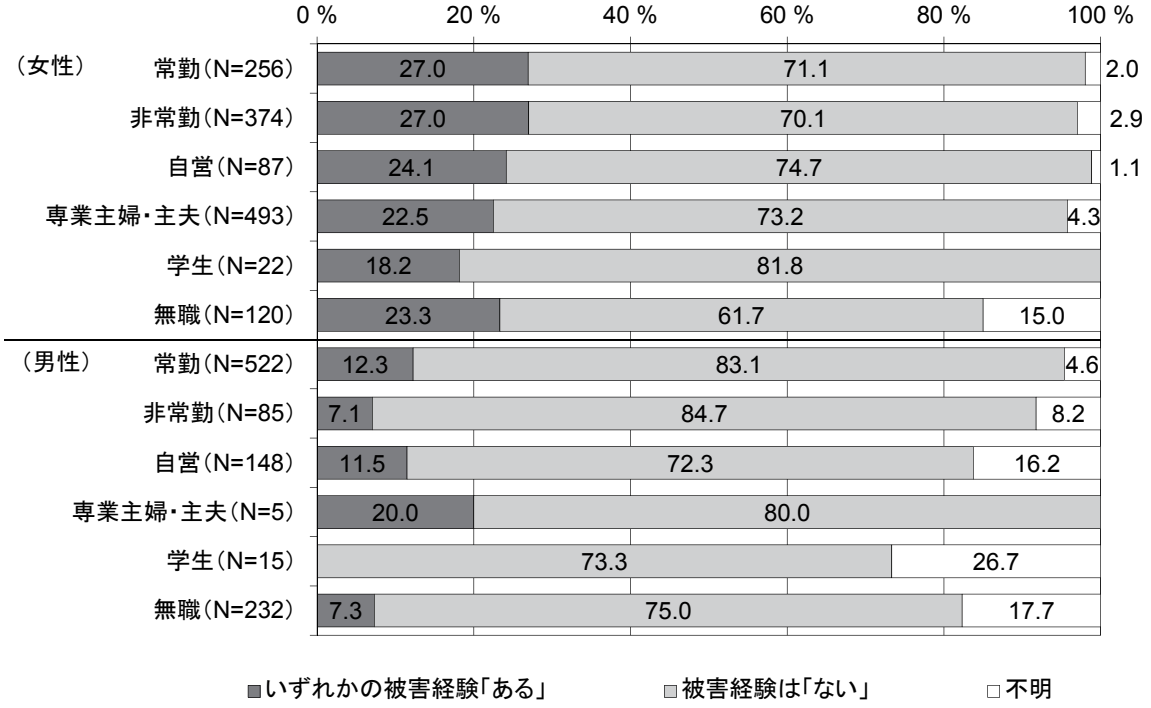
【性別×職業別】

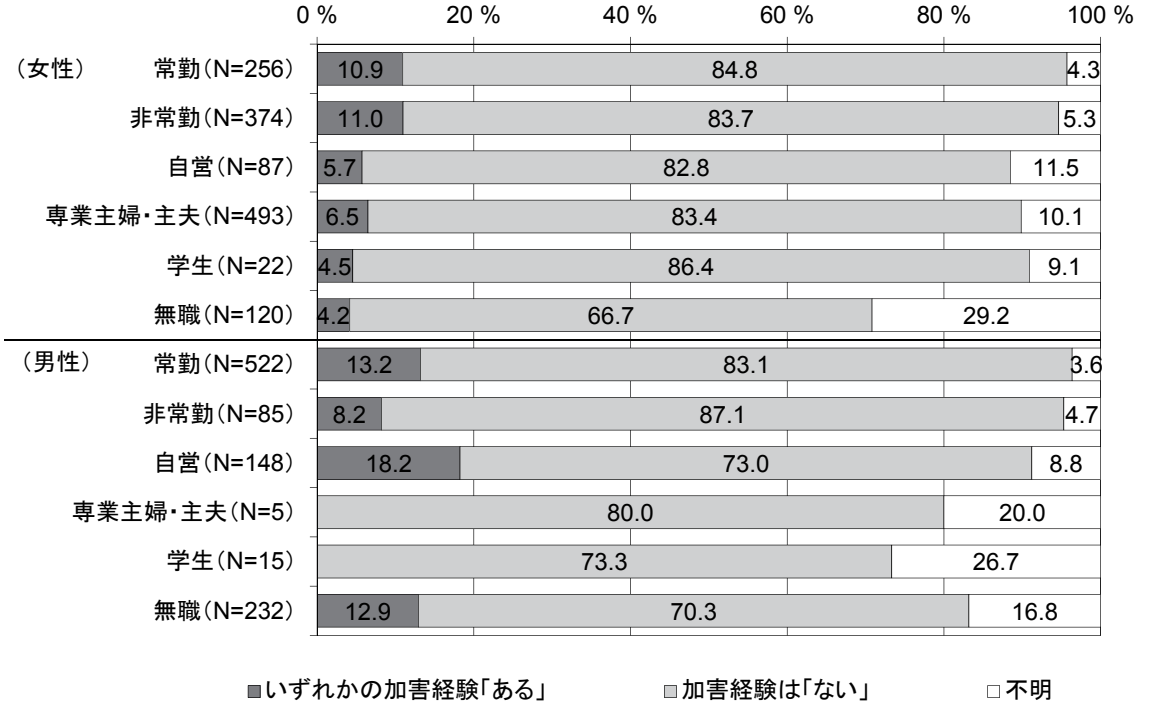
● 被害経験「ある」はすべての職業で女性が高く、女性常勤・非常勤が比較的高い

● 加害経験「ある」は非常勤・学生を除くすべての職業で男性が高く、男性自営が比較的高い

いずれかの被害経験「ある」は、女性常勤・非常勤（ともに 27.0%）が比較的高く、約 3 割を占めています。また、すべての職業で女性が高く、約 2～3 割となっています。

一方、いずれかの加害経験「ある」は、男性自営（18.2%）が比較的高く、約 2 割となっています。また、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、非常勤・学生を除くすべての職業で男性が高くなっています。





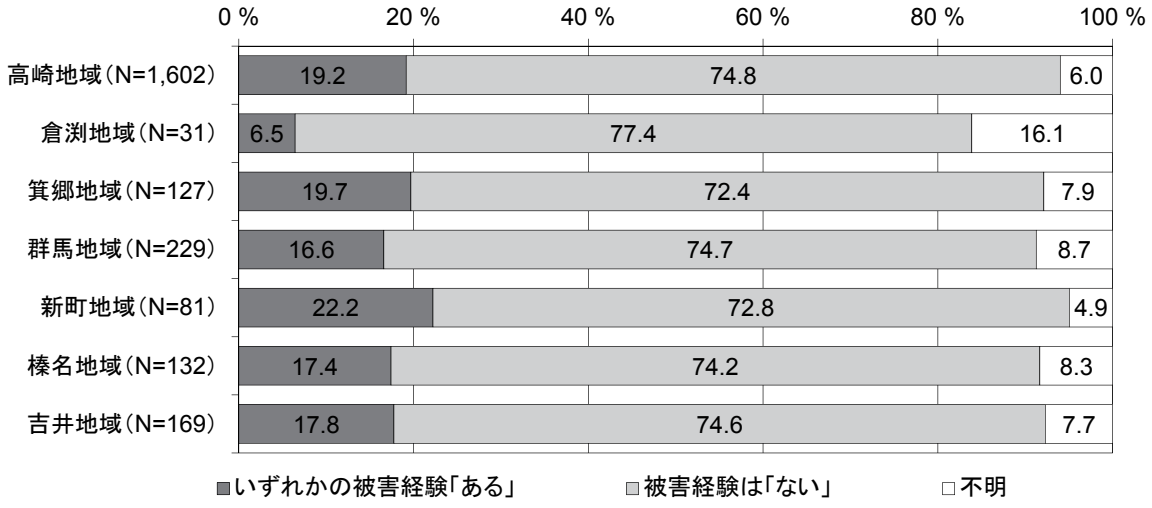
【地域別】

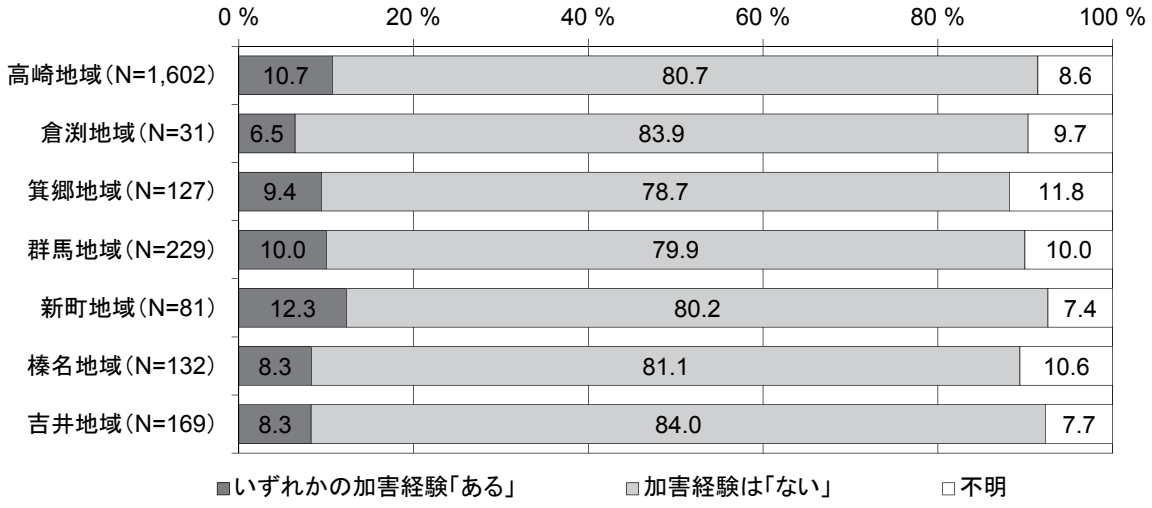
● 被害経験「ある」は倉渕地域が 1 割未満、それ以外は約 2 割

● 加害経験「ある」は地域による大きな差は見られない

いずれかの被害経験「ある」は、倉渕地域（6.5%）を除くすべての地域で約 2 割となっています。

一方、いずれかの加害経験「ある」は、地域による大きな差は見られません。





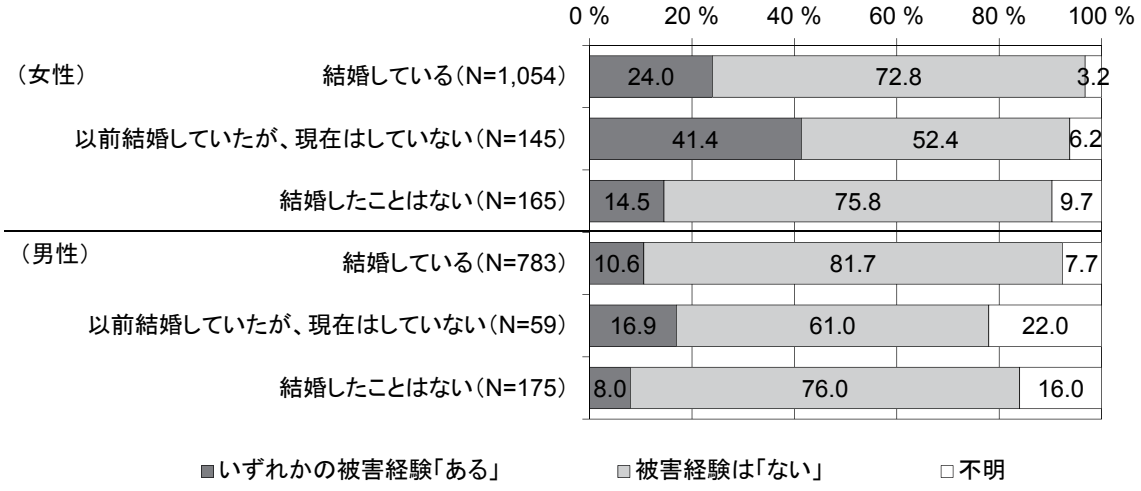
【性別×結婚経験別】

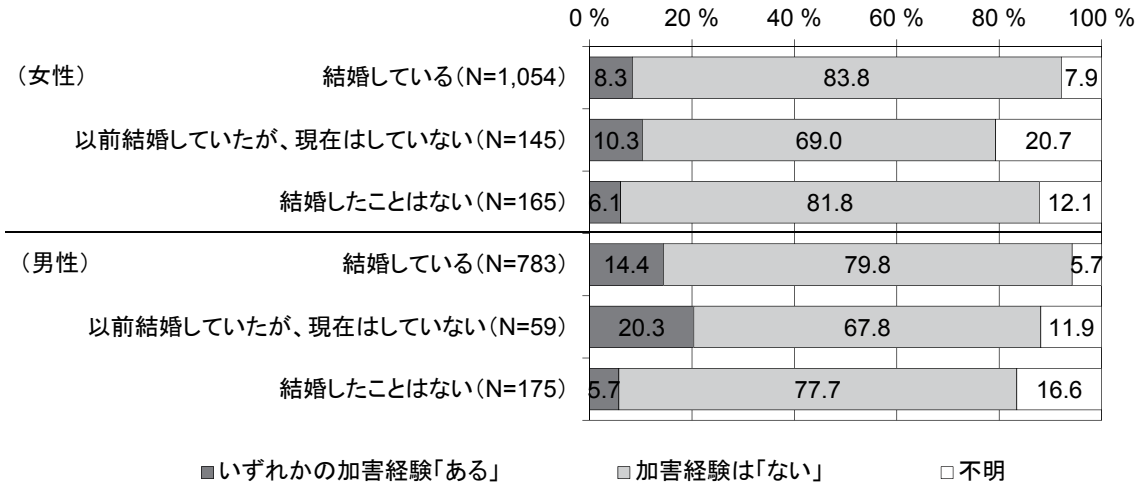
● 被害経験「ある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」が 4 割以上で特に高い

● 加害経験「ある」は男性「以前結婚していたが、現在はしていない」が約 2 割で最も高い

いずれかの被害経験「ある」は、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」（41.4%）が特に高く、4 割以上を占めています。また、女性「結婚している」（24.0%）も比較的高くなっています。

一方、いずれかの加害経験「ある」は、男性「以前結婚していたが、現在はしていない」（20.3%）が最も高く、約 2 割を占めています。



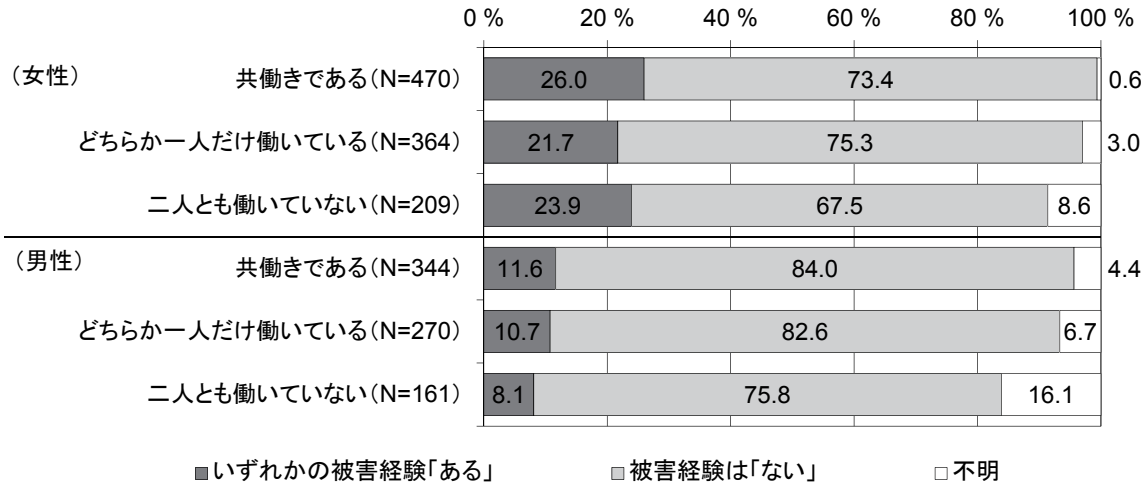


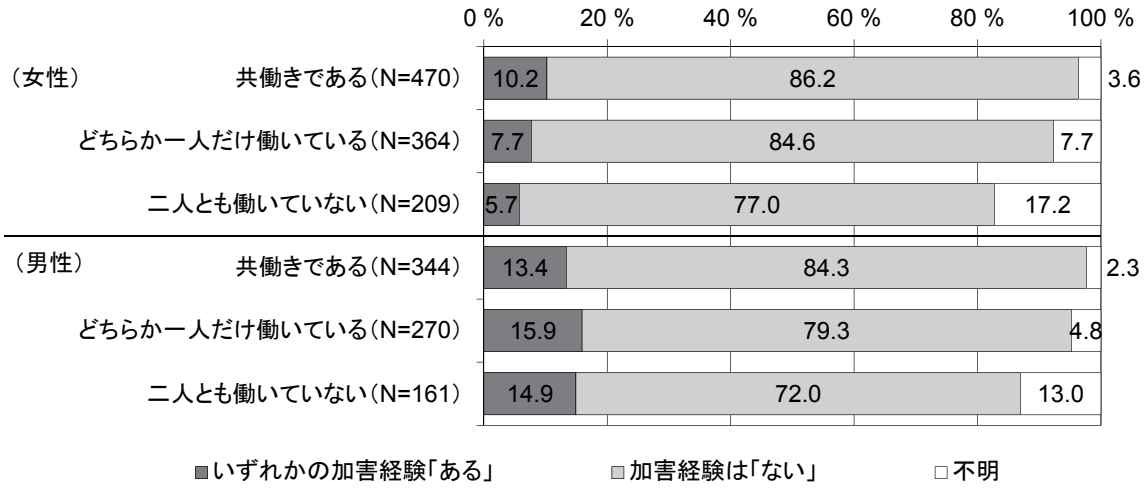
【性別×働き方別】

● 働き方にかかわらず被害経験「ある」は女性、加害経験「ある」は男性が高い

いずれかの被害経験「ある」は、女性「共働きである」（26.0%）が比較的高く、約３割を占めています。また、働き方にかかわらず女性が高く、２割以上となっています。

一方、加害経験「ある」は、働き方にかかわらず男性が高く、１割以上となっています。

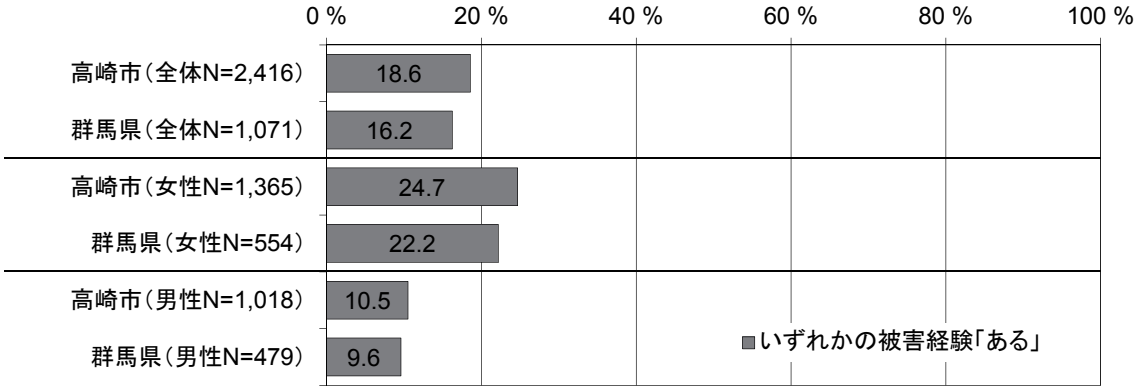


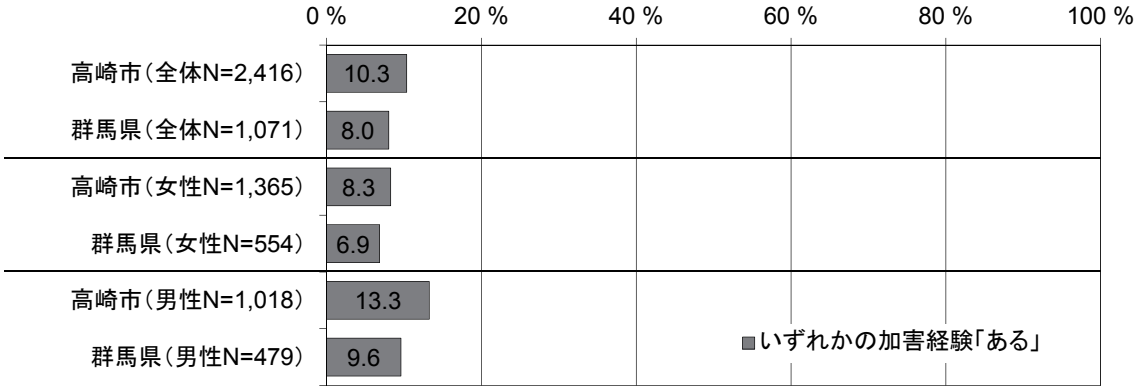


【性別×他調査との比較】

● 被害経験・加害経験ともに、男女とも群馬県と大きな差は見られない

いずれかの被害経験「ある」、加害経験「ある」ともに、男女とも群馬県より若干高くなっていますが、大きな差は見られません。





※「ある」のみを表示
※「群馬県」は「1、2度あった」「何度もあった」「まったくない」の3選択肢であるため、「1、2度あった」「何度もあった」を合算して「ある」として計上

問 12	その後、どこか（だれか）に相談しましたか。（複数回答可　N=問 11 で 1 つでも「されたこと」が「ある」と回答した 449 人）

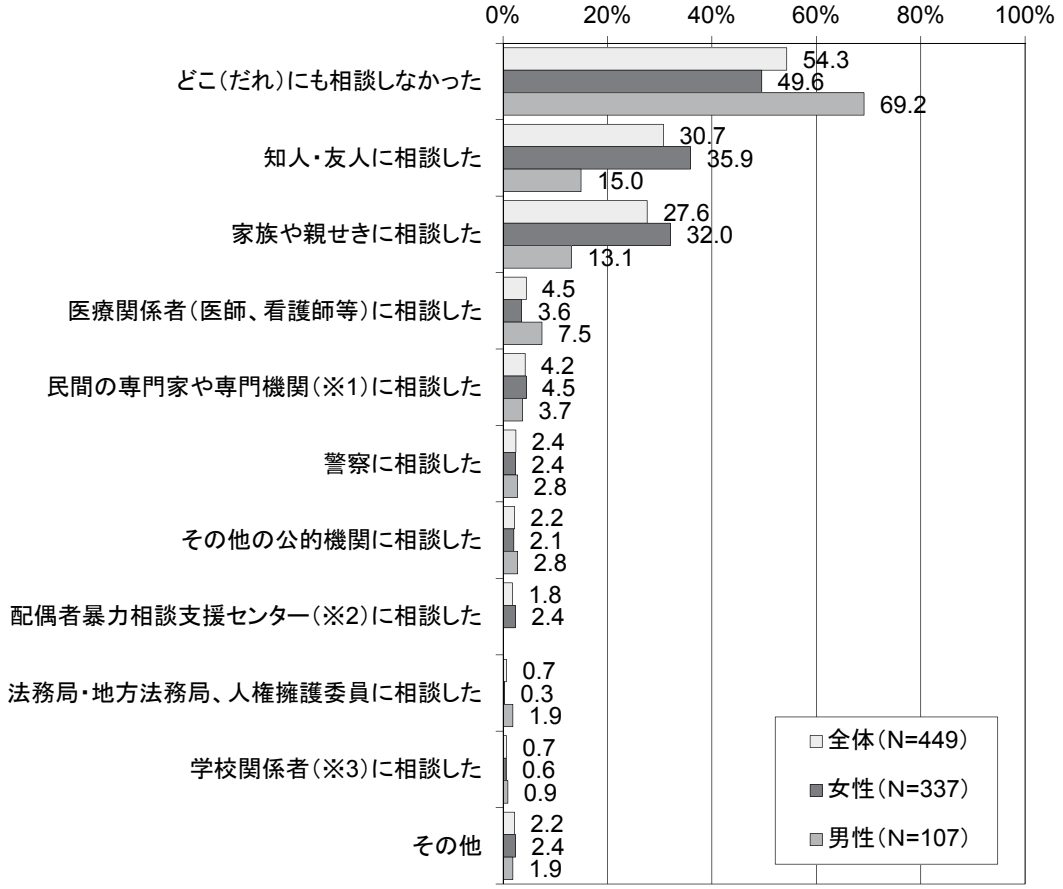
【全体・性別】

- 「相談しなかった」が女性約 5 割、男性約 7 割
- 女性は「知人・友人」約 4 割や「家族や親せき」約 3 割も比較的高い
- 男性は特に高い値を示す相談相手が見られない

男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」（女性 49.6%、男性 69.2%）が最も高く、特に男性は約 7 割となっています。次いで女性は「知人・友人に相談した」（35.9%）、「家族や親せきに相談した」（32.0%）も比較的高くなっています。

一方、男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」を除いて特に高い値を示す項目は見られません。

また、上記 3 項目以外はいずれも男女とも 1 割未満となっています。



※1　弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等
※2　女性相談所、女性相談センター等
※3　教員、スクールカウンセラー等

【性別×年代別】

● 女性 30・40 歳代を除くすべての年代で「相談しなかった」が最も高い

● 女性 30 歳代は「知人・友人」、女性 40 歳代は「家族や親せき」が最も高い

● 「相談しなかった」はすべての年代で男性が高い

女性 30・40 歳代を除くすべての年代で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」はすべての年代で男性が高くなっています。女性 30 歳代は「知人・友人に相談した」（56.5%）、女性 40 歳代は「家族や親せきに相談した」（43.2%）が最も高くなっています。

	（%）	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
N=	女性	23	62	74	61	83	34
	男性	8	16	25	25	18	13
どこ(だれ)にも相談しなかった	女性	56.5	38.7	36.5	52.5	59.0	64.7
	男性	75.0	87.5	68.0	60.0	61.1	69.2
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	女性	0.0	4.8	2.7	1.6	2.4	0.0
	男性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
警察に相談した	女性	4.3	3.2	4.1	1.6	1.2	0.0
	男性	0.0	0.0	4.0	8.0	0.0	0.0
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	女性	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0
	男性	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0
その他の公的機関に相談した	女性	0.0	0.0	1.4	6.6	1.2	2.9
	男性	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	15.4
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	女性	4.3	3.2	5.4	8.2	2.4	2.9
	男性	0.0	0.0	4.0	4.0	5.6	7.7
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	女性	4.3	4.8	4.1	4.9	1.2	2.9
	男性	0.0	6.3	12.0	8.0	11.1	0.0
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	女性	4.3	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0
	男性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
家族や親せきに相談した	女性	26.1	32.3	43.2	34.4	24.1	26.5
	男性	25.0	0.0	20.0	16.0	11.1	7.7
知人・友人に相談した	女性	43.5	56.5	36.5	36.1	22.9	23.5
	男性	25.0	12.5	12.0	12.0	22.2	0.0
その他	女性	0.0	0.0	2.7	3.3	2.4	5.9
	男性	0.0	0.0	0.0	4.0	5.6	0.0

【性別×職業別】

● 女性常勤を除くすべての職業で「相談しなかった」が最も高い

● 女性常勤は「家族や親せき」と「知人・友人」が同程度で高い

● 女性非常勤は「相談しなかった」と「知人・友人」が同値

回答者数が少ない学生や男性非常勤・専業主夫を除くと、女性常勤を除き男女ともすべての職業で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」はすべての職業で男性が高くなっていますが、女性専業主婦（63.1%）も比較的高くなっています。女性常勤は「家族や親せきに相談した」（44.9%）と「知人・友人に相談した」（43.5%）が同程度に高く、女性非常勤は「どこ（だれ）にも相談しなかった」と「知人・友人に相談した」が同値（44.6%）となっています。

	（%）	常勤	非常勤	自営	専業主婦・主夫	学生	無職
N=	女性	69	101	21	111	4	28
	男性	64	6	17	1	0	17
どこ(だれ)にも相談しなかった	女性	34.8	44.6	52.4	63.1	25.0	57.1
	男性	65.6	66.7	76.5	100.0	－	76.5
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	女性	1.4	2.0	0.0	2.7	0.0	7.1
	男性	0.0	0.0	0.0	0.0	－	0.0
警察に相談した	女性	4.3	1.0	0.0	0.9	0.0	10.7
	男性	3.1	0.0	0.0	100.0	－	0.0
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	女性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	男性	3.1	0.0	0.0	0.0	－	0.0
その他の公的機関に相談した	女性	2.9	1.0	0.0	0.9	0.0	7.1
	男性	1.6	0.0	0.0	0.0	－	11.8
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	女性	5.8	4.0	0.0	2.7	25.0	7.1
	男性	1.6	0.0	5.9	100.0	－	5.9
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	女性	7.2	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	7.8	16.7	0.0	0.0	－	11.8
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	女性	1.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	0.0	0.0	0.0	0.0	－	5.9
家族や親せきに相談した	女性	44.9	35.6	23.8	23.4	0.0	28.6
	男性	18.8	0.0	5.9	0.0	－	5.9
知人・友人に相談した	女性	43.5	44.6	38.1	25.2	50.0	21.4
	男性	14.1	33.3	17.6	100.0	－	0.0
その他	女性	2.9	3.0	0.0	2.7	0.0	0.0
	男性	1.6	0.0	5.9	0.0	－	0.0

【地域別】

● すべての地域で「相談しなかった」が最も高い

● 箕郷地域は「家族や親せき」、新町地域は「知人・友人」が比較的高い

回答者数が少ない倉渕地域を除くと、すべての地域で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、その中で新町地域（66.7%）が比較的高くなっています。また、箕郷地域は「家族や親せきに相談した」（36.0%）、新町地域は「知人・友人に相談した」（38.9%）も比較的高くなっています。

（%）	高崎地域	倉渕地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	吉井地域
N=	307	2	25	38	18	23	30
どこ(だれ)にも相談しなかった	54.1	0.0	52.0	50.0	66.7	56.5	60.0
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	2.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	3.3
警察に相談した	2.3	0.0	4.0	5.3	0.0	4.3	0.0
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	0.3	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	3.3
その他の公的機関に相談した	1.3	0.0	0.0	5.3	5.6	13.0	0.0
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	4.9	0.0	4.0	2.6	0.0	4.3	3.3
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	4.2	0.0	8.0	2.6	5.6	4.3	3.3
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族や親せきに相談した	28.3	50.0	36.0	15.8	27.8	30.4	23.3
知人・友人に相談した	32.9	50.0	20.0	28.9	38.9	17.4	26.7
その他	2.6	0.0	4.0	0.0	5.6	0.0	0.0

【性別×結婚経験別】

● 女性「結婚したことはない」は「知人・友人」、それ以外は「相談しなかった」が最も高い

● 女性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「家族や親せき」「知人・友人」も高い

女性「結婚したことはない」を除いて「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。女性「結婚したことはない」は「知人・友人に相談した」（58.3%）が最も高くなっています。また、女性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「家族や親せきに相談した」や「知人・友人に相談した」（ともに 38.3%）も同程度に高くなっています。

	（%）	結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性	253	60	24
	男性	83	10	14
どこ(だれ)にも相談しなかった	女性	53.0	40.0	37.5
	男性	69.9	50.0	78.6
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	女性	1.6	6.7	0.0
	男性	0.0	0.0	0.0
警察に相談した	女性	1.2	5.0	8.3
	男性	2.4	10.0	0.0
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	女性	0.4	0.0	0.0
	男性	2.4	0.0	0.0
その他の公的機関に相談した	女性	1.6	3.3	4.2
	男性	3.6	0.0	0.0
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	女性	2.8	10.0	8.3
	男性	3.6	10.0	0.0
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	女性	2.4	6.7	8.3
	男性	6.0	20.0	7.1
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	女性	0.4	0.0	4.2
	男性	1.2	0.0	0.0
家族や親せきに相談した	女性	32.4	38.3	12.5
	男性	10.8	30.0	14.3
知人・友人に相談した	女性	33.2	38.3	58.3
	男性	15.7	10.0	14.3
その他	女性	3.2	0.0	0.0
	男性	2.4	0.0	0.0

【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高い

● 女性「共働き」は「家族や親せき」「知人・友人」も比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、男女とも「二人とも働いていない」（女性 70.0%、男性 84.6%）で特に高くなっています。

また、女性「共働きである」は「家族や親せきに相談した」や「知人・友人に相談した」（ともに 40.2%）も比較的高くなっています。

（%）		共働きである	どちらか一人だけ働いている	二人とも働いていない
N=	女性	122	79	50
	男性	40	29	13
どこ(だれ)にも相談しなかった	女性	43.4	55.7	70.0
	男性	70.0	62.1	84.6
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	女性	0.8	3.8	0.0
	男性	0.0	0.0	0.0
警察に相談した	女性	1.6	1.3	0.0
	男性	0.0	3.4	0.0
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	女性	0.0	0.0	2.0
	男性	2.5	3.4	0.0
その他の公的機関に相談した	女性	2.5	1.3	0.0
	男性	0.0	3.4	15.4
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	女性	2.5	3.8	2.0
	男性	2.5	3.4	0.0
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	女性	4.1	1.3	0.0
	男性	2.5	13.8	0.0
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	女性	0.8	0.0	0.0
	男性	0.0	3.4	0.0
家族や親せきに相談した	女性	40.2	26.6	22.0
	男性	7.5	17.2	7.7
知人・友人に相談した	女性	40.2	34.2	14.0
	男性	15.0	20.7	0.0
その他	女性	3.3	2.5	4.0
	男性	5.0	0.0	0.0

【性別×他調査との比較】

● 「相談しなかった」は男女とも国より低く、全体値は群馬県より高い

● 「家族や親せき」は男女で傾向が異なり、「知人・友人」は男女とも国より高く、全体値は群馬県より高い

全体傾向で値が比較的高い項目について見ると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男女とも内閣府より低く、全体値は群馬県より高くなっています。

「家族や親せきに相談した」は、内閣府より女性は高く、男性は低くなっています。また、全体値は内閣府より高く、群馬県と同程度になっています。

「知人・友人に相談した」は男女とも内閣府より高く、全体値は群馬県より高くなっています。

	（%）	高崎市	群馬県	内閣府
N=	全体	449	174	277
	女性	337	−	185
	男性	107	−	92
どこ(だれ)にも相談しなかった	全体	54.3	35.6	61.0
	女性	49.6	−	53.0
	男性	69.2	−	77.2
配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター等)に相談した	全体	1.8	1.1	0.7
	女性	2.4	−	1.1
	男性	0.0	−	0.0
警察に相談した	全体	2.4	4.0	1.8
	女性	2.4	−	2.2
	男性	2.8	−	1.1
法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	全体	0.7	0.6	0.4
	女性	0.3		0.5
	男性	1.9	−	0.0
その他の公的機関に相談した	全体	2.2	0.6	0.0
	女性	2.1	−	0.0
	男性	2.8	−	0.0
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等)に相談した	全体	4.2	5.2	1.4
	女性	4.5	−	1.6
	男性	3.7	−	1.1
医療関係者(医師、看護師等)に相談した	全体	4.5	4.0	2.9
	女性	3.6	−	3.2
	男性	7.5	−	2.2
学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した	全体	0.7	0.6	0.4
	女性	0.6	−	0.5
	男性	0.9	−	0.0
家族や親せきに相談した	全体	27.6	27.0	23.8
	女性	32.0	−	27.6
	男性	13.1	−	16.3
知人・友人に相談した	全体	30.7	22.4	21.7
	女性	35.9		27.6
	男性	15.0	−	9.8
その他	全体	2.2	4.0	1.1
	女性	2.4	−	1.1
	男性	1.9	−	1.1

※「群馬県」は公開されている全体値のみを表示

※「群馬県」は「ここ数年間の間」、内閣府は「この5年間」として設定

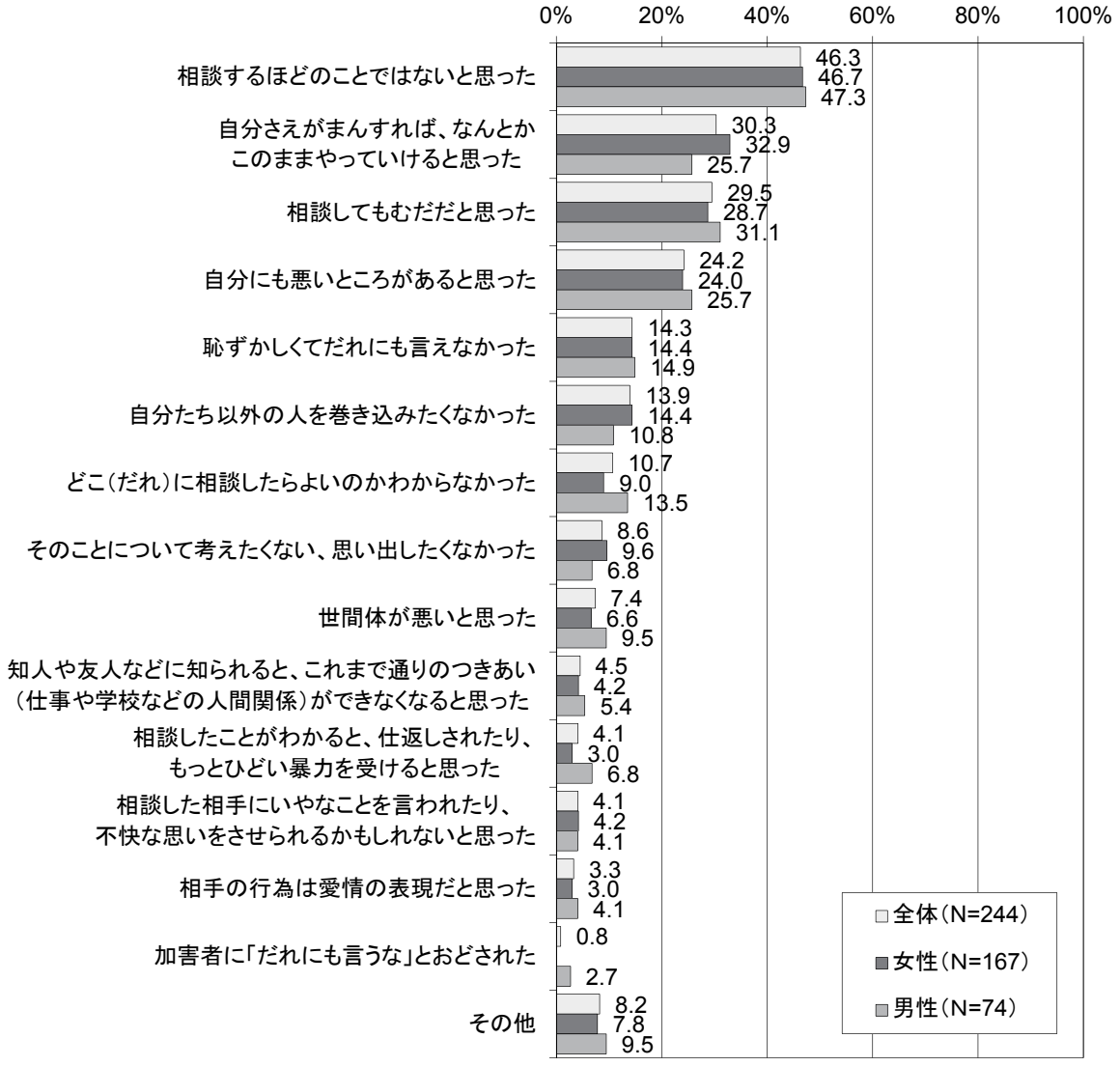
問 13	相談しなかった理由はどんなことですか。（複数回答可　N=問 12 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した 244 人）

【全体・性別】

● 男女とも「相談するほどのことではない」が約 5 割

● 女性は「自分さえがまんすれば、なんとかやっていける」が比較的高い

男女とも「相談するほどのことではないと思った」（女性 46.7%、男性 47.3%）が最も高く、ほとんどの項目で性別による大きな差は見られません。その中で女性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」（32.9%）が比較的高くなっています。また、男性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」（25.7%）より「相談してもむだだと思った」（31.1%）が高くなっています。



【性別×年代別】

● 男女とも多くの年代で「相談するほどのことはない」が最も高い

● 男女とも年代によって傾向が異なる

回答者数が少ない男性 20 歳代・70 歳以上を除くと、女性 30・40・50 歳代や男性 30・50・60 歳代は「相談するほどのことではないと思った」、女性 20・60 歳代は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」（それぞれ 46.2%、38.8%）、女性 70 歳以上は「相談してもむだだと思った」（36.4%）、男性 40 歳代は「どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかった」（35.3%）がそれぞれ最も高くなっており、年代によって傾向に違いが見られます。

	（%）	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
N=	女性	13	24	27	32	49	22
	男性	6	14	17	15	11	9
どこ(だれ)に相談したらよいのかわからなかった	女性	15.4	8.3	7.4	3.1	8.2	18.2
	男性	0.0	14.3	35.3	13.3	0.0	0.0
恥ずかしくてだれにも言えなかった	女性	38.5	8.3	14.8	12.5	12.2	13.6
	男性	33.3	14.3	11.8	20.0	18.2	0.0
相談してもむだだと思った	女性	23.1	12.5	33.3	37.5	26.5	36.4
	男性	33.3	35.7	29.4	26.7	18.2	55.6
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った	女性	0.0	4.2	7.4	3.1	2.0	0.0
	男性	16.7	7.1	11.8	0.0	9.1	0.0
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	女性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	16.7	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	女性	7.7	4.2	0.0	12.5	2.0	0.0
	男性	16.7	0.0	5.9	0.0	0.0	11.1
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	女性	46.2	16.7	33.3	31.3	38.8	31.8
	男性	33.3	28.6	23.5	33.3	27.3	11.1
世間体が悪いと思った	女性	0.0	4.2	11.1	3.1	8.2	9.1
	男性	16.7	0.0	11.8	13.3	9.1	11.1
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	女性	38.5	12.5	14.8	18.8	12.2	0.0
	男性	16.7	14.3	5.9	13.3	9.1	11.1
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思った	女性	7.7	0.0	3.7	3.1	6.1	4.5
	男性	0.0	0.0	5.9	6.7	9.1	0.0
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	女性	23.1	4.2	7.4	12.5	6.1	13.6
	男性	0.0	7.1	0.0	20.0	9.1	0.0
自分にも悪いところがあると思った	女性	38.5	25.0	18.5	15.6	30.6	18.2
	男性	0.0	50.0	11.8	26.7	36.4	22.2
相手の行為は愛情の表現だと思った	女性	23.1	4.2	0.0	0.0	2.0	0.0
	男性	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0
相談するほどのことではないと思った	女性	38.5	66.7	51.9	56.3	36.7	31.8
	男性	50.0	57.1	23.5	60.0	63.6	44.4
その他	女性	7.7	8.3	11.1	3.1	8.2	9.1
	男性	16.7	0.0	23.5	6.7	9.1	0.0

【性別×職業別】

● 男女とも多くの職業で「相談するほどのことはない」が最も高い

● 男女とも職業によって傾向が異なる

回答者数が少ない学生、男性非常勤・専業主夫を除くと、女性常勤と男女無職を除き男女ともすべての職業で「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっています（女性自営 45.5%は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」と同値)。女性常勤、男女無職は「相談してもむだだと思った」（それぞれ 45.8%、53.8%、37.5%）が最も高くなっています（女性無職は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」と同値)。

	（%）	常勤	非常勤	自営	専業主婦・主夫	学生	無職
N=	女性	24	45	11	70	1	16
	男性	42	4	13	1	0	13
どこ(だれ)に相談したらよいのかわからなかった	女性	4.2	6.7	9.1	8.6	100.0	18.8
	男性	21.4	0.0	7.7	0.0	－	0.0
恥ずかしくてだれにも言えなかった	女性	29.2	11.1	9.1	11.4	0.0	18.8
	男性	14.3	0.0	23.1	0.0	－	15.4
相談してもむだだと思った	女性	45.8	24.4	36.4	21.4	100.0	37.5
	男性	23.8	25.0	23.1	100.0	－	53.8
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った	女性	0.0	6.7	9.1	0.0	0.0	6.3
	男性	7.1	0.0	7.7	100.0	－	0.0
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	女性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	2.4	0.0	0.0	100.0	－	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	女性	8.3	4.4	0.0	0.0	0.0	18.8
	男性	4.8	0.0	0.0	0.0	－	7.7
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	女性	33.3	33.3	45.5	30.0	0.0	37.5
	男性	23.8	0.0	38.5	100.0	－	23.1
世間体が悪いと思った	女性	12.5	11.1	0.0	2.9	0.0	6.3
	男性	9.5	0.0	0.0	100.0	－	15.4
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	女性	20.8	22.2	9.1	7.1	0.0	18.8
	男性	9.5	0.0	7.7	100.0	－	15.4
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思った	女性	16.7	2.2	0.0	0.0	0.0	12.5
	男性	2.4	25.0	7.7	100.0	－	0.0
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	女性	16.7	8.9	0.0	8.6	0.0	12.5
	男性	9.5	0.0	7.7	0.0	－	0.0
自分にも悪いところがあると思った	女性	37.5	15.6	9.1	28.6	0.0	18.8
	男性	21.4	25.0	15.4	100.0	－	46.2
相手の行為は愛情の表現だと思った	女性	0.0	2.2	0.0	4.3	0.0	6.3
	男性	4.8	0.0	7.7	0.0	－	0.0
相談するほどのことではないと思った	女性	41.7	53.3	45.5	52.9	0.0	12.5
	男性	52.4	50.0	46.2	0.0	－	38.5
その他	女性	4.2	6.7	0.0	11.4	0.0	6.3
	男性	11.9	0.0	15.4	0.0	－	0.0

【性別×地域別】

● 新町地域を除くすべての地域で「相談するほどのことではない」が最も高い

● 新町地域は「相談してもむだ」、榛名地域は「自分さえがまんすれば、なんとかやっていける」「自分にも悪いところがある」「相談するほどのことではない」が同値

回答者がいない倉渕地域を除くと、新町地域を除くすべての地域で「相談するほどのことではないと思った」が最も高く、特に箕郷地域（69.2%）は約 7 割と比較的高くなっています。新町地域は「相談してもむだだと思った」（41.7%）、榛名地域は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことでもないと思った」も同値（46.2%）で最も高くなっています。

（%）	高崎地域	倉渕地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	吉井地域
N=	166	0	13	19	12	13	18
どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかった	10.2	－	7.7	15.8	16.7	7.7	5.6
恥ずかしくてだれにも言えなかった	14.5	－	0.0	31.6	8.3	7.7	16.7
相談してもむだだと思った	28.3	－	38.5	26.3	41.7	38.5	22.2
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った	4.2	－	7.7	5.3	0.0	7.7	0.0
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	1.2	－	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	4.2	－	7.7	5.3	0.0	0.0	5.6
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	30.1	－	38.5	21.1	33.3	46.2	27.8
世間体が悪いと思った	7.8	－	0.0	10.5	0.0	15.4	5.6
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	12.7	－	15.4	21.1	8.3	15.4	11.1
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思った	4.2	－	0.0	15.8	0.0	7.7	0.0
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	9.0	－	15.4	10.5	0.0	7.7	5.6
自分にも悪いところがあると思った	23.5	－	15.4	21.1	25.0	46.2	27.8
相手の行為は愛情の表現だと思った	2.4	－	15.4	5.3	8.3	0.0	0.0
相談するほどのことではないと思った	45.8	－	69.2	52.6	25.0	46.2	50.0
その他	9.0	－	0.0	15.8	8.3	0.0	5.6

【性別×結婚経験別】

● 男性「結婚したことはない」は「相談してもむだ」、それ以外は「相談するほどのことではない」が最も高い

回答者数が少ない女性「結婚したことはない」、男性「以前結婚していたが、現在はしていない」を除くと、男性「結婚したことはない」を除き男女とも「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっています。男性「結婚したことはない」は「相談してもむだだと思った」（54.5%）が最も高くなっています。

（%）		結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性	134	24	9
	男性	58	5	11
どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかった	女性	8.2	8.3	22.2
	男性	10.3	0.0	36.4
恥ずかしくてだれにも言えなかった	女性	12.7	16.7	33.3
	男性	13.8	20.0	18.2
相談してもむだだと思った	女性	28.4	29.2	33.3
	男性	27.6	20.0	54.5
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った	女性	1.5	4.2	22.2
	男性	5.2	0.0	18.2
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	女性	0.0	0.0	0.0
	男性	1.7	0.0	9.1
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	女性	3.0	4.2	22.2
	男性	5.2	0.0	0.0
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	女性	32.8	33.3	33.3
	男性	22.4	40.0	36.4
世間体が悪いと思った	女性	7.5	4.2	0.0
	男性	10.3	0.0	9.1
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	女性	14.9	4.2	33.3
	男性	13.8	0.0	0.0
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思った	女性	3.0	4.2	22.2
	男性	5.2	0.0	9.1
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	女性	9.0	12.5	11.1
	男性	6.9	0.0	9.1
自分にも悪いところがあると思った	女性	24.6	16.7	33.3
	男性	25.9	0.0	36.4
相手の行為は愛情の表現だと思った	女性	2.2	0.0	22.2
	男性	1.7	0.0	18.2
相談するほどのことではないと思った	女性	49.3	37.5	33.3
	男性	55.2	20.0	18.2
その他	女性	7.5	8.3	11.1
	男性	10.3	20.0	0.0

【性別×働き方別】

● 男女とも「二人とも働いていない」を除き「相談するほどのことではない」が最も高い

● 「二人とも働いていない」は女性「自分さえがまんすれば、なんとかやっていける」、男性「自分にも悪いところがある」が最も高い

男女とも「二人とも働いていない」を除いて「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっています。女性「二人とも働いていない」は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」（45.7%）、男性「二人とも働いていない」は「自分にも悪いところがあると思った」（45.5%）が最も高くなっています。

（%）		共働きである	どちらか一人だけ働いている	二人とも働いていない
N=	女性	53	44	35
	男性	28	18	11
どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかった	女性	5.7	9.1	11.4
	男性	17.9	5.6	0.0
恥ずかしくてだれにも言えなかった	女性	15.1	11.4	11.4
	男性	14.3	16.7	9.1
相談してもむだだと思った	女性	34.0	22.7	25.7
	男性	21.4	27.8	36.4
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った	女性	3.8	0.0	0.0
	男性	7.1	0.0	0.0
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	女性	0.0	0.0	0.0
	男性	0.0	0.0	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	女性	5.7	0.0	0.0
	男性	3.6	5.6	9.1
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	女性	34.0	20.5	45.7
	男性	25.0	16.7	18.2
世間体が悪いと思った	女性	7.5	6.8	5.7
	男性	7.1	5.6	18.2
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	女性	20.8	18.2	0.0
	男性	10.7	11.1	18.2
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思った	女性	5.7	0.0	2.9
	男性	7.1	0.0	0.0
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	女性	9.4	9.1	5.7
	男性	10.7	5.6	0.0
自分にも悪いところがあると思った	女性	24.5	20.5	31.4
	男性	17.9	22.2	45.5
相手の行為は愛情の表現だと思った	女性	0.0	4.5	2.9
	男性	3.6	0.0	0.0
相談するほどのことではないと思った	女性	50.9	63.6	28.6
	男性	46.4	83.3	36.4
その他	女性	5.7	11.4	5.7
	男性	14.3	5.6	9.1

【性別×他調査との比較】

● 「相談するほどのことではない」は男女とも国より低く、全体値は群馬県と同程度

● 「自分さえがまんすれば、なんとかやっていける」「相談してもむだ」は男女とも国より高く、全体値は群馬県と同程度

全体傾向で値が比較的高い項目について見ると、「相談するほどのことではないと思った」は男女とも内閣府より低く、全体値は群馬県と同程度になっています。

「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」や「相談してもむだだと思った」は男女とも内閣府より高く、全体値は群馬県と同程度になっています。

	（%）	高崎市	群馬県	内閣府
N=	全体	244	62	169
	女性	167	－	98
	男性	74	－	71
どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかった	全体	10.7	3.2	7.1
	女性	9.0	－	8.2
	男性	13.5	－	5.6
恥ずかしくてだれにも言えなかった	全体	14.3	16.1	14.8
	女性	14.4	－	17.3
	男性	14.9		11.3
相談してもむだだと思った	全体	29.5	27.4	15.4
	女性	28.7	－	12.2
	男性	31.1	－	19.7
相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った	全体	4.1	3.2	1.2
	女性	3.0	－	1.0
	男性	6.8	－	1.4
加害者に「だれにも言うな」とおどされた	全体	0.8	1.6	0.0
	女性	0.0	－	0.0
	男性	2.7	－	0.0
相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った	全体	4.1	0.0	1.8
	女性	4.2	－	2.0
	男性	4.1	－	1.4
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	全体	30.3	29.0	18.9
	女性	32.9	－	22.4
	男性	25.7	－	14.1
世間体が悪いと思った	全体	7.4	6.5	9.5
	女性	6.6	－	9.2
	男性	9.5	－	9.9
自分たち以外の人を巻き込みたくなかった	全体	13.9	12.9	5.3
	女性	14.4	－	7.1
	男性	10.8	－	2.8
知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思った	全体	4.5	1.6	1.8
	女性	4.2	－	2.0
	男性	5.4	－	1.4
そのことについて考えたくない、思い出したくなかった	全体	8.6	8.1	4.7
	女性	9.6	－	5.1
	男性	6.8	－	4.2
自分にも悪いところがあると思った	全体	24.2	32.3	39.1
	女性	24.0	－	35.7
	男性	25.7	－	43.7
相手の行為は愛情の表現だと思った	全体	3.3	9.7	9.5
	女性	3.0	－	10.2
	男性	4.1	－	8.5
相談するほどのことではないと思った	全体	46.3	45.2	57.4
	女性	46.7	－	50.0
	男性	47.3	－	67.6
その他	全体	8.2	6.5	12.4
	女性	7.8	－	16.3
	男性	9.5	－	7.0

※「群馬県」は公開されている全体値のみを表示

9　セクシャル・ハラスメントについて

問 14	あなたは過去 3 年以内に、職場や学校、地域での活動の中で、次のようなことを「されたこと」や「したこと」がありますか。

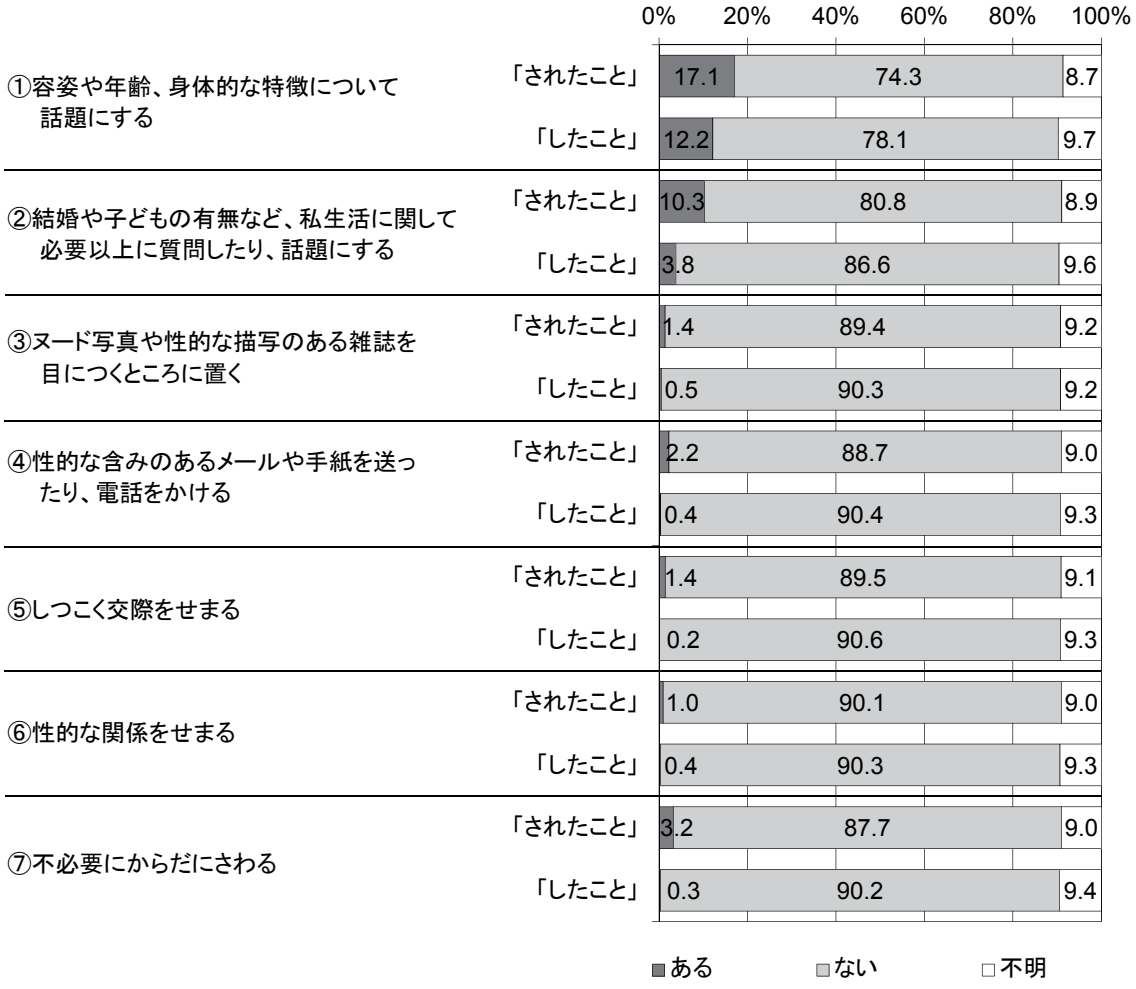
【全項目・全体】

● ほとんどの項目で「されたこと」「したこと」ともにあまり見られない。

● 「①容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」は「されたこと」あるが約２割、「したこと」あるが約１割

いずれの項目も「されたこと」「したこと」ともに「ない」がほとんどを占めています。

その中で「①容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする」は「されたこと」「したこと」ともに「ある」（それぞれ 17.1%、12.2%）が比較的高くなっています。

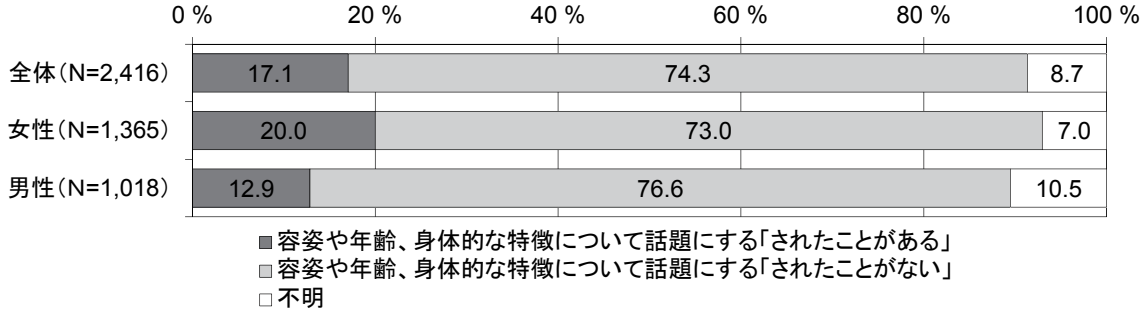


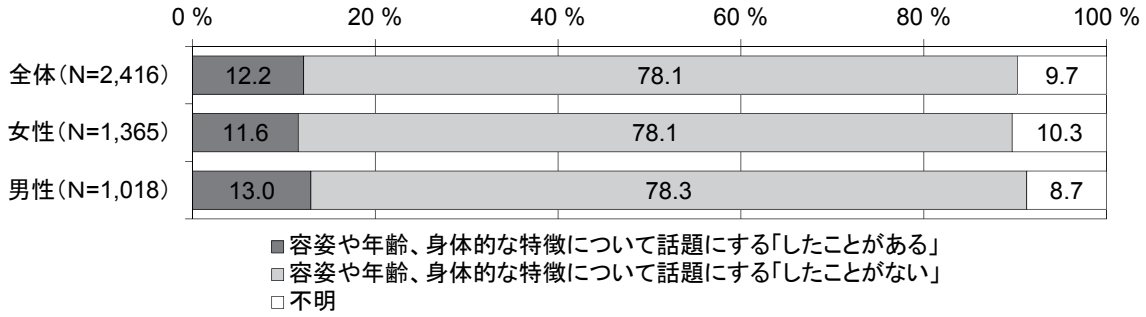
①容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする

【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性が約２割で比較的高い
- 「したことがある」は男女とも約１割

「されたことがある」は女性（20.0%）が約２割で比較的高くなっています。
一方、「したことがある」は、男女とも約１割で性別による大きな差は見られません。



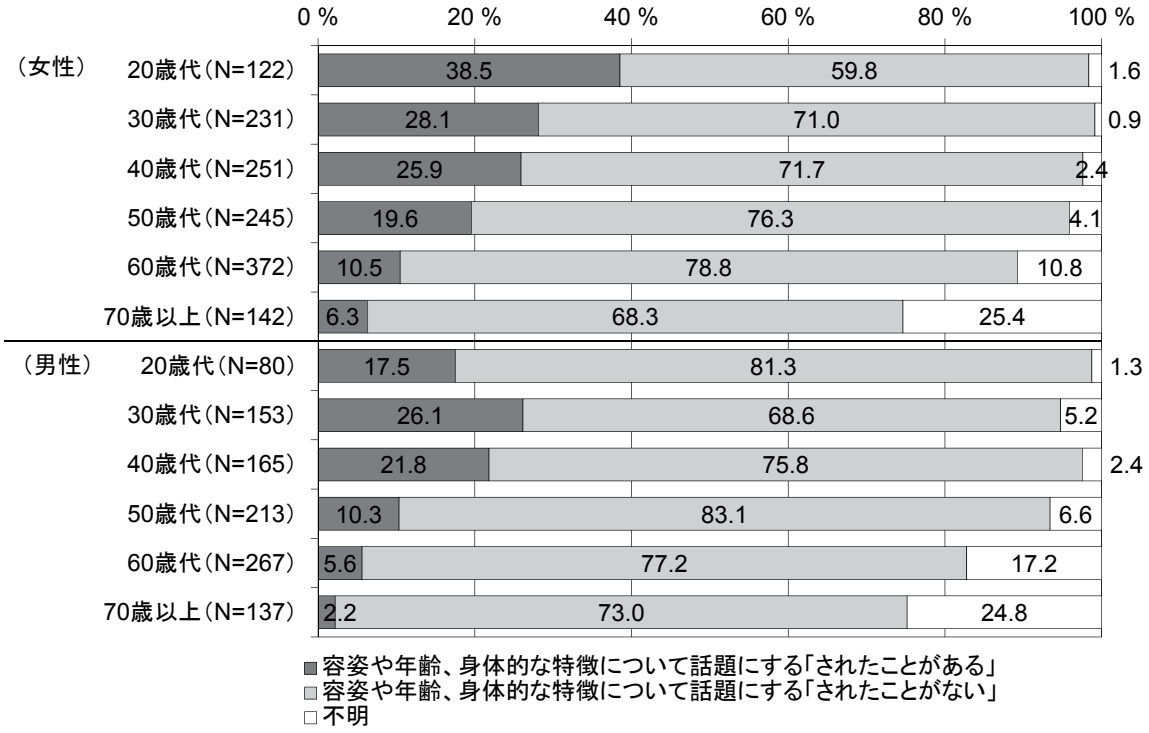


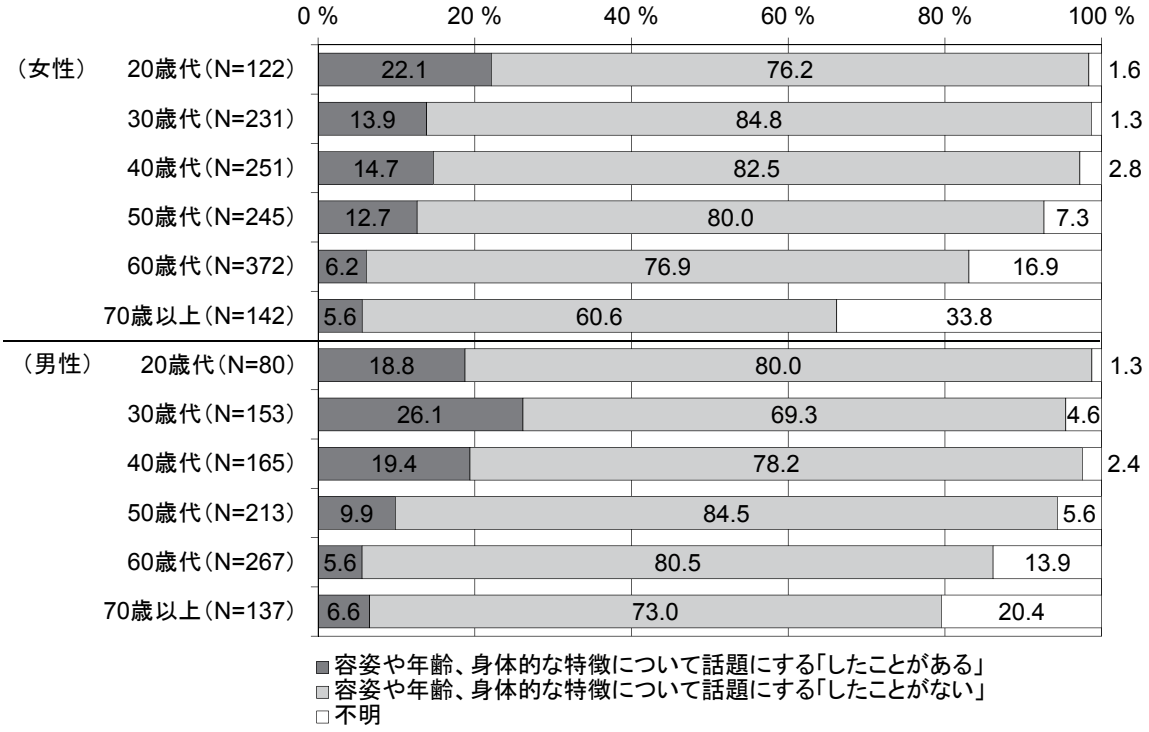
【性別×年代別】

- 「されたことがある」はすべての年代で女性が高く、女性 20 歳代が約 4 割で最も高い
- 「したことがある」は男性 30 歳代が約 3 割で最も高い
- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも若い年代ほど値が高い傾向

「されたことがある」は女性 20 歳代（38.5%）が約 4 割で最も高く、男性 20 歳代（17.5%）を除いて男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男性30歳代（26.1%）が約3割で最も高く、男性20歳代（18.8%）を除いて男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。





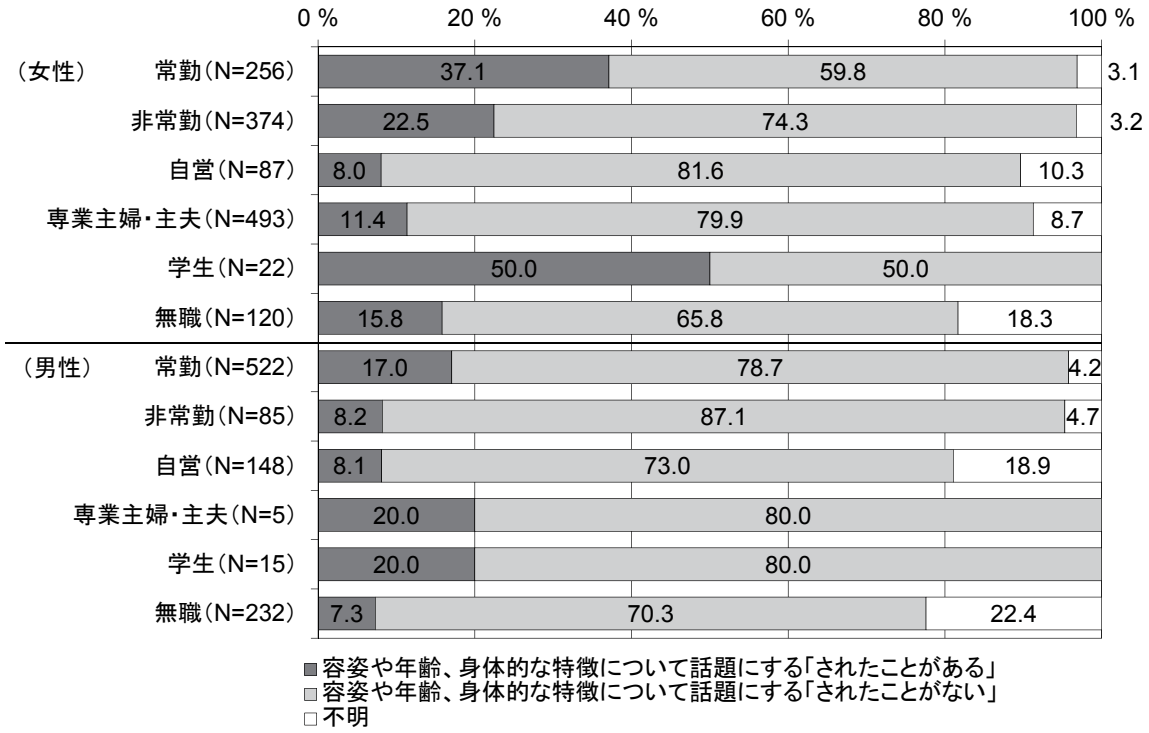
【性別×職業別】

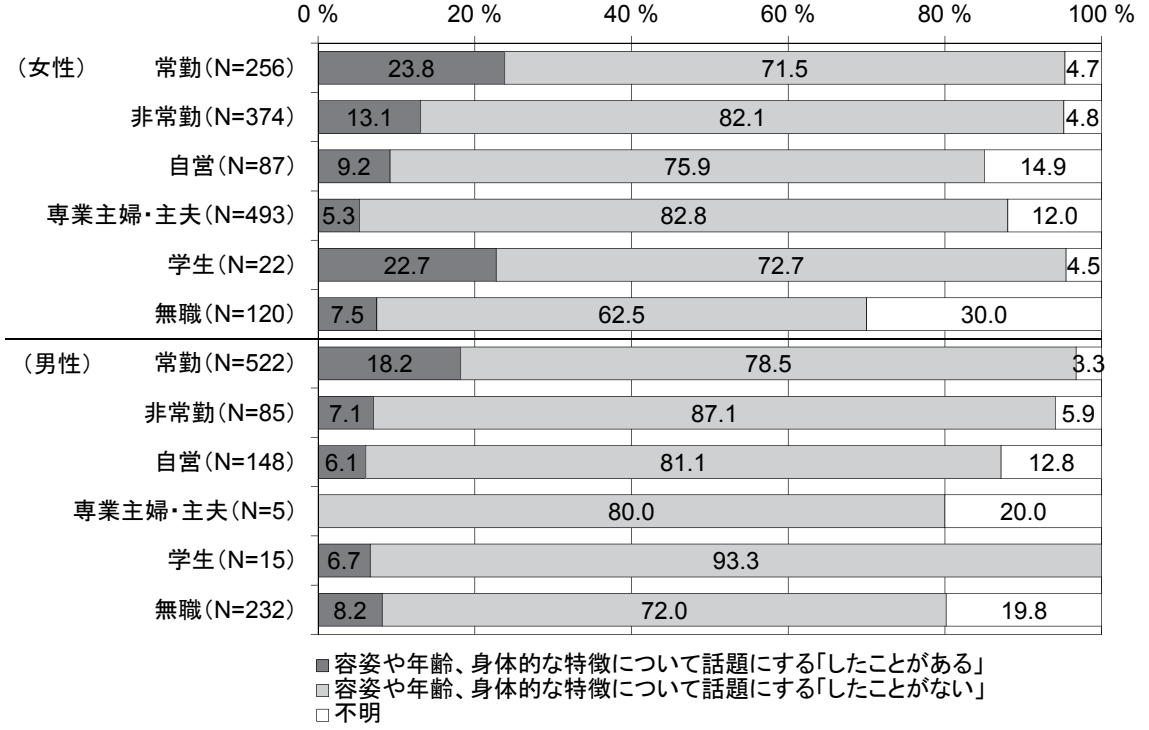
● 「されたことがある」は女性学生が５割で最も高く、女性常勤も約４割

● 「したことがある」は女性常勤・学生、男性常勤が約２割

「されたことがある」は女性学生（50.0%）が５割で特に高く、女性常勤（37.1%）も高くなっています。

一方、「したことがある」は女性常勤（23.8%）や女性学生（22.7%）、男性常勤（18.2%）が約２割で比較的高くなっています。



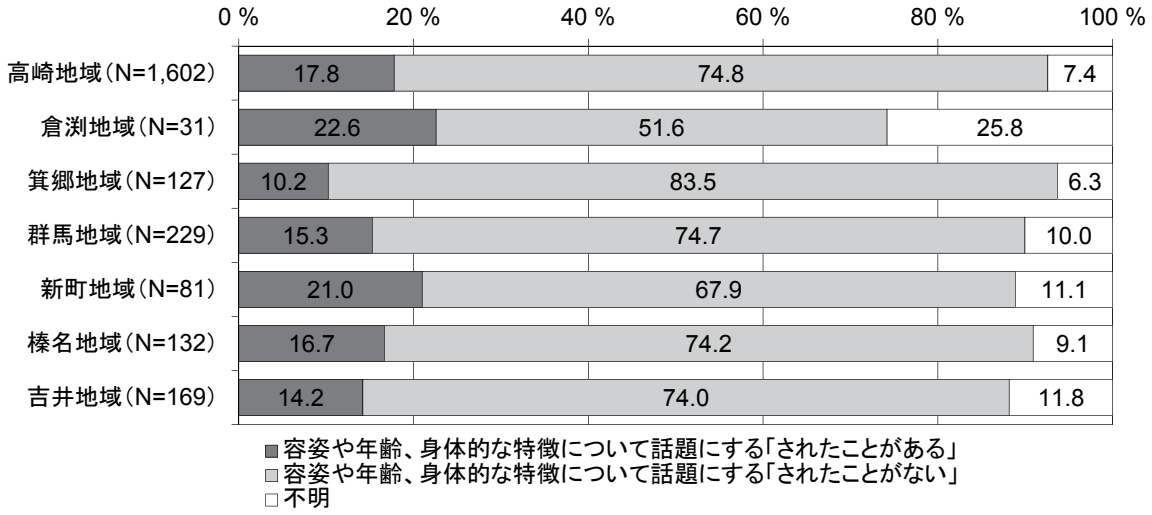


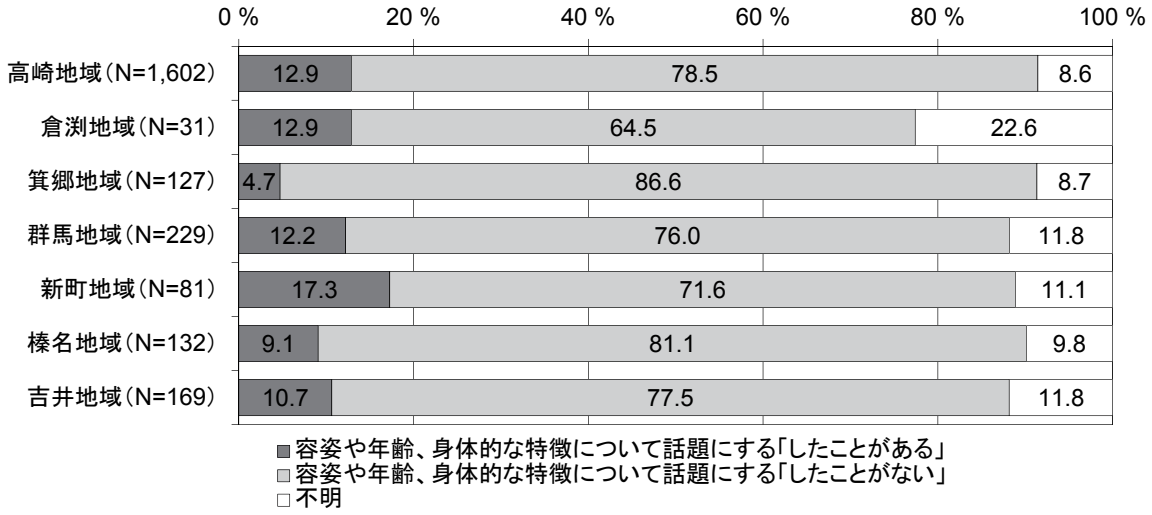
【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに新町地域が比較的高く、箕郷地域が比較的低い

「されたことがある」は倉渕地域（22.6%）や新町地域（21.0%）が 2 割以上で比較的高くなっています。また、箕郷地域（10.2%）が比較的低くなっています。

一方、「したことがある」は新町地域（17.3%）が比較的高くなっています。また、箕郷地域（4.7%）が比較的低くなっています。



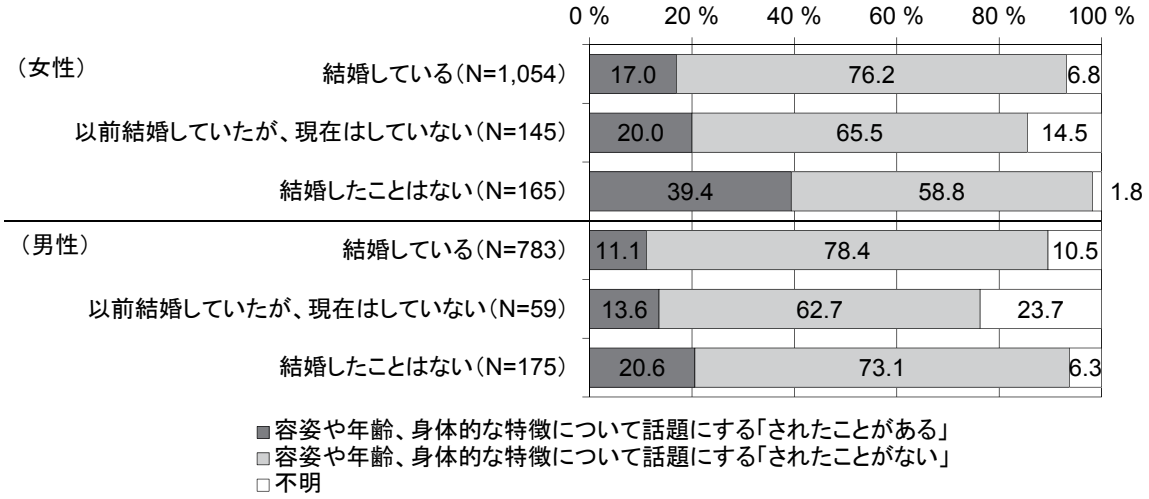


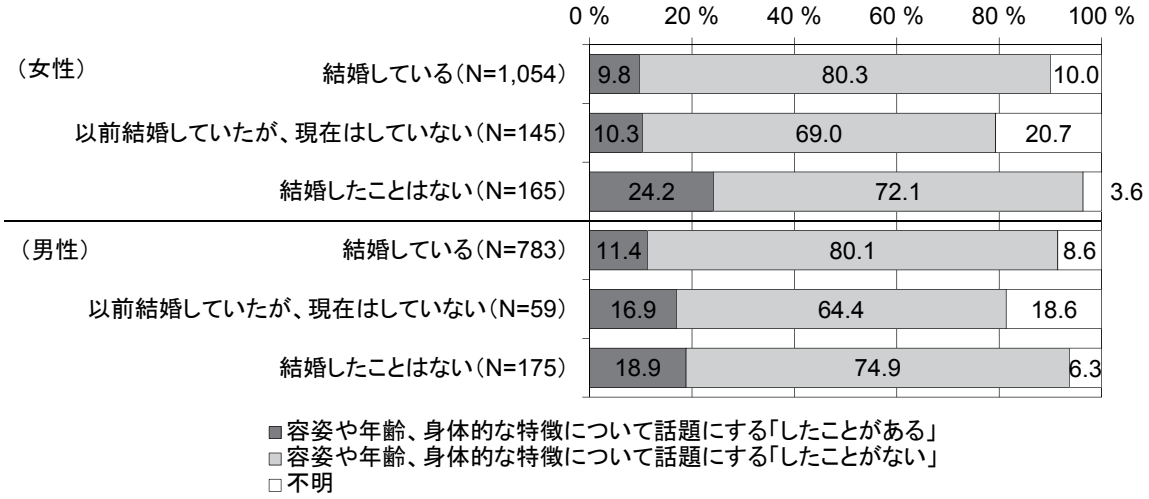
【性別×結婚経験別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに女性「結婚したことがない」が比較的高い

「されたことがある」は女性「結婚したことはない」（39.4%）が約 4 割で特に高くなっています。

また、「したことがある」も女性「結婚したことはない」（24.2%）が 2 割以上で比較的高くなっています。





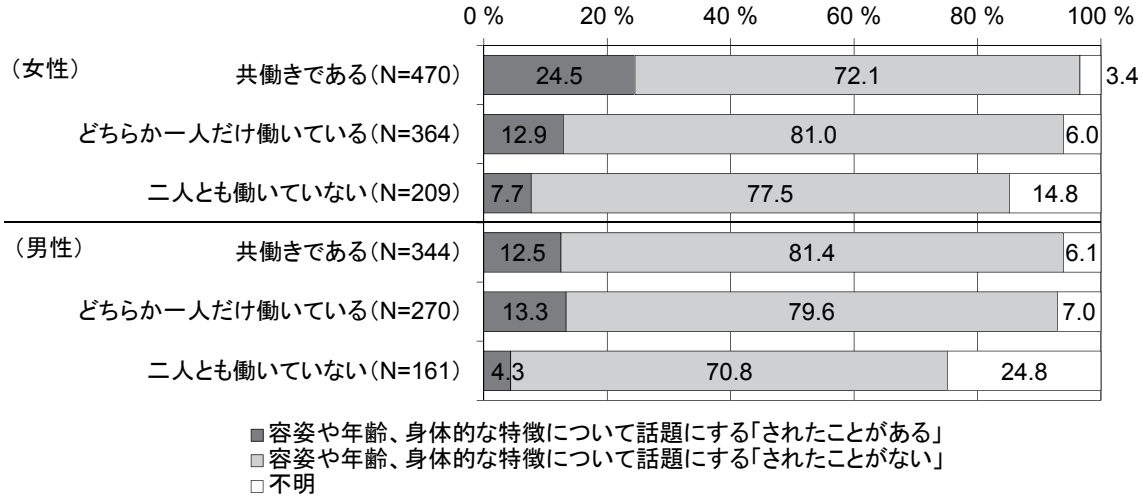
【性別×働き方別】

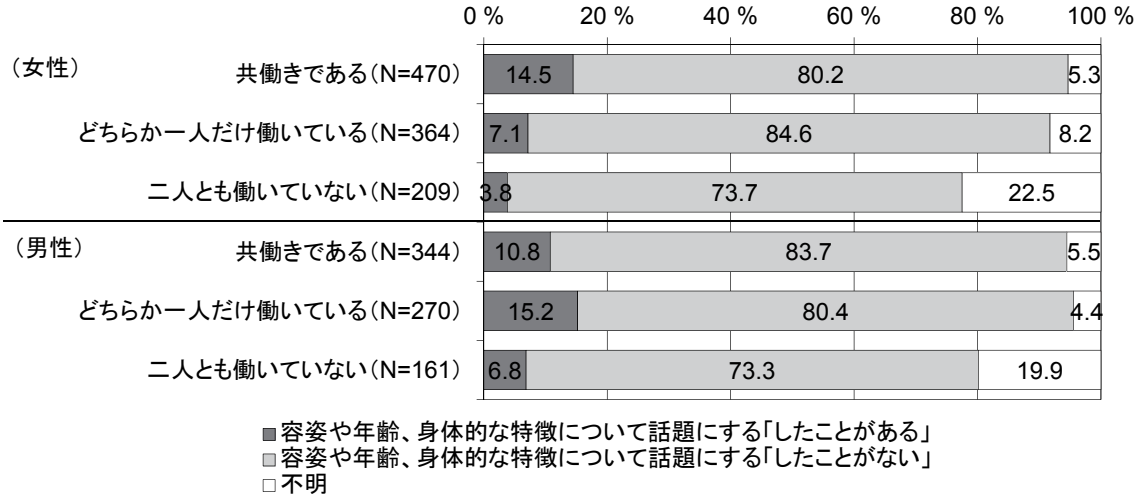
● 「されたことがある」は女性「共働き」が特に高い

● 「したことがある」は女性「共働き」や男性「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

「されたことがある」は女性「共働きである」（24.5%）が 2 割以上で特に高くなっています。

一方、「したことがある」は女性「共働きである」（14.5%）や男性「どちらか一人だけ働いている」（15.2%）が比較的高くなっています。



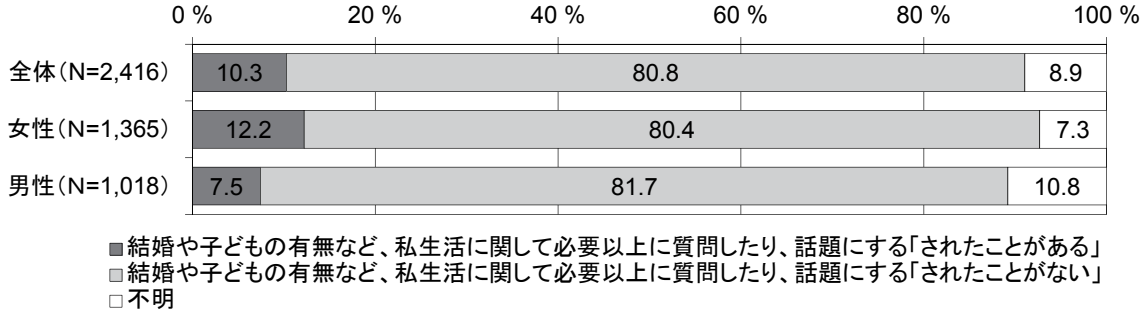


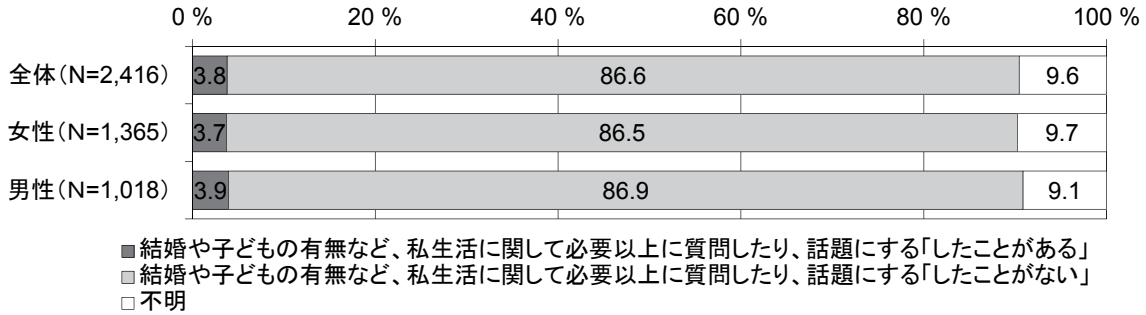
②結婚や子どもの有無など、私生活に関して必要以上に質問したり、話題にする

【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性が１割以上で比較的高い
- 「したことがある」は男女とも１割未満

「されたことがある」は女性（12.2%）が１割以上で比較的高くなっています。
一方、「したことがある」は男女とも１割未満で、性別による大きな差は見られません。



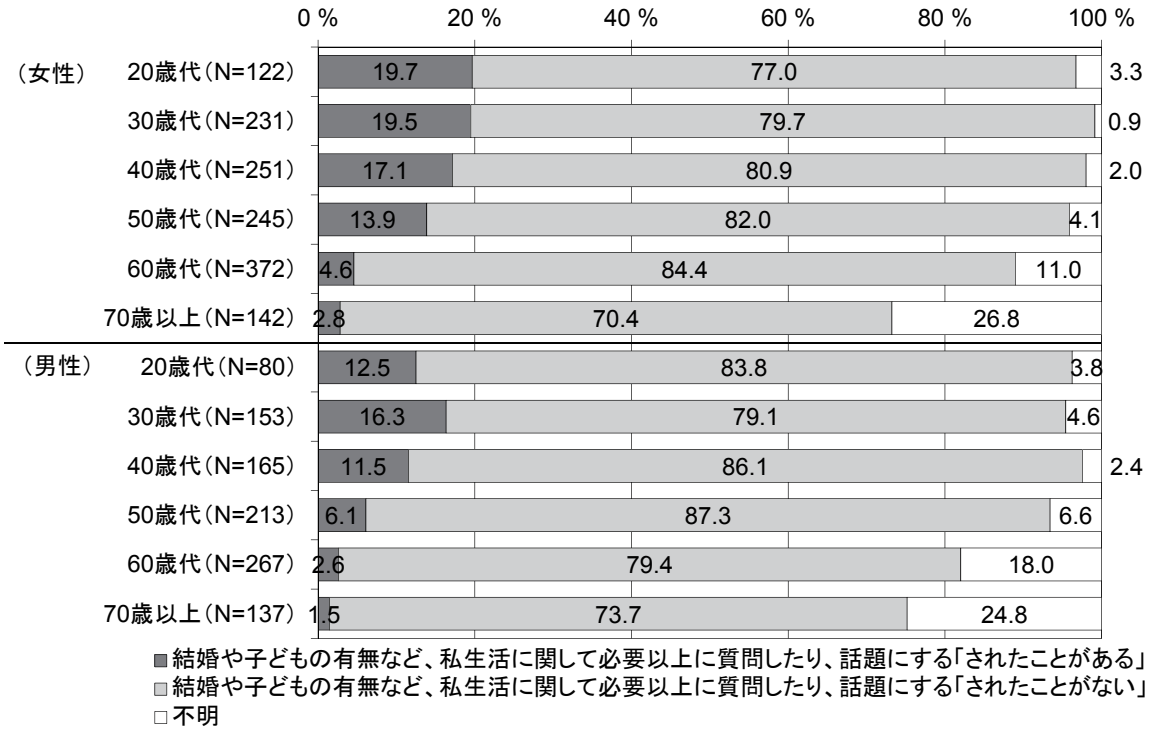


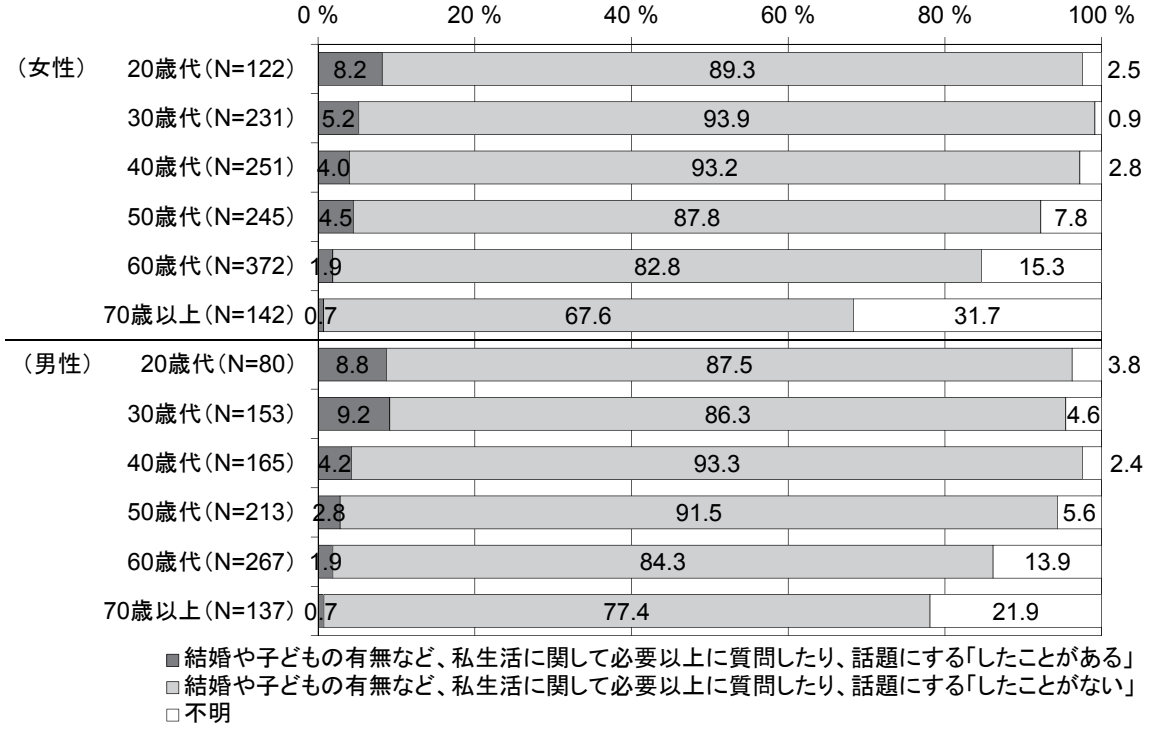
【性別×年代別】

- 「されたことがある」は女性 40 歳代以下が約 2 割で比較的高い
- 「したことがある」は女性 20 歳代・男性 30 歳代以下が約 1 割で比較的高い
- 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも若い年代ほど値が高い傾向

「されたことがある」は女性 20・30・40 歳代（それぞれ 19.7%、19.5%、17.1%）が約 2 割で比較的高く、男性 20 歳代（12.5%）を除いて男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は女性 20 歳代（8.2%）、男性 20・30 歳代（それぞれ 8.8%、9.2%）が約 1 割で比較的高く、男女とも若い年代ほど値が高くなる傾向が見られます。





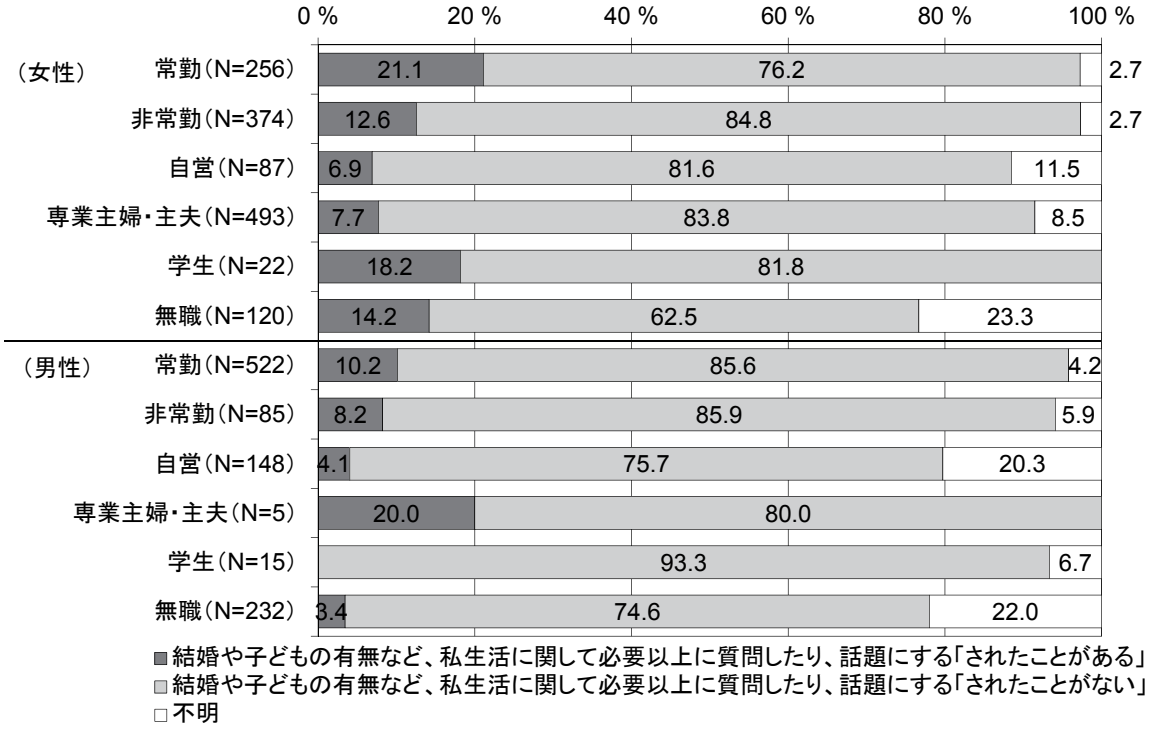
【性別×職業別】

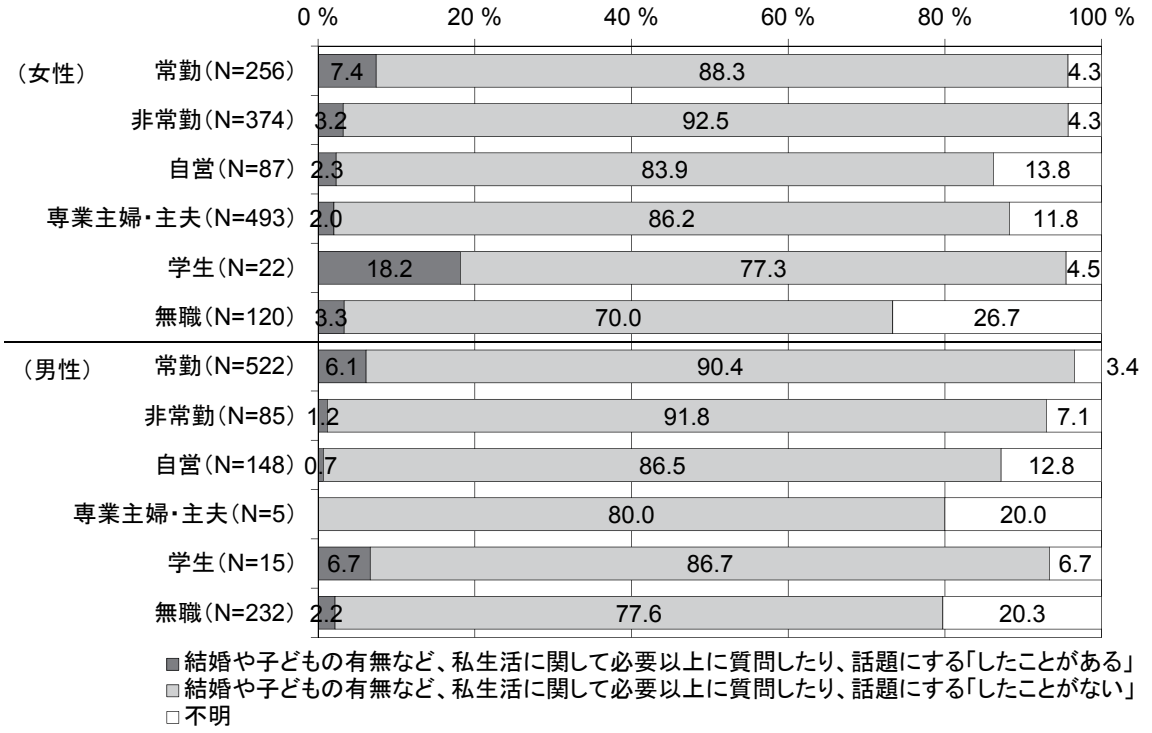
● 「されたことがある」は女性常勤・学生が約２割で比較的高い

● 「したことがある」は女性学生が約２割で特に高い

回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、「されたことがある」は、女性常勤（21.1%）や女性学生（18.2%）が約２割で比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は女性学生（18.2%）が約２割で特に高くなっています。

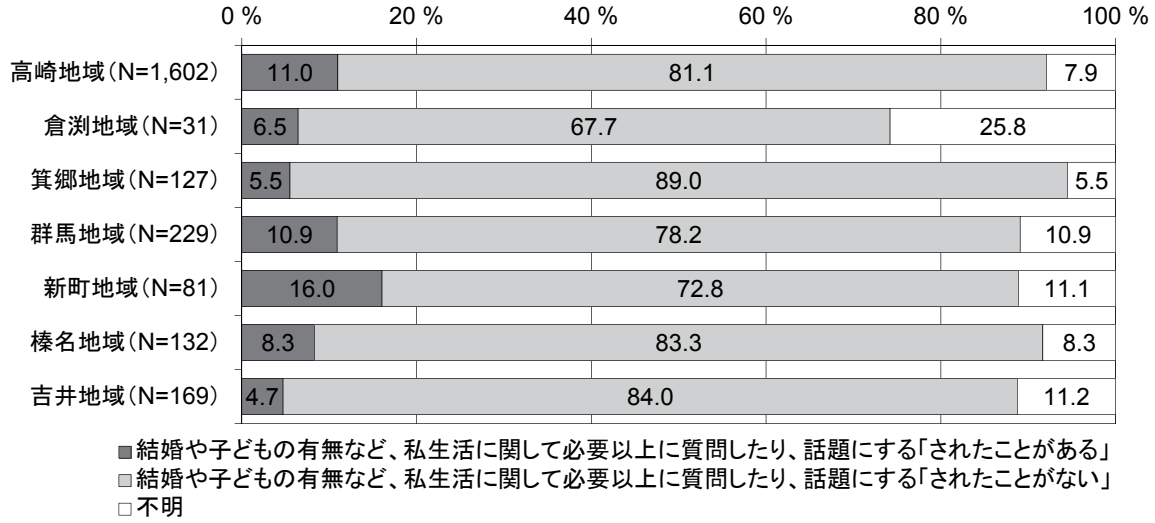


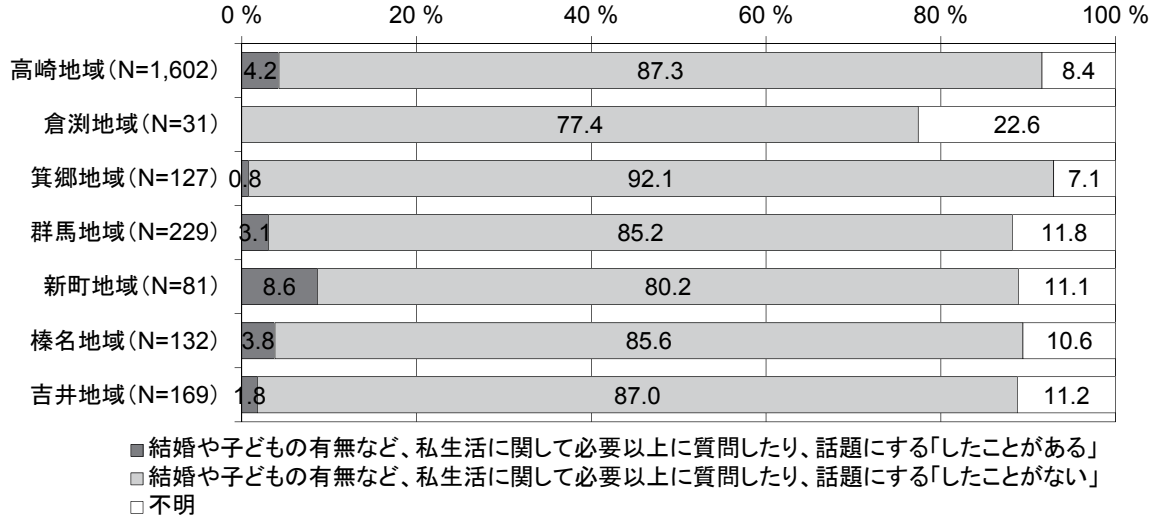


【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに新町地域が比較的高い

「されたことがある」「したことがある」ともに、新町地域（それぞれ 16.0%、8.6%）が比較的高くなっています。





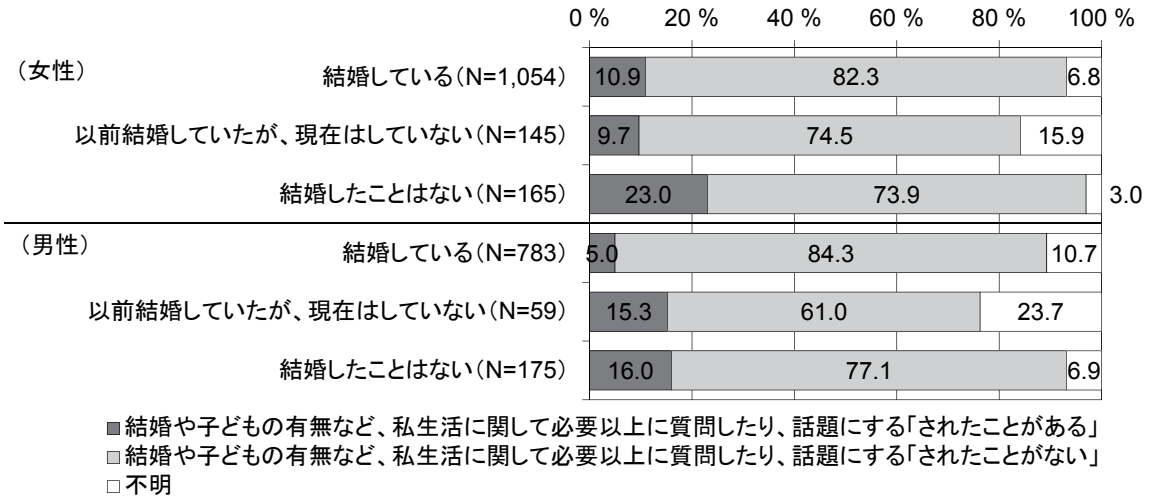
【性別×結婚経験別】

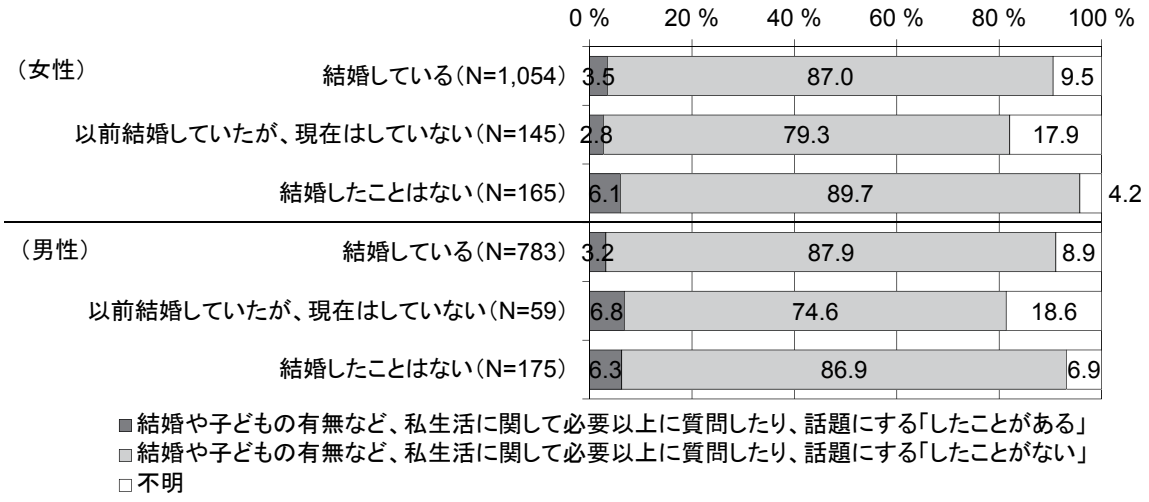
● 「されたことがある」は女性「結婚したことがない」が２割以上で最も高い

● 「したことがある」は男女とも結婚経験による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性「結婚したことはない」（23.0%）が２割以上で最も高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも結婚経験による大きな差は見られません。





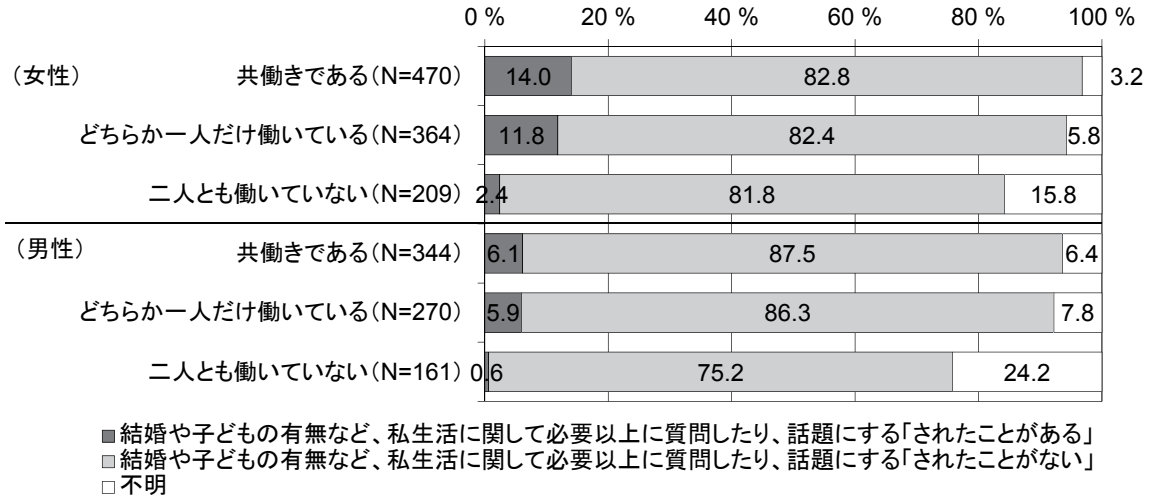
【性別×働き方別】

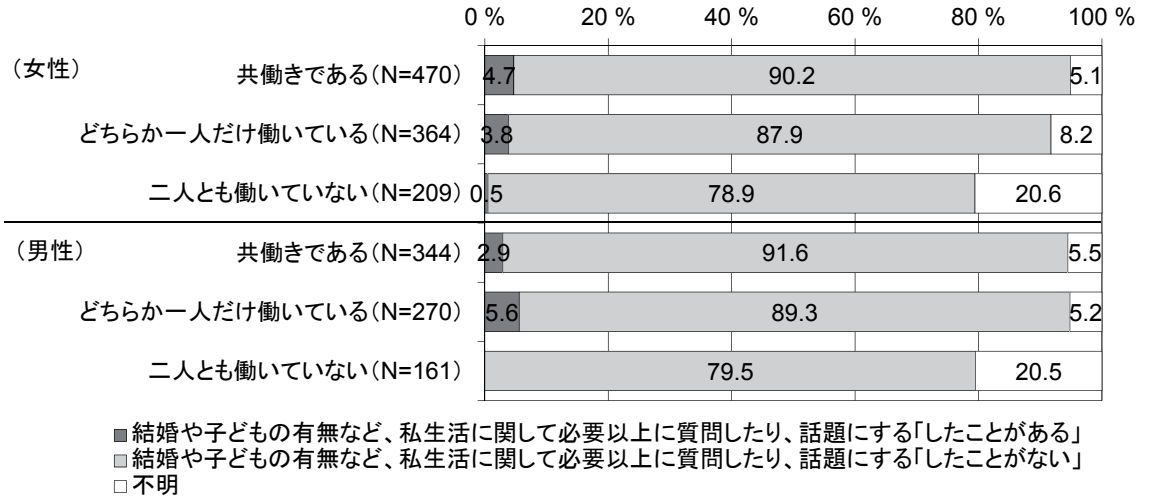
● 「されたことがある」は女性「共働き」「どちらか一人だけ働いている」が比較的高い

● 「したことがある」は男女とも働き方による大きな差は見られない

「されたことがある」は女性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」（それぞれ 14.0%、11.8%）が 1 割以上で比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも働き方による大きな差は見られませんが、「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも「二人とも働いていない」が低くなっています。



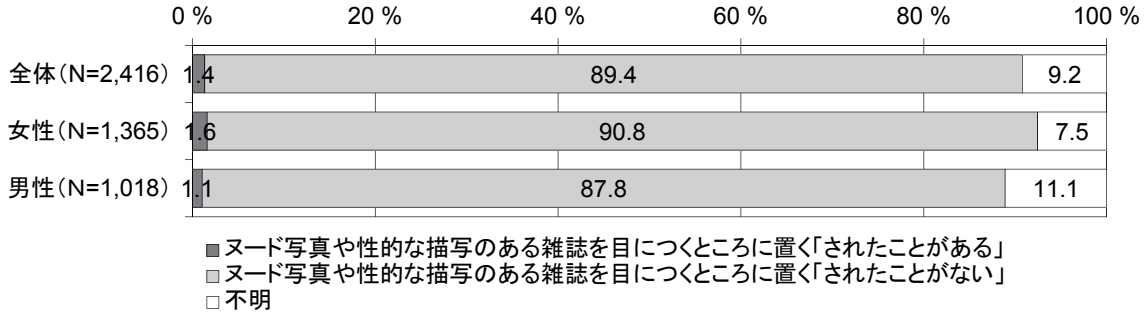


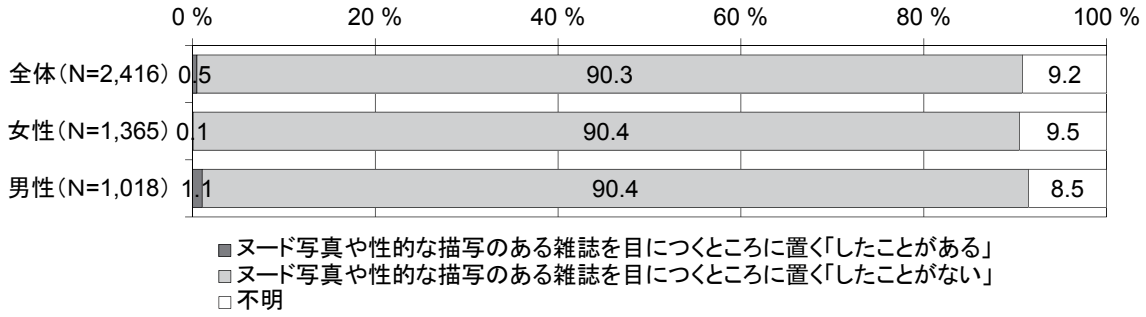
③ヌード写真や性的な描写のある雑誌等を目につくところに置く

【全体・性別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られません。

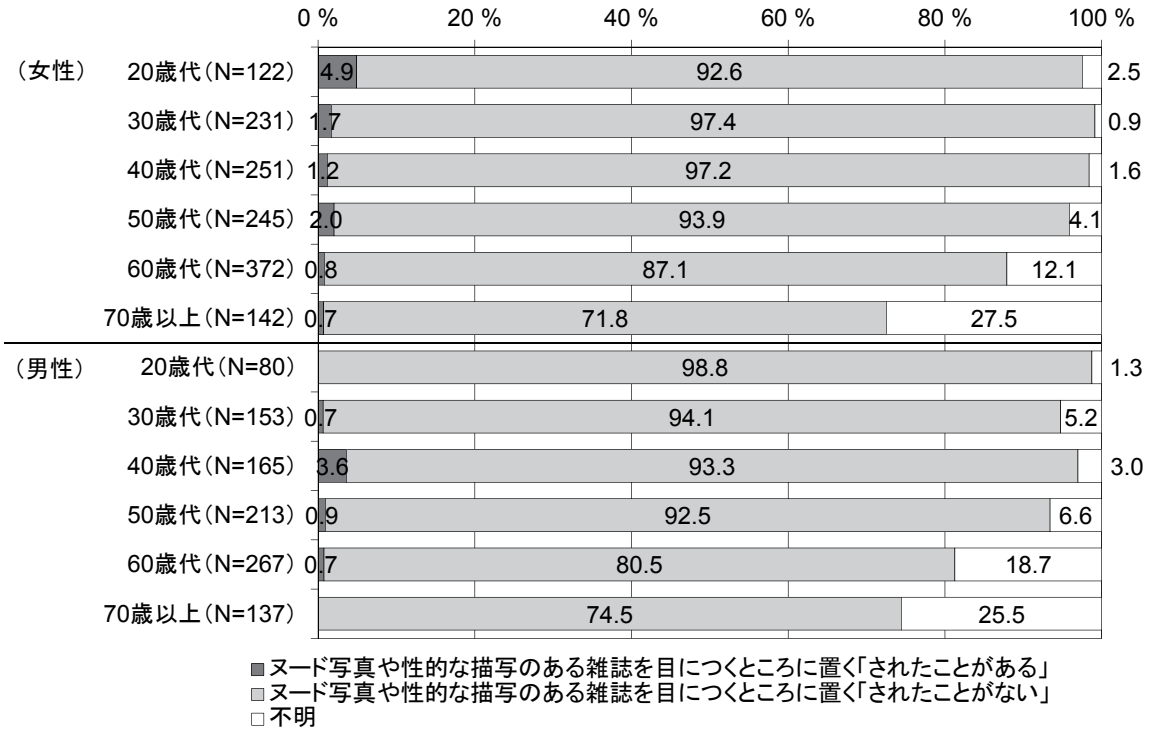


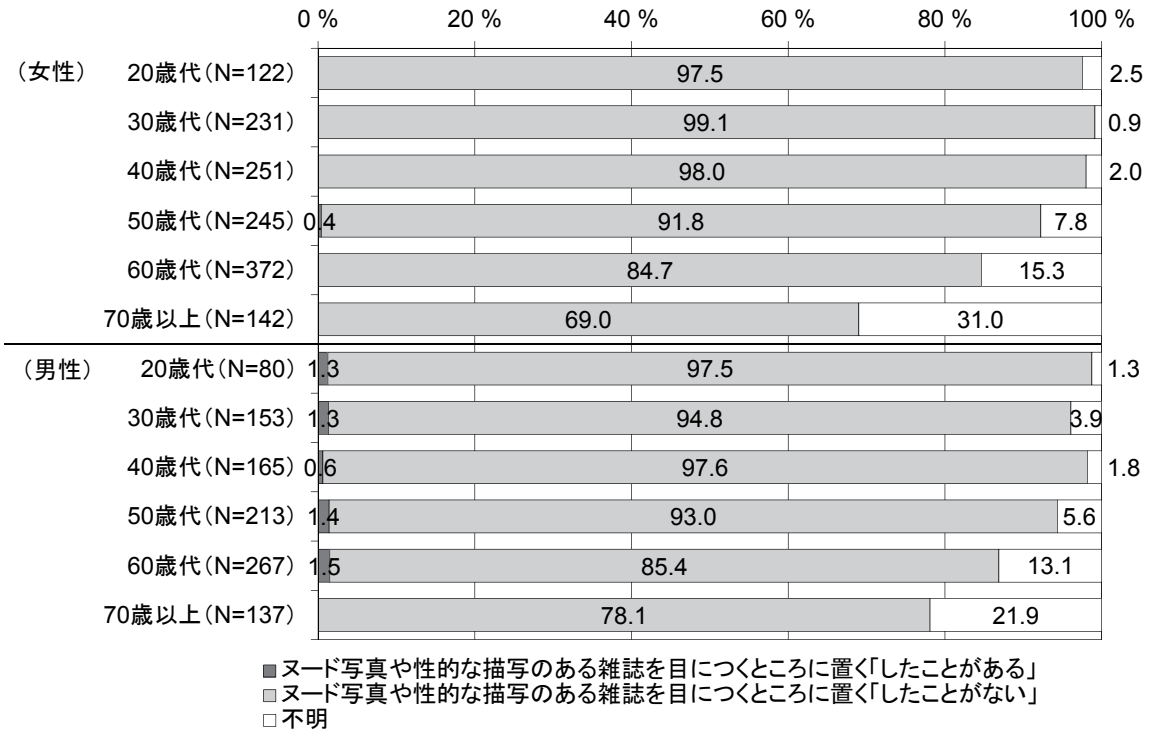


【性別×年代別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」は女性 20 歳代（4.9%）や男性 40 歳代（3.6%）が若干高くなっていますが、「されたこと」「したことがある」はともに、男女ともすべての年代でほとんど見られません。





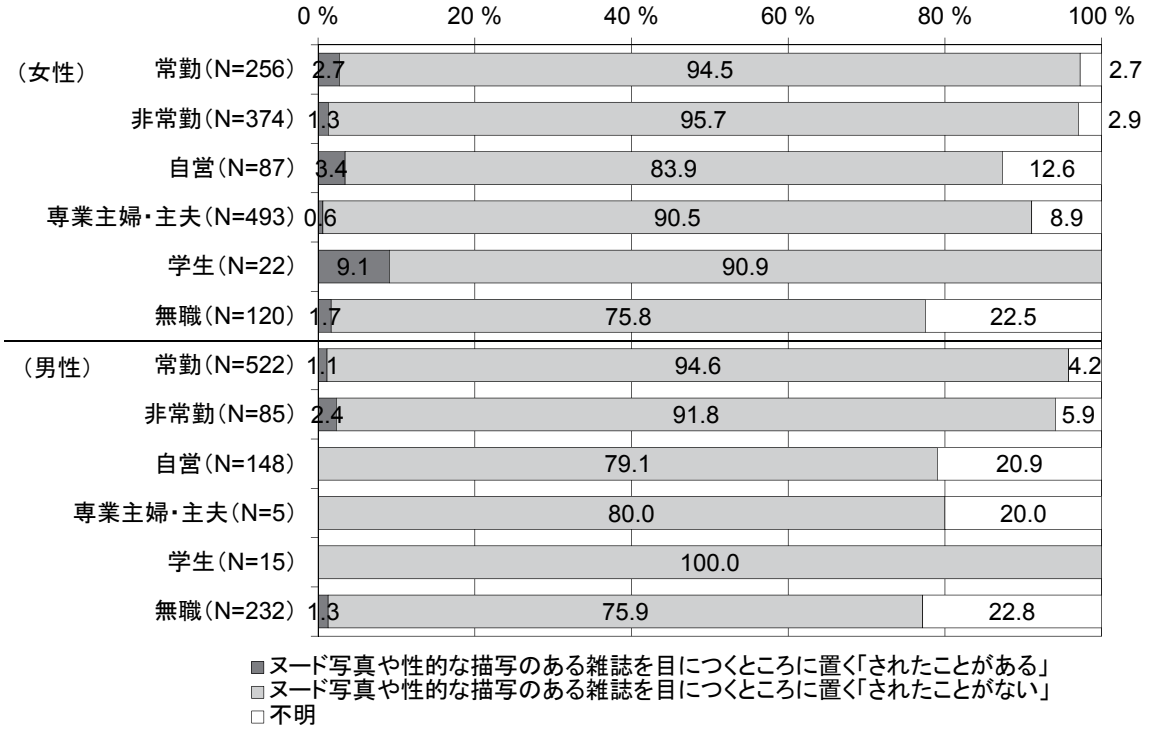
【性別×職業別】

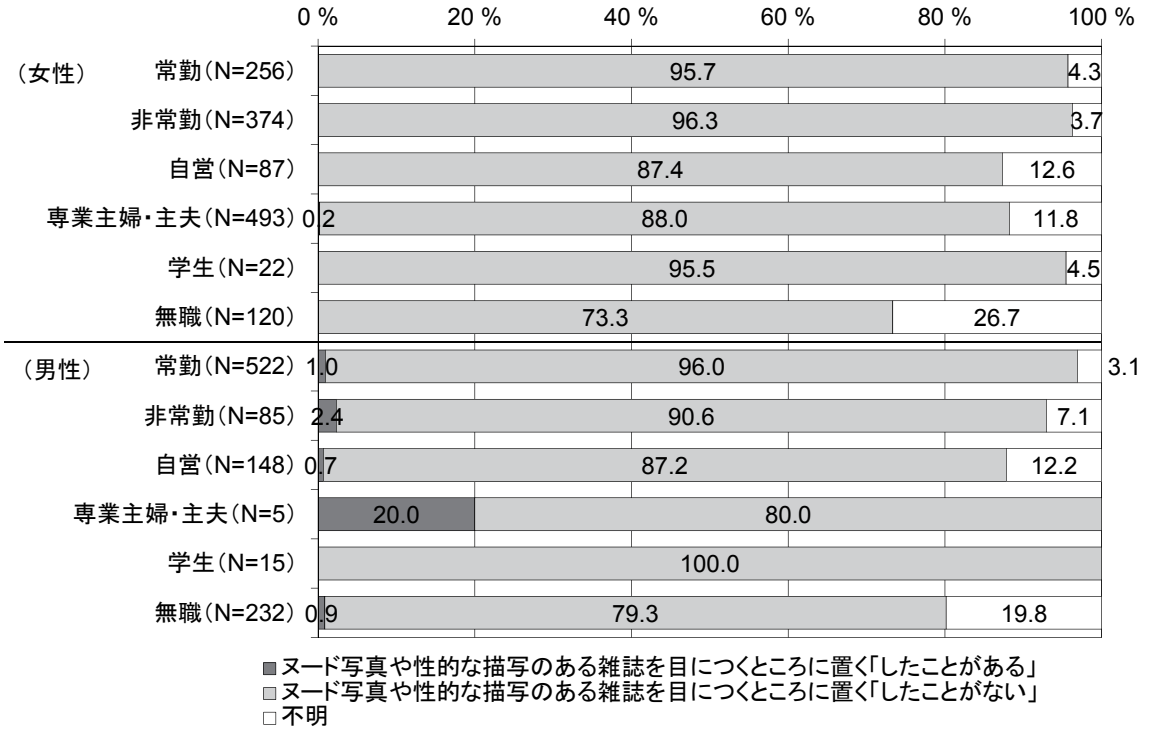
● 「されたことがある」は女性学生が約１割で比較的高い

● 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は女性学生（9.1%）が約１割で比較的高くなっています。

一方、「したことがある」は、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、男女ともすべての職業でほとんど見られません。

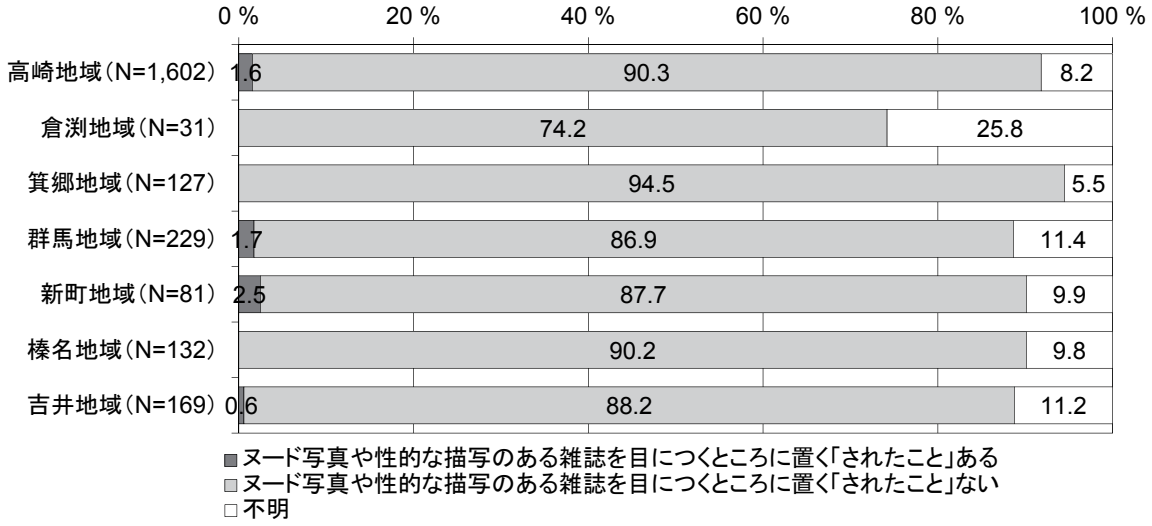


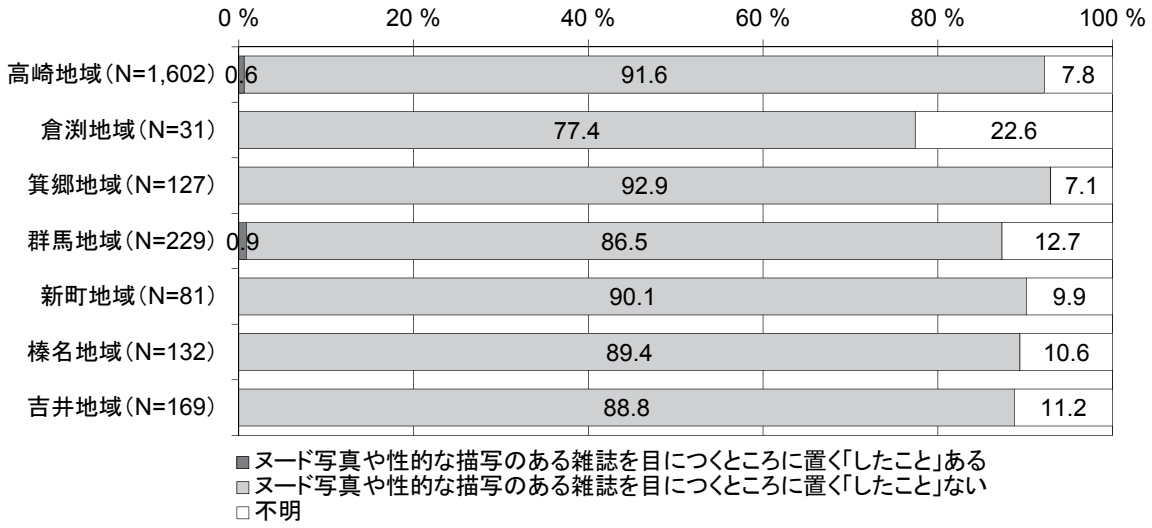


【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られません。

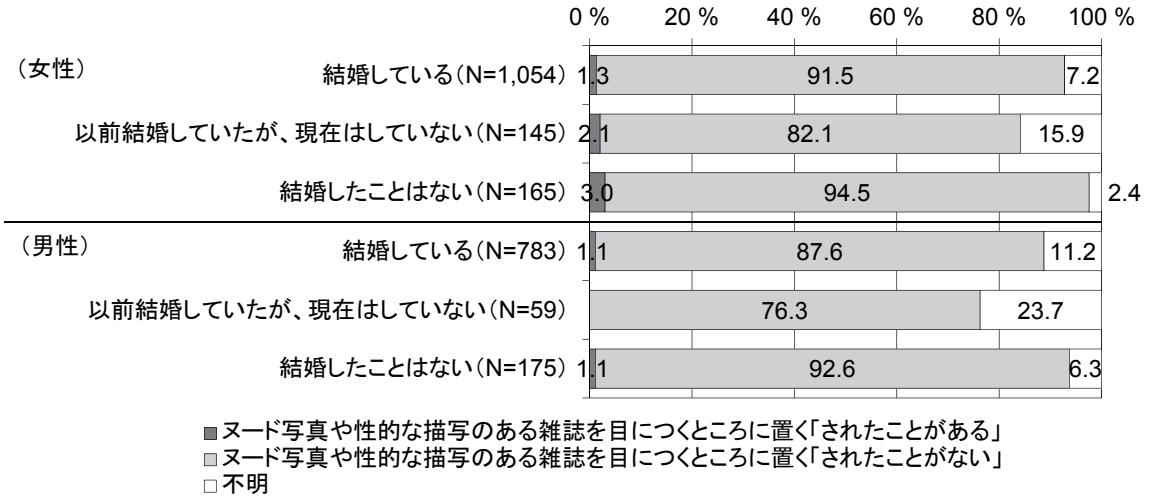


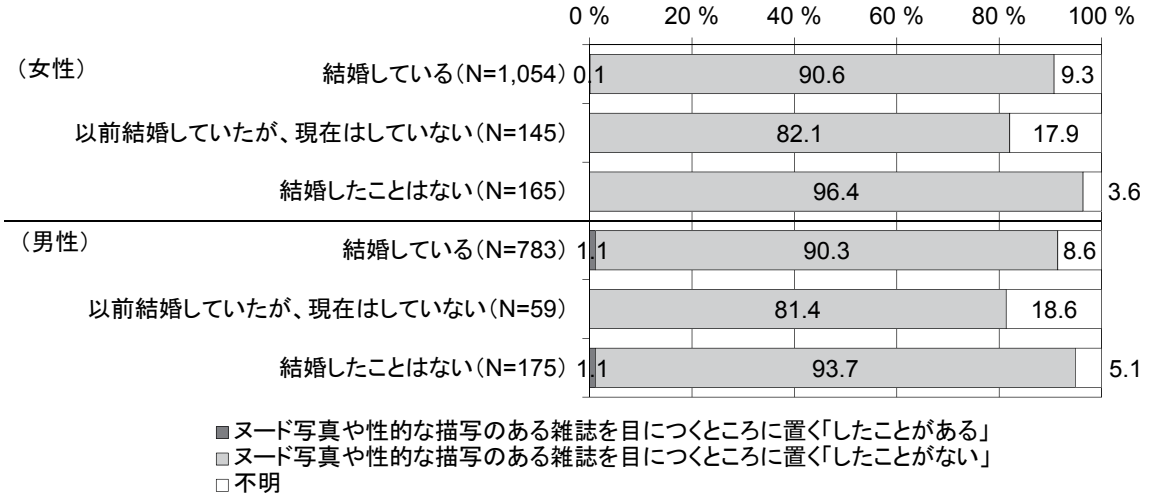


【性別×結婚経験別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。

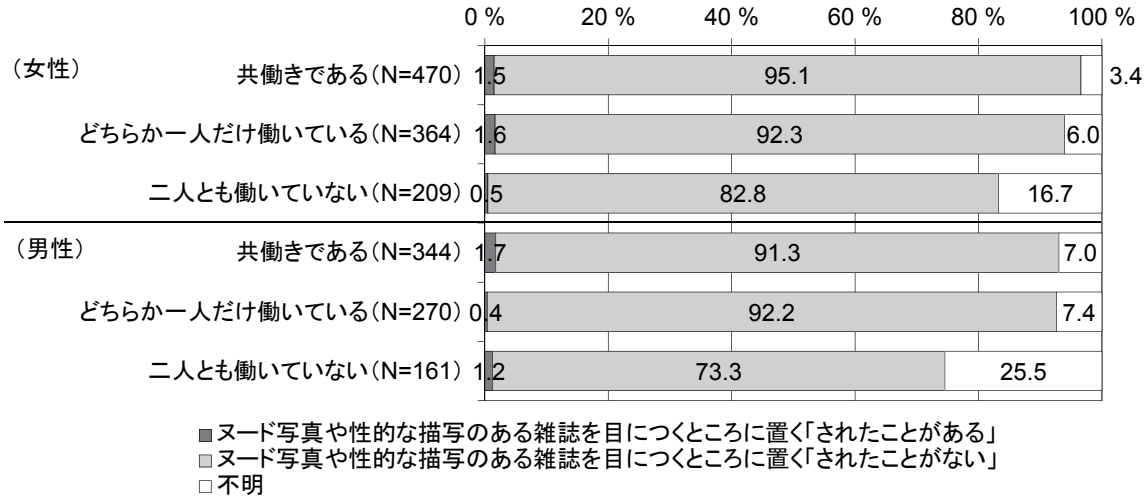


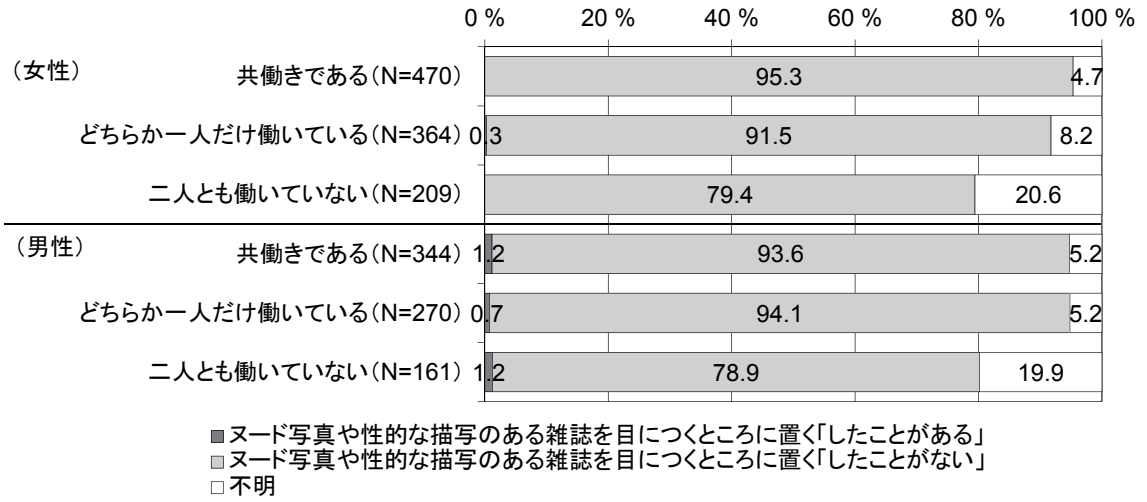


【性別×働き方別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。



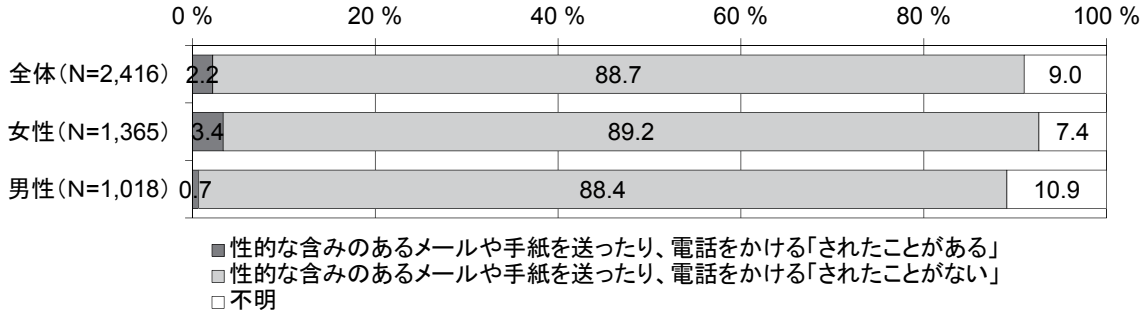


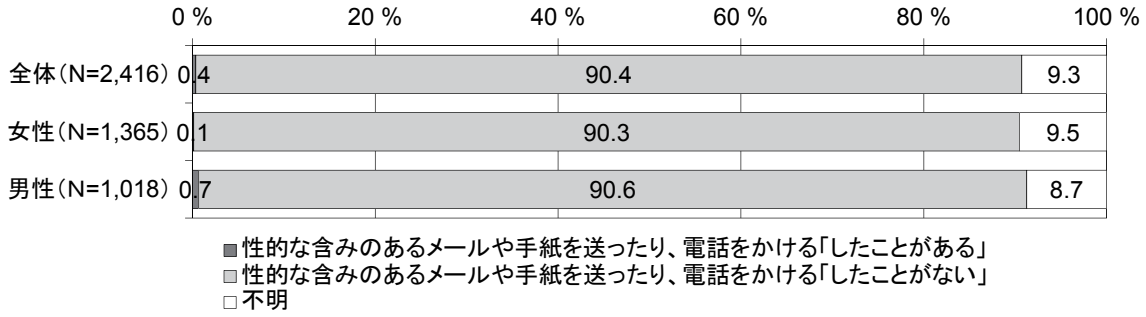
④性的な含みのあるメールや手紙を送ったり、電話をかける

【全体・性別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られません。



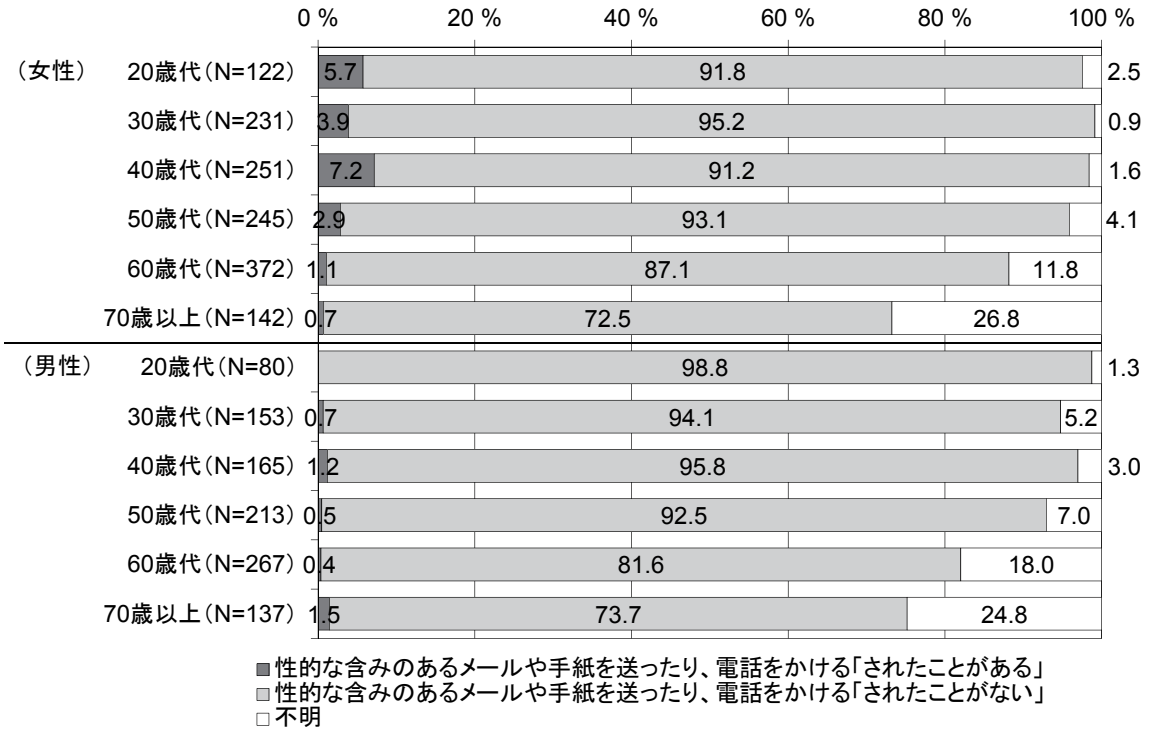


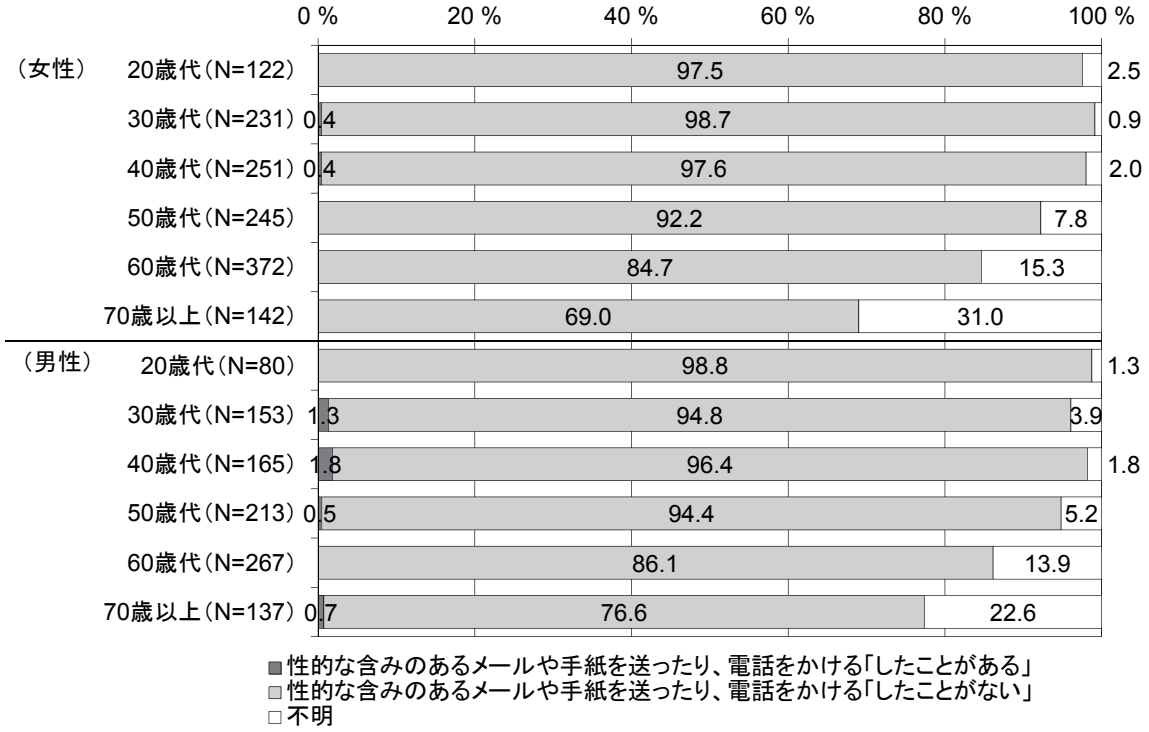
【性別×年代別】

● 「されたことがある」は女性 40 歳代以下で若干高い

● 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」は男女ともほとんど見られませんが、その中で、「されたことがある」は女性 40 歳代以下で若干高くなっています。「したことがある」は男女ともほとんど見られません



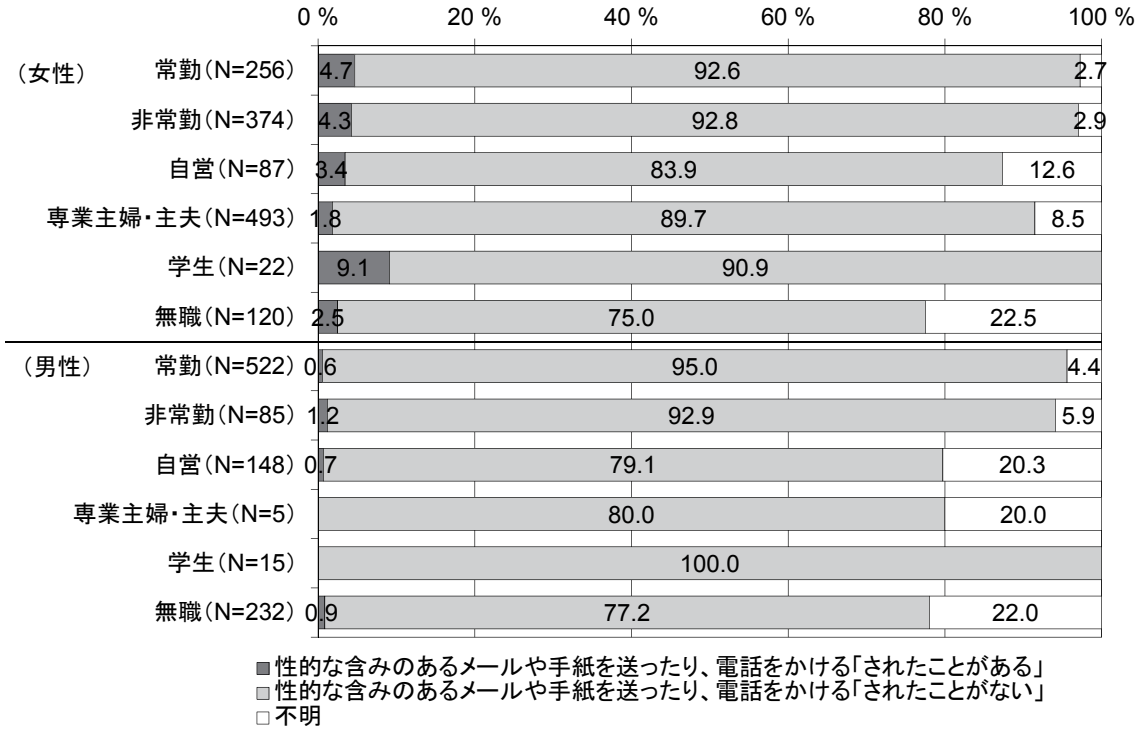


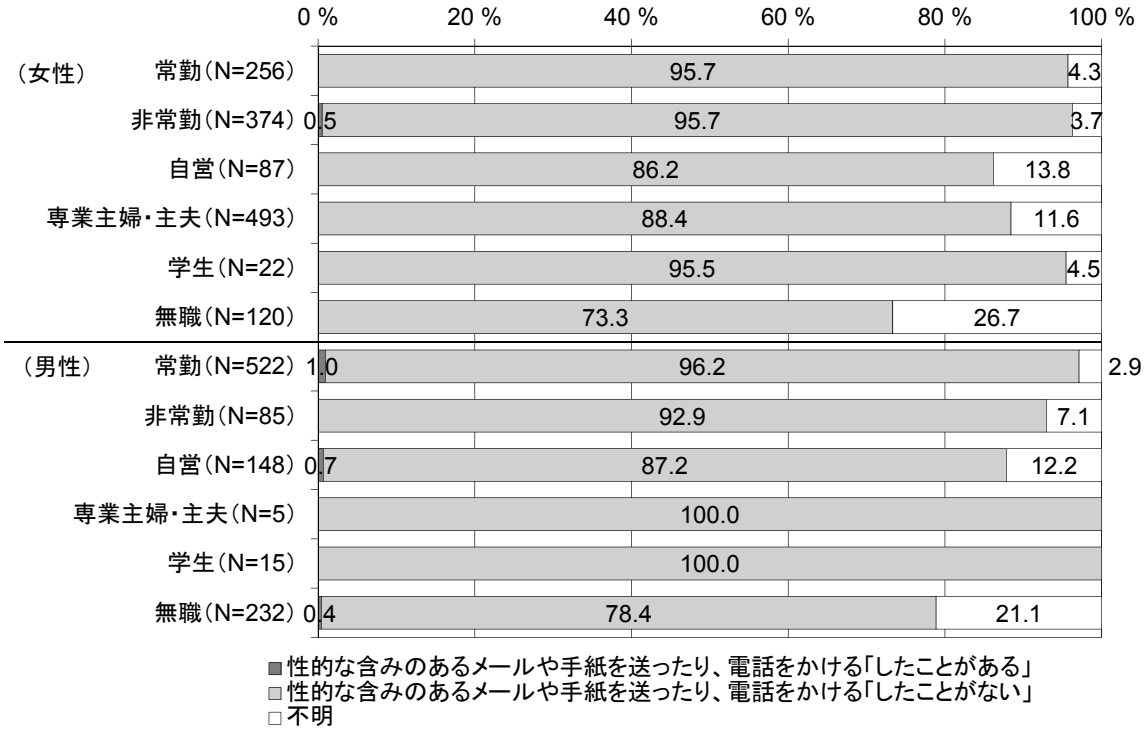
【性別×職業別】

● 「されたことがある」は女性学生が約１割で比較的高い

● 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は女性学生（9.1%）が約１割で比較的高くなっています。
一方、「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られません。

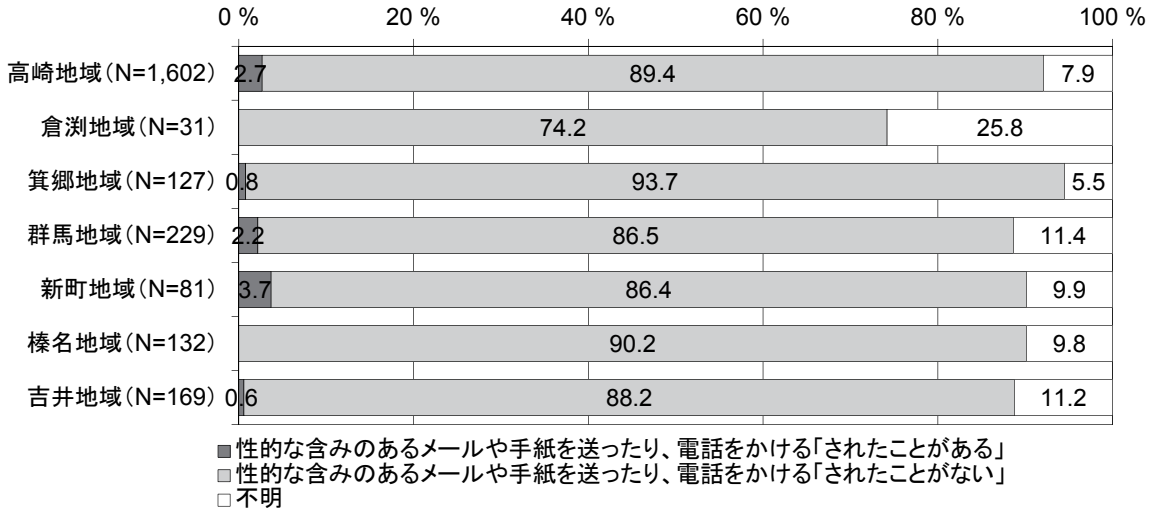


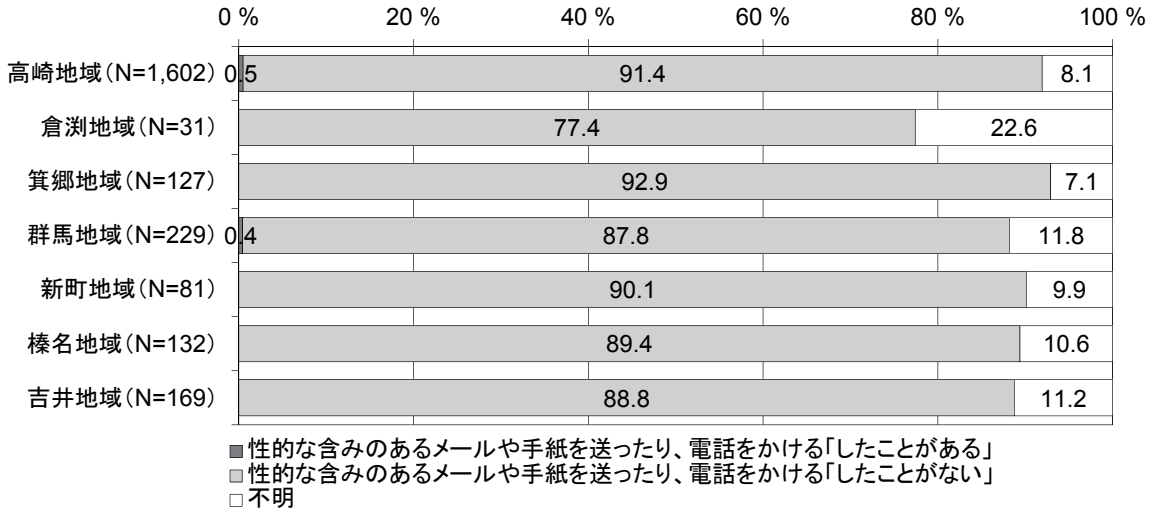


【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られません。

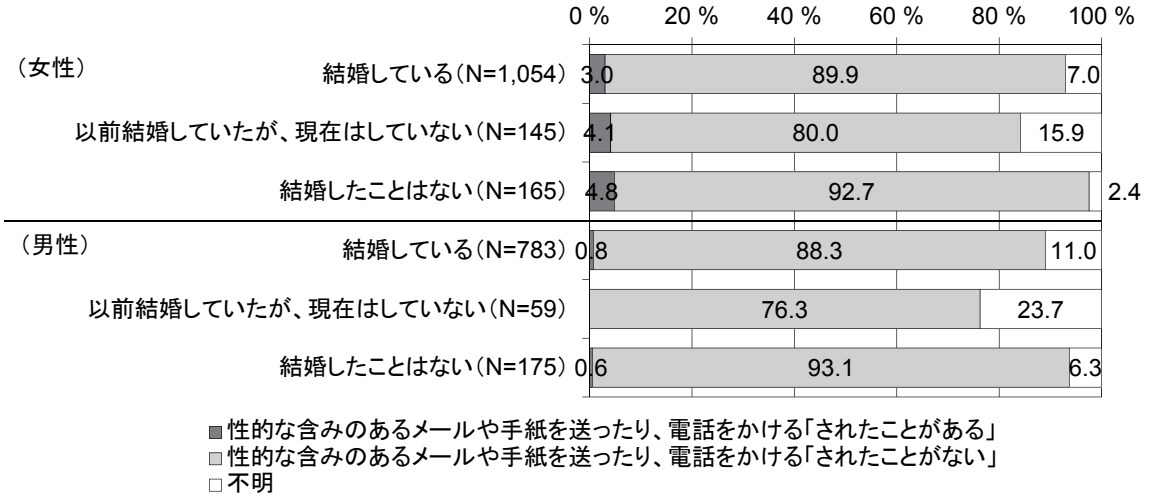


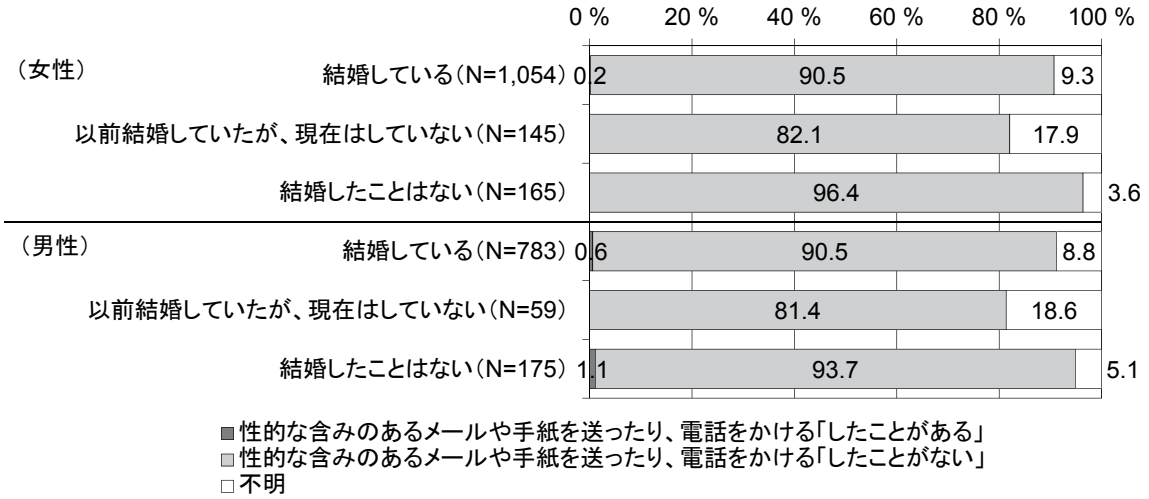


【性別×結婚経験別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られませんが、「されたことがある」は結婚経験にかかわらず女性が若干高くなっています。

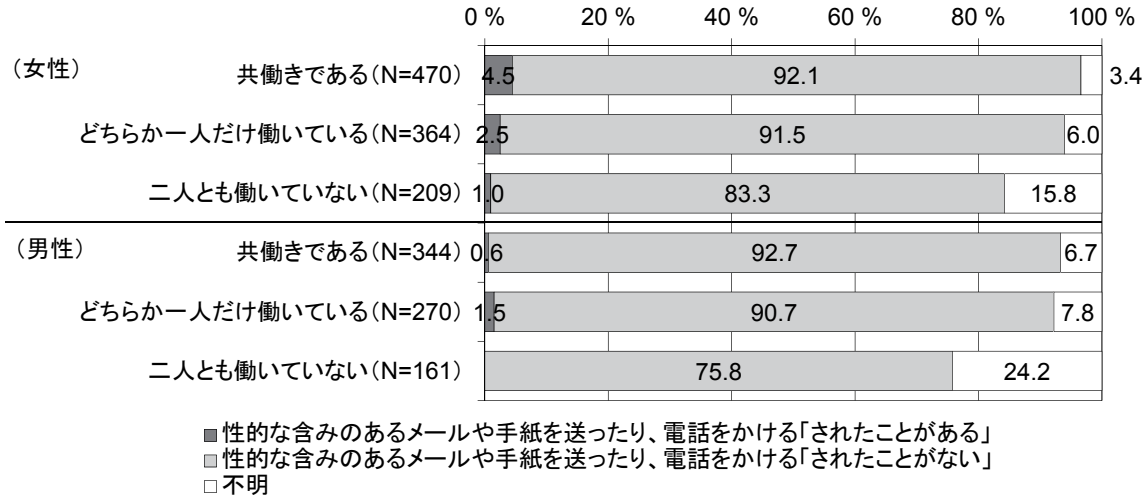


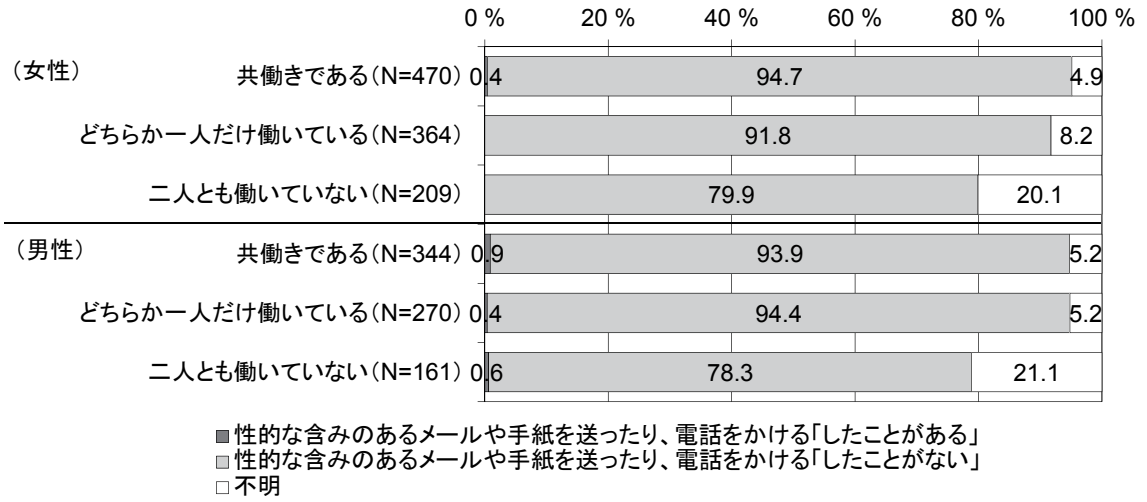


【性別×働き方別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。



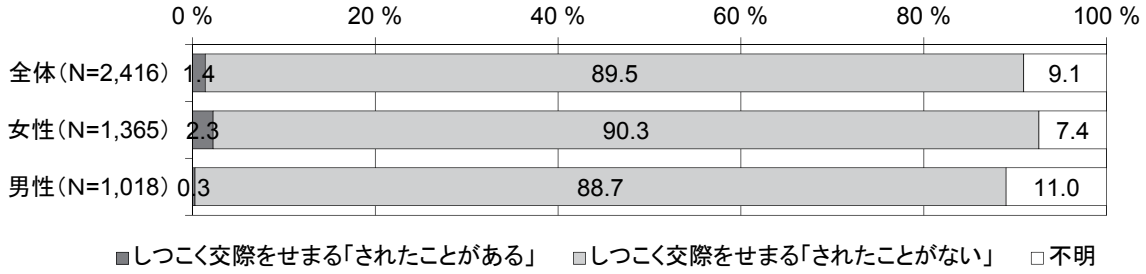


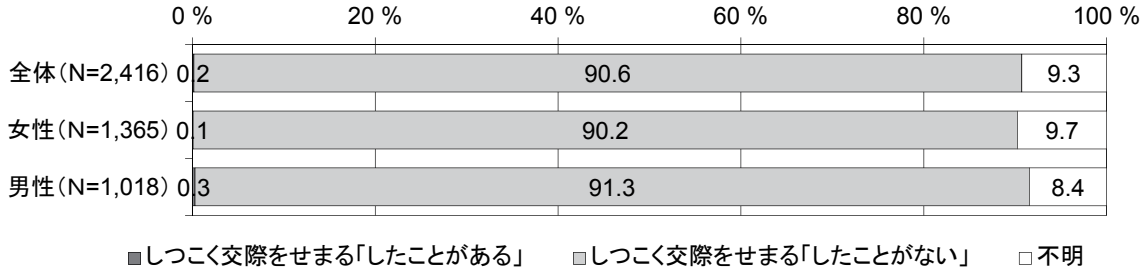
⑤しつこく交際をせまる

【全体・性別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られません。



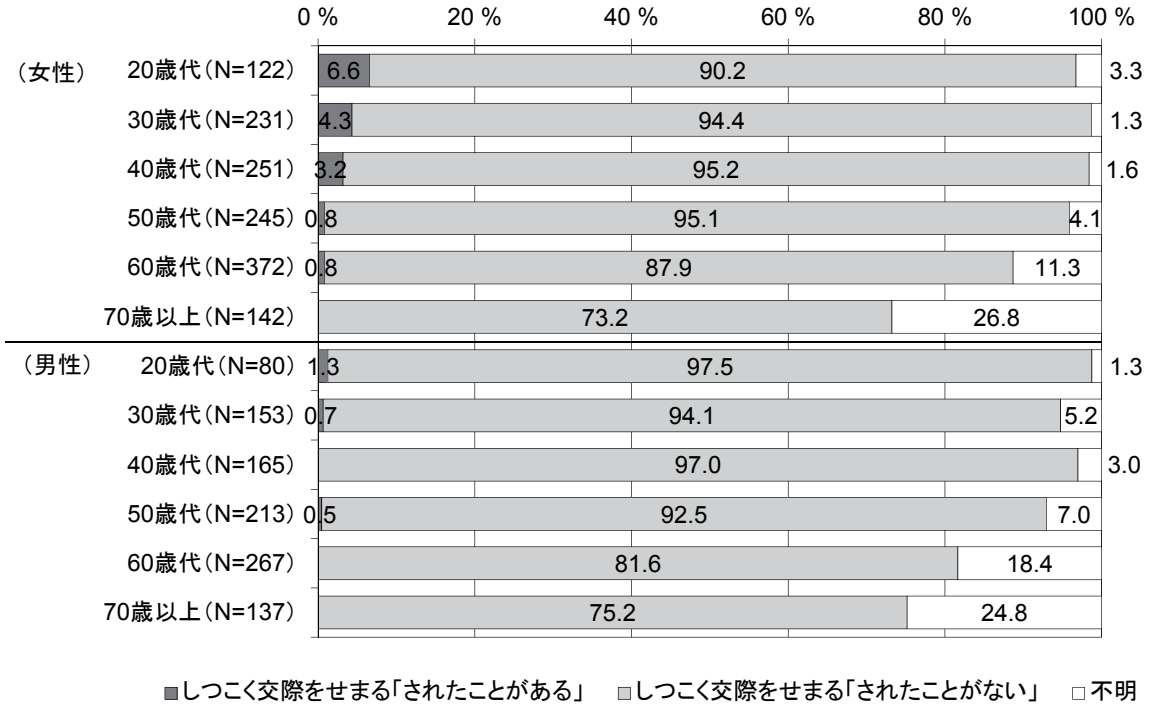


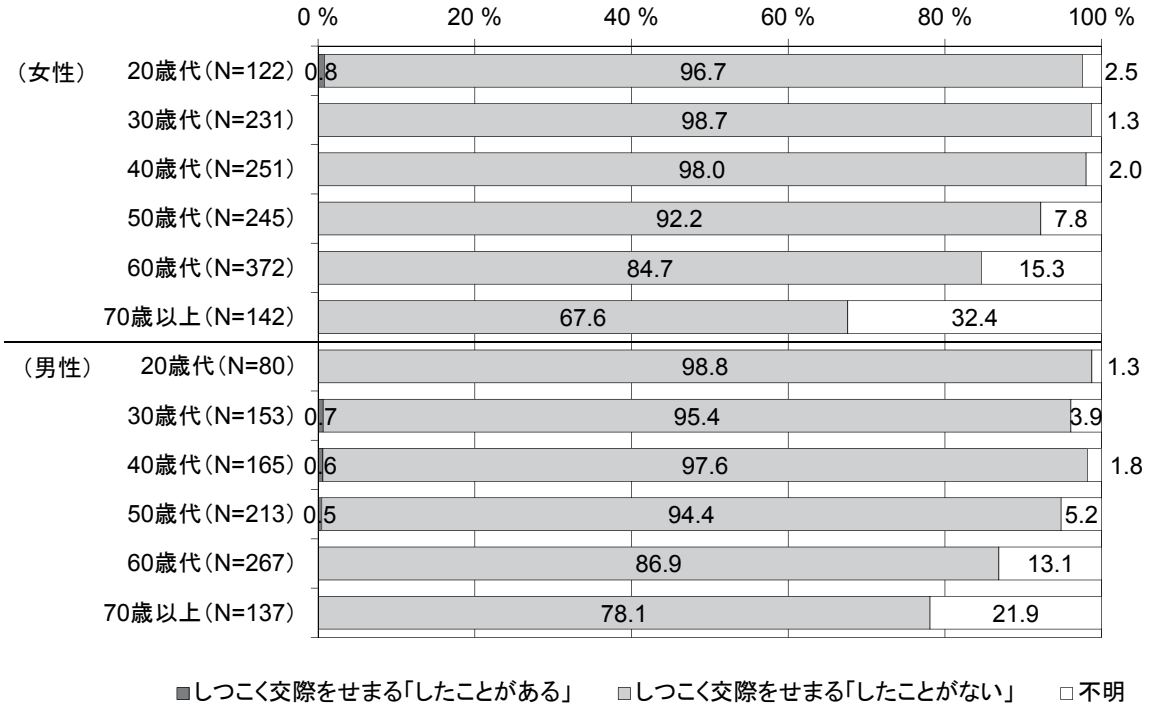
【性別×年代別】

● 「されたことがある」は女性 20 歳代が若干高い

● 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」は女性 20 歳代（6.6%）が若干高くなっています。
一方、「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られません。



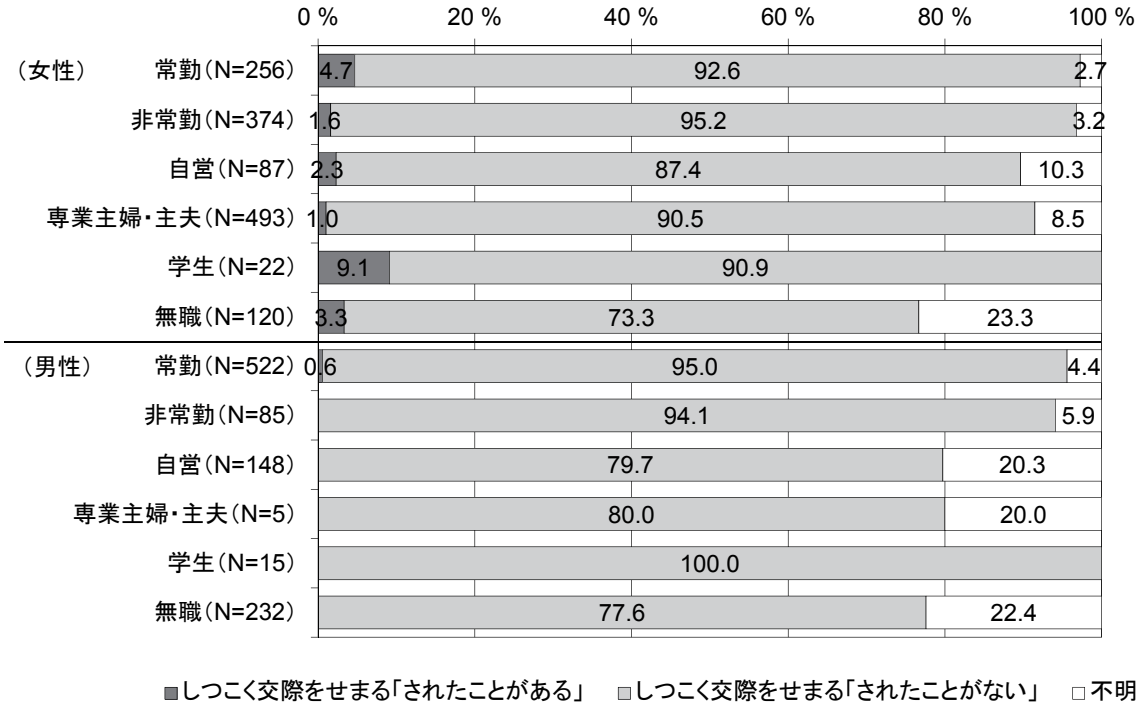


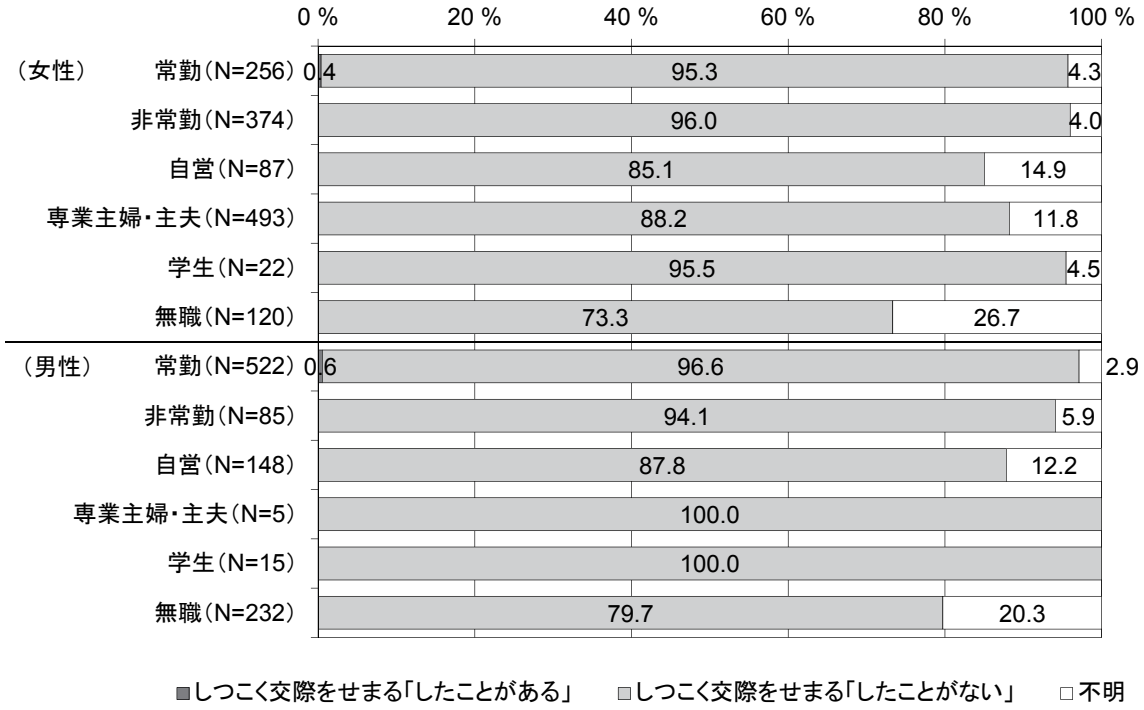
【性別×職業別】

● 「されたことがある」は女性学生が約１割で比較的高い

● 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は女性学生（9.1%）が約１割で比較的高くなっています。
一方、「したことがある」は、男女ともすべての職業でほとんど見られません。

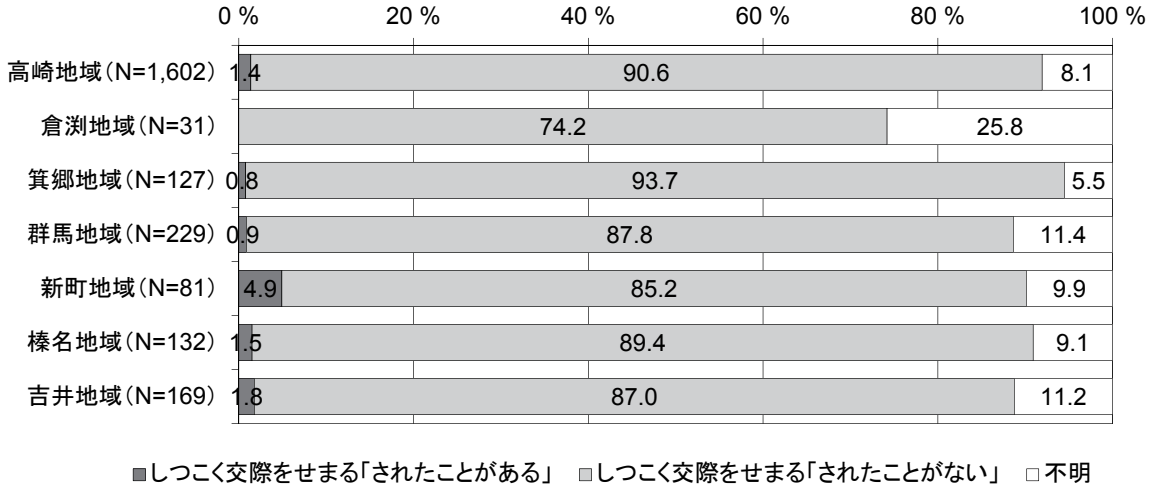


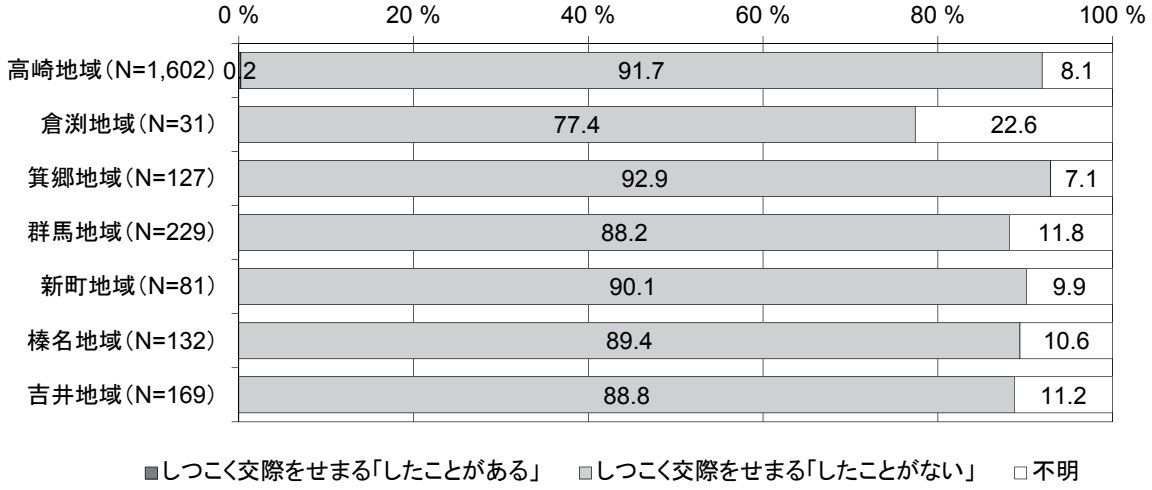


【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」は新町地域（4.9%）が若干高くなっていますが、「されたこと」「したことがある」はともにすべての地域でほとんど見られません。

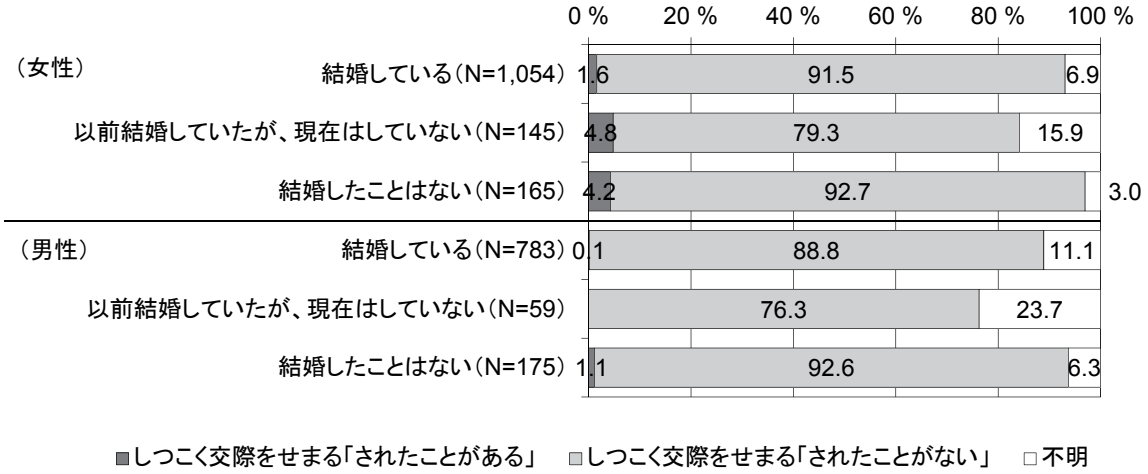


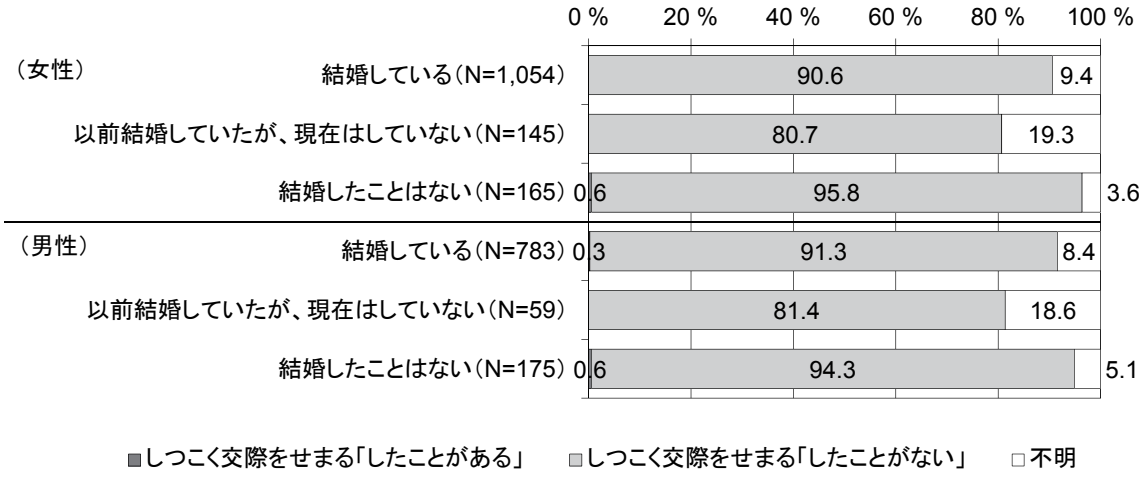


【性別×結婚経験別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」「結婚したことはない」（それぞれ 4.8%、4.2%）が若干高くなっていますが、「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。

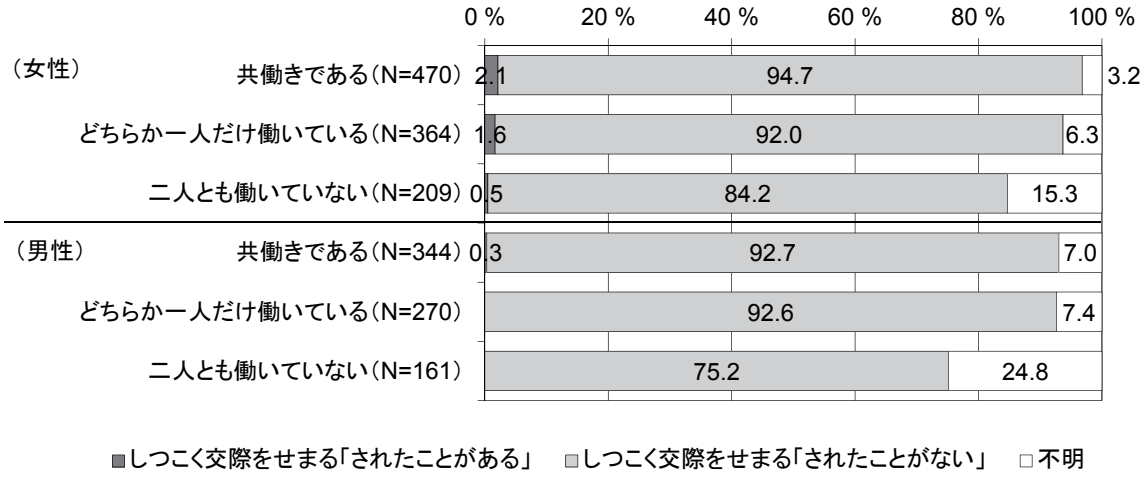


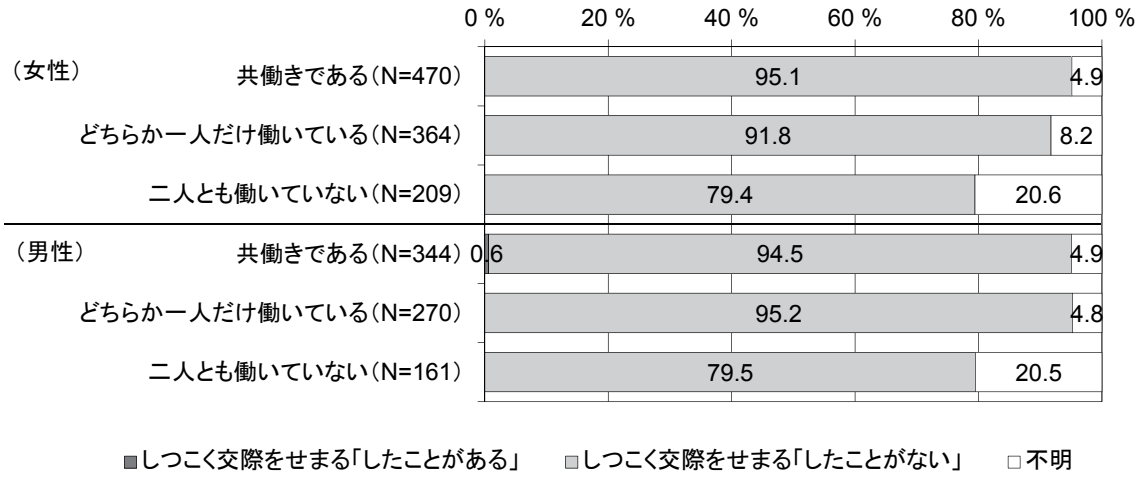


【性別×働き方別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。



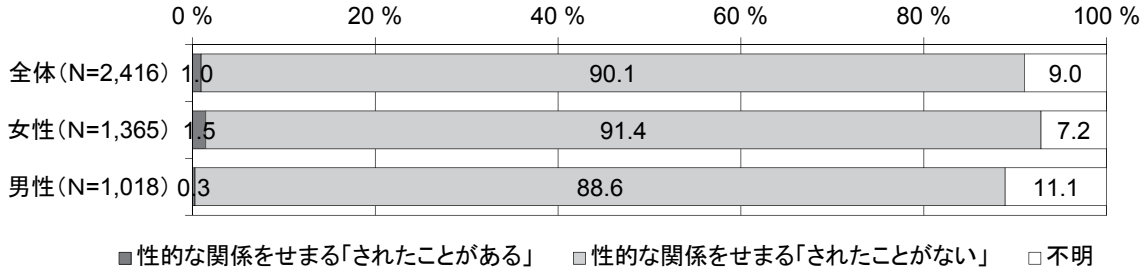


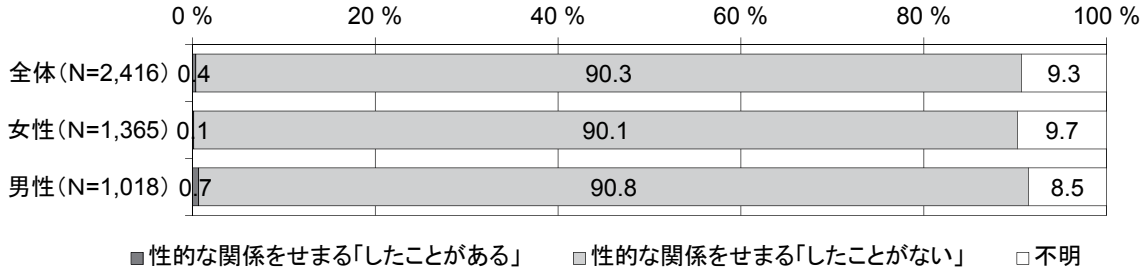
⑥性的な関係をせまる

【全体・性別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともほとんど見られません。

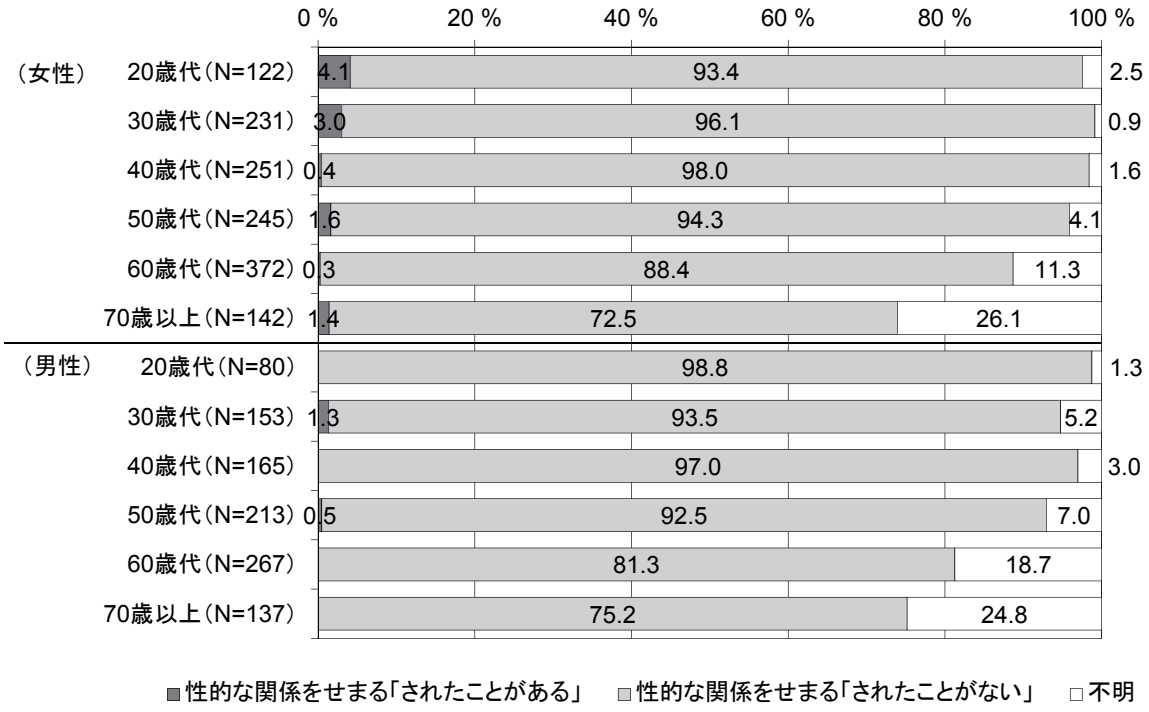


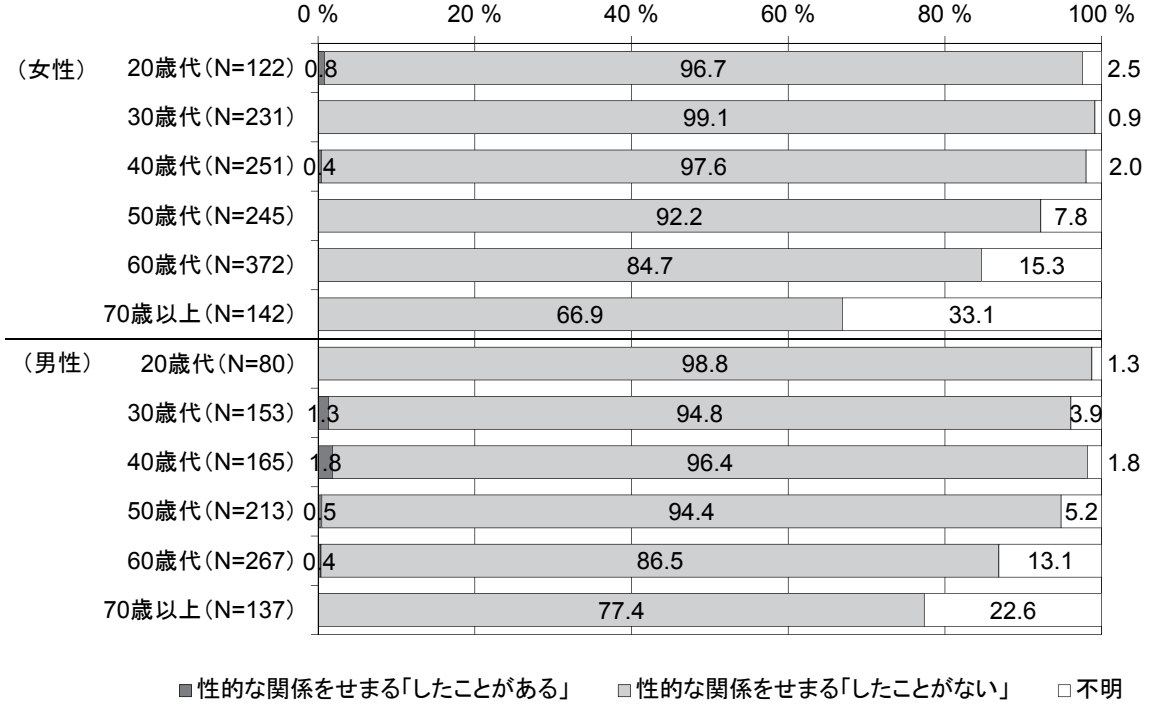


【性別×年代別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」は女性 20 歳代（4.1%）が若干高くなっていますが、「されたこと」「したことがある」ともに、男女ともすべての年代でほとんど見られません。

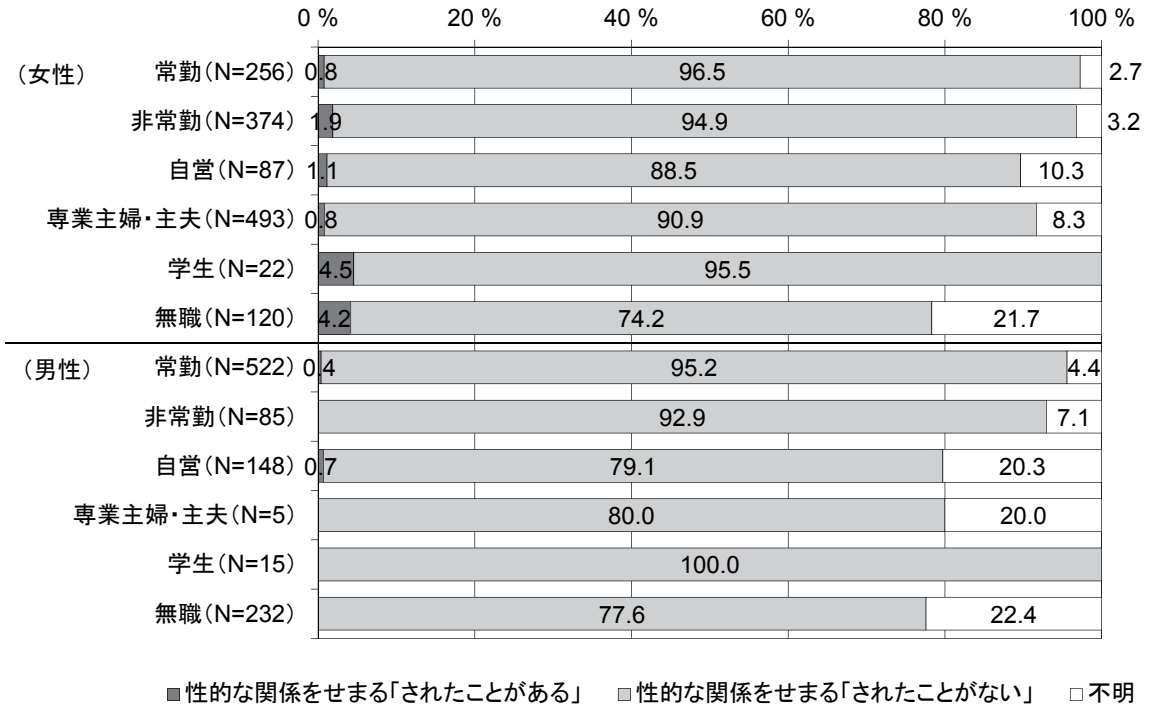


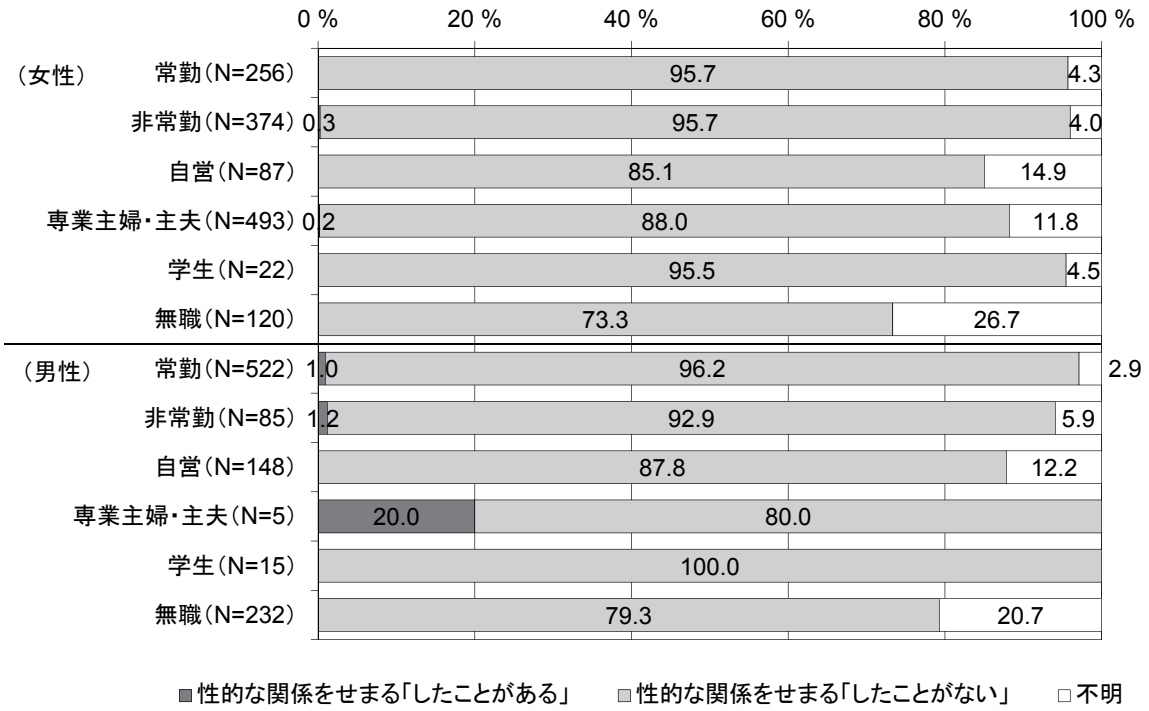


【性別×職業別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は女性学生（4.5%）や女性無職（4.2%）が若干高くなっていますが、回答者数が少ない男性専業主夫を除くと、「されたこと」「したことがある」はともに、男女ともすべての職業でほとんど見られません。

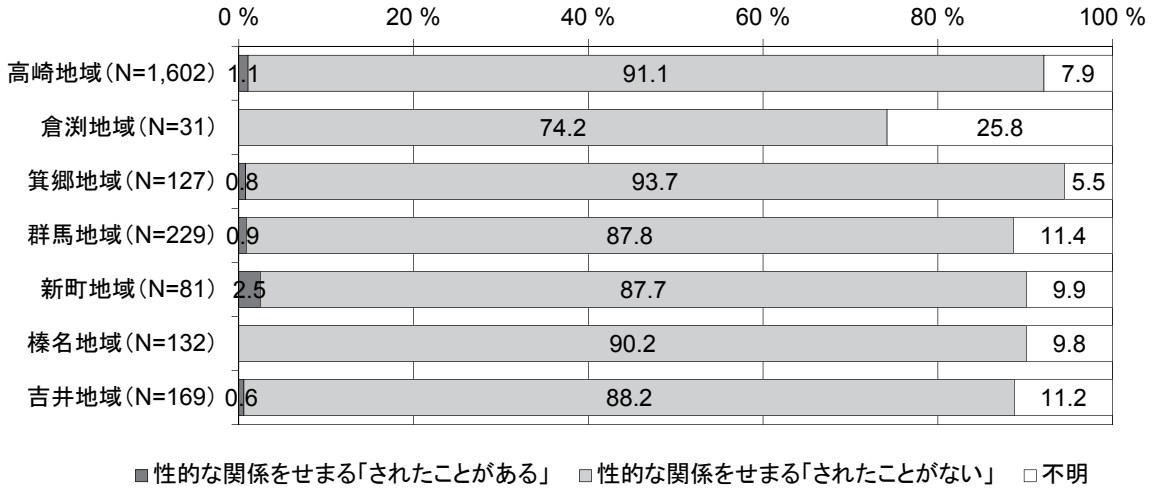


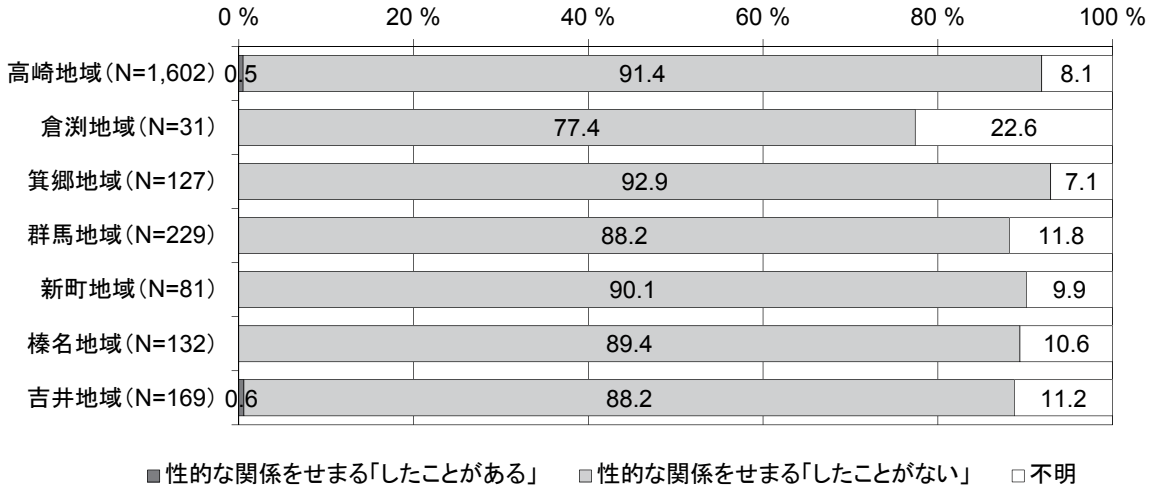


【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られません。

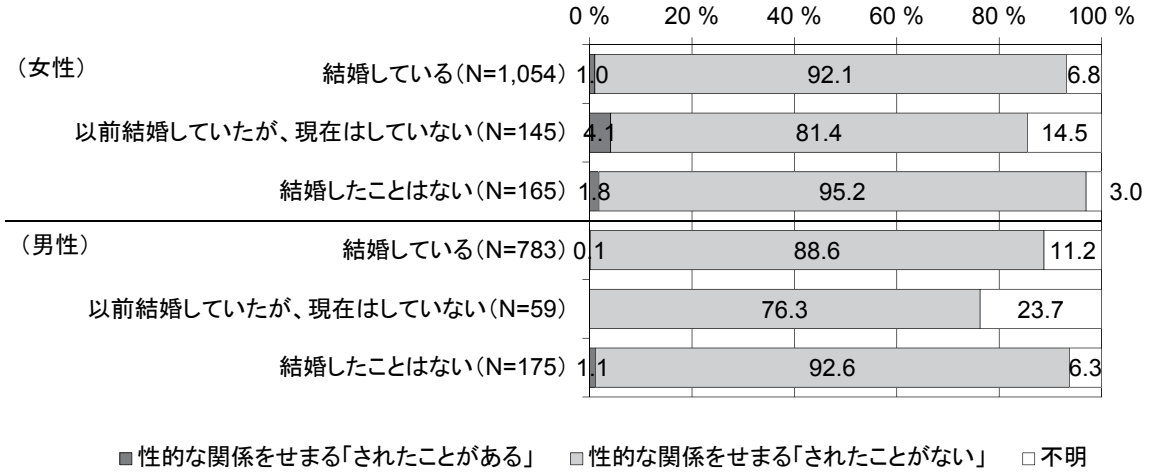


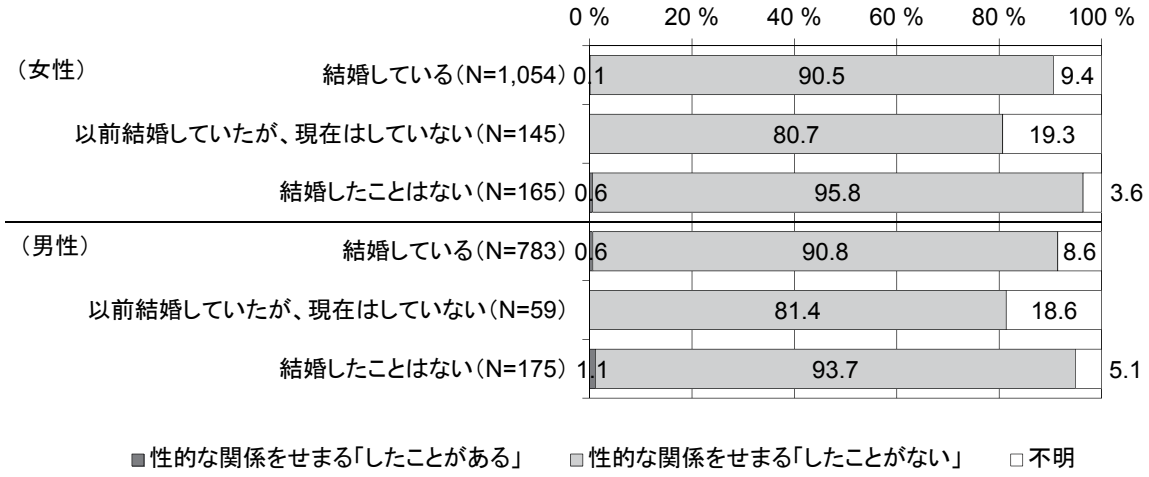


【性別×結婚経験別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は女性「以前結婚していたが、現在はしていない」（4.1%）が若干高くなっていますが、「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。

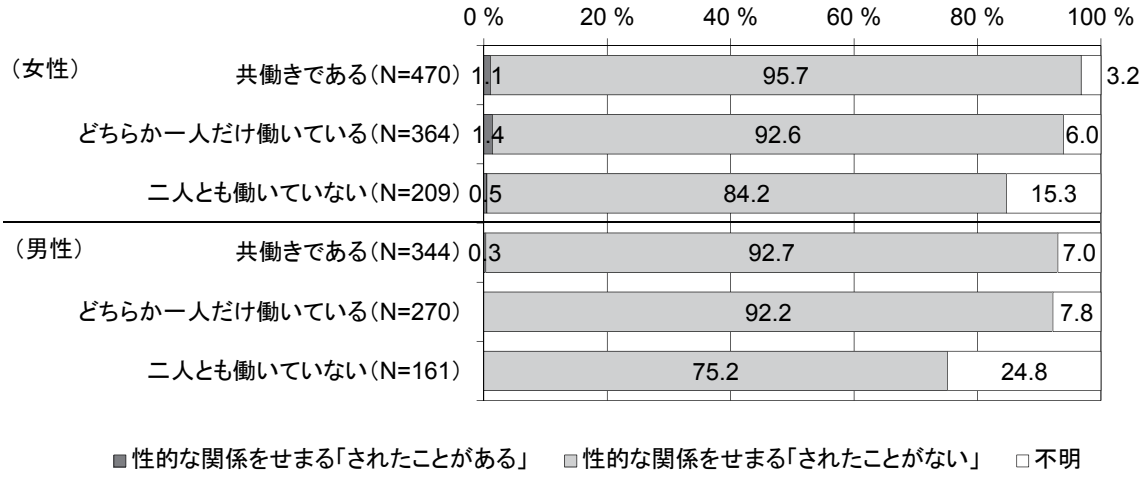


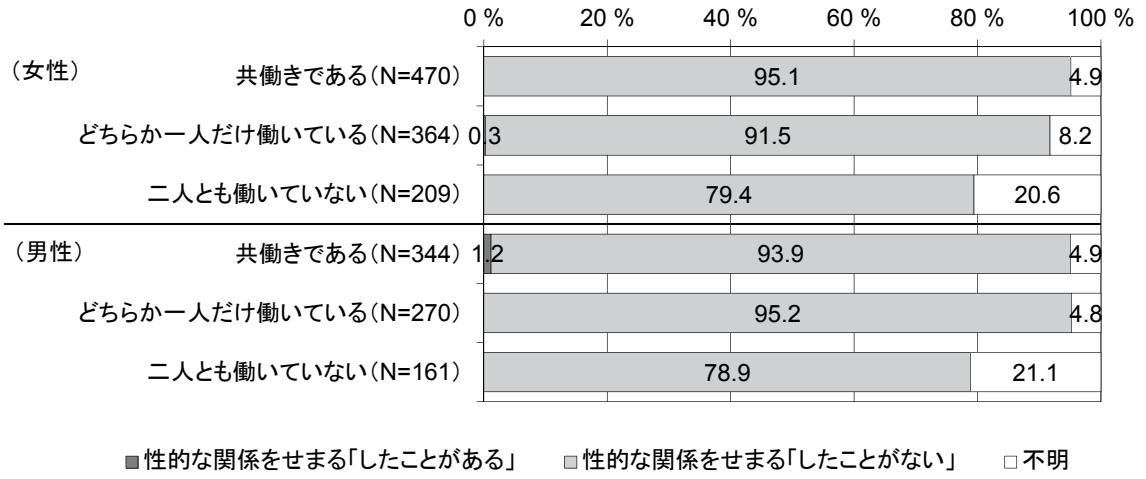


【性別×働き方別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともに、男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。



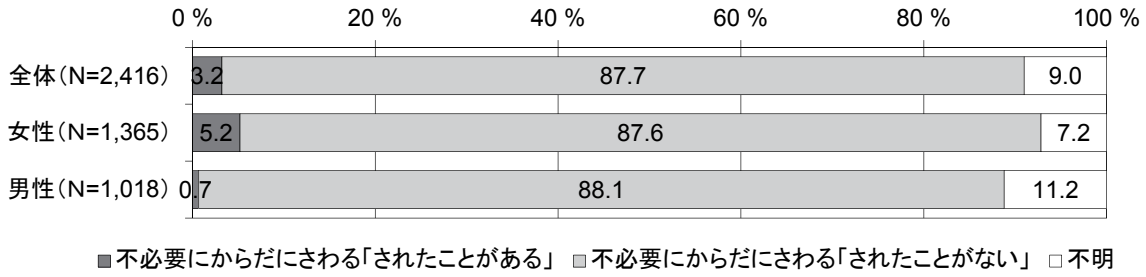


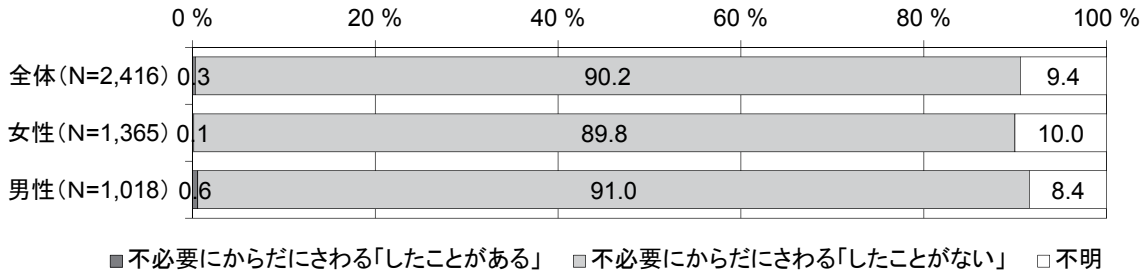
⑦不必要にからだにさわる

【全体・性別】

- 「されたことがある」は女性で若干見られる
- 「したことがある」は男女ともほとんど見られない

「されたことがある」は女性（5.2%）で若干見られます。
一方、「したことがある」は男女ともほとんど見られません。





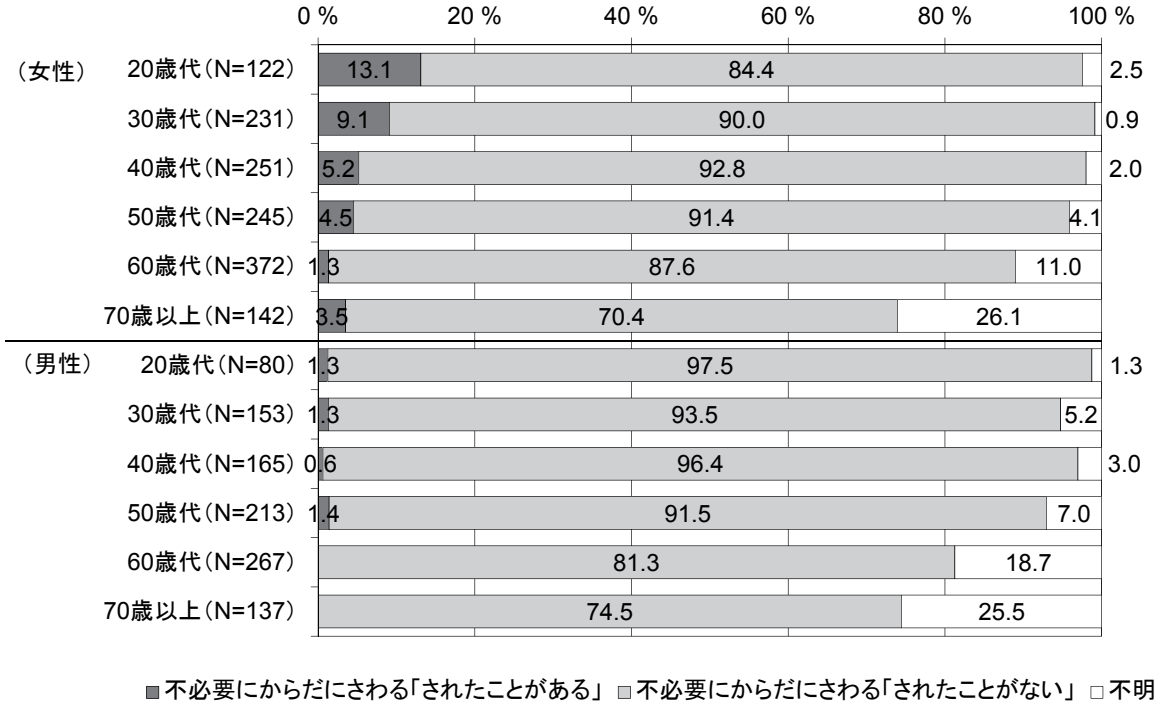
【性別×年代別】

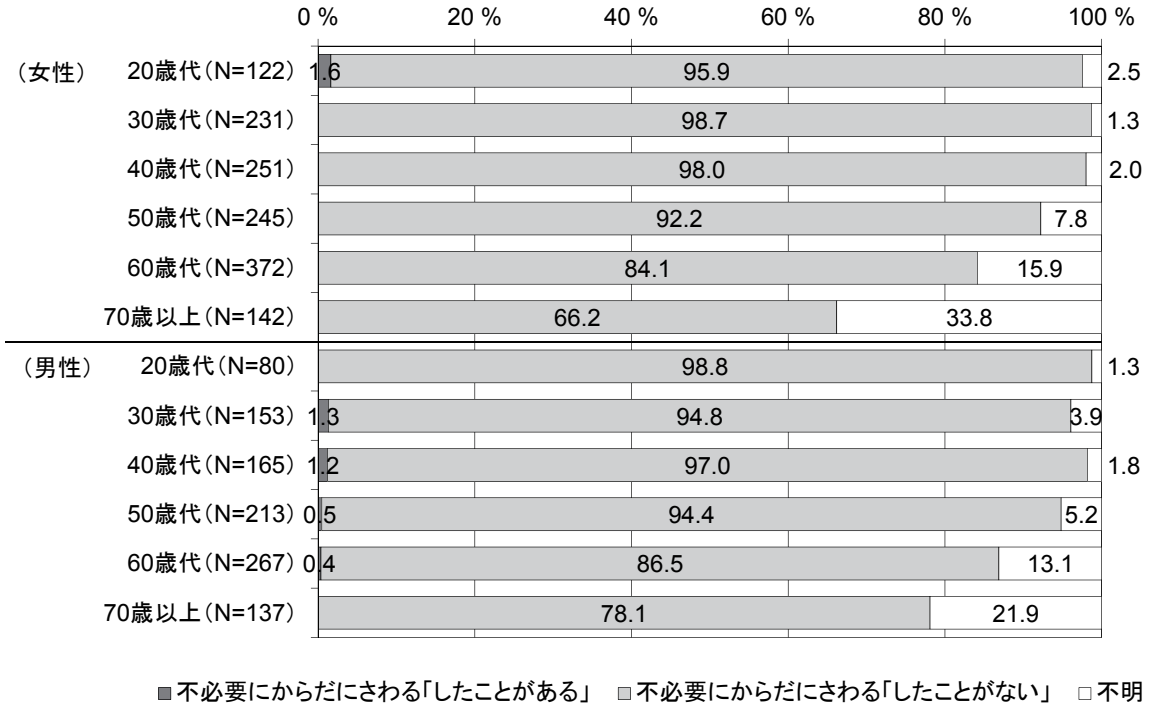
● 「されたことがある」は女性 30 歳代以下が比較的高い

● 「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られない

「されたことがある」は女性20歳代(13.1%)が1割以上で最も高く、女性30歳代(9.1%)も約1割で比較的高くなっています。また、すべての年代で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男女ともすべての年代でほとんど見られません。





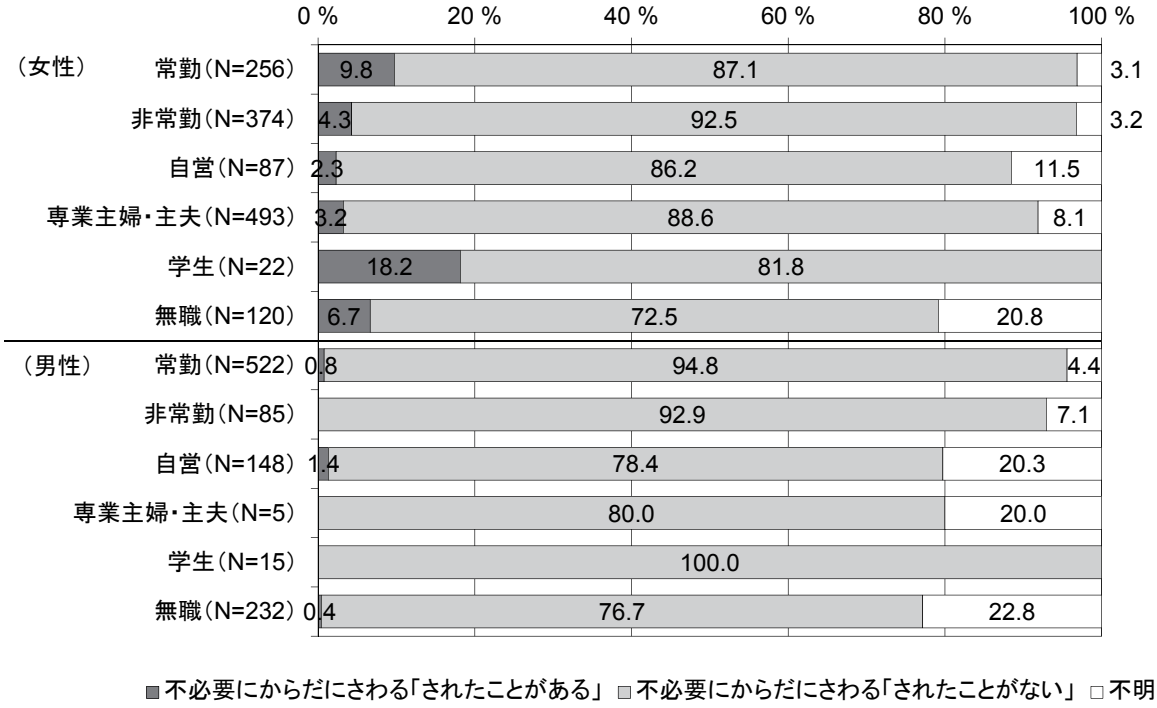
【性別×職業別】

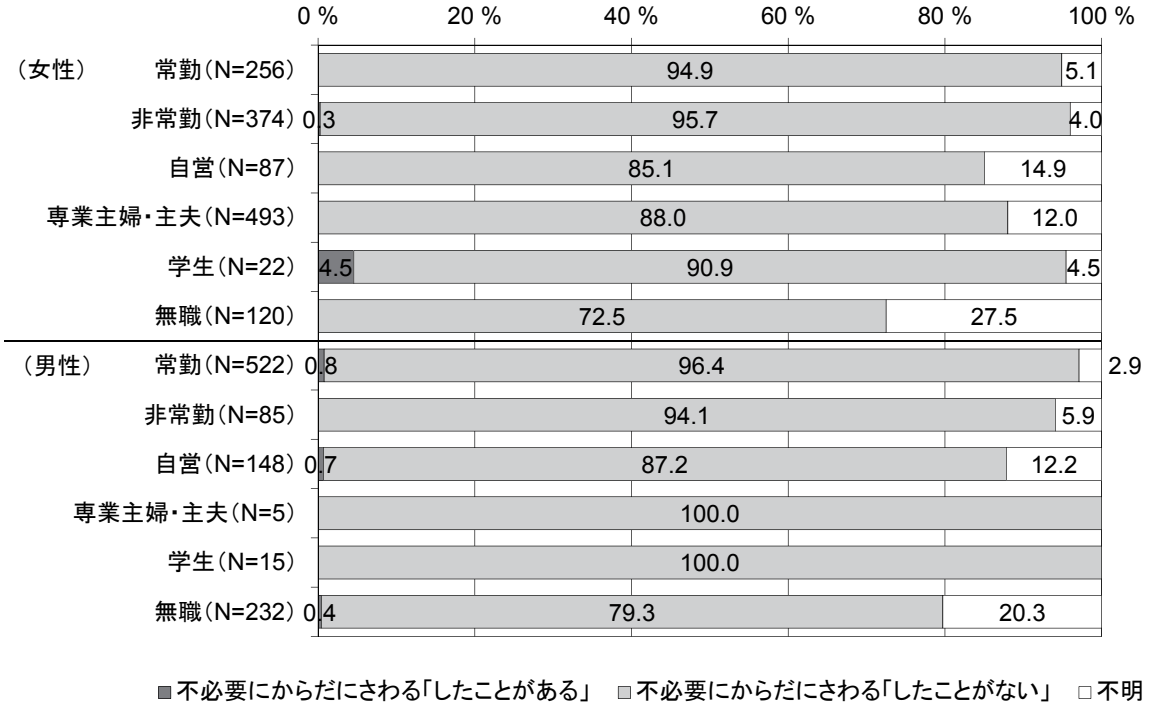
● 「されたことがある」は女性学生が約２割で特に高く、女性常勤も約１割で比較的高い

● 「したことがある」は男女ともすべての職業でほとんど見られない

「されたことがある」は女性学生（18.2%）が約２割で特に高く、女性常勤（9.8%）も約１割で比較的高くなっています。また、すべての職業で女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は女性学生（4.5%）が若干高くなっていますが、すべての職業で男女ともほとんど見られません。

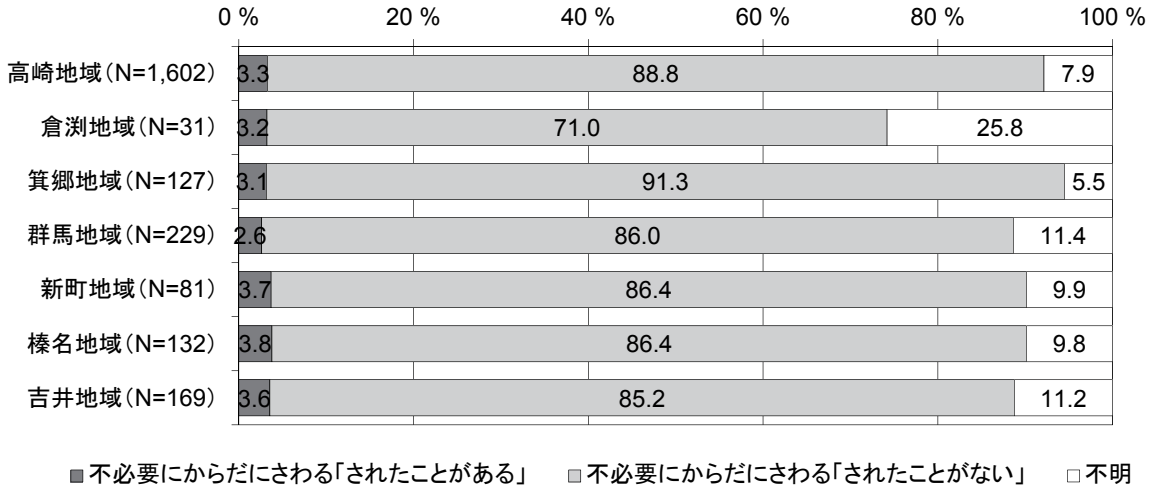


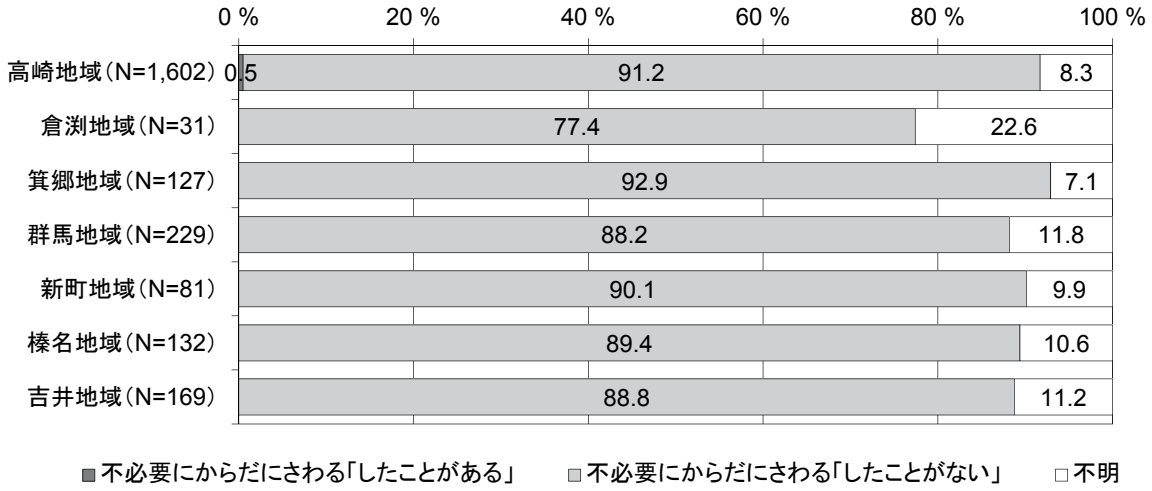


【地域別】

● 「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られない

「されたことがある」「したことがある」ともにすべての地域でほとんど見られません。





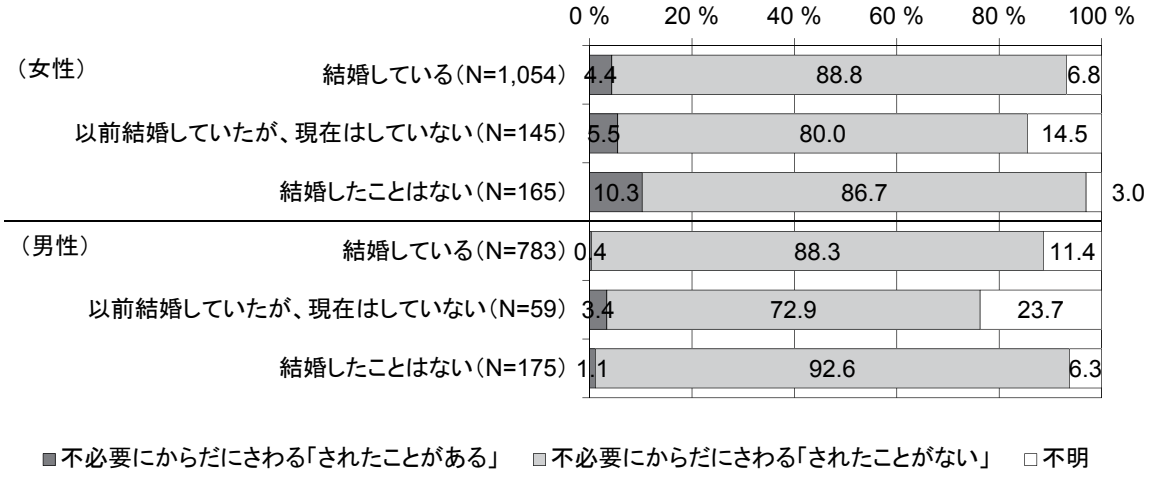
【性別×結婚経験別】

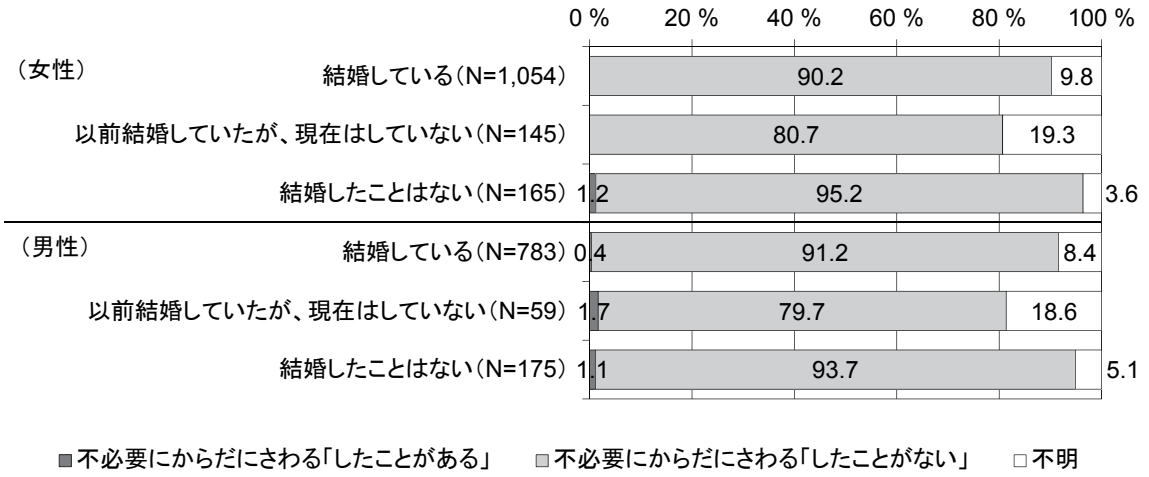
● 「されたことがある」は女性「結婚したことはない」が約１割で比較的高い

● 「したことがある」は男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は女性「結婚したことはない」（10.3%）が約１割で比較的高くなっています。また、結婚経験にかかわらず女性が高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも結婚経験にかかわらずほとんど見られません。





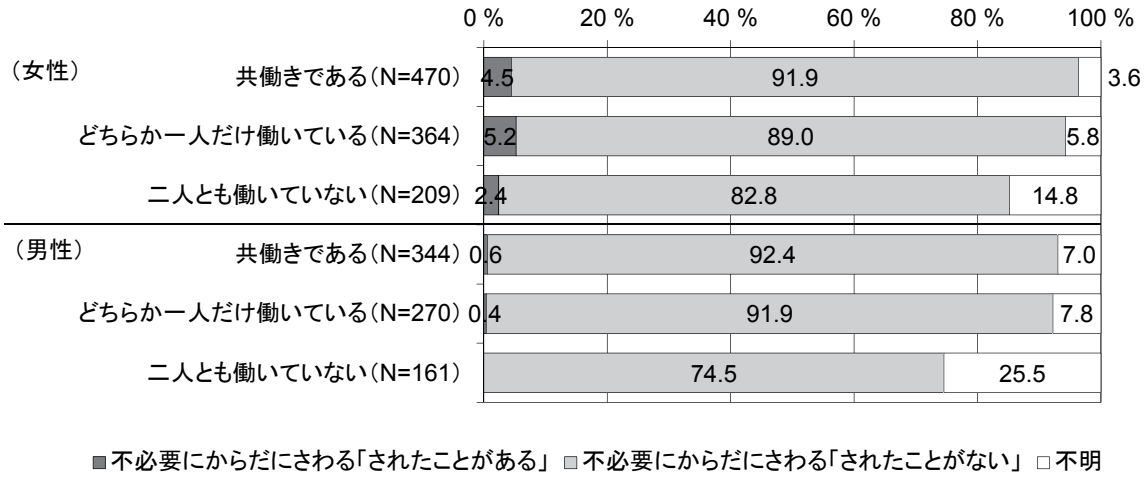
【性別×働き方別】

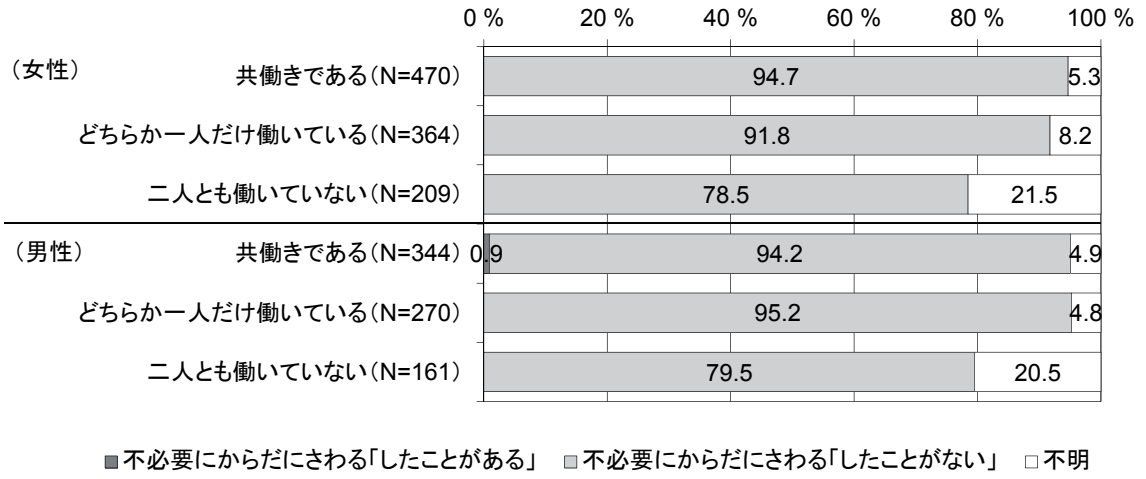
● 「されたことがある」は女性「共働き」「どちらか一人だけ働いている」が若干高い

● 「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られない

「されたことがある」は女性「共働きである」「どちらか一人だけ働いている」（それぞれ 4.5%、5.2%）で若干高くなっています。

一方、「したことがある」は男女とも働き方にかかわらずほとんど見られません。





10　男女共同参画社会推進のための施策について

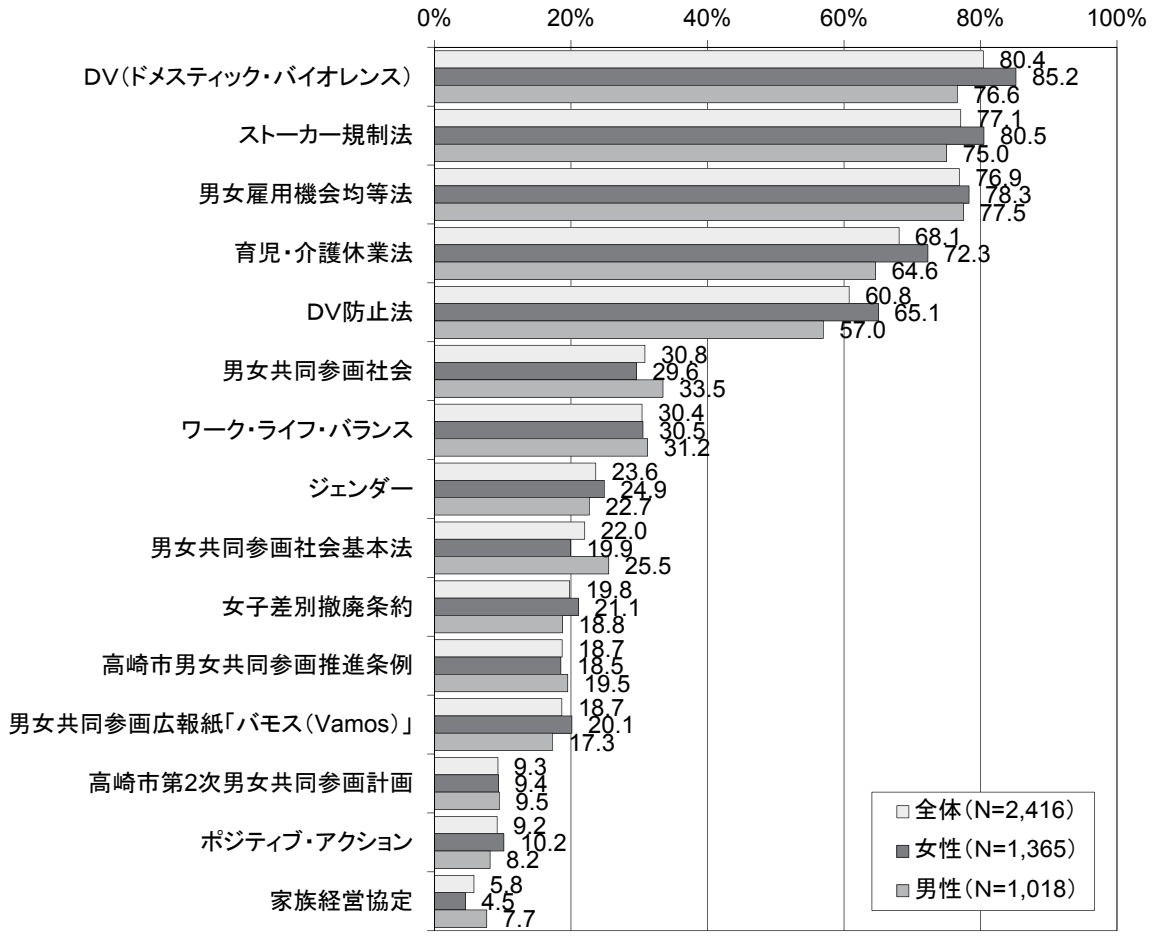
問 15	次の言葉や制度等のうち、見たり聞いたりしたことがあるものがありますか。（複数回答可）

【全体・性別】

- 男女とも「DV」「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」の 3 項目が約 8 割
- 次いで男女とも「育児・介護休業法」「DV 防止法」の 2 項目が約 6～7 割
- 上位 5 項目以外は男女とも 3 割程度以下

男女とも「DV（ドメスティック・バイオレンス）　以下 DV」、「ストーカー規制法」、「男女雇用機会均等法」の 3 項目が約 8 割で特に高くなっています。次いで「育児・介護休業法」、「DV 防止法」も約 6～7 割で比較的高くなっています。また、上位 5 項目はいずれも女性が高くなっています。

これらに次いで、男女とも「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダー」「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」「高崎市男女共同参画推進条例」「男女共同参画広報紙『バモス（Vamos）』」の 7 項目が約 2～3 割となっています。



※アンケート調査票では、以下の選択肢について、カッコ（ ）内に以下の説明文を加えて提示
・ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）　・DV 防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）　・ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）　・ジェンダー（生物としての性別ではなく、社会通念や慣習の中で社会的に形成された性別のこと）　・高崎市男女共同参画推進条例（平成 21 年 4 月 1 日施行）　・男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」（高崎市が毎年 3 月に発行し、全戸に配布）　・高崎市第 2 次男女共同参画計画（平成 20 年 3 月策定）　・ポジティブ・アクション（男女間の格差改善のため、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供すること）　・家族経営協定（農業経営にたずさわる家族それぞれの経営参画を目指し、家族で取り決める協定のこと）

【性別×年代別】

● 男性 40 歳代以上は「男女雇用機会均等法」、それ以外は「DV」が最も高い

● 女性 70 歳以上は「DV」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」が同値

● 女性 50 歳代以下は「DV」が 9 割以上

● 「DV」は年代によって傾向が異なる

男性 40 歳代以上を除き、男女ともすべての年代で「DV」が最も高くなっています。特に女性 30・40 歳代（ともに 94.4%）が比較的高く、50 歳代以下は 9 割以上となっています。また、「DV」は男女とも 60 歳代以上が低く、年代による差が大きくなっています。女性 70 歳以上は「DV」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」が同値となっています。

男性 40 歳代以上はいずれも「男女雇用機会均等法」が最も高く、特に男性 40 歳代（88.5%）が比較的高くなっています。

	（%）	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
N=	女性	122	231	251	245	372	142
	男性	80	153	165	213	267	137
高崎市男女共同参画推進条例	女性	6.6	15.6	16.7	18.8	22.3	26.8
	男性	10.0	17.6	17.0	17.8	21.7	28.5
高崎市第 2 次男女共同参画計画	女性	1.6	5.2	5.6	8.6	14.0	19.0
	男性	5.0	3.3	6.1	8.0	13.9	17.5
男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」	女性	4.9	19.5	23.5	22.0	20.2	25.4
	男性	5.0	15.7	15.8	13.6	20.2	28.5
男女共同参画社会	女性	36.9	23.4	29.9	30.2	28.8	34.5
	男性	27.5	32.7	28.5	40.4	32.6	35.0
DV（ドメスティック・バイオレンス）	女性	92.6	94.4	94.4	90.6	76.6	62.0
	男性	85.0	88.9	85.5	82.6	69.7	51.8
ジェンダー	女性	46.7	33.3	31.9	23.3	12.6	15.5
	男性	30.0	36.6	26.7	24.9	13.9	11.7
ワーク・ライフ・バランス	女性	30.3	32.5	26.7	28.2	34.7	28.2
	男性	42.5	37.9	38.8	27.7	27.3	21.9
ポジティブ・アクション	女性	9.8	7.8	8.4	9.4	13.7	9.9
	男性	13.8	7.2	7.3	8.5	10.1	2.9
家族経営協定	女性	1.6	1.7	1.6	4.1	7.3	10.6
	男性	5.0	4.6	3.6	7.0	12.7	8.8
男女共同参画社会基本法	女性	32.8	15.6	14.7	18.8	20.7	25.4
	男性	26.3	24.2	15.8	31.5	25.1	29.9
女子差別撤廃条約	女性	35.2	20.3	12.0	18.0	22.8	27.5
	男性	25.0	17.0	12.1	18.8	19.1	24.1
DV防止法	女性	54.9	71.9	72.1	73.9	59.4	50.7
	男性	56.3	56.2	62.4	67.6	53.9	41.6
ストーカー規制法	女性	77.0	90.9	88.8	83.7	75.5	60.6
	男性	75.0	83.7	85.5	79.8	71.5	53.3
男女雇用機会均等法	女性	88.5	85.3	88.0	75.1	72.8	62.0
	男性	72.5	76.5	88.5	83.6	74.2	65.7
育児・介護休業法	女性	69.7	68.4	80.1	72.2	74.7	62.0
	男性	58.8	60.1	72.7	73.7	64.4	51.1
いずれも、見聞きしたことはない	女性	1.6	0.9	0.8	1.2	3.0	4.2
	男性	2.5	3.9	3.6	1.4	4.5	9.5

【性別×職業別】

● 女性は自営・学生を除くすべての職業で「DV」が高い

● 男性は職業によって傾向が異なる

● 男女とも自営は「ストーカー規制法」、学生は「男女雇用機会均等法」が最も高い

● 学生は男女とも複数の項目の値が比較的高い

女性は自営・学生を除くすべての職業で「DV」が最も高く、自営は「ストーカー規制法」（79.3%）、学生は「男女雇用機会均等法」（95.5%）が最も高くなっています。

男性は、回答者数が少ない専業主夫を除くと、常勤は「DV」（87.0%）、非常勤・学生・無職は「男女雇用機会均等法」（それぞれ 76.5%、86.7%、70.3%）、自営は「ストーカー規制法」（73.6%）が最も高くなっています。

また、学生は男女とも複数の項目の値が比較的高くなっています。

	（%）	常勤	非常勤	自営	専業主婦・主夫	学生	無職
N=	女性	256	374	87	493	22	120
	男性	522	85	148	5	15	232
高崎市男女共同参画推進条例	女性	17.2	14.4	23.0	22.9	13.6	15.0
	男性	18.6	12.9	21.6	80.0	6.7	22.0
高崎市第 2 次男女共同参画計画	女性	7.4	7.2	18.4	11.0	4.5	8.3
	男性	5.9	10.6	12.8	60.0	6.7	14.2
男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」	女性	17.6	20.6	25.3	22.1	4.5	16.7
	男性	15.7	16.5	18.2	60.0	0.0	20.7
男女共同参画社会	女性	33.6	26.5	29.9	29.8	68.2	25.0
	男性	35.2	27.1	31.8	40.0	46.7	31.9
DV（ドメスティック・バイオレンス）	女性	92.2	89.6	75.9	84.2	90.9	69.2
	男性	87.0	70.6	70.9	80.0	73.3	59.5
ジェンダー	女性	37.5	22.5	20.7	19.9	81.8	20.8
	男性	27.0	23.5	14.2	40.0	60.0	15.1
ワーク・ライフ・バランス	女性	35.9	27.5	27.6	31.8	50.0	24.2
	男性	36.2	31.8	24.3	20.0	40.0	24.1
ポジティブ・アクション	女性	11.3	8.0	11.5	10.8	22.7	9.2
	男性	9.2	5.9	6.8	0.0	20.0	7.3
家族経営協定	女性	2.3	5.3	8.0	4.7	9.1	3.3
	男性	4.6	7.1	16.2	20.0	6.7	8.2
男女共同参画社会基本法	女性	19.9	16.0	23.0	21.5	77.3	15.0
	男性	24.1	20.0	27.7	40.0	73.3	25.0
女子差別撤廃条約	女性	18.8	18.7	24.1	22.9	50.0	20.8
	男性	17.4	12.9	18.9	40.0	33.3	22.8
DV防止法	女性	66.8	66.8	66.7	66.1	54.5	52.5
	男性	62.5	48.2	58.8	60.0	46.7	47.4
ストーカー規制法	女性	84.4	83.7	79.3	81.1	63.6	65.0
	男性	83.0	71.8	73.6	100.0	66.7	59.9
男女雇用機会均等法	女性	87.5	81.3	74.7	75.3	95.5	64.2
	男性	83.0	76.5	70.3	100.0	86.7	70.3
育児・介護休業法	女性	78.9	71.1	65.5	74.8	68.2	60.0
	男性	69.3	58.8	65.5	100.0	66.7	55.2
いずれも、見聞きしたことはない	女性	0.8	1.1	1.1	2.6	0.0	5.8
	男性	1.7	7.1	4.7	0.0	0.0	7.8

【地域別】

● 倉渕地域は「ストーカー規制法」、それ以外は「DV」が最も高い

● 倉渕地域は「男女共同参画社会基本法」が比較的高い

倉渕地域を除くすべての地域で「DV」が最も高く、特に新町地域（85.2%）が比較的高くなっています。倉渕地域は「ストーカー規制法」（71.0%）が最も高くなっています。

また、全体傾向では高い値ではない項目のうち、倉渕地域は「男女共同参画社会基本法」（35.5%）が比較的高くなっています。

（%）	高崎地域	倉渕地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	吉井地域
N=	1,602	31	127	229	81	132	169
高崎市男女共同参画推進条例	19.9	25.8	18.1	16.2	17.3	15.9	16.6
高崎市第 2 次男女共同参画計画	10.4	6.5	9.4	7.4	9.9	9.1	4.1
男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」	19.3	19.4	15.7	17.0	21.0	19.7	18.9
男女共同参画社会	32.2	35.5	29.1	26.6	32.1	23.5	34.9
DV（ドメスティック・バイオレンス）	82.8	64.5	81.1	78.2	85.2	79.5	79.3
ジェンダー	24.4	9.7	28.3	20.5	24.7	22.0	26.0
ワーク・ライフ・バランス	32.1	22.6	29.9	23.1	33.3	27.3	33.1
ポジティブ・アクション	10.3	9.7	7.9	5.2	7.4	8.3	8.3
家族経営協定	5.5	12.9	7.9	2.6	2.5	6.8	10.7
男女共同参画社会基本法	22.3	35.5	24.4	18.3	24.7	21.2	24.3
女子差別撤廃条約	21.2	25.8	18.9	15.7	18.5	17.4	18.3
DV防止法	62.5	54.8	65.4	53.3	59.3	64.4	62.1
ストーカー規制法	79.5	71.0	78.0	76.4	76.5	74.2	74.6
男女雇用機会均等法	79.6	67.7	78.0	73.8	75.3	72.7	75.7
育児・介護休業法	70.2	67.7	74.8	60.7	66.7	68.2	68.6
いずれも、見聞きしたことはない	2.3	6.5	4.7	3.9	0.0	6.1	4.7

【性別×結婚経験別】

- 男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」を除き男女とも「DV」が最も高い
- 男性「結婚している」は「男女雇用機会均等法」、男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」が同値で最も高い
- 女性「結婚したことはない」は「男女雇用機会均等法」「ジェンダー」が比較的高い

男性「結婚している」「以前結婚していたが、現在はしていない」を除き、男女とも「DV」が最も高く、特に女性「結婚したことはない」（93.3%）は9割以上となっています。男性「結婚している」は「男女雇用機会均等法」（77.7%）、「以前結婚していたが、現在はしていない」は「ストーカー規制法」と「男女雇用機会均等法」が同値（69.5%）で最も高くなっています。

また、全体傾向では高い値ではない項目を含めて、女性「結婚したことはない」は「男女雇用機会均等法」（90.9%）や「ジェンダー」（48.5%）が比較的高くなっています。

（%）		結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性	1,054	145	165
	男性	783	59	175
高崎市男女共同参画推進条例	女性	19.8	19.3	9.7
	男性	21.6	11.9	13.1
高崎市第2次男女共同参画計画	女性	10.3	9.0	3.0
	男性	10.1	11.9	6.3
男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」	女性	21.5	22.1	9.1
	男性	19.2	11.9	10.9
男女共同参画社会	女性	28.8	25.5	37.6
	男性	34.5	22.0	33.1
DV（ドメスティック・バイオレンス）	女性	84.8	78.6	93.3
	男性	76.5	61.0	82.9
ジェンダー	女性	22.8	13.8	48.5
	男性	20.4	16.9	34.9
ワーク・ライフ・バランス	女性	30.4	29.7	32.7
	男性	30.7	25.4	36.0
ポジティブ・アクション	女性	9.7	11.0	12.7
	男性	8.0	5.1	9.7
家族経営協定	女性	5.0	3.4	2.4
	男性	7.7	10.2	6.9
男女共同参画社会基本法	女性	18.7	17.9	29.7
	男性	25.5	16.9	28.6
女子差別撤廃条約	女性	20.9	20.0	23.0
	男性	18.1	18.6	21.7
DV防止法	女性	66.2	58.6	63.0
	男性	57.5	45.8	58.9
ストーカー規制法	女性	80.8	76.6	81.8
	男性	74.8	69.5	78.3
男女雇用機会均等法	女性	77.8	67.6	90.9
	男性	77.7	69.5	80.0
育児・介護休業法	女性	73.1	66.9	71.5
	男性	65.8	55.9	62.9
いずれも、見聞きしたことはない	女性	1.8	3.4	1.8
	男性	3.7	3.4	5.7

【性別×働き方別】

● 男性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」を除き男女とも「DV」が最も高い

● 男性「どちらか一人だけ働いている」は「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」（同値）、男性「二人とも働いていない」は「男女雇用機会均等法」が最も高い

● 男女とも「二人とも働いていない」は「女子差別撤廃条約」「高崎市第２次男女共同参画計画」が比較的高い

男性「どちらか一人だけ働いている」「二人とも働いていない」を除き、男女とも「DV」が最も高くなっています。男性「どちらか一人だけ働いている」は「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」が同値（80.7%）で最も高く、男性「二人とも働いていない」は「男女雇用機会均等法」（71.4%）が最も高くなっています。

また、全体傾向では高い値ではない項目を含めて、男女とも「二人とも働いていない」は「女子差別撤廃条約」（女性 27.3%、男性 26.1%）や「高崎市第２次男女共同参画計画」（女性 16.7%、男性 18.6%）が比較的高くなっています。

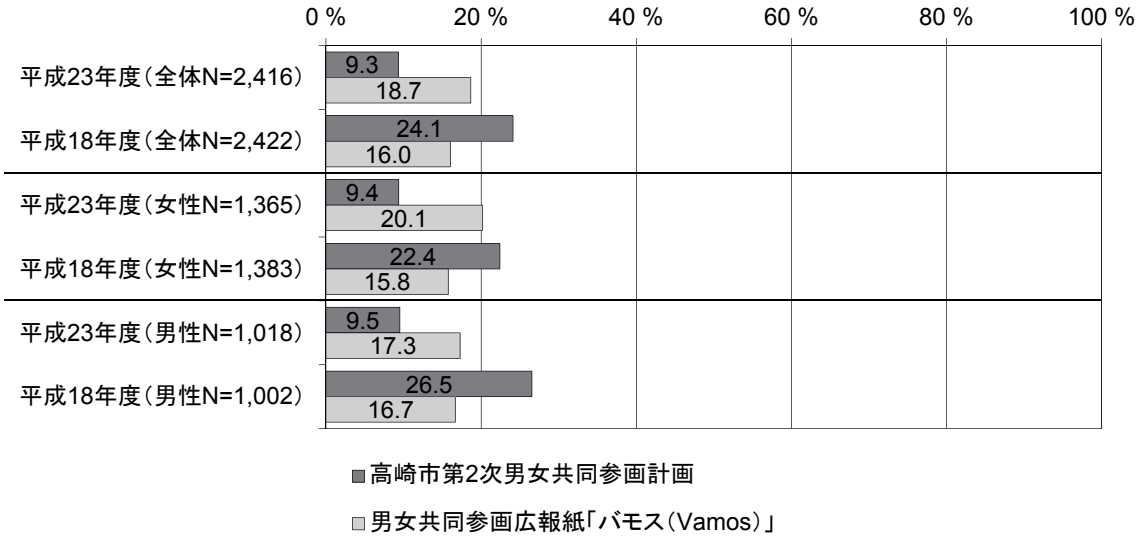
	（%）	共働きである	どちらか一人だけ働いている	二人とも働いていない
N=	女性	470	364	209
	男性	344	270	161
高崎市男女共同参画推進条例	女性	18.1	19.2	23.9
	男性	20.3	20.7	25.5
高崎市第２次男女共同参画計画	女性	9.1	8.0	16.7
	男性	8.1	7.0	18.6
男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」	女性	21.7	20.9	22.5
	男性	16.6	18.5	26.7
男女共同参画社会	女性	28.7	28.8	30.1
	男性	33.7	34.8	36.0
DV（ドメスティック・バイオレンス）	女性	88.9	85.4	75.6
	男性	82.3	79.6	60.9
ジェンダー	女性	27.0	22.5	13.9
	男性	22.7	21.1	14.3
ワーク・ライフ・バランス	女性	28.1	31.3	33.5
	男性	29.7	34.8	25.5
ポジティブ・アクション	女性	8.3	9.9	12.0
	男性	8.4	8.5	6.2
家族経営協定	女性	4.9	3.6	8.1
	男性	5.8	7.8	10.6
男女共同参画社会基本法	女性	17.0	18.1	23.4
	男性	23.5	26.7	27.3
女子差別撤廃条約	女性	20.4	18.1	27.3
	男性	15.7	15.9	26.1
DV防止法	女性	68.7	68.4	58.4
	男性	62.8	55.9	50.3
ストーカー規制法	女性	83.2	84.1	70.3
	男性	78.5	80.7	58.4
男女雇用機会均等法	女性	82.1	76.4	71.8
	男性	78.8	80.7	71.4
育児・介護休業法	女性	72.6	74.2	73.2
	男性	69.5	67.0	56.5
いずれも、見聞きしたことはない	女性	0.4	3.0	2.4
	男性	3.2	2.2	7.5

【性別×経年変化】

● 「高崎市第 2 次男女共同参画計画」は減少

● 「バモス（Vamos）」は若干増加

前回調査とは表現等が異なることを考慮する必要がありますが、「高崎市第 2 次男女共同参画計画」と「男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」について前回調査と比較すると、男女とも「高崎市第 2 次男女共同参画計画」は減少し、「男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」は若干増加しています。



※前回調査（平成 18 年度）では、「現在、高崎市が行っている取り組みのうちあなたが知っている取り組み」（MA）として「高崎市男女共同参画計画」「男女平等広報紙（Vamos）全戸配布」を含む 10 選択肢で設定

【性別×他調査との比較】

● 高崎市が比較的高いのは「育児・介護休業法」

● 高崎市が比較的低いのは「DV 防止法」「男女共同参画社会」

群馬県、内閣府との比較が可能な項目について、全体傾向で値の高い 5 項目を見ると、「DV」は男女とも内閣府と同程度、「ストーカー規制法」は群馬県より男性は若干低く、女性は同程度、「男女雇用機会均等法」は男女とも群馬県、内閣府と同程度、「育児・介護休業法」は男女とも群馬県より高く、「DV 防止法」は男女とも群馬県より低くなっています。

また、全体傾向で値の高い項目以外で、「男女共同参画社会」は群馬県や国より低くなっています。

	（%）	高崎市	群馬県	内閣府
N=	全体	2,416	1,071	3,240
	女性	1,365	554	1,730
	男性	1,018	479	1,510
ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）	全体	80.4	－	78.7
	女性	85.2	－	81.0
	男性	76.6	－	76.0
ストーカー規制法	全体	77.1	78.9	－
	女性	80.5	79.6	－
	男性	75.0	80.0	－
男女雇用機会均等法	全体	76.9	76.8	79.3
	女性	78.3	75.1	78.3
	男性	77.5	80.6	80.4
育児・介護休業法	全体	68.1	58.2	－
	女性	72.3	59.2	－
	男性	64.6	58.5	－
ＤＶ防止法	全体	60.8	72.5	－
	女性	65.1	74.4	－
	男性	57.0	72.9	－
男女共同参画社会	全体	30.8	45.9	64.6
	女性	29.6	44.4	62.1
	男性	33.5	49.3	67.5
ワーク・ライフ・バランス	全体	30.4	17.8	37.0
	女性	30.5	15.2	38.1
	男性	31.2	21.1	35.8
ジェンダー	全体	23.6	21.0	31.9
	女性	24.9	23.1	32.4
	男性	22.7	19.4	31.3
男女共同参画社会基本法	全体	22.0	18.0	－
	女性	19.9	15.3	－
	男性	25.5	21.7	－
女子差別撤廃条約	全体	19.8	15.6	35.1
	女性	21.1	15.0	32.8
	男性	18.8	16.3	37.7
ポジティブ・アクション	全体	9.2	7.4	19.0
	女性	10.2	7.6	18.4
	男性	8.2	7.1	19.6

※群馬県・内閣府との比較が可能な項目のみを、高崎市（全体）の値が高い順に表示

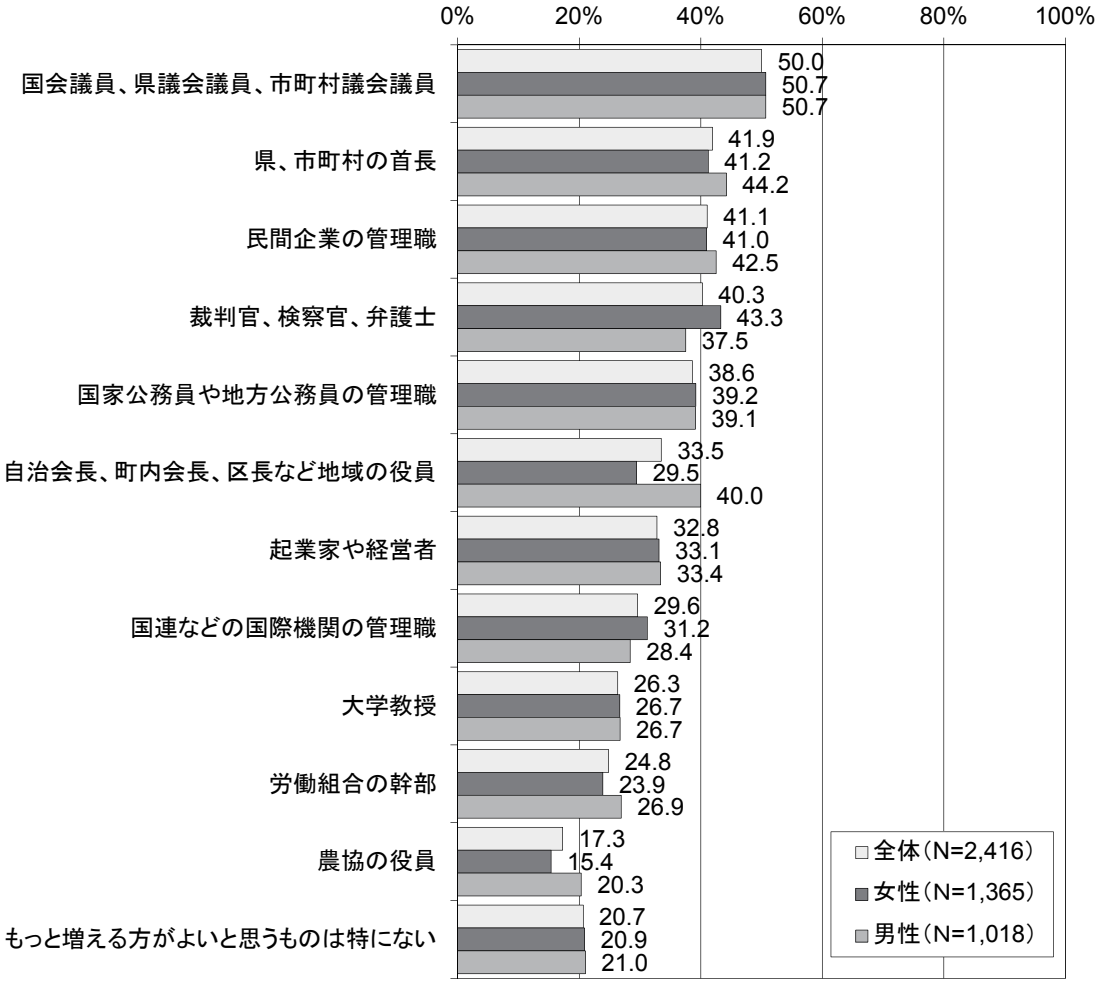
問 16	以下のような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うものはどれですか。（複数回答可）

【全体・性別】

- 男女とも「国・県・市町村議会議員」が約 5 割で最も高い
- 女性は「裁判官、検察官、弁護士」、男性は「地域の役員」が比較的高い
- 男女とも「特にない」は約 2 割

男女とも「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」（50.7%で同値）が最も高く、約 5 割となっています。次いで女性は「裁判官、検察官、弁護士」（43.3%）、「県、市町村の首長」（41.2%）、「民間企業の管理職」（41.0%）、男性は「県、市町村の首長」（44.2%）、「民間企業の管理職」（42.5%）、「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」（40.0%）が 4 割以上で比較的高くなっています。

また、男女とも「もっと増える方がよいと思うものは特にない」（女性 20.9%、男性 21.0%）が約 2 割見られます。



【性別×年代別】

● 男性 70 歳以上は「地域の役員」、それ以外は「国・県・市町村議会議員」が最も高い

● 女性 40 歳代は「国・県・市町村議会議員」「裁判官、検察官、弁護士」が同程度に高い

男性 70 歳以上を除くすべての年代で「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高くなっています。男性 70 歳以上は「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」（49.6%）が最も高くなっています。また、女性 40 歳代は「裁判官、検察官、弁護士」（51.4%）が「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」（51.8%）と同程度に高くなっています。

（%）		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
N=	女性	122	231	251	245	372	142
	男性	80	153	165	213	267	137
県、市町村の首長	女性	52.5	42.4	41.0	43.7	37.9	35.2
	男性	43.8	46.4	36.4	47.9	45.3	43.8
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	女性	55.7	53.7	51.8	51.0	48.4	45.8
	男性	52.5	54.9	43.0	53.1	52.4	48.2
国家公務員や地方公務員の管理職	女性	41.8	40.7	40.6	42.9	34.7	38.0
	男性	33.8	37.9	36.4	40.8	43.4	36.5
裁判官、検察官、弁護士	女性	44.3	49.8	51.4	45.3	35.8	34.5
	男性	40.0	34.6	36.4	40.4	41.2	29.9
大学教授	女性	30.3	30.3	25.1	26.5	23.1	30.3
	男性	25.0	26.8	27.9	29.1	27.0	22.6
国連などの国際機関の管理職	女性	29.5	33.8	31.9	31.8	29.6	31.0
	男性	28.8	24.8	28.5	31.5	32.2	20.4
民間企業の管理職	女性	39.3	48.1	49.0	41.6	34.1	33.8
	男性	48.8	41.2	39.4	46.5	44.6	34.3
起業家や経営者	女性	33.6	39.0	36.3	31.4	29.0	31.7
	男性	40.0	39.2	28.5	33.3	33.3	29.9
労働組合の幹部	女性	32.0	28.1	26.7	22.9	17.7	23.2
	男性	28.8	33.3	32.1	26.3	24.3	19.0
農協の役員	女性	18.0	17.3	14.7	14.7	12.6	19.7
	男性	17.5	21.6	20.6	22.1	21.7	15.3
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	女性	23.8	24.2	23.5	31.4	33.6	39.4
	男性	30.0	30.1	29.7	45.1	46.1	49.6
もっと増える方がよいと思うものは特にない	女性	15.6	16.9	19.1	21.2	25.8	20.4
	男性	21.3	21.6	25.5	18.3	21.3	19.0

【性別×職業別】

● 女性は学生を除くすべての職業で「国・県・市町村議会議員」が最も高い

● 女性学生は「県、市町村の首長」が最も高い

● 女性学生ほとんどの項目の値が最も高い

● 男性は職業によって傾向が異なる

女性は学生を除き、すべての職業で「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高くなっています。女性学生は「県、市町村の首長」（68.2%）が最も高くなっています。

男性は、回答者数が少ない専業主夫を除くと、常勤・自営・無職は「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」（それぞれ 51.3%、50.0%、50.9%）、非常勤・学生は「県、地町村の首長」（それぞれ 47.1%、40.0%）が最も高くなっています（学生は「裁判官、検察官、弁護士」と同値）。

また、女性学生は「起業家や経営者」「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」を除くすべての項目の値が最も高くなっています（「もっと増える方がよいと思うものは特にない）」を除く）。

（%）		常勤	非常勤	自営	専業主婦・主夫	学生	無職
N=	女性	256	374	87	493	22	120
	男性	522	85	148	5	15	232
県、市町村の首長	女性	44.5	39.0	37.9	41.6	68.2	38.3
	男性	43.3	47.1	38.5	80.0	40.0	47.4
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	女性	52.3	47.9	42.5	54.6	63.6	45.8
	男性	51.3	45.9	50.0	80.0	33.3	50.9
国家公務員や地方公務員の管理職	女性	44.1	36.1	28.7	42.0	50.0	34.2
	男性	38.3	38.8	41.2	60.0	26.7	39.2
裁判官、検察官、弁護士	女性	44.5	43.6	37.9	45.4	54.5	35.0
	男性	37.0	34.1	33.8	80.0	40.0	40.9
大学教授	女性	26.6	23.5	25.3	29.4	45.5	25.0
	男性	25.3	28.2	28.4	60.0	26.7	27.6
国連などの国際機関の管理職	女性	30.1	30.7	34.5	33.3	40.9	24.2
	男性	27.4	32.9	25.0	60.0	20.0	31.0
民間企業の管理職	女性	46.9	44.1	32.2	39.4	50.0	30.8
	男性	43.9	41.2	48.0	60.0	33.3	37.9
起業家や経営者	女性	30.9	33.7	41.4	34.5	31.8	25.8
	男性	32.6	29.4	40.5	40.0	26.7	32.3
労働組合の幹部	女性	26.6	23.5	16.1	24.5	40.9	20.0
	男性	28.5	32.9	24.3	20.0	6.7	24.1
農協の役員	女性	15.2	12.8	17.2	17.4	27.3	10.8
	男性	19.3	22.4	23.0	0.0	6.7	21.1
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	女性	21.5	27.5	31.0	35.1	36.4	26.7
	男性	35.2	38.8	44.6	40.0	26.7	48.7
もっと増える方がよいと思うものは特にない	女性	17.6	21.7	23.0	20.7	22.7	22.5
	男性	21.8	25.9	16.9	0.0	20.0	21.1

【地域別】

● すべての地域で「国・県・市町村議会議員」が最も高い

● 倉渕地域は「労働組合の幹部」「農協の役員」、箕郷・群馬・榛名地域は「特にない」が比較的高い

すべての地域で「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高くなっていますが、その中で榛名地域（42.4%）は比較的低くなっています。

また、全体傾向では比較的低い項目のうち、倉渕地域は「労働組合の幹部」（32.3%）や「農協の役員」（22.6%）、箕郷・群馬・榛名地域は「もっと増える方がよいと思うものは特にない」（それぞれ 26.8%、25.8%、26.5%）が比較的高くなっています。

（%）	高崎地域	倉渕地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	吉井地域
N=	1,602	31	127	229	81	132	169
県、市町村の首長	43.0	38.7	39.4	42.8	43.2	34.8	46.7
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	50.5	51.6	50.4	52.0	55.6	42.4	57.4
国家公務員や地方公務員の管理職	39.4	32.3	44.1	38.9	38.3	30.3	43.8
裁判官、検察官、弁護士	42.3	45.2	36.2	35.8	43.2	34.8	40.2
大学教授	27.3	22.6	22.0	24.5	29.6	24.2	29.0
国連などの国際機関の管理職	30.9	29.0	27.6	30.1	25.9	24.2	30.2
民間企業の管理職	42.9	32.3	41.7	37.6	40.7	37.1	41.4
起業家や経営者	34.5	29.0	31.5	27.9	34.6	27.3	34.3
労働組合の幹部	25.3	32.3	27.6	24.5	24.7	21.2	25.4
農協の役員	17.3	22.6	17.3	17.5	18.5	15.9	19.5
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	33.2	35.5	33.1	34.9	37.0	31.1	39.1
もっと増える方がよいと思うものは特にない	20.0	19.4	26.8	25.8	19.8	26.5	17.2

【性別×結婚経験別】

● 男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「県、市町村の首長」、それ以外は「国・県・市町村議会議員」が最も高い

男性「以前結婚していたが、現在はしていない」を除いて「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高くなっています。男性「以前結婚していたが、現在はしていない」は「県、市町村の首長」（39.0%）が最も高くなっています。

また、女性「結婚したことはない」は、「民間企業の管理職」（46.7%）や「起業家や経営者」（38.2%）が比較的高くなっています。

（%）		結婚している	以前結婚していたが、現在はしていない	結婚したことはない
N=	女性	1,054	145	165
	男性	783	59	175
県、市町村の首長	女性	42.3	30.3	44.2
	男性	45.0	39.0	42.3
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	女性	52.6	38.6	49.7
	男性	51.6	35.6	51.4
国家公務員や地方公務員の管理職	女性	39.9	31.0	41.8
	男性	41.5	28.8	31.4
裁判官、検察官、弁護士	女性	44.1	32.4	47.9
	男性	38.1	28.8	37.7
大学教授	女性	27.6	17.2	29.1
	男性	26.8	23.7	26.9
国連などの国際機関の管理職	女性	31.7	24.8	33.9
	男性	29.2	20.3	26.9
民間企業の管理職	女性	41.2	33.1	46.7
	男性	43.3	32.2	42.3
起業家や経営者	女性	33.3	26.2	38.2
	男性	34.1	20.3	34.3
労働組合の幹部	女性	23.9	18.6	27.9
	男性	26.1	25.4	30.9
農協の役員	女性	15.7	9.7	18.2
	男性	20.6	15.3	20.6
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	女性	30.3	26.9	26.7
	男性	42.0	33.9	32.6
もっと増える方がよいと思うものは特にない	女性	20.3	25.5	20.6
	男性	19.4	32.2	24.6

【性別×働き方別】

● 男女とも働き方にかかわらず「国・県・市町村議会議員」が最も高い

● 女性「どちらか一人だけ働いている」は「裁判官、検察官、弁護士」、男性「二人とも働いていない」は「地域の役員」が比較的高い

働き方にかかわらず、男女とも「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が最も高く、特に女性「どちらか一人だけ働いている」（56.6%）は約 6 割と比較的高くなっています。

また、女性「どちらか一人だけ働いている」は「裁判官、検察官、弁護士」（48.4%）、男性「二人とも働いていない」は「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」（48.4%）が比較的高くなっています。

（%）		共働きである	どちらか一人だけ働いている	二人とも働いていない
N=	女性	470	364	209
	男性	344	270	161
県、市町村の首長	女性	40.0	45.6	41.6
	男性	43.6	45.9	46.0
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	女性	49.6	56.6	52.2
	男性	49.7	54.4	50.9
国家公務員や地方公務員の管理職	女性	37.7	43.4	38.8
	男性	39.2	44.4	41.0
裁判官、検察官、弁護士	女性	42.8	48.4	39.7
	男性	36.6	40.0	37.9
大学教授	女性	24.5	30.5	29.2
	男性	24.4	30.0	26.1
国連などの国際機関の管理職	女性	30.6	32.7	32.1
	男性	27.6	31.1	29.2
民間企業の管理職	女性	43.0	43.1	33.5
	男性	45.6	43.3	39.8
起業家や経営者	女性	33.0	36.0	29.2
	男性	34.3	35.2	32.9
労働組合の幹部	女性	23.6	27.5	18.2
	男性	26.7	28.9	20.5
農協の役員	女性	14.0	17.6	16.3
	男性	20.1	21.5	20.5
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	女性	25.3	33.2	36.4
	男性	39.2	41.9	48.4
もっと増える方がよいと思うものは特にない	女性	20.2	19.5	21.1
	男性	19.2	20.0	19.3

【性別×他調査との比較】

● 男女とも群馬県より「公務員の管理職」「国際機関の管理職」「大学教授」は高く、「国・県・市町村議会議員」は低い

● 男性は群馬県や国より「地域の役員」が高い

群馬県と比較すると、男女とも「国家公務員や地方公務員の管理職」「国連などの国際機関の管理職」「大学教授」は高く、「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」は低くなっており、いずれも内閣府と同程度となっています。また、男性は群馬県と比較して「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」（40.0%）、「労働組合の幹部」（26.9%）が比較的高くなっています。

内閣府と比較すると、男女ともほとんどの項目が内閣府と同程度になっています。その中で、男性は「県、市町村の首長」（44.2%）や「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」（40.0%）が比較的高くなっています。

	（%）	高崎市	群馬県	内閣府
N=	全体	2,416	1,071	3,240
	女性	1,365	554	1,730
	男性	1,018	479	1,510
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	全体	50.0	55.4	51.6
	女性	50.7	55.4	51.8
	男性	50.7	57.2	51.5
県、市町村の首長	全体	41.9	42.1	40.3
	女性	41.2	38.8	40.8
	男性	44.2	47.0	39.9
民間企業の管理職	全体	41.1	40.8	42.3
	女性	41.0	41.2	43.4
	男性	42.5	42.2	41.0
裁判官、検察官、弁護士	全体	40.3	39.0	42.8
	女性	43.3	44.2	44.3
	男性	37.5	34.7	41.1
国家公務員や地方公務員の管理職	全体	38.6	34.5	38.1
	女性	39.2	33.8	38.4
	男性	39.1	36.5	37.9
自治会長、町内会長、区長など地域の役員	全体	33.5	30.8	29.1
	女性	29.5	26.5	26.5
	男性	40.0	35.9	32.1
起業家や経営者	全体	32.8	32.5	31.8
	女性	33.1	33.0	32.4
	男性	33.4	32.8	31.1
国連などの国際機関の管理職	全体	29.6	25.5	28.9
	女性	31.2	27.3	29.5
	男性	28.4	24.4	28.1
大学教授	全体	26.3	22.0	27.0
	女性	26.7	22.9	25.7
	男性	26.7	21.9	28.5
労働組合の幹部	全体	24.8	23.3	26.4
	女性	23.9	24.7	27.5
	男性	26.9	22.3	25.2
農協の役員	全体	17.3	15.6	18.5
	女性	15.4	14.8	17.7
	男性	20.3	16.9	19.4

※群馬県・内閣府との比較が可能な項目のみを、高崎市（全体）の値が高い順に表示

Ⅳ　男女共同参画についての意見（自由記入）

男女共同参画についての意見として、約 460 件が寄せられました。その中から、おもなものを掲載いたします。

【男女共同参画社会全般について】

・男女雇用機会均等法があっても、今現在も男女差別が存在しているのはなぜですか。もっと女性を尊重した方がいいのではないですか。これから女性の力が必要になってくると思うので、もう一度女性重視で考えれば男女ともにバランスのとれた社会になっていくと思います。[20 歳代 男性]

・互いの長所を称賛し、悪い点を互いに受け入れればもっと良くなると思います。[20 歳代 男性]

・なんだかんだ言って男と女の差がまた平等ではなくバラバラになっている感じがします。もっと男女が対等になればいいなと思っています。[20 歳代 男性]

・男は仕事をして女は家事をするという固定概念をもった団塊の世代の方々が職場にいる限り、男女共同参画社会の実現は実際に困難であると考えられる。義務教育の間に男女共同参画社会についての勉強をもっと行うべきであると思う。[20 歳代 女性]

・全く知りませんでした。もっと知る機会を増やしてほしいです。自分自身そういった事柄に興味を持たないというのも理由の一つですが、知らない若者は沢山いるのでは。働く女性がほとんどなので（私の周りの友人は）、結婚も遅いですし仕事を辞めたくないという考えから来るものもあるので、男女平等は大賛成です。[20 歳代 女性]

・男女平等といっても社会的にはまだ男女差別があるように思う。難しいですがそういう雰囲気というか偏見をなくしてほしい。女性が上司にいる会社が少なすぎる。いつまでたっても男女差別はなくならない。[20 歳代 女性]

・以前よりは社会的に男女の待遇の差はなくなってきている気がします。あとは、個人が積極的に男女差を意識せずに行動できるようになれば、さらに男女が平等に近い社会になるような気がします。[20 歳代 女性]

・男女平等という意識は若い子たちの中にはあると思うのですが、社会の制度（例えば給料が男女で違うなど）がまだ変わっていないと思うことが多いです。時代が昔と変わった今、制度も今に合ったものであることを望みます。[20 歳代 女性]

・50～60 歳代の方の男尊女卑の考え方を持っている人が多いように思われるが、個人の価値観は簡単には変わらないと思うし、必要がなければ変えないと思う。[20 歳代 女性]

・今後、男女共同参画社会がよりよく社会に反映されることを願います。[20 歳代 女性]

・まだ学生なので会社等でどのように女性が扱われているか分かりませんが、少しでも女性が男性と同じように意見を言える会社等が増えるといいです。[20 歳代 女性]

・教育機関などで子どもにもっと男女共同参画社会について啓発していくことが大切だと思う。また、社会でも特に中小企業では、男女間の地位格差が縮まっていないので、要職に就いている男性の意識を少しずつ変えていくことが必要である。[30 歳代 男性]

・現状がどうなっているのか、どのように変化しつつあるのかを広く公開する（アピールする）必要がある。[30 歳代 男性]

・女性が子ども（出産）に関してもっと積極的になれるような社会を作ってほしい。例えば子ども 3 人を経済的に養えるような社会で、子供 1 人当たり 5 万円は最低ほしい。これくらいしなければ日本経済、教育、社会貢献などの次世代の人口低下日本は他国にとられてしまう。[30 歳代 男性]

・一般的に一番多い職業は会社員であり、もっと女性が正社員として働ける場を増やすべきです。一般家庭の立場から言わせていただきますと、社会的地位の高い職業や職位に女性が増えたところで、いまひとつメリットは感じないと思う。[30 歳代 男性]

・田舎ほど男性の立場が上になっていると認識せざるを得ない場合が多いように感じる。特に結婚後は、女性が「嫁」と扱われ、対等ではない状況があったので、現状を理解していない人がまだ多くいるのを感じた。年齢が上の方は現状を知る手段がないのかなと思うのですが。[30 歳代 男性]

・いつか「男女共同参画」という言葉がなくなるくらい男女がお互いを尊重し合える社会になればよいと思います。[30 歳代 女性]

・（男女共同参画社会は）50 年とか 100 年計画になると思います。[30 歳代 女性]

・私は現在専業主婦ですが、4 年前までは個人事業主の元（従業員 15 人程度）で働いていました。女子社員は正社員でも朝と午後 3 時のお茶入れ、給湯室の掃除など、雑用全般をしていました。また、業務自体は男女同じなのに、給与面でかなりの男尊女卑がありました。これらの状況を是正できるような雰囲気はなく、おそらく現在も同じ状況でしょう。少人数規模の会社や個人事業主の職場では、未だに男尊女卑の感覚が抜けていないところも多々あると思います。[30 歳代 女性]

・男女共同参画は理想であって、現実は簡単にはいかない。会社や家族でも昔の考え方は残っているし、不利な気がする。[30 歳代 女性]

・基本的に男の人の方が大事な役目に就きすぎている。女の人が上の役職に就くのは無理だと思う。[30 歳代 女性]

・男性に比べて女性の給料が安すぎる。同じ労働時間、同じような仕事内容なのになぜでしょうか。[30 歳代 女性]

・女性をもっと積極的に正社員で採用してくれる企業が増えることを希望します。そして女性が働きやすい社会環境になってほしいです。子どもを預けられる場所をもっと作ってほしい。[30 歳代 女性]

・学校や公共機関で人権教育を重視して行うべきだと思います。また、市の行事の運営の組織や参加者へも人権の大切さを周知したら、男女共同参画社会の実現によいと思います。[30 歳代 女性]

・「男女共同参画」という名前は知っていますが、実際のところはすぐ変わるものではないという印象があります。まずは深く名前を広めるべきだと思います。[30 歳代 女性]

・男だからとか、女だからとか、そもそもそういった話題が上るうちは平等なんてならないと思う。[30 歳代 女性]

・やっぱり何事も男性に引っ張ってもらいたい気持ちですが、時代の流れで女性が頑張っていると思います。そこで、上に立つ人に女性がもっと増えることによって、女性の気持ちが分かってもらえることが協力関係のバランスにつながると思います。[30 歳代 女性]

・首長、起業家、労組幹部などに女性が増えるともっと女性の地位が上がると思います。他国に対しまだまだ女性の進出（地位向上）が遅れていると思います。男女共同参画計画会議等に女性の比率を増やしてあげないと平等な世になりません。何分にも女性の地位が低い時代が長かったから、平等になるにはまだ時間がかかることでしょう。[40 歳代 男性]

・男女共同参画を実現していくためには、市民ひとり一人の意識をどのように変えていくかが重要であると考えます。男女共同参画社会の基盤作りは法律でつくる事はできますが、意識を変えることに重点をおいた政策を講じていかなければ実現は難しいと考えます。これから調査研究を行っていく中でいろいろな方策を考え、強力に推進していくことが重要だと思います。[40 歳代 男性]

・私は最近まで工業生産系の会社に勤めていました。そこでは女性は事務職、男性は工場内で機械を扱う仕事というように分かれていました。男女にはそれぞれの能力に合ったやりやすい作業があると思います。個人的に男女平等というより、女性の地位立場の向上をうたった方が適当だと思います。それを実現させるための一番大きな要素は女性自身のやる気だと思います。[40 歳代 男性]

・男性も女性も（子どもと老人も含む）同じ人間である。従って憲法の定めにより人権が等しく保障されている。ところが「女性は子どもを産む機械である」と発言した無知な大臣が実在した。この様な男尊女卑的思考を防止するためには、教育の徹底が必要であり、日本の発展と繁栄に不可欠である。[40 歳代 男性]

・良い制度、正しい運用、良い市民が必要だと思いますが、どれも人間のすることなので、チェックが必要だと思います。地道にやりましょう。[40 歳代 男性]

・少子高齢、人口減少社会にあって女性の持つ力の活用が極めて重要。[40 歳代 男性]

・これからの社会は核家族中心ではなく、大家族的な昔の家族のあり方が必要なのかもしれない。その中で、皆が助け合って未来の子どもたちのために生きていけばよいと思う（理想）。男女平等はよいと思うが、やはりお互いに尊重し、足りないところを補いつつ、助け合っていけばよいと思う。男女差はあると思う。やはり男性が女性とお年寄りを守っていくべきだ。[40 歳代 男性]

・男女の格差機会均等の世の中になっていて、女性でもどんな事柄に関しても進出できる世間となっていると思います。ただ、女性に関してあまり積極的になっていないように感じます。せっかく機会が与えられているので、活用すべき。文句を言うより行動すべし、と思っています。[40 歳代 男性]

・国会議員、県会議員、市会議員、いずれも女性目線からのほうがすごくプラスになることが多いと思う。女性を最低何人としてもいいと思う。頭でっかちな男性より、よっぽど女性達のほうがいいと思う。[40 歳代 男性]

・男性からの見方を変えなければ対等にはなれない。制度はあっても考え方の心底まで変えないとまだまだ不十分。[40 歳代 女性]

・昔から住んでいる男性の老人の方達がえばっているのが気になります。[40 歳代 女性]

・「男女共同参画社会」、そんな素晴らしいことができるのであればうれしいです。そのためにはまず国、次に県、次に市がお手本を見せて、上からやっていかなくてはいけないのではないですか。綺麗ごとばかり言っている日本にはなりたくないですね。[40 歳代 女性]

・男女共同参画社会に関連するかわからないが、夫婦の姓について、別姓も含め自由にしてほしいと思う。結婚時に女性が男性の姓を名乗るのが一般的なため、女性はいろいろな改姓の手続きに追われたり、仕事上姓が変わり不利益を被ったりすることも少なくない。この点についてもっと議論が行われてもいいと思う。[40 歳代 女性]

・何かを変えようとするには周りの協力と皆の意識改革が必要になると思う。表面的（口だけ）にやっていても変わらない。群馬の人は、現状キープを好み、

変化をあまり好まない所があると思う。「博打のくに」ならではの特徴かもしれない。だから今までと違うことを始めようとする時には、しっかりとハッキリとしたものがないとなかなか変わらないと思います。[40 歳代 女性]

・男女雇用機会均等法は、民間企業では表向きであり給与採用に差がある。中高年の女性にとって絶対にと言っていいほど正社員の採用は無い。仕事の能力は若い人よりあるのに、結婚してすぐ辞めたり産休を取ったりする事はないのに、民間企業では中高年女性を採用の枠にも入れてもらえない。表向きだけである。パートの給料も同じ仕事でも男女の差がある所は多い。中高年女性の働きやすい環境を改善してほしい。[40 歳代 女性]

・男女に関係なく、能力や技術力は絶対評価し、役職に就けるべきだと思う。ただ男性という姿をしているだけで女性より上に見る傾向は世界共通の概念だと感じるのは私だけでしょうか。性別は持って生まれた宿命なので、社会や家庭での役割は果たしていきたいと思います。[40 歳代 女性]

・女性がもっと増えるとよい職種や役職について、「特にない」としましたが、東日本大震災時の避難所等の世話役の方々は男性陣が多く、せっかく女性に必要な物資が早いうちに送られていても受け入れてもらえなかったというようなことを見聞きしました。地方においては、まだまだ役所や地域の役員などはバランスのとれた社会ではなかったのだと痛感させられました。自分の置かれているところでは身近な問題としての認識はなかったです。一日も早く元気を取り戻し、日本中の皆が明るい希望を持って暮らしていけますように。[40 歳代 女性]

・仕事での女性の立場はやはり男性の補助的役割が多い。若い男性はそれほどではないが、ある年齢から上の男性は特にそう思っているところがある。[40 歳代 女性]

・男女雇用機会均等法施行の年、大卒で社会人になった私（48 歳）以下の年代には「男女対等」の考え方の浸透率が高いと思う。[40 歳代 女性]

・今回の市会議員選挙で女性候補者がトップ当選したことを良い契機として、高崎市を男女平等の中核市として全国にアピールする良い機会だと思います。[40 歳代 女性]

・中小企業などの「男女共同参画社会」は、現在では当たり前のように取組を行っている傾向にあるが、地域・社会ではまだまだ男性上位傾向があるように思える。特に自治会などは、年配の男性が「長」になる慣習や雰囲気があるように感じることが多々ある。年配者の男尊女卑意識（慣習）が高すぎるように思う。[40 歳代 女性]

・年齢が上の人に男性優位の意識を持つ方が多いように感じます。例えば地域の中から女性が活躍できる場が広がれば意識も変わるように思います。母子等保健推進委員、民生委員、主任児童委員は女性と特定するのも見直す必要があるように思います。[40 歳代 女性]

・男のくせに、女のくせに、というような言葉が無くなるような社会になったらよいと思います。[50 歳代 男性]

・女性の社会進出は命を中心とした優しい社会、戦争を起こしにくい国際社会等、良い点が多くあると思います。それぞれ男女が経済的自立をすることができれば幸せで豊かな人生が送れるのではと思います。[50 歳代 男性]

・すべての社会の既得権、社会通念上の固定観念を捨て、女性が参画すべき。「女性がもっと増える方がよい職業や役職」は無意味だと思う。[50 歳代 男性]

・義務教育段階での啓発活動の推進（性差を含む、個人の尊重、意思の尊重など具体的に教育）、経済的自立（最低賃金の引上げなど）、カウンセリング機会の向上[50 歳代 男性]

・バランスのとれた社会を目指すのであれば、公務員の天下りをなくすことが一番いいと思う。[50 歳代 男性]

・妻がパートとして働いていますが、労働人数については非常に少人数制であり、個人の人権を無視（昼食をとらせないで働く）した経営者であり大きな問題であると思っています。是非行政指導をお願いします。[50 歳代 男性]

・戦前の教育を受けた世代に男尊女卑の考え方が強く残っているようなので、この世代への啓蒙を強く望みます。小中学校での指導もしっかりお願いします。[50 歳代 男性]

・さらなる男女平等の推進、策定、実践。[50 歳代 男性]

・労働組合の幹部に女性がいることは大切だ。[50 歳代 男性]

・この内容を考えたのは男性が多かった様に見られる。[50 歳代 男性]

・男性社会は今まだ続いていると思います。[50 歳代 女性]

・仕事の賃金に男女の差がありすぎる。能力によって決まるようにしてほしい。[50 歳代 女性]

・脳科学的にも視野の広い女性が社会に広く出て行けることが理想だと思っています。[50 歳代 女性]

・人間に生まれて自由に自分のしたい事やしなければならない事に積極的に参加でき、男女の差を感じずできるような社会に身を置きたい。それにはそれを受け止める教養等を身に付けた人間を育てなければ

ならない。家庭、地域、社会がよりよい選択肢であるよう心より願います。[50 歳代 女性]

・女性が意見を言える場所が増えるような社会体制が築かれるようになることが必要であると思います。アンケートにあるような様々な職業や役職に女性がどんどん進出することを期待しています。今こそ女性の知識とパワーが必要な時です。女性をいろいろな場面で活用してほしいと思います。[50 歳代 女性]

・家庭に入っているお母さん（専業主婦）は、自分は社会に対して収入もないし役に立っていない、周りから認めてもらえないと思う事がある。子育ては当たり前ではなく、もっと家庭や周りからきちんと働いている大事な事と認めてもらえるようになり、本人が必要とされていると実感できるといいと思う。[50 歳代 女性]

・働いている場合（同じ内容）は男女の差はなしで良いと思います。[50 歳代 女性]

・群馬県の公立高校をすべて男女共学にすべきです。以前、群馬県男女共同参画の講演会での講師の先生が、積極的優遇措置を取ることについて話されました。仕事は女子の数を決めて採用するという方法で女子を増やすようにするということでした。是非、いろいろな所で実行してほしいです。また、女性のための講座を市でも企画していただきたいです。[50 歳代 女性]

・生まれた時から男女共同参画社会になるような状況をひとり一人にほしい。教育においても学ぶことを多くし、ひとり一人が自然に男女共同参画社会を自覚していくように成長していく方向へ進むことを願います。[50 歳代 女性]

・高等学校の教員をしていますが、学校運営の中で明らかな男女差別があります。男性中心で女性は運営の中核に入れない現状があります。女性の管理職を増やし、学校運営の中で有能な女性を登用していくことを望みます。また設備面も女子高の設備が劣悪すぎる。この様な事を正式に言える発言の場を行政で設けてください。[50 歳代 女性]

・高崎市男女共同参画セミナーの講演会を聞きに行かせて頂きました。聞いてよかったです。ありがとうございました。[50 歳代 女性]

・男女共同参画社会は、少しずつ進んできていると思いますが、社会全体を見ればまだまだ男性の方が優遇されていると思います。もっともっと女性が声をあげて社会を発展させていかなければならないと思います。[50 歳代 女性]

・バランスがとれる社会という意味では幼稚園や保育園は男女の対等な協力関係がとれていないように思います。もっと男性主導のものがあってもいいと思います。[50 歳代 女性]

・食事の準備ができていて食べるにしても、おいしかったとかの一言は言ってほしい。食欲がなく、食べられない時は早めに連絡をしてほしい。家族の喜びそうなものを進んで自分から買ってくるなどたまにはしてほしい。仕事で疲れるのはよくわかるが、子どもに声をかけてご機嫌をとったりなどもたまにはしてほしい。自分の部屋に閉じこもり、出てこないのは寂しい。[50 歳代 女性]

・今の私達の年齢では、男女均等はない。でも未来の子ども達の時代には男も女も差別のない時代が来ることを希望しています。[50 歳代 女性]

・単なるスローガンでなく、実効性のある政策を。東京から群馬に転居してきたが、小中学校の管理職が男性ばかりなので驚いた。[50 歳代 女性]

・人権が等しく尊重されるには、自身の資質向上を地域や職場等を通して努めなければならないと思います。[50 歳代 女性]

・男女の人権は等しく尊重されるべきだと思いますが、人権が等しく尊重されるということを人は思い違いをし、主張をすることも多いのではと思います。男女のなすべきことが違う面も社会ではあると思うので、そこを含めて考えていくことが大事だと思います。[50 歳代 女性]

・市の男女共同参画計画で、アンケートの「職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うもの」に挙がった役職について、女性割合の数値目標を入れてほしい。少なくとも市の管理職についてはポジティブ・アクションを推進すべき。[50 歳代 女性]

・対等な協力関係で築き上げるバランスのとれた社会は理想であるが、市議会を拝聴させて頂いたが男性がほとんどで年長者が多い。これでは女性の意見は取り上げられないと直感した。市議に限らず選挙はお金がかかる。おいそれと出馬できない。どうしたら女性が広く活躍できるのか、男性にも考えて頂きたい。[50 歳代 女性]

・男女共に相手の人格を敬い、一人の人間を慎重に思ってほしいです。皆平等なのですから。[60 歳代 男性]

・子どもを社会全体で育てる仕組み（ベビーシッターの活用等）を充実させ、男性とハンディが無くなることが必要と思います。社会が情報（マスコミ、映像など）に左右され過ぎ、知的な考え方や判断ができなくなっています。政治の的確なリーダーシップが何より大切だと思います。[60 歳代 男性]

・男女は等しく平等であるはずだが、現実は異なる部分が多い。男性も女性に対して人格を尊重し共同で未来に負を残さない社会をつくるべきだが、女性（特に若者層）も社会の一人として自覚をもつ努力をしてほしい。[60 歳代 男性]

・男女対等な仕事、それに対する平等な報酬を得る社会をつくる。[60 歳代 男性]

・(男女共同参画社会が) 一日も早く実現することを切望する。[60 歳代 男性]

・大変でしょうが男女平等のためにがんばってほしい。[60 歳代 男性]

・時々市役所へ出向く時、思う事がありますが、女性の管理職が少なく思われます。有能であれば若い女性の管理職の登用を行うべきではないでしょうか。私なりにそう思っております。[60 歳代 男性]

・気持ちの中では理解しているのですが、世の中の流れがまだまだそのように向いておりません。流れに沿って生活していかなければなりません。早くもっと女性がいろいろな所に参加してほしいと思います。[60 歳代 男性]

・最近まで民間企業に勤務していたが、性別に関係なく能力があり責任感や義務感がバランスよく備わっていれば活躍の場は広げるべきであり、その方向に向いていると思う。[60 歳代 男性]

・建前や形だけの男女共同参画社会ではなく、人としての人権が尊重される社会をひとり一人が目指し、人間がみな平等で対等な協力関係を目指すこと。まず、自分自身で実感することです。その積み重ねが大事です。[60 歳代 男性]

・バランスのとれた個々人の集合は、バランスのとれた地域社会をつくります。一方において、日常のニュースに接するにつけ、バランスの取れていない出来事が多々あります。社会的に地位の高い人や指導的な立場にある方々の自覚が不可欠と思います。[60 歳代 男性]

・地方の郡部へ近づくにつれて、男性優位の意識が強く感じられる。男女が平等な立場で意見交換が実現できれば変わっていくのではないでしょうか。まずは、地方自治体が変革を進め、変えていくことが大事ではないだろうか。[60 歳代 男性]

・女性にももっともっと役職を与えて、社会に参加する機会を多くして､責任を持たせる方がよいと思う。[60 歳代 男性]

・町内および市の方で男女共同参画社会について市の皆さんに広報が足りない気がする。さまざまな機会を通じてアピールしてほしい。[60 歳代 男性]

・多くの女性には、自立した生き方を避け、自分の意見を言わず、責任が伴うことに関わらない傾向がある。私はもっと表舞台で女性が発言することを期待しています。[60 歳代 男性]

・男女共同参画社会は大変結構ですが、副産物として中性的な人間が増大し、かえって社会の活力を損なう。男か女か、訳がわからない人間が増し、変な社会になるだろう。[60 歳代 男性]

・男女共に尊重し、協力しながら物事を進めていくことである。[60 歳代 男性]

・男女平等とは両性の差異を認めつつその差異に価値の上下をつけないことにあると思うので、等しくとか対等とかは意味が違うと思います。「なでしこジャパン」のように次の主役は女性です(男性は償却済)。[60 歳代 男性]

・今も民間企業の中の管理職の人の男性は、男女の差別を平然と口にする人がいて、若い女性が辞めていく時(リストラ等も) ひどい暴言を言われたと、その人の知人や本人から聞いています。もっと広くこのことを教育して、そんなことがなくなるとよいと思います。[60 歳代 女性]

・バランスの取れた社会というには、議員、公務員等、男女半分ずついた方がよいと思います。[60 歳代 女性]

・女性は出産や育児があるためハンディは避けられない。社会、家族の協力が必要だと思います。女性でも力のある方は沢山いると思います。[60 歳代 女性]

・最近の世の中全て変です。どうしてこうなったのか。「なぜ」と新聞、テレビ、雑誌など身近な情報に接したりする度に思います。あれやこれやと言う前に、もっと優しくお互い思いやりを持ち、助け合い、信頼し合い、自然体で気持ち良く生きていけないでしょうか。男らしさ、女らしさを尊重し合うこと、それこそ対等なのだと思っています。生きる事は強い力が必要です。自然を大切に、健康で一日一善思いやりの心を持って私はポジティブに年を重ね元気に生きて全ての関わり合う人と仲良く共に前向きにこのまま過ごしていきたいなって思っています。[60 歳代 女性]

・市町村の長に女性が選ばれるべきである。そして役所の各長に多く女性が用いられるべきである。裁判の長についても同様である。[60 歳代 女性]

・男女共同参画社会の PR をもっとすべきだと思います。男女共同参画社会という言葉を聞いたのは発足してすぐでしたが、私自身が性差に対することに今まで風習や慣習等により深く考えた事がなかったような気がします。自分の仕事で性差に対する一般からの作文を募集し、座談会の取材をした時に、若い人たちは男女平等という考えが浸透しているように思われました。[60 歳代 女性]

・私達の年代は、女性が積極的に行動するということに抵抗があるようですが、現代は女性も積極的に行動できるようになりましたが、アメリカとか先進国では女性が重要なポストについている方が多いので、日本も女性が大いに社会進出できるようになったらいいなあと思います。[60 歳代 女性]

・組織の中（政治、行政、職場、学校、地域等)の意思決定の場に必ず同数の男女が配置されるべきと思っ

ています。それにはやはり教育が大切で、自分の考えや意見を個人として発言または表現する機会を設けて、さらに訓練することが必要と思います。震災後、特に個人の判断が必要とされる時代に入ってしまったと改めて覚悟しています。[60 歳代 女性]

・市の中心部と比較して、農山村部ほど女性の地域社会等への参画は消極的と思う。文化、施設などから遠隔地にあり、積極的になれないことなどに影響しているのでは。[60 歳代 女性]

・まだまだ男社会になっている。「女のくせに」と頭にこびりついている面があります。[60 歳代 女性]

・男女の差別なく、もっと女性の能力が引き出され、女性が活躍できる社会を希望しております。[60 歳代 女性]

・公民館サークル活動、やはり女性がとても多く参加されています。社会的には男性が優遇されていると思いますが、地域、趣味、ボランティアの世界では、まだまだ男性は消極的かなと思っています。[60 歳代 女性]

・運動クラブに入っていますが、最近、意見を言ったら男性に「女のくせに」と言われた。まだまだ 70 歳以上の男性は男女平等だとは思わない人がいるのではないか。[60 歳代 女性]

・市議会議員や県会議員に女性を増やしてほしい(特に若い人)。[60 歳代 女性]

・男性に向いていること、女性に向いていること、これは体力や本能や判断力や知力といった、男女それぞれ生まれ持って自分たちにあるものをうまく生かして、助け合い、協力し合ってというのが願いです。男性、女性それぞれ行動力や直感力と得意なものを持っているので、2 つをうまく足していけば小さいことが重なって大きなものが完成されます。[60 歳代 女性]

・社会的にはずいぶん改善されてきていると思うが、家庭内となるとやはり女性に負担が多くかかると思います。親の介護問題についても福祉施設の利用等で軽減されていますが、家の中での介護は嫁の立場の方が面倒みているのが多いようです。[60 歳代 女性]

・高崎は女性議員が少ないですね。議員になろうとする人がいないのか育たない理由は何ですか。中曽根、福田時代が長くて女性進出の芽をなくしてしまったのでしょうか。これからは市役所内も議員にもたくさんの優れた女性が出る事を祈っています。[60 歳代 女性]

・地域社会においてまだまだ女性が役員になったり、意見を素直に取り入れて（補助的ではなく）物事を処理する事が少ない。そのような状況から地域に対する関心がいま一歩深くならない。同じ様な事が繰り返されると「あ～あの人ね」「あ～あそこの人はね」といった言葉が地域の中に広がり身動きできなくなる。結果地域から離れていく（独立していく）。[60 歳代 女性]

・まだ女性軽視の社会である。「女のくせに」「女は黙ってろ」等の言葉を聞く。今の男性はずるい、責任感がない。今世の中に侍（気骨があり思い切った行動が出来る人）がいない。大和魂をもった男性、女性をつくる教育をしたら世の中変わっていくと思う。男女とも中途半端でそれぞれの責任を果たさない。[60 歳代 女性]

・社会、職場、地域、家庭のあらゆるところに男性優位の思想が根底にあることが日常的に感じられる。それはある時には屈辱的に、あるいは怒りを持って感じられる事すらある。分担分業はある程度は認めるが、男女問わず個々の思いの中に男女平等そして相手を思いやる気持ちとして育っていく社会環境がほしい。[60 歳代 女性]

・女性という人間は子どもを産むという一大事があります。子どもを育てることは産んだからこそ女性にしか分からないことが沢山あります。そのことから毎日の生活、仕事など色々な事についての考え方が全部そこから始まるように思えますので、知恵も機転もきくようになると思います。それが社会全体でとても大きな役割を持つと思いますが、一方女性特有のマイナス部分（考え方）を教育の場で学ぶとよいと思います。[60 歳代 女性]

・対等な社会を築くには教育が大切。小中学校の先生の質の向上を求めます。勉強だけでなく人間的なモラル等にも重点を置いてほしいと思います。[60 歳代 女性]

・教育では男女ともに同じに受けて学歴があるにもかかわらず、社会に出るとまだ差別されていると思う。特に一般企業では女性の管理職が少ない。結婚して子どもができると退職する場合が多いが、仕事を続けて女性の地位向上に努力してもらいたい。[60 歳代 女性]

・30 歳代、40 歳代の女性が子どもを育てる良い環境を。[60 歳代 女性]

・男女別学の高校を全て共学にするべきだと考えます。人格形成の大事な時に共に生きる経験が大切だと思います。[60 歳代 女性]

・男女の人権が等しく尊重され、対等ということは今の社会ではとても難しいことと思います。人々、特に男性の考えを変えないことには、本当の男女平等にはあと 20 年くらいかかると思います。[60 歳代 女性]

・まだまだ日本は男中心の社会になっていると思うので、もっと女性に頑張ってもらって、女性の視点で考えを発表してもらったら、もっと暮らし良い社会が生まれるかもしれないと思っています。とにかく

今は男に都合のいい社会になっています。残念。[60歳代 女性]

・男女共同参画社会に大賛成ですが、まだまだ女性の進出が少ないように思われます。女性のきめ細やかな感覚があってこそ男性の能力でもっと拡大されていくと思われます。お互いの良さが調和されてこそ、バランスのとれた社会が築かれていくと思います。[60歳代 女性]

・最近は女性の意見を多く受け入れられる傾向にはありますが、社会において役職の高い人種、女性に対する差別的な考えを持っている人が多いように思います。[60歳代 女性]

・小学生から教育の中で正しく導いていく。特に親が意識しなければいけないと思う。何事にも小さなことからが必要だと思う。[60歳代 女性]

・女は不浄なもの、女のくせに、女なんて等、これらの言葉が使われない世の中になってほしい。男中心の時代が長いので、まだ耳にする。時間がかかってこれまでになったように、まだまだかかるのかな。[60歳代 女性]

・一般的に見て男性は仕事、女性は家事とすると、どう見ても男性は一日中仕事をして、休日は家事などに興味も関心もなく、協力もできない。明日への仕事のための体と心の休みも必要だろう。主婦は一年中休みという日はない。特に私の家は自営業なので完全な主婦とはいえない。頭にくるくらい手伝いをしない夫は、女性がいなくなって初めて妻の大切さを分かってももう遅い。でもそれは永遠にわからないだろう。収入のある、ない、仕事の忙しさの度合いによっても男女の差はできると思うが、常に相手を思いやる気持ちは必要と感じる。何もしてくれないのなら、せめて一生懸命家族のために頑張っている私の足は引っ張らないでほしい。[60歳代 女性]

・結婚について。離婚には二人の努力が必要。相手の何に満足しないのかが問題で、積み重ねて作っていくもの。女性の職業や役職について、肩書で偉ぶらなければどんな職業でも進出してほしい。[60歳代 女性]

・女性議員が多く出てほしい。[70歳以上 男性]

・先進諸国、特にヨーロッパにおいては国のトップをはじめ企業、公務員等完全なる男女共同参画社会が形成されている。日本も一日も早く対等な立場での特に女性の考え方の一層の向上を期待したいと思います。[70歳以上 男性]

・男女共同参画社会というと欧米がモデルのような印象を受けますが、私の印象では、表面ではそんなように見えますが、実際には男性が実支配をしています。だからより共同参画を強調するところもあるのでしょうか。そんな中で、活躍する女性は真の意味で実力派です。表面的に流されることなく、実質的な共同参画社会に向けて努める視点を失わないことが望まれると思います。[70歳以上 男性]

・住みよい社会の創造には男女共同参画社会は必要である。家庭生活内の男女共同参画において、男女の役割分担は必要であり、協力することが必要である。学校教育でも男女共同参画について、平等の認識やジェンダー等での活動を推進させることも必要である。[70歳以上 男性]

・現実問題として、地域社会や家庭内に定着することが如何に大変なことか、長年努力することが必要だと思います。[70歳以上 男性]

・労働人口が伸びないこともあり、女性の進出に期待する。[70歳以上 男性]

・まだまだ理想と現実の差は非常に大きく感じます。[70歳以上 男性]

・市役所関係においても、女性の力をどんどん活用されるよう望みます。[70歳以上 男性]

・大いに男女共同参画社会が広がるべきだ。[70歳以上 男性]

・女性で優秀で有能な方がたくさんいると思う。そういう方をどんどん能力を伸ばして、世の中に生かせていただけると、世の中ももっと変わるのではないかと思います。[70歳以上 女性]

・仕事柄、男女共同参画社会についてすごく関心があります。男女平等をもっと推進してほしい。女性の意識をしっかり持たせ、女性にしかできない出産、仕事等について遠慮しないで堂々と働ける社会を作ってほしい。DV、ジェンダーの知識は学生にも教えてほしい。もっと真剣に考えてください。町内でなぜ長老が頑張るのか。若い人に地域の役員を譲ってもよいのでは。市はなぜ女性をいろいろな場所に任命しないのですか。例えば公民館長、区長など、選挙の立会人も女性にもさせてほしい。公募はしないのでしょうか。小学生から男女共同参画社会を教えてください。[70歳以上 女性]

・この問題は21世紀になってもまだ多くの課題であると思います。特に地方都市では考えさせられる部分が多く、女性は苦労されていると思います。小さな社会、家庭、ここでは問題提起がたくさんされると思います。女性はまだ我慢していることがたくさんあると思いますが、期待をしています。[70歳以上 女性]

・設問「今後女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職」について、自治会長や町内会長、区長などの地域の役員に女性がほとんどいないのが気になる。[70歳以上 女性]

・男女平等とは言っても現実の家庭、社会では男性の優位意識はなかなか変わらないと感じている。日常の言葉、言動の端々に出てきて呆れているというのが実感だ。役所、会社などで率先して実践し、PR

活動を繰り返し続けることが大切だと思う。[70 歳以上 女性]

・男性、女性の本質的な特徴は尊重しつつ、男女共同参画社会は当然のことと思います。[70 歳以上 女性]

・市議会議員、県会議員、国会議員、大臣共に女性に任せてみれば世の中変わると思う。現在の男性のバカさかげんにうんざり。頭の良い働き盛りの女性もっともっと頑張って。[70 歳以上 女性]

・自己中心的な配偶者によって我が家は散々です。家族を思い通りに支配しようとか、統制しようとか、そういう意識が強く、各々の人権などどこへやら。育った年代の社会環境、家庭環境で大きな違いはあるものの、今時まだ古い考えを通そうとしている。仮面夫婦で 40 年暮らしてきました。もしかして、アスペルガー症候群なのかもしれません。[70 歳以上 女性]

・男女共同参画社会は理想ですが、現実には女性が不利な世の中であると思います。年齢の若い世代では平等なように見えます。年齢に関係なく、いろいろな考え方があると思います。自分の意見がお役に立てれば幸いです。[70 歳以上 女性]

・役に立つ確実性はないが、「男女共同参画」の言葉が浸透することによって次第に共同化されるのではないか。75 歳の私の人生からすれば、びっくりびっくりで、大変革である。6 人制バレー（民主主義）、サッカー（自主性）、家族も社会も一度にはこうならないが、可能性は期待できる。その間に今の政治のように幼い時間もある。仕方がないがあきれる。[70 歳以上 女性]

・男女共同参画社会を作りたいと思います。[不明 男性]

・私は地域活動を仕事、家事等と共にしておりますが、地域活動などはやはり男性が多いです。その男性に自分の妻をそのように活動させているのかと聞いたところ誰もいなかったのが事実です。やはり今の社会は昔からの習慣で男性優位と言わざるを得ません。また、男女ともその意識が根強くあると感じています。男性や年配の人の意識改革がとても重要であると思います。[年代・性別不明]

・男女平等というのはバランスが非常に重要になってくると思います。このアンケートにあったように女性の社会的地位を上げることには基本的には賛成です。しかし男性の中にも女性（並みに）より心がナイーブな方もおられ、全てがその人たちに当てはまると思えないです。そして男性・女性は身体的特徴もあり、社会の役割やこなせる仕事があり、その中で差別をなくしバランスのとれた社会を作っていくのは難しい。全くの平等の社会というのはそもそも無理なのでは。平等に近い社会を目指す事が現実的である。[20 歳代 男性]

・女性に対しての改善できる点も全体的にあると思いますが、世の中の流れに乗って逆に女性が優遇されてしまったり（飲食店や買い物の女性のみ割引等）、男性ばかり優遇されているという考えで法律があるから、直ぐセクハラと言えばいいと思ってしまっているような点もあると思います。男女平等という基本的な考えを定着させたうえで、男女の体のつくりや体力等違いがある部分を勘案していただき、世の中の皆さんが市政によって本当にしようと思っていること、伝えたいことを理解できるとき、バランスのよい社会を築いていける第一歩になると思います。個人の意見ではありますが、ますます前進していく社会づくりを祈ります。[20 歳代 男性]

・男と女は別のものなので、全てにおいて平等である必要はないと思います。それぞれの特徴を生かせるような社会になれば良いと考えます。[20 歳代 男性]

・机上の空論だと思う。「等しく」とか「対等」とか。男性には男性の優れたところがあり、女性には女性の優れたところがある。もちろんその中でも個性はありますが。私は男女を等しく見る社会より男性は男性の優れたところを、女性は女性の優れたところを伸ばす社会のほうがよいと思います。[20 歳代 男性]

・男女が同じことを必ずしもできるわけではないので、特徴をよく考慮して、お互いにそれを生かせるような社会がよいと思います。[20 歳代 男性]

・能力やできることに違いはあると思うが、お互いが尊敬し合って協力できることが望ましいと思う。今は男性の方が我慢していることが多い時もあると思う。[20 歳代 男性]

・現在男女の能力を無視した女性主体のバランスが崩れてしまった社会を目指そうとしている。男女の能力は平等ではないのだから、それを含めたバランスを考えた方が良い。[20 歳代 男性]

・時として男女の性別を理由とする区別的な扱いは必要であると思う。状況に応じた役割分担は大切である。男性にしかできない、女性にしかできない仕事は少なからず存在するし、それについても平等を推し進める必要はないと思う。男女が共に納得のいく状況や認識を創造することが大切であると思う。[20 歳代 男性]

・各々の特色や個性を生かせる環境や社会のシステムを創れたらよいと思う。女性が得意だったり男性の方が得意だったりするので、男だから女だからではなく、広く人間として考え、見てとらえるべきと思います。[20 歳代 女性]

・異性に気を遣うのと、平等とは違う。そこを間違わないようにしてほしい。組織内でいうと、少し女性が多いほうが男性を持ち上げてくれるし、良いバランスが取れると思う。[20 歳代 女性]

・シンプル is ベスト。[20 歳代　女性]

・ただ単に男女同じにすればよいのではないので、男女の違いを理解したうえで対等になれるように働きかけてほしいと思います。[20 歳代　女性]

・男女の関係なく、能力のある人が適材適所で自由に働けたらそれでいいと思います。[20 歳代　女性]

・今ではほとんど平等には感じるが、根本的に男性と女性の性質役割が違うと思うので、それぞれの長所短所を生かして家庭でも社会でもやっていけたらと思います。年代別によってもまた思い方感じ方が違うので、昔はこうだったという教えも大切に思うけど、時代が変わっていくので新しく変化していかなければいけない部分もあるのではと思います。[20 歳代　女性]

・個人の意識の変革が一番。女性が社会に進出すべきというよりも、育児・家事も重要な社会的役割のひとつであることを全員で認識していくことが大切だと考えます。[20 歳代　女性]

・生理的に全く異なる男女を平等にするということにそもそも疑問を感じてしまう。そのような面で見たとき、それを本当に平等と呼ぶのか。確かに権利は平等に与えられるべきだと思うが、何もかも全て同じフィールドに立たせ、競わせることに対して平等であるとは言い難いのではないか。[20 歳代　女性]

・「さらなる男女平等を」と言われているが、逆に女性だけにサービスがされていたり、優遇されている事も目にします。平等をうたうのであれば、何をもって平等とするのかもっと具体的にすべきと考えます。また女性有利になっている事に対して何も言わないのであれば、男女平等というのは筋が通っていないのですっきりしません。[30 歳代　男性]

・男女の人権が等しく尊重、対等な協力関係をつくる社会は良いと思う。だが、今の社会は今まで女性の地位が低かったために、それなりの政策をすることにより不公平が生じていると思う。そもそも男とは、女とは、平等とは、を根本的に考える必要があると思う。例えば母子家庭は医療費が無料だが、父子家庭はかかる。不公平では。いくら男が働いているから年収が多いからといっても共働きが増える今後、女性の地位を上げるだけでなく、ちゃんと社会を見つめて行動していかないとダメだと思う。[30 歳代　男性]

・韓流ブームによりテレビでワーキャーとはしゃいだりグッズを買ったりする姿を見て、対等な協力関係ができるのか些かわからないと思う。韓流の人気タレントは私にとってどうでもいいことであり、日本の女性アイドルグループは興味を持つが、男と女はどこまで理解するかが問題だろうと思う。[30 歳代　男性]

・男女というのではなく能力で採用すべきでしょう。単に表向き数だけ女性を増やすのはナンセンスです。[30 歳代　男性]

・やはり男性には男性の、女性には女性の役割があり、皆がそれぞれ幸せに生活していくには、仕事、お金、時間どれも少し余裕のある生活ができるような社会が望ましい。今の社会は忙しすぎて余裕がない。[30 歳代　男性]

・男だけの社会でも平等なんてありえないと思う。平等を求めるより、教育で平等の意味を考えさせることが大事だと思う。職業や役職については、数のバランスだけではバランスのとれた社会とはいえない。平等の意味は難しい。[30 歳代　男性]

・女性の社会進出に関しては賛成であるが、そもそも男女がすべて平等という考え方は不可能であると思う。全体のバランスとして、トータルで平等であればそれで良しとするのが現実的であると思う。[30 歳代　男性]

・女性の社会進出により、出生率が低下しているのであれば、社会として改善しなければなりません。男女の人権が等しくあるべき。尊重された次のステップで、どうしたら子どもを育てやすい環境を整えていくことができるか教えていただきたい。[30 歳代　男性]

・社会全体的にみれば、男女平等になってきていると思います。ただ、何でも平等というのはどうなかと感じています。男は男、女は女でしかできない事も沢山あると思うので、それを踏まえてバランスのとれた関係ができれば素敵だなと思います。男らしさ、女らしさというのはとても重要で大切な事だと日々思っています。[30 歳代　女性]

・思いやりを大切に尊重しあえればいいのでは。うちは主人がとても思いやりのある人なので。[30 歳代　女性]

・ひとり一人が男女の枠にとらわれずに、自分自身がやりたいことをできる社会になればよいと思う。まずは自分の意識を変えることです。子育ての負担はやはり母性に多くかかっているので、家事を助け合い、社会全体でサポートできるようにして、女性も社会で働き、男性も家事の時間を多く割けるような環境にしていきたい。[30 歳代　女性]

・男女が完全に平等になるのはあり得ないと思う。生物学的に無理だと思う。（DNA が違うから）そこまで平等にこだわる必要も分からない。世界的に見ても男性社会であることは変わらない。そもそも今まで個人的に女性的差別と感じるような事をされた事がない。古代から男女のバランスなんて変わっていないと思う。[30 歳代　女性]

・男性には男性の良いところ、女性には女性の良いところがあると思います。男性も女性も「すべて平等

に」というのは難しいと私は思っています。理想は、お互いの良いところを伸ばし、使っていける社会。「女性だからできない」ではなく、「女性だからこそできる」という見方が大切だと思っています。「性」の違いを分かりあえる、お互い補い合える関係が築けたら素敵だと思います。[30 歳代 女性]

・男であろうと女であろうとどんな立場でも平等というのはあり得ないと思います。全て条件が違うのだから。なのでどんな立場の人でもそれぞれの個を尊重し、優しく思いやることが大切だと思います。そんな心を持った子ども達を増やしていくことが未来につながっていくことと思います。[30 歳代 女性]

・男女の平等のはき違えを提唱しているように見える。女性は出産したり、女性にしかできないことをもっと大切に教えたりして、そういう女性を大切に思い、扱うことを男性に学んでいただき、簡単に子どもがセックスしたりするようなことを予防する社会にしてほしい。個人の尊厳、命の尊さを、男女の役割の違いを子どもに教育してほしい。そして、行き過ぎた性教育は絶対にやめてほしい。[30 歳代 女性]

・男女それぞれの特性を生かした形での協力が本当の平等だと考えます。そっくり同じというのはむしろおかしいのではないかと考えています。[30 歳代 女性]

・男女は平等ではあるが、同等ではないので、それを踏まえて特性を考え、築ける社会になってほしい。[30 歳代 女性]

・過度のジェンダーフリー教育はいかがなものかと思うが、男女共同参画を目指すには学校での教育が必要と思う。ただし、行き過ぎとならぬよう注意が必要だ。[30 歳代 女性]

・性別に関係なく、実績や能力（資格など）によって評価され、人間性が加味される社会が望ましいと思います。[40 歳代 男性]

・男だとか女だとかジェンダーの差をことさら強調する事自体ナンセンスだと思います。特に群馬のようなローカルな地域の場合、地元に残っている女性達にも問題があり、男女同じ条件で競争する意志も能力も足りない人が多いのでは。[40 歳代 男性]

・男女平等にこだわる必要がある部分については必要だが、女性らしさを活かしたもしくは伸ばして仕事や生活をした方が良い面もあると思います。男女が等しく。女性が男らしくなっている事をよく感じます。[40 歳代 男性]

・性別で差別する必要はないが、区別する必要はある。それぞれに適した役割があり、補い合ってこそより良い関係が生まれる。それぞれの役割とは、性別の差のみならず、個人個人で違って当たり前であり、それぞれの個人・個性が尊重される社会こそが求められていると思う。[40 歳代 男性]

・時により男女雇用機会均等法などにより、男女が平等となり良いことだと思う時があるが、時々男性が弱くなり女性が男性を立てる事のできない時代になり、少し男女のあり方がおかしくなってきた時代と感じる時があり、困る時がたびたびあります。[40 歳代 男性]

・現在の社会は過去の慣習から必ずしも男女の人権や雇用等が等しいとはいえないと思います。ただし、早急にそれを変えようとし、例えば設問「今後女性がもっと増える方がよいと思うもの」のような職業や役職を増やそうとしたら、むしろ均等、平等は損なわれてしまうはずです。性別が議論されるのではなく、人の個性が尊重されるような社会が必要なのではないでしょうか。[40 歳代 男性]

・経済成長、雇用、福祉。対等な立場をつくるには対等な収入を得られることが重要だと思う。多様な雇用環境をつくるためには経済成長が必要であり、それが職場環境の向上や福祉につながると思う。雇用のための仕事、規則、業界の保護、権限のない現場等、ボトルネックになっているものから排除すべきだ。利益、議論、協力。協力関係を築くには普段から少しの時間でも関われることが大事だと思う。問題を解決するには見返り（利益）が必要であり、関わりが深くなるほど協力が得られやすいと思う。個人間取引、地域通貨、住民参画システム、地域情報共有化、共生的自治等できることから実施する。[40 歳代 男性]

・男性と女性はむろん人権としては平等であるが、身体的、精神的な特徴は異なる。故に家庭や社会の中での役割も異なってしかるべきだと考える。女性の社会進出は機会として平等は当然保障するべきだと思うが、同じ役割の男女がこの職種、役職にいるべきだと過敏に促進するべきではない。[40 歳代 男性]

・女性の地位が上がり、平等をうたったりすると、男性が軽く扱われる傾向にあるので、これ以上それに注視しなくて今ぐらいがちょうどよいと思う。[40 歳代 男性]

・男女の人権が平等に考えられることはとても大切ですが、そのために女性の枠をつくったりするのはおかしいと思います。男性の役割、女性の役割もあると思うので、相談し、協力してやっていけるとよいと思います。私たちはそういう知識を成人になって見聞きしているのであまり嫌な思いをしたことがありません。幸せな時代になってきていると思います。[40 歳代 女性]

・男女の人権が等しく尊重とありますが、特に男女の区別を意識的に感じているから差別ができる。男だから、女だからではなく、人として対等な関係ができればよい。しかし、女性には家庭、子育てという壁がある場合、対等な協力関係という面ではどうでしょうか。[40 歳代 女性]

・私の世代はまだ男尊女卑なところが残っている。今の若い人達はそういうのがあまりなく、どちらかというと女性の方が強いのではないでしょうか（草食男子とか言われている）。どうしても女性は出産・育児などで仕事を離れなければならない時期があるので、男性に収入面などでかなわず、格差ができてしまうのは仕方がないのではないかと思う。[40 歳代 女性]

・女性には女性のみに与えられた子どもを産む生殖機能があります。男性はホルモン的に考えても、女性より筋骨系が発達しています。人権は等しく尊重されるべきですが、対等な協力関係を築こうと考えるのにはかえってムリがあると思います。お互いが相手の特徴を理解し、尊重しながら協力した方が良いと考えます。男性、女性はどちらも違う良さがあり、何でも平等と考えるのはおかしいと思います。[40 歳代 女性]

・「世界の国々がせめて 10 年間その運営を女性たちに任せたらどうだろう」、十数年前の新聞に載っていた意見で強く印象に残っています。男とか女とかでなく、一人の人間として各々の良さを認め合い生かしていける社会になってほしいと思います。[40 歳代 女性]

・職業や役職は、性別ではなく能力や適性で選ばれるべきだと考えます。全ての職業人が仕事に対して責任を持つように、家族に対して責任を持つことができる環境作りや意識改革が必要と考えます。[40 歳代 女性]

・男女平等とか、対等とかを意識することのない社会になればいいと思う。男女それぞれの特性が消されることのない社会がいいと思います。[40 歳代 女性]

・例えば重い荷物を運ぶ仕事が女性に向かないように、男女においては各々に見合った役割があると思う。ひと口に男女平等といってもそれは同じ天秤では量れない。[40 歳代 女性]

・男性と女性の人権は平等だと思いますが、役割が違うと思いますので、女性ならではの分野で活躍して頂きたいと思います。[40 歳代 女性]

・「男女共同参画社会」は言葉としては美しいですが、実際に行うのはかなり難しいのではないかと考えます。男女の性差をどう考えるか、母性をどう位置付けていくのか。人権は等しく尊重されるべきですが、男・女の役割に差があるのが当然で、「対等」という言葉をどう解釈するのか、どう周知させるのか、興味があるところです。[40 歳代 女性]

・男女の立場は対等であるべきだが、役割分担は違っても良いと思う。誰もが同じことをする必要はないが、やりたい人ができる社会であるべきだと思う。[40 歳代 女性]

・基本的に男女が平等であるのは良いと思いますが、男性が出産できないように、男性には男性、女性には女性の「良さ」があり、特徴があるので、何でも平等であれば男女が対等であるとは思いません。女性に選挙権すらなかった時代は困りますし。男女の違いでチャンスがないということがなければ良いのではないでしょうか。[40 歳代 女性]

・女性が軽視されている反面、甘えや挑発もあると思う。[50 歳代 男性]

・レディーファーストとは何かよく分かりません。男女平等でいいのでは。[50 歳代 男性]

・ただ全て同じ事を同じだけするというのではなく、男性と女性は身体的・精神的には異なる事があるので、それぞれの特徴を生かして対等とするのが良いのではないでしょうか。[50 歳代 男性]

・男だから女だからはよして、男らしく、女らしくを本音で出せればと思います。[50 歳代 男性]

・社会的には男女の地位は平等です。よって能力や意欲があれば女性も職種を問わず進出すべきです。但し男女に身体的差異（出産など）が存在し、この差異はうめることができません。現実的には今までこの差異によって男女は上手に社会的分業を行ってきたのではないでしょうか。男女の差を認識したうえで互いに社会的に協力し合うことが大切と思います。[50 歳代 男性]

・（女性の職業や役職への）進出について否定はすることではありませんが、言葉が先行して形や数字で追い求めることではうまくいかないと思います。もっと理解をして進めていくことが大切ではないでしょうか。[50 歳代 男性]

・基本的には性差のあることを正しく認識することが公平なことと考える。したがって、すべての部面において平等である必要はないと思う。差別のあることは、まさに公平なことに通ずることと思う。公平な差別を正々堂々と唱えることは社会正義にかなうことである。恐れず勇気を持って施策を策定し、実施してほしい。[50 歳代 男性]

・現在、男女とも結婚自体に必要性を感じていない方々、特に女性は昔からの結婚のあり方がかなり変化している。男女平等の意味も変化しているように感じます。よって良くも悪くも女性が男性と共に暮らすことに必要性を感じていないように思います。悪い意味で自立しているように感じます。男女ともに真の意味の自立した結婚のあり方がただの理想になっているように思います。よって現在でも平等は見受けられない。[50 歳代 男性]

・職種を問わず男女が同じように働けるのが理想だと思いますが、社会のシステムが必ずしもそうなっていないと思います。[50 歳代 男性]

・男女共同参画社会の推進のための女性比率を 30%とか、女性登用の実績を上げるため逆差別を感じることもある。[50 歳代 男性]

・人間性に優れた人であれば男性でも女性でもよい。男女より人間としてどうかということの結果であり、数ではない。[50 歳代 男性]

・男の人の認識が変わらなければ同じである。家庭生活は誰かが子どもの事、親の事を見る事ができない限り、男の人のように働く事は無理。そんな事は分かり切っている事だ。男女共同参画社会なんていうが、職業や役職なんて（女性が）つけるはずがない。それをどうしたらよいかは分かり切っている事だ。自分に代わる人がいるかどうか、お金があるかどうか、そういう人はほんのわずかの人にすぎない。多くの人の家庭生活は、妻は家の事をし、子どもを育て、親の面倒を見る事になる。夫はそのために働く。それしか方法がないじゃないかと思う。[50 歳代 女性]

・やはり親の育て方が重要なのではないでしょうか。[50 歳代 女性]

・最近は様々な職場で優秀な女性が活躍しているのを見たり、知って頼もしく思いますが、女性の上司の下で働くことを不満に思う男性もいるようです。性別でなく能力や人間としての資質で見て協力し合う社会であってほしいと思います。そして専業主婦を社会の一員として認めてほしいと思います。[50 歳代 女性]

・女性が社会に出ていく事は良い事ですが、暖かく優しい母親のイメージも大切にして、男女のそれぞれの適性を生かしてお互いに助け合いながら（夫婦のように）日々の生活を営んでいければと思います。現状だと男性の方々の方がはるかに役職に就いていると思いますので、意見の均等化は難しいと思います。[50 歳代 女性]

・男女を問わず、自分の意見や考え方などがわかる世の中であればいいです。男であれ、女であれ、幸せになることは同じだからです。でも、十人十色で考え方はみな違うので、難しいでしょうね。まずは学校から教育を考え直してください。生きていくために必要なことを教えてください。現実問題として、私たち夫婦はこれから生きていくことがたいへんです。金銭的にも、肉体的にもです。[50 歳代 女性]

・全てが男女共同とするのは難しいと考えます。男性の利点、女性の利点をうまく活用して適した場をそれぞれに与える機会をつくることが大切かと思います。[50 歳代 女性]

・男女ともに役割があり、女性がサポートするのは母性として良いことだと思うが、男性が「威張る」ことは違うと思うので、どちらも優しく労わりあえたらいいのでは。基本的に「男が」「女が」という考え方もどうなのでしょう。[50 歳代 女性]

・年配の方は今までの生活の中で受け継がれ、また教育を受けてきた過程があると思います。どうしても男女の差を無意識に行うことはあきらめざるをえません。女性である私にとってはとても気になることが多くあります。若い方の教育は、男女差がなく、逆に女性が有利すぎることもあります。バランスをとることは難しいものですね。しかし、話し合いの場や、男女ともに苦情を言える場は大切です。意識改革が必要です。[50 歳代 女性]

・男女平等と言っても実際の所は難しいと思う。[50 歳代 女性]

・他県から入った者ですが、ここはさすが「かかあ天下」の地ですね。女性がすごくパワフル過ぎますので、男性の皆さんは心も美しい女性に作り上げるためにも男らしい男性になってください。男性が弱いと女性が強くならなくてはいけません。美しい心の女性は強い男性があってのこと。ワーストワンは恥ずかしい。[50 歳代 女性]

・設問「今後女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職」について、女性が増えてほしいと単純に思いますが、現状は男性が多く、半々になるのがバランスのとれた社会とは思いません。個々に適した人がなってくれたらそれがベストだと思います。[50 歳代 女性]

・社会全体において「平等」という言葉の方が先行していると思います。なぜ平等が必要なのか。昔の日本人の考え方の問題点や平等になったときの男女それぞれの責任の重さの覚悟など、大切な第一歩をしっかり教育で教えていかなければ「都合の良い、悪い時だけ」の平等になってしまうような気がします。[50 歳代 女性]

・結婚、妊娠、出産と女性の役割の多さは男性とは比較できないことが多いです。対等にというのは難しく、基本は家庭の中で夫婦が思いやりを持ち、ルールをつくり、共同参画社会をつくり、それを広げて社会に根付かせることが近道かと思います。[50 歳代 女性]

・男女平等の社会であってほしいとは思いますが、仕事をしていてやはり女の役割、男の役割はいつになっても変わるものではないと思います。男女の特質は生まれながらに異なりますので、お互い相手のよさを認めながら尊重して、役割を担っていけるような社会がよいと考えます。必ずしも女性が上司になって、よい方向に進んでいるとは限りません。[50 歳代 女性]

・男だ女だと言い過ぎの感じがします。男も女も思いやりのある人がたくさんいるといい。[50 歳代 女性]

・社会を築く人と人との関わりの中で生きていくことを見極めていけば、自ずと人選はされていくのだろうと思うし、相手を思いやる気持ちにたどり着きそうだ。[50 歳代 女性]

・「人権が等しく尊重される」ということに対しては確立されているのではないかと思う。基本的に男性と女性とは身体の構造からして違うのでそれぞれの役割も当然違ってくるものと思う。それぞれの役割をお互い尊重しあって、協力することで初めて対等（平等）となれるのではないかと思う。男女が互いに同じことをし、同じ扱いを受けることが等しいこととは思わない。男女の役割を果たしつつ、子育てをより良いものにしたい。女性が強く、男性が弱くなり、子どもは迷うことが多いと思う。[50 歳代 女性]

・日本においてこの言葉の意味通りの社会が実現されることはほとんどあり得ない気がします。社会成立のしくみを根底から覆すような法律でもできない以上無理なのでは。そういった法律制度がなされても個々の（例えば私のように）人々の人生には何ら影響を及ぼすことはないと思います。平等、対等という意識を浸透させること自体不可能なのでは。[50 歳代 女性]

・職場において、女性が女を隠れ蓑にして、男性と対等の仕事をしていない。にもかかわらず賃金（給料）は同じであり、おかしい（特に市役所、県庁等）。差がつくのは当然だ。女性にもっと仕事に取り組む心がまえ等を変えてほしい。[60 歳代 男性]

・男女平等がこのことに含まれるかどうか分かりませんが、昔は「差があって平等」ということを教えられたと思います。男性が仕事で女性が家事、もちろん共働きのケースは違うとは思いますが、お互いが相手を思いやる気持ちの上での行動がないとうまくいかないと思います。[60 歳代 男性]

・差別のない社会になっていく方になっているが、いまひとつの所もあります。でも政界や学校、会社も女性の進出が増えてきているので、女性上位も悪くないが人望の選択も必要だと思う。[60 歳代 男性]

・すでに女性の社会参画はなされていると思う。職業や役職のバランスは偏っていると思われる。[60 歳代 男性]

・男女にはそれぞれ精神的・肉体的な特性があり、それをベースに世の中は構成されているものであり、それを踏まえて「男らしさ・女らしさ」という言葉があるのではないかと思います。最近のニュースを見ても、男性が女性を殺害した事件は多く報じられていますが、女性が男性を殺害した事件は遠い昔の「阿部サダ」事件とほんの数例しかありません。ニーチェの言葉に「女と子どもは似ているところがある」という言葉がありますが、この言葉は「子どもは無邪気で、女性にも似たところがある」ということです。「子どもも女性も神経は男性よりも太いので」男性には想像もつかない行動に出ることがあるのです。そんな女子どもを守っていく存在として男性は歴史的に認められてきたのですが、「男女雇用機会均等」「ジェンダーフリー」という言葉が言われはじめ、世の中が変わってきたのだと思います。世の中全てを男女共同参画にという考え方には無理があります。女性には絶対男性にできない「妊娠出産」という大きな問題があり、この問題を解決しないとすべて男女共同参画社会にすることはできないのです。以上のことから、男性は強さを裏打ちして女性を愛おしく扱い、女性はこれを優しく受け止め、お互いが相手を理解しあえば無理のない男女共同参画社会は自然とできるのではないかと考えます。[60 歳代 男性]

・男女平等は難しいと思う。今の世の中、男が女みたいで、女が男みたいで、それが同等なのか。男は男として、女は女として、それで同等になることが非常に良いと思う。[60 歳代 男性]

・男女とも自覚、能力、適性、個性をわきまえた行動が望ましい。[60 歳代 男性]

・バランスのとれた社会といっているが、学校の給食代の不払いなど多く、大人の男女共同参加社会とは言えない。この世の中を見ますと自由勝手な事が多く、良い時代とはいえないため、このようなことから男女共同参画社会の中で議会等を通して強く直して頂き、不平不満の無い社会にして頂きたい。[60 歳代 男性]

・人権の尊重や対等な協力関係を「なんでも男と女は同じでなければならない」と勘違いをしていないか。男でなければできない事、女でなければ思いつかない事等、役割があるはずです。昔の家族制度の方が良い面が多いと思うのは年のせいでしょうか。[60 歳代 男性]

・男女同権の社会において、女性であっても実力の世の中です。社会のどの部門においても実力および徳のある人でしたら上位に就いていただきたい。しかし、社会において、男女平等を盾に「社会・世の中」に対して女性だから等の甘えを表現する女性が多くいるのも現実で、このような点から女性は蔑まれるところが生じてしまうのではないかと思います。男も女も同じ質と量をこなすべきだ。[60 歳代 男性]

・男性の良さと役割、女性の良さと役割を認識した上での男性・女性の違いの尊重が大切です。[60 歳代 男性]

・男女とも能力、資質、意欲等の観点で参画への判断をされる社会的風潮を作り上げてもらいたい。[60 歳代 男性]

・やりたいことに興味を持ち、お互いにいろいろな考え方を話し合える場があればと思う。[60 歳代 男性]

・男女の人権は等しく尊重されても、結婚する人が少なく子どもがいなくなることが心配だ。男女平等を

前面に出しても結婚、子どもが少ないと以後の社会が成り立たなくなる。経済が発展しても子どものいない社会なんて未来はない。男女共同参画社会も良いが、農業も工業も商業もバランスのとれた社会をつくることだ。[60 歳代 男性]

・男性と女性ではまず体格差があること、考え方が異なること、生理的にも不利だ。すなわち女性が行動をしたくても、行動できない社会情勢が存在しているのが現状だ。こうした不利益を正す計画を立案し成功すれば男女共同参画はうまくいくでしょう。[60 歳代 男性]

・女性は女性らしく、つつましくと考えています。[60 歳代 男性]

・現状で良いと思います。[60 歳代 女性]

・私の身近なところでは、男女の人権は尊重されていると思います。町内の役員や子ども達の中でも今は少し女子の方が上位かなと感じます。[60 歳代 女性]

・男女に関係なく適材適所で参画できる社会が望ましいと思うので、「女性がもっと増える方がよい職業や役職」という考え方については疑問が残る。[60 歳代 女性]

・人が生きる究極の目的は、男女が出会い、結婚し、子どもを育て、その子どもを次世代に残す事です。夫婦がいい環境で子どもを育てられるような社会をつくることが大事です。女性が無理に共同参画しなくとも、子育て中は大切に子どもを育て、せめて 10 歳くらいまでは子育てに専念できるような社会が望ましいと思います。その役割分担が男女の対等な協力関係と言う事になると思います。[60 歳代 女性]

・女性の職業・役職が大変増加している事を感じています。喜ばしい事と思う反面、家庭生活の中で子どものために母親が必要な時期がある事を忘れては困る。いつも子どもと向き合って育ててほしい。愛情に満たされて育った子どもは健全な社会生活を送る事ができると思う。[60 歳代 女性]

・各界において男女ウンヌンより人そのものが大切と考えています。バランスを取らない限り、マイナス面が出ます。女性が時間を家事に取られないよう、まず家庭内から変わっていくことが大事です。両性の良い面を出してこそ、成熟した社会が作れるものと考えています。[60 歳代 女性]

・同年代でも社会参加している方と家庭人とでは考え方の違いを感じます。特に男性の理解を得るのが難しいように思います。[60 歳代 女性]

・成年男子の気骨に欠けるやる気の無さが気にかかる。若者が夢を持って未来を拓いていける社会を望む。男女を問わず、元気に、そして思いやる心を失わずに前向きに生きていける世の中にしなければならないと思う。展望のない閉塞感漂う現実を作ってしまった大人の責任を感じる。老若男女、生きやすい社会を。[60 歳代 女性]

・若い時には男女は絶対に平等であるべきと思っていましたが、年齢と共に男女の人権が等しくということはとても難しいと思うようになりました。権利には責任も伴うからです。性別の特徴の違いも考えると難しいです。[60 歳代 女性]

・今は女性がずいぶん優遇されていると感じております。男性の中には(頭の中で) 見下しているのかなと思う方も見受けられますけど、社会的に認識してきていると思います。[60 歳代 女性]

・基本的な体のつくりが違うように男性は男性の分野、女性は女性の分野の中でお互い人間としての心作りを目標として生きて行ける社会になれたらと願っております。[60 歳代 女性]

・男女平等の人権の尊重は必要だが、男性・女性それぞれ特徴（体質や思考）を認識しカバーし合っていくことも大事。見識のある人は男女問わずいると思うので、社会参加できる環境があれば良いと思います。[60 歳代 女性]

・男女平等、男女雇用機会均等法など、長い年月をかけて随分改良されてきたと思います。でも今の若い方々はそれが当たり前もしくはその事をはきちがえて裁判等に持って行くような事も多々見聞きします。やはり男と女は体の構造から物の考え方も全く違うのですから、お互いを近づける物の考え方はよろしいが同等にならないのが人間と思います。[60 歳代 女性]

・何でもかんでも平等というのではなく男性は男性としての立場、女性は女性としての立場の上での平等が望ましい。[60 歳代 女性]

・やっぱり昔のようにもっと男子が元気にいろいろな分野で活躍してもらいたい。女子も仕事をするのは良いことだが、それが生きがいみたいにならず、結婚もしてほしい。私の周りにも結婚しない方が結構いるので将来の事も考えてほしいです。草食肉食男子とどちらも頑張ってください。[60 歳代 女性]

・男女の差別は良くないが、区別は必要だと思います。それぞれの適性に合わせたやり方が良いと思います。そしてまず親の意識と自覚により子どもを教育するところから始まるのではないでしょうか。家庭生活、社会生活において基本が大切だと思います。[60 歳代 女性]

・男性、女性を越えた一人の人間としての成長、考え方に早く移行してほしいと思います。[60 歳代 女性]

・男女とも一方づいた教育ではなく、180 度の教え、特に人間としての関わりを、心を優しく、自分だけでなく他の人にも優しく、なおかつ芯の通った人になる様な教育が今必要。でも、張り合う精神を持ち

合わせるということも。自分自身を良く見て生きていくことです。[60 歳代 女性]

・70～80 パーセント位は男女平等でもよいと思うが、残りは、男は男らしく、女は女らしく、特に家庭においてお互いを尊重しつつ、男性の方がふさわしい役割、女性の方がふさわしい役割を果たすべきだと思う。世の中すべて男女平等はあまりよくない。[60 歳代 女性]

・職業や役職については、知識や能力があり、一般常識があれば男女問わず職務に就くべきであると考えます。[70 歳以上 男性]

・男女共同参画の精神は理想であるが、女性の立場・性格からして､わがままな分はどこでも同じと思う。夫が定年退職して家にいる時間が長くなると、邪魔にされたり、最悪の場合熟年離婚のケースも少なくない。まして夫より妻の方の年収が多いとなるとさらにその度合いは増すばかり。男女共同参画はすべてに当てはまらないと思う。家庭内のバランスが大事では。[70 歳以上 男性]

・基本的には「思いやりの心」だと思います。[70 歳以上 男性]

・どの職業や役職においても女性の進出はよいことだと思うが､要はその中身の問題である｡公僕たる者、常に公平性を持ち、格差社会の是正を持つ者ならば女性でも男性でも多いに越したことはない。[70 歳以上 男性]

・人間は男女の区別があるのはそれぞれの役割が与えられているからだと思います。科学の進歩した現代でも男性には出産という任を負うことはできません。やはりそれぞれに与えられた役割は神の贈り物であり大切にしなくてはなりません。どこかの国会議員が女性は産む機械であると言ったことがあります。私も今のように出産 3～4 カ月で他人任せの育児ではそんな気がします。男女共同参画社会を充実したものにしていくには、安心して育児と社会参画のできる方法の確立がまず第一歩と考えます。[70 歳以上 男性]

・社会に出れば対等な協力関係のバランスを上手にとれる人でも家に入るとそれが崩れてしまう事が多い。社会の基本は家庭なので、夫婦間、親子間（男児、女児の差別なく）のバランスを保つことの大切さを学んでほしいと思います。互いに相手を尊重しながら自由に意思を通わせる関係は、皆（全ての人）の協力が不可欠なので、さまざまな集まりでそうしたテーマを取り上げるのもよいですね。[70 歳以上 女性]

・能力、実行力、人を思いやる心があれば、性別に関わらずどのような職業、職位についてもよいと思います。[70 歳以上 女性]

・男でも女でも適材適所や、やる気のある人は社会に出て活躍してほしい。[70 歳以上 女性]

・町内の役員がいつも長すぎますね。男性、女性、長いとよいことにならないと思います。[70 歳以上 女性]

・今思うのは、後期高齢者の立場での若い方々への考えとなりますが、健康で、教養を身につけ、あらゆる面に正しい(好まれる）判断ができる人、そして行動力のある方に前面に出ていただけたらいいと思う。そうすれば女だからとか男だからとかいう考えもなくなるだろうと思う。[70 歳以上 女性]

・権利や責任等は対等に与えられるものと思うが、子どもの育児時代に女性が職場に出て育児は二の次になる事はふさわしくないと思う。お腹に赤ちゃんを宿すのもおっぱいが出るのも女性なのですから。男女平等という事と女性の果たすべきこと、男性に向いている仕事を果たすこと、これを混同してはいけないと思う。二度とない幼児期を他人に預けて仕事する（勤務）ことは好ましくないと思う。[70 歳以上 女性]

・人それぞれ男女を問わずできる人が参加して、より良い社会になるように努力していただければよいと思います。[70 歳以上 女性]

・行き過ぎないこと。男女平等であるが、質や役割には差異がある。男女一体となって家庭も職場社会もうまくいく。個も全体もよい関係性の中で成立することを理想としたい。社会的能力があって、家庭を持たず、女性の権利を主張するリーダーは危険で片手落ちだと思う。[年代不明 男性]

・男女共同参画社会で対等な関係もことによっては良いことだと思いますが､男性でなければできない事、女性でなければできない事があると思います。男女の資質（個性）があるのですから、子どもにとっても心が失われた世の中にならないように。できれば核家族でない方が良いと思います。[年代･性別不明]

・何でも男女平等にすればいいということでなく、男性・女性それぞれの適性を踏まえたうえで、役割分担していった方が無理のない分をわきまえた大人の社会が築けると思います。母親がもっと子育てに目を向け、自分の子どもと真剣に向き合える余裕のある社会であってほしいと願います。[年代･性別不明]

・一般的には女性は甘いと思う事が多いと思う。[20 歳代 男性]

・女性の立場として､過度な女性の保護には反対です。母子家庭への支援などは現状過剰であり、そのためにかえって逆差別や母子家庭差別が助長されていると思います。[20 歳代 女性]

・能力的に優れた女性は専門職で活躍し、一般の女性は結婚して子どもをつくり、家を守ればよい。行き過ぎた男女共同参画社会の推進はかえって社会を歪

める。それでも推進するのであれば、男性が堂々と主夫をできる社会通念の形成に注力すべき。[30 歳代 男性]

・男女が平等であるならば、女性優遇の制度が存在することはおかしいと感じる。日本の女性の管理職率が低い理由は、責任を負う立場につきたくないという意識があると思われる。能力ではなく性別で管理職に登用することは「差別」であり、安易な女性の優遇的扱いをする昨今の男女共同参画会議には疑問を感じる。[30 歳代 男性]

・職探しの時、男女平等などの法でかえってややこしくなった。求人に男女区別がなくなり二度手間。[30 歳代 男性]

・「女性専門」や「女性限定」など女性をターゲットにするものが多い気がします（レストランなど）。電車も女性だけでなく男性専門の車両を作った方がいいのでは。男性の方が大変なのだから。食事にしてもニュース番組の特集などで「女性限定」というフレーズを見るたびにいつも疑問を感じてしまいます。同じものを食べるのに何で性別が区別されるのだろうと。せめて「日時限定」にした方がと。変なところで女性優遇するなと感じます。[30 歳代 女性]

・建設業に携わる者として、会社では女性は少なく雑用が多いのは確かだが、客観的に社会では男女平等の名の基に女性の活躍する場はとても多くなっているのは事実。それが平等になってきているにもかかわらず、男女平等を昔同様に掲げ盛りたてているが故に、現在は必要以上に女性が持ち上げられて男性は気弱になっていると思う。まるでチカンやセクハラと騒がれないようにおびえているのと同じだと思う。[40 歳代 男性]

・女性が優遇されることが多く、逆差別になっているのではないか。[40 歳代 男性]

・現状で問題はない。[40 歳代 男性]

・会社においては女性の労働条件、環境が優遇されている。家庭においても家計の管理は妻が行い、自由に支出している。女性の地位が高くなり、男性は厳しい状況になっている。職場では何でも女性個人のとらえ方でセクシャルハラスメント扱いされてしまうのではないかと、男性が非常に気をつかっている。女性の方が自由に言動を行っている。[40 歳代 男性]

・男女が平等に仕事をするというのは、現在の日本ではとても無理だと思います。能力的に平等でも、出世、賃金等、平等には程遠い状況です。確かに男性は仕事が生活の全てという現在の日本の状況からも仕方がないことかと思います。だったらもっと仕事に力を入れている男性が増えることを望みます。もっと男性に頑張ってほしいです。[40 歳代 女性]

・女性はわがままな面がある。男女同権ならば、女性も残業すべきであり、営業など外回りもしてしかるべきである。男女同等とは、男と同じ仕事をすべきであり、きれいごとではない。女に力仕事ができますか。[50 歳代 男性]

・女性には申し訳ないが、中間管理職止まりが望ましい。なぜならば、基本的に子育てや結婚で少子化を防ぐこと。最近は社会が女性ばかり優遇しているように思える。[50 歳代 男性]

・男女対等と考えるのがそもそもおかしいと思います。権利等を主張するには、それなりの器が必要かと思うし、もう一度分をわきまえてほしいと思う。何でもトップに立つということはそれなりの力が必要で、責任もあり、いい加減な無責任な事はできない。結婚してから 30 数年主婦をしてきた私は、社会に参加することがなかったですが、男女共同参画社会なんてありえないと感じております。ただ、税金等の使途には疑問を感じます（市ではどうにもなりませんが）。希望とすると、介護も大事ですが、これからの子どもを大切にする社会に期待するところです。[50 歳代 女性]

・男性は社会に奉仕し、女性は家庭を守るという考え方です。[50 歳代 女性]

・女性は仕事をする時、プロ意識を持って男性と同じレベルで仕事してほしいです。甘え過ぎていると思います。[50 歳代 女性]

・女性は子育てをもっとやってほしい。社会進出する必要はないと思う。男性はもっとしっかりしてほしい。[50 歳代 女性]

・女性は男女平等をうたうなら男性と同じプロ意識を持って働くべきだ。[60 歳代 男性]

・私の考えは回答になるか。私の考えは昭和 40 年代の時代の方が良いと思います。私は世の中が甘過ぎていると思っています。[60 歳代 男性]

・男女共同参画という言葉から受ける感じとして、女性がどんどん社会に出ていく、女性が強くなる、結婚しない女性が増える、少子化、という流れができつつあるように思う。さらにそれが男性にとっては、別に結婚しなくても困らない、気楽でいい、みたいなことになる。現実に我が家の息子たちは一人も結婚していない（38 歳、37 歳、33 歳）。女性と男性とでは体のつくりが異なるし、女性には子どもを産み育てる大事な役割があるのに。[60 歳代 女性]

・男女共同参画社会は大変良いと思いますが、最近の女性は優しさが欠けてきているように思える。そのような観点から男性は社会で働き、女性は家庭を守る風土を作り上げる社会になってほしい。男女の賃金の格差はあってもよいと思う。家族手当を充実し女性による温かい家庭を望む。学校給食は廃止し母親の温かい弁当を持たせたい。給食は戦後のもの。[70 歳以上 男性]

・女性はロうるさい。人の事のつまらない話題が好きだ。そのような女性が多すぎる。地域に男女共同参画社会などおそろしいことだ。[70 歳以上 女性]

・女性が役職について長期になるとマンネリ化する。一期 3 年くらいの期間にするとよいと思います。男女共同といっても、傍から見て男の人とはやはり違います。[70 歳以上 女性]

【家庭と仕事の両立について】

・どのような職場においても、産休、育児休暇を取れる環境、雰囲気づくりを積極的に作るようにしてほしい。子育てをする上で、安心できる環境をもっと増やしてほしい。[20 歳代 男性]

・家庭や子どもがいる主婦が、子どもや学校行事のために休むことが仕方ないことかなと思いつつ、残業もしてもらいたい気持ちもある。その点、総合職の女性は転勤や残業もして、男女平等の社会である。[20 歳代 男性]

・もっと女性が働きやすい社会づくりをお願いしたい。出産等で退職（パート）しないといけないので、パートにも育児休暇や産休がほしい。また就活して小さな子どもがいる理由で落とされるのは不愉快。働かないと生活できなくなるくらい税金を払っているのが一番の理由。自動車が生活には必需品なのに、税金、車検にお金がかかりすぎ。自動車は贅沢な物ですか。生活に必要な物ですよね。[20 歳代 女性]

・私の勤めている会社は、最近男性社員に対して育児休業を利用できる社則ができましたが、現実的には利用しにくいようです。「利用できる」ではなく「利用しなければならない」にできたらと思います。また、育児休業を終えた女性社員が異動させられ働きにくい環境になってしまったと耳にしました。何か改善策があればよろしくお願いいたします。[20 歳代 女性]

・現在の職場では育児休暇が 3 カ月しかとれないため、もっと働きやすい環境になるとよいと思います。よろしくお願いします。[20 歳代 女性]

・子連れの女性が働くのにもっと理解のある会社が増えてほしい。託児所付の会社が増えたらいいと思う。[20 歳代 女性]

・子育てしているから（子どもがいる）といって働くところがなかったりする。女性も子育てしながら働きたい。[20 歳代 女性]

・女性が結婚・出産しても働きやすい雰囲気・システムの地域になるといいなと思います。ずっと働きたいので。仕事内容にもよると思いますが。出産後も正社員で働けるようにしてほしい。[20 歳代 女性]

・女性が正社員になれる機会が少なく、職も限られる上、給料も安く昇給も少ない。働いていける（定年まで）環境ではない。男性が主夫になれる環境も整っていないと思う。優秀な女性も平等に評価されるべき。派遣社員として上手く利用され正社員になれる機会を与えられない（工場は特に）。[20 歳代 女性]

・母子家庭だけでなく、父子家庭にももっと優しくしてあげてください。[20 歳代 女性]

・結婚し、転勤の多い男性と一緒になるとどうしても女性が就職時にそのことを言われ、断られることが多い。いくら対等といっても、そのようなことが行われてしまうと女性は職がなくなってしまう。どのようにしたらよいかわからない女性がいるのを忘れないでほしい。[20 歳代 女性]

・産休がないので、子どもができたら退職せざるを得ない。子どもがまだ小さいうちのパートは「直ぐに仕事を休むから」という理由で嫌がられる。これでは女性が男性と平等に働くことは難しい。でも、これが現状です。[20 歳代 女性]

・家庭での育児や家事は、その人（男性）の協力しようとする気持ちがない限り平等にはならないと思うので難しいですね。仕事をしながら家庭を持っている女性は、とても大変な人達が多いと思います。現に私も自分の時間が 1 分 1 秒もありません。それでも仕事をしなければならないこの現状がとても大変で、ストレスがたくさん溜まります。[20 歳代 女性]

・私は現在女子大に通っているのですが、学校周辺に不審者が多く出没します。不審者にとってターゲットは女性なのでそれを考えると女性は不利だなと思います。パトロールや街灯を増やすなどして女性が安全に生活できる社会を作って頂きたいです。それから女性が安心して子どもを産んで育てられるような環境、女性が仕事と子育てを両立できるような環境があったらいいなと思います。[20 歳代 女性]

・仕事がしたい女性は続けられるようにすればよいが、家庭に入って子どもを産んだり、育てたりしたい人（女性）が社会保障で不安になってはいけない。家族として収入があり、税を納めているのであれば不安のない社会にしてほしい。[30 歳代 男性]

・仕事の面では表面上男女の差はなくなってきていると思う。昇進を除いて。ただ、育児や介護に直面した時に男性がそのために休みをとることがまだ社会通念上認められていない。結局仕事をしているか否かに関わらず、生活上の問題は女性が対応するようになってしまっていると思う。[30 歳代 男性]

・世の中には基本的に男性社会になってしまっており、雇用機会均等だの、家事の分担といっても、結局は女性にかかってくる負担の方が大きいと思う。「男女平等」とか「女性が」とか、そう言われる方が逆に差別されているような気分になってしまうこともある。「男だから」「女だから」と括ってしまうのでは

なく、皆でお互いにできる事を助け合えればよいと思う。[30 歳代 女性]

・男性も女性の家事をもっと積極的に行うべき。そうすれば女性も外で仕事をもっとこなせると思う。[30 歳代 女性]

・現在 2 人の子育て真っ最中です。核家族ですが一人で子どもを見ている感じです（夫は仕事が忙しい）。上の子は幼稚園です。たまに息抜きしたいとき、子どもを安心して預けられる環境を充実させてほしいです。私も 35 歳までにはもう一度社会に出たいです。その時下の子は幼稚園です。働きたいと思っていてもできない主婦は多いと思います。もっと働きながら子育てしやすい市にしてください。[30 歳代 女性]

・地方公務員（医療職）を続けたかったが、育児との両立が困難となり、退職した経緯がある。託児所を施設内に設置していただけると私のように仕事をあきらめる女性の数が減少すると思う。[30 歳代 女性]

・女性は出産、育児と夫の転勤などで家庭を優先させなければならない時がある。やむを得ず一度退職したものの、幼児がいると正社員や派遣社員などでの再就職が困難で、一度辞めるとパートしか道がない。子どもが小さい母親も社会復帰するチャンスがほしい。企業側の制度と育児のサポートの両面から支援がほしい。[30 歳代 女性]

・男女が社会生活や家庭生活において平等であることがすばらしい。仕事においては、男女ともに能力に応じて参加するのが望ましい。不必要な育児休暇はかえって不平等であると考えます。[30 歳代 女性]

・群馬にある企業には産休や育児休業制度がしっかりし、その上休みを取りやすい会社はごく一部にすぎない。実際は、女性は出産を機に辞める人がほとんどである。行政の方で制度をしっかり運用できるよう企業に働きかける努力をしてほしい。パートぐらいでも保育園に預けられるようになれば、女性の社会進出はもっと進むはずです。[30 歳代 女性]

・地方の中小企業はまだまだ育児休暇や産休が取りにくいと聞きます。50～60 歳代くらいの経営者だと昔の考え方をしている人が多いと思います。今は男女雇用均等法などあることを行政からもっと指導してもらえたらと思います。私の勤める会社は産休（産前・産後 8 週間）、育休（最長 3 年間）取得可能ですし、最長 12 年（4 パターン）育児勤務（短時間で雇用形態はそのまま時間をパターンによって基本給の 60%から 90%）などもあり、とても恵まれています。他の企業、地方の中小企業も実現は難しいかもしれませんが、少し柔軟に考えてもらえたらと思います。私は 3 児おり、あと 3 年育児勤務が可能です。とても助かる制度です。[30 歳代 女性]

・核家族が進んでいるので、男性も育児に参加できるよう職場の環境を整えて頂きたい。[30 歳代 女性]

・女性の職場のため男女差別の様な事は感じないが、以前からいる職員は育児休業に理解がなく、規定では 1 年取れるが早めに出てくるように言われ長くても 8～10 ヶ月、短い人は 3 カ月で復帰を強要され、子どもが小さいうちに仕事復帰しているのが現状です。事業主は何も言ってくれません。せめて 1 歳になるまでは家でゆっくり見たいので、法律で決めてもらいたい。[30 歳代 女性]

・パート、アルバイトでも産休、育休を取りやすい環境を整えてほしい。社内規定では取れると書いてあっても実際は取れなかったり、取れたとしても復帰しにくい環境だったりする。[30 歳代 女性]

・幼稚園に子どもが通園しているうちはなかなか時間が合う職がないので、もっと時間が合う（特に午前中だけの）仕事が増えないと働きたくても働けません。仕事があれば、子育ての世界から出たいと思います。[30 歳代 女性]

・女性がもっと増える方がよい職業や役職についての設問は必要ないと思う。女性を差別しているようで不快だ。独身女性の社会進出について差別を感じることは少ないが、既婚女性の場合、産休、育児休業を取得できない限り、社会に出て働くことは難しいと思う。特に子どもが小さければ小さいほど働きにくい。保育園とは別に、病気になった子どもを預けられる施設があると、小さい子どもを持つ女性が思い悩まず働くことができると思う。[30 歳代 女性]

・女性は出産し、母乳をあげて子どもを育てることができます。それを長期休みをとる迷惑な存在として考えている社会からは、男女対等な社会はなく、少子化になる問題だと思います。妊娠、出産、育児を経験した人が優遇される社会（税金の免除、手当て、地位など）になってほしい。[30 歳代 女性]

・育児のために退職する女性が少なくありません。1 人目は育児休業がとれても、2 人目はとりにくい。男性の育児休業取得を推奨する制度、子育て世帯に対する柔軟な勤務体制（短時間労働、子どもの行事に参加する日の有休など）を導入するなど、2 人目、3 人目の子供をもうけても同じ職場で働き続けられるような社会の制度、理解が必要だと思います。[30 歳代 女性]

・無理だと思います。家庭内での家事、育児、学校行事など男の人はほとんど関与しません。仕事で忙しいからです。男女平等はとても難しいものです。主人は一日のほとんどを会社で過ごすので、子どものこと、家のことに関わりたくても無理なのだと思います。私も仕事をしたり社会に出たりしたいのですができません。結婚して家庭を持つということはこういうことなんだと思います。男女平等、男女均等は独身の人たちにしか無理だと思います。会社に縛

られる主人と、家庭に縛られる私、これが半々だったらいいのにと思う。[30 歳代　女性]

・出産、育児で女性は仕事を休んだり辞めたりする必要があるが、その後に復帰しやすい環境をつくってほしい。保育園に入りやすいよう定員を増やしたり、病気になったときでも預かってもらえるところなど。[30 歳代　女性]

・女性と男性の格差はまだかなりあると思います。家事においては女性はやって当たり前、男性がほんの少し「お手伝い」しただけでほめられる世の中です。出産、育児後の再就職も年齢と子持ちというだけで職歴を全く聞かずに電話口で断る会社が何件もありました。女性が男性と同等に扱われるには社会のサポートと各個人の意識改革が今以上に必要です。[30 歳代　女性]

・私は地方公務員で、夫が民間企業に勤務しているがすべて家庭での家事育児は私が行っている。民間企業に勤めている限りは仕事が大変で、夫には強要できない。公務員でも女性がもっと休みやすい環境をつくってほしい。公平な男女機会均等ではなく、育児は女性がする方がよい(母の愛情の重要さ)ため、よい意味での男女不差別配属を考えてほしい。女性は女性の役割があると思う。[30 歳代　女性]

・有休、産休、育休手当を中小企業にも大企業並みに充実させてほしい。[30 歳代　女性]

・子どもが病気になっても預かってくれる保育所を作る。共働きの場合、子どもが病気になったら妻側が休まなければならないのが殆ど。会社に気まずくなったり、働きにくいのが現状。子どものいる働く女性にとって平等や対等なんて言葉はただの「キレイゴト」だと思う。[30 歳代　女性]

・人権はともかく対等共同とかをことさら強調すべきではないと思う。家庭や仕事でどちらかに偏りがあるのは差別ではなく人間の根本的なことであり、役割である。互いの理解は必要だが、何でもかんでも同じは間違っている。[40 歳代　男性]

・自分の場合は常勤で働いているわけではないので、家庭である程度の役割を果たすのは当たり前のことだと思いますが、共働きの家庭では、家族で分担して助け合いながらやっていくことが大切だと思います。[40 歳代　女性]

・男女が平等だと言われて長いが、結局育児家事は女性への比重が高い。子どもが小学生のうちは専業主婦でいて、中学生になってからパートで働き始めたが、正社員ではなかなか自分に合うところがなかった。10 数年のブランクはとても大きいと思う。育児の期間、安心して働けるように保育園、学童保育施設の充実を切にお願いしたい。今の状態ではまだまだ不十分です。[40 歳代　女性]

・3 年間の産休、中学に上がるまでの育児休業など過度の女性への保護はかえって男性が育児に関わらなくてもよいという環境をつくっているのではないか。育児中心になれば 10～15 年、職場でも本腰を入れた仕事にはつけず、結果、女性の立場が向上することを阻んでいるのではないか。子孫は国の宝であるが、企業は育児のために給与支払いをしているのではない。就業時間が減ったのならそれに見合った支払いにし、むしろ雇用を増やしてワークシェアリングで皆の収入がそこそこで QOL の高いものにする方がよい。男女関係なく個人の資質と都合に合った生き方ができるとよい。[40 歳代　女性]

・女性は家事、育児の間に仕事をするのか、それとも仕事の間に家事、育児をするのか。男性は仕事に集中できるので優遇される部分が多くても仕方がないと思う。結婚してからも女性が仕事を続けるのは夫の協力が絶対である。家事や子育てを夫婦で話し合い、女性も仕事を持ち続け、参加していられる、続けられる世の中になってほしい。「女は家、男は外」は昔の話。男女しかいない世の中なのだから、男女が家のこと、社会のことに参加できる地域、社会、日本になってほしい。[40 歳代　女性]

・結婚した女性は男性（夫）の扶養でよいという社会的な認識、家事は女性がやるものという社会的な認識を変えるのは容易ではないでしょう。教育の場でなんとかしてほしいと思いますが、現場の教師がジェンダーをはきちがえている話を子どもから聞きます。子どもなりに傷ついているようです。何とかなりませんか。[40 歳代　女性]

・社会全体がもう少し育児などに協力して、子どもを産んだ後の会社勤めの時の理解などをしてほしいです。子どもが熱を出して欠勤の時など、出社すると嫌味を言われました。子どもを産むと社会での居心地が悪くなります。[40 歳代　女性]

・女性が職業を持ち、社会参加することに賛成です。少子化問題が深刻な問題になっている現在、育児をしながら働ける条件や、社会全体が女性の社会進出しやすい環境、助ける組織があればいいと思います。[40 歳代　女性]

・子育て支援が足りないから、子育てのために仕事を辞めざるを得ない。男性が育休を取れる状況は程遠いのが現状。増えないでしょう。子どもを産んだら誰が育てるのでしょうか。子育てをしながらできないでしょう。[40 歳代　女性]

・現状では男性の育児休暇は取りづらいのが事実です。せめて出産後 1 ヶ月は休めるのが当たり前の社会になるとよいと思います。[40 歳代　女性]

・女性が子育てや育児で職場を離れた後も、必ず元のポジションへ戻れる法律を会社へ義務付ける。[50 歳代　男性]

・介護や育児が女性だけの仕事であると思われているようでは、女性の社会参加は難しくなる。一人ひとりがもっと相手の立場に立って行動ができたらいいと思う。[50 歳代 男性]

・女性がもっと働きやすい環境の整備が必要（保育所や学童保育など)。優秀な女性はたくさんいるわけだから、自然と女性の存在価値は上がっていくと思います。[50 歳代 男性]

・さまざまな職業役職において女性がもっと増えてもらいたいと思う反面、結婚し子どもを育て、その時期（子ども 20 歳まで）子どもへの責任として、子どもが家庭にいる時は母親には家にいられる環境を社会全体で応援してほしい。子どもは社会の宝だと思います。母親の愛情をもっと感じてもらいたい。時間ではないといいながらも今の母親は忙しすぎると思います。[50 歳代 女性]

・結婚し、子どもが小さいうちは子育てに支障のないようにパート（短時間労働）に出ますが、子どもが大きくなってお金がかかるようになるので常勤で働きたいと思っても、女の方は 40 歳を過ぎると常勤の募集がないのが実情です。女の人（主婦）が常勤雇用できるよう会社などに働きかけていただけるとありがたいです。[50 歳代 女性]

・女性として男性と平等に働き続け、地位を向上させたくても、現実は「家事、育児、介護は女性が担うもの」という社会の意識が強すぎ、職場でも地域でも常に憤りを覚える毎日です。また、保育園、学童クラブ、障がい児や高齢者介護施設が少なく、定員がいっぱいで利用したくてもできなかったり、各種サービスがもっともらしく掲示されていても、不十分で使えるサービスが非常に少なかったりするのが現実です。「男女共同参画」の視点から「女性の働く環境を整える」ことを目的に、前述のような施設を増やすことやサービスの拡大拡充について積極的に市政に働きかけてほしいというのが切実な願いです。[50 歳代 女性]

・男女が対等になることは良いことだと思いますが、すべて男女同じことを強要されるとやはり女性は男性に体力的にも劣るし、家庭における役割も男性と比べると多いと思うので、そこのところは少し優遇してほしいです。[50 歳代 女性]

・男性にできて女性には困難な事（力仕事等)、反対に女性にできて男性には困難な事（出産、育児)。そういうことをお互い思いやりながら生活できるとよいと思います。私の理想は、子育ての間（2～3 年）は夫にしっかり働いてもらって、自分で赤ちゃんを見る。その後、女性の職場（社会）復帰がすんなりできる環境があるとよいと思います。[50 歳代 女性]

・結婚・家庭や女性の就労に関する設問について。「わからない」を選択しましたが、これは「人による」としか答えようがないからです。適当な回答がないため「わからない」を選択しました。結婚、出産、仕事は個人のライフ計画に従って自由でよいと考えます。[50 歳代 女性]

・夫が定年を迎え、時間的な面で家事にも参加してくれるようになり、嘱託としてまだ仕事をしています。社会参加や地域社会への参加には時間が必要で、なかなか意見など取り上げられないことが多いようだ。地区の古株が多い場所でもあります。[50 歳代 女性]

・女性が社会進出をすることは賛成であるが、まず身近な生活（家族）を大切にすることが幸への一歩になると思う。男女共に協力しお互いを理解しそれぞれの立場を尊重する中で女性が社会で活躍し輝く事ができることが理想である。[50 歳代 女性]

・現在の職場は男女関係なく、それでいて子育て中の女性にはとても思いやりがあり、働きやすい職場ですが、以前勤めていた職場は子どもがいて働く女性に対して思いやりがなく、男女雇用機会均等法を直ぐに持ち出し、午後 9 時や 10 時の残業が当たり前で、男性管理職の考えが変わらなければ女性の立場は変わらないと思いました。まだまだ、男女共同参画の社会は遠いと感じています。[50 歳代 女性]

・女性が働ける環境を多く設ける事が大切。家事は男女平等に。[60 歳代 男性]

・生活の基盤である家庭での男女共同参画を実現するには、育児や介護においても交代が可能となる社会の受け入れ体制の整備（保育、介護施設等)、雇用及び昇進、報酬に対する正当な評価等の権利取得と共に、社会に任せきりにせず、個々の義務を確実に実行させる仕組みが必要。その為の社会教育を学校時代からきちんとすべき。[60 歳代 男性]

・女性が育児、介護をしながらも仕事にかかわる社会、会社の態勢づくりが必要です。特にこれからの日本社会では少子高齢化が一層進みます。[60 歳代 男性]

・育児環境が良ければ女性が社会で活躍できると思う。[60 歳代 男性]

・男女共同参画社会以前の問題だと思う。例えば仕事をしながら子育ては大変なので、必ず有給休暇を取らせることが大切だと思います。まだまだそれ以前の考え方が十分でないと思います。[60 歳代 女性]

・現在 60 歳代の男性は共働きをしても家事は協力しない。家事は女性の仕事だと若い時から思っている。妻が病気になった時のことなど思うと普段から協力すべきだが（本人のため）やらない。セミナー等検討して頂きたい。[60 歳代 女性]

・女性の能力に応じて管理職や専門職で活躍するための社会というのは男性にとっても住みやすいと思う。家庭を犠牲にした仕事一途の男性の仕事場は、人間性を無視しているし、社会に弊害を与えると思う。そのような意味で男性の人権を認める社会というのは女性にとっても住みやすいでしょう。社会全体の

バランス（私的と公的＝仕事）を日本人は考え、家庭を大切にする方向に行くべきかと思う。[60 歳代 女性]

・女性がもっと企業や社会において活躍するには、まだまだ環境が整っていないように思います。子育て、家事などの負担を軽くしなければ男性と同等に仕事をしたり家庭生活も両立させたりとはとても無理です。能力はあっても眠ったままの女性が沢山いるはずです。急には変えられませんが、社会全体でいい知恵を出し少しずつ前に進むしかないと思います。[60 歳代 女性]

・男女の持ち合わせた特性を生かしながら、職場環境を作っていくことが大事だと思う。出産時の休暇の充実と男性が育児休業等を取ることによって、女性の職場復帰の可能性が高まると思います。[60 歳代 女性]

・男性・女性の体力適性があるので、そのようなことを下地に考慮して共同参画社会になるのが理想だと思う。女性は子どもを産み育てることに絶対的な力を持っていると思う。男性（パートナー）が育児に協力するのは素晴らしいことですが、男性の育児休暇には反対です。それぞれの意見を持つべきで、国が強制するのはどうかしら。[60 歳代 女性]

・育児について。保育園の充実と保育時間。学童保育が地域にあればよいと思う。国民年金について。平等のために第 3 号（被保険者）の人も（保険料を）支払うべきと思う。[60 歳代 女性]

・人間が暮らすのに必要な社会構成は男女の共同参画が必要であり、男女差のある力仕事も限定できる。女性は子育て期間があり、障がい者も一緒に暮らせる社会構成、仕事と家庭の調和が必要であるが、今の日本の家は建築が昔ながらの貧乏長屋での生活場所である。全て改善したい。[60 歳代 女性]

・男女平等といっても、スタートで既に女性は出産、子育てトいうハンディを背負わされている。だからといって出産は別として、子育てを男性が応援すれば済むという問題でもない。現実として男性の子育てを地域社会で支えているか、企業家が声を大にして、社会に認めていかない限り、本当の男女共同参画社会はあり得ない。まずは市、県、国の行動の中で奨励、強く応援を続けていかなければいけないと思います。[70 歳以上 男性]

・男女雇用均等法や育児・介護休業法などの適用について、公務員では適法に守られていると思われるが、一般企業においては、必ずしもそうでないと思われる。少子化社会において、一人でも多くの子どもを産んで育てることが日本の将来に不可欠ではないかと思うが、妊娠、出産の前後に休むことになると、その代役を手当てすることが容易ではない企業も多いのではないか。そのあたりの手当ても検討すべきと思う。[70 歳以上 男性]

・女性の参画を一層進めるための環境整備が不十分だと思います。育児環境整備を飛躍的に進めてほしい。[70 歳以上 男性]

・男女同権が叫ばれて何年かな。まだまだ男性社会なの。女性の子育てをもっと社会が援助しなければ女性進出は今後も難しいだろう。[70 歳以上 女性]

・男女共同参画社会の実現はとても良いことですが、現実問題として難しい点が沢山ある。まず家庭生活（家事や育児）を中心にする人がいないと家庭そのものが崩壊する。資質から見ても女性が適していると思われる。今の介護の問題にしても女性がそこから逃げてしまうから社会で面倒をみるということになってしまう。まず根本の問題の解決から始めないと男女共同参画によってむしろ社会が荒廃してしまう。[70 歳以上 女性]

・子育てしながら働ける環境にしてほしい。小さい子がいると働き口がない。企業に断られる。資格や経験があっても断られる。馬鹿にされている気分になったことがある。つらい、きつい、賃金が低い仕事しか就けない。子育てでお金が必要なのに、働き口がないのだから、出産しない人の気持ちがよくわかる。[30 歳代 女性]

【DV・セクハラについて】

・恋人やパートナーではなく、義父が世代的にも「男の言うことを女･子どもは聞くものだ」という人で、DV があり、町内の班長を受けた時もやはり年代的に昭和の初め生まれの方達には男女間の格差を感じました。まだ地方・田舎では、今は知りませんが、何年か前は女が入ってはいけない領域があり、とても不愉快でした。介護について、同居はしていませんが､それぞれの両親 4 人を見ています。[50 歳代 女性]

・気持ちよく生活できる世の中を望みます。いじめは絶対に反対です。乱暴な言葉は使わない、人を傷つけるようなことがあってはならないと思います。[50 歳代 女性]

・児童が親に暴力を受けているような場合、先生以外に相談する所がないと聞きます。答えは児童相談所なのですが、そこは悪い事をした人が行くところだと児童は考えています。いや、先生から聞いています。先生から見放された児童は行くところがありません。役所に担当職員を置いてもらえませんか。[60 歳代 男性]

・同居の長男の嫁から、冬はこたつなし、夏は氷を作ることを認めてもらえません。洗濯物も自分のは手洗いで、食事もバランス良く食べられません。困っています。[60 歳代 女性]

・男女が対等な関係とは、まだまだ築き上げられていないように思います。賃金の格差があると思います。

父子家庭、母子家庭での賃金の差があります。どうしても男性の方の賃金が高いのでは。ドメスティック･バイオレンスという言葉も出てきておりますが、このような事実に遭遇した時にも女性の方が弱い立場になるのでは。男女が対等とは言えないような気がします。[60 歳代 女性]

・言葉での DV を受けている娘がいるが、他人に話す事等はできない。世間体が悪い。仕返しが怖い。自分にも悪いところがあるから仕方ないと言っている。[60 歳代 女性]

・ドメスティック・バイオレンスなどない社会になってほしいです。[60 歳代 女性]

・就職活動中に「結婚の予定は」などと聞かれ、予定があったら雇ってくれないのかと思った。会社側が長期に働いてほしいのはわかるが、不要な質問だと思う。結局は、結婚して辞める、もしくは休暇とかを取られてしまう女性よりも、男性の方を雇いたいのかなと思った。このようなこと、男女平等ではないですよね。[30 歳代 女性]

・20 代のころに働いていた会社は、所長 1 名、営業 8 名、女性事務員 2 名という小さな営業所でした。本社は東京にあり、しっかりした会社だったと思いますが､酒の席などではひどいセクハラがありました。地域や会社などどのような集まりでも、男女の比率が平等でなければ男女の人権が等しく尊重されることの実現にはならないと思います。しかし、女性は子どもがいる場合、子どもと一緒に過ごしたいと強く考えてしまうと思います。[30 歳代 女性]

【アンケートについて】

・そんなこと言っているうちは男女平等なんてありえない。[20 歳代 男性]

・男女の社会的なバランスは景気によって変わると思うので、今回のアンケートが絶対とは限りません。共働きが増えた今の時代、市役所の時間延長や土・日曜の利用など変えられないものでしょうか。[20 歳代 女性]

・男女共同参画社会という言葉を今回初めて知った。どのような施策を進めているのかなど、もっと多くの人に知ってもらえるようにすべきだと思う｡「バモス」やホームページでの結果報告でなく、広報高崎など多くの人が見るものに載せてほしい。男女共同参画という言葉からは内容が想像できない。[20 歳代 女性]

・このようなアンケートをとることはとても良いことだと思います。女性がもっと社会進出でき、働きやすい環境をつくってください。よろしくお願いします。[20 歳代 女性]

・是非アンケート結果に自分の意見を取り上げてほしいです。[30 歳代 男性]

・このアンケートをつくるのに費用はどのくらいかかるのでしょうか。毎月 2 回来る広報高崎にて知らせてもらえるとありがたいです。[30 歳代 女性]

・質問の趣旨とは違いますが、このアンケートに答えていて、私自身の考えが視点の置き方によって様相を異にする事実に気付かされました｡「絶対」ということはないテーマだと思いますが、行政としてこの問題をどう取り扱い、導いていくのか、難しいことだと感じます。[40 歳代 男性]

・そもそも 20 数年前に男女雇用均等法が成立したのだ。男女は平等なので当たり前なのだ。何で今さらこんなアンケートを今の時代にするのか。一応アンケートに回答したが、今の時代は普通の人ならば男女は平等って知っているし、分かっているのです。そうすると、今回のこんなアンケートはズバリ税金の無駄遣いではないか。[40 歳代 男性]

・このようなアンケートを実施する事、取り上げる事が、特別扱い、男女差を盛り上げてしまうのではないでしょうか。何のために男がいて女がいるのか、それには意味がありだから上手にまわっていく。これは自然なのだと思うけれど、自然な事も人の手を借りなくてはいけない世の中になったのですね｡[40 歳代 女性]

・最近の若い女性の間では「専業主婦願望」が強いという話を聞いた事があります。女性自身が社会の現状を見て自立よりも男性に守られる立場をよしとする傾向は日本社会にプラスにはならないと思います。先進国の中でも日本の女性の社会的自立は低いそうなので、女性自身が精神的・経済的に自立しやすい社会政策・社会制度を国が中心になって確立してもらいたいです｡「男女共同参画社会」という言葉は何年も前からよく聞きますが、何か変化したとは思えません。このアンケートもどうすれば社会的平等が可能になるのか。もっと深く今後の発展に向けた内容にしてもらいたいです。人権の尊重とか対等な協力関係は、慣習、地域の特質などなかなか変えられない個人の意識の部分だと思うので、個人の意識が後からついてくるような政策・制度を他国の成功例も参考に確立してください。性別に関係なく全ての人が自分らしく幸せに生きられる社会の確立が理想です。[40 歳代 女性]

・アンケートが届くまで男女共同参画社会について知りませんでした。そもそも女性と男性の体が違うように対等にしてもらいたいと思っていてもならないと思います。女性に出産したら子どもを育てるというのを優先できるように、社会がなってくれると愛情いっぱい受けた子どもが増えるのではないかなと思います。しかし子育て中の専業主婦は大変です。でも自分の子どものことなので、何年かは子供優先で。[40 歳代 女性]

・今回のアンケートが資料だけで終わることなく形として表れていくことを望みます。[40 歳代 女性]

・アンケートの「職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うもの」の存在が男女平等の観点から外れている気がします。能力があり、その役職に着く自信があれば男女は関係ないと思います。[40 歳代 女性]

・設問が偏っていて公平なデータが取れないと思う。例えば今後女性がもっと増える方が良いと思う職業・役職について、仮に「県、市町村の首長」が多く選ばれたとして何の意味がありますか。優秀な女性はたくさんいます。でも生物学的に男女は役割があるのです。それを無視して単に平等を押し通そうとしても無理があります。[50 歳代 男性]

・質問内容のレベルを上げてほしい。これまでの質問等の内容についてはうわべの質問に追われて本質の内容までたどり着いていないように思えます。男と女は人として平等が基本だと思います（当たり前ですね)。それを乗り越えた内容が本来あるべき質問ではないかと思います。レベルアップが人々のレベルアップにつながる、繋がらせる（倫理、道徳)。未来のビジョン達成のための質問の方が将来性があるのではないですか。[50 歳代 男性]

・内容が偏っていると感じる。このようなことを扱う部署が必要なのか疑問に思う。[50 歳代 男性]

・職場では男女共同参画が進んでいますが、家では嫁という立場で、風呂の順番、テレビ番組等、いろいろ我慢があります。ましてや地域では女性の区長さんにお会いしたこともありません。長い間の慣習で、男社会は仕方がないのでしょうが、男女は半々にいるのですから、役職等も男女半々が良いと思います。自分に関していえば、いざという時「女だから」という理由であきらめたり、仕事から逃げたりしないで取り組むたくましさを持ちたいです。男女混合名簿が定着し、時間がたった後「女の子はいつも男の子の次」と自然に刷り込まれた現象はなくなるのでしょうか。私はこの問題について興味があり、このアンケートに答えさせていただく機会をくださったことありがとうございました。[50 歳代 女性]

・意見のある人の声を聞いてくれる社会でありたいです。社会の中ではバランスが大事だと思います。今よりもっと思いやり個人の気持ちが必要だと思います。[50 歳代 女性]

・学校教育の中で自然と男女参画を指導された年代とまったくその中に意識の無い年代での価値観の相違が著しく、特に頭の固い 50 歳代以降は最悪です。いつまでも俺様天下です。男女共同参画の意味すら知らないと思います。これからの時代は若者だけでなく壮年者にとっても生きていくためには必要な社会の仕組みです。知らない人や興味のない方達に上手く教えて頂きたいです。今回このようなアンケートに参加できてよかったです。意見を活かしてください。[50 歳代 女性]

・アンケートだけに終わることなく、1 つでも多く「現実」にする社会を望みます。私は 60 歳代半ばの人間ですが、今後の高崎市の変化を静かに見守りたいと思います。市民が安心して心豊かに生きていける社会を切に望みます。[60 歳代 男性]

・男女共同参画社会についてもっともであるが、男性・女性にとって役割が異なっている。イコール男女不平等の短絡的な考え方がある様な気がする。設問にある職業や役割について、男女同数でなければ不平等ですか。男女の差別がなければ男女共同参画社会であればよいのではないでしょうか。本アンケートについてのねらいが明確でない。「様々な施策を進めています」では、調査の趣旨説明が不十分。アンケートをとるときは、「このような施策を考えているが検証したいので、アンケート協力願います」程度の趣旨は必要。[60 歳代 男性]

・このアンケートで何を目指しているのか不明。能力社会となりつつある現状で男女の差別なく能力を発揮すればよい。男女共同参画と称し男性に対する逆差別も見られる。税の無駄遣いは止めましょう。男女共同参画と称し多くの所でハコモノが目立つ。[60 歳代 男性]

・女性が出産して職場復帰ができるよう、公務員だけでなく全ての職場が同じ扱いにならなければ男女の人権は等しくはなりません。このアンケートも公務員の役人が作ったもので、役に立つとは思えません。なぜなら優遇されている公務員の方は当たり前のことですから。[60 歳代 男性]

・社会において他人の気持ちが理解できておれば今さら公の場でこのようなアンケートと集計はいらない。机上の理想であり、世の人々に親の教えのような子どもに対する質問である。この世にこのような男女平等の社会が作れるならば、世界中より戦争というものが自然になくなると思う。でも世界中、自己や人種の固持にていたる所で戦争している。男女平等は地球滅亡にならなければ終わらない。アンケート関係の方々は本当にご苦労様です。誠に感謝です。[60 歳代 男性]

・こんなアンケートは本当に無駄だと思う。無記名のアンケートは無駄だと思う。個人情報を守るならば記名でよいと思います。無記名なら何でも言い、書ける。今まで無記名のアンケートは回答したことがない。責任あることを書くことが第一だと思う。[70 歳以上 男性]

・男女共同参画社会と称してのアンケートとしては設問が不適切なものがありすぎた。[70 歳以上 男性]

・このようなアンケートがあったのを今まで知らなかった。とても画期的で素晴らしい事だと思う。私の

住む農村地帯（ほとんどの後継者は勤め人）も口は進歩的な事を言うばかりですが、古い体質をしっかり守っている人が多い。役員の選出はリタイア前の職業が尊重されます。県や市町村で働いていた方や、校長、教職員だった人たちが多い。人口の少ない所は人選のしようがなく年功順のようです。既に高齢者社会で男性の方が早く亡くなり、周りを見渡しても寡婦が多い。自分を含めぬるま湯に浸った社会の恩恵を受けて生活しているので強い意見は申せませんが、健康で頭の働く聡明な女性も沢山お見受けします。そういう方達が登用される社会が来る事を願っています。あっちこっちでも肩書きのある女性が目立って、初めて偏見が無くなるのではないでしょうか。[70 歳以上 女性]

【その他】

・男女共同参画社会もそうですが、それ以外にやるべき事があるのではないですか。市県民税の値下げや市の全般的な公務員削減など。あなた達は丁寧に考えてあげますね。優先順位を決めてから物事はやりましょう。日本の政治家と県と市の公務員は無駄が好きですね。まあ適当に頑張ってください。何も期待していませんので。[20 歳代 男性]

・質問の趣旨とは離れるが、「女性が」というよりも障がいを持っていても社会参加できるようになってほしい。[30 歳代 男性]

・無意味ですね。[30 歳代 男性]

・東京から越してきて 14 年経ちます。地域の育成会の会長をしています。もともとの住民は役を受けない。でも年寄りからすると、余所者という考えがあるらしい。地域社会貢献のために 1 つ 1 つ、介護、学校、地域社会をまじめに生きています。高崎は住みやすいです。高崎がもっと発展して素敵な街になってほしいです。がんばりましょう。[30 歳代 女性]

・文句を言える立場にある女性が楽になり、何も言えない立場の女性がつらい社会だと感じる。平等制度を利用し、男性はより楽な仕事を選んでよくなった。人間によるが、女性は女性同士で不平等である。よく分からない世の中である。[30 歳代 女性]

・男女共同参画社会が必要ならば、高崎市の将来を担う子どもたちに指導する機会を定期的に設けてはどうか。[30 歳代 女性]

・高崎市の取組に期待しております。[30 歳代 女性]

・この不景気の中、現在建築中の大きな「ハコモノ」は必要なのでしょうか。「ハコ」ではなく中身が充実した地域社会になってほしいと願います。[30 歳代 女性]

・無駄なお金を使わないように。行き過ぎたイデオロギーの押しつけがないように注意していただきたい。[40 歳代 男性]

・結婚して子どもがほしいのに授からない人が今悩んでいると思います。子ども手当より、そういう人に手をさしのべてあげてほしいと思います。そうすれば未来も開けると思います。[40 歳代 女性]

・人権も重要ですが、それ以上に経済の安定が最優先と考える。このままでは日本は衰退する。[50 歳代 男性]

・私は離婚までに 12 年かかりました（その間は別居）。45 歳が 57 歳になりました。1 年半ビル清掃をして、背骨、腰、太腿付け根、膝に負担をかける重労働で、腰椎すべり症を悪化させました。毎日々迷惑をできるだけかけずに自殺する方法を模索中です。[50 歳代 女性]

・私の職場では女性の方が有能。重要ポストに就くのも女性が多い。30 歳代独身女性と 50 歳代の子育てが終わった女性が重要なポストにいる。もしかすると優秀な男性はこの種の職位に就かないのかもと思う。できる人はもっと違うところで働いているのかと感じる。仕事から逃げてばかりいる 40 歳代の働き盛りの男性が、特に子どもの介護休業をよく取る。重要な仕事も受けない。本人もよく病休を取る。子どもをお風呂に入れるからという理由で飲み会に出ない。奥さんがいるのに。介護休暇について、1 年に 3 日しかない。男女共同参画に関することではないが、駅から市役所にかけての緑化計画は無駄ばかり。もっと 100 年計画くらいでのまちづくりをしてほしい。高崎は高崎経済大学の存在をもっと大切にすべき。駅から高崎経済大学までのまちづくりを考えて活性化した高崎にしてほしい。全国から学生がきているのですから（海外からも）。[50 歳代 女性]

・議員が多すぎると思います。現在の半分くらいで足りると思う。[60 歳代 男性]

・社会では男性の貢献度を高潔にしていかないと社会の不安定さが増してしまう。社会では女性の考察力と言辞力を加筆して家譜とする。男女共同参画の欠点、女性の宝、生命の誕生場を接見させない方法が良い。女性の信望と神童のためになる。神童に誤伝させず、読み書き、そろばんが大事です。[60 歳代 男性]

・社会の単位は家庭、夫婦、親子、兄弟、三世代同居。愛の家庭を築き、明るい社会をつくりたいと思います。[60 歳代 男性]

・皆が安心して生活できる社会（地域）環境をつくることが大切と思います。[60 歳代 男性]

・別居している実家の母親の介護を長女の自分がしている。[60 歳代 女性]

・平等は全く当然のことと思いますが、子育てを考えるとき、あまりに安易に離婚してしまうカップルが多いのを目にし、子ども達の将来が心配です。お互いのよさを認め合い、なるべく両親揃っての子育て

を原則にできるような教育を考えなければならないと思います。何よりも子どもの幸せを優先できる社会が望ましいのではないでしょうか。[60 歳代 女性]

・今では年金が楽しみです。生活費を減らさないでくださるように頑張ってください。[60 歳代 女性]

・頭の中でデザインすることの次に大切なのは、全体の調和と、共感できる高崎市の誕生。生きがいのある人生を送れることを前面に出しつつ、そして遊び心を大切にした社会。新しい市長さんなら実現できるかも。期待しつつ。[60 歳代 女性]

・国、県、市町村の議員、公務員は人数を減らした方がいいと思います（アンケートとは関係ない事と思いますが）。[60 歳代 女性]

・高齢で、見聞きしたことでも忘れることが多く、理解力が衰えてまいりました。[60 歳代 女性]

・妻（要介護 3）が介護施設でお世話になっています。私自身がもし反対の立場だとしたら妻も同じように介護してくれると思いますので、できる限り力になれたらと思い介護する毎日です。皆様のおかげで生ある限り努めます。ありがとうと感謝の日々を過ごしています。[70 歳以上 男性]

・国会議員並びに県職員を減らしてほしい。一般の年金生活の人はとても大変です。もう少し考えてほしいです。よろしくお願いします。[70 歳以上 女性]

・原発のない安全な生活を毎日迎えたいと願っています。[70 歳以上 女性]

・現代社会は礼儀をわきまえず、ルールを守れない人が多くなった。[70 歳以上 女性]

Ⅴ　調査結果の概要と課題

1. 生活・社会における男女の平等について（問 1）

「学校教育の場」では男女の地位の平等化が比較的進んでいると認識されているのに対して、「職場」や「社会全体」では未だ「男性の方が優遇されている」という認識が強くなっています。特に「職場」では、前回調査と比較して「男性が優遇されている」という認識がより強くなっています。

また、様々な場面で、男性が「平等になっている」と思うほどには、女性は思っておらず、女性は「平等になっている」ではなく、「男性の方が優遇されている」と認識している傾向が見られます。

このように様々な場面で多くの市民が「男性の方が優遇されている」と認識している実態や男女の認識の違いを踏まえ、男女の地位の平等化を図ることが今後の課題といえます。

2. 結婚・家庭について（問 2）

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」や「結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない」といった「結婚観」については、ほとんどの属性で「賛成」が「反対」を上回っています（ともに合算値）。

それに対して、「夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」といういわゆる「固定的な性別役割分担」や「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」ということについては、性別だけでなく、年代や職業（働き方）によって賛否が分かれる傾向が見られます。

これらは内閣府や群馬県の調査でも同様の傾向を示していることから、国や県の取り組み方を見据えつつ高崎市としての取り組みの方向性を検討することが今後の課題といえます。

3. 生活の中の優先度（問 3）

「仕事」「家庭生活」「地域活動」の 3 つの優先度について、希望（理想）として優先したいことは「家庭生活」が高くなっています。それに対して現実（現状）に優先していることは就業者では「仕事」、非就業者では「家庭生活」が高くなっています。

一方、「仕事と家庭生活」をともに優先したい・しているとする回答は、希望（理想）・現実（現状）ともに高くありません。しかし、希望（理想）として優先したいことについて見てみると、「仕事」と「家庭生活」が同程度に高い属性が少なからず見られることから、「仕事と家庭との両立」の潜在的需要は低くないと考えられます。

希望（理想）と現実（現状）の乖離の縮減や、ワーク・ライフ・バランスの充実についての潜在的需要の把握などが今後の課題といえます。

4. 家庭における役割分担について（問 4・問 5・問 6）

家庭における役割を主に誰が担っているか（問 4）について、選択肢の 10 項目のうち、「自治会等の地域活動」「主たる収入」を除くすべての項目で「妻」が突出して高く、特に「食事の支度」や「洗濯」は 8 割以上となっています。

一方、「夫」は「主たる収入」は約 7 割、「自治会等の地域活動」は約 3 割となっていますが、他の項目はいずれも低く、特に「子育て」ではほとんど見られません。

「夫婦同じくらい」は「子育て」「家族の看護・介護」「自治会等の地域活動」で 2 割程度見られますが、これら以外の項目はいずれも高くありません。その中で若い年代、女性常勤、男性非常勤・自営・無職では、全体的に「夫婦同じくらい」が比較的高くなっています。

「家事・子育て・介護等」や「仕事」に費やしている時間（問 5）を見ると、男性や就業者（常勤、非常勤、自営）と、女性や非就業者（専業主婦・主夫、学生、無職）とで大きな違いが見られ、家事時間では「共働き」でも男性の 8 割以上が「2 時間未満」（「していない」を含む）となっています。また、仕事時間では 30・40 歳代や常勤の男性の 2 割以上が「12 時間以上」となっています。

同居家族の中の要介護者の有無や、誰が介護を担っているか（問 6）を見ると、「介護を受けている人がいる」は 1 割未満ですが、その中で主な介護の担い手として「配偶者」や「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」が比較的高くなっており、属性によっては「娘」や「息子の配偶者」なども比較的高くなっています。

これら家庭における夫婦の様々な役割分担において「妻」や女性の負担が大きいという現状を踏まえ、子育て支援や介護・看護支援などの需要に則した対応をさらに進めることが今後の課題といえます。

5. 育児・介護休業について（問 7）

育児や介護が必要な家族がいる場合の対応について、女性は「保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい」が特に高くなっているのに対して、男性は「自分と家族で助けあって対応したい」が同程度または属性によって最も高くなっています。

また、女性の中で常勤は「有給休暇などを取って対応したい」、非常勤は「仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい」が比較的高くなっています。

このように「自分と家族で助け合って対応したい」とする男性と、「施設やサービスを利用したい」とする女性との性別による違い、「有給休暇などを取って対応したい」とする常勤と、「仕事をなるべく休まずに対応したい」とする非常勤との雇用形態による違い、さらに男性では 3 割程度にとどまる「育児休業や介護休業を取って対応したい」という意向を受けた、特に男性の育児・介護休業の取得促進などが今後の課題といえます。

6. 女性の就労について（問 8・問 9）

女性が仕事を続けること（問 8）について、「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」が学生を除き属性にかかわらず最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」が比較的高くなっています。これらの傾向は前回調査と比較してほとんど変化が見られません。

職場における男女差（問 9）を見ると、男女とも「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」が最も高く、特に男性では約 5 割がこれを認識しています。また、常勤の女性、自分だけが働いている既婚女性（「一人だけ働いている」）は「昇進や昇格」「賃金や昇給」もそれぞれ 3 割程度見られます。

「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」という考え方を踏まえた上での、女性の働きやすい環境整備、「男性は育児・介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」「昇進・昇格、賃金・昇給などの面での男女差がある」といった現状の改善が今後の課題といえます。

7. 地域活動について（問 10）

地域の「会議や行事に参加」や「会議で意見を言う、取り上げられる」といった場面では、「男女同じくらい」がある程度見られます。しかし、「役員や運営に携わる」という、地域でより責任ある役割を担うような場面では、「男女同じくらい」や「女性の方が多い」はあまり見られず、「男性の方が多い」という実態がうかがえます。

このような地域活動における責任ある役割、中心的な役割を担うというような場面における男女共同参画の推進が今後の課題といえます。

8. ドメスティック・バイオレンスについて（問 11・問 12・問 13）

DV の経験（問 11）について、4 項目（身体的な暴力、精神的・社会的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力）はいずれも「されたこと」「したこと」ともに「ない」がほとんどを占めていますが、「されたことがある」は女性、「したことがある」は男性が比較的高くなっています。

特に「以前結婚していたが、現在はしていない（離別・死別）」女性は、「身体的な暴力」や「精神的・社会的な暴力」を「されたことがある」が約 3 割と高く、他の 2 項目も比較的高くなっています。また、この属性は、上記 4 項目のいずれかひとつでも「されたことがある」が 4 割以上で、さらにそのうちの 6 割以上が、複数項目にわたる被害を受けた経験があるとしています。

一方、男性の被害の状況について、属性による傾向の違いは見られません。また、男性による加害の状況も属性による傾向の違いもほとんど見られません。

1 項目でも DV を「されたことがある」場合の相談先（問 12）を見ると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が女性約 5 割、男性約 7 割といずれも多くを占めています。これを除くと「知人・友人」や「家族や親せき」が比較的高い一方で、公的機関への相談はあまり見られません。

さらに「どこ（だれ）にも相談しなかった」理由（問 13）を見ると、多くの属性で「相談するほどのことではなかった」が最も高くなっています。しかし、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」や「相談してもむだだと思った」も比較的高く、属性によって最も高い値となっています。

このように、比較的多い被害経験が示された「精神的・社会的な暴力」の防止、男女の被害・加害状況や特に女性で被害と離（死）別経験との関連がうかがえること、女性の被害は複数項目にわたりやすいことを踏まえた支援と救済の検討、知人・友人や家族・親戚への相談を補完できる公的機関の整備・充実などが今後の課題といえます。また、相談等の支援や救済が必要であるにもかかわらず、十分な措置が取られていない潜在的な需要の把握と対応の検討も今後の課題といえます。

9. セクシャル・ハラスメントについて（問 14）

いずれの項目も「されたこと」「したこと」ともに「ない」がほとんどを占めていますが、DV と同様に、「されたことがある」は女性、「したことがある」は男性が比較的高くなっています。

特に「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」は、「されたことがある」「したことがある」ともに比較的高く、若い年代や未婚女性で「されたことがある」が比較的高くなっています。

また、被害経験が多い属性は加害経験も多い状況がうかがえる項目があり、このような被害・加害の状況を踏まえた対応が今後の課題といえます。

10. 男女共同参画社会推進のための施策について（問 15）

言葉や制度等の認知の状況（問 15）を見ると、男女とも「DV（ドメスティック・バイオレンス）」「ストーカー規制法」「男女雇用均等法」の 3 項目が約 8 割、「育児・介護休業法」「DV 防止法」の 2 項目が約 6～7 割（以上、全体値の高い順）となっており、これら上位 5 項目はいずれも女性の値が比較的高くなっています。

一方、「家族経営協定」「ポジティブ・アクション」「高崎市第 2 次男女共同参画計画」（以上、全体値の低い順）の 3 項目はいずれも 1 割程度からそれ以下の低い値となっています。

今後女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職（問 16）を見ると、男女とも「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」が約 5 割で最も高く、次いで「県、市町村の首長」「民間企業の管理職」「裁判官、検察官、弁護士」、「国家公務員や地方公務員の管理職」（以上、全体値の高い順）の 4 項目が約 4 割の比較的高い値となっています。また、男性は「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」も約 4 割となっています。

一方、男女とも「農協の職員」は 2 割程度からそれ以下で最も低くなっています。「もっと増える方がよいと思うものは特にない」も 2 割程度見られます。

男性が高い「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」を除き、これらの傾向に属性による大きな差は見られません。

これら値の高い項目について、現状や今後の目標など、具体的数値を明らかにした上での情報提供などをさらに進めることが今後の課題といえます。

男女共同参画についての意見（自由記入）

約 460 件の内容を整理すると、男女共同参画社会推進の必要性や重要性を実感しているという声や、それに気づいたという声をはじめ、性別にとらわれずに個人の能力や適性を尊重できる社会の必要性を指摘する声などが多く寄せられました。また、「男女共同参画」や男女の「平等」ということについて、そのとらえ方や抱くイメージに個人差が大きいことがうかがえ、「男女の身体的な違いを否定するもの」としてとらえる意見などが少なからず見られました。また、家庭と仕事との両立推進のための制度や環境の整備・充実、DV・セクハラ対策の要望、本アンケート調査への評価や要望などが比較的多く見られました。

これら「市民の声」一つひとつを真摯に受け止め、情報が不足している点を把握し、高崎市全体での認識の向上をさらに推進すること、施策への反映を進め、市民の生活に則した男女共同参画社会の実現を目指すことが今後の課題といえます。

Ⅵ　資料（調査票）

「男女共同参画に関する市民アンケート」ご協力のお願い

日頃より、市政にご協力をいただきまして、まことにありがとうございます。

高崎市では、男女共同参画社会の実現のため、平成 20 年に「高崎市第２次男女共同参画計画」（計画期間：平成 20 年度～24 年度）を策定しました。

男女共同参画社会とは、男女の人権が等しく尊重され、対等な協力関係で築きあげるバランスのとれた社会のことで、この実現のため、計画を基にした様々な施策を進めています。

計画の期間が終了する平成 24 年度を前に、男女共同参画社会などに関する市民のみなさまの意識や実態を総合的に把握するとともに、ご意見やご要望をお聴きして、新たな計画を策定するための基礎資料とさせていただくため、高崎市にお住まいの満20歳以上の方6,000人を住民基本台帳の中から無作為に抽出して、「男女共同参画に関する市民アンケート」へのご回答をお願いすることになりました。

ご多用のところまことに恐縮ですが、ぜひ、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成 23 年 7 月

高崎市長　富　岡　賢　治

〈記入方法等について〉

- ☆ このアンケートは個人を対象としています。ご本人による記入が難しい場合は、ご家族の方が回答を聞き取るなどして記入の補助を行ってください。
- ☆ お名前や住所は書かないでください。
- ☆ あなたの現在の状態やお考えに最も近い番号に○印をつけてください。
- ☆ 「その他」にあてはまる場合は、（　　）内に具体的にご記入ください。
- ☆ ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒にアンケート用紙を入れ、切手をはらずに**7月１９日（火）まで**に投函してください。
- ☆ アンケートの結果は、平成 24 年３月発行予定の高崎市男女共同参画広報紙「バモス」、高崎市ホームページでお知らせいたします。
- ☆ この調査は統計的な処理が目的であり、個人が特定されることはありません。また、調査の目的以外には一切使用いたしません。

本調査について、ご不明な点がございましたら下記までお問い合せください。

高崎市役所　人権男女共同参画課
〒370-8501　高崎市高松町 35 番地１
電話：027-321-1228（直通）　FAX：027-326-3873

あなたご自身についてうかがいます。

それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

F1　あなたの性別はどちらですか。

1　男性	2　女性

F2　あなたの年齢はどれにあたりますか。

1　20 歳代	2　30 歳代	3　40 歳代	4　50 歳代
5　60 歳代	6　70 歳以上		

F3　あなたの職業・立場はどれにあたりますか。

1　勤めている（常勤）
2　勤めている（パート・アルバイト・嘱託等の非常勤）
3　自営（商工業・農林水産業・サービス業等）
4　専業主婦・主夫
5　学生
6　無職
7　その他（　　）

F4　あなたのお住まいはどちらですか。

1　高崎地域　（下記のいずれにも該当しない町にお住まいの方）
2　倉渕地域　（住所が倉渕町〇〇の方）
3　箕郷地域　（住所が箕郷町〇〇の方）
4　群馬地域　（下記のいずれかの町にお住まいの方）
　足門町・井出町・後疋間町・金古町・北原町・菅谷町・塚田町・稲荷台町・中泉町・
　中里町・西国分町・東国分町・引間町・冷水町・福島町・保渡田町・三ツ寺町・棟高町
5　新町地域　（住所が新町の方）
6　榛名地域　（下記のいずれかの町にお住まいの方）
　上大島町・上里見町・上室田町・神戸町・下里見町・下室田町・十文字町・白岩町・
　高浜町・中里見町・中室田町・榛名湖町・榛名山町・本郷町・三ツ子沢町・宮沢町
7　吉井地域　（住所が吉井町〇〇の方）

F5　**あなたの世帯構成はどれにあたりますか。**

1　一人暮らし
2　夫婦のみ（事実婚を含む）
3　二世代（親・子が同居）
4　三世代（親・子・孫が同居）
5　その他（　　）

F6　**あなたは結婚（事実婚を含む）をしていますか。**

1　結婚している（事実婚含む）
2　以前結婚していたが、現在はしていない（離別・死別）
3　結婚したことはない

F7　**上記 F6 で「1　結婚している（事実婚を含む）」と回答した方にうかがいます。**
夫婦共働きですか。

1　共働きである（パート・アルバイト・嘱託等を含む）
2　どちらか一人だけ働いている
3　二人とも働いていない

次のページから男女共同参画に関するアンケートの質問が始まります。

生活・社会における男女の平等について

問１　以下のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
それぞれ最も近い番号１つに○をつけてください。

	男性のほうが非常に優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが非常に優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④地域社会	1	2	3	4	5	6
⑤社会全体	1	2	3	4	5	6

結婚・家庭について

問２　結婚・家庭等について以下をどのように考えますか。それぞれ最も近い番号１つに○をつけてください。

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
④結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない	1	2	3	4	5

生活の中での優先度

問３　生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度についてうかがいます。
①希望（理想）と②現実（現状）それぞれについて、優先したい番号すべてに○をつけてください。

①希望（理想）として、優先したいのはどれですか。（すべてに○）

1　仕事	2　家庭生活	3　地域活動	4　わからない

②現実（現状）で、優先しているのはどれですか。（すべてに○）

1　仕事	2　家庭生活	3　地域活動	4　わからない

家庭における役割分担について

問４　現在、結婚（事実婚を含む）されている方にうかがいます。あなたの家庭では以下のような役割は主にだれが担っていますか。それぞれ最も近い番号１つに○をつけてください。

	夫	妻	夫婦同じくらい	その他	あてはまらない
①そうじ	1	2	3	4	5
②食事の支度	1	2	3	4	5
③食事のあと片付け	1	2	3	4	5
④洗濯	1	2	3	4	5
⑤子育て	1	2	3	4	5
⑥家族の看護・介護	1	2	3	4	5
⑦学校行事等への参加	1	2	3	4	5
⑧自治会等の地域活動	1	2	3	4	5
⑨家計の管理	1	2	3	4	5
⑩主たる収入	1	2	3	4	5

問 5　以下について、あなたは平日にどのくらいの時間を費やしていますか。
最も近い番号１つに○をつけてください。

①家事（買い物を含む）や子育て、介護等

1　していない（0 時間）	2　1 時間未満	3　1～2 時間未満	4　2～3 時間未満
5　3～4 時間未満	6　4～5 時間未満	7　5 時間以上	

②仕事（通勤を含む）

1　していない（0 時間）	2　2 時間未満	3　2～4 時間未満	4　4～6 時間未満
5　6～8 時間未満	6　8～10 時間未満	7　10～12 時間未満	8　12 時間以上

問 6　同居する家族の中に、介護を受けている人がいますか。いる場合、主に介護を担っているのは、介護を受けている人から見てどなたですか。最も近い番号１つに○をつけてください。

1　介護を受けている同居家族はいない
2　介護を受けている人がいる

→　主に介護を担っている人は（介護を受けている人から見て）

① 配偶者（事実婚を含む）
② 母親
③ 父親
④ 娘
⑤ 娘の配偶者
⑥ 息子
⑦ 息子の配偶者
⑧ ホームヘルパーなどの在宅介護サービス
⑨ 特別養護老人ホームなどの施設介護サービス
⑩ その他（　　）

育児・介護休業について

問７　現在、勤めている方（パート、アルバイト、嘱託等を含む）にうかがいます。
育児や介護が必要な家族がいる場合、育児・介護休業の取得について、どのようにしたいと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
（現在、育児や介護が必要な家族がいない方も、いる場合を想定してお答えください。）

1　育児休業や介護休業を取りたい
2　仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい
3　保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい
4　有給休暇などを取って対応したい
5　自分と家族で助けあって対応したい
6　家族に任せたい
7　わからない

女性の就労について

問８　一般的に女性が仕事を続けることについて、どのように考えますか。
最も近い番号１つに○をつけてください。

1　結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい
2　子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい
3　子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい
4　結婚するまでは、仕事を続けるのがよい
5　女性は仕事に就かない方がよい
6　わからない

問９　現在、勤めている方（パート、アルバイト、嘱託等を含む）にうかがいます。あなたの職場では以下のようなことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　募集や採用の面で、男女に差がある
2　賃金や昇給の面で、男女に差がある
3　昇進や昇格の面で、男女に差がある
4　女性の仕事は補助的業務や雑用が多い
5　職場での研修や研究の機会に男女の差がある
6　女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある
7　男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある
8　上記のようなことはない

地域活動について

問 10　あなたがお住まいの地域では、以下のようなことについて、男女どちらが多いと思いますか。それぞれ最も近い番号１つに○をつけてください。

	男性の方が多い	男女同じくらい	女性の方が多い	わからない
①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる	1	2	3	4
②地域の会議や行事に参加する	1	2	3	4
③地域の会議で意見を言う、取り上げられる	1	2	3	4

ドメスティック・バイオレンスについて

問 11　あなたはこれまでに恋人やパートナー※から、次のようなことを「されたこと」や、もしくは「したこと」がありますか。それぞれ最も近い番号１つに○をつけてください。

※「パートナー」には、配偶者、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含みます。

		ある	ない
①身体的な暴力 なぐる、ける、物を投げつける、つきとばす、刃物でおどす等	されたこと	1	2
	したこと	1	2
②精神的な暴力・社会的な暴力 人格を否定するような暴言、長時間の無視、どなる、「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」等の見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等	されたこと	1	2
	したこと	1	2
③性的な暴力 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要等	されたこと	1	2
	したこと	1	2
④経済的な暴力 生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等	されたこと	1	2
	したこと	1	2

問 12　前ページの問 11 で 1 つでも「されたこと」が「1　ある」と回答した方にうかがいます。
その後、どこか（だれか）に相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　どこ（だれ）にも相談しなかった
2　配偶者暴力相談支援センター（女性相談所、女性相談センター等）に相談した
3　警察に相談した
4　法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した
5　上記以外の公的機関に相談した
6　民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、ｶｳﾝｾﾗｰ、ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ機関、民間ｼｪﾙﾀｰ等）に相談した
7　医療関係者（医師、看護師等）に相談した
8　学校関係者（教員、スクールカウンセラー等）に相談した
9　家族や親せきに相談した
10　知人・友人に相談した
11　その他（　　）

問 13　上記問 12 で「1　どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にうかがいます。
相談しなかった理由はどんなことですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかった
2　恥ずかしくてだれにも言えなかった
3　相談してもむだだと思った
4　相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った
5　加害者に「だれにも言うな」とおどされた
6　相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った
7　自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った
8　世間体が悪いと思った
9　自分たち以外の人を巻き込みたくなかった
10　知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思った
11　そのことについて考えたくない、思い出したくなかった
12　自分にも悪いところがあると思った
13　相手の行為は愛情の表現だと思った
14　相談するほどのことではないと思った
15　その他（　　）

セクシャル・ハラスメント（性的ないやがらせ）について

問 14　あなたは過去 3 年以内に、職場や学校、地域での活動の中で、次のようなことを「されたこと」や「したこと」がありますか。それぞれ最も近い番号１つに○をつけてください。

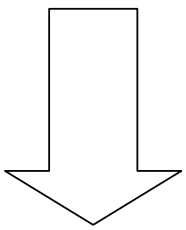
		ある	ない
①容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする	されたこと	1	2
	したこと	1	2
②結婚や子どもの有無など、私生活に関して必要以上に質問したり、話題にする	されたこと	1	2
	したこと	1	2
③ヌード写真や性的な描写のある雑誌等を目につくところに置く	されたこと	1	2
	したこと	1	2
④性的な含みのあるメールや手紙を送ったり、電話をかける	されたこと	1	2
	したこと	1	2
⑤しつこく交際をせまる	されたこと	1	2
	したこと	1	2
⑥性的な関係をせまる	されたこと	1	2
	したこと	1	2
⑦不必要にからだにさわる	されたこと	1	2
	したこと	1	2

男女共同参画社会推進のための施策について

問 15　次の言葉や制度等のうち、見たり聞いたりしたことがあるものすべてに○をつけてください。

1　高崎市男女共同参画推進条例（平成 21 年 4 月 1 日施行）
2　高崎市第 2 次男女共同参画計画（平成 20 年 3 月策定）
3　男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」（高崎市が毎年 3 月に発行し、全戸に配布）
4　男女共同参画社会
5　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）
6　ジェンダー
（生物としての性別ではなく、社会通念や慣習の中で社会的に形成された性別のこと）
7　ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）
8　ポジティブ・アクション
（男女間の格差改善のため、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供すること）
9　家族経営協定
（農業経営にたずさわる家族それぞれの経営参画を目指し、家族で取り決める協定のこと）
10　男女共同参画社会基本法
11　女子差別撤廃条約
12　ＤＶ防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）
13　ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）
14　男女雇用機会均等法
15　育児・介護休業法
16　いずれも、見聞きしたことはない

次のページでアンケートの質問は終了となります。



問 16　以下のような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うものはどれですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　県、市町村の首長
2　国会議員、県議会議員、市町村議会議員
3　国家公務員や地方公務員の管理職
4　裁判官、検察官、弁護士
5　大学教授
6　国連などの国際機関の管理職
7　民間企業の管理職
8　起業家や経営者
9　労働組合の幹部
10　農協の役員
11　自治会長、町内会長、区長など地域の役員
12　もっと増える方がよいと思うものは特にない

男女共同参画社会（男女の人権が等しく尊重され、対等な協力関係で築きあげるバランスのとれた社会）についてのご意見やご要望等がありましたら下欄にご記入ください。

☆ アンケートは以上です。

ご協力いただき、まことにありがとうございました。

ご記入もれの確認をしていただき、同封の返信用封筒に入れ

7 月 19 日（火）までに投函してください。

男女共同参画に関する市民アンケート報告書
平成 23 年度（2011 年度）

平成 24 年 1 月発行

発行　高崎市市民部人権男女共同参画課
〒370-8501　群馬県高崎市高松町 35 番地 1
電話　027-321-1228（直通）